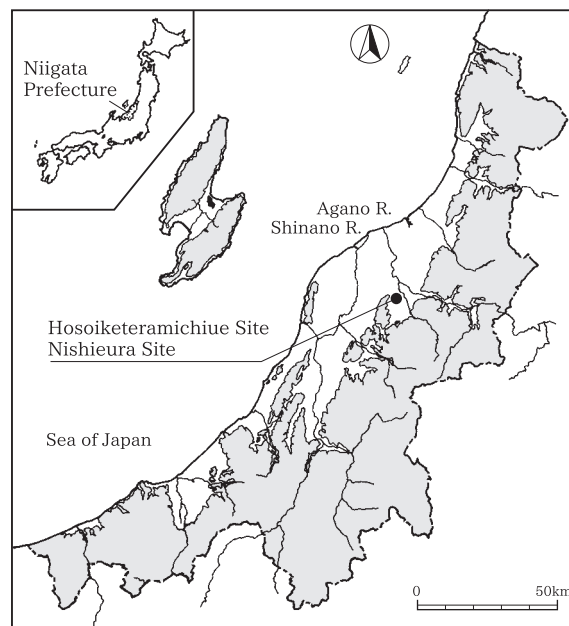


ほそ いけ てら みち うえ
細池寺道上遺跡Ⅴ 第32・38・41次調査

にし え うら
西江浦遺跡 第6次調査

- 一 県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う
細池寺道上遺跡第15・17・18次 西江浦遺跡第4次発掘調査報告書 一

本文編



2015

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区^{あきは ひがしかなざわ いなほ} 東金沢字稲葉 567-1 番地ほかに所在する細池寺道上遺跡^{ほそいけてらみちうえ} (新潟市遺跡番号 151) と同秋葉区^{あきは} 東金沢字久保^{ひがしかなざわ くほ} 1805-3 番地ほかに所在する西江浦遺跡^{にしえうら} (新潟市遺跡番号 150) の発掘調査記録である。細池寺道上遺跡第 32 次調査 (1・2 区) は平成 23 年度に、第 38 次調査 (1～3 区) は平成 24 年度に、第 41 次調査 (1～3 区) は平成 25 年度に実施した。西江浦遺跡第 6 次調査は平成 24 年度に実施した。
- 2 書名は、細池寺道上遺跡については旧新潟市教育委員会および新潟市教育委員会刊行の発掘調査報告書〔北村・菊池^{ほか} 2004、潮田 2014、立木・相澤 (高野)^{ほか} 2014、遠藤・青木^{ほか} 2015〕に続く 5 冊目の報告書であり、西江浦遺跡については初回の報告書であることからローマ数字は付さず『細池寺道上遺跡Ⅴ 第 32・38・41 次調査 西江浦遺跡 第 6 次調査』とした。
- 3 調査は県営ほ場整備事業 (担い手育成型) 両新地区造成に伴い、新潟県から新潟市が受託した。調査は新潟市教育委員会 (以下、市教委という) が調査主体となり、新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター、平成 26 年 4 月より新潟市文化スポーツ部文化財センター (以下、市文化財センターという) が補助執行した。
- 4 平成 23～25 年度に発掘調査と整理作業、平成 26 年度に整理作業、平成 27 年度に報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市文化財センターが保管・管理している。
- 6 本書の編集は立木宏明 (市文化財センター)、細井佳浩 (株式会社吉田建設) が行った。遺構図版 1～10 と遺物図版石製品の一部は立木が、第 10～12 図・第 4～7 表と石製品・木製品の一部は前山精明 (市文化財センター) が作成し、それ以外の遺構図版・遺物図版・遺構写真図版・遺物写真図版作成を細井・不破野希春・中川晃子 (以上、株式会社吉田建設) が作成した。執筆分担は以下の通りである。
第 I 章、第三章第 1 節・3 節、第四章第 4 節 D 2)、第五章第 4 節 B 3)、第七章第 2 節 B・E を立木、第二章、第四章第 1・2・3 節 A～C・4 節 A・B・D 1)・3)、第五章 (第 4 節 B 3) を除く)、第七章第 1 節 B・C・D、第 2 節 A・D を細井、第四章第 3 節 D 3)～6)・第 4 節 C、第七章第 1 節 A・第 2 節 C を不破野、第四章第 3 節 D 1)・2) を中川・不破野、第三章第 2 節、第七章第 3 節を立木・細井が行った。なお、第 VI 章第 1 節 A・第 2 節 A～D については焔火山灰考古学研究所に、第 VI 章第 1 節 B については(株)パレオ・ラボに、第 VI 章第 1 節 C についてはバリノ・サーヴェイ(株)に、第 VI 章第 2 節 E については(株)加速器分析研究所にそれぞれ委託した。
- 7 第二章第 2 節を『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』〔渡邊^{ほか} 2002〕および『萱免遺跡 第 2 次調査』〔立木^{ほか} 2009〕・『細池寺道上遺跡発掘調査報告書Ⅲ』〔立木・相澤 (高野)^{ほか} 2014〕から引用・一部加筆した。
- 8 本書で用いた写真は、遺跡写真は細池寺道上遺跡平成 23 年度を前山・澤野慶子 (市文化財センター)、同平成 24 年度を前山・牧野耕作 (市文化財センター)・細井、同平成 25 年度を立木・中川・不破野、西江浦遺跡平成 24 年度を前山・牧野が撮影し、遺物写真は佐藤俊英氏に撮影を依頼した。写真図版 39 の鉄製品 (1～7) のエックス線写真のみ今井さやか (市文化財センター) が撮影を行った。また、写真図版 1 は米軍 (国土地理院発行)、写真図版 2～5 は(株)オリス、写真図版 143-2 は (公財) 元興寺文化財研究所が撮影したものを使用した。
- 9 遺構図のトレースと各種図版作成・編集に関しては、(有)不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 10 水田跡の調査方法については鈴木俊成氏 (新潟県立歴史博物館 当時) から御指導を頂いた。
遺物のうち須恵器・土師器の年代・生産地等については春日真実氏 ((公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団) から御教示を頂いた。
- 11 今回の調査成果については、これまで現地説明会資料 (平成 24 年 11 月 17 日、平成 25 年 11 月 23 日実施) や平成 24・25 年度新潟市遺跡発掘調査速報会〔前山 2013、立木 2014a〕、新潟市文化財センター年報〔前山 2014b、立木 2014b〕で発表されている。本報告書と齟齬がある場合は、本報告書をもって正とする。
- 12 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。
阿部泰之・伊藤秀和・小熊博史・尾崎高宏・春日真実・堅木宜弘・鈴木俊成・高橋 保・高橋保雄・鶴巻康志・土橋由理子・古澤妥史・本田祐二・水澤幸一
新潟県教育庁文化行政課・(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県新潟地域振興局新津農業振興部・
新津郷土地改良区
(所属・敬称略、五十音順)

凡 例

- 1 本書は本文編と図面図版・写真図版編の2分冊からなるうちの「本文編」である。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
- 3 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 本文中の注は各章の末尾に記した。引用・参考文献は著者と発行年(西暦)を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した(但し、第VI章は同章の中で一括し、引用・参考文献一覧の末尾に記した)。
- 5 遺構番号は現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種別ごとに付さず、通し番号とした。ただし、平成24年度調査においては、1区は1001～、2区は1～、3区は501～となっている。
- 6 土層の土色および遺物の色調観察は『新版 標準土色帖』(小山・竹原1967)を用いた。
- 7 遺物の注記は細池寺道上遺跡の略記号「細池寺道上」、西江浦遺跡の略記号「西江浦」とし、出土地点や層位を続けて記した。平成23・24・25年度出土遺物は略記号の前に西暦の後半数字の「11」「12」「13」を付した。
- 8 遺構の記述は、調査年次・区の順とし、略称を用いて井戸(SE)、土坑(SK)、性格不明遺構(SX)、溝(SD)、水田跡(SN)、畑跡、畔、小土坑(Pit)、掘立柱建物(SB)、柵(SA)、旧河道、テラスの順に記し、同一調査区内の同種遺構については、想定時期の別にかかわらず、概ね北から南へと順次記した。この順番は遺物の記述、別表、図面図版、写真図版に掲載した遺構・遺物の順番と概ね対応する。
- 9 遺物番号は土器・陶磁器は通し番号とし、鉄製品・鍛冶関連遺物・石製品・木製品は種別ごとに通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 10 本文中の挿図に用いた地形図、遺構・遺物の縮尺は各図に示した。
- 11 遺構・遺物観察表中における()付きの値は、推定値を意味する。
- 12 遺構の新旧関係を表現する際に「<」や「>」を用いた。例えば、SK1<SK2となる場合はSK1が古く、SK2が新しいことを示す。
- 13 第38次調査1～3区・第41次調査1区では畑が検出された。小溝からなる陸田(耕地)と考えられ、平安時代以前には畑という字は使用されていないことから、本来ならば「畠」と表記すべきであるが、『発掘調査のてびき』(文化庁文化財部記念物課監修2010)に従い「畑」とした。

目 次

第Ⅰ章 序 章	1
第1節 遺跡概観	1
A 細池寺道上遺跡	1
B 西江浦遺跡	3
第2節 発掘調査に至る経緯	3
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	5
第1節 遺跡の位置と地理的環境	5
第2節 周辺の遺跡	5
第3節 歴史的環境	15
第Ⅲ章 調査の概要	17
第1節 試掘・確認調査	17
第2節 本発掘調査	17
A 調査方法	17
1) グリッドの設定	17
2) 調査方法	21
B 調査経過	21
1) 平成23年度細池寺道上遺跡の調査経過	21
2) 平成24年度細池寺道上遺跡の調査経過	21
3) 平成25年度細池寺道上遺跡の調査経過	22
4) 平成24年度西江浦遺跡の調査経過	23
C 調査体制	23
第3節 整理作業	24
A 整理方法	24
1) 遺物	24
2) 遺構	24
B 整理経過	24
C 整理体制	24
第Ⅳ章 細池寺道上遺跡	26
第1節 概 要	26
第2節 層 序	26
第3節 遺 構	27
A 遺構の概要	27
B 第32次(11)調査の遺構	27
1) 1区・2区の概要	27
2) 1区の遺構各説	27
3) 2区の遺構各説	28
C 第38次(12)調査の遺構	28
1) 1区の概要	28
2) 1区の遺構各説	29
3) 2区の概要	50
4) 2区の遺構各説	50
5) 3区の概要	51
6) 3区の遺構各説	51

D 第41次(13)調査の遺構	53	2) 1区の遺構各説	53
1) 1区の概要	53	4) 2区の遺構各説	73
3) 2区の概要	73	6) 3区の遺構各説	75
5) 3区の概要	75		
第4節 遺物	76		
A 遺物の概要	76		
B 奈良・平安時代の土器	76		
1) 土器の分類と記述	77	2) 出土土器各説	80
C 中・近世の陶磁器	92		
1) 陶磁器の分類と記述	92	2) 出土陶磁器等各説	92
D 鉄製品・鍛冶関連遺物・石製品・木製品	94		
1) 鉄製品・鍛冶関連遺物	94	2) 石製品	94
3) 木製品	98		
第V章 西江浦遺跡	100		
第1節 概要	100		
第2節 層序	100		
第3節 遺構	100		
A 遺構の概要	100		
B 遺構各説	100		
第4節 遺物	101		
A 遺物の概要	101		
B 遺物各説	101		
1) 土器	101	2) 金属製品	101
3) 石製品	101		
第VI章 自然科学分析	102		
第1節 細池寺道上遺跡第38次(12)調査の自然科学分析	102		
A 水田跡の自然科学分析	102		
1) 植物珪酸体(プラント・オパール)分析	102	2) 花粉分析	105
B 畑跡の自然科学分析	108		
1) はじめに	108	2) 試料と方法	108
3) 結果	109	4) 考察	111
C 旧河道の自然科学分析	112		
1) はじめに	112	2) 試料	112
3) 分析方法	113	4) 結果	114
5) 考察	125		
第2節 細池寺道上遺跡第41次(13)調査の自然科学分析	128		
A 植物珪酸体(プラント・オパール)分析	128		
1) はじめに	128	2) 試料	128
3) 分析方法	128	4) 分析結果	128
5) 考察	130	6) まとめ	131
B 花粉分析	131		
1) はじめに	131	2) 試料	132
3) 方法	132	4) 結果	132

5) 花粉分析から推定される植生と環境	134		
C 種実同定	135		
1) はじめに	135	2) 試料	135
3) 方法	135	4) 結果	135
5) 考察	138		
D 樹種同定	138		
1) はじめに	138	2) 試料	138
3) 方法	138	4) 結果	138
5) 考察	140		
E 放射性炭素年代測定 (AMS 測定)	140		
1) 測定対象試料	140	2) 化学処理工程	140
3) 測定方法	141	4) 算出方法	142
5) 測定結果	142		

第七章 総括	144
第1節 細池寺道上遺跡の遺構について	144
A 集落構造について	144
B 畑跡について	145
C 水田跡について	149
D 旧河道について	152
第2節 細池寺道上遺跡の遺物について	153
A 奈良・平安時代の土器について	153
B 平安時代の佐渡型甕について	159
C 中・近世の陶磁器について	166
D 鉄製品について	167
E 石製品について	167
第3節 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡の位置付け	168
A 細池寺道上遺跡の様相	168
B 西江浦遺跡の様相	171
引用・参考文献	172
別表	182
報告書抄録・奥付	巻末

挿図目次

第1図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の地形分類図 (1/150,000)	6	第5図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡分布図 (古代) (1/125,000)	11
第2図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡分布図 (旧石器時代・縄文時代) (1/125,000)	8	第6図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡分布図 (中世) (1/125,000)	13
第3図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡分布図 (弥生時代) (1/125,000)	9	第7図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡確認調査 トレンチ図	18
第4図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡分布図 (古墳時代) (1/125,000)	10	第8図 細池寺道上遺跡確認調査土層柱状図 (1/40)	19

第 9 図	細池寺道上遺跡・西江浦遺跡確認調査 土層柱状図 (1/40)……………	20	第 32 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部における種実遺体群集の 層位分布 (2)……………	120
第 10 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区 畝間痕ブロック図 (1/600)……………	41	第 33 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部の種実遺体 (1)……………	122
第 11 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 2 区 畝間痕ブロック図 (1/400)……………	51	第 34 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部の種実遺体 (2)……………	122
第 12 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 3 区 畝間痕ブロック図 (1/300)……………	53	第 35 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部の種実遺体 (3)……………	123
第 13 図	タタキメ・当て具痕の細分類図 (柿田 2001 転載・改変)……………	77	第 36 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部の種実遺体 (4)……………	123
第 14 図	細池寺道上遺跡土器分類図 (1)……………	78	第 37 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部の種実遺体 (5)……………	123
第 15 図	細池寺道上遺跡土器分類図 (2)……………	79	第 38 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部の木材 (1)……………	124
第 16 図	細池寺道上遺跡石製品出土点数分布図 (1)……………	95	第 39 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部の木材 (2)……………	124
第 17 図	細池寺道上遺跡石製品出土点数分布図 (2)……………	97	第 40 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の 土壌サンプル採取地点……………	128
第 18 図	西江浦遺跡石製品出土点数分布図……………	101	第 41 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区 SE357 (中世井戸)における植物珪酸体分析 (古植生復原)結果……………	129
第 19 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区の 土壌サンプル採取地点……………	102	第 42 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区植物珪酸体 分析(栽培植物推定)結果……………	129
第 20 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区水田跡・ および溝群北壁における植物珪酸体 分析結果……………	104	第 43 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の植物珪酸 体(プラント・オパール)の顕微鏡写真……………	130
第 21 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区水田跡・ および溝群北壁の植物珪酸体 (プラント・オパール)……………	104	第 44 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の花粉組成 ダイアグラム……………	133
第 22 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区水田跡・ および溝群北壁における 花粉ダイアグラム……………	106	第 45 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区から 産出した花粉・胞子……………	133
第 23 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区水田跡・ および溝群北壁の花粉・胞子……………	108	第 46 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の 種実 (1)……………	136
第 24 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区畑跡 (試料 No.3) から産出した花粉・胞子化石……………	109	第 47 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の 種実 (2)……………	136
第 25 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区 畑跡における植物珪酸体分析結果……………	110	第 48 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の 炭化材 (1)……………	139
第 26 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区 畑跡から産出した植物珪酸体……………	110	第 49 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の 炭化材 (2)……………	139
第 27 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区 旧河道埋積層下部から産出した珪藻化石……………	115	第 50 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の炭化種子 試料写真……………	141
第 28 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部における主要珪藻化石群集の 層位分布……………	117	第 51 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区 暦年較正年代グラフ(参考)……………	143
第 29 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部から産出した花粉化石……………	117	第 52 図	掘立柱建物の主軸方位……………	144
第 30 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部における主要花粉化石群集の 層位分布……………	118	第 53 図	掘立柱建物の構造と主軸方位……………	144
第 31 図	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部における種実遺体群集の 層位分布 (1)……………	120	第 54 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区・ 平成 11 年度調査古代畑跡……………	145
			第 55 図	新潟市内の主な畑跡 (1)……………	147

第 56 図	新潟市内の主な畑跡 (2) ……………	148	第 64 図	細池寺道上遺跡出土土器変遷案 ……………	158
第 57 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区中世水田跡・ 溝変遷案 ……………	151	第 65 図	新潟県内の佐渡型甕出土の主要遺跡 ……………	159
第 58 図	細池寺道上遺跡周辺の水田跡 (掘込田) ……………	151	第 66 図	佐渡型甕の類例 (1) ……………	160
第 59 図	須恵器無台杯、土師器・黒色土器無台碗の 法量 ……………	155	第 67 図	佐渡型甕の類例 (2) ……………	161
第 60 図	土師器無台碗の器高・底径指数 ……………	155	第 68 図	佐渡型甕の口径比較 ……………	165
第 61 図	須恵器胎土 C 群 (新津丘陵産) の様相 ……………	156	第 69 図	細池寺道上遺跡第 41 次調査鉄製品出土点数・ 分布図 ……………	167
第 62 図	須恵器胎土 B 群 (佐渡小泊窯跡群産) の様相 ……………	157	第 70 図	細池寺道上遺跡の調査区 (1) ……………	169
第 63 図	須恵器胎土 A 群 (阿賀北産・左)、 D 群 (信濃川左岸産・右) の様相 ……………	157	第 71 図	細池寺道上遺跡の調査区 (2) ……………	170

表 目 次

第 1 表	細池寺道上遺跡調査履歴 ……………	2	第 17 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部における珪藻分析結果 (2) ……………	116
第 2 表	西江浦遺跡調査履歴 ……………	3	第 18 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部における花粉分析結果 ……………	118
第 3 表	細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の 遺跡一覧表 ……………	14	第 19 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部における種実出土状況 ……………	119
第 4 表	第 38 次調査 1 区畝間痕一覧 (1) ……………	42	第 20 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部における主な種実遺体の計測値 ……………	121
第 5 表	第 38 次調査 1 区畝間痕一覧 (2) ……………	43	第 21 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部の樹種同定結果 ……………	124
第 6 表	第 38 次調査 2 区畝間痕一覧 ……………	50	第 22 表	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区 SE357 に おける植物珪酸体分析 (古植生復原) 結果 ……………	129
第 7 表	第 38 次調査 3 区畝間痕一覧 ……………	53	第 23 表	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区 植物珪酸体分析 (栽培植物推定) 結果 ……………	129
第 8 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区水田跡・ および溝群北壁における植物珪酸体 分析結果 ……………	103	第 24 表	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区における 花粉分析結果 ……………	132
第 9 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区水田跡・ および溝群北壁における花粉分析結果 ……………	107	第 25 表	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区における 種実同定結果 ……………	135
第 10 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区畑跡の 分析試料一覧 ……………	108	第 26 表	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の 炭化果実計測値 ……………	135
第 11 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区畑跡 における花粉分析結果 ……………	109	第 27 表	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区における 樹種同定結果 ……………	138
第 12 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区畑跡 植物珪酸体分析結果 ……………	110	第 28 表	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の放射性 炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值) (1) ……………	141
第 13 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道跡の 分析試料一覧 ……………	112	第 29 表	細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の放射性 炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、 暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (2) ……………	141
第 14 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部の放射性炭素年代測定結果 ……………	114			
第 15 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部の暦年較正結果 ……………	114			
第 16 表	細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道 埋積層下部における珪藻分析結果 (1) ……………	115			

別表目次

<p>別表 1 細池寺道上遺跡第 32 次調査遺構計測表 …… 182</p> <p>別表 2 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構計測表 …… 182</p> <p>別表 3 細池寺道上遺跡第 38 次調査柱穴列(柵) 計測表 …… 186</p> <p>別表 4 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構計測表 …… 186</p> <p>別表 5 細池寺道上遺跡第 41 次調査掘立柱建物 計測表 …… 196</p> <p>別表 6 細池寺道上遺跡第 41 次調査柱穴列(柵) 計測表 …… 198</p> <p>別表 7 細池寺道上遺跡第 32・38・41 次調査土器・ 陶磁器観察表 …… 199</p> <p>別表 8 細池寺道上遺跡第 38・41 次調査鉄製品 観察表 …… 217</p> <p>別表 9 細池寺道上遺跡第 38 次調査鍛冶関連遺物 観察表 …… 217</p> <p>別表 10 細池寺道上遺跡第 32・38・41 次調査石製品 観察表 …… 217</p> <p>別表 11 細池寺道上遺跡第 38・41 次調査木製品 観察表 …… 218</p> <p>別表 12 細池寺道上遺跡第 32 次調査遺構出土 古代土器器種構成比率表 …… 219</p> <p>別表 13 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構出土 古代土器器種構成比率表 …… 219</p> <p>別表 14 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構出土 古代土器器種構成比率表 …… 223</p> <p>別表 15 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構出土 中世土器・陶磁器器種構成比率表 …… 226</p> <p>別表 16 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構出土 中世土器・陶磁器器種構成比率表 …… 226</p> <p>別表 17 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構出土 鉄製品点数集計表 …… 227</p> <p>別表 18 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構出土 鉄製品重量集計表 …… 227</p> <p>別表 19 細池寺道上遺跡第 32・38・41 次調査石製品 実測点数表 …… 227</p> <p>別表 20 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構出土石製品・ 礫構成率表 …… 227</p> <p>別表 21 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構出土石製品・ 礫構成率表 …… 227</p>	<p>別表 22 細池寺道上遺跡第 32 次調査石製品組成と 石材組成表 …… 228</p> <p>別表 23 細池寺道上遺跡第 32 次調査地区別石製品 組成表 …… 228</p> <p>別表 24 細池寺道上遺跡第 32 次調査地区別石材 組成表 …… 228</p> <p>別表 25 細池寺道上遺跡第 38 次調査石製品組成と 石材組成表 …… 228</p> <p>別表 26 細池寺道上遺跡第 38 次調査地区別石製品 組成表 …… 228</p> <p>別表 27 細池寺道上遺跡第 38 次調査地区別石材 組成表 …… 228</p> <p>別表 28 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構別石製品 点数組成表 …… 228</p> <p>別表 29 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構別石製品 重量組成表 …… 228</p> <p>別表 30 細池寺道上遺跡第 41 次調査石製品組成と 石材組成表 …… 229</p> <p>別表 31 細池寺道上遺跡第 41 次調査地区別石製品 組成表 …… 229</p> <p>別表 32 細池寺道上遺跡第 41 次調査地区別石材 組成表 …… 229</p> <p>別表 33 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構別 石製品点数組成表 …… 229</p> <p>別表 34 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構別 石製品重量組成表 …… 229</p> <p>別表 35 細池寺道上遺跡第 32 次調査木製品集計表 …… 229</p> <p>別表 36 細池寺道上遺跡第 38 次調査木製品集計表 …… 229</p> <p>別表 37 細池寺道上遺跡第 41 次調査木製品集計表 …… 229</p> <p>別表 38 西江浦遺跡第 6 次調査遺構計測表 …… 230</p> <p>別表 39 西江浦遺跡第 6 次調査土器観察表 …… 230</p> <p>別表 40 西江浦遺跡第 6 次調査金属製品観察表 …… 230</p> <p>別表 41 西江浦遺跡第 6 次調査石製品観察表 …… 230</p> <p>別表 42 西江浦遺跡第 6 次調査石製品組成と石材 組成表 …… 230</p> <p>別表 43 西江浦遺跡第 6 次調査石製品組成表 …… 230</p> <p>別表 44 西江浦遺跡第 6 次調査石材組成表 …… 230</p>
--	---

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観 (第 1・2 表)

A 細池寺道上遺跡

細池寺道上遺跡は昭和 60 年 8 月に実施した新潟県教育委員会（以下、県教委という）主催の遺跡詳細分布調査の折に、寺道上遺跡（旧新津市遺跡番号 28）から平安時代の須恵器甕・杯、縄文時代後・晩期の土器（推定）が見いだされ古代を中心とした遺跡として遺跡登録された。その後、本発掘調査および確認調査が、通算 44 回行われている（第 1 表）。平成元年に刊行された『新津市史資料編第 1 巻 原始・古代・中世編』では後に細池寺道上遺跡に統合された木津橋遺跡（旧新津市遺跡番号 63）のみが報告され、平安時代の土師器長甕・須恵器大甕が紹介され〔川上・木村・鈴木 1989〕、その後に遺跡登録されている。平成 2 年に行われた磐越自動車道建設に伴う県教委が行った試掘・確認調査により、金屋集落横が寺道上遺跡の地点と異なることから新遺跡、細池遺跡（旧新津市遺跡番号 68）とした。さらに、寺道上遺跡の範囲は拡大した。その後の平成 3・4 年に県教委による細池遺跡と寺道上遺跡の調査が行われ〔小池ほか 1994〕、平成 8・9 年には新津市による市道建設に伴う本発掘調査が細池遺跡で実施された〔立木・渡邊ほか 1998〕。平成 11 年には新津市による同原因の調査が寺道上遺跡で実施された〔渡邊ほか 2001〕。平成 13 年に行われた両新地区ほ場整備事業に伴う確認調査（図版 4）の結果、遺跡範囲がさらに拡大し、細池・寺道上遺跡の両遺跡と木津橋遺跡を含めた範囲を「細池寺道上遺跡」（旧新津市遺跡番号 28、新潟市遺跡番号 151）として寺道上遺跡の番号を用いて再登録された。それに伴う処置として、細池・木津橋遺跡の遺跡番号は欠番として扱われた。これ以降の遺跡名は「細池寺道上遺跡」の名称を用いる。合わせて、土手外遺跡（旧新津市遺跡番号 89）が細池寺道上遺跡の東側で古代・中世の遺跡として新発見され、遺跡登録されたが、平成 14 年に行われた両新地区ほ場整備に伴う確認調査の結果、細池寺道上遺跡の範囲拡大により同遺跡に統一された。それに伴い土手外遺跡の遺跡番号は欠番となった。確認調査の結果は第 III 章第 1 節に詳述する。

細池寺道上遺跡における既存の本発掘調査は、平成 3・4 年度にかけて県教委が磐越自動車道建設に伴い「細池遺跡」19,960m²、「寺道上遺跡」14,660m²の計 34,620m²を調査している。その結果、微高地上に古代から中世に至る集落跡・ほ場跡などが検出されている〔小池ほか 1994〕。特筆されるものとしては、中世のほ場跡に伴う掘込田がある。平成 8・9 年度に行われた市道建設に伴う「細池遺跡」の本発掘調査〔立木・渡邊ほか 1998〕では、2,848m²が調査され、平安時代に所属する遺構・遺物が検出された。平成 11 年には市道建設に伴い、843.78m²が調査され、「都保一口」と刻書された短頸壺に代表される 9 世紀第 2 四半期のまとまった土器群が確認され、短期間に営まれた集落跡で遺物の出土状況も良好であり、古代土器編年研究に重要な調査例となった。平成 15 年度には、東北電力㈱の平成 15 年度東北電力西新潟線鉄塔建替工事に伴う本発掘調査をほ場整備事業対象範囲で実施し、細池寺道上遺跡の一部 412.4m²を調査した結果、古代の旧河跡と仏鉢形土器など特殊な土器を含む 9 世紀後半の土器が出土している〔北村・菊池ほか 2004〕。

平成 19 年度から細池寺道上遺跡範囲内で本格的にほ場整備に伴う本発掘調査が開始され、当年度は 8,952.7m²が調査され、区画溝で区切られた中世の集落が確認された〔潮田 2014〕。平成 20 年度には 2,912.0m²が調査され、鎌倉・室町時代の集落跡が確認された。14 世紀後半には集落間を結ぶ「道路」が確認されている〔立木・相澤（高野）ほか 2014〕。平成 21 年度には 2,346m²を調査し、旧河道に沿って古代・中世の集落域が確認された。平成 22 年度には 4,464.2m²を調査して古代・中世の集落跡を確認し、中世の井戸中から農耕具のエブリ・田下駄などの木製品が井戸側に再利用された状態で出土して注目される。

第1節 遺跡概観

第1表 細池寺道上遺跡調査履歴

通算調査回数	泉宮ほ場整備両新地区に伴う発掘調査回数	調査年次	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査面積	トレンチNo.	文献	遺跡名	備考
		S60年(1985)8.4	分布調査	新潟県遺跡詳細分布調査	新潟県	県文化行政課				寺道上	寺道上遺跡を新登録。
		H1年(1989)	分布調査	「新潟市史資料編第1巻原始・古代・中世」に伴う調査	新潟市	川上貞雄			【川上ほか1989】	木津橋	市史に現存の「細池寺道上遺跡」の一部の木津橋遺跡が古代の遺跡として掲載され、一般に周知される。
1		H2年(1990)10.1~10.18	確認調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人	958㎡		【小池ほか1994】	細池	
2		H2年(1990)10.1~10.18	確認調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人	820㎡		【小池ほか1994】	寺道上	
3		H3年(1991)4.15~12.7	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人	34,320㎡ (細池遺跡19,960㎡、 寺道上遺跡14,660㎡)		【小池ほか1994】	細池	古代・中世の集落跡の一部および中世の広範囲なほ場が確認された。奈良・平安時代の遺物は9世紀が主体で、新津丘陵産および佐渡産須恵器が確認されている。
4		H3年(1991)7.8~12.7	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人				寺道上	
5		H4年(1992)4.8~8.7	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人				細池	
6		H4年(1992)4.8~6.30	本発掘調査	磐越自動車道	新潟県	県文化行政課 小池義人				寺道上	
7		H7年(1995)11.6~11.10	確認調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和		97.2㎡		1~27T	
8		H8年(1996)7.22~7.23	確認調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	52.8㎡	1~22T		寺道上	
9		H8年(1996)10.17~12.13	本発掘調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	1,419㎡		【立木・渡邊ほか1998】	細池	古代の集落跡の一部および中世のほ場が確認された。
10		H9年(1997)10.7~11.25	本発掘調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 立木宏明	1,419㎡			細池	
11		H9年(1997)10.30	確認調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	9㎡	23~26T		寺道上	
12		H11年(1999)10.1~12.15	本発掘調査	農道拡幅	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	843.78㎡		【渡邊ほか2001】	寺道上	古代の溝などを検出した。「都保一口」と呼ばれた須恵器短頸壺が出土した。
13	1	H13年(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	1,147㎡	A地区1~77T、 B地区1~178T		寺道上	
14	2	H13年(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和				木津橋	細池・寺道上・木津橋遺跡を統合し細池寺道上遺跡とする。
15	3	H13年(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和				細池	
16	4	H13年(2001)10.15~11.8	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和				土手外	土手外遺跡を新登録。
17		H14年(2002)10.16~10.24	確認調査	鉄塔建設	新潟市	新潟市教育委員会 立木宏明			39.6㎡	東14~24T	
18	5	H14年(2002)10.16~11.15	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	1,701㎡	A地区78~211T、 B地区179~293T、 C地区1~129T		細池寺道上	土手外遺跡を統合し細池寺道上遺跡とする。
19	6	H14年(2002)10.16~11.15	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和				土手外	
20		H15年(2003)9.5~12.19	本発掘調査	鉄塔建設	新潟市	シン技術コンサル 北村 淳	412.4㎡		【北村・菊池ほか2004】	細池寺道上	古代の旧河道が検出され、覆土中に土師器・須恵器の食器類が出土した。「川相」と墨書きされた墨書土器が出土した。
21	7	H15年(2003)11.17~12.1	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	490.5㎡	A地区212~228T、 C地区130~238T		細池寺道上	
22	8	H16年(2004)10.4~11.5	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会 渡邊朋和	40.1㎡	A地区229~392T、 B地区294~382T		細池寺道上	
23	9	H17年(2005)10.11~10.26	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 渡邊ますみ	154.5㎡	B地区383~446T、 C地区239~305T		細池寺道上	
24	10	H18年(2006)11.10	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	県文化行政課 沢田敦	24㎡	A地区493~498		細池寺道上	
25	11	H19年(2007)6.11~12.11	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 諫山えりか	8,952.7㎡		【潮田2014】	細池寺道上	古代・中世の集落跡が確認された。主体は中世(13C末~14C初頭)で、溝で区画された中に掘立柱建物や井戸を構築し、居住域としている。
26	12	H20年(2008)6.10~9.27	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明	2,911.5㎡		【立木・相澤(高野)ほか2014】	細池寺道上	中世の集落跡。掘立柱建物、井戸、土坑、Pitなどが確認され遺構密度が高い。道路状遺構や橋状構造物などの土木構造物が確認されている。遺物は鎌倉・室町時代の珠洲焼、青磁、白磁、瀬戸・美濃焼などが出土している。
27		H 20年(2008)10.14~10.16	確認調査	農道建設	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 今井さやか	117㎡	C地区R1~53T		細池寺道上	
28		H 21年(2009)5.28	確認調査	作業所	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 諫山えりか	3㎡	B地区1T		細池寺道上	
29	13	H 21年(2009)6.15~10.17	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 朝岡政康	2346㎡			細池寺道上	古代・中世の集落跡が確認された。掘立柱建物、井戸、土坑、溝、ピット、旧河道が確認されている。遺物は平安時代では須恵器・土師器が出土し、鎌倉・室町時代では瀬戸・美濃焼、珠洲焼、青磁、白磁などが出土している。各時代共に水辺に集落を営んだ様子が見える。
30		H 22年(2010)5.11	確認調査	放送局舎建築	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 立木宏明	3㎡	C地区1T		細池寺道上	
31	14	H 22年(2010)6.21~12.1	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 遠藤恭雄	4,464.2㎡			細池寺道上	古代・中世の集落跡が確認された。掘立柱建物、井戸、土坑、溝、ピット、旧河道が確認されている。遺物は平安時代では須恵器・土師器、鎌倉・室町時代では珠洲焼、中世は磁器、鍛冶関連遺物、農具を転用した井戸側板などが出土している。平安時代には主に農地として利用され、鎌倉・室町時代には居住域として利用されたものと考えられる。
32	15	H 23年(2011)7.25~8.25	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 前山精明	224㎡		【本書】	細池寺道上	古代のピット、近世以降の流路、水田の一部と考えられる畦が確認された。遺物は古代の土師器・須恵器、鎌倉・室町時代の珠洲焼、流路1から砥石転用の唐津焼が出土した。近世以降の地形変化が著しく、古代~中世の遺構・包含層は南地区南端部に限定された。
33		H 23年(2011)8.3~8.4	確認調査	農道建設	新潟市	新潟市文化財センター 廣野耕造	90㎡	C地区R1~15T		細池寺道上	
34		H 23年(2011)10.28	確認調査	農道整備	新潟市	新潟市文化財センター 廣野耕造	48㎡	C地区1~8T		細池寺道上	
35	16	H 24年(2012)5.29	確認調査	農道建設	新潟市	新潟市文化財センター 前山精明	9㎡	C地区499・500T		細池寺道上	
36		H 24年(2012)7.3~7.4	確認調査	道路改良	新潟市	新潟市文化財センター 廣野耕造	84㎡	A地区1~15T		細池寺道上	
37		H 24年(2012)7.13	確認調査	庫裡改築	新潟市	新潟市文化財センター 廣野耕造	6㎡	B地区1・2T		細池寺道上	
38	17	H 24年(2012)7.23~ H 25年(2013)1.10	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 前山精明	4715.17㎡		【本書】	細池寺道上	古代・中世の農地。遺構は水田、井戸、テラス状遺構、木道、土坑、ピット、溝、旧河道が確認されている。遺物は平安時代の須恵器、土師器、盤や舟などの木製品、鎌倉・室町時代の珠洲焼が出土している。各時代とも水辺に営まれた農地と考えられる。

通算調査回数	県営ほ場整備両新地区に伴う発掘調査回数	調査年次	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査面積	トレンチNo.	文献	遺跡名	備考
39		H 24年 (2012) 10.16	確認調査	墓地造成	新潟市	新潟市文化財センター 諏山えりか	11.2㎡	B地区1~4T		細池寺道上	
40		H 25年 (2013) 2.22	確認調査	避雷針設置	新潟市	新潟市文化財センター 渡邊ますみ	9.3㎡	B地区1T		細池寺道上	
41	18	H 25年 (2013) 7.25~12.27	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明	2814.55㎡		[本書]	細池寺道上	古代・中世の集落と、中世の耕作地。遺構は掘立柱建物、水田跡、井戸、杭列、溝、土坑、ピットが確認された。遺物は平安時代では須恵器・土師器が中心で、鎌倉・室町時代では珠洲焼等が出土している。1区は平安時代では集落、鎌倉・室町時代では集落とそれに隣接する水田跡が確認できた。2・3区は調査区が狭小であるが、古代・中世の遺跡が広がることが確認できた。
42		H 25年 (2013) 11.18~11.22	確認調査	市道改良	新潟市	新潟市文化財センター 朝岡政康	51.4㎡	A地区1~9T		細池寺道上	
43		H26年 (2014) 6.20~10.10	本発掘調査	市道改良	新潟市	新潟市文化財センター 遠藤恭雄	557.28㎡		[遠藤・青木ほか2015]	細池寺道上	第26次調査2区隣接地の調査である。中世の遺構集中区が3か所確認され、第26次調査に続く道路状遺構および掘立柱建物なども確認された。それ以外に井戸・土坑・Pitを多数検出し集落域の広がりを確認した。
44	19	H26年 (2014) 7.16~12.26	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 立木宏明	5,547.6㎡			細池寺道上	古代・中世の拠点集落。遺構は掘立柱建物30軒、竪穴状遺構10基、カマド状遺構8基、井戸48基、土坑180基、溝11基、Pit2789基、道路状遺構3基などが確認された。遺物は平安時代の須恵器・土師器が中心で、鎌倉・室町時代では珠洲焼や青磁碗、その他に井戸割板・曲物・漆器といった木製品が出土している。

※ 第17次調査東1~13Tは中谷内遺跡・沖ノ羽遺跡・大下遺跡の範囲のため除外 ※※ 「遺跡名」とした項目は調査当時の遺跡名である。旧遺跡名が含まれる。

第 2 表 西江浦遺跡調査履歴

通算調査回数	県営ほ場整備両新地区に伴う発掘調査回数	調査年次	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査面積	トレンチNo.	文献	遺跡名	備考
		H1年 (1989)	分布調査	『新津市史資料編第1巻原始・古代・中世』に伴う調査	新津市	川上貞雄			[川上ほか1989]	西江浦	市史に古代の遺跡として掲載され、一般に周知される。
1		H14年 (2002) 10.16~10.24	確認調査	鉄塔建設	新津市	新津市教育委員会 立木宏明	39.6㎡	東14~24T		西江浦	
2	1	H14年 (2002) 10.16~11.15	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会 渡邊朋和	184.5㎡	A地区78~211T、 B地区179~293T、 C地区1~129T		西江浦	
3	2	H15年 (2003) 11.17~12.1	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新津市	新津市教育委員会 渡邊朋和	490.5㎡	A地区212~228T、 C地区130~238T		西江浦	
4	3	H17年 (2005) 10.11~10.26	確認調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 渡邊ますみ	154.5㎡	B地区383~446T、 C地区239~305T		西江浦	
5		H20年 (2008) 10.17	確認調査	農道建設	新潟市	新潟市埋蔵文化財センター 今井さやか	150㎡	C地区R1~53T		西江浦	
6	4	H24年 (2012) 7.17~8.2	本発掘調査	両新地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター 前山精明	214.68㎡		[本書]	西江浦	調査区は遺跡の東端に位置する。遺物は土師器無台碗の底部破片と磁石が出土している。遺構としては、溝・性格不明遺構などが検出された。

※1 第17次調査東1~13Tは中谷内遺跡・沖ノ羽遺跡・大下遺跡の範囲のため除外

B 西江浦遺跡

西江浦遺跡は細池寺道上遺跡同様に昭和 60 年 8 月に実施した県教委主催の遺跡詳細分布調査の折に、須恵器・土師器・灰釉陶器が採集され、古代の遺跡として遺跡登録された。その後、発掘調査は本発掘調査および確認調査が、通算 6 回行われている（第 2 表）。平成元年に刊行された『新津市史資料編第 1 巻 原始・古代・中世編』では平安時代の須恵器無台杯・甕・壺および土師器 2 点などが紹介されている [川上・木村・鈴木 1989]。当初遺跡登録された遺跡範囲は、東金沢集落の西側の現況が畑の地点である。天地返しされた場所から採集され、本来の包含層は現地表下 1m と考えられている。平成 14 年に行われた東北電力鉄塔建設に伴う確認調査(第 1 次調査)および両新地区ほ場整備事業に伴う確認調査(第 2 次調査)により、遺跡範囲は南北約 700m 東西約 450m の楕円形の遺跡範囲となった。さらに、両新地区ほ場整備事業に伴う確認調査(第 3・4 次調査)および農道建設に伴う試掘調査(第 5 次調査)によって遺跡の範囲はほぼ確定された。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

平成 7 年度に、新潟市秋葉区内の旧阿賀浦村・新関村区域(両新地区)における県営ほ場整備事業の計画が旧新潟市生涯学習課に知らされた。旧新潟市生涯学習課は、新潟東土地改良区(現新潟郷土地改良区)および旧新潟市農産業振興課と協議を重ね、県教委が平成 3・4 年度に磐越自動車道建設に伴い本発掘調査を実施した細池寺道上遺跡[小池ほか 1994]の範囲とあわせて多くの遺跡の存在が予想され、将来本発掘調査の必要性がある旨伝えた。

平成 11 年度に入り、事業計画が見直され、県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区として約 170ha が対象になり、新潟県新潟農地事務所(現新潟県新潟地域振興局新潟農業振興部、以下、新潟地域振興局という)と協議を行い、

全区域を対象とした試掘・確認調査を平成 13～15 年度に実施した。その結果、ほ場整備事業範囲内に細池寺道上遺跡・西江浦遺跡・道上遺跡・下久保遺跡の 4 遺跡が確認された。

平成 17 年 3 月の市町村合併により発掘調査の事業主体は新潟市教育委員会となった。道上遺跡については平成 17 年度、下久保遺跡については平成 18 年度に本発掘調査を終了している。平成 19 年度から毎年、ほ場面工事に伴う細池寺道上遺跡の本発掘調査を行っている。本発掘調査の詳細については平成 19 年度〔潮田 2014〕・平成 20 年度〔立木・相澤（高野）ほか 2014〕・平成 21 年度〔朝岡 2010b〕・平成 22 年度〔遠藤 2011〕に詳しい。

本書に掲載した平成 23・24・25 年度の細池寺道上遺跡、平成 24 年度の西江浦遺跡の本発掘調査対象範囲の設定は、新潟地域振興局・新津郷土地改良区・新潟市歴史文化課の 3 者で遺跡の取扱いを巡って協議を重ねた結果、平成 11 年 9 月 10 日付け教文第 578 号で新潟県教育委員会教育長から通知された「発掘調査の要否の判断基準について（通知）」の基準により、保護層（工事の施工に際して埋蔵文化財を保護するために設ける一定以上の厚さの土層、樹脂等による緩衝層）を確保できない場合には本発掘調査を実施するとし、保護層が確保できない用・排水路管部分および田面部分の本発掘調査を実施することで各年度に合意した。

平成 23 年度細池寺道上遺跡分は新潟地域振興局から平成 23 年 4 月 22 日付け新振津農第 64 号で文化財保護法第 94 条の第 1 項の通知と合わせて平成 23 年 4 月 22 日付け新振津農第 66 号で本発掘調査の依頼が提出され、新潟県教育委員会教育長から新潟地域振興局長へ、平成 23 年 5 月 12 日付け教文第 207 号の 2 で本発掘調査を実施するように指示文が出された。それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成 23 年 7 月 19 日付け新歴 B 第 19 号の 8 で文化財保護法第 99 条第 1 項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。最終的な調査面積は上端面積 220.2m²、下端面積 127.4m²である。

平成 24 年度細池寺道上遺跡分は新潟地域振興局から平成 24 年 3 月 22 日付け新振津農第 596 号で文化財保護法第 94 条の第 1 項の通知が、平成 24 年 4 月 19 日付け新振津農第 50 号で本発掘調査の依頼が提出され、新潟県教育委員会教育長から新潟地域振興局長へ、平成 24 年 4 月 12 日付け教文第 56 号の 2 で本発掘調査を実施するように指示文が出された。それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成 24 年 7 月 17 日付け新歴 F 第 10 号の 5 で文化財保護法第 99 条第 1 項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。最終的な調査面積は 1 区上端面積 4,428.05m²・下端面積 4,375.44m²、2 区上端面積 184.51m²・下端面積 175.20m²、3 区上端面積 103.12m²、下端面積 84.26m²、合計の上端面積 4,715.68m²・下端面積 4,634.90m²である。

平成 25 年度細池寺道上遺跡分は新潟地域振興局から平成 25 年 3 月 25 日付け新振津農第 551-1 号で文化財保護法第 94 条の第 1 項の通知が、平成 25 年 4 月 26 日付け新振津農第 68 号で本発掘調査の依頼が提出され、新潟県教育委員会教育長から新潟地域振興局長へ、平成 25 年 4 月 11 日付け教文第 55 号の 2 で本発掘調査を実施するように指示文が出された。それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成 25 年 7 月 25 日付け新歴 F 第 1 号の 6 で文化財保護法第 99 条第 1 項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。最終的な調査面積は 1 区上端面積 2,498.58m²・下端面積 2,447.72m²、2 区上端面積 212.30m²・下端面積 157.40m²、3 区上端面積 103.67m²、下端面積 80.91m²、合計の上端面積 2,814.55m²・下端面積 2,686.03m²である。

平成 24 年度西江浦遺跡分は新潟地域振興局から平成 24 年 3 月 22 日付け新振津農第 595 号で文化財保護法第 94 条の第 1 項の通知が、平成 24 年 4 月 19 日付け新振津農第 51 号で本発掘調査の依頼が提出され、新潟県教育委員会教育長から新潟地域振興局長へ、平成 24 年 4 月 12 日付け教文第 57 号の 2 で本発掘調査を実施するように指示文が出された。それを受けて、新潟市教育委員会教育長から新潟県教育委員会教育長へ、平成 24 年 7 月 17 日付け新歴 F 第 11 号の 5 で文化財保護法第 99 条第 1 項による発掘調査の通知を提出して本発掘調査を実施した。最終的な調査面積は 1 区上端面積 105.10m²・下端面積 73.20m²、2 区上端面積 115.10m²・下端面積 54.20m²、合計面積は上端面積 220.20m²・下端面積 127.40m²である。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図、図版1・2）

新潟市は平成17年に行われた周辺市町村（新津市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・西川町・巻町・岩室村・味方村・潟東村・月潟村・中之口村）との合併により、海岸部を含む越後平野の大部分と信濃川を挟んで対峙する弥彦・角田山塊と新津丘陵が含まれる総面積726.45km²の広大な面積を有する市となった。

遺跡のある新潟市秋葉区（以下、秋葉区という）は越後平野のほぼ中央に位置し、新津丘陵を中心として東に阿賀野川、西に信濃川が北流する。享保年間には加治川が阿賀野川に、阿賀野川が新潟港で信濃川に合流する状況で、度々水害に見舞われていたため、享保15年(1730)に新発田藩が松ヶ崎放水路を開削し、現阿賀野川の河口となった。下新付近で、五泉市域を北流してきた早出川が阿賀野川に合流する。また、七日町付近では阿賀野川から分岐した小阿賀野川が西流し、覚路津付近で信濃川に合流する。新津丘陵東縁を北流する能代川は、太平洋戦争後に水害対策の河川改修が行われた。これにより五泉市千原～秋葉区大関間の蛇行部分が直線化し、秋葉区新津地区の市街地を貫流していた本来の流路から分流が東方に作られ、現在の新津川・能代川となっている。この能代川と新津川は下興野付近で再び合流し、荻島付近で小阿賀野川に注いでいる。

秋葉区付近の地形は丘陵とその縁辺の段丘、沖積地から成っている。南南西～北北東に走る新津丘陵は加茂川を南限に標高278mの高立山が最も高く、北に行くに従い標高を下げて北端で70～80mとなり、その周囲には段丘が標高10～70m間に4段見られる。沖積地は信濃川・阿賀野川の二大河川により形成され、自然堤防や旧河道・後背湿地・三角州などの地形が見られる。阿賀野川が流路を東遷させてきた結果、秋葉区域では新津丘陵北端～小阿賀野川間に自然堤防が形成され、現在起伏の極少ない微高地として断続的に存在している。遺跡は阿賀野川左岸、早出川合流点の北西約1.5kmに位置し、この微高地上に存在する。

遺跡地は調査直前まで水田として利用されているが、遺跡周辺の旧景観については既にまとめられている（小池ほか1994）。それによれば現在の遺跡周辺は水田地帯であるが、これは大正末年～昭和20年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものであり、整理事業以前の状況からは当該地域の微地形を反映した土地利用が行われていた様子が窺えるとする。つまり低地は方形区画の水田に、微高地周縁は畑地と微高地を水田化するため開発された畑を囲む水田「堀田」が混在するという土地利用が見られるとしている。

第2節 周辺の遺跡（第3表、第2～6図）

時代別の遺跡の分布は旧石器時代では丘陵部に限定される。縄文・弥生時代では丘陵・段丘上および砂丘地に集中し、古墳時代には丘陵や段丘の縁辺部や平野部微高地・砂丘地に、奈良・平安時代になるとさらに平野部微高地に多くの遺跡分布が見られるようになる。具体的には古代までは丘陵上に弥生時代後期の環濠集落、古墳時代の円墳などが展開し、丘陵裾部には奈良・平安時代の製鉄・須恵器（土師器）窯などの生産遺跡が集中している。そして細池寺道上遺跡は、古代・中世の複合遺跡として周知されている。

合併後の遺跡数は市域で725か所（平成26年3月現在）である。以下に時代ごとに解説を加える。

旧石器時代の遺跡 市内では4遺跡確認されていて、新津丘陵に3か所、角田山麓に1か所ある。新津丘陵の古津八幡山遺跡（297）〔渡邊・立木ほか2001・2004〕からはAT降灰以降のナイフ形石器3点が、草水町2丁目遺跡（253）〔新潟市国際文化歴史文化課2007〕からはナイフ形石器1点・石刃4点が、秋葉遺跡（260）〔前山



新潟県『土地分類基本調査 新潟・新津』1972・1974年より作成 (1/150,000)

第1図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の地形分類図

2014a) からスクレイパー 1 点が出土している。角田山麓ではケカチ堂遺跡〔小野 1994a) から旧石器時代終末頃の尖頭器・剥片の出土が確認されている。

縄文時代の遺跡 市内では草創期～晩期の 169 遺跡が確認されている。草創期の遺跡は、新津丘陵にある愛宕澤遺跡 (254) から草創期初頭の神子柴型の局部磨製石斧・片刃石斧・石核・敲石が出土した〔立木・澤野ほか 2004a)。角田山麓では稲島馬渡遺跡から尖頭器が、御手洗山遺跡、新谷遺跡、福井遺跡から神子柴型石斧の出土が知られ〔小野 1994b)、近年では峰岡城山遺跡から柳葉形尖頭器が 1 点出土した〔立木・伊比ほか 2013)。早期は角田山麓の豊原遺跡〔小野・前山 1994) から早期後半の土器 1 点が出土した。前期の遺跡は、砂丘上では砂崩遺跡 (154)〔酒井・廣野 2002)、笹山前遺跡 (130)〔廣野 1997) がある。角田山麓では前期初頭の布目遺跡〔小野・小熊 1987) や前期前葉の新谷遺跡〔前山 1994a) が代表例である。中期以降は遺跡周辺の秋葉区内の事例を記述する。中・後期は新津丘陵の縁辺部などに位置する、竪穴建物が検出された平遺跡 (249)〔川上・木村・鈴木 1989)、大規模な集落跡と推定される原遺跡 (279)〔川上・木村・鈴木 1989)、竪穴建物・土坑・土器捨て場などが検出された秋葉遺跡 (260)〔川上・木村・鈴木 1989、前山 2014a) が代表例である。また、古津八幡山遺跡北東地区からは後期前葉の竪穴建物が検出された〔渡邊・立木ほか 2004)。晩期は新津丘陵西麓の沖積地に大沢谷内遺跡 (321)〔前山 2012 ほか、細野・伊比ほか 2012)、大沢谷内北遺跡 (320)〔前山・伊比ほか 2010) がある。晩期中葉～最終末の大沢谷内遺跡からは竪穴建物・掘立柱建物・焼土遺構・土坑などが検出され、多量に出土した天然アスファルトは精製や加工が行われていたと推測された。

弥生時代の遺跡 市内で 65 遺跡が確認されている。弥生時代前期から中期初頭を主体とする遺跡は、砂丘上の緒立遺跡〔金子ほか 1983)、砂丘間低地に位置する西郷遺跡 (206)〔土橋 2009)、砂丘上に養海山遺跡 (204)〔新潟市国際文化歴史文化課 2007) がある。緒立遺跡は縄文晩期から続く弥生前期から中期前葉の遺跡で、新潟県最古の弥生土器「緒立式土器」の出土をはじめ、人骨加工品が出土した。西郷遺跡は縄文晩期後葉から続く弥生前期から中期後葉の遺跡で、東日本各地との交流を示す弥生土器の出土をはじめ、磨製石鎌や足形付土版などが出土した。中期前半～後半の遺跡は、砂丘上の石動遺跡 (112) (中～後期)〔廣野 1996)、駒込小丸山遺跡 (143)〔家田 1987、酒井 2000a)、山の家遺跡 (151)〔川上 1993、酒井 2000b) がある。石動遺跡からは東北系と北陸系の土器が、山の家遺跡 (151) からは北陸系、東北系、信州系の土器が出土した。駒込小丸山遺跡では円形の竪穴建物から中期後半の土器が出土した。秋葉区新津地区では平成 15 年度の立会調査で秋葉遺跡から中期前葉、塩辛遺跡 (291) から中期後葉の土器が出土している〔渡邊・立木ほか 2004)。塩辛遺跡では土器がまとまって出土しており、古津八幡山遺跡が形成される前段階の遺跡として重要である。後期の遺跡は、新津丘陵沿いには古津八幡山遺跡 (297)〔川上 1994、渡邊 1994a) とその周辺の居村遺跡 (D・E 地点)〔川上 1996、渡邊ほか 1997) がある。古津八幡山遺跡は丘陵上にある大規模な高地性環濠集落で、二重の環濠・竪穴住居・方形周溝墓・前方後方形周溝墓などが検出された。遺物は北陸系と東北系の弥生土器と共に両者の折衷型式である「八幡山式土器」が認められたほか、鹿角装鉄剣が出土しており、当時の地域間交流を考える上で重要である。居村 C 遺跡 D 地点からは東北北部の土器を伴う土坑墓が検出された。砂丘上の六地山遺跡〔寺村 1960、中村 1960) からは東北系の天王山式土器やアメリカ式石鎌が出土している。角田山麓には山谷遺跡 (山谷古墳下層)〔甘粕・小野ほか 1993)、大沢遺跡〔甘粕・古川ほか 1981)、御井戸遺跡〔前山・相田 2004・2005) がある。

古墳時代の遺跡 市内で 90 遺跡が確認されている。古墳は新津丘陵上に古津八幡山古墳 (297) がある〔甘粕・川村ほか 1992、相田・渡邊ほか 2014)。新潟県最大の古墳で、2011～13 年の調査によって、墳形が円墳であることが判明し、築造年代は前期末～中期初頭と想定された。近年、東区の砂丘上にある牡丹山諏訪神社古墳 (578) の存在が注目される〔橋本・小林・奥田 2014)。発見のきっかけとなった採集資料の円筒埴輪に加え、2014 年の発掘調査では須恵器の装飾器台が出土した〔橋本 2015)。築造年代は中期前半と想定された。砂丘上には、葺石を持つ前期の緒立八幡宮古墳〔吉田ほか 1982、渡邊 1993)、角田山麓の丘陵上には前期の前方後方墳の山谷古墳〔甘粕・小野ほか 1993)、前方後円墳の菖蒲塚古墳〔相田・前山 2003・2005) がある。



第2図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡分布図(旧石器時代・縄文時代)



第3図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡分布図(弥生時代)



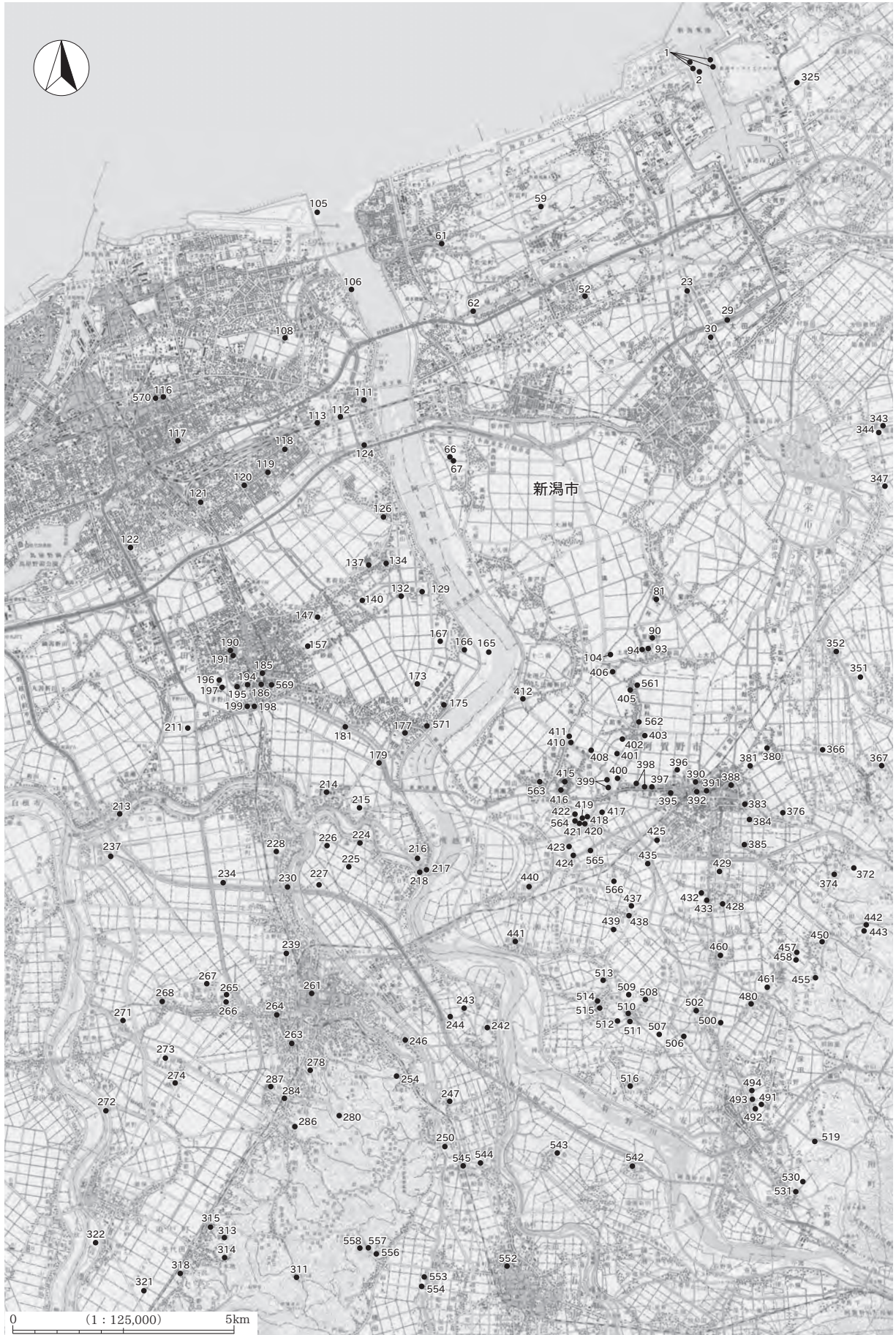
第4図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡分布図(古墳時代)



第5図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡分布図(古代)

砂丘上や砂丘間低地には、日水遺跡（199）（中期）〔立木・細野ほか2013〕、武左衛門裏遺跡（202）（前～中期）〔亀田町史編さん委員会1988、土橋ほか2007〕、東冨遺跡（138）（前期）〔朝岡・諫山2003〕、笹山前遺跡（後期）、自然堤防上には、阿賀野川以東の正尺C遺跡（50）〔土橋2006〕、小阿賀野川以南の中田遺跡（229）（中～後期）〔諫山2009〕、結七島遺跡（前～後期）（228）〔田中・丹下ほか2004〕、沖ノ羽遺跡（227）（中～後期）〔星野ほか1996、遠藤・澤野ほか2014〕などがある。日水遺跡では、古墳時代中期の須恵器直口壺がほぼ完形の状態で検出された。また、笹山前遺跡、中田遺跡、沖ノ羽遺跡からは古墳時代の須恵器が出土している。新津丘陵縁辺や端部には、舟戸遺跡（中期）（290）〔川上1995〕、塩辛遺跡（後期）などがある。舟戸遺跡からは、炉からカマドへの移行期のものと考えられる竪穴建物が検出された。角田山麓には南赤坂遺跡（前期）〔前山・相田2002〕、御井戸遺跡（前～後期）〔前山・相田2004・2005〕がある。

古代の遺跡 古代（飛鳥～平安時代）の遺跡は市内で348遺跡確認されている。平野部には集落遺跡が多く立地し、丘陵裾部には製鉄遺跡、須恵器・土師器窯跡などの生産遺跡が集中している。海岸近くの砂丘上には製塩遺跡もある。古代の遺跡については遺跡周辺の秋葉区に限定して記述する。新津丘陵窯跡群は新津丘陵北東斜面に分布し、七本松窯跡（256）〔中川・倉田1956〕、草水町2丁目窯跡・滝谷窯跡（255）〔川上・木村・鈴木1989〕などがある。平成18年度の下水道工事に伴う立会調査七本松窯跡に隣接する地点で、新たに秋葉2丁目窯跡（257）（9世紀前半）が新発見された。昭和27年に出版された『新津市誌』では新津丘陵に18か所の窯跡が存在すると記載されており〔小林1952〕、近隣に未知の窯跡がまだ多数存在すると考えられる。製鉄遺跡は新津丘陵西斜面に居村遺跡・大入C遺跡（303）などがあり、9世紀第2四半期以降とされる〔渡邊ほか1997〕。次に、沖積地に立地する集落遺跡を古い時期から紹介する。長沼遺跡（236）〔渡邊1991〕は、非ロクロの土師器や返りのある須恵器蓋が定量出土した。大沢谷内遺跡から7世紀後半の土器に伴出して県内最古と言われる「九九木簡」などの木製品や律令祭祀具などが出土している。両遺跡ともに、7世紀中葉の647年に造営したとされる「淳足柵」と年代が近く、注目される。上浦A遺跡では掘立柱建物が発見され〔川上1997、坂上2003〕、円面硯や多量の墨書土器が出土している。上浦A遺跡の年代は出土遺物の年代観から7世紀末～10世紀と考えられ、存続時期の長い遺跡である。隣接する上浦B遺跡（233）〔新潟市国際文化部歴史文化課2007〕からは、周囲を溝で囲まれた総柱建物1棟と掘立柱建物2棟が方向を揃えて検出された。周辺には井戸や畑跡も検出されている。遺跡は9世紀後半の短期間に営まれている。希少なものとしては奈良三彩の小壺が1点出土している。また、新津丘陵北側の満日地区には沖ノ羽遺跡〔石川ほか1994、星野ほか1996、細野ほか2002、春日2003a、北村・菊池ほか2004、立木・澤野・八藤後ほか2008、遠藤・澤野ほか2014〕、山王浦遺跡（223）〔立木・澤野ほか2004b〕、中谷内遺跡（226）〔立木ほか1999、渡邊ほか2002〕、内野遺跡（225）〔立木・高野ほか2002〕、無頭遺跡（221）〔長澤ほか2002〕、大下遺跡（222）、中新田久保遺跡（220）など9世紀後半を中心とする遺跡が多く確認されている。沖ノ羽遺跡からは8世紀第3四半期から10世紀第1四半期までの遺構・遺物が連続的に確認されており、集落や生産域が時期的に移動する様相が明らかになりつつある。瓦塔や緑釉陶器香炉、同香炉蓋、土師器仏鉢形土器など特殊な遺物が出土した地点もあり、「村落内寺院」を持つ地域の中心的な集落である。山王浦遺跡からは9世紀後半の雨落溝を伴う掘立柱遺跡が3棟検出されており、井戸や土坑など周辺施設が併設する建物小群がいくつか並存する「住耕一体型」の集落の一部と考えられる。中谷内遺跡からは平安時代に流れた旧河道に沿って、集落の一部が確認された。旧河道の覆土中からは多くの祭祀に伴う墨書土器が出土した。土器は上層と下層で様相を異にし、9世紀第3四半期からと第4四半期の概ね2～3時期に分けられる。緑釉陶器無台碗など希少品も出土している。内野遺跡からは溝・小土坑などが検出され、9世紀後半の集落の一部が確認された。無頭遺跡は狭小な調査区で不明な部分が多いが、9世紀後半の土器が少量出土している。新津丘陵東側の両新地区では細池寺道上遺跡（244）〔小池ほか1994、立木・渡邊ほか1998、渡邊ほか2001、北村・菊池ほか2004、潮田2014、立木・相澤ほか2014〕、諏訪畑遺跡（250）〔潮田2008〕、小実山遺跡（546）〔山崎・遠藤1999〕など9～10世紀にかけての遺跡が確認されている。細池寺道上遺跡は、遺跡範囲が広範囲に及び、9世紀代の遺物が主体的に確認されている。遺物の中には、「都保一口」



第6図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡分布図(中世)

第2節 周辺の遺跡

第3表 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡周辺の遺跡一覧表

Table with 16 columns: No., 名称, 時代, No., 名称, 時代, No., 名称, 時代, No., 名称, 時代, No., 名称, 時代. It lists various archaeological sites and their historical periods across 16 columns.

と刻書された9世紀前半の須恵器短頸壺や土師器仏鉢形土器など特殊な遺物も出土している。諏訪畑遺跡からは9世紀後半から10世紀初頭の土師器長甕と鍋の一括資料が出土している。さらに出土状況から跡状遺構に伴うと考えられ貴重な例である。小実山遺跡は諏訪畑遺跡の能代川対岸の丘陵上に位置する。出土遺物は10世紀前半が主体である。緑釉陶器耳皿など特殊遺物が出土している。

中世の遺跡 市内で215遺跡が確認されているが、秋葉区に限定して記述する。城館跡が10か所、山城として東島城跡(280)・金津城跡(311)〔横山・竹田ほか1987〕の2か所があり、城跡とされるものが5か所ある。集落跡は平野部微高地に立地する。自然堤防上の遺跡の実態がよく分らなかったが、平成4年に調査された江内遺跡(230)〔春日ほか1996〕の発掘に伴い、14～15世紀の集落が発見された。細池寺道上遺跡では、鎌倉～室町時代の掘立柱建物・井戸・溝・道路状遺構が検出された〔潮田2014、立木・相澤ほか2014〕。また細池遺跡(現、細池寺道上遺跡)〔小池ほか1994〕では中世以降のほ場の各单位施設と思われる遺構が検出されている。沖ノ羽遺跡では12～13世紀の集落およびほ場の一部が確認された〔石川ほか1994、星野ほか1996、春日2003a〕。出土遺物の中には県内初出土となる烏帽子が出土している。沖ノ羽遺跡の北東にある内野遺跡の調査では14～15世紀の自然堤防上の集落の様相が明らかとなった。遺構としては掘立柱建物・井戸・溝があり、遺物は珠洲焼甕・壺類、青磁、白磁、瀬戸、美濃焼などが出土した。さらに井戸内より鉄鍋が出土した。リサイクルを基本とする当時の社会で鉄製品が残ったということは、祭祀行為等で埋蔵されたと考えられる例である。そのほかに井戸底から大形犬の骨の一部が検出され、食用の可能性が指摘されており、中世の食文化を考える上で貴重である。

近世の遺跡 市内で50遺跡が確認されている。集落跡は中世と同じ平野部微高地に立地しており、現在の住宅地が存続して立地することが多く実態は不明な点が多い。発掘調査例も少ないが、秋葉区では江内遺跡で17世紀前半からの集落の一部が明らかにされている。近年、湊町新潟の「近世新潟町跡」〔佐藤2008〕が調査され、幾層も重なる生活面を確認した。肥前系を中心とする各地の陶磁器が多量に出土した。部分的な調査ではあるが、17～19世紀の町屋の実態に迫る重要な調査例である。

第3節 歴史的環境

古墳時代については文献資料では不明な点が多い。越後平野に立地する古墳は秋葉区の古津八幡山古墳をはじめ、西蒲区の菖蒲塚古墳・山谷古墳、西区の緒立八幡宮古墳や三条市の保内山王山古墳群などいずれも前期のもので、5世紀代は越後平野での古墳の実態は不明瞭とされてきたが、東区の牡丹山諏訪神社古墳の確認により5世紀前半に引き続き古墳が造営されることが明らかとなった。5世紀代以降は高田平野・魚野川流域に古墳造営の中心が移動する。

越国の領域については第1段階(3～4世紀)は旧越前国(越前・加賀・能登)、第2段階(5～6世紀)は旧越中国(頸城・古志・魚沼・蒲原4郡まで含む)まで、第3段階(7世紀中～)は淳足・磐舟柵までとし、次第に北上していく様が窺える〔米沢1965・1980〕。『続日本紀』大宝2年(702)3月条には、越中国4郡を割いて越後国に編入するとあり、頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡がこれに当たるとされ、これにより越中国の領域が確定した。最終的に越後国の領域が確定するのは、和銅5年(712)にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国したことによる。

古代の秋葉区域は蒲原郡に属し、その郡域は概ね三条市以北阿賀野川以西の越後平野と推定され、中世南北朝期に蒲原郡域が旧沼垂郡を含む領域に拡大するまでは大幅な変更はないと思われる。7世紀段階には旧越中国の淳足柵に属する領域として整備され、8世紀には蒲原郡として成立したとみられる。蒲原郡には10世紀成立の『和名類聚抄』に日置・桜井・勇礼・青海・小伏の5郷が見られる。秋葉区域の郷域は現段階では不明である。

宝亀11年(780)の「西大寺資財流記帳」(『享楽遺文』中巻)には、西大寺の荘園として蒲原郡に鶉橋庄・槐田庄が見られる。同史料に「越後国水田并墾田地帳景雲三年」とあることから、成立はいずれもそれ以前の8

世紀中葉と見られる。所在地については式内社名から、鶉橋庄は五泉市橋田、槐田庄は三条市周辺とされている。これらの荘園に秋葉区域が含まれていたのかは不明である。また、平成22年に調査された西蒲区林付遺跡では、出土した墨書土器から、文献資料に登場しない古代荘園「川合（川井）庄」の存在が明らかになった〔相田ほか2012〕。

新津丘陵における須恵器生産は、早ければ7世紀後半に始まり、8世紀前半～9世紀中頃が主な操業時期である。これは越後国内の他地域の須恵器生産動向とほぼ一致しており、いわゆる「一郡一窯体制」であった。しかし9世紀前半～中葉には、佐渡小泊窯の製品が越後国全域に流通するという画期的な変化が生じる〔坂井1996〕。一方、金津丘陵製鉄遺跡群は新津丘陵北西側の金津地区にあり、窯跡と近接するのは燃料が薪や木炭と共通するためである。古代の秋葉区域の産業は新津丘陵の製鉄・窯跡群が中心で、低湿地や潟湖が大部分を占めていた越後平野の中で新津丘陵は重要な位置にあったと思われ、文献史料上は確認できないが、沼垂柵や国府津である蒲原津とも何らかの関係があった可能性がある。

11世紀後半に各地で成立し始めた公領のひとつである金津保は、秋葉区域に所在したとされる。金津保の初見は建武3年（1336）11月18日「羽黒義成軍忠状写」で、「同二日、引籠于金津保新津城、对于小国政光以下御敵等、到散々合戦畢」（『新潟県史』資料編4-1935）とあり、北朝方である三浦和田（羽黒）義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国政光らと戦ったとある。この史料によって金津保には新津城が含まれていたことが分かり、この新津城とは新津城・程島館・東鳥城のいずれかであろうとされる〔木村1989〕。また天正5年（1577）「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」（『新潟県史』資料編5-2704）とあり、遊川は田上町湯川とみられ、さらに天文13年（1544）10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副状」（『新潟県史』資料編4-1495・1496）に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条に当たるとされる。以上のことから金津保の領域は年代によって若干の違いがあった可能性はあるが、秋葉区～田上町北部と新津丘陵の五泉市側までを含む範囲であったと推定する。

院政期～鎌倉初期には建仁元年（1201）3月4日に「城四郎長茂并伴類新津四郎已下、於吉野奥被誅畢」（『吾妻鏡』）とあり、新津四郎はおそらく金津保に何らかの関連を持つ人物と見られるが、阿賀野川以北に勢力を持ち国衙勢力と対峙する城長茂と行動をとりにしている。このことから公領である金津保は国衙勢力と城氏との間で不安定な状況であったことが予想される。また南北朝動乱期には阿賀野川以北の北朝方佐々木加地景綱らと、刈羽・魚沼地域に勢力を置く南朝方の小国氏らの蒲原津をめぐる攻防が続き、阿賀野川流域である金津保（つまり秋葉区域）は、その中で拠点の一つとして注目されていた。その後も越後守護となった上杉氏・守護代長尾氏にとって、その支配に抵抗する阿賀野川以北の国人層や本庄・式部・中条・佐々木加地氏らを統制するために金津保は地理的に極めて重要な拠点であった。そのため金津保は国衙領として守護の支配下に置かれることとなる。

天正6年（1578）3月に上杉謙信が死去し、養子である景勝、景虎の間で後継争い「御館の乱」が起こる。この乱に景勝方として参戦した新津氏は、以後それまで金津保の勢力であった平賀氏に替わり領主となった。そして慶長3年（1598）景勝とともに会津へと国替えさせられるまで、新津氏が金津保を中心に発展することとなった。

中世における金津保を中心とした秋葉区域は、阿賀野川流域であり、蒲原津に近いという地理的環境や越後平野を一望することができるという新津丘陵の存在から、常に不安定な政治状況に置かれていた。先に金津保の領域に推定した範囲に、新津丘陵を中心に中世城館が常に置かれていたのはそのことを示しているのだろう。

近世に入り、越後平野では新発田藩によって新田開発に伴う治水工事が行われるようになった。また近世後期には町人請負による新田開発が盛んになり、潟の干拓が行われた。阿賀野川などの河川も水害対策のために掘割を掘削するなどの普請がなされた。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査（第7～9図、図版4、第1・2表）

両新地区ほ場整備事業に伴う試掘・確認調査は、平成13～17年度にほ場整備事業区域全域を行っている。平成13年度には1,147m²、平成14年度には1,701m²、平成15年度には490.5m²、平成16年度には40.1m²、平成17年度には154.5m²の現状で3,533.1m²を行っている。また、今回の調査区に係る調査としては平成20・23・24年度に農道建設に伴う確認調査をそれぞれ117m²・138m²・9m²行っている。

今回の調査地点は、C地区の調査地点である。

平成23年度細池寺道上遺跡1区は、今回の調査区の南端にあたり、現況は水田である。C地区244Tでは、現地表面（G・L）から0.4mで遺構確認面が確認され、包含層の広がり予想された。

平成24年度細池寺道上遺跡1区は、今回の調査区北側にあたり、現況は水田である。C地区193・194Tともに現地表面（G・L）から0.2～0.3mで遺構確認面に達する。1区の範囲では包含層が削平された可能性も考えられた。2・3区も同様に浅い深度から遺構確認面に達することが予想された。

平成25年度細池寺道上遺跡1区は今回の調査区の北端にあたる。現況は水田である。C地区302・303Tに示したとおり現地表面（G・L）から0.2～0.3mで遺構確認面に達する。IV層の包含層が確認され良好に遺跡が残存している可能性がある。2区は現農道部分と田の部分での確認調査を実施した。現農道部分は盛土が1.0～1.1m存在する。遺構確認面は現地表面（G・L）から1.5m下で確認された。3区は2区同様に現農道部分と田の部分での確認調査を実施した。C地区237・261Tで遺構確認面が現地表面（G・L）から0.4m下で一部確認された。

以上の結果から、平成23～25年度の細池寺道上遺跡の遺跡保護層が確保されない本発掘調査範囲は前述のとおり7,750.43m²となった。

平成24年度西江浦遺跡1区の現況は水田である。C地区302・303Tでは、現地表面（G・L）から0.2～0.3mで遺構確認面に達し、遺跡の広がり予想された。以上の結果から、本発掘調査範囲は214.68m²となった。

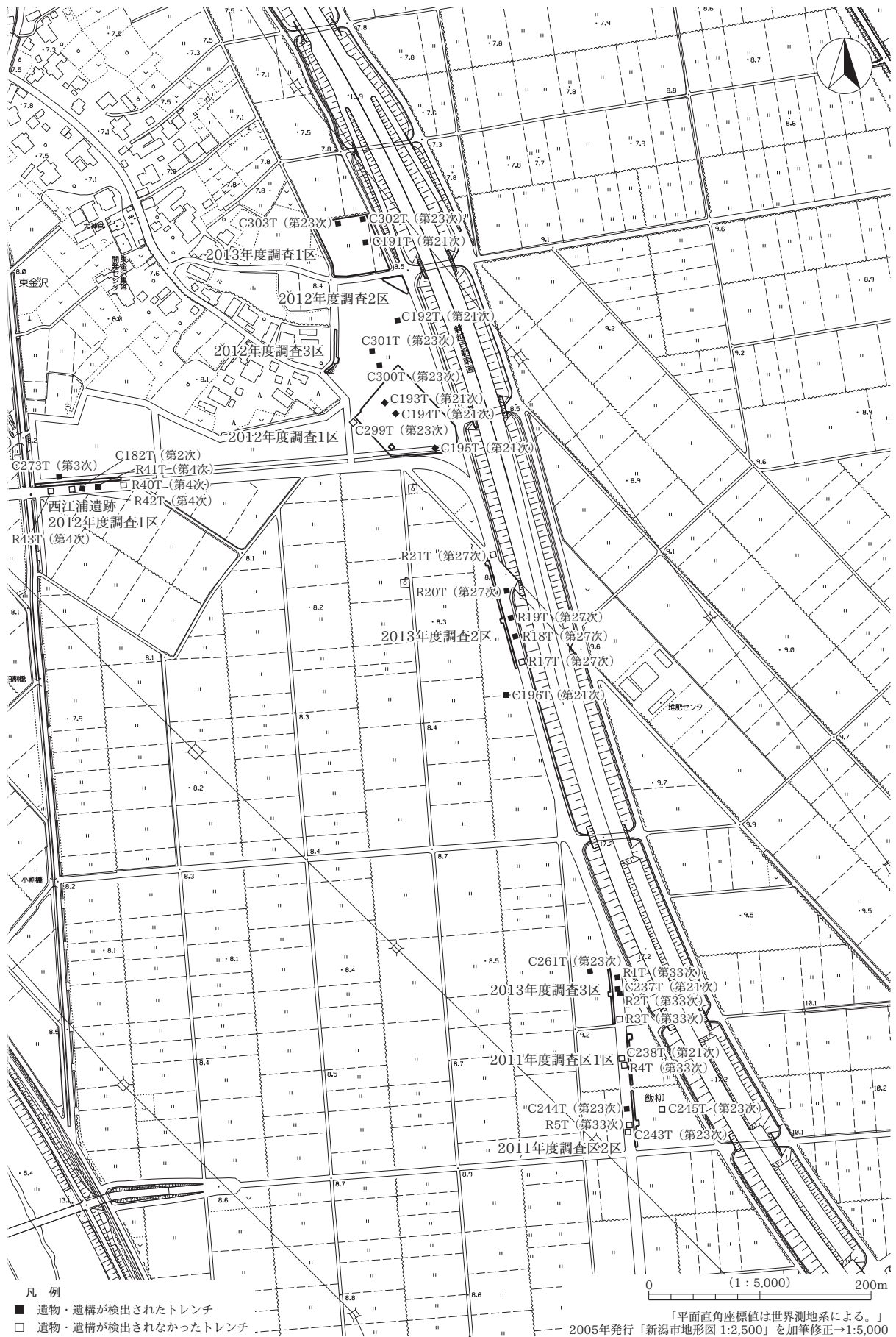
第2節 本発掘調査

A 調査方法

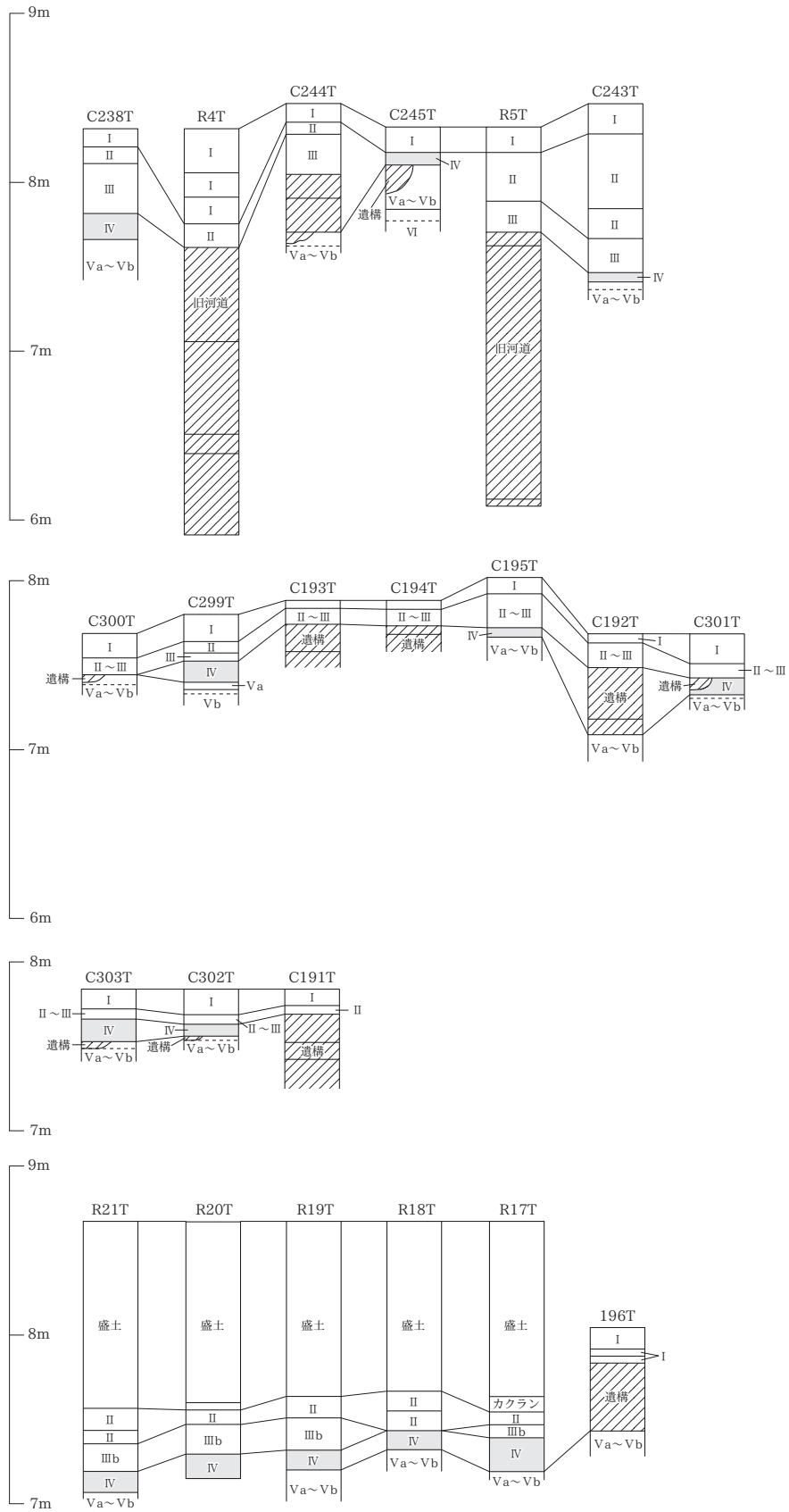
1) グリッドの設定（図版5～7）

グリッドを設定するにあたっては、世界測地系（測地成果2000）を用いた。平成19年度調査から細池寺道上遺跡の調査区全体にグリッド設定を行った。なお、当該地域では、平成23年の東日本大震災による地殻変動に対応するため、三角点位置および水準点標高の改定が行われているが（測地成果2011）、既往調査との整合をとるため特に断りがない場合には、測地成果2000による座標値を掲載している。その基準点はX座標：200400.000、Y座標：56900.000、緯度：37°48′15″14414、経度139°08′46″21710（測地成果2011：X座標：200399.790、Y座標：56901.000、緯度：37°48′15″13710、経度139°08′46″25792）を1A1A杭とした。基準点に対し国土地理院の第8系座標軸を用いて100mおよび10mの方眼を組み、それぞれ大々グリッド、大グリッドとした。名称は北西隅の杭を基点として短軸方向をアラビア数字、長軸方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。大グリッドをさらに2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、

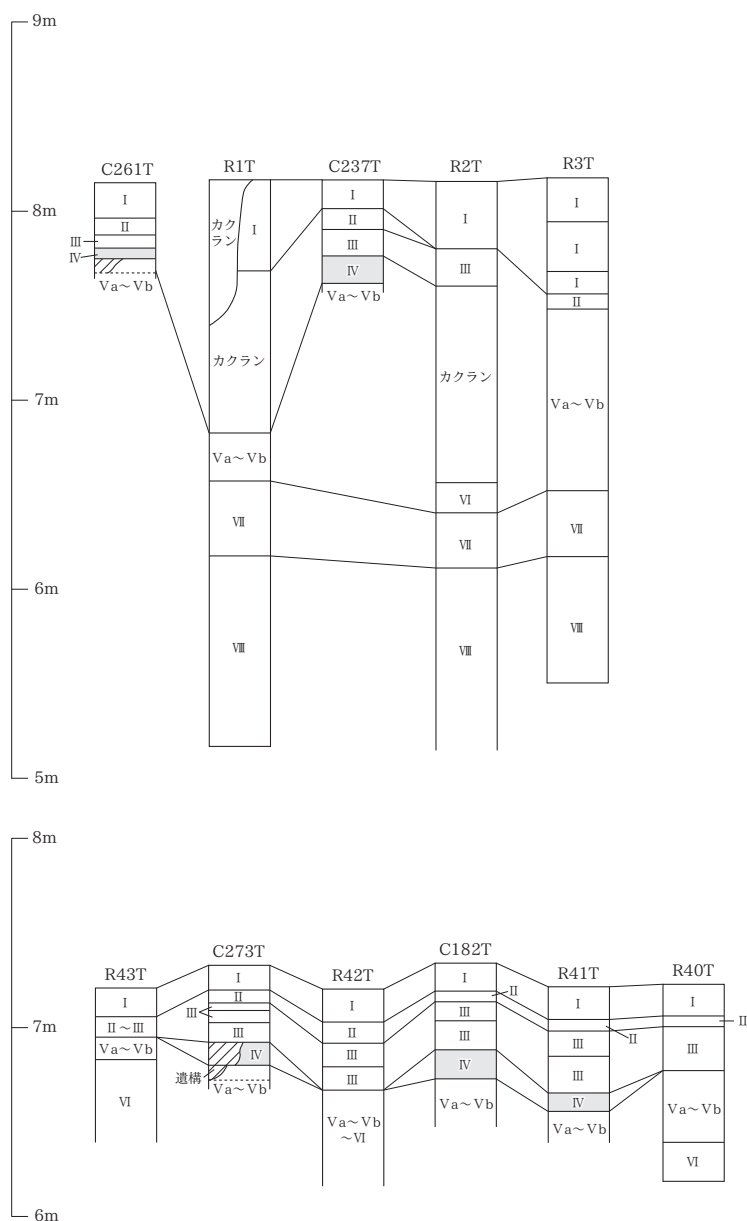
第2節 本発掘調査



第7図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡確認調査トレンチ図



第 8 図 細池寺道上遺跡確認調査土層柱状図



第9図 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡確認調査土層柱状図

「7P-1J5」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区9点の座標（新座標）は次のとおりである。

細池寺道上遺跡第32次（11）調査

1区 17L-8I1（X座標：198730.000、Y座標：58090.000、Z座標：8.25m、緯度：37° 47' 20" 7069、経度 139° 09' 34" 3827）

2区 18L-3J1（X座標：198680.000、Y座標：58090.000、Z座標：7.50m、緯度：37° 47' 19" 0852、経度 139° 09' 34" 3683）

細池寺道上遺跡第38次（12）調査

1区 12J-1J1（X座標：199300.000、Y座標：57890.000、Z座標：7.68m、緯度：37° 47' 39" 2410、経度 139° 09' 26" 3722）

2区 10J-8I1（X座標：199430.000、Y座標：57880.000、Z座標：7.68m、緯度：37° 47' 43" 4599、経度 139° 09' 26" 0008）

3区 11J-4C1（X座標：199370.000、Y座標：57820.000、Z座標：7.85m、緯度：37° 47' 41" 5274、経度 139° 09' 23" 5311）

細池寺道上遺跡第41次（13）調査

1区 10J-5E1（X座標：199460.000、Y座標：57840.000、Z座標：7.49m、緯度：37° 47' 44" 4421、経度 139° 09' 24" 3744）

2区 13K-9H1（X座標：198790.000、Y座標：57970.000、Z座標：8.18m、緯度：37° 47' 33" 3843、経度 139° 09' 33" 3826）

3区 17L-2H1 (X座標:198790.000、Y座標:58070.000、Z座標:7.75m、緯度:37° 47' 22" 6577、経度 139° 09' 33" 5826)
西江浦遺跡第6次(12)調査

1区 12H-6B1 (X座標:199250.000、Y座標:57610.000、Z座標:6.91m、緯度:37° 47' 37" 6829、経度 139° 09' 14" 9130)
細池寺道上遺跡第32次(11)調査 2区 18L-3J1 杭で長軸方位を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北
に対し0度24分15秒東偏し、磁北(国土地理院磁気図2010年値)は真北に対し8度03分00秒西偏する。同
第38次(12)調査 1区 12J-1J1 杭の座標北は真北に対し0度24分10秒東偏し、磁北は真北に対し8度03
分00秒西偏する。同第41次(13)調査 1区 10J-5E1 杭の座標北は真北に対し0度24分9秒東偏し、磁北は
真北に対し8度03分00秒西偏する。

西江浦遺跡第6次(12)調査 1区 12H-6B1 杭で長軸方位を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対
し0度24分03秒東偏し、磁北は真北に対し8度02分00秒西偏する。

2) 調査方法

① 表土剥ぎ: 確認調査によって遺物の出土が多量であることから、遺物包含層(IV層)上面まで、遺物の出土
に注意しながら重機(バックホウ)により除去した。排土は横置きした。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。
また、湛水防止のために、表土剥ぎと並行して調査区の周囲に土側溝を掘り、2時のポンプで強制排水を行った。
土側溝は人力で掘削し、幅20cm、深さ20cm程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く
傾斜をつけたV字の溝を掘削した。土側溝により遺構の破壊も考えられたが、湛水により調査が不能になるこ
とを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘: 重機で掘削後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺
構の検出にあたった。排土は人力で調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真: 実測図は断面図を1/20で作成した。平面図や各種測量点は測量業者に委託してトータルス
テーションを用いて作成し、あわせて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は35mm版、6×7版のカメラを用い、
白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。さらにデジタルカメラでの撮影も行った。

④ 遺物取り上げ: 包含層出土遺物は小グリッドを単位として取り上げた。遺構出土遺物は点数が少ない地点
が多く、層位・小グリッド単位ごとに一括で取り上げた。旧河道や溝の一部はドット上げを行った。

⑤ 自然科学分析: 土壌分析・植物珪酸体分析・花粉分析・樹種同定・種実同定・¹⁴C年代測定科学分析を行った。

B 調査経過

1) 平成23年度細池寺道上遺跡の調査経過

平成23年7月25日から諸準備・機材搬入を行い、調査担当1名・調査員1名で調査を開始する。同日より
1区南端から重機による表土剥ぎを開始した。表土剥ぎと並行して作業員8名で包含層掘削、南端で確認された
自然流路の掘削作業を行った。7月27日に1区の表土剥ぎが終了し、引き続き2区の表土剥ぎを北端から開始
し、1区の南端から続く自然流路の掘り下げも行なった。8月2日に2区の表土剥ぎが終了した。8月4日から
1区、2区の遺構精査を開始した。8月17日には検出した遺構を完掘し、8月25日に高所作業車での写真撮影
を行った。同日に撤収作業を行い、調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、1区上端面積105.1m²・下端面積73.2m²、2区上端面積115.1m²・下端面積
54.2m²、合計の上端面積220.2m²・下端面積127.4m²である。

2) 平成24年度細池寺道上遺跡の調査経過

平成24年7月23日から諸準備・機材搬入を行い、調査担当1名・調査員1名で調査を開始する。同日から
1区で重機によってⅠ～Ⅲ層の表土および無遺物層を除去した。表土剥ぎと並行して作業員4名で排水路掘削、
法面仕上げおよび遺構検出作業を行った。7月31日から約10名の作業員で遺構精査を開始した。8月7日か
ら1区の河跡について重機による掘り下げを開始した。掘り下げと同時に作業員5名で確認トレンチの仕上げ

および河床検出作業を行った。8月3日から西江浦遺跡の調査終了に伴い、調査員1名・作業員9名が2区に入り、表土剥ぎを開始した。表土剥ぎに並行して排水路掘削、法面仕上げを行った。表土剥ぎは8月6日に終了した。8月7日から遺構精査、8月8日から遺構発掘を開始した。8月10日に1区の表土剥ぎがほぼ終了し、8月16日に1区のベルトコンベアーの設置を行い、遺構発掘を開始した。まず遺構精査時に大溝の可能性があった遺構2条についてサブトレンチを計7か所入れた結果、確認面から深さ20cm前後で、土層の堆積状況などから水田跡(SN)の可能性が高いことが判明した。2区は8月23日に完掘し、8月24日に高所作業車により完掘写真を撮影した。3区は8月27日に表土剥ぎを開始し、8月28日に終了した。8月29日から遺構検出、8月30日から遺構発掘を開始した。1区では9月3日に河跡の調査において加工された巨木が確認され、9月19日に全容がほぼ明らかとなり、木道の可能性が高いことが明らかとなった。10月10日から河跡下層の覆土を一部サンプリングし篩い作業を行った。3区は9月10日に完掘し、9月14日に完掘写真を撮影した。9月18日より3区の終了に伴い、調査員1名・作業員9名が1区に合流し、調査の進捗を計った。9月27日に1区の河跡部分についてラジコンヘリによる完掘写真を撮影した。10月5日に新潟県立歴史博物館鈴木俊成氏から水田調査方法の指導を得た。10月～11月中は水田跡や用排水の溝の調査を中心に行なった。10月15日から1区西側の表土剥ぎを重機により行い、排水路掘削、法面仕上げおよび遺構検出作業を行った。11月5日から畝間痕跡の調査を開始した。11月17日に現地説明会を行い地元中心に80名の参加を得た。11月22日から水田跡、畝間痕の覆土を一部サンプリングし篩い作業を行った。12月中は1区の畝間痕の調査を中心に行なった。12月21日にラジコンヘリによる1区全体の完掘写真を撮影した。1月7～9日は2区・3区の畝間痕の調査を行い、2区については1月9日に高所作業車により検出状況を撮影した。1月10日に撤収作業を行い、調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、1区上端面積4,428.05m²・下端面積4,375.44m²、2区上端面積184.51m²・下端面積175.20m²、3区上端面積103.12m²・下端面積84.26m²、合計の上端面積4,715.68m²・下端面積4,634.90m²である。

3) 平成25年度細池寺道上遺跡の調査経過

平成25年7月25日から諸準備を開始し、調査担当1名・調査員2名で調査を開始する。7月31日に機材搬入を行った。8月7日から、1区と3区を同時にその後、2区の順番で重機によってI～III層の表土および無遺物層を除去した。表土剥ぎと並行して作業員約10名(1区6名、3区4名)で排水路掘削、法面仕上げおよび遺構検出準備作業を行った。3区路線部分の調査区では掘削と並行して遺構精査を行い、8月21日にはほぼ完掘し、同22日に高所作業車で写真撮影を行った。8月26日から2区の表土掘削および遺構精査を開始した。1区の表土剥ぎの段階で、幅10m前後の落ち込みを確認した。一部腐食化した層が全体に存在することから旧河道あるいは大溝など深度が深い遺構の可能性もあったため、8月29日にサブトレンチを3か所入れた結果、確認面から深さ30cm前後で底面の凹凸が顕著なことから水田跡(SN)の可能性が高いことが判明した。9月3日に1・2区の表土剥ぎがほぼ終了し、1区ベルトコンベアーの設置を行い、9月13日から約25名の作業員で1・2区の遺構精査を開始した。9月16日には台風18号に伴う強風でシートの捲れなどがあったが、事前に養生を行ったため大きな被害はなかった。2区は9月17日にほぼ完掘し、9月18・23日に高所作業車により完掘写真を撮影した。9月21日に2・3区のラジコンヘリによる完掘写真を撮影した。9月24日より2・3区の終了に伴い調査員1名・作業員5名が1区に合流し、調査の進捗を計った。10月18日に新潟県立歴史博物館鈴木俊成氏による水田調査方法の指導を得た。10月中は水田跡の調査を中心に行なった。10月28日に自然科学分析のサンプリングを行った。11月9日に1区のラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。11月14日に1区のローリングタワーでの撮影を行った。11月23日に現地説明会を行い、地元を中心に75名の参加を得た。11月27日より下層確認作業と並行して中世の井戸や水田跡の覆土を一部サンプリングし篩い作業を行った。12月中に下層遺構が無いことを確認し12月27日に撤収作業を行い、調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、1区上端面積 2,498.58m²・下端面積 2,447.72m²、2区上端面積 212.30m²・下端面積 157.40m²、3区上端面積 103.67m²、下端面積 80.91m²、合計の上端面積 2,814.55m²・下端面積 2,686.03m²である。

4) 平成 24 年度西江浦遺跡の調査経過

平成 24 年 7 月 17 日から諸準備・機材搬入を行い、調査担当 1 名・調査員 1 名で調査を開始する。同日、西側から重機による表土剥ぎを開始し、表土剥ぎと並行して作業員 4 名で排水路掘削、法面仕上げ作業を行った。7 月 24 日から遺構検出、7 月 25 日から遺構発掘を開始し、8 月 1 日にほぼ完掘した。8 月 2 日に高所作業車での写真撮影を行った。同日に撤収作業を行い、調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、上端面積 241.68m²・下端面積 172.13m²である。

C 調査体制

【平成 23 年度 細池寺道上遺跡本発掘調査】

調査期間	平成 23 年 7 月 25 日～平成 23 年 8 月 25 日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課・事務局	文化財センター（所長 高橋 保 課長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
調査担当	前山精明（副主幹）
調査員	澤野慶子（市文化財センター専門非常勤嘱託）

【平成 24 年度 細池寺道上遺跡本発掘調査】

調査期間	平成 24 年 7 月 23 日～平成 25 年 1 月 10 日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	文化財センター（所長 高橋 保 課長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
調査担当	前山精明（副主幹）
調査員	牧野耕作（市文化財センター専門非常勤嘱託）・細井佳浩（株式会社吉田建設）

【平成 25 年度 細池寺道上遺跡本発掘調査】

調査期間	平成 25 年 7 月 25 日～平成 25 年 12 月 27 日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	文化財センター（所長 中野俊一 課長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和 遠藤恭雄 本間敏則）
調査担当	立木宏明（主査）
調査員	中川晃子・不破野希春（株式会社吉田建設）

【平成 24 年度 西江浦遺跡本発掘調査】

調査期間	平成 24 年 7 月 17 日～平成 24 年 8 月 2 日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	文化財センター（所長 高橋 保 課長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
調査担当	前山精明（副主幹）
調査員	牧野耕作（市文化財センター専門非常勤嘱託）・細井佳浩（株式会社吉田建設）

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物量はコンテナ（内寸 54.5×33.6×10.0cm）にして平成 23 年度細池寺道上遺跡 3 箱、平成 24 年度細池寺道上遺跡 92 箱、平成 25 年度細池寺道上遺跡 45 箱、平成 24 年度西江浦遺跡 1 箱の合計 141 箱である。平安・鎌倉・室町時代の土器・陶磁器・石製品・土製品・木製品・鉄製品・鍛冶関連遺物など各種におよぶ遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄 ②注記 ③包含層：グリッド別の種別の重量計測 ④遺構：遺物の器種別の重量・個体数計測 ⑤接合 ⑥報告書掲載遺物の抽出 ⑦実測図作成 観察表作成 ⑧トレース図作成 ⑨仮割付作成 ⑩版下作成 このうち⑧と⑩は編集業者に委託してデジタル編集をした。

2) 遺構

平面図を作成するにあたっては、まず測量業者に委託した 1/20 の遺構平面図と手取りなどの断面図との校正作業を行った。報告書の 1/80 と 1/40 の遺構平面図は測量業者が作成し、デジタルデータとした。

B 整理経過

平成 23 年度は発掘調査終了後、遺構・写真の基礎整理、遺物の水洗・注記など基礎整理作業を年度内で終了させた。平成 24 年度および 25 年度は、民間会社調査員の協力を得て、出土遺物の水洗・注記・計測・接合に加え一部実測作業を行った。さらに、写真・図面整理を行い、併せて測量業者に委託した遺構平面図の校正作業を行った。遺構平面図は測量業者作成のデジタルデータを用いた。平成 25 年度は遺構図版の版組作成の一部を行った。平成 26 年度は平成 23～25 年度調査の報告書作成業務を株式会社吉田建設に委託した。平成 24・25 年度の発掘調査に参加した民間調査員各 1 名に整理作業全般を委託し、担当職員は共同編集作業・一部執筆および監理に当たった。作業は遺物実測・デジタルトレース、遺物写真の撮影、図版のレイアウト、報告書の執筆・編集を行い、そのうちデジタルトレース・データ編集は別に業者に委託した。報告書は平成 27 年度に刊行した。

C 整理体制

【平成 23 年度 細池寺道上遺跡整理作業】

調査期間	平成 23 年 7 月 25 日～平成 24 年 3 月 31 日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課・事務局	文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
整理担当	前山精明（副主幹）
調査員	澤野慶子（市文化財センター専門非常勤嘱託）

【平成 24 年度 細池寺道上遺跡整理作業】

調査期間	平成 24 年 7 月 23 日～平成 25 年 3 月 31 日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
整理担当	前山精明（副主幹）
調査員	牧野耕作（市文化財センター専門非常勤嘱託）・細井佳浩（株式会社吉田建設）

【平成 25 年度 細池寺道上遺跡整理作業】

調査期間	平成 25 年 7 月 25 日～平成 26 年 3 月 31 日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	文化財センター（所長 中野俊一 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和 遠藤恭雄 本間敏則）
整理担当	立木宏明（主査）
調査員	中川晃子・不破野希春（株式会社吉田建設）

【平成 24 年度 西江浦遺跡整理作業】

調査期間	平成 24 年 7 月 23 日～平成 25 年 3 月 31 日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
整理担当	前山精明（副主幹）
調査員	牧野耕作（市文化財センター専門非常勤嘱託）・細井佳浩（株式会社吉田建設）

【平成 26 年度 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡整理作業】

調査期間	平成 26 年 6 月 2 日～平成 27 年 3 月 31 日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	文化財センター（所長 中野俊一 所長補佐 福地康郎 主任 渡邊朋和 遠藤恭雄 本間敏則）
整理担当	立木宏明（主査）
調査員	細井佳浩・不破野希春（株式会社吉田建設）



平成 24（2012）年度細池寺道上遺跡調査風景



平成 25（2013）年度細池寺道上遺跡調査風景



平成 24（2012）年度細池寺道上遺跡現地説明会



平成 25（2013）年度細池寺道上遺跡現地説明会

第IV章 細池寺道上遺跡

第1節 概要

細池寺道上遺跡の推定範囲は南北 1.8km、東西 1.1km 程で、今回報告の第 32・38・41 次調査の位置は遺跡の北西端にあたる。調査では奈良・平安時代（8 世紀後葉～10 世紀初頭前後）と鎌倉・室町時代（13 世紀末葉～14 世紀中葉）の遺物が主に出土し、同時代の遺構を検出した。

検出された遺構は、第 32 次（11）調査 1・2 区を合わせて遺構総数は 8 基で、畔 3 基、小土坑（Pit）2 基、旧河道 3 基である。第 38 次（12）調査は 1～3 区を合わせて遺構総数は 260 基で、井戸（SE）1 基、土坑（SK）19 基、性格不明遺構（SX）20 基、溝（SD）73 基、水田跡（SN）4 基、小土坑（Pit）137 基、柵（SA）2 基、旧河道 1 基、テラス 1 基、木道 1 基、杭 1 基である。第 41 次（13）調査は 1～3 区を合わせて遺構総数は 690 基で、井戸（SE）1 基、土坑（SK）17 基、性格不明遺構（SX）11 基、溝（SD）33 基、水田跡（SN）14 基、小土坑（Pit）594 基、掘立柱建物（SB）12 基、柵（SA）8 基である。

出土遺物量は、発掘調査終了時で遺物収納コンテナ（内寸 54.5×33.6×10.0cm）にして、第 32 次（11）調査は 1・2 区を合わせて 3 箱、第 38 次（12）調査は 1～3 区を合わせて 92 箱、第 41 次（13）調査は 1～3 区を合わせて 45 箱、合計 140 箱である。

第2節 層序（図版 11・12・32・55・59・73・97・103、 写真図版 20・26・66・68・75・76・108・114）

細池寺道上遺跡の基本層序は、第 41 次（13）調査 1 区の成果を基準として調査区全体に対応する。遺構確認面は 7.7m～7.3m の標高で推移している。遺構の基本層序は大きく 5 層に分けられ、14 層に細分される。以下に基本層序を記す。

- I 層 灰黄褐色（10YR4/2）粘質土 粘性・しまりややあり。表土・盛土。
 - I a 層 黄灰色（2.5Y4/1）砂質シルト 粘性ややあり・しまりあり。褐鉄鉱を斑状に含む。
 - I b 層 黒褐色（2.5Y3/2）砂質シルト 粘性ややあり・しまりあり。褐鉄鉱を斑状に含む。
 - I c 層 黒褐色（2.5Y3/1）砂質粘土 粘性ややあり・しまり非常に強い。褐鉄鉱を斑状に含む。
 - I d 層 黒褐色（2.5Y3/2）砂質粘土 粘性ややあり・しまり非常に強い。褐鉄鉱を斑状に含む。
 - II 層 灰黄褐色（10YR4/2）粘質土 粘性・しまりあり。水田床土。
 - III 層 褐灰色シルト（10YR5/1）粘性・しまりあり。
 - III a 層 にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト 粘性あり、しまりあり。
 - III b 層 黒褐色（10YR3/2）シルト 粘性あり、しまりあり。III a 層のシルトを少量含む。
 - III c 層 にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト 粘性あり、しまりあり。
 - III d 層 褐色（10YR4/6）シルト 粘性あり、しまりあり。灰白色シルトを多く含む。
 - IV 層 黒褐色（10YR3/2）シルト 粘性・しまりあり。遺物包含層。
 - V a 層 明黄褐色（10YR7/6）シルト 粘性・しまりあり。粘質土が縞状に入る。褐鉄鉱が入る。基盤層。
 - V b 層 明黄褐色（10YR7/6）シルト 粘性ややあり、しまりあり。砂質が V a 層に比べて強い。
- I・II 層は表土および水田床土である。I a～I d 層は第 38 次（12）調査の 1 区で認められ、I b～I d

層の違いは微少である。Ⅲa～Ⅲd層は第41次(13)調査の2区で認められる。奈良・平安時代(古代)、鎌倉・室町時代(中世)の遺物はⅣ層から出土する。Ⅳ層は第32次(11)調査1・2区、第38次(12)調査1～3区では後世の開発によって攪乱を受けたと考えられ、残りが悪い。古代・中世の生活面はⅣ～Ⅴa層上面と考えられる。Ⅴa層以下は無遺物層である。

今回の調査地の東に隣接する磐越自動車道建設に伴い平成3・4年度に調査された細池遺跡・寺道上遺跡(以下、細池・寺道上遺跡とする)[小池ほか1994]の基本層序と対比すると、細池・寺道上遺跡Ⅰ層は本稿Ⅰ・Ⅱ層、細池・寺道上遺跡Ⅱ層は本稿Ⅲ層、細池・寺道上遺跡Ⅲ層は本稿Ⅳ層、細池・寺道上Ⅳ層は本稿Ⅴa・Ⅴb層に対応すると考えられる。一方、細池寺道上遺跡第38次(12)調査2区と第41次調査(13)1区の間にある、農道拡幅工事に伴い平成11年度に調査した寺道上遺跡(現細池寺道上遺跡)[渡邊ほか2001]の基本層序と対比すると、寺道上遺跡Ⅰa～Ⅰd層・Ⅱ・Ⅲ層は本稿Ⅰ～Ⅲ層、寺道上遺跡Ⅳ層は本稿Ⅳ層、寺道上Ⅴ層は本稿Ⅴa層に対応すると考えられる。

第3節 遺 構

A 遺構の概要

遺構番号は、調査年次・区ごとに遺構の種類にかかわらず1から通し番号を付した(第38次(12)調査1区は1001から)が、遺構でないと判断したものについては欠番とした。記述は、調査年次・区の順とし、概要から始め、井戸(SE)、土坑(SK)、性格不明遺構(SX)、溝(SD)、水田跡・畑跡(SN)、畔、小土坑(Pit)、掘立柱建物(SB)、柵(SA)、旧河道の順に記す。同一調査区内の同種遺構については、想定時期の別にかかわらず、概ね北から南へと順次記す。遺構の形態分類は和泉A遺跡での分類[加藤・荒川1999]を参考とし、平面形は円形・楕円形・方形・長方形・不整形の5種類に、断面形は台形状・箱状・弧状・半円状・U字状・V字状・漏斗状・階段状の7種類に分類した。今回の調査で検出した遺構総数は955基で、井戸(SE)2基、土坑(SK)36基、性格不明遺構(SX)31基、溝(SD)106基、水田18基(SN)・畔3基、小土坑(Pit)733基、掘立柱建物(SB)12基、柵(SA)10基、旧河道4基である。遺構の多くは遺物包含層Ⅳ層からⅤa層上面を切って掘り込まれていて、遺構内から古代の土器や中世の珠洲焼が出土している。遺構の時期識別は、主に出土遺物から行い、遺構の覆土、切り合い状況、分布状況等も加味した。遺構の計測値は別表1～3に示し、詳細な説明は一部省略している。

B 第32次(11)調査の遺構

1) 1区・2区の概要

第32次(11)調査1区・2区は今回報告する調査区の中で最も南に位置する。東には磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会が本発掘調査した細池遺跡(現細池寺道上遺跡)[小池ほか1994]が、南には農道拡幅に伴い新津市教育委員会が本発掘調査した細池遺跡(現細池寺道上遺跡)西地区[立木・渡辺ほか1998]が、北西には今回報告する第41次調査(13)3区が隣接する。1区・2区のⅤa層の標高は7.5m前後である。検出した遺構は1区が畔2基、旧河道1基、2区が畔1基、Pit2基、旧河道2基で、このうち旧河道1基(旧河道1)は1区と2区にまたがる。北側にある1区の調査面積は上端面積105.1m²・下端面積73.2m²、南側にある2区は上端面積115.1m²・下端面積54.2m²、合計の上端面積220.2m²・下端面積127.4m²である。

2) 1区の遺構各説

a 畔

畔1(図版12・14・18、写真図版21)

17L-7I8・9・13・14に位置する。遺構の時期は近世以降である。主軸方位はN13°Wである。残存する長軸は上・下端共に1.77m、短軸は上端0.26m、下端1.04m、高さは0.38mである。遺物は出土していない。

畔2 (図版 12・15・18、写真図版 21)

17L-8I24、9I4 に位置する。遺構の時期は近世以降である。主軸方位は N53° W である。残存する長軸は上・下端共に 1.78m、短軸は上端で 0.22m、下端 0.72m、高さは 0.27m である。遺物は出土していない。

b 旧 河 道

旧河道 1 (図版 12・15・16・18、写真図版 22)

17L-10I4・5・9・10・14・15、18L-11I4・5・9・10・14・15・19・20・25、215・10・15・20・25、2J1・6・11・16・21 に位置し、1区と2区にまたがる近世以降の旧河道である。旧河道2に切られる。確認面からの深さは 1.24m である。覆土は 21 層に分かれる。遺物は土師器無台椀と、17世紀代の唐津焼と肥前白磁が出土している (図版 111)。

3) 2 区 の 遺 構 各 説

a 畔

畔3 (図版 12・17・18、写真図版 21)

18L-4J11・16・17 に位置する。遺構の時期は近世以降である。旧河道1の埋没後に造成されている。主軸方位は N45° W である。残存する長軸は 2.36m、短軸は上端 0.36m、下端 0.54m、高さは 0.18m である。遺物は出土していない。1区の畔1・2と畔3の底面標高は 7.48 ~ 7.64m であることから同時期に造成された可能性が高い。旧河道1・2の埋没後、水田が造成されたと考えられる。

b 小 土 坑 (Pit)

Pit2 (図版 12・17・18、写真図版 21・22)

18L-5J17 に位置する古代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.48m、短軸 0.24m、深さ 0.08m を測る。覆土は単層で、礫が 2 点含まれていた。遺物は土師器小甕の小片が 1 点出土している。

Pit1 (図版 12・17・18、写真図版 21)

18L-5J21 に位置する古代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.42m・短軸 0.27m・深さ 0.06m を測る。覆土は単層で、礫が 1 点含まれていた。遺物は出土していない。

c 旧 河 道

旧河道 2 (図版 12・17・18、写真図版 22)

18L-2I25、3I5・10・15・20・25、3J1・6・11・16 ~ 18・21 ~ 23、4J1・2・3・6・11・12・16・17・21・22、5J1・2・6・7 に位置する近世以降の遺構である。確認面からの深さは 0.92m である。覆土は 22 層に分かれる。遺物は出土していない。川幅は推定 11m ほどである。

C 第 38 次 (12) 調査の遺構

1) 1 区 の 概 要

第 38 次 (12) 調査 1 区は、北に第 38 次 (12) 調査 2 区、北西に第 38 次 (12) 調査 3 区、北東に磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会が本発掘調査した寺道上遺跡 (現 細池寺道上遺跡) B 地点、南東に寺道上 (現 細池寺道上遺跡) A 地点 [小池ほか 1994] が隣接する。1 区の V a 層の標高は 7.7m ~ 7.3m で、南東から北西へ緩やかに傾斜している。検出した遺構は井戸 (SE) 1 基、土坑 (SK) 19 基、性格不明遺構 (SX) 22 基、溝 (SD) 73 基、水田 (SN) 2 基、小土坑 (Pit) 137 基、柵 (SA) 2 基、旧河道 1 基である。旧河道 1007 と関連遺構、SN1001 と SN1002 の間の狭い平坦地の SK・SX・Pit は古代、SN1001 と SN1002 および 2 基の SN と繋がる溝群や周辺の SK・SX・Pit は中世の遺構と考えられる。また、畑の畝間と考えられる範囲が調査区全体で 2,546 基確認された。調査面積は上端面積 4,428.05m²・下端面積 4,375.44m² である。

2) 1 区の遺構各説

a 井戸 (SE)

SE1105 (図版 19・29・30・33、写真図版 26)

12J-3I14・15 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.65m・短軸 0.60m・深さ 0.45m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

b 土坑 (SK)

SK1141 (図版 19・23・25・33、写真図版 27)

11J-7H15・20 に位置する中世の遺構である。平面形は東西に長い楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.62m・短軸 0.39m・深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK1064 (図版 19・23・33、写真図版 27)

11J-7G19 に位置する中世の遺構である。SD1056 と重複する。平面形は北西から南東に延びる楕円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.86m・短軸 0.44m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK1063 (図版 19・23・33、写真図版 27)

11J-7G22 に位置する中世の遺構である。SD1053 に切られる。平面形は東西に長い楕円形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.56m・短軸 0.50m・深さ 0.31m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK1082 (図版 19・23・24・33、写真図版 27)

11J-8F5・10、8G1 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.71m・短軸 0.63m・深さ 0.08m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK1081 (図版 19・24・33、写真図版 28)

11J-8F15 に位置する中世の遺構である。平面形は南北に長い楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.50m・短軸 0.38m・深さ 0.13m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK1083 (図版 19・24・33、写真図版 28)

11J-8G13・14・18・19 に位置する中世の遺構である。平面形は東西に長い楕円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.74m・短軸 0.58m・深さ 0.24m を測る。覆土は 4 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK1084 (図版 19・24・33、写真図版 28)

11J-9F6 に位置する中世の遺構である。平面形は北西から南東に延びる楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.70m・短軸 0.55m・深さ 0.15m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK1111 (図版 19・26・33、写真図版 28)

12J-1F3 に位置する中世の遺構である。SD1076 を切る。平面形は北西から南東に延びる楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.46m・短軸 0.29m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK1091 (図版 19・26・34、写真図版 29)

12J-1F6・7・11・12 に位置する中世の遺構である。SD1096 を切る。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.74m・短軸 0.65m・深さ 0.25m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は土師器無台碗が出土している。

SK1043 (図版 19・26・27・34、写真図版 29)

12J-1G19・20 に位置する古代の遺構である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.62m・短軸 0.61m・深さ 0.12m を測る。覆土は 4 層に分かれ、炭化物が全ての層に量の多少にかかわらず混入しているが、特に 3 層に多い。遺物は覆土から土師器長甕・小甕・鍋が出土している (図版 111)。

SK1033 (図版 19・26・27・34、写真図版 29)

12J-1G20 に位置する古代の遺構である。平面形は南北に長い楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.68m・短軸 0.48m・深さ 0.23m を測る。覆土は 6 層に分けられ、1 層に焼土、4 層に炭化物を多く含む。また土坑の中央部に長甕や鍋の破片が複数重なった状態で検出された。遺物は覆土から須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土している (図版 111・112)。西に隣接する SK1043 と南東に隣接する SK1034 は同時期に同様の目的で使用されたと考えられる。

SK1034 (図版 19・26・27・29・34、写真図版 29・30)

12J-1G20・25 に位置する古代の遺構である。SN1001 と接する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.54m・短軸 0.43m・深さ 0.14m を測る。覆土は 5 層に分けられ、1 層、2 層に炭化物を多く含む。遺物は須恵器横瓶、土師器小甕・壺が出土している (図版 112)。

SK1126 (図版 19・26・29・34、写真図版 30)

12J-2G7 に位置する古代の遺構である。平面形は南北に長い楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.58m・短軸 0.48m・深さ 0.07m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は土師器長甕が出土している。

SK1107 (図版 19・26・29・34)

12J-2G13 に位置する中世の遺構である。SD1103 と重複する。平面形は不整形、断面形は弧状である。規模は長軸 0.68m・短軸 0.25m・深さ 0.12m を測る。遺物は出土していない。

SK1205 (図版 19・26・29・34、写真図版 30)

12J-2G16 に位置する中世の遺構である。SN 内で見られる窪地に似た一群の南端にある。平面形は南北に長い楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.71m・短軸 0.40m・深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK1134 (図版 19・29・34、写真図版 30)

12J-2G23 に位置する中世の遺構である。SD1102 と重複する。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.80m・短軸 0.70m・深さ 0.24m を測る。覆土は 4 層に分けられる。遺物は土師器鍋が出土している。

SK1090 (図版 19・29・34、写真図版 31)

12J-3I12・13 に位置する古代の遺構である。平面形は北東から南西に延びる楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.55m・短軸 0.44m・深さ 0.14m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土している (図版 112)。

SK1204 (図版 19・29・30・35、写真図版 31)

12J-3I15 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.47m・短軸 0.46m・深さ 0.15m を測る。覆土は 4 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK1200 (図版 19・29・30・35、写真図版 31)

12J-3J11 に位置する中世の遺構である。平面形は南北に長い楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.63m・短軸 0.44m・深さ 0.07m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK1009 (図版 19・30・31・35・52、写真図版 31)

12K-3B14・15 に位置する中世の遺構である。SD1005 と重複する。平面形は北西から南東に延びる楕円形、断面形は U 字状である。規模は長軸 0.92m・短軸 0.55m・深さ 0.42m を測る。覆土は 5 層に分けられる。遺物は出土していない。

c 性格不明遺跡 (SX)

SX1138 (図版 19・23・25・35、写真図版 32)

11J-7I13 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.48m・短軸 0.25m・深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX1144 (図版 19・23・25・35、写真図版 32)

11J-7H19 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.33m・短軸 0.20m・深さ 0.09m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX1137 (図版 19・23・25・35、写真図版 32)

11J-8J1・6 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.71m・短軸 0.24m・深さ 0.14m を測る。覆土は 4 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX1149 (図版 19・24・25・35、写真図版 32)

11J-8H13・18 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.30m・短軸 0.27m・深さ 0.07m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX1150 (図版 19・24・25・35、写真図版 33)

11J-8H17・22 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.32m・短軸 0.25m・深さ 0.07m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX1161 (図版 19・24・25・35、写真図版 33)

11J-8H22 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.18m・深さ 0.06m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX1172 (図版 19・24・27・35、写真図版 33)

11J-10G5 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.37m・短軸 0.32m・深さ 0.12m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX1189 (図版 19・27・35、写真図版 33)

12J-11I1 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.54m・短軸 0.30m・深さ 0.11m を測る。覆土は 4 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX1197 (図版 19・27・35、写真図版 34)

12J-1H19 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.25m・短軸 0.19m・深さ 0.08m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX1190 (図版 19・27・36、写真図版 34)

12J-11I6 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.50m・短軸 0.45m・深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX1099 (図版 19・26・29・36、写真図版 34)

12J-1F24・25、2F4・5 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 2.38m・短軸 1.18m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX1239 (図版 19・26・29・36、写真図版 34)

12J-2G4 に位置する古代の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.88m・短軸 0.82m・深さ 0.17m を測る。覆土は単層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯、土師器無台碗・鍋が出土している (図版 112)。北東に隣接する SK1033・1034・1043 と同時期の遺構と考えられる。

SX1198 (図版 19・27・29・36、写真図版 35)

12J-2H4・5 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.48m・短軸 0.33m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX1236 (図版 19・29・36、写真図版 35)

12J-2I13・14・18・19 に位置する古代の遺構である。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 1.58m・短軸 1.28m・深さ 0.17m を測る。覆土は 5 層に分けられる。遺物は土師器長甕・鍋が出土している (図版 112)。

SX1127 (図版 19・26・29・36、写真図版 35)

12J-2G19・20 に位置する中世の遺構である。北側を攪乱により壊されている。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.92m・短軸 0.86m・深さ 0.12m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX1157 (図版 19・29・36、写真図版 35)

12J-2G24・25 に位置する中世の遺構である。Pit1158 を中に含む。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.59m・短軸 0.18m・深さ 0.13m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX1194 (図版 19・30・31・36・52、写真図版 36)

12K-3A11 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.30m・短軸 0.19m・深さ 0.08m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

d 溝 (SD)

溝は 73 基検出された。調査区西寄りに集まる溝は群分けし、SN1001 内、SN1002 内、テラス 1004 内の溝は各遺構の中で説明する。

① SD1003 (図版 19・23～25・27・30・31・36・37・40・50・52、写真図版 36・41)

11J-6・7G、7・8H、8～10I、10J、12J-1・2J、12K-2・3A・3B に位置する中世の遺構である。調査区の東側を南東から北西へ流れる溝で、11J-8H・8I で SN1001 に西壁を切られる。北端・南端とも調査区域外に延びている。主軸方位は N30° W ある。確認面での最大幅 2.46m・深さ 0.46m を測る。断面形は台形状である。覆土は 15 層に分かれ、堆積状況から自然堆積と考えられる。遺物は覆土中から古代の須恵器無台杯・壺、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土している (図版 112・113) が、中世の SN1001 の排水路の役割を果たしていると考えられるため、中世の遺構とした。

② 調査区北側溝群

11J-7G・8G・8H・9F・9G・10F にある SD1053・1054・1055・1056・1065・1066・1067・1068・1069・1071・1073 は蛇行する一つの遺構とも考えられ、SN1002 の排水路の役割とともに、これら溝群一体で耕作地となる可能性がある。また、これら溝群から延びるものや近くにあるものもここで説明する。各溝から須恵器・土師器の小破片が出土しているが、中世の遺構と考えられる。

SD1053 (図版 19・23・24・33・37、写真図版 27・36・37)

11J-7G21～24、8G3・4・9・10・14・15・19・20・23・24、9G3・4・7・8・12・13・17・18 に位置する中世の遺構である。北端は調査区域外に延び、南端は 11J-9G で SD1066 に繋がる。SD1054・1055・1056・1065 と列をなし曲線状に流れる。SK1063 を切る。主軸方位は N34° E である。確認面での残存長 24.96m・最大幅 0.67m・深さ 0.13m を測る。断面形は弧状である。覆土は 2 層に分かれる。遺物は土師器小甕が出土している。なお、SD1053・1054・1065 の北壁について自然科学分析を行った結果、イネのプラント・オパールが少量ながら検出されている (第 VI 章第 1 節 A 参照)。

SD1054 (図版 19・23・24・37、写真図版 36・37)

11J-7G16・17・18・21～24、8G4・5・10・15・19・20・24・25、9G3・4・8・13 に位置する中世の遺構である。北端は調査区域外に延び、南端は 11J-9G で SD1071 に繋がる。SD1053・1055・1056・1065 と列をなす。主軸方位は N30° E である。確認面での残存長 24.34m・最大幅 0.62m・深さ 0.14m を測る。断面形は V 字状である。覆土は 2 層に分けられる。遺物は土師器小甕が出土している。

SD1055 (図版 19・23・24・37、写真図版 37)

11J-7G16～18・23～25、8G4・5・10・15・20・24・25、9G3・4・8・9・13・18 に位置する中世の遺構である。北端は調査区域外に延び、南端は 11J-9G で SD1067 に繋がる。SD1053・1054・1056・1065 と列をなす。断面形は弧状である。主軸方位は N33° E である。確認面での残存長 27.11m・最大幅 0.59m・深さ 0.18m を測る。覆土は単層である。遺物は須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕が出土している (図版 113)。

SD1056 (図版 19・23～25・37、写真図版 37)

11J-7G17～20・24・25、8G5・10・15・20・25、9G4・5・8・9・13・14・18・19に位置する中世の遺構である。北端は調査区域外に延び、南端は11J-9GでSD1068に繋がる。SD1053・1054・1055・1065と列をなす。断面形は弧状である。主軸方位はN41°Eである。確認面での残存長27.64m・最大幅0.52m・深さ0.21mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕・小甕が出土している(図版113)。

SD1065 (図版 19・23～25・37、写真図版 37)

11J-7G12～14・17～20・25、7H21、8G5・20・25、8H1・6・11・16・21、9G4・5・9・14・19に位置する中世の遺構である。北端は調査区域外に延び、南端は11J-9GでSD1069に繋がる。SD1053・1054・1055・1056と列をなす。断面形は半円状である。主軸方位はN34°Eである。確認面での残存長29.99m・最大幅0.78m・深さ0.27mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

SD1066 (図版 19・24・26・37・38、写真図版 37・38)

11J-9G11・16、9F18・19～23、10F2・3・6・7に位置する中世の遺構である。SD1071・1067・1068・1069と列をなす。北西部でSN1080を囲むSD1070・1073と、西部でSD1074と繋がる。断面形は弧状である。主軸方位はN28°Eである。確認面での長軸13.57m・最大幅0.60m・深さ0.12mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

SD1067 (図版 19・24・37・38、写真図版 37)

11J-9G16・17・18、に位置する中世の遺構である。SD1066・1071・1068・1069と列をなす。断面形は弧状である。主軸方位はN75°Eである。確認面での長軸4.81m・最大幅0.38m・深さ0.05mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1068 (図版 19・24・37・38、写真図版 37)

11J-9G16～18、9F19・20に位置する中世の遺構である。SD1066・1071・1067・1069と列をなす。断面形は弧状である。主軸方位はN79°Eである。確認面での長軸7.31m・最大幅0.38m・深さ0.18mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

SD1069 (図版 19・24・37・38、写真図版 37)

11J-9F24・25、9G21～24に位置する中世の遺構である。SD1066・1071・1067・1068と列をなす。SN1002内のSD1020と東側で繋がる。断面形は弧状である。主軸方位はN79°Eである。確認面での長軸8.64m・最大幅0.80m・深さ0.23mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は土師器無台椀・小甕が出土している(図版113)。

SD1071 (図版 19・24・26・38、写真図版 38)

11J-9F18～20・23、10F3・6・7・8に位置する中世の遺構である。SD1066・1067・1068・1069と列をなす。断面形は弧状である。主軸方位はN21°Eである。確認面での長軸9.39m・最大幅0.68m・深さ0.22mを測る。覆土は3層に分けられる。遺物は軽石製石製品が出土している(図版141)。

SD1072 (図版 19・24・26・38、写真図版 38)

11J-9F19・23・24、10F3・4・8・11・12・13に位置する中世の遺構である。SD1066・SD1071と列をなし、北東端でSD1069と繋がる。断面形は弧状である。主軸方位はN21°Eである。確認面での長軸9.60m・最大幅0.94m・深さ0.13mを測る。覆土は3層に分けられる。遺物は土師器小甕が出土している。

SD1085 (図版 19・24・38・42、写真図版 38・45)

11J-9E24・25に位置する中世の遺構である。南西端部でSD1074と繋がる。主軸方位はN58°Eである。断面形は弧状である。確認面での長軸1.55m・最大幅0.53m・深さ0.06mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1086 (図版 19・24・39)

11J-9F1・6 に位置する中世の遺構である。北側は調査区域外へ延びる。主軸方位は N23° E である。確認面での長軸 3.50m・最大幅 0.60m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

③ 調査区西側溝群

11J-9E・10E・10F、12J-1F・1G・2F・2G・3G・3H にある SD1074・1075・1076・1153・1102・1151・1152 は調査区の西側を南東から北西へ流れる溝で、SN1001・1002 の導水路の役割を果たしたと考えられる。また、これら溝群から延びるものや近くにあるものもここで説明する。各溝から須恵器・土師器の小破片が出土しているが、中世の遺構と考えられる。

SD1074 (図版 19・24・26・38、写真図版 38・39)

11J-10F1・6、10E4・5・10、9E18・23・24 に位置する中世の遺構である。北側は調査区域外に延び、東側で SD1085、南端部で SD1066 に繋がる。主軸方位は N46° W である。断面形は弧状である。確認面での長軸 9.75m・最短幅 0.45m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1075 (図版 19・24・26・38・39、写真図版 39)

11J-9E23・24、10E3・4・5・10 に位置する中世の遺構である。北側は調査区域外に延び、南端部で SD1094 を切り、SD1076 に繋がる。主軸方位は N47° W である。断面形は台形状である。確認面での長軸 7.36m・最大幅 0.29m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1076 (図版 19・24・26・38・39、写真図版 39)

11J-9E18・23・24、10E4・5・10、10F6・11・16・17・22・23、12J-1F2・3・4・8・9・14・15・19・20・25、1G21 に位置する中世の遺構である。北側は調査区域外に延び、南端部で SD1102 に繋がる。主軸方位は N34° W である。断面形は弧状である。確認面での長軸 27.08m・最大幅 0.95m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は越前焼大甕の破片が出土している (図版 113)。

SD1153 (図版 19・26・29・39、写真図版 39)

12J-2G1・6・7・11・12・17・22・23、3G3・4・9・14・15 に位置する中世の遺構である。SD1102 と平行し、12J-1F5、2G1 で合流する。断面形は弧状である。確認面での長軸 17.0m・最大幅 0.50m・深さ 0.16m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1102 (図版 19・26・29・39、写真図版 39)

12J-2G1・2・6・7・12・17・18・22・23、3G3・4・9・10・14・15・20 に位置する中世の遺構である。北端は SD1076 に、南端は SD1151 に繋がる。主軸方位は N36° W である。断面形は弧状である。確認面での長軸 23.04m・最大幅 0.81m・深さ 0.16m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が 1～2 層、珠洲焼甕が 1 層から出土 (図版 113) している。

SD1101 (図版 19・24・26・39、写真図版 39)

11J-10E10・15 に位置する中世の遺構である。北側を SD1075・1076 に、南西端を SD1094 に切られる。主軸方位は N45° E である。断面形は弧状である。確認面での長軸 1.85m・最大幅 0.85m・深さ 0.15m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1094 (図版 19・24・26・39、写真図版 39・40)

11J-10E13～15・18・19 に位置する中世の遺構である。11J-10E19 で南に屈曲して SD1095 に繋がる。断面形は弧状である。主軸方位は N28° W である。確認面での最大幅 1.43m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1095 (図版 19・26・39、写真図版 40)

11J-10E19・20・24・25、10F21、12J-1E5、1F1・2・7・12 に位置する中世の遺構である。SD1096 を切り、南端で SD1097・1092 に繋がる。主軸方位は N46° W である。断面形は弧状である。確認面での長軸

9.32m・最大幅 0.82m・深さ 0.10m を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD1096 (図版 19・26・34・39、写真図版 29・40)

12J-1F1・2・6・7・11・12 に位置する中世の遺構である。SD1095・SK1091 に切られる。主軸方位は N2° E である。断面形は弧状である。確認面での長軸 3.18m・最大幅 0.57m・深さ 0.04m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1097 (図版 19・26・39・40、写真図版 40)

12J-1F12・16・17・21・22 に位置する中世の遺構である。北端で SD1095・1092 と繋がり、南端は調査区域外へ延びる。主軸方位は N14° E である。断面形は弧状である。確認面での長軸 4.29m・最大幅 0.59m・深さ 0.23m を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

SD1092 (図版 19・26・40、写真図版 40)

12J-1F12・13・14 に位置する中世の遺構である。南東側で SD1098 を切り、SD1076 に繋がる。主軸方位は N52° W である。断面形は弧状である。確認面での長軸 5.53m・最大幅 0.50m・深さ 0.11m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は土師器小甕が出土している。

SD1098 (図版 19・26・40、写真図版 40)

12J-1F18・19 に位置する中世の遺構である。北東側を SD1092 に切れ、南西側を攪乱に壊される。主軸方位は N37° E である。断面形は弧状である。確認面での残存長 2.26m・最大幅 0.70m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1100 (図版 19・26・39・40、写真図版 39・40)

12J-1F18・19・23 に位置する中世の遺構である。南西側を攪乱に壊される。主軸方位は N48° E である。断面形は弧状である。確認面での残存長 2.73m・最大幅 1.00m・深さ 0.04m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1207 (図版 19・26・40、写真図版 40)

12J-1F23、2E5、2F3 に位置する中世の遺構である。北東側が攪乱に壊され、南西側が調査区域外に延びる。主軸方位は N29° E である。断面形は弧状である。確認面での残存長 0.97m・最大幅 1.13m・深さ 0.12m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1206 (図版 19・26・40、写真図版 40)

12J-2F3 に位置する中世の遺構である。北東側が攪乱に壊され、南西側が調査区域外に延びる。主軸方位は N28° E である。断面形は弧状である。確認面での残存長 0.77m・最大幅 0.47m・深さ 0.47m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1104 (図版 19・26・29・39、写真図版 39)

12J-2G12・13・18・19・23 に位置する中世の遺構である。SD1103 と列をなす。主軸方位は N22° W である。断面形は弧状である。確認面での長軸 6.55m・最大幅 0.50m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は土師器長甕・鍋が出土している。

SD1103 (図版 19・26・29・39、写真図版 39)

12J-2G8・13・14・19・24、3G4 に位置する中世の遺構である。SD1104 と列をなす。主軸方位は N24° W である。断面形は弧状である。確認面での長軸 7.14m・最大幅 1.00m・深さ 0.15m を測る。覆土は単層である。遺物は土師器無台椀・長甕が出土している (図版 113)。

SD1112 (図版 19・29・39、写真図版 39)

12J-3G5・10 に位置する中世の遺構である。南西側が攪乱に壊される。断面形は V 字状である。確認面での最大幅 0.36m・深さ 0.17m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

e 水 田 跡 (SN)

磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会が本発掘調査した細池遺跡・寺道上遺跡(現 細池寺道上遺跡)〔小池ほか1994〕において検出された「凹地遺構」のうち、「周溝を伴う不定形の」A類と同様の遺構である。遺構の性格は、大正末年から昭和20年代の耕地整理前に新津一帯に見られた「堀田」に先行する形態の水田(掘込田)と考えられている。検出した全ての水田跡(SN)の時期は、SN1002から珠洲焼が出土しており中世とした。なお、覆土中には須恵器片・土師器片が多く含まれるが、これらはIV層、あるいは古代の遺構に含まれていたものが、水田造成や整地の際に紛れ込んだものと考えられる。以下SN1001とSN1002について内部の溝とともに説明する。

① SN1001 と内部の溝

SN1001 (図版19・24～27・29・40・41・42、写真図版41・42)

11J-8H・8I・9H・9I・10H・10G、12J-1G・1H・2H・3H・3Iに位置する中世の遺構である。平面形は南北に長い不整形を呈する。北端部でSD1003、南西端SD1152と繋がる。東西の壁際には一部途切れる箇所もあるが周溝が1～2条掘られ、内部は南端部を除き底面に形態、配置が不規則な凹凸が多数ある。11J-10H南半から12J-11H北半あたりを境に遺構を南北に2分できそうであるが、セクションや平面での観察で明確に分離できる所見が得られなかったため一つの遺構とした。確認面での長軸約56m、幅3～7m、底面までの深さ0.1～0.3m、底面標高は7.2～7.4m前後でほぼ平坦である。凹凸の深さは0.1～0.3mを測る。面積は342.06m²である。覆土は3層に分けられる。そのうち2層は褐灰色シルトでVa層由来と考えられる明黄褐色シルトの粒子が多く散在する。覆土には礫が数点含まれていた。3層は凹凸に含まれる黒褐色シルト層である。なお、セクションベルトCとEから採取した土壌について自然科学分析を行った結果、イネのプラント・オパールが少量ながら検出された(第VI章第1節A参照)。遺物は須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・長頸壺・短頸壺・鉢・横瓶、土師器有台皿・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗、砥石・軽石製石製品が出土している(図版113・114・141)。以下では、SN1001内の溝を説明する。

SD1060 (図版19・24・25)

SD1060・1059・1058・1048・1046は北半西壁沿いの周溝である。SD1060は11J-8H22・23、9H2に位置する中世の遺構である。断面形は弧状である。確認面での長軸4.23m・最大幅0.19m・深さ0.06mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1059 (図版19・24・25)

11J-9H7・12に位置する中世の遺構である。断面形は弧状である。確認面での長軸2.08m、最大幅0.26m、深さ0.07mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1058 (図版19・24～27・40・41、写真図版42)

11J-10H1・6・7・12・16・17・21に位置する中世の遺構である。断面形は弧状である。確認面での長軸8.60m・最大幅0.38m・深さ0.07mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1048 (図版19・26・27・41、写真図版42)

11J-10H12・16・17・21、10G25に位置する中世の遺構である。断面形は弧状である。確認面での長軸4.55m・最大幅0.24m・深さ0.07mを測る。覆土は単層である。遺物は土師器長甕・小甕が出土している。

SD1046 (図版19・26・27・41、写真図版43)

12J-1G5・10に位置する。断面形は弧状である中世の遺構である。確認面での長軸2.09m・最大幅0.29m・深さ0.28mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1061 (図版19・25・27)

SD1061・1062・1052・1151・1152・1050は北半東壁の周溝である。SD1061は11J-9H5・10・15・20、9I1に位置する中世の遺構である。断面形はU字状である。確認面での長軸6.77m・最大幅0.22m・深

さ 0.24m である。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1062 (図版 19・25・27・40、写真図版 43)

11J-9H19・20・24・10H4 に位置する中世の遺構である。断面形は半円状である。確認面での長軸 4.50m・最大幅 0.13m・深さ 0.21m を測る。覆土は単層である。遺物は土師器長甕が出土している。

SD1052 (図版 19・27・41、写真図版 43)

11J-10H4・9・10・14・15・18・19・23、12J-1H3 に位置する中世の遺構である。断面形は台形状である。確認面での長軸 7.20m・最大幅 0.50m・深さ 0.18m を測る。覆土は単層である。遺物は土師器鍋が出土している。

SD1151 (図版 19・29・42、写真図版 41・43)

12J-3G20、3H16・21 に位置する古代の遺構である。SD1152 と列をなし、南端部は調査区域外へ延びる。主軸方位は N44° W である。断面形は台形状である。確認面での長軸 3.98m・最大幅 0.49m・深さ 0.41m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1152 (図版 19・29・41・42、写真図版 43)

12J-3G20、3H16・21・22 に位置する中世の遺構である。南端部は調査区域外へ延びる。主軸方位は N42° W である。断面形は弧状である。確認面での長軸 4.30m・最大幅 0.32m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1050 (図版 19・27・41、写真図版 42)

11J-10H18・19・23、12J-1H3 に位置する中世の遺構である。断面形は弧状である。確認面での長軸 4.67m・最大幅 0.33m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1049 (図版 19・26・27・41、写真図版 42)

SD1049・1047・1045 は中央部に位置する小溝である。SD1049 は 11J-10H17・18 に位置する中世の遺構である。断面形は弧状である。確認面での長軸 1.20m・最大幅 0.21m・深さ 0.05m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1047 (図版 19・26・27・41、写真図版 42)

11J-10H21 に位置する中世の遺構である。断面形は弧状である。確認面での長軸 0.87m・最大幅 0.25m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1045 (図版 19・26・27)

12J-1G5、1H1・6 に位置する中世の遺構である。断面形は弧状である。確認面での長軸 1.78m・最大幅 0.26m、深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1044 (図版 19・26・27・41、写真図版 43)

12J-1H1・2・3・6・7・8 に位置する中世の遺構である。南半を区切る溝の可能性がある。主軸方位は 12J1H2・3 で N55° E から N14° W- に変わる。断面形は弧状である。確認面での長軸 7.13m・最大幅 0.43m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は須恵器鉢・その他が出土している (図版 115)。

SD1035 (図版 19・26・27・29・41)

12J-1G15・20・25、1H6・11・16・21、2G5、2H1・6・11・16・21 に位置する中世の遺構である。南半西壁の周溝で、平行する SD1036 を切る。規模は残存長 15.49m・最大幅 0.47m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は土師器無台椀・長甕が出土している。

SD1036 (図版 19・26・27・29・41)

12J-1H6・11・16・21、2H1・6・11・12・16・17・21・22 に位置する中世の遺構である。SD1037 と対をなす。確認面での残存長 12.28m・最大幅 1.10m・深さ 0.03m を測る。覆土は黒色粘質シルトの単層で、SN1001 下層や周溝の土壌と様相が異なる。底面の凹凸は顕著である。覆土について植物珪酸体分析を行った結果、イネのプラント・オパールが少量検出され、花粉分析では多くの栽培植物が含まれるアブラナ科が認め

られた(第VI章第1節A)。遺物は、須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土している(図版113・115)。

SD1037 (図版19・26・27・29・41)

12J-1H7・8・12・13・17・18・22・23、2H2・3・7・8・12・13・18に位置する中世の遺構である。確認面での長軸14.87m・短軸1.19m・深さ0.04mを測る。覆土は黒色粘質シルト単層で、底面の凹凸は顕著である。遺物は須恵器有台杯・大甕、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗が出土している(図版114・115)。

SD1038 (図版19・27・29・41)

12J-1H・8・13・18・23、2H3・8・13・18・19・23・24、3H4・5・10、3I6に位置する中世の遺構である。SD1039を切る。確認面での長軸22.18m・最大幅0.27m・深さ0.10mを測る。覆土は単層である。SD1039とは併存せず、SD1039が埋まった後にSD1038が掘られた可能性がある。遺物は須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕が出土している(図版113・115)。

SD1039 (図版19・27・29)

12J-1H3・8・13・18・19・23、2H3・8・13・18・19・24・25、3H4・5・10、3I6に位置する中世の遺構である。SD1038に切られる。確認面での長軸25.45m・最大幅0.30m・深さ0.03mを測る。覆土は単層である。遺物は須恵器杯蓋、土師器長甕・小甕、黒色土器無台碗が出土している(図版115)。

SD1181 (図版19・29・41)

SD1181・1110・1154・1182は南西端の周溝、あるいは関連する溝である。SD1181は12J-3H7・12・17に位置する中世の遺構である。確認面での残存長3.70m、最大幅0.33m、深さ0.10mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1110 (図版19・29・41、写真図版43)

12J-3H17・18・23・24・25に位置する中世の遺構である。南端部は調査区域外に延びる。断面形は階段状である。確認面での残存長5.29m・最大幅0.48m・深さ0.10mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD1154 (図版19・29・41・42、写真図版43)

12J-3H16・17に位置する中世の遺構である。確認面での長軸3.82m・最大幅0.35m・深さ0.10mを測る。断面形は弧状である。覆土は単層である。遺物は土師器長甕が出土している(図版115)。

SD1182 (図版19・29・41・42、写真図版43)

12J-3H16・17・22・23に位置する中世の遺構である。断面形は半円状である。確認面での長軸4.26m・最大幅0.67m・深さ0.12mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は土師器小甕が出土している。

② SN1002と内部の溝

SN1002 (図版19・24・26・29・42、写真図版44)

11J-9G・10G・10F、12J-1F・1G・2Gに位置する中世の遺構である。平面形は北端と南端が窄まる楕円形を呈する。北端部でSD1069、南端部でSD1102・1104・1103と繋がる。溝は東西の壁際に1条ずつ、中央部を南北に貫く1条がある。内部は底面に形態、配置が不規則な凹凸が多数ある。確認面での長軸22.66m・短軸8.40m・深さ0.24mを測る。底面標高は7.2～7.3m前後でほぼ平坦である。面積は161.60m²である。覆土は4層に分かれる。覆土には礫が数点含まれていた。なお、セクションベルトAから採取した土壌について自然科学分析を行った結果、イネのプラント・オパールが少量ながら検出された(第VI章第1節A参照)。遺物は須恵器無台杯・有台杯・短頸壺・鉢、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が2～4層、珠洲焼片口鉢が2層から出土している(図版115)。以下では、SN1002内の溝を説明する。

SD1021 (図版19・24・26・29・42、写真図版44)

11J-9G22・23、10G1・2・3・6、10F10・15・20・25、12J-1F5・10・15・20、1G6・11・16・21、2G1・2に位置する中世の遺構である。SN1002西壁沿いの周溝である。断面形は弧状である。確認面での長軸24.47m・最大幅0.74m・深さ0.08mを測る。覆土は5層に分けられる。遺物は出土していない。

SD1020 (図版19・24・26・29・38・42、写真図版37・44)

11J-9G23、10G3・8・13・17・18・22・23、12J-1G2・7・12・17・22、2G2・7に位置する中世の遺構である。北端でSD1069と繋がる。断面形は弧状である。確認面での長軸23.51m・最大幅1.00m・深さ0.06mを測る。覆土は2層に分かれる。遺物は土師器小甕が出土している。

SD1019 (図版19・24・26・29・37・42、写真図版44)

11J-9G19、10G4・5・9・10・14・15・19・24、12J-1G3・4・8・9・13・14・18・23、2G3・7・8・12に位置する中世の遺構である。SN1002東壁沿いの周溝である。断面形は弧状である。確認面での長軸27.06m・最大幅0.99m・深さ0.11mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕が出土している(図版115)。

③ SN1080・SN1088と周辺の溝(図版19・24・38・42、写真図版38・44・45)

SN1080 (図版19・24、写真図版44)

11J-9E20・25、11J-9F11・16～18・21～23に位置する中世の遺構である。北側をSD1070、南側をSD1073、東側をSD1066に囲まれる。平面形は東西に長い隅の丸い長方形である。規模は長軸7.00m、短軸2.30mで、全体には掘り込まれておらず、SNに見られるのと同様の窪みがある。窪みの一つで自然科学分析を行った結果、イネのプラント・オパールが少量ながら検出されている(第VI章第1節B参照)。これらの点から溝に囲まれたこの範囲が何らかの耕作地であった可能性がある。遺物は出土していない。

SD1070 (図版19・24・38・42、写真図版38・45)

11J-9E15・19・20、9F11・16～18に位置する中世の遺構である。SD1066・1073とともに繋がってできた範囲をSN1080とした。断面形は弧状である。主軸方位はN80°Eである。確認面での長軸8.55m・最大幅0.49m・深さ0.13mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は土師器小甕が出土している。

SD1073 (図版19・24・38・42、写真図版38・45)

11J-9E20・25、9F21・22、10F2に位置する中世の遺構である。北端部でSD1070、南西部でSD1085、東端部でSD1066と繋がる。断面形は弧状である。主軸方位はN79°Eである。確認面での長軸6.85m・最大幅0.61m・深さ0.16mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

SN1088 (図版24、写真図版45)

11J-9E24・25、9F21・22、10E5、10F1・2・6・7に位置する中世の遺構である。北側をSD1073、東側をSD066、北西側をSD1085、南西側をSD1074に囲まれる。平面形は東西に長い楕円形で、掘り込みはない。規模は長軸5.26m・短軸3.33mである。遺物は出土していない。

④ 旧河道埋没後に造成された掘込田(図版28・31・49、写真図版8)

調査区南東部、旧河道1007の埋没後に造成されたと考えられる掘込田が4基以上検出された。平面形は長方形、幅は1.4～5.0mのものがある。覆土は1～4層に分かれる。近世以降の「堀田」と考えられる。

f 畑跡(SN)

1区では掘り込みをもつ遺構を除く調査区全域で畑の跡と考えられる畝間痕跡状の範囲を多数検出した。この畝間痕跡状の範囲は通常畝間の底面とする部分よりも下の部分が水分の浸透などにより粘性が強くなり、またやや光沢をもつことで判別できたものである。色調はV層と同じであることから掘削は困難であったため、範囲のみの確認となった。これら畝間状痕跡は形態や配列から7ブロックに分けた。遺物の出土はないが、I～VIブロックはSN1001・1002と周囲の溝群と平行するように配置されていることから中世、VIIブロックは古代の旧河道内のテラス1004にあることから古代とした。以下、ブロック別に説明する。

① IブロックA～C (第10図、第4表、図版20)

南北に長いSD1003と調査区南東端の旧河道1007の間、11J-5H、6G・6H・6I、7G・7H・7I・7J、8H・8I・8J、9I・9J、10J、11K-8～10A、12J-1J・2J、12K1A・2Aに位置する中世の遺構である。各畝間痕の方位と畝群の形態などからA～C畝に分けた。IAはIブロックの最北に位置する。畝間痕は92条からなり、長さは0.5m～2.9m、畝幅0.2m～0.6mで、長軸は南北方向を向く。1条から10条を1群とする14群に分けられ、畑の形状は東西に長い撥形1基、短冊形9基、不明4基となる。IBはIブロックの北半に位置する。畝間痕は734条からなり、長さは0.4m～3.2m、畝幅は0.2m～0.5mで、南北方向や北西から南東を向く。2条から20条を1群とする70群に分けられ、畑の形状は東西に長い撥形19基、短冊形46基、不明5基からなる。同一群内やIIIブロックBとの切り合いが見られる。ICはIブロックの南半に位置する。畝間痕は140条からなり、長さは0.5m～5.0m、畝幅は0.2m～0.5mで北西から南西方向を向く。3条から24条を1群とする17群に分けられ、畑の形状は南西から北東に長い撥形3基、短冊形13基、不明1基からなる。IIブロックAとの切り合いが見られる。

② IIブロックA・B (第10図、第4表、図版20)

SN1001とSD1003の間、11J-9H・9I、10H・10I・10J、12J-1H・1I・1J、2H・2I・2J、3H・3I・3J、12K-2A、3A・3Bに位置する中世の遺構である。各畝間痕の方位と畝群の形態などからA・Bに分けた。IIAはIIブロックの北側から中央にかけて位置する。畝間痕は478条からなり、長さは0.4m～7.2m、畝幅は0.2m～0.8mである。方向は南北、北西から南東、南西から北東方向を向くもののほか、弧状を呈するものが見られる。1条から32条を1群とする55群に分けられ、畑の形状は東西に長い撥形22基、短冊形24基、扇形4基、不明5基からなる。同一群内においては切り合いが見られ、また、複数方向に交差する畝間痕も見られる。IIBはIIブロックの南西部に位置する。畝間痕は287条からなり、長さは0.4m～4.4m、畝幅は0.2m～0.6mで、方向は南北、あるいは北西から南東方向を向く。3～25条を1群とする30群に分けられ、畑の形状は東西、あるいは南西から北東に長い撥形17基、短冊形11基、不明2基からなる。IIAと交差や切り合いが見られる。

③ IIIブロックA～C (第10図、第4表、図版20)

SN1001と北側溝群・SN1002の間、11J-7G・7H、8G・8H、9G・9H、10G・10H、12J-1G、2G・2H、3G・3Hに位置する中世の遺構である。各畝間痕の方位、畝群の形態や分布状況からA～Cに分けた。IIIAはIIIブロックの北端に位置する。畝間痕は54条からなり、長さは0.9m～2.6m、畝幅は0.2m～0.3mである。方向は南北方向と北西から南東方向のものが交差する。1～7条を1群とする10群に分けられ、畑の形状は撥形4基、短冊形5基、不明1基からなる。IIIBはIIIブロックの北側に位置する。畝間痕は158条からなり、長さは0.7m～7m、畝間幅は0.1m～0.4mである。方向は南北方向、東西方向のものが交差する。1～21条を1群とする19群に分けられ、畑の形状は撥形14基、短冊形3基、扇形1基、不明1基からなる。扇形のIIIB2は、SD1003を越えてIBに延びている。IIICはIIIブロックの南半に位置する。畝間痕は186条からなり、長さは0.4m～3.6m、畝間幅は0.1m～0.5mである。方向は南北方向、南西から北東方向、北西から南東方向があり、交差する部分がある。2～8条を1群とする37群に分けられ、畑の形状は撥形17基、短冊形14基、不明6基からなる。

④ IVブロック (第10図、第4表、図版20)

東側をSN1002、北側から西側をSD1069・1072、南西側をSD1076に囲まれた範囲、11J-9F・G、10F・G、12J-1Fに位置する中世の遺構である。畝間痕は79条からなり、長さは0.4m～2.3m、畝間幅は0.2m～0.6mである。方向は南北方向、南西から北東方向、北西から南東方向がある。1～10条を1群とする14群に分けられ、畑の形状は東西や南西から北東に長い撥形4基、短冊形7基、不明3基からなる。群内においては交差し切り合いが見られる。



第10図 細池寺道上遺跡第38次調査1区畝間痕ブロック図 (S = 1/600)

第3節 遺 構

第4表 第38次調査1区畝間痕一覽(1)

Table with 3 columns of data. Each column contains a list of survey points (畑No., 畝間条数, 畑区分) and their corresponding measurements (最小長, 最大長, 最大間隔) and directions (方位). The table is organized into three main sections, with a total of 140+ points listed.

第5表 第38次調査1区畝間痕一覧(2)

畑No.	畝間 条数	畑区分	最少長	最大長	最大 畝幅	方位
VC1	3	短冊形	1.1m	1.2m	0.3m	N-45-W
VC2	6	短冊形	0.9m	2.1m	0.4m	N-49-W
VC3	4	短冊形	1.1m	1.3m	0.3m	N-55-W
VC4	3	-	1.6m	2.1m	0.3m	N-52-W
VC5	4	短冊形	1.9m	2.0m	0.3m	N-52-W
VC6	2	-	-	1.1m+	0.4m	N-57-W
小計	22	-	-	-	-	-
VI1	1+	-	-	-	-	N-13-W
VI2	7	短冊形	1.7m	2.3m	0.4m	N-8-W
VI3	4+	-	-	-	0.3m	N-5-W
VI4	10	撥形	1.8m	2.2m	0.3m	N-6-W
VI5	5	(短冊形)	1.0m	1.6m+	0.2m	N-4-E~N-15-W
VI6	4	(短冊形)	-	1.6m	0.2m	N-7-W
VI7	3	(短冊形)	1.4m	2.2m+	0.3m	N-17-W
VI8	2	-	-	2.5m+	0.2m	N-13-W
VI9	4	(短冊形)	2.0m	2.3m	0.2m	N-13-W
VI10	4	撥形	0.9m	1.3m+	0.3m	N-6-W
VI11	7	撥形	1.1m	1.9m+	0.3m	N-3-E
VI12	7	撥形	1.7m	2.1m	0.2m	N-6-W
VI13	4	-	-	1.7m+	0.2m	N-13-E
VI14	5	撥形	1.1m	1.8m+	0.2m	N-10-E
VI15	3	-	-	1.6m+	0.2m	N-7-W
VI16	1+	-	-	0.8m	-	N-30-W
VI17	1+	-	-	0.6m	-	N-10-E
VI18	2	-	1.0m	1.2m	0.4m	N-40-W
VI19	5+	短冊形	1.1m	1.3m	0.3m	N-40-W
VI20	6	短冊形	1.4m	1.7m	0.3m	N-52-W
VI21	6+	短冊形	1.3m	1.7m	0.3m	N-42-W
VI22	6+	短冊形	0.3m	2.1m	0.2m	N-41-W
VI23	4	短冊形	1.1m	1.3m	0.3m	N-45-W
小計	101+	-	-	-	-	-

⑤ VブロックA～C(第10図、第4・5表、図版20)

北側から東側を北側溝群、南西側をSD1074に囲まれた範囲、11J-7F・7G、8F・8G、9E・9F・9G、10E・10Fに位置する中世の遺構である。各畝間痕の方位、畝群の形態や分布状況からA～Cに分けた。VAはVブロックの北東部に位置する。畝間痕は195条からなり、長さは0.4m～2.2m、畝間は0.3m～0.7mである。方向は東西方向が多い。3～23条を1群とする23群に分けられ、畑の形状は南北に長い撥形9基、短冊形13基、不明1基からなる。VBはVブロック南西隅、11J-9E5・9・10・14・15・18・19・24、9F1に位置する。22条からなり、長さは0.5m～1.6m、畝間は0.3m～2.1mである。方向は北西から南東方向である。2～5条を1群とする6群に分けられ、畑の形状は南西から北東に長い撥形2基、短冊形2基、その他2基からなる。西南方向に畝が広がり、VB5群とVB6群の切り合いが見られる。VCはVブロックの南端、11J-

9E25、9F21・22、10E5、10F1・2・6に位置する。22条からなり、長さは0.9m～2.1m、畝間は0.3m～0.4mである。方向は北西から南東方向である。2～6条を1群とする6群に分けられ、畑の形状は短冊形4基、不明2基からなる。長さは0.3m～2.5m、畝間は0.2m～0.4mである。

⑥ VIブロック(第10図、第5表、図版20)

調査区の西端部、11J-10E、12J-1E・F、2F・Gに位置する中世の遺構である。畝間痕は101条からなり、方向は南北方向と北西から南東方向である。1～10条を1群とする23群に分けられ、畑の形状は撥形5基、短冊形16基、不明8基からなる。長さは0.3m～2.5m、畝間は0.2m～0.4mである。群内においては、切り合いが複数見られる。

⑦ VIIブロック(第10図、図版20)

旧河道1007の西側、テラス1004内の11K-8A・9A・9B・10J・10A、12J-1J、12K-1A・2A・2B・3A・3Bに位置する古代の遺構である。方向は旧河道西岸とテラスに平行する。畝間痕は182条からなるが、一定の長さのある畝が途切れた状況で検出した可能性がある。4～16条を1群とする24群に分けられる。畑の形状は概ね短冊形であったと考えられる。畝上部から畝間下の土壌について自然科学分析を行った結果、花粉分析ではイネ科、ヨモギ属が比較的多く産出し、植物珪酸体分析ではイネ機動細胞珪酸体が多く産出した(第VI章第1節B参照)。

g 小土坑(Pit)

Pit1143(図版19・23・43、写真図版46)

11J-6H8に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸0.21m・短軸0.19m・深さ0.19mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1142(図版19・23・43、写真図版46)

11J-6H14に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸0.19m・短軸0.17m・深さ0.21mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1140(図版19・23・43、写真図版46)

11J-7I2に位置する中世の遺構である。平面形は方形、断面形は台形状である。確認面での長軸0.31m・短軸0.24m・深さ0.17mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1139(図版19・23・25・43、写真図版47)

11J-7I7・8に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸0.22m・

短軸 0.22m・深さ 0.10m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1145 (図版 19・23・43、写真図版 47)

11J-7I10 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.16m・短軸 0.15m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1146 (図版 19・23・25・43、写真図版 47)

11J-7J6 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.21m・深さ 0.11m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1224 (図版 19・23・25・43、写真図版 47)

11J-7I12・17 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.17m・短軸 0.17m・深さ 0.12m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1124 (図版 19・23・25・43、写真図版 48)

11J-7I18 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.17m・深さ 0.05m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1136 (図版 19・23・25・43、写真図版 48)

11J-7I20 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は箱状である。確認面での長軸 0.18m・短軸 0.14m・深さ 0.13m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1135 (図版 19・23・25・43、写真図版 48)

11J-7J16 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.23m・短軸 0.20m・深さ 0.07m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1123 (図版 19・23・25・43、写真図版 48)

11J-8I1 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.17m・短軸 0.16m・深さ 0.12m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1122 (図版 19・23・25・43、写真図版 49)

11J-8I2 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.21m・短軸 0.15m・深さ 0.10m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1121 (図版 19・23・25・44、写真図版 49)

11J-8I2 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.19m・深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1125 (図版 19・23・25・44、写真図版 49)

11J-8I4 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.19m・深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1148 (図版 19・24・25・44、写真図版 49)

11J-8H8・13 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.25m・短軸 0.20m・深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1119 (図版 19・23・25・44、写真図版 50)

11J-8I8 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.16m・短軸 0.09m・深さ 0.12m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1120 (図版 19・23・25・44、写真図版 50)

11J-8I8 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.19m・短軸 0.17m・深さ 0.14m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1118 (図版 19・23・25・44、写真図版 50)

11J-8I9 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.19m・短軸 0.16m・深さ 0.08m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1115 (図版 19・25・44、写真図版 50)

11J-8J10 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.25m・短軸 0.22m・深さ 0.18m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1116 (図版 19・25・44、写真図版 51)

11J-8J9・10 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.21m・深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1209 (図版 19・24・25・44、写真図版 51)

11J-8H13 に位置する中世の遺構である。Pit1234 に切られる。平面形は不整形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.23m・現存短軸 0.15m・深さ 0.13m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1234 (図版 19・24・25・44、写真図版 51)

11J-8H13 に位置する中世の遺構である。Pit1209 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.34m・短軸 0.15m・深さ 0.10m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1117 (図版 19・25・44、写真図版 51)

11J-8J11 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.21m・短軸 0.19m・深さ 0.09m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1114 (図版 19・25・44・52、写真図版 51)

11K-8A16 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.27m・確認短 0.19m・深さ 0.13m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1162 (図版 19・24・25・44)

11J-8H22 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.15m・短軸 0.16m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1163 (図版 19・24・25・45、写真図版 52)

11J-8H22 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.17m・短軸 0.13m・深さ 0.13m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1164 (図版 19・24・25・45、写真図版 52)

11J-8H22 に位置する中世の遺構である。Pit1165 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.30m・短軸 0.23m・深さ 0.11m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1165 (図版 19・24・25・45、写真図版 52)

11J-8H22 に位置する中世の遺構である。Pit1164 に切られる。平面形は円形、断面形は半円状である。現存長軸 0.10m・短軸 0.10m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1166 (図版 19・24・25・45、写真図版 52)

11J-8H21・22 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.18m・深さ 0.08m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1176 (図版 19・24・25・45、写真図版 52)

11J-9G10 に位置する中世の遺構である。北側を土側溝に壊される。平面形は楕円形と考えられ、断面形は箱状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.10m・深さ 0.07m を測る。覆土は 2 層に分かれる。遺物は出土していない。

Pit1167 (図版 19・24・25・45、写真図版 53)

11J-9H6 に位置する中世の遺構である。北側を土側溝に壊される。南北に長い楕円形と考えられ、断面形は

U字状である。確認面での残存長軸 0.22m、短軸 0.15m・深さ 0.20m を測る。覆土は4層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1185 (図版 19・25・45、写真図版 53)

11J-9I6 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.18m・短軸 0.18m・深さ 0.16m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1168 (図版 19・24・25・45、写真図版 53)

11J-9H11 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は箱状である。確認面での長軸 0.28m・短軸 0.24m・深さ 0.16m を測る。覆土は2層に分かれる。遺物は出土していない。

Pit1186 (図版 19・25・45、写真図版 53)

11J-9I7・12 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は箱状である。確認面での長軸 0.21m・確認短 0.20m・深さ 0.11m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1169 (図版 19・24・25・27・45、写真図版 54)

11J-9G25 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.25m・短軸 0.22m・深さ 0.05m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1170 (図版 19・24・27・45、写真図版 54)

11J-9G25 に位置する中世の遺構である。平面形は方形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.30m・短軸 0.29m・深さ 0.14m を測る。覆土は3層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1171 (図版 19・24・45、写真図版 54)

11J-9G24 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.18m・短軸 0.17m・深さ 0.12m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1177 (図版 19・24・27・45、写真図版 54)

11J-9G24・25 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.15m・短軸 0.15m・深さ 0.12m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1222 (図版 19・24・46、写真図版 55)

11J-10F5 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.30m・短軸 0.23m・深さ 0.08m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1113 (図版 19・27・28・46・50・52、写真図版 55)

11K-10A1 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.27m・短軸 0.22m・深さ 0.19m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1093 (図版 19・24・26・46、写真図版 55)

11J-10E8・13 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.50m・短軸 0.47m・深さ 0.33m を測る。覆土は6層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1175 (図版 19・24・26・27・46、写真図版 55)

11J-10G10 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は漏斗状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.19m・深さ 0.12m を測る。覆土は3層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1187 (図版 19・27・46、写真図版 56)

11J-10I7 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.15m・深さ 0.10m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1087 (図版 19・24・26・46、写真図版 56)

11J-10F6・11 に位置する中世の遺構である。SD1076 を切る。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.39m・短軸 0.35m・深さ 0.19m を測る。覆土は3層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1188 (図版 19・27・46、写真図版 56)

11J-10I6・11 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.18m・短軸 0.15m・深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1180 (図版 19・24・26・27・46、写真図版 56)

11J-10G15 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.18m・深さ 0.10m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1029 (図版 19・26・46、写真図版 57)

11J-10F19 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.32m・短軸 0.24m・深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1184 (図版 19・26・27・46、写真図版 57)

11J-10G20 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.29m・短軸 0.26m・深さ 0.10m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1211 (図版 19・26・46、写真図版 57)

12J-1F4 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.19m・深さ 0.11m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1196 (図版 19・27・46、写真図版 57)

12J-1H14 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.19m・深さ 0.12m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1017 (図版 19・26・27・47、写真図版 58)

12J-1G20 に位置する中世の遺構である。平面形は長方形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.31m・短軸 0.27m・深さ 0.07m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1191 (図版 19・29・30・47、写真図版 58)

12J-2I15 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.23m・短軸 0.19m・深さ 0.21m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1192 (図版 19・30・31・47・50・52、写真図版 58)

12K-2A16 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.20m・確認短 0.19m・深さ 0.20m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1193 (図版 19・30・31・47・50・52、写真図版 58)

12K-2A22 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.16m・深さ 0.19m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1226 (図版 19・30・31・47・52、写真図版 59)

12J-3J10 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.18m・深さ 0.19m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1089 (図版 19・29・47、写真図版 59)

12J-3I13 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.33m・短軸 0.24m・深さ 0.25m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1106 (図版 19・29・47、写真図版 59)

12J-3I14 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.27m・短軸 0.20m・深さ 0.09m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1108 (図版 19・29・30・47、写真図版 59)

12J-3I14 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.19m・短

軸 0.14m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1202 (図版 19・29・30・47、写真図版 60)

12J-3I15 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.24m・深さ 0.25m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1203 (図版 19・29・30・47、写真図版 60)

12J-3I15 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.18m・短軸 0.14m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit1195 (図版 19・30・31・47・52、写真図版 60)

12K-3A12 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.23m・短軸 0.17m・深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1199 (図版 19・29・30・47、写真図版 60)

12J-3J17 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.16m・短軸 0.15m・深さ 0.13m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

h 柵 (SA)

柵は 2 基検出した。以下では柵とそれを構成する Pit について説明する。

① SA1240

SA1240 (図版 19・25・48、写真図版 61)

11J-8I6・11・17、9I2 に位置する中世の遺構である。SN1001 の北端に面し、SD1003 の東側に平行する。主軸方位は N23° W である。Pit1228・1229・1230・1232 の 4 基からなり、全長は 8.9m を測る。Pit の規模は径 0.20m 前後、深さ 0.10m 前後である。各 Pit 間の間隔は 2.6～3.1m である。SN1001、SD1003 に付随する柵と考えられる。

Pit1228 (図版 19・25・48)

11J-8I22・9I2 に位置する。平面形は不整形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.17m・深さ 0.10m を測る。遺物は出土していない。

Pit1229 (図版 19・25・48)

11J-8I17 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸・短軸 0.16m・深さ 0.20m を測る。遺物は出土していない。

Pit1230 (図版 19・25・48)

11J-8I11 に位置する。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.21m・短軸 0.16m・深さ 0.06m を測る。遺物は出土していない。

Pit1232 (図版 19・23・25・48)

11J-8I6 に位置する。平面形は楕円形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.19m・短軸 0.15m・深さ 0.19m を測る。遺物は出土していない。

② SA1241

SA1241 (図版 19・24・26・27・48、写真図版 61・62)

11J-10H1・6・11 に位置する中世の遺構である。SN1001 と SN1002 の間にあり、主軸方位は N9° E である。Pit1173・1174・1178・1179・1183 からなり、全長 5.0m を測る。Pit の規模は径 0.23～0.36m、深さ 0.08～0.18m である。Pit1178 を外した各 Pit 間の間隔は 1.3～1.9m である。SN1001 に付随する柵と考えられる。

Pit1173 (図版 19・24・27・48、写真図版 61)

11J-10H1 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.23m・深さ

0.17mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1174 (図版 19・24・26・27・48、写真図版 61)

11J-10H6に位置する。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.27m・短軸 0.24m・深さ 0.14mを測る。覆土は3層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1178 (図版 19・24・26・27・48、写真図版 61)

11J-10H6に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.23m・短軸 0.19m・深さ 0.08mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1179 (図版 19・24・26・27・48、写真図版 62)

11J-10H6・11に位置する。平面形は不整形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.34m・短軸 0.33m・深さ 0.13mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit1183 (図版 19・24・26・27・48、写真図版 62)

11J-10H11に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.36m・短軸 0.30m・深さ 0.18mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

i 旧河道

調査区南東部から検出した旧河道と付随する遺構を以下で説明する。

旧河道 1007 (図版 19・28・30・31・49・50・51・52、写真図版 62・63)

11K-9A・9B・10A・10B、12K-1A・1B・1C・2A・2B・2C・3B・3Cに位置する古代の旧河道である。旧河道 1007はテラス部分と本流部分からなる。西岸からテラスが広がり、本流への斜面から西寄りの底部を検出した。東岸は調査区域外に延びる。西岸の平面形は扇状を呈する。西岸からは 20° ～ 30° 、深さ 0.34～0.50mでテラスに降りる。テラスの幅は3.5～7.0mで北側が広がる。底面標高は7.2m前後で、ごく緩やかに本流への際に達する。テラスの際からは 13° ～ 27° で北側が急で、河底の深さ 1.6～2.7mで、河底の底面標高は5.02～5.58mである。覆土は大きく4層に分けられ、各層はさらに細分される。3層は有機物を多く含む層である。主要な土器は巨木の周囲から出土し、大形土器は破片が分散して出土する。垂直分布的には斜面上から底面上に堆積する3d・3e・3f層の0.2～1.0mの厚さの間で出土し、上層やテラス部分との接合関係はない。よって出土層位や分布から時期差は見出せなかった。出土土器は須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・大甕・長頸壺・環状把手付壺・壺蓋・鉢・横瓶、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋・有台鉢・鉢、黒色土器無台碗・有台皿(図版 116～124)、石製品は敲石・台石・軽石製石製品(図版 141)、木製品は楔・盤・曲物底板・曲物側板・斎串・箸・箸状・棒状・板状・杭(図版 144～148)が出土している。また、本流河岸ではカツラの巨木が出土し、木道 1008とした(図版 19・28・30・31・50～52)。墨書土器や斎串の出土から河辺での祭祀が行われた可能性が考えられる。旧河道の土器は春日編年(春日 1999)のIV 1～VI 2・3期に概ね収まる。なお、下層から採取した試料を用いて、 ^{14}C 年代測定、花粉分析、珪藻分析、種実同定を実施した(第VI章第1節C参照)。

テラス 1004 (図版 19・25・27・28・30・31・49・50・52、写真図版 45・46)

11K-8A・9A・9B・10A・10J、12J-1J、12K-1A・2A・2B・3A・3Bに位置する古代の遺構である。旧河道 1007の西端、扇状を呈する西岸と旧河道本流の間にある幅 3.5～7.0mの平坦な部分である。北端、南端とも調査区域外へ延びる。底面はV層に似た2c層を完全に取り除くことで検出された。遺物の出土は少なく、また3d・3e・3f層出土土器との接合関係がない。このことから旧河道の3層が埋没後にテラスが造成された可能性も考えられる。テラス内にはSD1005・1006がある他、畑と考えられる畝間状痕跡が見られる(本節f⑦参照)。遺物は須恵器無台杯・長頸壺、土師器無台碗・長甕・小甕が出土している(図版 117・125)

SD1005 (図版 19・25・27・28・30・31・49～52、写真図版 63)

11K-9A・10A、12K-1A・2A・2B・3B・3Cに位置する古代の遺構である。北端、南端とも調査区域外へ延びる。旧河道の西岸とSDの西壁とは1.3～3.0mの間隔でほぼ平行する。長さ 54.05m・幅 0.5～0.88m・

深さ 0.12m を測る。断面形は弧状である。覆土は 2 層に分かれる。遺物は須恵器大甕・長頸壺、土師器無台椀・長甕・小甕が出土している（図版 125）。

SD1006（図版 19・27・28・30・31・49～52、写真図版 63）

11K-10A2・7・12・17・18・22・23、12K-1A2・3・8・13・18・19・24・25、2A5 に位置する古代の遺構である。北端は SD1005 に切られ、南端は木道 1008 に繋がる。長さ 21.07m・幅 0.6～0.83m、深さ 0.17m を測る。断面形は台形状である。覆土は 2 層に分かれる。底面は V 層に多く含む 2 層を取り除くことで検出された。遺物は須恵器有台杯・短頸壺、土師器無台椀・長甕・小甕・鉢が出土している（図版 125）。

SD1242（図版 19・30・31・51・52）

12K-3B13～15 に位置する古代の遺構である。北端、南端とも調査区域外へ延び、北側で SK1009 に切られる。北側の調査対象外部分で SD1005 と分岐したと考えられる。長さ 2.80m、最大幅 0.60m、深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は須恵器無台杯・有台杯・大甕、土師器無台椀・長甕・小甕が出土している。

3) 2 区の概要

第 38 次（12）調査 2 区は、北に新津市教育委員会が本発掘調査した寺道上遺跡（現 細池寺道上遺跡）〔渡邊ほか 2001〕、第 41 次（13）調査 1 区、東に新潟県教育委員会が本発掘調査を行った寺道上遺跡（現 細池寺道上遺跡）B 地点〔小池ほか 1994〕が隣接する。Va 層の標高は 7.65m～7.5m で東から西へごく緩やかに傾斜している。検出した遺構は溝（SD）1 基、小土坑（Pit）25 基、畑の畝間と考えられる範囲が調査区全体で 284 基確認された。調査面積は上端面積 184.51m²・下端面積 175.20m² である。以下では溝と畑について説明し、小土坑（Pit）の計測値は別表 2 に示した。

4) 2 区の遺構各説

a 溝状遺構（SD）

SD1（図版 54・55、写真図版 66）

10J-7G24・25、8G3・4・5・9・10・15、8H1・6・7・11・12・13・17・18・19・23・24 に位置する中世の遺構である。北西側は寺道上遺跡（現 細池寺道上遺跡）〔渡邊ほか 2001〕SD1、第 41 次（13）調査 1 区 SD152 に繋がり、南東側は調査区域外に延びる。断面形は台形状である。確認面での残存長 9.35m・最大幅 3.22m・深さ 0.65m を測る。覆土は 21 層に分けられる。遺物は須恵器無台杯・有台杯、土師器無台椀・長甕・小甕・鍋が出土しているが（図版 126）、第 41 次（13）調査 1 区 SD152 から中世の珠洲焼がややまとまって出土したことから中世の遺構とする。

b 畑跡（SN）

1 区と同様の畝間状痕跡の範囲が調査区全域で 284 基確認された。これらは SD1 を境に東側を I ブロック、西側を II ブロックとした。以下ブロック別に説明する。

① I ブロック A～C（第 11 図、第 6 表）

I ブロックは SD1 の東側、10J-7H・I、8H・I、9I に位置する。畝の切り合い、交差が顕著であるが、畝の単位、方向から A～C に分けた。I A は 2 条重なった畝間痕を 1 条と集計するもので、81 条からなる。長さ 2.1m～4.4m、畝間 0.2m～0.6m で、長軸は北西から南東を向く。3 条から 16 条を 1 群とする 7 群に分けられ、畑の形状は南西から北東に長い撥形 1 基、短冊形 4 基、不明 2 基からなる。I B は 75 条からなり、長さ 2.4m～4.1m、畝間は 0.2m～0.4m で、長軸は北西から南東を向く。3～18 条を 1 群とする 9 群に分けられ、畑の形状は南西から北東に長い短冊形 4 基、不明 5 基からなる。I C は 112 条からなり、長さは 2.1m～

第 6 表 第 38 次調査 2 区畝間痕一覧

畑 No.	畝間条数	畑区分	最小長	最大長	最大間隔	方位
I A1	11	—	—	—	0.5m	N-20～13-W
I A2	15	撥形	2.1m	3.4m	0.4m	N-32-W
I A3	16+	短冊形	2.1m	3.0m	0.6m	N-35-W
I A4	16+	短冊形	4.1m	4.4m	0.5m	N-48-W
I A5	12+	短冊形	4.0m	4.4m	0.5m	N-37-W
I A6	8+	短冊形	3.4m	3.7m	0.5m	N-35-W
I A7	3+	—	—	—	0.4m	N-45-W
I B1	18+	短冊形	2.6m	2.8m	0.4m	N-45-W
I B2	18+	短冊形	2.4m	3.1m	0.4m	N-50-W
I B3	13	短冊形	3.8m	4.1m	0.4m	N-45-W
I B4	9+	短冊形	2.5m	2.8m	0.4m	N-44-W
I B5	4+	—	—	3.7m+	0.3m	N-50-W
I B6	4+	—	3.7m	3.8m	0.4m	N-60-W
I B7	3+	—	—	—	0.3m	N-50-W
I B8	3+	—	—	3.0m+	0.2m	N-60-W
I B9	3+	—	—	—	0.3m	N-60-W
I C1	4+	—	—	—	0.2m	N-54-E
I C2	7	短冊形	—	4.2m	0.3m	N-45-E
I C3	18	—	(3.5m)	(3.7m)	0.3m	N-44-E
I C4	24+	短冊形	3.6m	4.1m	0.4m	N-52-E
I C5	15	短冊形	3.2m	3.4m	0.4m	N-50-E
I C6	13+	短冊形	2.1m	2.3m	0.3m	N-40-E
I C7	12	短冊形	2.5m	2.8m	0.3m	N-45-E
I C8	11	—	—	—	0.3m	N-40-E
I C9	8+	—	—	—	0.3m	N-40-E
II A1	11+	—	—	—	0.3m	N-10-W～ N-5-E
II B1	2+	—	—	2.6m	0.3m	N-60-W
II B2	2+	—	—	1.8m	0.2m	N-41-W
II B3	1+	—	—	—	—	N-30-W
合計	284+	—	—	—	—	—

4.2m、畝間は0.2m～0.4mで、長軸は南西から北東を向く。4～24条を1群とする9群に分けられ、畑の形状は北西から南東に長い短冊形5基、不明4基からなる。

② IIブロックA～C (第11図、第6表)

IIブロックはSD1の西側、10J-8G3～5・8～10・15に位置する。畝の方向からA・Bに分けた。II Aは11条からなり、畝間は0.3mで、南北方向を向く。畑の形状は不明である。II Bは5条からなり、北西から南東を向く。1～2条を1群とする3群に分けられるが、畑の形状は不明である。

5) 3区の概要

第38次(12)調査3区は同1区の北西、同2区の南西にあり、東金沢の集落の南東端に隣接する。Va層の標高は7.45m～7.25mで、調査区南寄り11J-5B・Cが高く、北側と南側へごく緩やかに傾斜している。検出された遺構は性格不明遺構(SX)3基、溝(SD)7基、小土坑(Pit)1基、また、畑の畝間と考えられる範囲が調査区全体で115基確認された。調査面積は上端面積103.12m²・下端面積84.26m²である。以下では性格不明遺構・溝・畑について説明し、小土坑(Pit)の計測値は別表2に示した。

6) 3区の遺構各説

a 性格不明遺跡(SX)

SX505 (図版56・57・60、写真図版68)

11J-2C11・12・16・17・21・22、3C1・2・6・7・11・12・16・17・21・22、4C1・2に位置する近世以降の遺構である。南北13.3m、東西1.4～2.3mの範囲内で東西方向の南壁沿いに東西方向のSD508・506、11J-3C6・7・11・12に東西方向の畔状の遺構がある。深さ0.3～0.7mで北へ向かって深くなる。覆土は14層に分けられる。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕が出土している(図版126)。水田跡の可能性はある。

SX509 (図版56・57・60、写真図版68)

11J-3C11・12に位置する近世以降の遺構である。SX505の覆土に覆われる。上端の短軸0.21m、下端の短軸1.13、東西の長軸1.96m、高さ0.25mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。SX505に伴う畔の可能性はある。

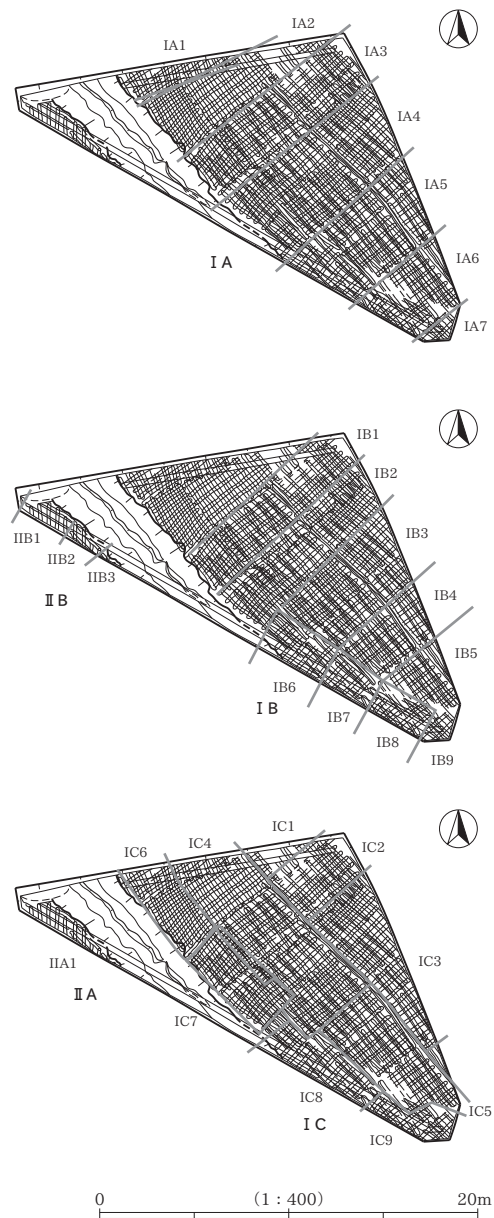
SX510 (図版56・58・60、写真図版68)

11J-5B25、5C16・21に位置する中世の遺構である。東側は調査区域外に延びており平面形は不明である。断面形は台形状である。確認面での深さ0.39mを測り、覆土は4層に分けられる。遺物は土師器小甕が出土している。

b 溝状遺構(SD)

SD506 (図版56・57・60・61、写真図版68)

11J-3C21・22、4C1に位置する近世以降の遺構である。南にSD508が平行する。主軸方位はN90°Wである。



第11図 細池寺道上遺跡第38次調査2区 畝間痕ブロック図 (S=1/400)

断面形は台形状である。確認面での最大幅 1.40m・深さ 0.17m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は須恵器無台杯が出土している。

SD508 (図版 56・57・58・60・61、写真図版 68)

11J-4C1・2 に位置する近世以降の遺構である。主軸方位は N90° W である。断面形は弧状である。確認面での最大幅 0.60m・深さ 0.13m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。SX505 が水田跡であれば、SD506・508 は周溝の可能性はある。

SD504 (図版 56・57・58・61、写真図版 69)

11J-4C11・12 に位置する中世の遺構である。SD502 に西端を切られ、東側は調査区域外へ延びる。主軸方位は N90° W である。断面形は台形状である。確認面での最大幅 0.96m、深さ 0.26m を測る。覆土は 5 層に分けられる。遺物は土師器長甕・小甕が出土している。

SD502 (図版 56・58・61、写真図版 69)

11J-4C11・16・21、5C1・6・7・11・12 に位置する中世の遺構である。北側は調査区域外に延びる。SD504・SD503 を切る。主軸方位は N15° W である。断面形は台形状である。確認面での最大幅 1.36m・深さ 0.43m を測る。覆土は 9 層に分けられる。遺物は須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土している (図版 126)。幅は狭いが「堀田」の可能性も考えられる。

SD503 (図版 56・58・61、写真図版 69)

11J-4C21・22、5C1 に位置する中世の遺構である。SD502 に西側を切られ、東側は調査区域外へ延びる。主軸方位は N90° W である。断面形は台形状である。確認面での最大幅 0.88m・深さ 0.35m を測る。覆土は 5 層に分けられる。遺物は須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋が出土している (図版 126)。

SD511 (図版 56・58・61)

11J-6B3・4 に位置する中世の遺構である。西側は攪乱に壊され、東側は調査区域外に延びる。主軸方位は N73° W である。断面形は弧状である。確認面での最大幅 0.60m・深さ 0.19m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD512 (図版 56・58・61)

11J-6B2・3・7・8 に位置する中世の遺構である。主軸方位は N83° W である。断面形は弧状である。確認面での最大幅 0.70m、深さ 0.15m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD513 (図版 56・58・61)

11J-6B6・7・8 に位置する中世の遺構である。西端、東端とも調査区域外に延びる。主軸方位は N88° E である。断面形は弧状である。確認面での最大幅 0.55m・深さ 0.14m を測る。覆土は単層である。遺物は土師器鍋が出土している。SD511・512・513 は溝間隔 1.1m で平行する畝状小溝の可能性はある。

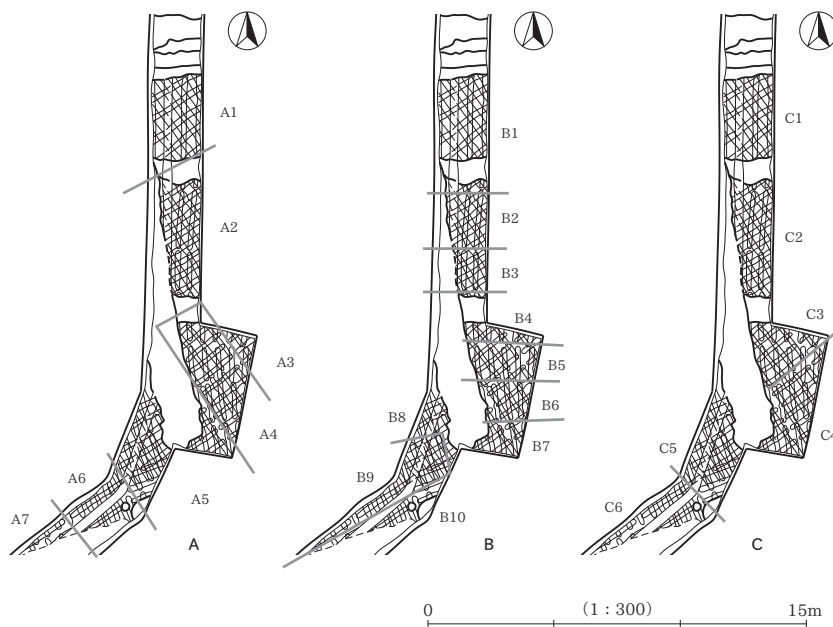
c 畑 跡 (SN)

① I ブロック A～C (第 12 図、第 7 表)

1 区と同様の畝間状痕跡の範囲が SD508 と SD511 の間、11J-4C、5B・C で 115 基確認された。畝の方向から A～C に分けた。I A は 37 条からなり、長さは 1.7m～4.2m、畝間は 0.3m～0.4m で、南西から北東方向を向く。2～10 条を 1 群とする 7 群に分けられ、畑の形状は短冊形 1 基、不明 6 基である。I B は 47 条からなり、長さは 1.3m～4.5m、畝間は 0.2m～0.5m で、南北方向を向く。2～11 条を 1 群とする 10 群に分けられ、畑の形状は短冊形 2 基、不明 8 基である。I C は 31 条からなり、畝間は 0.3m～0.6m で、北西から南東方向を向く。3～7 条を 1 群とする 6 群に分けられ、畑の形状は短冊形 1 基、不明 5 基である。

第7表 第38次調査3区
畝間痕一覧

畑 No.	畝間 条数	畑区分	最小 長	最大長	最大 間隔	方位
A1	5+	—	—	2.4m+	0.4m	N-49-E
A2	8	—	—	2.0m+	0.3m	N-55-E
A3	3+	—	—	—	0.3m	N-51-E
A4	10+	短冊形	1.7m	1.8m	0.3m	N-51-E
A5	7+	—	—	4.2m	0.4m	N-56-E
A6	2+	—	—	2.5m+	—	N-55-E
A7	2+	—	—	1.7m+	0.3m	N-32-E
B1	2+	—	—	4.5m+	0.4m	N-0-S
B2	2+	—	2.2m	2.3m	0.3m	N-5-E
B3	2+	—	1.5m	1.6m	0.2m	N-2-E
B4	6+	—	—	1.9m	0.3m	N-0-S~ N-10-E
B5	5+	短冊形	1.3m	1.4m	0.3m	N-0-S~ N-7-W
B6	4+	短冊形	1.4m	1.5m	0.3m	N-0-S~ N-7-W
B7	5+	—	—	1.3m+	0.3m	N-10-W
B8	2+	—	—	1.5m+	0.3m	N-15-W
B9	11+	—	—	2.0m	0.5m	N-13-W
B10	8+	—	—	—	0.5m	N-13-W
C1	5+	—	—	3.2m+	0.3m	N-35-W
C2	5+	—	—	3.3m+	0.3m	N-33-W
C3	5+	短冊形	—	2.2m	0.4m	N-39-W
C4	7+	—	—	2.6m+	0.4m	N-35-E
C5	6+	—	—	2.3m+	0.4m	N-30-W
C6	3+	—	—	1.8m+	0.6m	N-25-W
合計	115+	—	—	—	—	—



第12図 細池寺道上遺跡第38次調査3区畝間痕ブロック図 (S = 1/300)

D 第41次 (13) 調査の遺構

1) 1区の概要

第41次 (13) 調査1区では、南に農道拡幅に伴い新津市教育委員会が本発掘調査した寺道上遺跡 (現細池寺道上遺跡) [渡邊ほか2001]、第38次 (12) 調査2区が隣接する。標高は7.25 ~ 7.45mで、北西から南東に緩やかに傾斜している。検出した遺構は井戸 (SE) 1基、土坑 (SK) 17基、性格不明遺構 (SX) 7基、溝 (SD) 21基、水田 (SN) 7基、小土坑 (Pit) 591基、柵 (SA) 8基の計652基、掘立柱建物 (SB) 12棟である。遺構は調査区の南側では平安時代の土坑や溝などがあり、それ以外では中世の溝や水田、掘立柱建物が分布する。調査面積は上端面積2498.58m²、下端面積2447.72m²である。

2) 1区の遺構各説

a 井戸 (SE)

SE357 (図版62・63・69・71・74、写真図版76)

10J-5B15、5C11に位置する中世の遺構である。素掘りの井戸である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸1.28m・短軸1.08m・深さ1.21mを測る。覆土は4層に分けられ、2~4層は人為的な埋め戻し土である。遺物は、須恵器大甕、土師器長甕・小甕、珠洲焼甕、粘土塊、焼礫、木製品が出土している (図版127・148)。珠洲焼甕 (276) がSD152出土と接合関係にある。なお、下層の3~4層より採取した試料を用いて自然科学分析を実施している (第VI章第2節参照)。種実同定では炭化したコムギとアワが大量に同定され、放射線炭素年代測定では13世紀後半から14世紀代の年代が示された。

b 土坑 (SK)

SK844 (図版62・63・68・70・74、写真図版76)

10J-3D15に位置する中世の遺構である。SD822との切り合いは不明である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸0.62m・短軸0.58m・深さ0.25mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

SK538 (図版62・63・68・70・74、写真図版77)

10J-3F12・13・17・18に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長

軸 2.22m・短軸 1.95m・深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕が出土している (図版 127)。

SK537 (図版 62・63・68・70・74、写真図版 77)

10J-3F22、4F2 に位置する中世の遺構である。SD709・Pit564 に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 1.14m・短軸 0.97m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK519 (図版 62・63・67・69・74、写真図版 77)

10J-4B20、4C16 に位置する中世の遺構である。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.97m・短軸 0.75m・深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は土師器長甕が出土している。

SK689 (図版 62・63・67～70・74・83、写真図版 77)

10J-4D12・17 に位置する中世の遺構である。Pit683・686・688 に切られる。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.85m・短軸 0.75m・深さ 0.06m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK832 (図版 62・63・67～70・74、写真図版 78)

10J-4D8・9 に位置する中世の遺構である。SN373 との切り合いは不明である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 1.00m・短軸 0.96m・深さ 0.10m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK492 (図版 62・63・68・70・75、写真図版 78)

10J-4F12・13 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 1.15m・短軸 0.74m・深さ 0.43m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK447 (図版 62・63・69・75、写真図版 78)

10J-5B7 に位置する中世の遺構である。西側 3 分の 1 ほどを土側溝に壊されるが、平面形は円形、断面形は弧状と推測する。残存部分の規模は確認面での長軸 0.69m・短軸 0.37m・深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は土師器小甕が出土している。

SK421 (図版 62・63・70・75、写真図版 79)

10J-5G1 に位置する古代の遺構である。SD419 の底面で検出されたため、切り合いは不明である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.69m・短軸 0.59m・深さ 0.20m を測る。覆土は土層断面図を作成できなかったため不明である。遺物は出土していない。

SK163 (図版 62・63・71・75、写真図版 78)

10J-6C7・8 に位置する古代の遺構である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 1.03m・短軸 0.96m・深さ 0.04m を測る。覆土は単層である。遺物は須恵器無台杯、土師器小甕が出土している (図版 127)。

SK222 (図版 62・63・72・75、写真図版 79)

10J-5G21・22 に位置する古代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 1.45m・短軸 0.55m・深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK140 (図版 62・63・71・72・75、写真図版 79・80)

10J-7D13・18 に位置する古代の遺構である。Pit420 に切られる。南側は調査区域外へ延びるが、平面形は楕円形と推測する。断面形は弧状である。残存部分の規模は確認面での長軸 1.90m・短軸 1.07m・深さ 0.27m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕が出土している (図版 127)。

SK139 (図版 62・63・71・72・75、写真図版 79)

10J-7D13・18 に位置する古代の遺構である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.89m・短軸 0.70m・深さ 0.19m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗が出土している (図版 127)。出土土器から春日編年の V 期の遺構と考える。

SK138 (図版 62・63・71・72・75、写真図版 80)

10J-7D15・20 に位置する古代の遺構である。南側は調査区域外へ延びるが、平面形は長方形と推測する。断面形は弧状である。残存部分の規模は確認面での長軸 1.02m・短軸 0.99m・深さ 0.10m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕・鍋が出土している (図版 128)。

SK137 (図版 62・63・71・72・75、写真図版 80)

10J-7D5・10、7E1・6 に位置する古代の遺構である。平面形は長方形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.77m・短軸 0.60m・深さ 0.08m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕・小甕、礫が出土している (図版 128)。

SK113 (図版 62・63・72・75、写真図版 81)

10J-6G21、7G1 に位置する古代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.94m・短軸 0.51m・深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SK89 (図版 62・63・71・72・76・89、写真図版 81)

10J-7E14・15 に位置する古代の遺構である。SB921 を構成する Pit88 に切られる。南側は調査区域外へ延びるが、平面形は円形と推測する。断面形は階段状である。残存部分の規模は確認面での長軸 2.02m・短軸 1.41m・深さ 0.62m を測る。覆土は 7 層に分けられる。遺物は 2 層を中心に須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕・小甕が出土している (図版 128・129)。排棄土坑と考えられ、出土土器から春日編年の V 期の遺構と考えられる。

c 性格不明遺構 (SX)

SX868 (図版 62・63・67・69・76・81、写真図版 81)

10J-4A4・5・9・10 に位置する中世の遺構である。西側は調査区域外へ延びるが、平面形は不整形、断面形は階段状である。残存部分の規模は確認面での長軸 1.50m・短軸 0.94m・深さ 0.40m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX819 (図版 62・63・67・70・76、写真図版 82)

10J-3C20・25、3D16・21 に位置する中世の遺構である。SD827 に切られるが、平面形は楕円形、断面形は弧状である。残存部分の規模は確認面での長軸 2.14m・短軸 1.90m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX818 (図版 62・63・67・68・70・76、写真図版 82)

10J-3D8・9・13・14 に位置する中世の遺構である。SD823 に切られるが、平面形は不整形、断面形は弧状である。残存部分の規模は確認面での長軸 1.52m・短軸 0.95m・深さ 0.06m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX584 (図版 62・63・68・77、写真図版 82)

10J-3E4・5・9・10 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 1.90m・短軸 1.41m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX585 (図版 62・63・68・77・84、写真図版 82)

10J-2E25、2F21、3E5、3F1・6 に位置する中世の遺構である。SB869 を構成する Pit646 と Pit635・645・647・655・656 に切られる。平面形は不整形、断面形は弧状である。確認面での長軸 3.40m・短軸 1.82m・深さ 0.06m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX372 (図版 62・63・69・72・77、写真図版 83)

10J-5E14・19・20 に位置する中世の遺構である。SN373 に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 1.63m・短軸 1.31m・深さ 0.06m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は土師器長甕・小甕が出土している。

SX146 (図版 62・63・71・77、写真図版 83)

10J-7C1～3・6～8に位置する古代の遺構である。SD147に切られるが、平面形は長方形、断面形は弧状である。残存部分の規模は確認面での長軸3.68m・短軸1.78m・深さ0.12mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は須恵器無台杯、土師器長甕・小甕・鍋が出土している(図版129)。

d 溝 (SD)

SD848 (図版62・63・67・78、写真図版83・84)

10J-2A24・25・3A4・5・3B1・6・7に位置する中世の遺構である。SN821を切り、SD880・Pit852に切られる。主軸方位はN64°Wで北側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸6.10m・短軸0.84m・深さ0.08mを測る。調査区北壁の土層断面では覆土は5層に分けられる。遺物は土師器長甕・小甕が出土している。

SD862 (図版62・63・67・69・78・81、写真図版83・85・90)

10J-3B21・22・23・4B2～5・10・4C1・6に位置する中世の遺構である。SD152・462を切り、SD441に切られる。SD863とSN857との切り合いは不明である。主軸方位はN74°Wである。断面形は半円状である。確認面での長軸16.0m・短軸1.34m・深さ0.39mを測る。覆土は4層に分けられる。遺物は出土していない。

SD863 (図版62・63・67・69・78、写真図版84)

10J-4B5に位置する中世の遺構である。SD862・880との切り合いは不明である。主軸方位はN29°Eである。断面形は弧状である。確認面での長軸0.60m・短軸0.24m・深さ0.04mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD462 (図版62・63・67・69・78・81・84、写真図版84)

10J-4B4・9・14・19・20・25・5B5・5C1に位置する中世の遺構である。SD151・Pit513を切り、SD862に切られる。SB893を構成するPit528・539との切り合いは不明である。主軸方位はN24°WからN13°Eに変化する。断面形は弧状である。確認面での長軸10.90m・短軸0.56m・深さ0.12mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は須恵器無台杯、土師器小甕、不明鉄製品、礫が出土している(図版129・140)。

SD152 (図版62・63・67～70・72・78・79・81、写真図版84～86)

10J-2B・3B・3C・4C・4D・5D・5E・6E・6F・7Fに位置する中世の遺構である。SN851・858、SD419・433・822・880、Pit845・859を切り、SD441・862に切られる。SD827、Pit422・829・830との切り合いは不明である。主軸方位はN39°WからN49°Wに変化し、調査区北側及び南側へ延びる。断面形は台形状である。南側は第12次(99)調査区SD1、更に38次(12)2区SD1につながっている。確認面での長軸66.24m・短軸3.40m・深さ0.70mを測る。覆土は北端では5層に分けられるが、それ以外では3層に分けられる。10J-4C20・25では覆土2層から3層にかけて、珠洲焼の大甕や片口鉢などがまとまって出土した。遺物は須恵器有台杯・大甕・横瓶、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、珠洲焼甕・片口鉢、砥石・磨石・敲石・台石・軽石製石製品・石鉢、刀子・鉄釘、焼礫・礫が出土している(図版127・129～131・140～143)。

SD880 (図版62・63・67・69・78・81、写真図版84・85)

10J-2B・3B・4B・4Cに位置する中世の遺構である。SD848を切り、SD152に切られる。SD863との切り合いは不明である。主軸方位はN43°Wであり、北側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸18.96m・短軸0.60m・深さ0.14mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD441 (図版62・63・67～72・78・79・88、写真図版85)

10J-4B・4C・5C・5D・5Eに位置する中世の遺構である。SD152・862、Pit428を切る。主軸方位はN54°Wである。断面形は弧状である。確認面での長軸28.58m・短軸1.12m・深さ0.35mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は土師器長甕・小甕が出土している(図版131)。

SD827 (図版62・63・67～69・79・80、写真図版86・87)

10J-2D・2E・3C・3Dに位置する中世の遺構である。SD823、SX819、SN838・851を切り、SD822に

切られる。SD152との切り合いは不明である。主軸方位はN56°Eである。断面形は台形状である。確認面での長軸29.14m・短軸1.68m・深さ0.57mを測る。覆土は4層に分けられる。遺物は須恵器有台杯、土師器無台碗・長甕、珠洲焼甕、台石、木製品が出土している(図版131・132・142)。

SD823 (図版62・63・67・68・70・79・80・81、写真図版82・86・87)

10J-2E・3C・3D・3E・4Cに位置する中世の遺構である。SD822・827に切られる。主軸方位はN37°E～N52°Eである。断面形は弧状である。確認面での長軸21.92m・短軸0.54m・深さ0.11mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

SD822 (図版62・63・68・78～81、写真図版85～87)

10J-2E・3D・3E・4Cに位置する中世の遺構である。SD823・827、SN373・837を切り、SD152・Pit845に切られる。SK844、Pit841・854との切り合いは不明である。主軸方位はN45°E～N54°Eであり、東側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸33.20m・短軸1.30m・深さ0.66mを測る。覆土は4層に分けられる。遺物は須恵器大甕、土師器長甕・小甕・鍋が出土している(図版132・133)。

SD709 (図版62・63・68・70・74・80、写真図版77・87)

10J-3F・4Fに位置する中世の遺構である。SK537を切り、SX585、Pit575・635に切られる。主軸方位はN9°Wである。断面形は弧状である。確認面での長軸16.62m・短軸0.66m・深さ0.08mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD415 (図版62・63・69・70・80、写真図版88)

10J-4D25・4E21・5D5に位置する中世の遺構である。SD836・SN373との切り合いは不明である。主軸方位はN46°Eである。断面形は弧状である。確認面での長軸3.64m・短軸0.50m・深さ0.04mを測る。覆土は単層である。遺物は土師器無台碗が出土している。

SD433 (図版62・63・69・70・80、写真図版88)

10J-4D24・25・5D3・4・8に位置する中世の遺構である。SD152に切られるが、Pit323との切り合いは不明である。主軸方位はN43°Eである。断面形は弧状である。確認面での長軸3.78m・短軸0.64m・深さ0.12mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD151 (図版62・63・69・71・72・80・84～89、写真図版71・86・88・89)

10J-4B・5B・5C・5D・6D・6E・7E・7Fに位置する古代の遺構である。Pit95・426・427・429・431・882・905を切る。SD412・462、SB893を構成するPit381・500・528、SB894を構成するPit396・493・504、SB895を構成するPit387・505、Pit390・394・439・506・678・679に切られる。Pit549・903・913との切り合いは不明である。主軸方位はN51°WからN74°Wに変化し、調査区西側及び南側へ延びる。断面形は台形状である。第12次調査で検出されたSD2につながっていくものである。確認面での長軸50.36m・短軸1.24m・深さ0.38mを測る。覆土は3層に分けられる。遺物は須恵器有台杯、土師器無台碗・有台碗・長甕・小甕・鍋が出土している(図版132)。

SD419 (図版62・63・70・72・75・79・80、写真図版85・89)

10J-5E・5F・5G・6E・6Fに位置する古代の遺構である。Pit430を切り、SD152・Pit425に切られる。SK421との切り合いは不明である。主軸方位はN49°Eであり、東側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸17.58m・短軸1.54m・深さ0.47mを測る。覆土は4層に分けられる。遺物は須恵器無台杯、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、が出土している(図版132)。

SD147 (図版62・63・71・77・80、写真図版89・90)

10J-7B・7C・7Dに位置する古代の遺構である。SX146を切る。主軸方位はN66°Wであり、西側及び南側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸13.22m・短軸1.74m・深さ0.41mを測る。覆土は3層に分けられる。遺物は須恵器無台杯・長頸壺、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、磔が出土している(図版132)。

SD148 (図版 62・63・71・77・80、写真図版 89・90)

10J-7C11・12 に位置する古代の遺構である。Pit416 に切られる。主軸方位は N67° W であり、西側は調査区域外へ延びる。断面形は半円状である。確認面での長軸 3.70m・短軸 0.50m・深さ 0.18m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は土師器小甕が出土している。

SD149 (図版 62・63・71・80、写真図版 89・90)

10J-7C13・18・19・20 に位置する古代の遺構である。主軸方位は N59° W であり、南側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸 4.02m・短軸 0.50m・深さ 0.11m を測る。覆土は単層である。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕・鍋が出土している (図版 132)。

SD150 (図版 62・63・71・77・80、写真図版 89・90)

10J-7C11・16・17・18 に位置する古代の遺構である。主軸方位は N67° W であり、西側及び南側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸 4.94m・短軸 0.44m・深さ 0.16m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕・鍋が出土している (図版 133)。SD148・149・150 は南に接する寺道上遺跡〔渡邊ほか 2000〕検出の SD5・6・7・8 とともに畝状小溝を構成すると考えられる。

e 水 田 跡 (SN)

本章、本節 C2) e で説明した「堀田」あるいは「堀込田」と同様の水田跡である。底面に凹凸があり、深さは 0.3m 前後である。SN821・857・858・837 の遺構確認面は IV 層上面である。

SN821 (図版 62・63・67・78・81、写真図版 83・84・90)

10J-2A・3A に位置する中世の遺構である。SD848、Pit853・856 に切られる。主軸方位は N72° E である。北側及び西側は調査区域外へ延びるため平面形は不明、断面形は台形状である。残存部分の規模は確認面での長軸 7.10m・短軸 1.94m・深さ 0.39m を測る。面積は 13.69m² である。覆土は 5 層に分けられ、底面には凹凸がある。遺物は出土していない。

SN857 (図版 62・63・67・69・81、写真図版 90)

10J-3A・3B・4A・4B に位置する中世の遺構である。Pit749・846 を切り、SD862 との切り合いは不明である。主軸方位は N74° W である。西側は調査区域外へ延びるが、平面形は細長い長方形と推測する。断面形は台形状である。残存部分の規模は確認面での長軸 12.24m・短軸 4.45m・深さ 0.31m を測る。面積は 50.03m² である。覆土は 6 層に分けられ、底面には凹凸が多数ある。遺物は須恵器大甕が 3 層、珠洲焼甕が 2 層から出土している (図版 133)。

SN858 (図版 62・63・67・69・78・81、写真図版 84～86)

10J-2B・3B・3C に位置する中世の遺構である。Pit775・777 を切り、SD152 に切られる。SN851 との切り合いは不明である。主軸方位は N32° W であり、北側は調査区域外へ延びる。平面形は細長い長方形、断面形は台形状である。残存部分の規模は確認面での長軸 11.88m・短軸 3.39m・深さ 0.27m を測る。面積は 40.82m² である。覆土は 6 層に分けられ、底面には凹凸が多数ある。遺物は須恵器杯蓋・大甕が 1 層、横瓶が 3 層、土師器無台椀が 1 層、長甕・小甕が 3 層、珠洲焼壺、白磁椀が 1 層から出土している (図版 133)。

SN851 (図版 62・63・67～70・78・80・81、写真図版 85・87)

10J-3C・3D に位置する中世の遺構である。SD152・827 に切られるが、SN838・858 との切り合いは不明である。主軸方位は N58° E である。平面形は細長い長方形、断面形は台形状である。確認面での長軸 13.90m・短軸 2.80m・深さ 0.36m を測る。面積は 41.00m² である。覆土は 4 層に分けられ、底面には凹凸が多数ある。遺物は須恵器無台杯・大甕が 1・3 層、土師器無台椀が 1・2 層、長甕・小甕が 2・3 層、鍋が 2 層、珠洲焼甕、砥石が 1 層から出土している (図版 131・133・142)。なお植物珪酸体分析の結果、覆土 2 層において密度が比較的高い値であった。したがって同層で稲作が行われた可能性が高い (第 VI 章第 2 節 A 参照)。

SN838 (図版 62・63・67・68・79・81、写真図版 86・87・91)

10J-2D・2E・3Dに位置する中世の遺構である。SD827に切られるが、SN851との切り合いは不明である。主軸方位はN67°Eであり、北側は調査区域外へ延びる。平面形は不整形、断面形は台形状である。残存部分の規模は確認面での長軸10.40m・短軸5.14m・深さ0.66mを測る。面積は60.73m²である。覆土は6層に分けられ、底面には凹凸が多数ある。遺物は須恵器大甕が1・3層、土師器長甕が1・2層・小甕が1層、軽石製石製品が1層、礫が2層から出土している(図版133・143)。

SN837(図版62・63・68・79、写真図版86・87)

10J-2E・2F・3Eに位置する中世の遺構である。SD822に切られる。主軸方位はN54°Eであり、東側は調査区域外へ延びる。平面形は不整形、断面形は弧状である。残存部分の規模は確認面での長軸2.94m・短軸2.84m・深さ0.26mを測る。面積は7.66m²である。覆土は3層に分けられ、底面には凹凸が多数ある。遺物は出土していない。

SN373(図版62・63・67～72・79～81・90、写真図版87・91・92)

10J-3D・3E・4D・4E・4F・5E・5Fに位置する中世の遺構である。SX372を切り、SD822に切られる。SK832、SD415、Pit440・685・824～826・828・831・833～835・842・843・854との切り合いは不明である。主軸方位はN41°Wである。平面形は長方形、断面形は弧状である。確認面での長軸23.76m・短軸10.26m・深さ0.44mを測る。面積は252.91m²である。覆土は3層に分けられ、中央の底面には配置が不規則な凹凸が多数ある。遺物は須恵器無台杯・大甕が1層、土師器無台碗が1～3層・長甕が1・2層・小甕が3層、敲石が1・2層、礫が1～3層から出土している(図版133・142)。

SD836(図版62・63・69・70・81、写真図版91)

10J-3D・3E・4D・4E・4F・5E・5Fに位置する中世の遺構である。構築状況からSN373に付随する溝と思われる。SD415との切り合いは不明である。主軸方位はN42°Wである。断面形は半円状である。確認面での短軸0.74m・深さ0.14mを測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

f 小土坑(Pit)

Pit760(図版62・63・67・69・82、写真図版93)

10J-3B12に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸0.17m・短軸0.15m・深さ0.14mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit759(図版62・63・67・69・82、写真図版93)

10J-3B12に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸0.25m・短軸0.18m・深さ0.13mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit757(図版62・63・67・69・82、写真図版93)

10J-3B17に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸0.22m・短軸0.16m・深さ0.21mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit791(図版62・63・67・82、写真図版93)

10J-2C21に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸0.39m・短軸0.34m・深さ0.25mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit799(図版62・63・67・68・82、写真図版94)

10J-2C17に位置する中世の遺構である。Pit800に切られるが、Pit850との切り合いは不明である。北側は土側溝に壊されるが、平面形は円形、断面形は台形状である。残存部分の規模は確認面での長軸0.42m・短軸0.17m・深さ0.16mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit800(図版62・63・67・68・82、写真図版94)

10J-2C17に位置する中世の遺構である。Pit799を切る。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸・短軸は0.25m、深さ0.08mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit781 (図版 62・63・67・82、写真図版 94)

10J-3C6 に位置する中世の遺構である。Pit782 に切られる。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.18m・深さ 0.17m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit782 (図版 62・63・67・82、写真図版 94)

10J-3C6 に位置する中世の遺構である。Pit781 を切る。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.20m・深さ 0.12m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit847 (図版 62・63・67・82、写真図版 94)

10J-3C6・7 に位置する中世の遺構である。Pit718 に切られる。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.25m・短軸 0.20m・深さ 0.16m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit718 (図版 62・63・67・82、写真図版 94)

10J-3C6 に位置する中世の遺構である。Pit847 を切る。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.28m・短軸 0.20m・深さ 0.11m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit695 (図版 62・63・67～70・82、写真図版 94)

10J-3D16 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.20m・深さ 0.15m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit516 (図版 62・63・67・69・82、写真図版 95)

10J-4C16・21 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.46m・短軸 0.39m・深さ 0.34m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit526 (図版 62・63・67・69・82、写真図版 95)

10J-4C21 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.34m・短軸 0.30m・深さ 0.23m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit518 (図版 62・63・67・69・82、写真図版 95)

10J-4C21 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は漏斗状である。確認面での長軸・短軸 0.29m・深さ 0.25m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit455 (図版 62・63・69・82、写真図版 95)

10J-4C23、5C3 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.40m・短軸 0.33m・深さ 0.37m を測る。覆土は4層に分けられ、1層が柱痕と考えられる。遺物は出土していない。

Pit872 (図版 62・63・67・69・82、写真図版 96)

10J-4C23 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.23m・短軸 0.20m・深さ 0.15m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit834 (図版 62・63・67～70・82、写真図版 96)

10J-4D7 に位置する中世の遺構である。SN373 との切り合いは不明である。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.23m・短軸 0.19m・深さ 0.18m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit687 (図版 62・63・67～70・83、写真図版 96)

10J-4D12 に位置する中世の遺構である。Pit688 を切る。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.20m・深さ 0.19m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit688 (図版 62・63・67～70・83、写真図版 96)

10J-4D12 に位置する中世の遺構である。SK689 を切り、Pit687 に切られる。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.23m・深さ 0.11m を測る。覆土は単層である。遺物は出土して

いない。

Pit683 (図版 62・63・67・69・70・83、写真図版 96)

10J-4D17 に位置する中世の遺構である。SK689 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.29m・短軸 0.25m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit566 (図版 62・63・68～70・83、写真図版 97)

10J-4E4 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.17m・短軸 0.16m・深さ 0.21m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit437 (図版 62・63・70・83、写真図版 97)

10J-4F16 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.24m・深さ 0.17m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit436 (図版 62・63・70・83、写真図版 97)

10J-4F16 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸・短軸 0.23m・深さ 0.17m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit485 (図版 62・63・68・70・83、写真図版 97)

10J-4F8 に位置する中世の遺構である。Pit484 に切られる。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.19m・短軸 0.14m・深さ 0.23m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit484 (図版 62・63・68・70・83、写真図版 97)

10J-4F8 に位置する中世の遺構である。Pit485 を切る。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.23m・深さ 0.23m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit477 (図版 62・63・69・71・83、写真図版 98)

10J-5C6 に位置する中世の遺構である。Pit500 との切り合いは不明である。平面形は円形、断面形は漏斗状である。確認面での長軸 0.46m・短軸 0.42m・深さ 0.43m を測る。覆土は3層に分けられる。遺物は砥石が出土している (図版 142)。

Pit450 (図版 62・63・69・83・86、写真図版 98)

10J-5C2 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.32m・短軸 0.27m・深さ 0.28m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit458 (図版 62・63・69・83、写真図版 98)

10J-5C2 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.50m・短軸 0.48m・深さ 0.62m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit365 (図版 62・63・69・71・83、写真図版 98)

10J-5C17 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.20m・深さ 0.12m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit401 (図版 62・63・69・70・71・87、写真図版 103)

10J-5C20 に位置する中世の遺構である。SD412 と Pit499 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.32m・短軸 0.25m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit339 (図版 62・63・69・71・83・88、写真図版 99)

10J-5C23 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.30m・短軸 0.25m・深さ 0.38m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit321 (図版 62・63・69・70)

10J-5D4・5 に位置する中世の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.39m・短軸 0.30m・深さ 0.13 を測る。覆土は単層である。遺物は土師器長甕・小甕が出土している (図版 133)。

Pit908 (図版 62・63・69～72・83、写真図版 99)

10J-5D13 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.23m・深さ 0.27m を測る。覆土は3層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit917 (図版 62・63・71・72・83、写真図版 99)

10J-7F12 に位置する古代の遺構である。北側は土側溝に壊されるが、平面形は円形、断面形は漏斗状である。確認面での長軸 0.25m・短軸 0.22m・深さ 0.15m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit115 (図版 62・63・72)

10J-7G1 に位置する古代の遺構である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸・短軸 0.35m・深さ 0.18m を測る。覆土は単層である。遺物は須恵器無台杯が出土している (図版 133)。

Pit420 (図版 62・63・72・75、写真図版 79・80)

10J-7D13・18 に位置する古代の遺構である。SK140 を切る。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.75m・短軸 0.55m・深さ 0.42 を測る。覆土は3層に分けられる。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、黒色土器無台碗が出土している (図版 133)。

g 掘立柱建物 (SB)

掘立柱建物は 12 基検出された。以下では掘立柱建物を構成する Pit についても個別に説明する。

① SB869

SB869 (図版 62・63・68・84、写真図版 99)

10J-3F に位置する中世の遺構である。主軸方位は N44° W である。東側は調査区域外へ延びるが、桁行 2 間 (3.19m)、梁行 1 間以上 (残存長 1.28m) の側柱建物である。桁行 3 間目にあたる柱穴が存在しないことから、桁行・梁行とも 2 間と判断した。床面積は 5.84m² 以上である。柱穴の規模は径 0.19～0.35m・深さ 0.05～0.14m とややばらつく。柱穴間隔は桁行が 1.23～1.96m、梁行が 1.28m である。

Pit646 (図版 62・63・68・84)

10J-3F1 に位置する。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.21m・深さ 0.14m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit643 (図版 62・63・68・84)

10J-3F1 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.23m・深さ 0.05m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit637 (図版 62・63・68・70・84)

10J-3F7 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.35m・短軸 0.22m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit640 (図版 62・63・68・70・84)

10J-3F7 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.19m・短軸 0.18・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

② SB883

SB883 (図版 62・63・69・84、写真図版 99・100)

10J-5B に位置する中世の遺構である。主軸方位は N55° W である。西側が調査区域外へ延びているため、正確な桁行と梁行は把握できないが、桁行 3 間 (4.53m) 以上、梁行 2 間 (2.51m) 以上の側柱建物である。床面積は 6.59m² 以上である。柱穴の規模は Pit663 が径 0.35m であるほかは、径 0.20m ほどで一定である。柱穴の深さは 0.09～0.21m でややばらつきがある。柱穴間隔は梁行が 1.10m 前後でほぼ等間隔であるが、桁行は 1.31～1.64m でややばらつく。

Pit445 (図版 62・63・69・84)

10J-5B1 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.25m・短軸 0.22m・深さ 0.18m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit663 (図版 62・63・69・84)

10J-5B2 に位置する。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸・短軸 0.21m・深さ 0.21m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit667 (図版 62・63・69・84)

10J-5B3 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.16m・短軸 0.15m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit671 (図版 62・63・69・71)

10J-5B8 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.28m・短軸 0.24m・深さ 0.12m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit351 (図版 62・63・69・71・84)

10J-5B8・13 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸・短軸 0.19m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit874 (図版 62・63・69・71・84)

10J-5B13 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸・短軸 0.18m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

③ SB893

SB893 (図版 62・63・69・84・85、写真図版 8・97・100)

10J-4B・4C・5B・5C に位置する中世の遺構である。主軸方位は N57° W である。桁行 4 間 (9.00m)、梁行 1 間 (3.52m) の側柱建物である。東と北および西の三面に廂をもつ。廂を含めた床面積は 62.03m² である。柱穴の規模は径 0.20～0.55m、深さ 0.09～0.58m とばらつきがある。柱穴間隔は身舎 1.66～2.90m、廂が 0.98～3.06m と不揃いである。SB893 の Pit408 と SB894 の Pit407 の切り合い関係から、SB893 は SB894 よりも新しい。SB910 との新旧関係は不明である。この建物の南西側に SE357 が隣接する。

Pit520 (図版 62・63・67・69・84)

10J-4C16 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.29m・短軸 0.24m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit523 (図版 62・63・67・69・84)

10J-4C16 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.21m・短軸 0.16m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit531 (図版 62・63・67・69・84・85、写真図版 102)

10J-4C22 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.34m・短軸 0.21m・深さ 0.20m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit454 (図版 62・63・67・69・84)

10J-4C23 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.29m・短軸 0.25m・深さ 0.22m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit471 (図版 62・63・69・84)

10J-4C24、5C4 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.21m・短軸 0.14・深さ 0.09m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit873 (図版 62・63・69・84)

10J-5C4 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.21m・短軸 0.18m・深さ

0.09mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit403 (図版 62・63・69・70・84・88)

10J-5C10に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.20m・深さ 0.21mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit525 (図版 62・63・67・69・84・85)

10J-4C21に位置する。平面形は円形、断面形は漏斗状である。確認面での長軸 0.43m・短軸 0.37m・深さ 0.27mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit509 (図版 62・63・67・69・84・85・86、写真図版 100)

10J-4C22に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.13m・深さ 0.18mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit466 (図版 62・63・69・84・85・86、写真図版 101)

10J-5C3に位置する。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.31m・短軸 0.30m・深さ 0.43mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit473 (図版 62・63・69・84・85・86、写真図版 101)

10J-5C4に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸・短軸 0.27m・深さ 0.31mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit408 (図版 62・63・69・70・84・88)

10J-5C10に位置する。SB894を構成するPit407を切る。平面形は円形、断面形は階段状である。確認面での長軸 0.47m・短軸 0.40m・深さ 0.55mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit539 (図版 62・63・67・69・84・85、写真図版 102)

10J-4B25に位置する。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.27m・短軸 0.21m・深さ 0.18mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit528 (図版 62・63・69・84・85、写真図版 100)

10J-5B5に位置する。SD462との切り合いは不明である。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.55m・短軸 0.44m・深さ 0.22mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit500 (図版 62・63・69・84・85、写真図版 102)

10J-5C6に位置する。SD151を切る。Pit477との切り合いは不明である。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.49m・短軸 0.36m・深さ 0.13mを測る。覆土は3層に分けられる。遺物は土師器長甕が出土している。

Pit381 (図版 62・63・69・71・84・85・86、写真図版 101・103)

10J-5C7・8・12・13に位置する。SD151を切る。平面形は楕円形、断面形は階段状である。確認面での長軸 0.48m・短軸 0.39m・深さ 0.40mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit380 (図版 62・63・69・71・84)

10J-5C13に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.22m・深さ 0.10mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit397 (図版 62・63・69・71・84・85・86、写真図版 101)

10J-5C14に位置する。平面形は楕円形、断面形は階段状である。確認面での長軸 0.45m・短軸 0.34m・深さ 0.30mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit675 (図版 62・63・69・84)

10J-5B4・9に位置する。平面形は楕円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.14m・深さ 0.11mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit875 (図版 62・63・69・71・84)

10J-5B10 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.23m・短軸 0.21m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit356 (図版 62・63・69・71・84)

10J-5C6 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.19m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit367 (図版 62・63・69・71・84)

10J-5C11・12 に位置する。平面形は楕円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.41m・短軸 0.30m・深さ 0.57m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit377 (図版 62・63・69・71・84、写真図版 102)

10J-5C13・18 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.55m・短軸 0.37m・深さ 0.35m を測る。覆土は3層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit494 (図版 62・63・69・71・84)

10J-5C19 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.23m・短軸 0.19m・深さ 0.12m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

④ **SB894****SB894** (図版 62・63・69・86、写真図版 8・17・100)

10J-4C・5C に位置する中世の遺構である。主軸方位は N57° W である。桁行 3 間 (7.10m)、梁行 1 間 (3.46m) の側柱建物である。床面積は 22.61m² である。柱穴の規模は径 0.23 ~ 0.48m、深さ 0.05 ~ 0.59m とばらつく。SB893 の Pit408 と SB894 の Pit407 の切り合い関係から、SB894 は SB893 よりも古い。SB895・910 との新旧関係は不明である。

Pit474 (図版 62・63・69・85・86、写真図版 100)

10J-4C22 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.28m・短軸 0.26m・深さ 0.19m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit508 (図版 62・63・67・69・85・86、写真図版 100)

10J-4C22 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.25m・短軸 0.14m・深さ 0.18m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit467 (図版 62・63・69・85・86、写真図版 101)

10J-5C3 に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.23m・短軸 0.15m・深さ 0.05m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit472 (図版 62・63・69・85・86、写真図版 103)

10J-5C4 に位置する。平面形は楕円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.33m・短軸 0.28m・深さ 0.59m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit407 (図版 62・63・69・70・84・88)

10J-5C10 に位置する。SB893 を構成する Pit408 に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.45m・短軸 0.29m・深さ 0.16m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit504 (図版 62・63・69・86)

10J-5C1・6 に位置する。SD151 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.41m・短軸 0.32m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit493 (図版 62・63・69・71・85・86、写真図版 103)

10J-5C8 に位置する。SD151 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.48m・

短軸 0.35m・深さ 0.10m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit396 (図版 62・63・69・71・86・87、写真図版 103)

10J-5C14 に位置する。平面形は楕円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.34m・短軸 0.29m・深さ 0.37m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

⑤ SB895・SA896

SB895・SA896 (図版 62・63・69・71・87、写真図版 8・17・100)

SB895 は 10J-5C に位置する中世の遺構である。主軸方位は N53° W である。桁行 2 間 (4.88m)、梁行 2 間 (3.92m) の側柱建物である。床面積は 17.48m² である。柱穴の規模は径 0.18 ~ 0.41m、深さ 0.15 ~ 0.48m でばらつきがある。SB894 との新旧関係は不明である。

Pit387 (図版 62・63・69・87、写真図版 105)

10J-5C8 に位置する。SD151 を切る。平面形は円形、断面形は箱状である。確認面での長軸 0.41m・短軸 0.36m・深さ 0.28m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit505 (図版 62・63・69・71・87)

10J-5C8・13 に位置する。SD151 を切る。平面形は円形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.25m・短軸 0.18m・深さ 0.20m を測る。遺物は出土していない。

Pit439 (図版 62・63・69・71・84・86・87)

10J-5C14 に位置する。SD151 を切る。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.25m・短軸 0.21m・深さ 0.48m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit385 (図版 62・63・69・71・87)

10J-5C7・12 に位置する。平面形は楕円形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.18m・深さ 0.16m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit360 (図版 62・63・69・71・87)

10J-5C11 に位置する。平面形は円形、断面形は漏斗状である。確認面での長軸 0.18m・短軸 0.17m・深さ 0.17m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit364 (図版 62・63・69・71・87)

10J-5C17 に位置する。平面形は楕円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.28m・短軸 0.20m・深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit340 (図版 62・63・69・71・87、写真図版 104)

10J-5C23 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.28m・短軸 0.26m・深さ 0.21m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SA896 は 10J-5C に位置する中世の遺構である。主軸方位は N53° W である。SD412 と Pit499・438・498 で構成される。柱穴間隔は 1.60m ほどで等間隔である。SD412 の主軸方位は N36° E である。確認面での長軸 3.96m、短軸 0.26m・深さ 0.30m を測る。断面形は半円状である。覆土は単層である。位置的に SB895 に関連する施設の可能性がある。

Pit499 (図版 62・63・69・71・87、写真図版 104)

10J-5C20 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.10m・短軸 0.08m・深さ 0.17m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit438 (図版 62・63・69・71・87、写真図版 104)

10J-5C19 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.12m・短軸 0.09m・深さ 0.17m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit498 (図版 62・63・69・71・87、写真図版 104)

10J-5C24 に位置する。平面形は円形、断面形は漏斗状である。確認面での長軸 0.10m・短軸 0.09m・深さ 0.25m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

⑥ SB910

SB910 (図版 62・63・69・71・88、写真図版 8・97)

10J-5C・5D に位置する中世の遺構である。主軸方位は N29° W である。桁行 3 間 (6.96m)、梁行 1 間 (4.12m) の側柱建物である。床面積は 27.11m² である。柱穴の規模は径 0.20m 前後で一定するが、深さは 0.06 ~ 0.25m とややばらつく。柱穴間隔は 1.59 ~ 3.60m と不揃いである。SB893・894 との新旧関係は不明である。

Pit870 (図版 62・63・69・71・88、写真図版 105)

10J-5C9 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.28m・短軸 0.26m・深さ 0.25m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit411 (図版 62・63・69・70・88)

10J-5D1・6 に位置する。平面形は円形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.22m・深さ 0.14m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit502 (図版 62・63・69・70・71・88)

10J-5D6・7 に位置する。平面形は円形、断面形は箱状である。確認面での長軸 0.18m・短軸 0.16m・深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit399 (図版 62・63・69・70・71・88)

10J-5C20 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.20m・深さ 0.17m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit338 (図版 62・63・69・70・71・88)

10J-5D12 に位置する。平面形は円形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.16m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit495 (図版 62・63・69・70・71・88)

10J-5C20 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.21m・深さ 0.06m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit169 (図版 62・63・69・71・88)

10J-5D21 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.21m・短軸 0.20m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit335 (図版 62・63・69・70・71・72・88)

10J-5D18 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.23m・深さ 0.15m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

⑦ SB901

SB901 (図版 62・63・72・88、写真図版 105・106)

10J-5G・6G に位置する古代の遺構である。主軸方位は N42° E である。桁行 1 間 (3.37m)、梁行 2 間 (2.12m) の側柱建物である。床面積 7.36m² である。柱穴の規模は径 0.30m ほど、深さは 0.10m 弱で一定している。柱穴間隔は梁間が 1.10m 前後である。

Pit223 (図版 62・63・72・88)

10J-5G22 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.27m・短軸 0.24m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit229 (図版 62・63・72・88)

10J-6G2 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.19m・短軸 0.19m・深さ

0.06mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit230 (図版 62・63・72・88)

10J-6G3に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.30m・短軸 0.25m・深さ 0.09mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit220 (図版 62・63・72・88)

10J-6G1・6に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.29m・短軸 0.25m・深さ 0.05mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit227 (図版 62・63・72・88)

10J-6G7に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.31m・短軸 0.28m・深さ 0.09mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

⑧ SB920

SB920 (図版 62・63・71・88、写真図版 105・106)

10J-6C・6D・7C・7Dに位置する古代の遺構である。主軸方位はN58°Eである。桁行1間(2.81m)、梁行1間(2.25m)の側柱建物である。床面積は5.91m²である。柱穴の規模はPit912が径0.18mと小型であるほかは、径0.25m前後で一定である。柱穴の深さは0.20m前後でそうろう。

Pit11 (図版 62・63・71・88)

10J-6C25に位置する。平面形は円形、断面形は漏斗状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.24m・深さ 0.12mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit912 (図版 62・63・71・88)

10J-6D21に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.18m・短軸 0.15m・深さ 0.17mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit23 (図版 62・63・71・88)

10J-7C5に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.23m・深さ 0.14mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit24 (図版 62・63・71・88)

10J-7D2に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.31m・短軸 0.29m・深さ 0.22mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

⑨ SB899

SB899 (図版 62・63・71・72・89、写真図版 106)

10J-6E・7Eに位置する古代の遺構である。主軸方位はN52°Eである。桁行1間(3.00m)、梁行1間(2.40m)の側柱建物である。床面積は6.75m²である。柱穴の規模は径0.30m前後で一定であるが、深さは0.08～0.20mでややばらつく。

Pit63 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E2に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.30m・短軸 0.26m・深さ 0.16mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit68 (図版 62・63・71・72・89)

10J-6E23に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.35m・短軸 0.27m・深さ 0.10mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit123 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E8に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.28m・短軸 0.25m・深さ 0.08mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit75 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E4 に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.36m・短軸 0.25m・深さ 0.20m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

⑩ **SB916****SB916** (図版 62・63・71・72・89、写真図版 106)

10J-7E・7F に位置する古代の遺構である。主軸方位は N75° E である。桁行 2 間 (5.28m)、梁行 1 間 (1.93m) の側柱建物である。床面積は 9.68m² である。柱穴の規模は径 0.20m 前後、深さ 0.10m で一定である。柱穴間隔は北側の桁行が 2.60m で等間隔であるが、南側の桁行は 1.70 ~ 3.29m で不揃いである。

Pit81 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E9 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.21m・深さ 0.06m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit94 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E5 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.17m・深さ 0.14m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit105 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7F1 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.20m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit86 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E14 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.22m・深さ 0.15m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit914 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E10 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.21m・短軸 0.18m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit915 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7F6 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.14m・深さ 0.18m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

⑪ **SB921****SB921** (図版 62・63・71・72、写真図版 89)

10J-7E に位置する古代の遺構である。主軸方位は N49° E である。本遺構は、第 12 次調査「寺道上遺跡」〔渡邊ほか 2001〕の調査成果と照らし合せて検討した結果、桁行 2 間(3.93m)、梁行 1 間(1.52m)の側柱建物と認定した。床面積は 6.31m² 以上である。柱穴の規模は径 0.20m 前後、深さ 0.20m 前後で一定している。柱穴間隔は桁行が 1 間 2.00m 前後で等間隔である。

Pit85 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E14 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.24m・深さ 0.17m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit88 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E14 に位置する。平面形は円形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.16m・短軸 0.10m・深さ 0.35m を測る。覆土は単層である。遺物は須恵器無台杯、土師器無台椀・長甕・小甕が出土している (図版 133)。

Pit127 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E13 に位置する。平面形は円形、断面形は V 字状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.20m・深さ

0.28mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

② SB924

SB924 (図版 62・63・89、写真図版 106)

10J-7E・7Fに位置する古代の遺構である。主軸方位はN15°Eである。寺道上遺跡〔渡邊ほか2001〕の調査成果と照らし合わせて検討した結果、桁行1間(2.20m)、梁行1間(1.76m)の側柱建物と認定した。床面積は3.90m²である。柱穴の規模は径0.25m前後で一定である。

Pit92 (図版 62・63・71・72・89)

10J-7E15, 7F11に位置する。平面形は円形、断面形は漏斗状である。確認面での長軸0.21m・短軸0.19m・深さ0.33mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

h 柵 (SA)

柵は7基検出された。以下では柵と合せて構成するPitについても個別に説明する。

① SA923

SA923 (図版 62・63・67・90、写真図版 90)

10J-3A・3Bに位置する中世の遺構である。主軸方位はN54°Wである。柱穴5基で構成され、全長は4.70mを測る。柱穴の規模は径0.20m前後、深さ0.20m前後で一定している。柱穴間隔は1.17～1.54mである。Pit766とPit758は近接している。

Pit758 (図版 62・63・67・69・90)

10J-3B11・12・16・17に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。確認面での長軸0.26m・短軸0.20m・深さ0.15mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

Pit766 (図版 62・63・67・69・90)

10J-3B11に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸0.20m・短軸0.16m・深さ0.20mを測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit768 (図版 62・63・67・90)

10J-3B11に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸0.16m・短軸0.14m・深さ0.12mを測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit743 (図版 62・63・67・90)

10J-3A15に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸0.22m・短軸0.19m・深さ0.14mを測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit742 (図版 62・63・67・90)

10J-3A10に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸0.18m・短軸0.15m・深さ0.17mを測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

② SA867

SA867 (図版 62・63・67・70・90、写真図版 92)

10J-4Dに位置する中世の遺構である。主軸方位はN45°Wである。柱穴4基で構成され、全長は5.49mを測る。柱穴の規模は径0.19～0.30m、深さ0.10～0.32mとばらつく。柱穴間隔は1.24～2.26mである。

Pit692 (図版 62・63・67・68・69・70・90)

10J-4D6・7に位置する。平面形は円形、断面形は台形状である。確認面での長軸0.19m・短軸0.16m・深さ0.10mを測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit685 (図版 62・63・67・68・69・70・90)

10J-4D12に位置する。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸・短軸0.18m・深さ0.12mを測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit612 (図版 62・63・67・69・70・90)

10J-4D18 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.22m、短軸 0.21m で深さ 0.12m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit476 (図版 62・63・67・69・70・90)

10J-4D18・19 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.30m・短軸 0.28m・深さ 0.32m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

③ SA866

SA866 (図版 62・63・69～72・90、写真図版 92)

10J-5D・5E に位置する中世の遺構である。主軸方位は N53° W である。柱穴 4 基で構成され、全長は 8.14m を測る。柱穴の規模は径 0.20m 前後で一定するが、深さは 0.07～0.25m でややばらつく。

Pit318 (図版 62・63・69・70・90)

10J-5E1 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.20m・深さ 0.16m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit310 (図版 62・63・69・70・72・90)

10J-5E7 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.18m・深さ 0.17m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit301 (図版 62・63・69・70・71・72・90)

10J-5E8 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.21m・短軸 0.20m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit294 (図版 62・63・69・70・71・72・90)

10J-5E14 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.22m・深さ 0.25m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

④ SA864

SA864 (図版 62・63・68～70・90、写真図版 92)

10J-3E・4E・4F に位置する中世の遺構である。主軸方位は N36° W である。柱穴 6 基で構成され、全長は 13.28m を測る。柱穴の規模は径 0.19～0.40m、深さ 0.05～0.29m とばらつきがある。柱穴間隔は 1.38～4.00m である。

Pit435 (図版 62・63・68・70・90)

10J-4F11 に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.34m・短軸 0.25・深さ 0.12m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit552 (図版 62・63・68・70・90)

10J-4E15 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.19m・深さ 0.13m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit555 (図版 62・63・68・70・90、写真図版 106)

10J-4E10 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.40m・短軸 0.28m・深さ 0.29m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit570 (図版 62・63・68・69・70・90、写真図版 106)

10J-3E23・24 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.22m・短軸 0.20m・深さ 0.21m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit618 (図版 62・63・68・69・70・90)

10J-3E17 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.13m・深さ

0.05m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit619 (図版 62・63・68・69・70・90)

10J-3E12 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.19m・短軸 0.15m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

⑤ SA865

SA865 (図版 62・63・70・72・90、写真図版 92・106)

10J-5E・5F に位置する中世の遺構である。主軸方位は N48° E である。柱穴 4 基で構成され、全長は 7.56m を測る。柱穴の規模は径 0.30m 前後、深さ 0.15m 前後で一定である。柱穴間隔は 1.80～3.46m である。

Pit291 (図版 62・63・70・71・72・90)

10J-5E20 に位置する。平面形は楕円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.20m・深さ 0.14m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit284 (図版 62・63・70・71・72・90)

10J-5F11・12 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.22m・深さ 0.18m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit268 (図版 62・63・70・72・90)

10J-5F7・12 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.36m・短軸 0.25m・深さ 0.14m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit266 (図版 62・63・70・72・90)

10J-5F8 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。確認面での長軸 0.28m・短軸 0.24m・深さ 0.09m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

⑥ SA907

SA907 (図版 62・63・71・72・90、写真図版 105・106)

10J-6D に位置する古代の遺構である。主軸方位は N7° E である。柱穴 4 基で構成され、全長は 5.72m を測る。柱穴の規模は径 0.30m 前後、深さ 0.10m 前後で一定である。柱穴間隔は 1.56～2.46m である。

Pit135 (図版 62・63・71・72・90)

10J-6D24 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.24m・短軸 0.23m・深さ 0.06m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit189 (図版 62・63・71・72・90)

10J-6D19・20 に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.34m・短軸 0.25m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit195 (図版 62・63・71・72・90)

10J-6D15 に位置する。平面形は円形、断面形は U 字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.23m・深さ 0.13m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit196 (図版 62・63・71・72・90)

10J-6D10 に位置する。平面形は円形、断面形は漏斗状である。確認面での長軸 0.23m・短軸 0.17m・深さ 0.10m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

⑦ SA919

SA919 (図版 62・63・71・72・90)

10J-7E に位置する古代の遺構である。主軸方位は N65° W である。柱穴 3 基で構成され、全長は 2.20m を測る。柱穴の規模は径 0.25m 前後、深さ 0.10m 前後で一定である。柱穴間隔は 1.35m で等間隔である。

Pit130 (図版 62・63・71・72・90)

10J-7E11 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.25m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit57 (図版 62・63・71・72・90)

10J-7E12 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.20m・短軸 0.19m・深さ 0.07m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

Pit128 (図版 62・63・71・72・90)

10J-7E12 に位置する。平面形は円形、断面形はV字状である。確認面での長軸 0.26m・短軸 0.24m・深さ 0.12m を測る。覆土は単層で遺物は出土していない。

3) 2 区 の 概 要

第 41 次 (13) 調査 2 区は東に磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会が本発掘調査した寺道上遺跡 (現細池寺道上遺跡) B 地点 [小池ほか 1994] が隣接する。標高は 7.45m ~ 7.60m で南東から北西へ緩やかに傾斜している。検出された遺構は性格不明遺構 (SX) 1 基、溝 (SD) 11 基、水田 (SN) 6 基、小土坑 (Pit) 2 基の計 20 基である。調査面積は上端面積 212.295m²、下端面積 157.40m² である。

4) 2 区 の 遺 構 各 説

a 性格不明遺構 (SX)

SX8 (図版 91・95・98、写真図版 108)

13K-10H9・10・14・15 に位置する中世の遺構である。遺構確認面はIV層である。SD7 を切る。遺構は調査区域外へ延びるため平面形は不明、断面形は台形状である。確認面での長軸 1.74m・短軸 0.43m・深さ 0.40m を測る。覆土は 3 層に分けられる。遺物は出土していない。

b 溝 (SD)

SD18 (図版 91・94・98、写真図版 109)

13K-6G14・15・19・20 に位置する中世の遺構である。主軸方位は N51° E で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸 1.72m・短軸 1.42m 深さ 0.14m を測る。覆土は単層である。遺物は土師器小甕が出土している。

SD6 (図版 91・94・98、写真図版 109)

13K-7G5・10、7H6 に位置する中世の遺構である。主軸方位は N69° E で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸 1.60m・短軸 1.49m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD14 (図版 91・94・98、写真図版 109)

13K-7G15・20、7H11・16・21、8H1・2・7 に位置する中世の遺構である。遺構確認面はIV層である。SD5 を切る。主軸方位は N34° W で北西側と南東側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸 7.10m・短軸 1.00m・深さ 0.44m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は須恵器長頸壺、土師器小甕、軽石製石製品が出土している (図版 138・143)。

SD5 (図版 91・94・95・98、写真図版 109)

13K-8H1・6 に位置する中世の遺構である。遺構確認面はIV層である。SD14 に切られている。主軸方位は N75° E で西側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸 0.90m・短軸 0.54m・深さ 0.33m を測る。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SD13 (図版 91・95・98・99、写真図版 109)

13K-8H12・16 に位置する中世の遺構である。SN4 との切り合いは不明である。主軸方位は N61° E で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸 3.50m・短軸 0.40m・深さ 0.08m を測る。SN4 の北端部にある。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD11 (図版 91・95・98・99、写真図版 110)

13K-8H16・17・21・22 に位置する中世の遺構である。SN4 との切り合いは不明である。主軸方位は N66° E で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸 3.40m・短軸 1.12m・深さ 0.12m を測る。底面の凹凸が著しい。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD12 (図版 91・95・98・99、写真図版 110)

13K-8H13・16・17 に位置する中世の遺構である。SN4 との切り合いは不明である。主軸方位は N80° E と N49° E で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸 3.40m・短軸 0.80m・深さ 0.11m を測る。底面の凹凸が著しい。覆土は単層である。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕が出土している(図版 138)。

SD10 (図版 91・95・98・99、写真図版 110)

13K-9H13 に位置する中世の遺構である。SN4 との切り合いは不明である。主軸方位は N80° E で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸 1.42m・短軸 1.00m・深さ 0.18m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD9 (図版 91・95・98・99、写真図版 110)

13K-9H13・14・18・19 に位置する中世の遺構である。SN4 との切り合いは不明である。主軸方位は N76° E で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は弧状である。確認面での長軸 1.44m・短軸 1.10m・深さ 0.14m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD3 (図版 91・96～99、写真図版 110)

14K-2I12・17・18・22 に位置する。遺構の時期は近世以降である。遺構確認面はⅢ a 層である。SN1 を切る。主軸方位は N60° E で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸 1.60m・短軸 1.52m・深さ 0.63m を測る。覆土は3層に分かれる。遺物は出土していない。

SD7 (図版 91・95・98、写真図版 110)

13K-10H14 に位置する中世の遺構である。SX8 に切られる。主軸方位は N84° E で西側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸 1.10m・短軸 0.44m・深さ 0.06m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

c 水 田 跡 (SN)

SN21 (図版 91・93・99、写真図版 110・111)

13K-3F・3G・4G に位置する中世の遺構である。遺構確認面はⅣ層である。主軸方位は N39° W で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸 6.38m・短軸 3.60m・深さ 0.38m を測る。覆土は2層に分けられる。底面はほぼ平坦だが、遺構の両端にわずかに凹凸がみられる。遺物は須恵器有台杯が出土している(図版 138)。

SN20 (図版 91・93・99、写真図版 111)

13K-4G・5G に位置する中世の遺構である。遺構確認面はⅣ層である。主軸方位は N16° W で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸 7.20m・短軸 1.48m・深さ 0.12m を測る。覆土は2層に分けられる。底面はほぼ平坦だが、南端に多くの凹凸がみられる。遺物は土師器小甕が出土している(図版 138)。

SN19 (図版 91・93・99、写真図版 111)

13K-5G13・18・23 に位置する中世の遺構である。遺構確認面はⅣ層である。主軸方位は N19° W で東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸 8.30m・短軸 1.40m・深さ 0.17m を測る。覆土は2層に分けられる。底面は全体に凹凸がみられる。遺物は土師器長甕が出土している(図版 138)。

SN4 (図版 91・95・98・99、写真図版 111)

13K-8H・9H に位置する中世の遺構である。遺構確認面はIV層である。SD13・SD12・SD11・SD9・SD10との切り合いは不明である。主軸方位はN15°Wで東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸14.40m・短軸3.36m・深さ0.17mを測る。覆土は2層に分けられる。底面はほぼ平坦だが、溝状の遺構がいくつか付属している。遺物は出土していない。

SN2 (図版91・96・97・99、写真図版112)

14K-1H・1I に位置する中世の遺構である。遺構確認面はIV層である。主軸方位はN15°Wで東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸6.16m・短軸1.30m・深さ0.12mを測る。覆土は3層に分けられる。底面はほぼ平坦だが、北端に多くの凹凸がみられる。遺物は出土していない。

SN1 (図版91・96～99、写真図版72・112)

14K-1I・2I に位置する中世の遺構である。遺構確認面はIV層である。SD3に切られる。主軸方位はN13°Wで南・東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸14.64m・短軸1.34m・深さ0.19mを測る。覆土は3層に分けられる。底面はほぼ平坦だが、北端の凹凸が著しい。遺物は出土していない。

d 小土坑 (Pit)

Pit17 (図版91・94・99、写真図版112)

13K-6G3 に位置する中世の遺構である。西側は調査区域外へ延びるが、平面形は楕円形と推測でき、断面形は漏斗状である。確認面での長軸0.54m・短軸0.42m・深さ0.48mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

Pit16 (図版91・94・99、写真図版112)

13K-6G9 に位置する中世の遺構である。平面形は円形、断面形はU字状である。確認面での長軸0.34m・短軸0.30m・深さ0.52mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

5) 3区の概要

第41次(13)調査3区は、南東に第32次(11)調査区が隣接する。標高は7.40m～7.70mで、南東から北西に緩やかに傾斜している。検出した遺構は性格不明遺構(SX)3基、溝(SD)1基、水田(SN)1基、小土坑(Pit)1基の計6基である。調査面積は上端面積103.67m²、下端面積80.91m²である。

6) 3区の遺構各説

a 性格不明遺構 (SX)

SX5 (図版100・101・104、写真図版114)

16L-10G9 に位置する中世の遺構である。遺構確認面はIV層である。遺構は調査区域外に延びているが、平面形は楕円形と推測でき、断面形は弧状である。確認面での長軸1.00m・短軸0.74m・深さ0.14mを測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX2 (図版100・101・104、写真図版73・114・115)

17L-2G9・10・14・15 に位置する古代の遺構である。SX6に切られる。遺構は調査区域外に延びているが、平面形は楕円形と推測でき、断面形は台形状である。確認面での長軸1.86m・短軸1.68m・深さ0.20mを測る。覆土は2層に分けられる。遺物は須恵器杯蓋・壺蓋、土師器無台碗・長甕・小甕が出土している(図版138)。

SX6 (図版100・101・104、写真図版73・114・115)

17L-2G10 に位置する古代の遺構である。SX2を切る。平面は円形である。確認面での長軸1.10m・短軸1.08m・深さ0.20mを測る。覆土は単層である。遺物は須恵器無台杯・壺蓋、土師器無台碗・長甕・小甕・鍋、砥石・磨石・礫が出土している(図版138・139・142)。

b 溝 (SD)

SD3 (図版100・101・104、写真図版115)

17L-1G25・1H21 に位置する。遺構の時期は近世以降である。遺構確認面はIII層である。主軸方向はN10°W

東側と西側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸 1.60m・短軸 1.38・深さ 0.38m を測る。覆土は2層に分けられる。遺物は出土していない。

c 水田跡 (SN)

SN1 (図版 100・102～104、写真図版 115)

17L-3H、4H に位置する中世の遺構である。主軸方向は N8° E で南側・東側・西側は調査区域外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での長軸 13.70m・短軸 1.34m・深さ 0.24m を測る。底面はほぼ平坦である。覆土は単層である。遺物は出土していない。

d 小土坑 (Pit)

Pit4 (図版 100・101・104、写真図版 115)

17L-1G20 に位置する古代の遺構である。平面形は楕円形、断面形は弧状である。確認面での長軸 0.60m・短軸 0.40m・深さ 0.08m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

第4節 遺物

A 遺物の概要

細池寺道上遺跡からは、古代・中世・近世の遺物が出土している。遺物出土総量は第 32 次 (11) 調査、第 38 次 (12) 調査、第 41 次 (13) 調査を合わせてコンテナ (内寸 54.5×33.6×10.0cm) に 139 箱である。遺物の内容は第 32 次 (11) 調査が古代、中・近世の土器・陶磁器、鉄製品、石製品、木製品合わせて 2 箱である。第 38 次 (12) 調査が古代の土器 86 箱、中・近世の土器・陶磁器 1 箱、鉄製品・鍛冶関連遺物・石製品 1 箱、木製品 4 箱である。第 41 次 (13) 調査が古代の土器 28 箱、中・近世の土器・陶磁器 8 箱、鉄製品 1 箱、石製品・搬入礫等 5 箱、木製品・種子等 3 箱である。

出土遺物の記述については、種別ごとに古代の土器、中・近世の土器・陶磁器、鉄製品・鍛冶関連遺物、石製品、木製品の順に、さらに調査年次、調査区、遺構種別 (井戸 SE、土坑 SK、性格不明遺構 SX、溝 SD、小土坑 Pit、水田跡 SN、旧河道) の順で行う。土器・陶磁器の図面図版・観察表の記載は調査年次、調査区、遺構種別の順に通し番号とした。

B 奈良・平安時代の土器

奈良・平安時代の土器は須恵器、土師器、黒色土器がある。遺跡全体の総重量比は須恵器 16.97% (7,867.42g)、土師器 82.38% (38,203.41g)、黒色土器 0.65% (301.93g)。総点数比は須恵器 4.18% (336 点)、土師器 95.26% (7,662 点)、黒色土器 0.56% (45 点) である。内訳は包含層の総重量比は須恵器 18.07% (3,952.43g)、土師器 81.52% (17,829.76g)、黒色土器 0.41% (90.43g)。総点数比は須恵器 3.29% (134 点)、土師器 96.39% (3,928 点)、黒色土器 0.32% (13 点) である。遺構出土の総重量比は須恵器 15.98% (3,914.99g)、土師器 83.16% (20,373.65g)、黒色土器 0.86% (211.50g)、総点数比は須恵器 5.09% (202 点)、土師器 94.10% (3,734 点)、黒色土器 0.81% (32 点) である。遺跡全体での比率を見ると、重量比・点数比とも土師器の量が卓越している。

各調査年度、調査区ごとの総重量比、総点数比は以下で各項ごとに示す。詳細な土器観察表は別表 7 に、遺構別器種構成比率は別表 12～14 に、包含層出土土器の重量分布図は図版 12・21・55・59・64・92・103 に示した。

本遺跡で出土した奈良・平安時代の土器類は、後述するが 8 世紀後葉から 10 世紀初頭前後の年代観が想定される。なお、本文中の時期区分は春日真実氏による編年〔春日 1999〕を基本とした。

1) 土器の分類と記述

記述は最初に土器分類を須恵器、土師器、黒色土器の順に行い、次に遺構・包含層出土土器について記した。

分類は形態・手法による分類はアルファベット大文字で(A・B……)と表した。さらに細分する場合は算用数字(1・2……)とアルファベット小文字で(a・b……)と表現した。法量による分類はローマ数字で(I・II……)と表した。成形・調整の表現・名称は、中谷内遺跡〔立木ほか1999〕、萱免遺跡〔立木ほか2009〕の記載に準じたが、一部変更した。

1. 「ロクロナデ」はロクロ回転を利用したナデで、そのほかのものは「ナデ」とした。
2. ロクロ回転を利用した削りを「ロクロケズリ」、利用しないものは「ケズリ」とした。
3. ロクロ回転を利用した刷毛目を「カキメ」、利用しないものは「ハケメ」とした。
4. 黒色土器無台碗・土師器無台碗などに見られるへら磨きは「ミガキ」とした。
5. 須恵器大甕・横瓶、土師器長甕・鍋などの外面に見られる叩板工具を用いた成形痕を「タタキメ」とし、内面の当て具工具を用いての成形痕を「当て具痕」とした。これらの細分類は、内堀信雄氏の分類〔内堀1988〕、柿田祐司氏の分類〔柿田2001〕を基本に第13図のようにした。なお、平行線文d類には、木目の有無が判然としないものも含めた。

須恵器の胎土については山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか1989a〕、古代阿賀北地域の土器様相〔春日ほか2004〕などを参考に、次のA～D群に分類した。

A群：胎土そのものが相対的に粗く、石英・長石・雲母を多く含む。器面はざらついたものが一般的で、小礫が露出する。阿賀北地方の窯跡の須恵器と推定される一群である。

B群：胎土そのものが精良で、白色小粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しが見られる。佐渡の小泊窯跡群の須恵器と推定される一群である。

C群：胎土そのものは比較的精良であり、石英・長石の小粒子を少量含む。器面は滑らかである。新津丘陵窯跡群の須恵器と推定される。

D群：信濃川左岸、長岡市西部の旧和島村から三島郡出雲崎町にかけて分布する西古志窯跡群や渋海川流域に点在する窯跡群の須恵器と推定される一群である。

次に本遺跡の特徴を整理するため器種分類を行い、器種ごとに説明を行う。以下、須恵器、土師器、黒色土器の順で概説する。

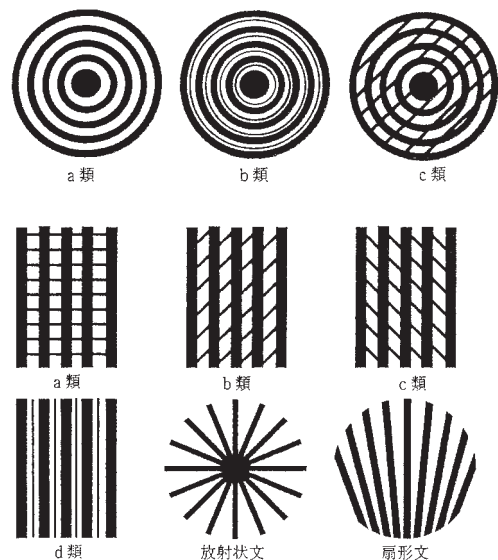
須恵器 食膳具と貯蔵具がある。

無台杯 形態と法量の組み合わせで分類した。口縁部形態の分類は底部から口縁部が内湾気味に立ち上がるものをA類、底部から口縁部が直線的に立ち上がるものをB類、底部から内湾気味に立ち上がり口縁部で外反するC類に細分した。口径が12.6cm以上のものをI類、12.5cm以下のものをII類とした。

有台杯 高台の付く杯である。口縁部の形態分類は無台杯と共通の分類を用いたが、身が浅いものを1類、深身のものを2類とした。口径が12.6cm以上のものをI類、12.5cm以下のものをII類とした。

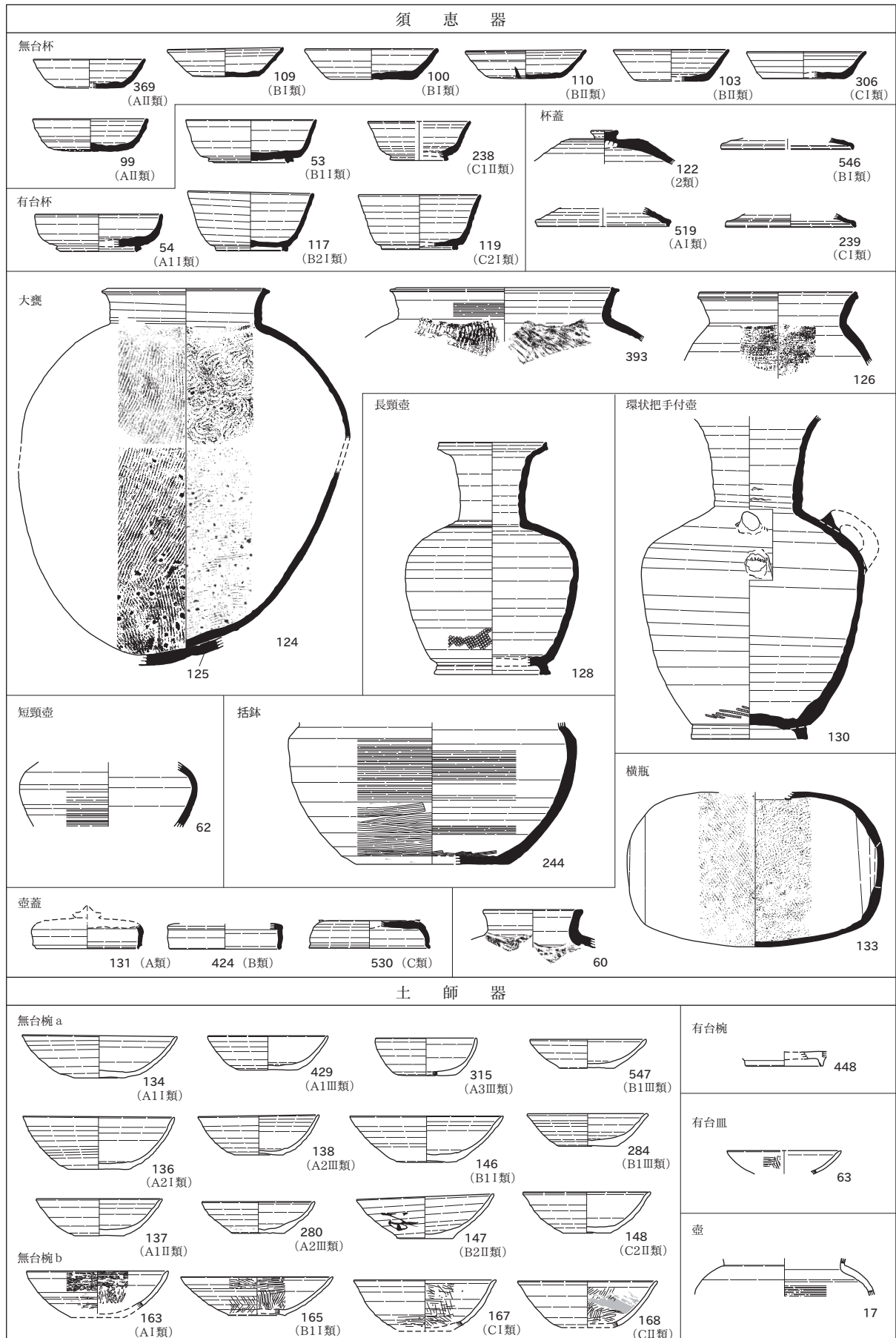
杯蓋 有台杯に伴う摘みのある蓋である。口縁部形態、摘みの形態および法量により細分を行った。口縁端部が「く」の字状に曲がるものをA類、垂直に下がるものをB類、外反するものをC類とした。摘みの形態はボタン状のものを1類、擬宝珠状のものを2類とした。口径12.6cm以上のものをI類、口径12.5cm以下のものをII類とした。

大甕 大形、丸底の甕を一括した。

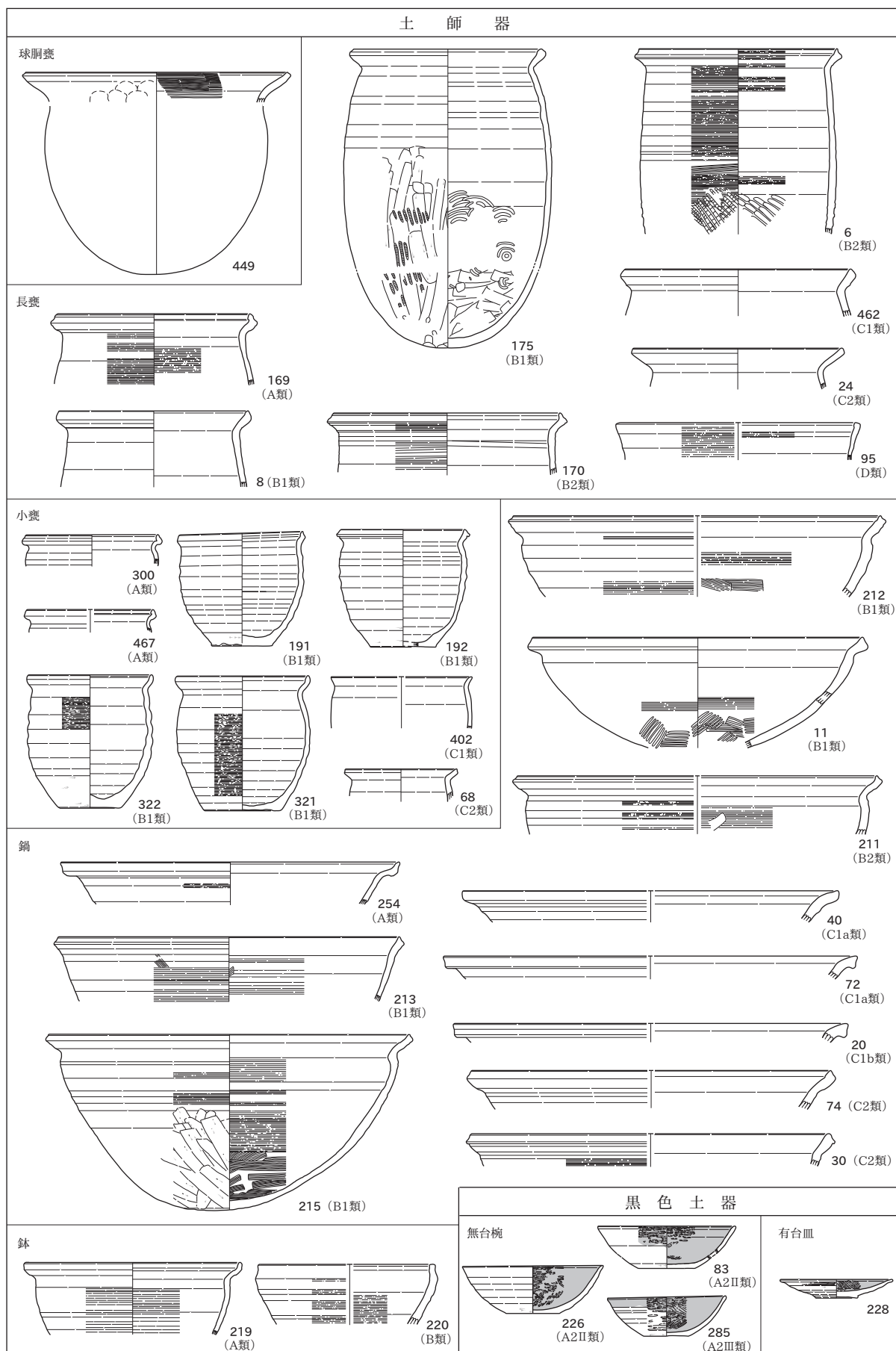


名称	分類基準	略号
同心円文 a 類	木目のみられないもの	D a
同心円文 b 類	年輪状の木目のみられるもの	D b
同心円文 c 類	柾目状の木目のみられるもの	D c
平行線文 a 類	木目が彫り込みに対し直交するもの	H a
平行線文 b 類	木目が右上がりに斜交するもの	H b
平行線文 c 類	木目が左上がりに斜交するもの	H c
平行線文 d 類	木目が平行するもの	H d

第13図 タタキメ・当て具痕の細分類図
(柿田2001 転載・改変)



第14図 細池寺道上遺跡土器分類図(1) (S = 1/6, 124・133はS = 1/8)



第 15 図 細池寺道上遺跡土器分類図 (2) (S = 1/6)

長頸壺 長い頸部を持つ瓶あるいは壺を一括した。底部には高台が付く。環状把手が付くものが1点見られる。

短頸壺 口縁部が短く直立し、球胴状の体部を持つ壺で、高台が付く。全体形がわかるものはない。

壺蓋 短頸壺の蓋である。口縁端部の先端が薄くなるものをA類、垂直に下がるものをB類、外反するものをC類とした。

括鉢 口縁部が屈曲し、底部が平底になる大型の鉢である。

鉢 全体形が不明な鉢を一括した。A類は底部から内湾して開き、口縁部が外反し、端部が受け口状となるもの。B類は口縁端部が内湾するもので、仏具である金属器を模倣したものと考えられる。

横瓶 俵状の体部に、直立する短い口縁部が付く瓶類である。

土師器 大きく食膳具と煮炊具がある。食膳具には無台椀・有台椀・有台皿がある。煮炊具には長甕・小甕・鍋がある。

無台椀 製作手法の違いにより、ロクロナデ後に内面をナデ調整するものと、ロクロナデ後に体部下半外面にロクロケズリ、体部内面にミガキを施すものが存在する。後者は黒色土器無台椀などに見られる手法と共通する。前者を無台椀a、後者を無台椀bとする。口縁部形態の分類は底部から口縁部が内湾気味に立ち上がるものをA類、底部から口縁部が直線的に立ち上がるものをB類、底部から内湾気味に立ち上がり口縁部で外反するものをC類に細分した。口径は3分類し、15.1～17.0cmがI類、13.1～15.0cmがII類、13.0cm以下がIII類である。器高指数での分類は30以下の1類、31～35の2類、36以上の3類に分けた。

有台椀 高台の付く椀である。底部のみ出土している。

有台皿 有台椀よりも器高が低く、外側に大きく開く体部を持つもの。

球胴甕 非ロクロ成形の「佐渡型」球胴甕が1点出土している。

長甕 口縁部から体部上半をロクロ成形し、下半はタタキ成形によって製作されるもの。ロクロ成形の長甕は口縁部の形態によって4種類に大別した。A類は口縁部が受け口状になるもの、B類は口縁部が頸部で屈曲し、口縁部端部が上方に伸びるもの、C類は口縁部が外反し、そのまま伸びるもの、D類は口縁部が直立して開くものである。B・C類は端部の形態によってさらに細分でき、口縁部外面が凹みながら上方に伸び、丸く収まるものをB1類、上方に伸びた口縁部端部が強く摘まれるものをB2類、口縁部端部が丸く収まるものをC1類、端部に面を持つものをC2類とした。出土量はB1類が最も多い。

小甕 ロクロで成形され、平底の底部を持つ。A～C類は長甕と共通の口縁部分類を用いた。口縁部から底部の残る5点は口径13.0～13.9cm、器高12.2～14.4cmである。A類、B1類、C1・2類がある。

鍋 体部上半をロクロで成形し、下半はタタキ成形によって製作される。口縁部の形態分類は、長甕と共通の分類を用いた。C1類については口縁部先端が丸く収まるものをC1a類とし、摘み出されるものをC1b類とした。A類、B1・2類、C1a・C1b・C2類が認められる。

黒色土器 食膳具の無台椀と有台皿が出土している。内面全体を黒色処理した「内黒」の土器である。

無台椀 内面全体にミガキが施されるもので、口縁部外面が磨かれるものもある。分類は土師器無台椀と同様である。

有台皿 有台椀よりも器高が低く、外側に大きく開く体部を持つもので、削り出し高台の皿がある。

2) 出土土器各説

a 第32次(11)調査 1区出土土器

第32次(11)調査1区、2区の総重量比は須恵器16.25%(13g)、土師器83.75%(67g)、黒色土器0%(0g)、総点数比は須恵器9.09%(1点)、土師器90.91%(10点)、黒色土器0%(0点)である。

① 表土出土土器(図版111、写真図版126)

土師器長甕(1)が出土している。口縁部から体部の資料で、B1類に分類される。内外面ロクロナデが施される。

b 第32次(11)調査 2区出土土器

① 表土出土土器(図版111、写真図版126)

須恵器無台杯(3)が出土している。無台杯の底部片である。胎土はB群である。

c 第38次(12)調査 1区出土土器

本調査区の総重量比は須恵器20.42%(4,999.00g)、土師器78.75%(19,279.00g)、黒色土器0.83%(204.00g)、総点数比は須恵器5.36%(211点)、土師器93.95%(3,695点)、黒色土器0.69%(27点)である。内訳は包含層の総重量比は須恵器26.83%(2,300.00g)、土師器72.20%(6,188.00g)、黒色土器0.97%(83g)、総点数比は須恵器4.73%(60点)、土師器94.48%(1,199点)、黒色土器0.79%(10点)である。遺構出土の総重量比は須恵器16.96%(2,699.00g)、土師器82.28%(3,091.00g)、黒色土器0.76%(121.00g)、総点数比は須恵器5.67%(151点)、土師器93.69%(2,496点)、黒色土器0.64%(17点)である。

① 遺構出土土器

SK1033(図版111・112、写真図版126)

土師器長甕(6~10)・鍋(11~14)が出土している。6~10は長甕である。6は口縁部から体部の資料で、SN1001出土長甕と接合する。B2類に分類でき、体部上半は内外面にカキメが残る。体部下半外面に平行線文a類、内面に平行線文d類が残る。7は体部の資料で、体部上半外面にカキメが残る。体部下半外面に平行線文a類、内面に扇形文が残る。8は口縁部から体部の資料で、B1類である。SK1043出土長甕と接合する。9は口縁部から体部の資料である。B1類で、体部上半外面にカキメが残る。10は体部片で、外面に平行線文a類、内面に平行線文d類が残る。11~14は鍋で11は口縁部から体部の資料である。B1類で、体部上半の内外面にカキメが残る。体部下半外面に平行線文d類、内面に平行線文d類、ハケメが残る。12は口縁部から体部の資料で、B1類とした。13・14は体部の資料である。13の体部下半外面に平行線文b類、内面に平行線文d類が残る。14の体部下半外面に平行線文a類、内面に平行線文d類が残る。本遺構の土器は春日編年のVI期に比定される。

SK1034(図版112、写真図版126)

須恵器横瓶(15)、土師器小甕(16)・壺(17)が出土している。15は横瓶体部片で、胴部の閉塞円盤が欠落した状態である。外面は平行線文d類後カキメが施され、内面は同心円文a類が残る。胎土はC群である。16の小甕は口縁部から体部の資料である。B1類で、体部上半の内外面にカキメが残る。17の壺は頸部から体部の資料で、酸化炎焼成の土師器とした。体部上半内面にカキメが残る。

SK1090(図版112、写真図版126)

土師器長甕(18)・小甕(19)・鍋(20)が出土している。18の長甕は体部片である。体部上半外面にカキメが残る。体部下半外面に平行線文a類、内面に平行線文a類が残る。19は小甕の底部片で、内外面にハケメを残す。20は鍋の口縁部片で、C1b類である。

SX1239(図版112、写真図版127)

須恵器無台杯(21)・有台杯(22)、土師器無台椀a(23)が出土している。21の無台杯はBI類で、胎土はC群である。21は春日編年のV期である。22の有台杯は口縁部から体部の資料である。B1II類で、胎土はC群である。23の無台椀aは口縁部から体部の資料である。

SX1236(図版112、写真図版127)

土師器長甕(24・25)・鍋(26)が出土している。24・25は長甕である。24は口縁部の資料で、C2類に分類される。25は体部片で、外面に平行線文a類、内面に同心円文c類後、ハケメが残る。26の鍋は口縁部から体部の資料である。B1類で、口縁部から体部上半外面と体部上半内面にカキメが残る。

SD1003(図版112・113、写真図版127)

須恵器壺(27)、土師器無台椀(29)・長甕(28)・小甕(31)・鍋(30・32)が出土している。27は壺の体部片で、

外面にカキメが残る。胎土はC群である。29は無台碗の底部片で、底部は糸切りである。28の長甕はB1類の口縁部片である。31は小甕の底部片で、糸切りである。30・32は鍋で30は口縁部から体部の資料である。C2類で、体部上半外面にカキメが残る。32は体部片である。体部下半外面に平行線文c類、内面に平行線文b類が残る。

SD1055 (図版 113、写真図版 127)

須恵器無台杯 (33) が出土している。底部片で、ヘラ切りである。酸化炎焼成で灰白色を呈する。

SD1056 (図版 113、写真図版 127)

須恵器無台杯 (34) が出土している。口縁部から体部の小破片である。B I 類で、胎土はB群である。

SD1069 (図版 113、写真図版 127)

土師器小甕 (35) が出土している。口縁部から体部の資料で、B1類である。

SD1102 (図版 113、写真図版 127)

須恵器無台杯 (37)、土師器無台碗 (38)・小甕 (39)・鍋 (40) が出土している。37の無台杯は体部から底部の資料である。底部はヘラ切り後にナデ調整する。胎土はC群である。38の無台碗は口縁部片で、A II 類である。39の小甕は底部片で、底部を糸切り後にミガキ調整する。40の鍋は口縁部の資料で、C1a類である。

SD1103 (図版 113、写真図版 127)

土師器長甕 (42) が出土している。体部片で、外面をケズリ、内面をハケメ調整している。

SN1001 (図版 113・114、写真図版 127・128)

SN1001では覆土下層や壁際の溝から多数の土器が出土した。多くは小破片であったが、須恵器無台杯 (43～45・47～51)・有台杯 (46・52～55)・杯蓋 (56・57)・大甕 (58・59)・横瓶 (60)・短頸壺 (61・62)、土師器有台皿 (63)・長甕 (64～66)・小甕 (67～70)・鍋 (71～74)、黒色土器無台碗 (75) について図化し、以下に記す。

須恵器無台杯のうち43・47～49がB I 類、44がA I 類、45がC II 類である。器高指数は推定値のものも含め23～28、底径指数は50～51・69～73である。50・51は体部下半から底部の資料である。胎土は43がA群、44・45・47・50・51がC群、48・49がD群である。有台杯のうち46がC I 類、52・53がB I I 類、54がA I I 類、55がB I II 類である。高台は52が外端接地、53・54が内端接地である。胎土は46・52～55がC群である。56の杯蓋は口縁部片である。C I 類で、胎土はB群である。57の杯蓋は天井部から体部の資料で、焼歪みにより天井部が窪んでいる。胎土はC群である。58・59は大甕で胎土はC群である。58は口縁部の資料で、頸部から緩やかに外反し、口縁部端部は外側に屈曲し三角形に突出する。59は体部片で、内外面に吹き出しが見られる。体部外面に平行線文a類、内面に平行線文d類が残る。60は横瓶の口縁部から体部の資料である。体部上半に平行線文d類後にハケメ、内面に同心円文a類が残る。61・62は短頸壺で、61は体部下半の資料で、胎土はC群である。62は体部の資料で、体部外面にカキメが巡る。胎土はC群である。63は口縁部から体部の資料で、古代の土師器有台皿とした。64～66は土師器長甕で、64・66がB1類、65がB2類である。64は体部内外面にカキメが残る。67～70は土師器小甕である。67・68は口縁部から体部の資料で、C2類である。69・70は体部から底部の資料である。70は体部下半内面にカキメが残る。71～74の土師器鍋は口縁部から体部の資料で、71・73がB1類、72がC1a類、74がC2類である。71は体部内外面にカキメが残る。75の黒色土器無台碗は体部から底部の破片である。本遺構内の須恵器は概ね春日編年のIV 1～VI 2・3期に収まる。

SD1044 (図版 115、写真図版 128)

SN1001内の溝で須恵器鉢 (84) が出土している。体部片で、体部外面にカキメが残る。胎土はC群である。

SD1036 (図版 115、写真図版 128)

SN1001内の溝で、土師器無台碗 (76)・小甕 (77・78)・鍋 (79) が出土している。76は無台碗底部の資料

である。77・78の小甕は口縁部から体部の資料で、B1類である。79の鍋は口縁部から体部の資料で、B1類である。体部内外面をカキメ調整する。

SD1037 (図版 115、写真図版 128)

SN1001内の溝で、須恵器有台杯(80)、土師器長甕(81)・小甕(82)、黒色土器無台碗(83)が出土している。80の有台杯は体部から底部の資料で、胎土はC群である。81は長甕の口縁部から体部の資料で、B1類である。口縁部外面と体部上半内面にカキメが巡る。82は小甕の体部下半から底部の資料である。83は黒色土器無台碗で、A2Ⅱ類である。

SD1038 (図版 115、写真図版 128)

SN1001内の溝で土師器無台碗(86)が出土している。底部の資料で、底部切り離しは糸切りである。

SD1039 (図版 115、写真図版 128)

SN1001内の溝で須恵器杯蓋(87)、黒色土器無台碗(88)が出土している。87の杯蓋は口縁部片である。CⅠ類で、胎土はB群である。88は無台碗体部から底部の資料である。体部下半外面をロクロケズリ後ミガキ、体部下半から底部内面をミガキ調整する。

SD1154 (図版 115、写真図版 128)

SN1001内の溝で土師器長甕(85)が出土している。体部片で、内外面にハケメが残る。

SN1002 (図版 115、写真図版 128)

須恵器無台杯(89・90)・有台杯(91)・短頸壺(92・93)、土師器長甕(95)・鍋(94)が出土している。89・90は須恵器無台杯で89はBⅡ類である。器高指数25、底径指数74、胎土はD群である。90は口縁部から体部の資料である。BⅡ類で、胎土はC群である。91は有台杯体部から底部の資料である。高台は外端接地で、胎土はB群である。92は短頸壺体部の資料で、胎土はB群である。93は短頸壺の高台部分とした。胎土はC群である。95は直立ぎみに開く口縁部片で、長甕D類とした。口縁部内外面にはカキメが残る。94は鍋の口縁部片で、B1類である。

SD1019 (図版 115、写真図版 128)

SN1002内の溝で、土師器鍋(98)が出土している。体部片で、体部下半外面に平行線文a類、内面に平行線文b類が残る。

旧河道 1007 (図版 116～124、写真図版 118～122・124・128～132・138)

旧河道1007では下層の3d・3e・3f層を中心に土器が多数出土した。主要な土器の分布図を図版52に示した。器種を網羅するよう選択して図化・掲載した。須恵器無台杯(99～116)・有台杯(117～121)・杯蓋(122・123)・大甕(124～127)・壺蓋(131・132)・長頸壺(128・129)・環状把手付壺(130)・横瓶(133)、土師器無台碗(134～168)・長甕(169～190)・小甕(191～210)・鍋(211～218)・鉢(219～223)、黒色土器無台碗(224～227)・有台皿(228)について、以下に記す。

須恵器無台杯は18点図化した。107はAⅠ類、99はAⅡ類、100～102・104・108・109・112・114はBⅠ類、103・105・106・110・111・113・115はBⅡ類である。器高指数は23～28、底径指数は56～58・60・63・64・66・70・73とばらつく。胎土は99・100・102～104・106・107がC群、101・105・108～116がB群である。99の底部外面には漆書の「田」あるいは「山」が見られる。100は還元炎焼成で灰白色を呈する。110は完形品で状態もよく、未使用品の可能性がある。有台杯は5点図化した。117・118がB2Ⅰ類、119がC2Ⅰ類である。高台は117・118・120・121が外端接地である。胎土は117～120がB群、121がC群である。118の体部下半外面に墨書「南」が倒位に残る。杯蓋は2点図化した。122は摘み部から体部の資料で、摘みの形態は2類である。123は体部の資料である。内面には墨痕が残る。転用硯と考えられる。胎土は122がC群、123がB群である。大甕は4点図化した。124は口縁部から底部の資料である。口縁部は頸部から直線的に立ち上がり端部近くで外反する。端部は三角形に突出する。体部外面には平行線文

a類が残る。内面は体部上半に同心円文c類、下半に平行線文d類が残り、底部近くにはハケメと圧痕が残る。また、体部内外面に吹き出しが顕著に見られる。125は124の底部外面に付着する。体部片で、外面に平行線文d類、内面に平行線文d類が残る。内外面で器面の剝離が顕著で、割れ口にススが付着する。焼台と考えられる。124・125は胎土C群である。126は口縁部から体部の資料である。体部上半外面に平行線文a類、内面に平行線文b類が残る。胎土はC群である。127は体部片で、体部上半外面に平行線文a類、内面に同心円文a類が残る。胎土はC群である。長頸壺は2点図化した。128は口縁部から底部の資料である。口縁部は頸部から直線的に立ち上がり、端部近くで外反する。端部は三角形に突出する。外面は体部下半には格子タタキメが部分的に残る。内面はロクロナデが顕著に残る。129は体部から底部の資料である。外面は底部近くに格子タタキ、ナデ、内面はロクロナデが顕著に残る。130は環状把手付壺の頸部から底部の資料である。外面の肩部に環状把手が1単位付くものであるが、欠落している。外面の底部近くに平行線文a類が部分的に残る。底部外面には墨痕が薄く付着し、底部のみ転用硯としての使用が考えられる。128～130の高台は全て貼り付け輪高台である。胎土は128・129がB群、130がA群である。131は壺蓋口縁部の資料で、先端が細くなるA類である。胎土はB群である。132は口縁部片で、壺蓋とした。口縁端部が「く」の字状に曲がる。胎土はC群である。133は横瓶の体部から底部の資料で、片側の閉塞円盤が残存する。体部から底部外面は平行線文a類で側面はナデ消す。内面は同心円文c類が残る。胎土はB群である。

土師器無台碗は35点図化した。無台碗a(134～162)は134がA1I類、136がA2I類、137がA1II類、138・140～143がA2III類、135・139がAI類、146がB1I類、147がB2II類、148がC2II類である。144・145がA類、149～152がB類、153～155がC類で口縁部から体部の資料である。156～162は体部下半から底部の資料である。底部の切り離しは右回転が大半である。134～137の外面底部付近が窪む。墨書は134の底部外面に「八」、135の底部外面に「十」、147の体部外面に「満カ」(横位)が存在する。無台碗b(163～168)は165がB1I類、163がA類、164・166がB類、167・168がC類の口縁部から体部の資料である。168の体部内面には漆膜が付着する。

長甕は22点図化した。169がA類、170がB2類、171～176がB1類である。169～173は体部内外面にカキメが残る。176は体部下半外面に平行線文a類、ケズリ、体部下半内面に同心円文a類が残る。177は体部から底部の資料である。体部上半外面にカキメが、体部下半から底部外面に平行線文a類が残る。体部下半から底部内面は平行線文d類後、ハケメが明瞭に残る。178～190は体部片である。タタキメ・当て具痕の分類は178が外面Hd類、内面Hd類、179・188・190が外面Ha類、内面Hd類、180～182が外面Hb類、内面Hd類、183・187が外面Ha類、内面Da類、184・186が外面Ha類、内面Dc類、185が外面Ha類、内面Db類、189が外面Ha類である。178・187は外面に、182・183・185は内面にカキメが、187～190は内面にハケメが残る。小甕は20点図化した。191・192は口縁部から底部の資料である。B1類で、体部内外面にロクロナデ痕が顕著に残り、外面の底部付近はロクロケズリされている。193～201は口縁部から体部の資料である。193がB2類、194～199がB1類である。200はC1類、201はC2類である。202～210は体部から底部の資料である。底部切り離しは202・203・205・207が回転糸切り、204が静止糸切りである。底部の調整は210がケズリ、206・208・209は無調整である。鍋は8点図化した。211～214・216は口縁部から体部にかけての資料である。212～214・216がB1類、211がB2類に分類できる。211は体部内外面にカキメが残る。212は体部内外面にカキメが、内面にハケメが残る。213は体部内外面にカキメ、ハケメが部分的に残る。214・216は口縁部から体部上半内外面にカキメが、体部下半外面にケズリが見られる。215は口縁部から底部にかけての資料である。B1類で、外面は体部上半にカキメが、体部下半から底部は削られている。内面は体部上半にカキメが、体部下半から底部はハケメ調整が残る。217・218は体部片である。217は体部上半内外面にカキメが、体部下半外面に平行線文a類、体部下半内面に平行線文d類が残る。218は外面にカキメ、ケズリ、平行線文a類、内面にハケメ調整が残る。鉢は5点図化した。219は鉢A類の口縁

部から体部にかけての資料で、底部に台が付くと考えられる。受け口状の口縁部で、体部内外面にカキメが残る。220は鉢B類で口縁部から体部の資料である。口縁部は内湾し、体部内外面にカキメが残る。221は体部下半から底部の資料で、土師器鉢とした。体部外面はカキメ、底部付近はロクロケズリ、体部内面はカキメが残る。222は体部下半の破片である。外面の底部付近はロクロケズリ、内面にはカキメが残る。223は鉢の底部と考えられる。

黒色土器は無台椀4点、有台皿1点を図化した。224～227は無台椀である。224・225は口縁部から体部の資料で、AⅡ類である。226は口縁部から底部の資料で、A2Ⅱ類である。底部外面と底部付近はロクロケズリ、内面はミガキが施される。底部外面には刻書「×」が見られる。227は体部下半から底部の資料である。底部外面と底部付近はロクロケズリ、内面はミガキが施される。228の有台皿は口縁部から底部の資料である。底部は削り出し手法を用い、低い筒高台を持つ。体部外面には「口高」が正位に書かれている。旧河道の土器は春日編年のIV1～VI2・3期に概ね収まる。

テラス1004(図版125、写真図版132)

旧河道主流部分から河岸までのテラス部分から出土したもので、須恵器無台杯(229)・長頸壺(230)、土師器小甕(231)を図化した。229の無台杯は口縁部片で、胎土はC群である。230は長頸壺の体部片で、胎土はB群である。231は土師器小甕と考えられる体部下半から底部にかけての資料である。

SD1005(図版125、写真図版132)

テラス1004内を南北に縦断する溝で、須恵器大甕(235)を図化した。口縁部片で、内外面に自然釉がかかる。胎土はC群である。

SD1006(図版125、写真図版132)

SD1005から分岐して旧河道1007の本流に合流する溝で、須恵器有台杯(232)・短頸壺(233)、土師器長甕(234)を図化した。232は有台杯の口縁部片で、胎土はB群である。233は短頸壺の体部片で、内面にカキメが残る。胎土はC群である。234は土師器長甕の口縁部片で、B1類である。

② 包含層出土土器(図版125・126、写真図版122・132・133)

包含層出土土器は、SK1033・1034のある12J-1G、SX1127のある12J-2G、SK1090のある12J-3Iに多く分布する(図版21)。遺構出土に見られない器種・器形を中心に選択して図化・掲載した。須恵器無台杯(236)・有台杯(237・238・241)・杯蓋(239・240)・長頸壺(243)・横瓶(242)・括鉢(244)、土師器長甕(245～247)・小甕(248～253)・鍋(254・255)について、以下に記す。236の無台杯はBⅠ類で、胎土はB群である。有台杯は237がAⅠⅠ類、238がCⅠⅡ類である。高台は237が外端接地、238・241が内端接地である。胎土は237・238がC群、241がA群である。杯蓋は239がCⅠ類、240がBⅡ類と考えられる。239・240の胎土はC群である。243は長頸壺の体部下半から底部の資料である。胎土はB群である。242は横瓶の口縁部で、端部が外側に三角形状に突出する。胎土はB群である。244は屈曲する口縁部を持つと考えられる括鉢の体部から底部の資料である。外面は体部上半をカキメ、下半をロクロケズリ、ハケメ調整する。内面は体部をカキメ、底部をハケメ調整する。酸化炎焼成で、胎土はC群である。245～247は土師器長甕の口縁部から体部にかけての資料である。245・246がB1類、247がC2類である。245は体部外面と口縁部内面に、246は体部外面にカキメが残る。247は体部外面にカキメ調整、体部内面を指押えする。248～251は小甕の口縁部から体部にかけての資料である。口縁部分類は248がB2類、249・250がB1類、251がC1類である。248は体部外面にカキメが残る。252・253は小甕の体部から底部にかけての資料である。254・255は鍋の口縁部から体部にかけての資料である。254をA類、255をB1類とした。

d 第38次(12)調査2区出土土器

本調査区の総重量比は須恵器9.06%(62.00g)、土師器90.94%(622.00g)、黒色土器0%(0g)、総点数比は須恵器6.47%(9点)、土師器93.53%(130点)、黒色土器0%(0点)である。内訳は包含層の総重量比は須恵

器 10.50% (19.00g)、土師器 89.50% (162.00g)、総点数比は須恵器 6.82% (3点)、土師器 93.18% (41点)である。遺構出土の総重量比は須恵器 8.55% (43.00g)、土師器 91.45% (460.00g)、総点数比は須恵器 6.32% (6点)、土師器 93.68% (89点)である。古代の土器が出土した遺構はSD1のみである。

① 遺構出土土器

SD1 (図版 126、写真図版 133)

本遺跡の北に接する寺道上遺跡〔渡邊ほか 2001〕のSD1と第41次調査1区(本稿)SD152と同遺構である。須恵器無台杯(257・258)、土師器無台椀(259)・長甕(260)・小甕(261・262)・鍋(263・264)を図化した。

257は無台杯の口縁部から底部にかけての資料で、AⅡ類である。胎土はC群である。258は底部片で、胎土はC群である。259は無台椀と考えられる底部片である。260は長甕の口縁部片で、B1類である。261・262は小甕の口縁部片で、B1類である。263は鍋の口縁部片で、B2類である。264は鍋の体部片で、外面に平行線文a類、内面にカキメ、平行線文d類、ケズリが残る。本調査区のSD1からは中世の土器・陶磁器は出土していないが、第41次調査1区SD152から珠洲焼がまとまって出土したことから中世の遺構と考えられる。

② 包含層出土土器 (図版 126、写真図版 133)

265は須恵器無台杯の体部から底部にかけての資料である。体部外面には沈線が3条巡る。胎土はC群である。

e 第38次(12)調査3区出土土器

本調査区の総重量比は須恵器 3.83% (21.00g)、土師器 96.17% (528.00g)、黒色土器 0% (0g)、総点数比は須恵器 3.15% (4点)、土師器 96.85% (123点)、黒色土器 0% (0点)である。内訳は包含層の総重量比は須恵器 0.47% (1.00g)、土師器 99.53% (210.00g)、総点数比は須恵器 1.72% (1点)、土師器 98.26% (57点)である。遺構出土の総重量比は須恵器 5.92% (20.00g)、土師器 94.08% (318.00g)、総点数比は須恵器 4.35% (3点)、土師器 95.65% (66点)である。

① 遺構出土土器

SX505 (図版 126、写真図版 133)

須恵器無台杯(266)が出土している。体部下半から底部にかけての資料で、胎土はC群である。

SD502 (図版 126、写真図版 133)

須恵器有台杯(267)が出土している。口縁部から体部にかけての資料で、B2Ⅰ類と考えられる。胎土はC群である。

SD503 (図版 126、写真図版 133)

土師器小甕(268)が出土している。口縁部片で、B1類である。

② 包含層出土土器 (図版 126、写真図版 133)

須恵器無台杯(269)、土師器無台椀(273)・長甕(271・272)・小甕(270)を図化した。269は無台杯の体部から底部にかけての資料で、酸化炎焼成である。273は土師器無台椀の底部片である。271・272は長甕の口縁部片で、分類はB1類である。271は体部外面と口縁部から体部内面上半にカキメが巡る。270は小甕の体部から底部にかけての資料である。

f 第41次(13)調査1区出土土器

本調査区の総重量比は須恵器 11.82% (2,039.94g)、土師器 87.61% (15,116.44g)、黒色土器 0.57% (97.93g)、総点数比は須恵器 2.72% (90点)、土師器 96.74% (3,206点)、黒色土器 0.54% (18点)である。内訳は包含層の総重量比は須恵器 9.75% (1,018.88g)、土師器 90.18% (9,425.55g)、黒色土器 0.07% (7.43g)、総点数比は須恵器 2.28% (52点)、土師器 97.59% (2,229点)、黒色土器 0.13% (3点)である。遺構出土の総重量比は須恵器 3.69% (38g)、土師器 94.85% (977g)、黒色土器 1.46% (15g)、総点数比は須恵器 3.697% (38点)、土師器 94.85% (977点)、黒色土器 1.46% (15点)である。

① 遺構出土土器

SE357 (図版 127、写真図版 133)

中世の遺構から須恵器大甕 (274) が出土している。体部片で、外面はカキメ、平行線文 a 類、内面は同心円文 a 類が残る。胎土は C 群である。

SK538 (図版 127、写真図版 133)

土師器無台椀 a (278) が出土している。体部から底部にかけての資料である。

SK163 (図版 127、写真図版 133)

須恵器無台杯 (279) が出土している。口縁部片で、胎土は B 群である。

SK140 (図版 127、写真図版 133)

土師器無台椀 (280)・長甕 (281) が出土している。280 は無台椀の口縁部から底部にかけての資料で、A2Ⅲ類である。比較的小ぶりの無台椀である。281 は長甕の体部片で、外面に平行線文 b 類、内面に同心円文 c 類が残る。

SK139 (図版 127、写真図版 123・133・136)

須恵器無台杯 (282)、土師器無台椀 (283・284)・長甕 (286・287)・小甕 (288～292)、黒色土器無台椀 (285) が出土している。282 は須恵器無台杯の口縁部片で、B2Ⅰ類である。胎土は C 群である。282 は春日編年の V 期であると考えられる。283 は土師器無台椀 a の口縁部から体部にかけての資料で、BⅡ類である。284 の無台椀 a は口縁部から底部にかけての資料で、B1Ⅲ類である。286 は長甕の口縁部片で、B1 類である。287 は長甕の体部片で、外面にカキメ、平行線文 b 類、内面にカキメ、ハケメが残る。288～292 は小甕である。288～290 は口縁部から体部にかけての資料で、B1 類である。291 は体部の資料で、内外面ともにロクロナデ痕が顕著である。292 は底部片である。285 は黒色土器無台椀の口縁部から底部にかけての資料で、A2Ⅲ類である。

SK138 (図版 128、写真図版 134)

土師器無台椀 (293～297)・長甕 (298・299)・小甕 (300・301) が出土している。293 は無台椀 a の口縁部から体部にかけての資料で、BⅠ類である。還元炎焼成で、焼成不足のため灰白色を呈する。294・295 は無台椀 a の口縁部から体部の資料で、294 は口縁部外面の下部に稜を持つ。296・297 は無台椀 a の底部片である。298 は長甕の体部片で、外面にカキメが残る。299 は長甕の体部片で、外面に平行線文 b 類、内面に同心円文 a 類、ハケメが残る。300・301 は小甕の口縁部から体部にかけての資料で、300 が A 類、301 が B1 類である。

SK137 (図版 128、写真図版 134)

須恵器無台杯 (302)、土師器小甕 (303) が出土している。302 は無台杯の口縁部から底部にかけての資料で、BⅠ類である。胎土は B 群である。302 は春日編年の V 期となる。303 の小甕は体部から底部にかけての資料である。

SK89 (図版 128・129、写真図版 123・134)

本遺構からは 2 層を中心としてやや多く土器が出土した。須恵器無台杯 (304～309)、土師器無台椀 (310～317)・長甕 (318・319)・小甕 (320～327) について図化・掲載し、以下に記す。

須恵器無台杯は 6 点図化した。304・305・307・308 が BⅠ類、306 が CⅠ類である。309 は底部片である。胎土は 308・309 が B 群、304～307 が C 群である。304 は還元炎焼成で灰白色を呈する。306 は体部外面下部に稜を持つ。土師器無台椀 a は 8 点図化した。304～309 は春日編年の V 期と比定でき、土器も春日編年の V 期に収まると考えられる。310 は A1Ⅲ類、311 を AⅠ類、315 を A3Ⅲ類、312・313 を BⅡ類、314 を CⅡ類とした。316・317 は体部下半から底部の資料である。長甕は 2 点図化した。318 は口縁部片で、B1 類である。319 は体部片で、外面に平行線文 c 類が残る。小甕は 8 点図化した。口縁部分類は 320～322 が B1 類、323・324 が C1 類、325～327 が C2 類である。320 は口縁部から体部内外面にカキメを巡らし、外面の底部付近を削る。321 は体部外面にカキメが巡る。322 は体部外面にカキメを巡らし、底部付近を削る。

SX146 (図版 129、写真図版 134)

土師器長甕 (328)・鍋 (329) が出土している。328 は長甕の口縁部片で、C2 類である。329 は鍋の体部片で、外面に平行線文 a 類、内面にカキメ、平行線文 a 類が残る。

SD462 (図版 129、写真図版 134)

須恵器無台杯 (330) が出土している。口縁部片で、胎土は C 群である。

SD152 (図版 129～131、写真図版 134)

本遺跡の南に接する寺道上遺跡 (現 細池寺道上遺跡) [渡邊ほか 2001] の SD1 と第 38 次調査 2 区 SD1 と同遺構の中世の溝である。古代の土器は須恵器有台杯 (331)・大甕 (332・334)・横瓶 (333)、土師器無台椀 (335～337)・小甕 (338・339)・鍋 (340～342) が出土している。331 は有台杯の体部片で、胎土は C 群である。332・334 は須恵器大甕の体部片で、胎土は共に C 群である。332 は外面にカキメ、平行線文 a 類、内面に平行線文 a 類が残る。還元炎焼成で灰白色を呈する。334 は外面にカキメ、平行線文 a 類、内面に平行線文 d 類と同心円文 c 類が残る。333 は横瓶の体部片である。外面に平行線文 d 類後、カキメが巡り、内面に同心円文 c 類が残る。胎土は C 群である。335～337 は土師器無台椀 a の体部下半から底部にかけての資料である。338・339 は小甕の口縁部片である。338 が B1 類、339 が C1 類である。340 は鍋の体部片である。341 は鍋の口縁部から体部の資料、342 は口縁部片である。341 が C1a 類、342 が B1 類である。

SD441 (図版 131、写真図版 134)

土師器小甕 (346) が出土している。口縁部片で、C1a 類である。

SD827 (図版 131、写真図版 134)

須恵器有台杯 (347)・大甕 (348・349) が出土している。347 は有台杯の口縁部片で、胎土は C 群である。348・349 は大甕の体部片である。348 は外面に平行線文 a 類、カキメが、内面は同心円文 a 類、平行線文 d 類がそれぞれ残る。349 は SN851 の出土の大甕と接合する。外面に平行線文 a 類、ハケメ、内面にカキメ、同心円文 a 類が残る。胎土は 348・349 が C 群である。

SD822 (図版 132、写真図版 134)

土師器長甕 (350・351)・小甕 (352～354) が出土している。350・351 は長甕の口縁部片で、B1 類である。352～354 は小甕の体部から底部にかけての資料である。352 は SD827 出土の小甕と接合する。353 は内面のロクロナデ痕が顕著に残る。

SD151 (図版 132、写真図版 134)

須恵器有台杯 (355)、土師器有台椀 (356)・無台椀 (357)・長甕 (358・359)・小甕 (360)・鍋 (361・362) が出土している。355 は有台杯の口縁部片で、胎土は C 群である。356 は有台椀の底部片で、高台の端部が欠落する。357 は無台椀と考えられる底部片である。358 は長甕の口縁部片で、C2 類である。359 は長甕の体部片で、外面に平行線文 a 類、内面に同心円文 c 類が残る。360 は小甕の口縁部から体部にかけての資料で、A 類である。361・362 は鍋の口縁部から体部にかけての資料で、361 が C2 類、362 が C1a 類である。

SD419 (図版 132、写真図版 134)

須恵器無台杯 (363・364)、土師器無台椀 (366・367)・小甕 (365・368) が出土している。363・364 は無台杯の底部片で、胎土は B 群である。366 は無台椀 a の口縁部片、367 は底部片である。365 は小甕の口縁部片で、C1 類である。368 は底部片である。

SD147 (図版 132、写真図版 134)

須恵器無台杯 (369)、土師器無台椀 (370～372)・長甕 (373)・小甕 (374・375) が出土している。369 は須恵器無台杯の口縁部から底部にかけての資料である。AII 類で、胎土は A 群である。370・371 は無台椀 a の口縁部から体部にかけて、372 は体部から底部にかけての資料である。373 は長甕の体部片である。374 は小甕の口縁部片で、C2 類である。375 は体部から底部にかけての資料である。

SD149 (図版 132、写真図版 135)

土師器無台椀 (376～378)・小甕 (379)・長甕 (380)・鍋 (381) が出土している。376～378 は無台椀 a で、376 が B2 I 類、377 が AII 類である。378 は体部片である。379 は小甕の口縁部から体部の資料で、C1 類である。380 は長甕の体部片である。外面に平行線文 a 類、内面にハケメ、同心円文 a 類が残る。381 は鍋の口縁部から体部にかけての資料で、B1 類である。

SD150 (図版 133、写真図版 135)

土師器無台椀 (382)・長甕 (383) が出土している。382 は無台椀 a の体部から底部にかけての資料である。383 は長甕の体部片で、外面に平行線文 a 類、内面にハケメが残る。

SN857 (図版 133、写真図版 135)

須恵器杯蓋 (384)・大甕 (385) が出土している。384 は杯蓋の摘み部分で、ボタン状の 1 類である。胎土は B 群である。385 は大甕の体部片で、外面は平行線文、カキメが残る。胎土は C 群である。

SN858 (図版 133、写真図版 135)

須恵器横瓶 (387) が出土している。387 は横瓶の体部片で、外面に平行線文 a 類後、カキメが巡り、内面に同心円文 c 類、カキメが残る。胎土は D 群である。

SN851 (図版 133、写真図版 135)

須恵器無台杯 (390)・大甕 (391) が出土している。390 は無台杯の体部から底部にかけての資料で、胎土は C 群である。391 は大甕の体部片で、内外面ハケメ調整している。胎土は C 群である。

SN838 (図版 133、写真図版 135)

須恵器大甕 (393・394) が出土している。393 は口縁部から体部にかけての資料で、口縁部端部が三角形を呈する。外面は体部に平行線文 a 類、口縁部から体部にカキメが残る。内面は体部に平行線文 d 類が残る。394 は体部片で、外面は平行線文 d 類後、カキメが巡り内面は同心円文 c 類の当て具痕が残る。胎土は 393・394 とも C 群である。

SN373 (図版 133、写真図版 135)

須恵器大甕 (395・396)、土師器無台椀 (397～401)・小甕 (402・403) が出土している。395・396 は大甕の体部片である。395 は外面に平行線文 a 類、カキメ、内面にハケメ、同心円文 a 類、ヘラナデが残る。396 は外面に平行線文 a 類、ハケメ、内面は同心円文 a 類、ハケメ調整が残る。胎土は 395・396 とも C 群である。397～401 は無台椀 a で、397 は口縁部から体部にかけて、398・399・400・401 は体部から底部にかけての資料である。402 は小甕の口縁部から体部にかけて、403 は体部から底部にかけての資料である。402 は C1 類に分類でき、体部内外面のロクロナデが顕著で、外面の底部付近は削られる。

Pit321 (図版 133、写真図版 135)

土師器小甕(404)が出土している。体部から底部にかけての資料で、外面に斜位のケズリ、内面にカキメが巡る。

Pit115 (図版 133、写真図版 135)

須恵器無台杯 (405) が出土している。口縁部から底部にかけての資料で、B I 類である。胎土は C 群である。

Pit420 (図版 133、写真図版 135)

土師器無台椀 (406)・長甕 (407・408)、黒色土器無台椀 (409) が出土している。406 は無台椀 a の口縁部片である。407・408 は長甕の体部片である。407 の外面は平行線文 d 類後、カキメが残る。内面はハケメ、ロクロナデ、ナデが残る。また、外面に褐鉄鉱が厚く付着する。408 の外面は平行線文 a 類、内面はハケメ、平行線文 d 類が残る。409 は黒色土器無台椀の口縁部から体部にかけての資料で、AII 類とした。

Pit88 (図版 133、写真図版 135)

土師器無台椀 (410) が出土している。無台椀 a の底部片で、底部切り離しは糸切りである。

② 包含層出土土器 (図版 134～137、写真図版 123・135・136・138)

包含層出土土器は古代の遺構が集中する 10J-7C・7D・7E に多く分布する (図版 63)。器種が明らかな資料を図化・掲載した。須恵器無台杯 (411～419)・大甕 (420・421)・長頸壺 (422)・短頸壺 (423)・壺蓋 (424)・横瓶 (495～505)、土師器無台椀 (428～447)・有台椀 (448)・佐渡型甕 (449)・長甕 (450～466)・小甕 (467～494)・鍋 (496～506)、黒色土器無台椀 (506・507) について以下に記す。

411～419 は須恵器無台杯で、411～413 は口縁部から底部にかけて、414 は口縁部片、415～419 は体部下半から底部にかけての資料である。411 は B I 類で、焼成不足のため灰白色を呈する。412 は B I 類で、酸化炎焼成である。413 は B II 類である。胎土は 411・412・417・418 が C 群、413～416・419 が B 群である。420・421 は大甕の体部片である。420 は外面に平行線文 a 類、内面に同心円文 a 類が残る。421 は外面に平行線文 a 類後、ハケメ、内面はハケメ調整である。胎土は 420・421 とも C 群である。422 は長頸壺の体部下半から底部にかけての資料で、胎土は C 群である。423 は短頸壺の体部片で、縦位に幅 1mm の浅い線刻が 2 条見られる。本遺跡の南に接する寺道上遺跡〔渡邊ほか 2001〕SX26 出土の「都保一口」とヘラ書きされた短頸壺と同一個体の可能性がある。破片は 2 点からなり、SX26 から北東約 20～25m のところで出土した。破片の外面に先の細いヘラ状工具により横位の沈線 1 条を施文後、左側に左に弱く開く弧状の沈線 1 条、右側に右に開く弧状の沈線 1 条が焼成前に施されている。胎土は B 群である。424 は壺蓋の口縁部片で、B 類とした。胎土は C 群である。425～427 は横瓶で、425・426 が体部片、427 が側面部片である。425 は外面に平行線文 a 類、カキメが、内面に同心円文 a 類が残る。426 は外面に平行線文 d 類、カキメが、内面に同心円文 a 類が残る。427 は閉塞円盤が残る。外面はカキメが、内面は側端部が同心円文 a 類、閉塞板が指押えである。胎土は 425～427 が C 群である。

428～446 は土師器無台椀 a である。428～430 は口縁部から底部にかけて、431～438 は口縁部から体部にかけて、439～446 は体部下半から底部にかけての資料である。428 が A1 I 類、429 が A1 III 類、430 が A2 III 類である。429 は底部外面にヘラ記号「×」が見られる。447 は無台椀 b の体部下半から底部にかけての資料である。448 は有台椀の底部片である。449 は「佐渡型」と考えられる非ロクロ球胴甕の口縁部片である。体部から大きく外反し、口縁端部に面を持つ。外面はヨコナデ後、指押え、内面はヨコ方向のハケメ調整である。450～466 は長甕で、450・451・453～457・461～464 は口縁部から体部の資料、452・458～460・465 は口縁部片、466 は体部片である。450～460 が B1 類、461 が B2 類、462・463 が C1 類、464・465 が C2 類である。451 は体部外面と口縁部内面から体部内面、454・457 は体部外面、456 は口縁部内面から体部内面、464 は口縁部内面、465 は口縁部内外面にカキメが巡る。461 は口縁部内面をカキメが巡り、体部をハケメ調整する。466 は外面にカキメが巡る。467～494 は小甕である。467～477 は口縁部または口縁部から体部にかけて、478～494 は体部下半から底部にかけての資料である。467 が A 類、468～473 が B1 類、474～477 が C1 類である。469 は体部外面にカキメが巡る。底部の切り離しは、478・485・488・489 が回転糸切り、479～481・484・486・487・490・493・482・483・491・494 が不明である。478・480・481 は内面のロクロナデ痕が顕著に残る。483 は体部内面にカキメが巡る。489・492～494 は外面の底部付近が削られる。495～505 は鍋で、495～504 が口縁部または口縁部から体部にかけて、505 が体部の資料である。495～497 が B1 類、498～500 が C1a 類、501～504 が C2 類である。497 は口縁部外面、498 は口縁部内面にカキメが残る。503 は口縁部内面に半円形を呈する竹管状の痕跡が見られる。505 は体部内外面にカキメが残る。506・507 は黒色土器無台椀である。506 は口縁部片で C 類とした。507 は体部下半から底部にかけての資料である。506 は底部付近をロクロケズリする。

g 第 41 次 (13) 調査 2 区出土土器

本調査区の総重量比は須恵器 32.23% (438.20g)、土師器 67.77% (921.46g)、黒色土器 0% (0g)、総点数比は須恵器 5.68% (13 点)、土師器 94.32% (216 点)、黒色土器 0% (0 点) である。内訳は包含層の総重量比は須

恵器 34.20% (403.51g)、土師器 65.80% (776.36g)、総点数比は須恵器 5.21% (11点)、土師器 94.79% (200点) である。遺構出土の総重量比は須恵器 19.29% (34.69g)、土師器 80.71% (145.10g)、総点数比は須恵器 11.11% (2点)、土師器 88.89% (16点) である。

① 遺構出土土器

SD14 (図版 138、写真図版 137)

須恵器長頸壺 (509) が出土している。頸部から体部上半にかけての資料で、頸部が太い。内外面ともロクロナデ調整である。胎土はB群である。

SD12 (図版 138、写真図版 137)

土師器長甕 (510) が出土している。口縁部片で、C1a類である。

SN21 (図版 138、写真図版 137)

須恵器有台杯 (511) が出土している。体部片で、B2II類と考えられる。胎土はC群である。

SN20 (図版 138、写真図版 137)

土師器小甕 (512) が出土している。底部片で、ケズリ後ナデで仕上げている。

SN19 (図版 138、写真図版 137)

土師器長甕 (513) が出土している。口縁部から体部にかけての資料で、B1類である。口縁部内面にはカキメが巡る。

② 包含層出土土器 (図版 138、写真図版 137)

器種が明らかな資料を図化・掲載した。須恵器無台杯 (514～517)・有台杯 (518)・杯蓋 (519)・大甕 (520～522)、土師器無台椀 (523)・長甕 (524～526)・小甕 (527) について、以下に記す。514～517は須恵器無台杯で、514が口縁部片、515～517が底部片である。514はB I類と考えられる。515～517の底部切り離しはヘラ切りである。胎土は514～516がC群、517がB群である。518は有台杯の底部片で、高台が欠落している。胎土はC群である。519は杯蓋の体部から口縁部にかけての資料で、A I類である。胎土は不明である。520～522は大甕の体部片である。520・521は外面に平行線文 a 類、内面に同心円文 a 類が残る。522は外面を平行線文 a 類後、カキメ、ハケメが残る。内面は同心円文 a 類の当て具痕をナデで消している。胎土は520～522がC類である。523は土師器無台椀 a と考えられる底部片で、底部の切り離しは糸切りである。524～526は長甕で、524・525が口縁部片、526が口縁部から体部にかけての資料である。524・525がB2類、526がC2類である。527は小甕の体部下半から底部にかけての資料である。

h 第41次(13)調査3区出土土器

本調査区の総重量比は須恵器 14.99% (294.28g)、土師器 85.01% (1669.51g)、黒色土器 0% (0g)、総点数比は須恵器 2.76% (8点)、土師器 97.24% (282点)、黒色土器 0% (0点) である。内訳は包含層の総重量比は須恵器 16.31% (197.04g)、土師器 83.69% (1,010.85g)、総点数比は須恵器 2.99% (6点)、土師器 97.01% (195点) である。遺構出土の総重量比は須恵器 12.86% (97.24g)、土師器 87.14% (658.66g)、総点数比は須恵器 2.25% (2点)、土師器 97.75% (87点) である。

① 遺構出土土器

SX2 (図版 138、写真図版 123・137)

須恵器杯蓋 (529)・壺蓋 (530) が出土している。529は杯蓋の体部片で、焼成不足により灰白色を呈する。530は壺蓋の天井部から口縁部にかけての資料で、C類である。摘みは欠落する。天井部の切り離しはヘラ切りで、天井部と口縁部の境に重ね焼きの際の粘土塊が2か所残っている。胎土はD群である。

SX6 (図版 138・139、写真図版 123・137)

須恵器無台杯 (531～534)・壺蓋 (535)、土師器長甕 (536)・小甕 (537～543) が出土している。531～534は須恵器無台杯で、531が口縁部から底部にかけて、532・533が体部から底部にかけて、534が底部

の破片である。531 はほぼ完形品で、AⅡ類である。胎土は531 がA群、532～534 がC群である。535 は壺蓋の口縁部片で、C類とした。胎土はC群である。536 は土師器長甕の口縁部から体部にかけての資料で、A類である。537～543 は小甕で、537～540 が口縁部から体部にかけて、541 が体部から底部にかけて、542・543 が底部片である。537 がBⅠ類、538～540 がA類である。541 は内面のロクロナデ痕が顕著に残る。542・543 の底部切り離しは回転糸切りである。

② 包含層出土土器 (図版 139、写真図版 123・137)

包含層出土土器はSX2、SX6がある17L-2Gで多く出土している(図版100)。器種が明らかな資料を図化・掲載した。須恵器無台杯(544)・有台杯(545)・杯蓋(546)、土師器無台椀(547～550)・長甕(551)・小甕(552～565)について、以下に記す。544は無台杯の体部から底部にかけての資料である。胎土はC群である。545は有台杯の体部片で、胎土はC群である。546は杯蓋の体部から口縁部にかけての資料で、BⅠ類である。胎土はB群である。547～550は無台椀aである。547は口縁部から底部にかけての資料で、BⅢ類である。548は口縁部、549・550は体部下半から底部にかけての資料である。551は長甕の口縁部から体部にかけての資料である。口縁部分類はBⅠ類で、口縁部から体部外面にカキメが残る。552～565は小甕で、552～556が口縁部または口縁部から体部にかけての資料、557～565が体部下半から底部にかけての資料である。552～556がBⅠ類である。底部の切り離しは、559・560が回転糸切り、557・558・561～565は不明である。565は外面の底部付近をケズリ調整する。

C 中・近世の陶磁器

中世の遺物は珠洲焼、越前焼、瓷器系陶器が出土している。近世の遺物は青磁、白磁、唐津焼が出土している。

1) 陶磁器の分類と記述

遺物が破片のため分類は行っていない。記述は遺構別・包含層の順に記した。土器・陶磁器の分類・名称および編年については、珠洲焼は吉岡康暢氏の編年研究〔吉岡1994〕、近世陶磁器は大橋康二氏の編年研究〔大橋1988〕・〔九州近世陶磁学会2000〕を参考とした。遺構別器種構成比率は別表15・16に、包含層出土土器の重量分布図は図版13・21・65に示した。図化した遺物は以下のとおりである。

越前焼 第38次(12)調査で出土した甕1点。

珠洲焼 甕7点、片口鉢5点、壺1点。全ての調査年度で出土している。

瓷器系陶器 第41次(13)調査で出土した甕1点。

唐津焼 第32次(11)調査で出土した播鉢1点、第38次(12)調査で出土した播鉢1点。近世の遺物である。

白磁 第32次(11)調査で出土した水注1点、第41次(13)調査で出土した椀1点。

青磁 第41次(13)調査で出土した皿1点。

2) 出土陶磁器等各説

a 第32次(11)調査2区出土陶磁器

① 遺構出土陶磁器

旧河道1(図版111、写真図版126)

近世陶磁器(4・5)が出土している。4は唐津焼の播鉢体部の破片である。砥石に転用しており破断面に摩耗が見られる。5は白磁の水注口縁部の破片である。

② 表土出土陶磁器(図版111、写真図版126)

珠洲焼(2)が出土している。片口鉢の底部である。ロクロナデ調整され、内面には4～5条を1単位とする卸目を施している。卸目に使用痕と見られる摩耗が見られる。

b 第38次(12)調査1区出土陶磁器

① 遺構出土陶磁器

SD1076 (図版113、写真図版127)

越前焼甕(36)が出土している。胴部の破片で、内面に当て具痕がある。外面にオリブ色の釉が顕著に見られ、胎土に長石を多く含んでいる。信楽焼の可能性もある。

SD1102 (図版113、写真図版127)

珠洲焼甕(41)が出土している。胴部の破片である。外面にタタキメ、内面に押圧痕がある。

SN1002 (図版115、写真図版128)

珠洲焼片口鉢(96・97)が出土している。96は口縁部の破片である。内外面ともにロクロナデ調整を行っている。破損後に被熱しており、内面および破面にこげが付着している。焼成が悪く、灰白色をしている。97は口縁部の破片である。内外面ともにロクロナデ調整を行っている。口縁端部がほぼ平坦なことから吉岡康暢氏の編年(吉岡1994)(以下、吉岡編年という)IV2期と考えられる。

② 包含層出土陶磁器 (図版126、写真図版133)

近世の片口鉢(256)が出土している。底部の破片で高台が付いている。内面に9条を1単位とする卸目を施している。ロクロナデ調整され、内外面に鉄釉が施されている。使用痕と見られる摩耗が見られ、特に内面の卸目の一部と高台が顕著に摩耗している。18世紀代のものと考えられる。

c 第41次(13)調査1区出土陶磁器

① 遺構出土陶磁器

SE357 (図版127、写真図版133)

珠洲焼甕(275～277)が出土している。275は口縁部の破片である。外面には平行タタキメが、内面には石による押圧痕が見られる。口縁形態などから吉岡編年IV期と考えられる。276は甕の胴上部の、277は甕の胴下半部の破片である。外面には平行タタキメが、内面には押圧痕が見られる。

SD152 (図版129・130・131、写真図版124・125・134)

珠洲焼甕(343・344)・片口鉢(345)が出土している。343は口径42cm、底径17.6cmの大形の甕である。外面には平行タタキメ、内面には石による押圧痕が残る。タタキメは主に右肩上がりで時計回りに巡っている。底面外面はヘラ削りを行っている。胴部外面には「×」状のヘラ記号が1つ刻まれている。口縁部形態などから吉岡分類甕A2類で吉岡編年IV2期と考えられる。344は甕の口縁部から胴上部の破片である。外面には平行タタキメ、内面には石による押圧痕が見られる。口縁形態などから吉岡編年IV期と考えられる。345は口径33cm・底径11cm・器高12.5cmの口縁部がやや外反する片口鉢である。ロクロナデ調整され、内面には8～9目を1単位とする卸目を施している。底部にはヘラ削りを施している。使用痕と見られる摩耗が口縁部内側と一部の卸目に見られる。口縁形態などから吉岡編年IV2期と考えられる。

SN857 (図版133、写真図版135)

瓷器系陶器(386)が出土している。底部の破片である。内外面ともにヘラ削りを行っている。外面には焼き台が付着している。胎土に長石を多量に含んでいる。瓷器系陶器としたが、平安時代の須恵器の可能性もある。

SN858 (図版133、写真図版135)

珠洲焼壺T種(388)、近世磁器(389)が出土している。388は頸基部の破片である。外面に平行タタキメ、内面に押圧痕が残る。389は白磁の椀の口縁部片である。内面には四方櫛文が見られる。18世紀後半のものと考えられる。

SN851 (図版133、写真図版135)

珠洲焼甕(392)が出土している。胴部の破片である。外面に平行タタキメ、内面に押圧痕がある。

② 包含層出土陶磁器 (図版 137、写真図版 137)

珠洲焼片口鉢 (508) が出土している。口縁部の破片で、口端部端部がやや外反している。内外面ともに口ウロナデ調整を行っている。遺存部に卸目は見られないが、口縁形態から片口鉢であると判断した。時期は吉岡編年IV 1期と考えられる。

d 第41次 (13) 調査2区出土陶磁器

① 表土出土陶磁器 (図版 138、写真図版 137)

近世の青磁の染付皿 (528) が出土している。口縁端部が強く外反し、水平口となる。釉調が淡く、口縁を釉剥ぎしている。胎土はきめ細かく白い。これらのことから18世紀代の青磁の染付皿と考えられる。

D 鉄製品・鍛冶関連遺物・石製品・木製品

1) 鉄製品・鍛冶関連遺物 (図版 140、写真図版 139)

鉄製品・鍛冶関連遺物は第38次 (12) 調査1区と第41次 (13) 調査1区で出土している。鉄製品については、エックス線写真を撮影し、実測図作成や法量の計測に反映させた。特に6・7は鉄塊にしか見えないが、エックス線撮影により内部の様子が鮮明に浮び上った。計測値は別表8・9に示した。

a 第38次 (12) 調査1区出土鉄製品

1は刀子で、12J-2G5 I・II層から出土した。刃部の先端と茎部が欠落する。

b 第41次 (13) 調査1区出土鉄製品

7点図化した。2・3はSD462、4・5はSD152、6は包含層 (10J-4C11)、7は包含層 (10J-4F24) 出土である (図版 65)。

2・3は不明鉄製品である。2は上端が「つ」の字状、下部が「く」の字に曲がるもので、鉄釘の可能性がある。3は下端部が折り返されている。4は刀子と考えられる。5は鉄釘で、断面方形を呈する。残存長3.36cm、幅0.66cm、厚さ0.6cmである。6は鎌で、先端部、茎部とも欠落する。残存長は9.8cmで、先端部の基部が円錐形状で断面形が楕円形を呈し、茎部が角棒状で断面形が長方形である。7は不明鉄製品である。鉤状を呈する芯に、金属の細い糸が巻かれている。2～7は出土地点や形態から中世のものと考えられる。

c 第38次 (12) 調査1区出土鍛冶関連遺物

羽口がI・II層から2点出土している。8は11J-10I1出土で、外径6.9cm、孔径3.6cm、重量43.90gである。9は11J-10I1出土で、外径6.0cm、孔径4.5cm、重量36.90gである。

2) 石製品 (図版 141～143・148、写真図版 140～142)

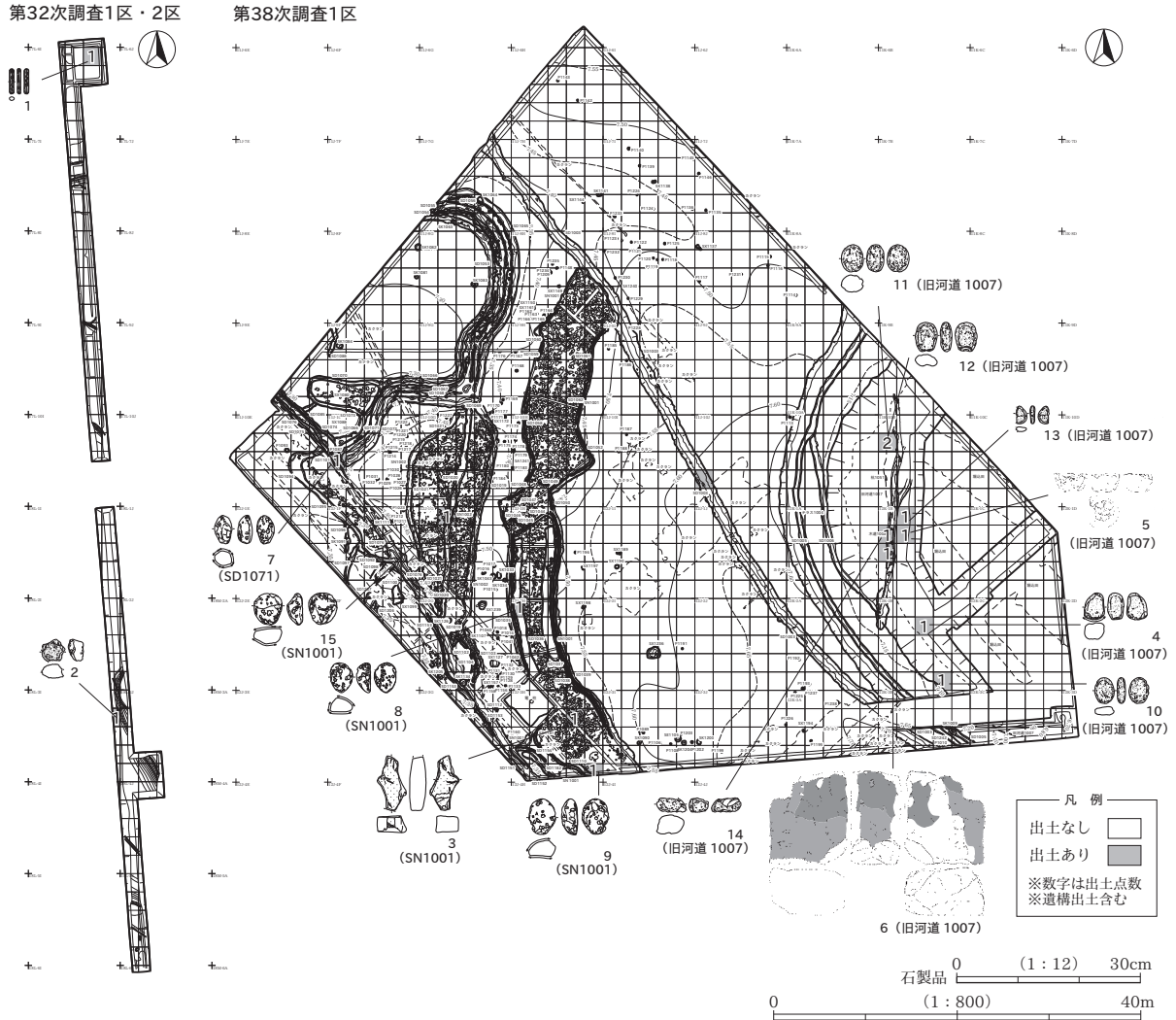
石製品の出土点数は総点数48点のうち砥石10点 (実測数10点)、磨石3点 (同3点)、敲石8点 (同7点)、台石4点 (同4点)、軽石製石製品21点 (同19点)、石鉢1点 (同1点)、パステル形石製品1点 (同1点) が出土した。また、焼礫25点、礫241点で合計266点出土している。第16・17図に出土地点を示した。詳細な計測値は別表10、出土点数・個体数・石製品組成・石材組成・重量組成等は別表19～34に示した。石製品は遺構単位でのまとまりに欠けるため、調査時の区単位順で器種ごとに記載する。礫類については基本的に石製品の項で扱うが数量のみ記し、実測図の提示や記載は行っていない。

a 第32次 (11) 調査1区出土石製品 (第16図)

パステル形石製品1点 (実測数1点) が出土している。焼礫、礫は出土していない。

パステル形石製品 (1)

「パステル形をした石製品」〔藤田1991〕をパステル形石製品とした。白色の滑石を石材とし、側面には8面の研磨痕が縦および斜め方向に施される。両端は使用による擦れが観察される。藤田富士夫氏によるとパステル形石製品は縄文時代から現代まで形を変えず使用されているため時期決定が困難な遺物である。1は表土 (I層) から出土しているため明確な時期は不明である。



第 16 図 細池寺道上遺跡石製品出土点数分布図 (1)

b 第 32 次 (11) 調査 2 区出土石製品 (第 16 図)

軽石製石製品 1 点 (実測数 1 点) が出土している。焼礫・礫は出土していない。

軽石製石製品 (2)

軽石製の製品の破片資料である。表面が一部残るが、明確な使用痕跡は認められない。軽石製石製品もパステル形石製品同様に縄文時代から現代まで利用された石製品である〔立木・相澤(高野)2014〕。ほとんど素材を変更することが無く、わずかに使用痕が残る資料が多い。Ⅲ層出土であることから古代・中世の遺物の可能性が高い。

c 第 38 次 (12) 調査 1・2・3 区出土石製品 (第 16 図)

調査 1 区から砥石 1 点 (実測数 1 点)、敲石 2 点 (同 2 点)、台石 1 点 (同 1 点)、軽石製石製品 9 点 (同 9 点) の計 13 点出土している。また、焼礫 4 点と礫 194 点の合計 198 点の礫類が出土している。なお、2・3 区からは石製品は出土していないが、2 区で焼礫 4 点、礫 6 点で礫類計 10 点と 3 区で礫のみが 6 点出土している。第 16 図に平面的な分布状況を示した。大部分の資料は旧河道 1007 から出土している。出土土器から古代の所産と考えられる。また中世の水田跡である SN1001 から多く出土している。

砥石 (3)

凝灰岩製の砥石である。砥面が表裏 2 面観察される。軟質な石を用いているため、製作に係わる加工痕は明瞭ではない。

敲石(4・5)

4は、緑色砂岩の端部に浅い敲痕が残る資料である。5は凝灰岩製の敲石である。上半が欠損する。

台石(6)

6は花崗岩製の台石である。粗い剥離で分割され、表裏面に被熱痕が残る。

軽石製石製品(7～15)

軽石製の石製品を一括した。5cm以内を小形、5～10cm以内を中形、10～15cm以内を大形、15cm以上を超大形とした場合〔立木2014〕、7・8・10～14が小形、9・15が中形となる。極微小の使用痕が7・9・15の資料に観察される。12・13・14は器体の一部が欠損している。使用あるいは意図的な剥離によると考えられる。

d 第41次(13)調査1区出土石製品(第17図)

砥石8点(実測数8点)、磨石2点(同2点)、敲石6点(同5点)、台石3点(同3点)、軽石製石製品10点(同8点)、石鉢1点(同1点)の計30点である。焼礫17点と礫28点で礫類は45点出土している。第17図に平面的な分布状況を示した。中世の溝であるSD152からの出土が目立つ。また、古代の遺構が集中する南側調査区から出土した24の砥石と32の敲石を除き、大部分は中世遺構が集中する北側調査区に分布が片寄る傾向がある。北側調査区の資料の大部分は、中世の所産と考えられる。

砥石(16～22、24)

16・17以外略完形の砥石は無い。16は緑色凝灰岩製の砥石である。砥面が5面残る。下端部の厚身が上端の三分の一程しかなく、相当使い込まれている。17も緑色凝灰岩製の砥石であり、砥面が5面観察される。上端はおそらく破損して別個体として利用されていると考えられる。18～22・24は破損資料である。凝灰岩が主な石材に利用されている。今回出土の砥石は大きさからいずれも手持ち砥石と考えられる。

敲石(23・29～32)

23・30は敲石の先端部である。29・31は棒状の河原石を素材に敲石として利用している。32は硬質な石材を用いた敲石である。

磨石(26・27)

26は小形の河原石を素材とし、27は楕円形の河原石を素材としている。27は表裏面に軽い磨面が観察される。

台石(33～35)

33は花崗岩製の台石である。表面からの剥離で意図的に柱状に成形されている。34は花崗岩製の台石である。表面に炭化物が付着する。35は硬砂岩製の台石である。

軽石製石製品(36～43)

37～41が小形、36・43が中形、42が超大形の軽石製石製品である。いずれも使用痕は明瞭ではない。42は三分の一程度に切断した後に敲石のように用いられていた可能性がある。

石鉢(45)

滑石製の石鉢である。外面は縦方向に内面は斜方向にミガキ痕が残る。体部片のため全体形は窺い知れないが体部で径が48cm程度ある。

e 第41次(13)調査2区出土石製品(第17図)

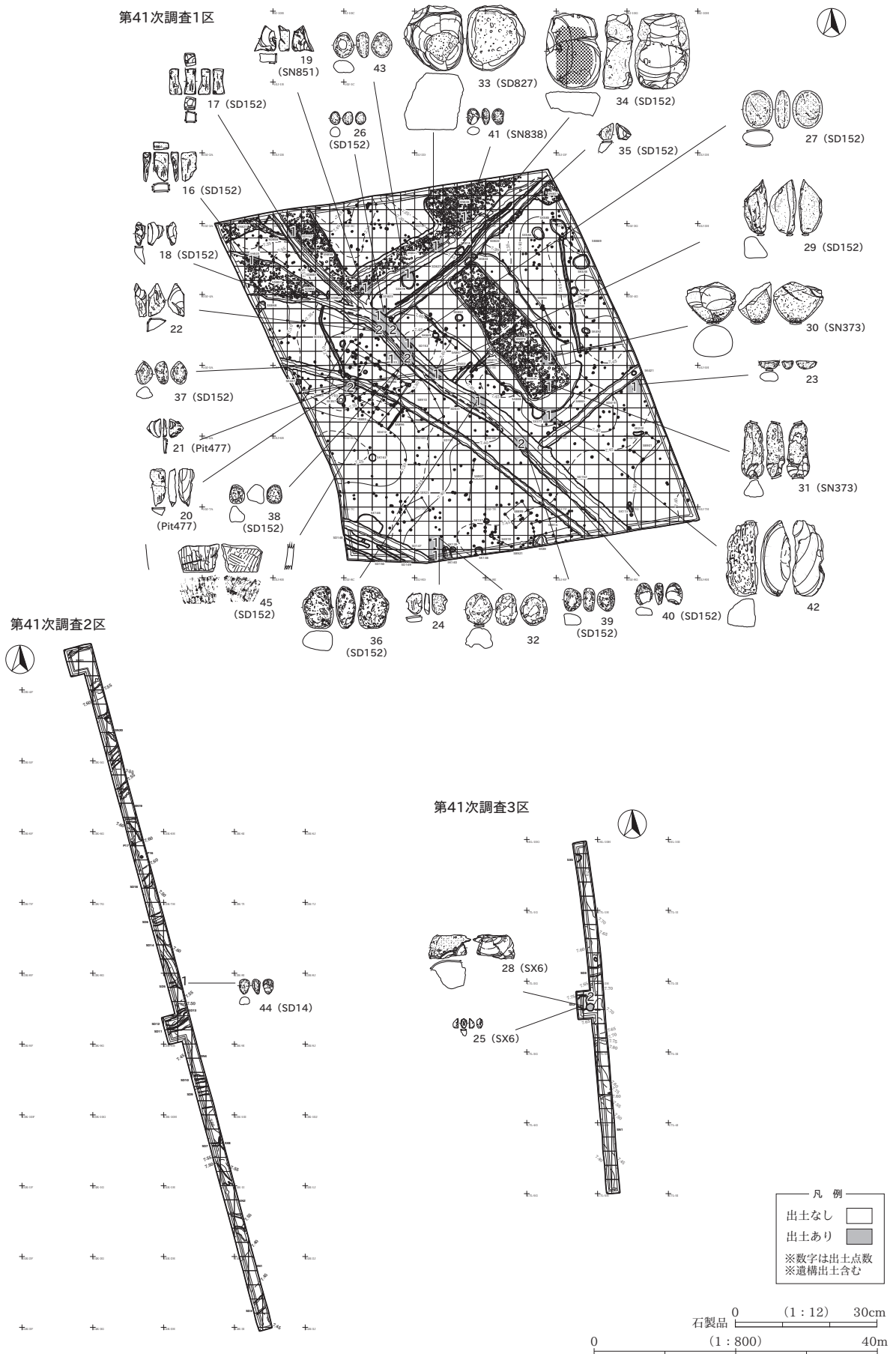
軽石製石製品1点(実測数1点)が出土している。また、礫2点が出土している。

軽石製石製品(44)

軽石分類の小形の軽石製石製品である。

f 第41次(13)調査3区出土石製品(第17図)

砥石1点(実測数1点)、磨石1点(実測数1点)が出土している。全て古代の遺構であるSX6から出土している。また、礫5点が出土している。



第17図 細池寺道上遺跡石製品出土点数分布図(2)

砥 石 (25)

凝灰岩製の砥石である。手持ち砥石の破損品と考えられる。

磨 石 (28)

花崗岩製の磨石の破損品である。

3) 木 製 品 (図版 51・144～148、写真図版 16・64・143～146)

木製品は 61 点 (楔 1 点、盤 1 点、曲物 4 点、齋串 1 点、箸 10 点、箸状木製品 3 点、尖棒状木製品 5 点、棒状木製品 2 点、細形角柱状木製品 7 点、板状木製品 23 点、分割材 1 点、杭 3 点) が出土した。また、木道に使用された巨木加工品、不明・自然木が 14 点出土した。計測値は別表 11、出土点数・器種組成等は別表 35～37 に示した。第 32 次 (11) 調査では図化できる製品がなかった。第 38 次 (12) 調査 1 区、第 41 次 (13) 調査 1 区の木製品について図化、掲載した。

a 第 38 次 (12) 調査 1 区出土木製品

木製品は旧河道 1007 から出土した。出土層位は下層の 3d～3f 層に限られ、春日編年の IV 1～VI 2・3 期の土器を伴う。祭祀関連と推測される木製品と墨書土器をはじめとする主要な土器の出土位置を図版 52 に示した。楔 (1)、盤 (2)、曲物底板 (3)、曲物側板 (4・5)、齋串 (6)、箸 (7～16)、箸状木製品 (17～19)、尖棒状木製品 (20)、細形角柱状木製品 (21～26)、板状木製品 (27～37・39～41)、分割材 (38)、杭 (42～44)、また、木道とした巨木 (46) について以下に記す。

1 は楔である。角板を上端 6 面、側面 6～9 面に切り落とし、下端部は二面加工により逆三角形を呈する。2 は無台盤で、口縁端部を 1/3 ほど欠損する。底部と体部の境に丸みを持つ。口径 19.8cm、器高 2.1cm でこの時期では中形となる。底部外面は成形痕が明瞭に残り、刃物痕跡が多く認められる。また、中央部に「田」の刻書が見られる。3 は曲物底板である。残存長 25.4cm、厚さ 0.5cm で、一部縁辺部が薄くなる部分がある。側板を樺皮で結合する曲物で、蓋板の可能性もある。推定で直径 26.4cm で、この時期では比較的大形である。4・5 は曲物側板の破片である。4 は下部には結合釘孔 1 か所、内面には縦方向のケビキが 6～8mm 間隔で見られる。5 は内面に 4～10mm 間隔で縦方向のケビキが見られる。6 は齋串で、下半部が欠損する。上端部は圭頭状で、側面からの切り込みがない。右側面がやや厚く、横断面は楔状を呈する。7～16 は箸で、細い棒を多面的に成形して細く仕上げている。完存品はなく、端部が欠損するものが多いが、8～11・15・16 の片側端部は明瞭に残る。特に 16 は多面的に削られ小丘状を呈する。17～19 は細い棒状で、断面形が長方形 (17・18)、ないし方形 (19) を呈するもので、箸状木製品とした。17 は曲物側板の転用品の可能性もある。18 は片側端部が残存する。

20 は尖棒状木製品とした。隅丸方形の棒の上端は一方向から、下端は二方向から先端へ斜めに削るが両先端とも丸みが残る。21～26 は細形角柱状木製品として一括した。21 は断面長方形の角棒の右側面を斜めに削り、下端部を三角形とする。22 は不均一な断面長方形の角棒で、上端の側面を二方向から削り鈍角の三角形とし、下端は四方向から斜めに削り先を細くする。23 は断面方形のもので、箸状木製品としてもよいかもしれない。24 は上端が両側面から斜めに削られ三角形となり、横断面は左側面が厚く楔状を呈する。25 は断面長方形の角棒の上端を側面二方向から削り、鈍角の三角形とする。26 は四隅が削られ横断面が隅丸長方形となる。上端部は多面的に削られ小丘状を呈する。

27～37・39～41 は板状木製品として一括した。27・28 は薄板で、表裏・両側面は平滑に仕上げられている。齋串断片の可能性もある。29 は上端が表面から裏面へ、下端が裏面から表面に斜めに切られる。表面には板の側面のようなものによる圧痕が 1 か所見られる。30 は両側面が平坦で、下端は表面に切り込みが入り、上端は裏面から表面に斜めに切られる。31 は上端面が平坦で、裏面の下方を斜めに削り、楔状である。32 は下端が平坦に切られる。33 の裏面には板の側面のようなものによる圧痕が 3 か所見られる。34 は上端部に表裏からの切り込みが見られる。35 は上部側面に 1 か所半円形の挟りが見られる。36 は表裏・両側面・上下端面が

ほぼ平坦で、裏面から下端面にかけての隅が斜めに切られる。37は側面・上下端欠損しており状態が良くない。槽などの刳物容器の底部に似るが確証はない。38は角材の上下端を斜めに切った分割材である。39は表面が弧状、裏面・上下端面はほぼ平坦で状態がよい。何かを作成する際に出た断片かもしれない。40は裏面が平滑に仕上げられ、下部は斜めに丁寧に裁断されている。41は刳込みが見られる。

42～44は杭である。42は下部を鈍く尖らせた後、先端をやや段のある平坦状に切る。43は下部を三方向から尖らせた後、先端を斜めに切る。42・43は枝の部分が使われた可能性がある。44は材の状態が悪く、先端部分は剥落や摩耗により加工がよく観察できないが、主に二方向から先端に向かって加工したと思われる。

46(図版51)は北端が木の上部で河底深く沈み、南端が木の下部で斜面上、テラスの際まで上がる、南北に横たわる巨木である。全長24.33m、最大径0.92mを測り、枝や樹皮が一部残る。樹種はカツラである。斜面に乗る下部は劣化や腐朽が著しいため、水に浸からない状態が長く続いていたと考えられる。中央部から南寄りには幹の上面を平らに剥ぎ取った痕が残るほか、その痕跡の上方、下方は人の往来によるものと考えられる幹の平坦部分が認められる。以上から、木道1008とした。土器や木製品はこの巨木の周辺で多く出土している。なお、木道1008は個別の実測や撮影、樹種同定のためのサンプリング採取、旧河道全体の空中写真撮影後埋め戻した。

b 第41次(13)調査1区出土木製品

45は中世の井戸SE357の4層から出土した用途不明の棒(筥)状木製品である。横断面は右側面が平坦、表面左側が尖る楔状を呈する。上部は表面に横方向の切り込みが8か所認められ、かつ炭化している。下部が柄となり、手に持って何かをするためのものと思われるが、用途は不明である。

第V章 西江浦遺跡

第1節 概要

西江浦遺跡は能代川東岸、東金沢集落南西部に隣接する沖積地に立地する。標高は現水田面で7～8mを測る。遺跡の推定範囲は南北約0.7km、東西約0.45kmの楕円形を呈する範囲で、今回報告の西江浦遺跡第6次(12)調査1区の位置は遺跡の東端部にあたる。古代の遺跡として周知されており(第I章第1節B参照)、同時期の遺構・遺物の検出が期待された。検出した遺構は、遺構総数4基で、性格不明遺構(SX)3基、溝(SD)1基である。遺物量は遺物収納コンテナ(内寸54.5×33.6×10.0cm)にして1箱である。内容は古代の土器1点、近・現代の瓦1点、金属製品1点、石製品1点である。

第2節 層序(図版109、写真図版117)

遺構確認面の標高は6.60m～6.35mで、調査区中央付近が高く、東西にごく緩やかに低くなる。基本層序は4層に分けられ、細池寺道上遺跡で古代・中世の遺物包含層であるIV層に相当する土層が欠落している。近・現代の水田造成に伴う削平による可能性が高い。

I 層 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土層 粘性・しまりややあり。表土・盛土

II 層 灰黄褐色(10YR4/2)粘質土層 粘性・しまりあり。水田床土。

III・IV層 褐灰色シルト(10YR5/1)粘性・しまりあり。

V a～V b層 明黄褐色(10YR7/6)シルト層 粘性・しまりあり。粘質土が縞状に入る。褐鉄鉱が入る。

第3節 遺構

A 遺構の概要

遺構番号は遺構の種類にかかわらず1～4の通し番号とした。記述は性格不明遺構(SX)、溝(SD)の順に、東から西へと記す。遺構の形態分類は和泉A遺跡での分類〔荒川・加藤1999〕を参考とし、断面形は台形状・弧状の2種類を用いた。遺構はIII層やV a層を切って掘り込まれている。遺構内からの遺物の出土はない。基本層序の堆積状況から遺構の時期は全て近世以降と考えられる。調査面積は上端面積241.68m²・下端面積172.13m²である。

B 遺構各説

a 性格不明遺跡(SX)

SX1(図版107・110、写真図版117)

12H-6A4・5・9・10、6B1に位置する。遺構の時期は近世以降である。調査区域内で残存する平面形は半円形を呈する。確認面で東西の残存幅は4.28m・深さ1.10mを測る。断面形は台形状である。覆土は4層に分けられる。遺物は出土していない。水溜め状の遺構と考えられる。

SX2(図版107・110、写真図版117)

12H-6A6・7・8・9に位置する。遺構の時期は近世以降である。東側でSX1に切られ、西側でSX2と繋が

る。確認面で東西の残存する長軸は 5.72m・深さ 0.40m を測る。断面形は弧状である。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

SX4 (図版 106・110、写真図版 117)

12G-6H9・10・14・15 に位置する。遺構の時期は近世以降である。南北とも調査区域外に延びる。畔状の遺構で、残存長軸 2.34m、短軸は上端 0.18m・下端 0.54m・高さ 0.10m を測る。覆土は単層である。遺物は出土していない。

b 溝状遺構 (SD)

SD3 (図版 107・110、写真図版 117)

12G-6J4・5・9・10 に位置する。遺構の時期は近世以降である。南北とも調査区域外へ延びる。主軸方位は N45° W である。残存長軸 3.00m・短軸 1.20m・深さ 0.45m を測る。断面形は弧状である。覆土は 2 層に分けられる。遺物は出土していない。

第4節 遺物

A 遺物の概要

II層から近・現代の瓦 1 点と金属製品の寛永通宝が 1 点、III・IV層から摩滅の著しい土師器小甕の底部片 1 点と砥石が 1 点出土しているが、遺構内からの遺物の出土はなかった。以下では、土器、金属製品、石製品の順に説明する。

B 遺物各説

1) 土器 (図版 148、写真図版 146)

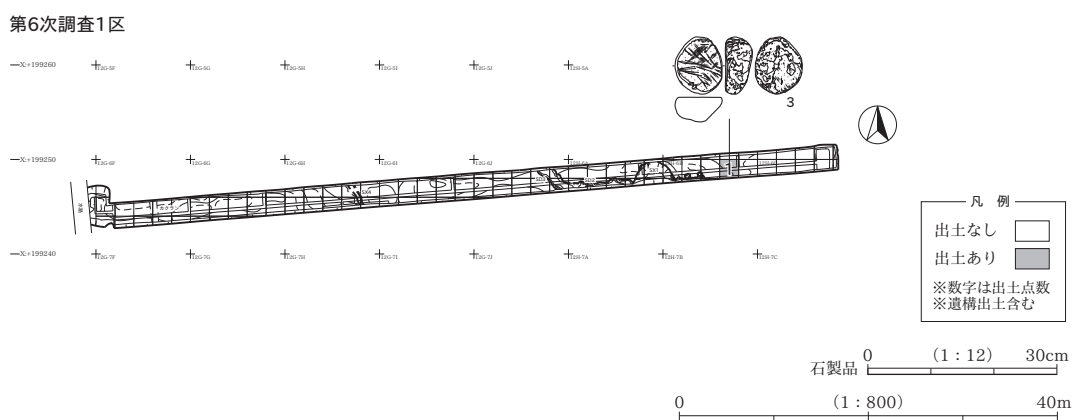
1 は 12G-6J5 から出土した土師器小甕の体部から底部にかけての資料である。体部外面、体部下半から底部内面はロクロナデ、底部の切り離しは不明である。

2) 金属製品 (図版 148、写真図版 146)

2 は 12G-6H13 から出土した銭貨で、下半分が欠落する。「寛永通宝」で、裏に「文」の字があることから「文銭」とも呼ばれる。寛文年間 (1661～1672 年) 铸造。

3) 石製品 (図版 148、写真図版 146、第 18 図)

3 は凝灰岩製の砥石である。砥面が表裏 2 面観察される。平面形は楕円形で、河原石などの自然礫を用いている。



第 18 図 西江浦遺跡石製品出土点数分布図

第VI章 自然科学分析

第1節 細池寺道上遺跡第38次(12)調査の自然科学分析

第38次(12)調査では1区において、過去の植生と環境の復原、植物や木材利用の実態、遺跡の時期などを探る目的で自然科学分析を実施した(第19図、写真図版37・41・46)。

植物珪酸体分析は、SN1001北部セクションベルトSN1001の2層・SD1052の1層・SN1001の3層、SN1001南部セクションベルトSN1001の2層・SD1036の1層・SD1035の1層、SN1002セクションベルトSN1002の1層・SD1021の2層・SN1002の3層、SD1054の1層・SD1053の1層・2層・SD1065の1層・2層、テラス状遺構1004畝上部・畝間上部・畝間下部・畝間下、11J-8F9北壁畝間下、SX1080窪み群覆土で行なった。花粉分析は、SN1001南部セクションベルトSN1001の2層・SD1036の1層、SN1002セクションベルトSN1002の1層・SD1021の2層、SD1065の1層・2層、テラス状遺構1004畝上部・畝間上部・畝間下部・畝間下、11J-8F9北壁畝間下、SN1080窪み群覆土、旧河道3d層・3e層で行なった。珪藻分析は、旧河道3d層・3e層で行なった。種実同定は、旧河道3d層上部・下部・3e層・3f層・3g層から採取された種実類で行なった。樹種同定は、旧河道3e層出土の樹木、3f層出土の杭で行なった。放射性炭素年代測定は、旧河道3e層から出土した巨木の樹皮で行なった。



第19図 細池寺道上遺跡第38次調査1区の土壤サンプル採取地点

A 水田跡の自然科学分析

1) 植物珪酸体(プラント・オパール)分析

a はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したもので、植物が枯れた後も微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検証することで水田跡(稲作跡)の検証や探査が可能である〔藤原・杉山1984、杉山2000〕。

b 試料

分析試料は、SN1001北部セクションベルトから採取された試料1～試料3、SN1001南部セクションベルトから採取された試料4～試料6、SN1002セクションベルトから採取された試料7～試料9、SN1002の北

端と接する溝群北壁から採取された試料 10～試料 15 の計 15 点である。試料採取地点および層位を第 20 図に示す。

c 分析法

プラント・オパール分析はガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて、次の手順で行った。

1. 試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）。
2. 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加（電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量）。
3. 電気灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理。
4. 超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散。
5. 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去。
6. 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。
7. 検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、主にイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中のプラント・オパール個数を求めた。

また、主な分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。

d 分析結果

植物珪酸体分析では、イネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な 6 分類群について同定・定量を行っている。分析結果を第 8 表および第 20 図に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を第 21 図に示す。

e 考察

① 水田跡の検討

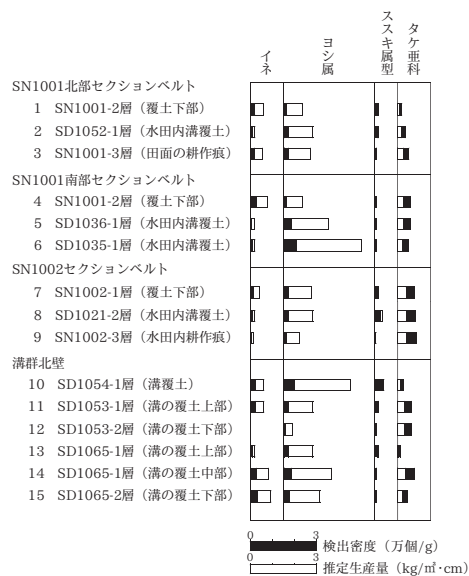
水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料 1g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している〔杉山 2000〕。なお、密度が 3,000 個/g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個/g として検討を行った。また、畑稲作（陸稲栽培）の場合は、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり休閑期間をおく必要があるため、イネの密度は水田跡と比較してかなり低くなり、1,000～2,000 個/g 程度である場合が多い。

SN1001 北部セクションベルト

試料 1（SN1001-2 層：覆土下部）、試料 2（SD1052-1 層：水田内の溝覆土）、試料 3（SN1001-3 層：田面の耕作痕）

第 8 表 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区水田跡・および溝群北壁における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）		地点・試料														
分類群	学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
イネ	<i>Oryza sativa</i>	20	7	19	26	6	7	13	7	5	21	21		7	28	32
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	13	21	19	13	32	56	20	21	11	48	21	6	21	34	26
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	13	14	6	6	6	7	13	28	5	34	14	6	14	7	6
タケ亜科	Bambusoideae	20	35	52	58	58	49	79	83	85	27	62	62	14	76	45
推定生産量（単位：kg/㎡・cm）：試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出																
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.59	0.21	0.57	0.76	0.19	0.20	0.39	0.20	0.16	0.60	0.61		0.20	0.81	0.95
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.85	1.33	1.22	0.82	2.04	3.51	1.25	1.30	0.67	3.03	1.31	0.39	1.32	2.17	1.62
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.17	0.17	0.08	0.08	0.08	0.09	0.16	0.34	0.07	0.42	0.17	0.08	0.17	0.09	0.08
タケ亜科	Bambusoideae	0.10	0.17	0.25	0.28	0.28	0.23	0.38	0.40	0.41	0.13	0.30	0.30	0.07	0.36	0.22



第20図 細池寺道上遺跡第38次調査1区水田跡・および溝群北壁における植物珪酸体分析結果

の3試料について分析を行った。その結果、各試料からイネが検出された。イネの密度は、試料1と試料3では1,900～2,000個/gと比較的低い値であり、試料2では700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

SN1001 南部セクションベルト

試料4(SN1001-2層:覆土下部)、試料5(SD1036-1層:水田内の溝覆土)、試料6(SD1035-1層:水田内の溝覆土)の3試料について分析を行った。その結果、各試料からイネが検出された。イネの密度は、試料4では2,600個/gと比較的低い値であり、試料5と試料6では600～700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

SN1002 セクションベルト

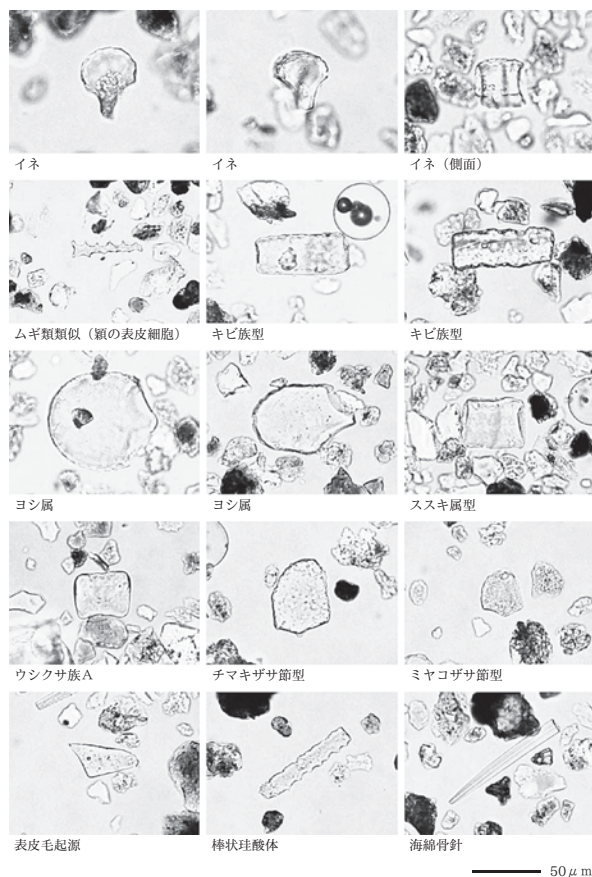
試料7(SN1002-1層:覆土下部)、試料8(SD1021-2層:水田内の溝覆土)、試料9(SN1002-3層:田面の耕作痕)の3試料について分析を行った。その結果、各試料からイネが検出されたが、密度は500～1,300個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

溝群北壁

試料10(SD1054-1層:溝覆土)、試料11(SD1053-1層:溝覆土上部)、試料12(SD1053-2層:溝覆土下部)、試料13(SD1065-1層:溝覆土上部)、試料14(SD1065-1層:溝覆土中部)、試料15(SD1065-2層:溝覆土下部)の6試料について分析を行った。その結果、試料12を除く5試料からイネが検出された。このうち、試料15では3,200個/gと比較的高い値であるが、試料10、11、14では2,100～2,800個/gと比較的低い値であり、試料13では700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

② イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類やヒエ属型(ヒエが含まれる)などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。



第21図 細池寺道上遺跡第38次調査1区水田跡・および溝群北壁の植物珪酸体(プラント・オパール)

③ 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。主な分類群の推定生産量によると、イネ以外の分類群では概ねヨシ属が優勢であり、ススキ属やタケ亜科は比較的少量である。

以上のことから、各層準の遺跡周辺は、概ねヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところには、ススキ属やササ類などが分布していたと考えられる。

f ま と め

SN1001 北部セクションベルト、SN1001 南部セクションベルト、SN1002 セクションベルト、溝群北壁から採取された試料 1～試料 15 の計 15 試料についてプラント・オパールを行った。その結果、ほとんどの試料からイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。なお、全体的にイネの密度が低いことから、稲作が行われていた期間が短かったことや、土層の堆積速度が速かったことなどが想定される。

各層準の遺跡周辺は、概ねヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で水田稲作が行われていたと推定される。

2) 花 粉 分 析

a はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

b 試 料

分析対象試料は、発掘調査担当者により採取送付された、SN1001 南部セクションベルトから採取された試料 4、試料 5、SN1002 セクションベルトから採取された試料 7、試料 8、溝群北壁から採取された試料 13、試料 15 の計 6 点である。試料採取地点および層位を第 22 図に示す。

c 方 法

花粉の分離抽出は〔中村 1973〕の方法をもとに、以下の手順で行った。

1. 試料から 1cm³ を秤量。
2. 0.5% リン酸三ナトリウム (12 水) 溶液を加えて 15 分間湯煎。
3. 水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。
4. 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置。
5. 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎）を施す。
6. 再び氷酢酸を加えて水洗処理。
7. 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。
8. 検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって 300～1000 倍で行った。花粉の同定は、〔島倉 1973〕および〔中村 1980〕をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。イネ属については、〔中村 1974・1977〕を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

d 結 果

① 分 類 群

出現した分類群は、樹木花粉 17、樹木花粉と草本花粉を含むもの 1、草本花粉 16、シダ植物孢子 2 形態の計 36 である。分析結果を第 9 表および第 22 図に示し、花粉数が 100 個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を第 23 図に示す。以下に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

ツガ属、マツ属複雑維管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、トチノキ

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科

[草本花粉]

ガマ属-ミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、ツリフネソウ属、キカシグサ属、セリ亜科、シソ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

[シダ植物孢子]

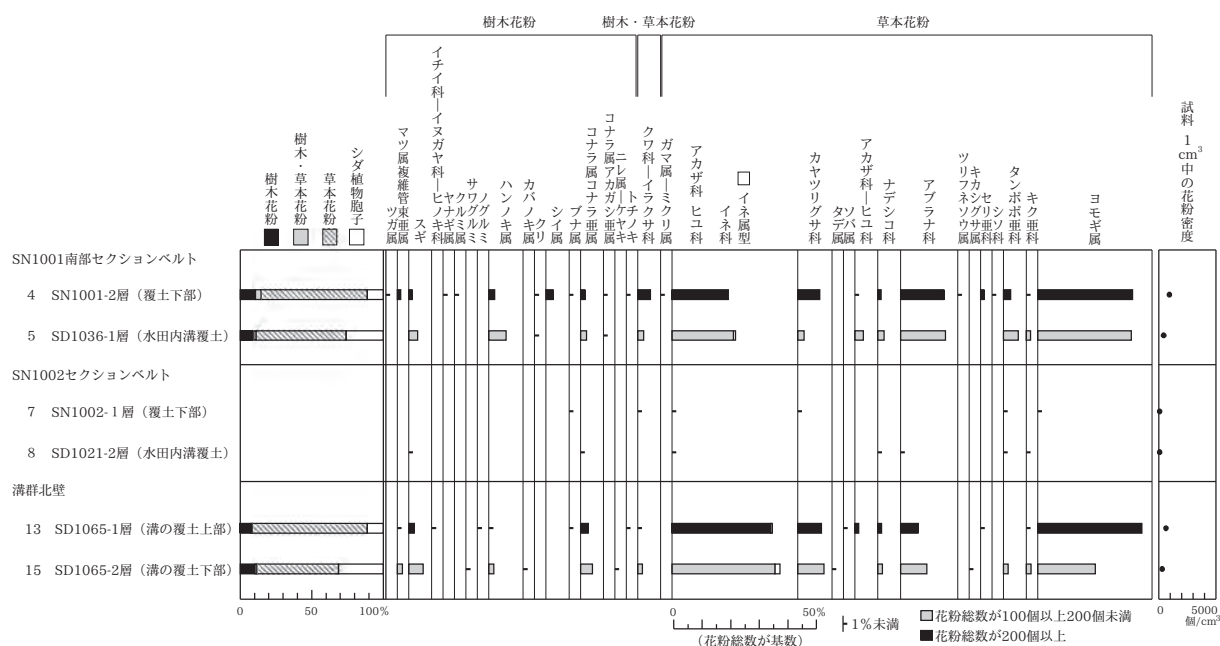
単条溝孢子、三条溝孢子

② 花粉群集の特徴

SN1001 南部セクションベルト

試料 4 では、草本花粉の占める割合が 74% と高い。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科、アブラナ科が優勢で、カヤツリグサ科、タンポポ亜科、ナデシコ科、セリ亜科などが伴われる。樹木花粉では、シイ属、ハンノキ属、マツ属複雑維管束亜属、スギ、コナラ属コナラ亜属などが認められた。

試料 5 では、花粉密度が低く、草本花粉の占める割合が 63%、シダ植物孢子が 26% である。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科 (イネ属型を含む)、アブラナ科が優勢で、カヤツリグサ科、タンポポ亜科、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キク亜科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、スギ、コナラ属コナラ亜属などが認められた。



第 22 図 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区水田跡・および溝群北壁における花粉ダイアグラム

SN1002 セクションベルト

試料7では、イネ科、カヤツリグサ科、タンポポ亜科、ヨモギ属、シダ植物単条溝胞子などが検出されたが、いずれも少量である。試料8では、イネ科（イネ属型を含む）、アブラナ科、キク亜科、シダ植物単条溝胞子などが検出されたが、いずれも少量である。

溝群北壁

試料13では、草本花粉の占める割合が80%と高い。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）、ヨモギ属が優勢で、カヤツリグサ科、アブラナ科、アカザ科-ヒコ科、ナデシコ科、ソバ属などが伴われる。ソバ属は虫媒花であり、風媒花と比較して現地性が高く花粉の生産量も少ないことから、他の分類群と比較して過大に評価する必要はある。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、スギなどが認められた。

試料15では、花粉密度が低く、草本花粉の占める割合が57%、シダ植物胞子が31%である。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）、ヨモギ属が優勢で、アブラナ科、カヤツリグサ科などが伴われる。樹木花粉では、スギ、コナラ属コナラ亜属、マツ属複雑管束亜属、ハンノキ属などが認められた。

e 花粉分析から推定される植生と環境

花粉分析を行った6試料のうち、花粉密度が比較的高いのはSN1001南部セクションベルトの試料4（SN1001-2層:覆土下部）および溝群北壁の試料13（SD1065-1層:溝覆土上部）である。これらの層準の堆積当時は、

第9表 細池寺道上遺跡第38次調査1区水田跡・および溝群北壁における花粉分析結果

学名	分類群	SN1001南部 セクションベルト		SN1002 セクションベルト		溝群北壁	
		4	5	7	8	13	15
Arboreal pollen	樹木花粉						
<i>Tsuga</i>	ツガ属	1					
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	3				1	2
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	3	4		1	4	6
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科					1	
<i>Salix</i>	ヤナギ属	1					
<i>Juglans</i>	クルミ属	1					
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ						1
<i>Platycarya strobilacea</i>	ノグルミ					1	
<i>Alnus</i>	ハンノキ属		8			2	2
<i>Betula</i>	カバノキ属	5					1
<i>Castanea crenata</i>	クリ	1	1				
<i>Castanopsis</i>	シイ属	6					
<i>Fagus</i>	ブナ属	1		1		2	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	4	3		1	6	5
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	1				
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ						1
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	2				1	
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉						
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	11	3	1		2	2
Nonarboreal pollen	草本花粉						
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	1					
Gramineae	イネ科	48	29	1	2	74	43
<i>Oryza</i> type	イネ属型		1		1	1	2
Cyperaceae	カヤツリグサ科	19	3	2		18	11
<i>Polygonum</i>	タデ属						1
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属					1	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒコ科	2	4			3	
Caryophyllaceae	ナデシコ科	3	3		2	3	2
Cruciferae	アブラナ科	37	21	5		13	11
<i>Impatiens</i>	ツリフネソウ属	1					
<i>Rotala</i>	キカシグサ属						1
Apioidae	セリ亜科	3				2	
Labiatae	シソ科	1					
Lactucoideae	タンポポ亜科	6	7	2	1		2
Asteroidae	キク亜科	2	2		7	1	2
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	81	44	8		78	24
Fern spore	シダ植物胞子						
Monolate type spore	単条溝胞子	26	40	7	6	24	49
Trilate type spore	三条溝胞子	4	7	2	3	3	5
Arboreal pollen	樹木花粉	29	17	1	2	18	18
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	11	3	1		2	2
Nonarboreal pollen	草本花粉	204	114	13	18	194	99
Total pollen	花粉総数	244	134	15	20	214	119
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	1.8	8.2	9.0	1.3	1.2	5.5
		×10 ³	×10 ²	×10	×10 ²	×10 ³	×10 ²
Unknown pollen	未同定花粉	10	3		2	9	5
Fern spore	シダ植物胞子	30	47	9	9	27	54
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石細胞	(-)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物	(+)	(++)	(+)	(+)	(++)	(+)

イネ科やヨモギ属をはじめアブラナ科やタンポポ亜科なども生育する草本主体の植生であったと考えられる。イネ科には路傍などに生育する人里植物や耕地雑草が多く含まれ、ヨモギ属やタンポポ亜科は乾燥を好む人里植物ないし耕地雑草である。なお、試料13ではイネ属型、ソバ属の花粉が認められることから、当時は調査地点もしくはその近辺でイネやソバの栽培が行われていたと考えられ、アブラナ科が栽培されていた可能性も認められた。アブラナ科には、アブラナ(ナタネ)、ダイコン、ハクサイ、タカナ、カブなど多くの栽培植物が含まれている。森林植生としては、周辺地域にハンノキ属、ナラ類(コナラ属コナラ亜属)、スギ、マツ類(マツ属複雑管束亜属)などが分布していたと考えられる。

花粉密度が比較的低いSN1001南部セクションベルトの試料5(SD1036-1層:水田内の溝覆土)および溝群北壁の試料15(SD1065-2層:溝覆土下部)でも、概ね同様の植生環境であったと考えられ、イネ属型やアブラナ科が認められることから、調査地点もしくはその近辺でイネやアブラナ科の栽培が行われていた可能性が示唆される。

SN1002セクションベルトの試料7(SN1002-1層:覆土下部)と試料8(SD1021-2層:水田内の溝覆土)では、花粉があまり検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられる。

B 畑跡の自然科学分析

1) はじめに

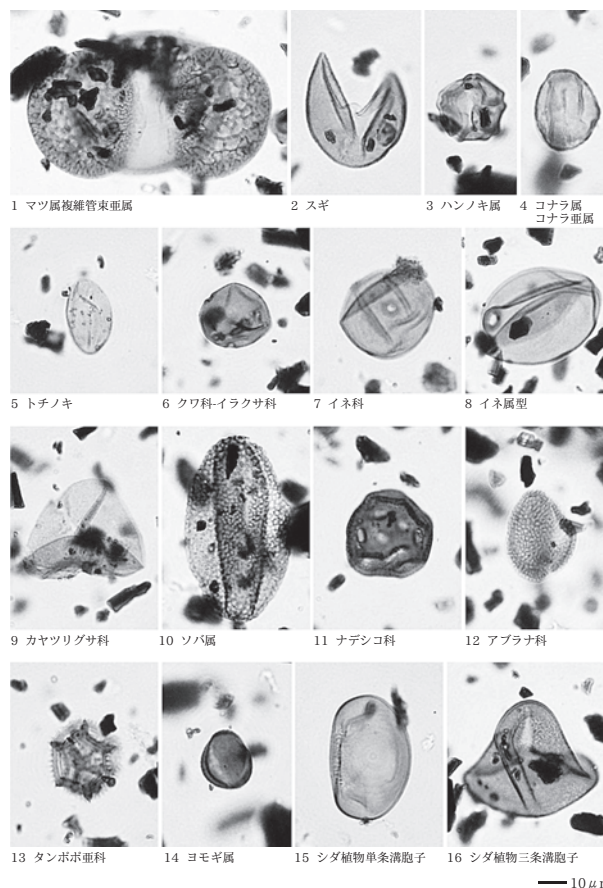
平成24年度の調査では、畝をとまう大規模な畑跡が検出された。この畑で栽培されていた作物等を調べるため、花粉分析と植物珪酸体分析を実施した。以下では、花粉分析と植物珪酸体分析の結果を示し、畑作物や畑の履歴等について検討した。

2) 試料と方法

分析試料は、1区から採取された計7点である(第10表)。各試料の時期は、No.1~4が平安時代、No.5~7が中世と考えられている。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

a 花粉分析

試料(湿重量約3~4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を



第23図 細池寺道上遺跡第38次調査1区水田跡・および溝群北壁の花粉・胞子

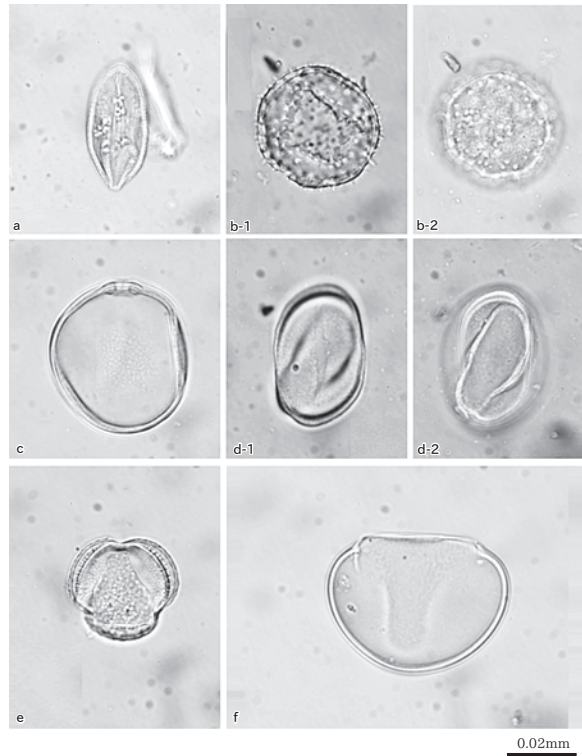
第10表 細池寺道上遺跡第38次調査1区畑跡の分析試料一覧

試料No.	調査区	採取場所	採取部	時期	土相
1	1区	テラス状遺構1004	畝上部	平安時代	砂質粘土
2			畝間上部		シルト
3			畝間下部		砂質粘土
4			畝間下(基盤層)		
5	1区	北壁(11J-8F9)	畝間下	中世	粘土質シルト
6					
7			窪み群覆土		

行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。今回の分析試料は含まれる花粉数が少なく、複数枚のプレパラートを検鏡しても分布図作成に足る樹木花粉数 200 を得るのは難しいと判断されたため、1 枚のプレパラート全面を検鏡するに留めた。また、保存状態の良い花粉化石を選んで単体標本作製し、写真撮影した。第 24 図に載せた分類群ごとの単体標本 (PLC.916 ~ 921) は、パレオ・ラボに保管されている。

b 植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する (絶対乾燥重量測定)。別に試料約 1g (秤量) をトールビーカーにとり、約 0.02g のガラスビーズ (直径約 0.04mm) を加える。これに 30% の過酸化水素水を約 20 ~ 30cc 加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により 0.01mm 以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが 300 個に達するまで行った。また、保存状態の良い植物珪酸体を選んで写真を撮り、第 26 図に載せた。



a. トチノキ属 (PLC. 916) b. オモダカ属 (PLC. 917) c. イネ科 (PLC. 918)
d. キカングサ属 (PLC. 919) e. ヨモギ属 (PLC. 920) f. 単条溝胞子 (PLC. 921)

第 24 図 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区 畑跡 (試料 No.3) から産出した花粉・胞子化石

3) 結 果

a 花粉分析

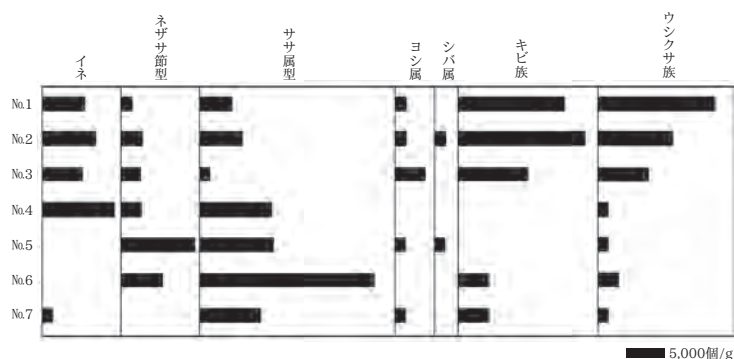
7 試料を検鏡した結果、検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉 17、草本花粉 12、形態分類のシ

第 11 表 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区畑跡における花粉分析結果

学名	和名	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7
樹木								
<i>Tsuga</i>	ツガ属	-	-	2	1	1	-	-
<i>Picea</i>	トウヒ属	-	-	-	1	-	-	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxyton</i>	マツ属複雑管束亜属	-	-	-	-	-	1	-
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	-	-	3	-	-	-	-
<i>Pterocarya - Juglans</i>	サワグルミ属-クルミ属	-	-	-	-	-	1	-
<i>Carpinus - Ostrya</i>	クマシデ属-アサダ属	1	-	-	-	-	-	-
<i>Betula</i>	カバノキ属	2	1	2	-	-	-	-
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	4	6	8	6	1	3	2
<i>Fagus</i>	ブナ属	4	1	9	1	-	3	-
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	3	1	3	-	1	-	-
<i>Castanea</i>	クリ属	-	-	1	-	-	-	-
<i>Ulmus - Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	2	-	1	-	-	-	1
<i>Celtis - Aphananthe</i>	エノキ属-ムクノキ属	-	1	-	-	-	-	-
<i>Ilex</i>	モチノキ属	1	-	-	1	-	-	-
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	-	-	1	-	-	-	-
<i>Parthenocissus</i>	ツタ属	-	-	-	1	-	-	-
<i>Weigela</i>	タニウツギ属	-	1	-	-	-	-	-
草本								
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	-	-	1	-	-	-	-
Gramineae	イネ科	39	6	83	7	1	6	2
Cyperaceae	カヤツリグサ科	6	3	4	1	-	-	-
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria - Echinocaulon</i>	サナエタデ属-ウナギツカミ節	-	-	-	1	1	1	1
Chenopodiaceae - Amaranthaceae	アカザ科-セコ科	1	1	3	1	-	-	-
Caryophyllaceae	ナデシコ科	4	-	-	-	-	1	2
Brassicaceae	アブラナ科	4	-	5	1	-	-	-
<i>Rotala</i>	キカングサ属	-	-	2	-	-	-	-
Apiaceae	セリ科	4	1	-	-	-	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	25	4	40	-	-	-	2
Tubuliflorae	キク亜科	-	1	2	-	-	-	-
Liguliflorae	タンポポ亜科	-	-	1	-	-	-	-
シダ植物								
monolate type spore	単条溝胞子	1997	4073	313	137	6	6	-
trilorate type spore	三条溝胞子	4	4	2	-	-	2	5
Arboreal pollen	樹木花粉	17	11	30	11	3	8	3
Nonarboreal pollen	草本花粉	83	16	141	11	2	8	7
Spores	シダ植物胞子	2001	4077	315	137	6	8	5
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	2101	4104	486	159	11	24	15
Unknown pollen	不明花粉	1	2	2	-	-	-	-

第12表 細池寺道上遺跡第38次調査1区
畑跡植物珪酸体分析結果

試料 No.	イ ネ (個/g)	ネ ザ サ 節 型 (個/g)	サ サ 属 型 (個/g)	ヨ シ 属 (個/g)	シ バ 属 (個/g)	キ ビ 族 (個/g)	ウ シ ク サ 族 (個/g)
1	5,400	1,400	4,100	1,400	0	13,600	14,900
2	6,800	2,700	5,400	1,400	1,400	16,300	9,500
3	5,100	2,500	1,300	3,800	0	8,900	6,400
4	9,200	2,600	9,200	0	0	0	1,300
5	0	9,400	9,400	1,300	1,300	0	1,300
6	0	5,300	22,300	0	0	3,900	2,600
7	1,300	0	7,800	1,300	0	3,900	1,300



第25図 細池寺道上遺跡第38次調査1区畑跡における植物珪酸体分析結果

ダ植物孢子2の総計31である。これらの花粉・孢子の一覧表を第11表に示した。なお、今回の分析試料には十分な量の花粉化石が含まれていなかったため、分布図は示していない。表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。

今回の分析試料は含まれる花粉量が少ないものの、No.1～4とNo.5～7で産出状況に異なる傾向が見られた。

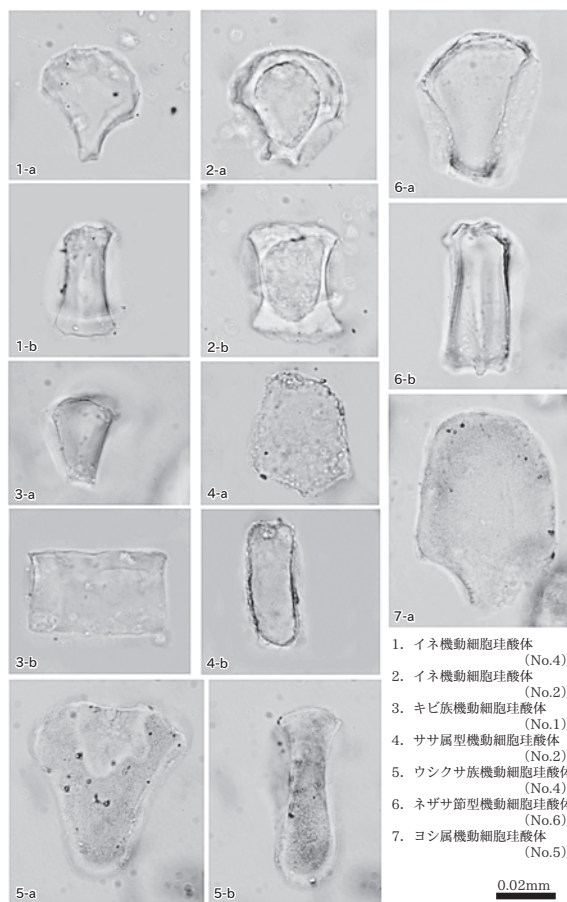
すなわち、No.1～4では単条溝孢子の産出が圧倒的に多く、イネ科やヨモギ属も比較的多く産出するのに対し、No.5～7では、花粉・孢子ともに産出量自体が少ない。またNo.3からは、水田雑草を含む分類群であるオモダカ属やキカシグサ属がわずかに産出している。

b 植物珪酸体(プラント・オパール)分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め第12表に示し、分布図を第25図に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の7種類の機動細胞珪酸体が確認できた。

イネ機動細胞珪酸体はNo.5とNo.6以外の試料から産出しており、1,300～9,200個である。ネザサ節型機動細胞珪酸体はNo.7以外の試料から産出しており、1,400～9,400個である。ササ属型機動細胞珪酸体は全ての試料から産出しており、1,300個～22,300個である。ヨシ属機動細胞珪酸体はNo.4とNo.6以外の試料から産出しており、1,300～3,800個である。シバ属機動細胞珪酸体はNo.2とNo.5から産出しており、それぞれ1,400個と1,300個である。キビ族機動細胞珪酸体はNo.4とNo.5以外の試料から産出しており3,900～16,300個である。ウシクサ族機動細胞珪酸体は全ての試料で産出しており、1,300～14,900個である。



第26図 細池寺道上遺跡第38次調査1区畑跡から産出した植物珪酸体

4) 考 察

今回の分析試料には十分な量の花粉化石が含まれていなかった。一般的に花粉は乾燥に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され消失してしまう。そのため、堆積物が酸素と接触する機会が多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。分析試料は畑跡から採取されているため、耕作などで空気と触れあう機会が多かったと推測でき、花粉が分解・消失しやすい環境であったと思われる。No.1～4では単条溝胞子が多産しているのは、比較的乾燥に強いとされる孢子だけが多く残った結果ではなかろうか。産出する花粉量も少なく、明確に栽培植物であると特定できる分類群の産出も見られないため、今回の花粉分析結果から畑作物に言及するのは難しい。次に植物珪酸体分析の結果であるが、畝を伴う畑跡にもかかわらず、No.1～4でイネ機動細胞珪酸体が産出している。イネ機動細胞珪酸体については、試料1g当り5,000個以上検出された地点の分布範囲と、実際の発掘調査で検出された水田跡の分布がよく対応する結果が得られており〔藤原1984〕、試料1g当り5,000個が水田土壌か否かを判断する目安とされている。No.1～4から産出するイネ機動細胞珪酸体の量は、この目安と比べても十分に多い。畑跡でイネ機動細胞珪酸体が産出する理由については、いくつかの可能性が考えられる。例えば、土壌流出の防止や足場固めのために畑に稲藁を敷いた可能性や、畑にまく肥料に稲藁が混じっていた可能性、水田であった場所を畑に転用した可能性、二毛作が行われていた可能性などである。こうした状況下なら、畑跡からでもイネ機動細胞珪酸体が産出すると考えられる。

もう少し詳しく検討すると、畝の各所から産出したイネ機動細胞珪酸体数では、基盤層であるNo.4から水田土壌の目安を大幅に上回るイネ機動細胞珪酸体が産出している。したがって、畝の形成以前にすでに多くのイネ機動細胞珪酸体が存在していたと考えられる。またNo.1～3では、畝や畝間など部分の違いがあるにもかかわらず、5,000～6,000個という一定量のイネ機動細胞珪酸体が産出している。さらに、花粉分析の結果を見ると、No.3においてイネ科の多産とともに水田雑草を含む分類群であるオモダカ属とキカシグサ属が産出している。イネ科花粉の形態で栽培種のイネを区別するのは難しく、また、オモダカ属とキカシグサ属は水田以外の場所に生育する場合もあるが、イネ機動細胞珪酸体とイネ科花粉、水田雑草を含む分類群が同一試料で産出するという点から、No.3は水田の土壌であった可能性が考えられる。このように、畝の形成以前から多くのイネ機動細胞珪酸体が存在している点や、畝や畝間に一定量のイネ機動細胞が含まれている点、さらに畝間の土壌は水田土壌の可能性のある点などを総合して考えると、水田を畑に転用した可能性や二毛作が行われていた可能性が高いと思われる。

また、No.7においてもイネ機動細胞珪酸体の産出が見られた。No.7が採取されたのは、溝に囲まれたSN1080で、小規模な窪み群があり、明瞭な畝状構造は確認されていない。イネ機動細胞珪酸体の産出から、この場所が水田であった可能性も考えられるが、イネ機動細胞珪酸体の産出量も少なく、今回の植物珪酸体分析の結果のみで水田が存在した可能性について判断するのは難しい。

イネ以外では、No.1～3, 6, 7で産出しているキビ族機動細胞珪酸体が栽培植物の可能性を窺わせる。キビ族にはアワやヒエ、キビといった栽培種が含まれるため、こうした作物が畑で栽培されていた可能性が考えられる。例えば平安時代の畑（No.1～4）を見ると、No.4には含まれていないキビ族が、No.1～3では多く産出しているので、畝の形成後にキビ族の作物が栽培されていた可能性が考えられる。ただし、キビ族には野生種も含まれており、機動細胞珪酸体の形態から区別するのは難しい。No.1～3で産出したキビ族機動細胞珪酸体は、畑周辺に生育していた雑草類という可能性もある。

最後に、平安時代と中世の畑の違いについて述べる。平安時代の畑跡（No.1～4）では、単条溝胞子が多産し、イネ科やヨモギ属を伴っている。また、イネ機動細胞珪酸体が産出しており、キビ族やウシクサ族の機動細胞珪酸体も多く産出している。これに対して中世の畑跡（No.5～7）では、花粉・孢子がほとんど産出せず、イネ機動細胞珪酸体の産出も乏しいか産出していない。平安時代の畑跡と中世の畑跡には、花粉組成や植物珪酸体組成にこのような相違が見られた。特にイネ機動細胞珪酸体に注目すると、前述したように、イネ機動細胞珪酸体の

産出は水田の転用や二毛作に起因する可能性が考えられるため、イネ機動細胞珪酸体が産出する平安時代の畑と、イネ機動細胞珪酸体が産出しない中世の畑では、土壌の履歴や栽培方法などが異なっていた可能性があると思われる。

C 旧河道の自然科学分析

1) はじめに

本分析では、古代の遺物包含層が検出された旧河道の埋積層を対象として、出土した材の放射性炭素年代測定を行うことにより、その年代資料を作成し、珪藻および花粉の各微化石分析から、埋積時期の環境変遷および周辺植生を推定する。さらに、埋積層から抽出された種実遺体の同定および出土した自然木の樹種同定を行うことにより、周辺植生に加えて当時の植物利用についても考察を行う。

2) 試料

試料は、調査区内で検出された大規模な旧河道の埋積層およびその出土遺物である。旧河道の埋積層下部は、発掘調査所見により、上位より3a層から3g層まで分層されているが、埋積層下部の3f層が砂層であるほかは、未分解の植物遺体を含む粘土層あるいは砂混じりの粘土層とされている。これらの埋積層のうち、3e層と3f層からは、9世紀第2～第3四半期を主体とする土器片が多量に出土している。また、3e層と3f層からは流木も多数出土しており、さらに、川底から岸辺付近にかけて横たわる直径1m、全長25mにおよぶ巨木が出土している。この巨木は、加工痕が認められていることや傍らに杭が打たれていることなどから、船着き場などへの通路として利用されていた可能性がある。

今回の分析に供される試料は、試料1～試料18までの番号が付された18点である。この内、試料1は旧河道の川底から、試料2～5は旧河道中央部東壁から、試料6～9は旧河道中央ベルトから、試料10～18は旧河道覆土中からそれぞれ採取されている。各試料の内訳を以下に述べる。また、一覧にして第13表に示す。

試料1：上述した川底より出土した巨木の樹皮である。放射性炭素年代測定の対象とする。

試料2～試料5：3d層から3e層までの層位について、上位より厚さ5cmで連続に採取された土壌試料No.1～No.8までのうちの、No.2、No.4、No.6、No.8の4点である。各試料の採取層位は、No.2からNo.6までは3d層、No.8は3e層である。珪藻分析および花粉分析の対象とする。

第13表 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道跡の分析試料一覧

試料番号	質	試料名	出土層位	¹⁴ C年代測定	花粉分析	珪藻分析	種実同定	樹種同定	備考
試料1	樹皮	旧河道埋積層下部出土樹木No.8の樹皮	3e層	1					
試料2	土壌	旧河道埋積層下部採取土壌No.2	3d層		1	1			
試料3	土壌	旧河道埋積層下部採取土壌No.4	3d層		1	1			
試料4	土壌	旧河道埋積層下部採取土壌No.6	3d層		1	1			
試料5	土壌	旧河道埋積層下部採取土壌No.8	3e層		1	1			
試料6	種実遺体	旧河道埋積層下部出土種子No.2	3d層上部				1		
試料7	種実遺体	旧河道埋積層下部出土種子No.4	3d層下部				1		
試料8	種実遺体	旧河道埋積層下部出土種子No.6	3e・3f層				1		
試料9	種実遺体	旧河道埋積層下部出土種子No.8	3g層				1		
試料10	生材	旧河道埋積層下部出土樹木No.1	3e層					1	自然木
試料11	生材	旧河道埋積層下部出土樹木No.2	3e層					1	自然木
試料12	生材	旧河道埋積層下部出土樹木No.3	3e層					1	自然木
試料13	生材	旧河道埋積層下部出土樹木No.4	3e層					1	自然木
試料14	生材	旧河道埋積層下部出土樹木No.5	3e層					1	自然木
試料15	生材	旧河道埋積層下部出土樹木No.6	3e層					1	自然木
試料16	生材	旧河道埋積層下部出土樹木No.7	3e層					1	自然木
試料17	生材	旧河道埋積層下部出土樹木No.8	3f層					1	自然木
試料18	生材	旧河道埋積層下部出土杭報告書No.46	3f層					1	杭1051
合計点数					1	4	4	4	9

試料6～試料9：3d層下部から3g層までの層位について、上位より厚さ約20cm前後で連続に採取された土壌試料No.1～No.8までのうちの、No.2、No.4、No.6、No.8の4点からそれぞれ抽出された種実遺体の試料である。各試料の採取層位は、No.2は3d層上部、No.4は3d層下部、No.6は3e・3f層、No.8は3g層である。種実遺体分析の対象とする。

試料10～試料18：試料10～試料16までは、3e層から出土した流木とされるNo.1～No.7までの自然木である。試料17は、3f層から出土したNo.8とされた巨木の試料(報告書No.46)である。試料18は、この巨木の横から出土した杭とされる材(報告書No.44)である。いずれも樹種同定の対象とする。

3) 分析 方 法

a 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HCl により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅 (II) と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C (30 分)、850°C (2 時間) で加熱する。液体窒素と液体窒素 + エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO₂ を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO₂ と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650°C で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX-II) とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に ¹³C/¹²C の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma ; 68%) に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。暦年較正とは、大気中の ¹⁴C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ¹⁴C 濃度の変動、及び半減期の違い (¹⁴C の半減期 5,730±40 年) を較正することである。暦年較正は、CALIB REV6.0.0 のマニュアルにしたがい、1 年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。また、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲である。表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表された値を記す。

b 珪藻分析

湿重約 5g の試料をビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を 4～5 回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリユウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸 600 倍または 1000 倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が 200 個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200 個体が検出できた後は、示準種等の重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努めた。

珪藻の同定と種の生態性については、[Hustedt1930・1937・1938・1959・1961～1966、Horst Lange-Bertalot2000、Krammer & Lange-Bertalot1985・1986・1988・1990・1991、Desikachary1987]などを参考にした。

群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の 3 適応性についても生態分類し表に示した。

堆積環境の変遷を考察するために珪藻化石が 100 個体以上検出された試料について珪藻化石群集変遷図を作

成した。出現率は化石総数を基数とした百分率で表し、2%以上の出現率を示す分類群についてのみ表示した(図中の●印は、総数が100個体以上産出した試料うち1%以下の種を、○印は総数100個体未満の場合の産出を示す)。図中には、海水生・汽水生・淡水生種の相対頻度と淡水生種を基数とした塩分・pH・流水の相対頻度について図示した。

c 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛, 比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や〔島倉1973、中村1980〕等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフン(-)で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

d 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は、現生標本および〔石川1994、中山・井之口・南谷2000〕等を参考に実施し、個数を数えて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフン(-)で結んで示す。3d層下部(No.4)と3e・3f層(No.6)で確認される多量のヤナギタデ近似種は、状態が良好な100個の抽出同定にとどめ、残りは容積(cc)を示す。計測は、デジタルノギスを用いて、種実遺体の長さ、幅、厚さを求め、結果を一覧表で示す。

分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れて保管する。

e 樹種同定

剃刀を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラル(抱水クロラル, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、〔島地・伊東1982〕や〔Wheelerほか1998〕を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、〔林1991〕や〔伊東1995~1999〕を参考にする。

4) 結 果

a 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を第14表に示す。3e層出土樹木の樹皮からは1,250±20BPの年代が得られた。その較正暦年代を第15表に示す。測定誤差をσの年代でみると、7世紀末から8世紀後半までの年代となる。

第14表 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部の放射性炭素年代測定結果

試料番号	種類	試料名	層位	補正年代BP	δ ¹³ C (‰)	測定年代BP	Code No.
試料1	樹皮	旧河道埋積層下部出土樹木No.8の樹皮	3e層	1,250±20	-25.60±0.39	1,260±20	IAAA-123925

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
3) 付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

第15表 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部の暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)			Code No.
		σ	2σ	相対比	
試料1	1,248±21	cal AD 693 - cal AD 748	cal BP 1,257 - 1,202	0.805	IAAA-123925
		cal AD 764 - cal AD 777	cal BP 1,186 - 1,173	0.195	
		cal AD 682 - cal AD 783	cal BP 1,268 - 1,167	0.856	
		cal AD 787 - cal AD 824	cal BP 1,163 - 1,126	0.105	
		cal AD 841 - cal AD 861	cal BP 1,109 - 1,089	0.039	

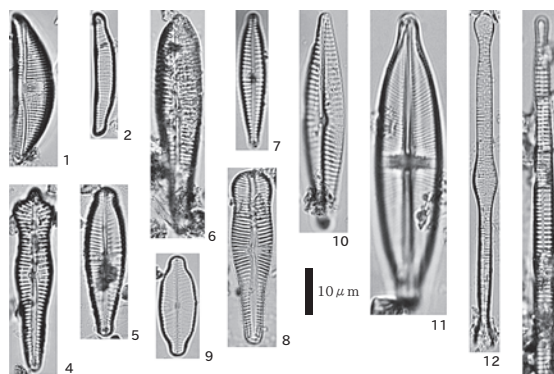
1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。
2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4) 統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。
5) 相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

b 珪藻分析

結果を第16・17表、第28図に示し、顕微鏡写真を第27図に示す。3d層の3試料(試料2~4)には、比較的多くの珪藻化石が含まれており、すべて100個体以上が検出された。化石殻の保存状態は、半壊した殻は認められるものの、溶解の痕跡は認められないことから、状態としては普通(良好)から不良である。検出された分類群は、淡水生種を主体とし、極々低率に淡水~汽水生種および海水生種を伴う種群で構成される。

多産または特徴的に認められた種は、流水性種の *Cocconeis placentula* var. *lineata*、淡水生種で流水不定性種の *Amphora ovalis* var. *affinis*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustatum*、*Gomphonema augur*、*Gomphonema parvulum*、止水性種の *Gomphonema acuminatum* 等である。

3e層の試料5にも、比較的多くの珪藻化石が含まれており、200個体以上が検出された。化石殻の保存状態は、殻の一部が破損した殻は認められるものの、溶解の痕跡は認められないことから、状態としては普通(良好)である。検出された分類群は、淡水生種を



1. *Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) Van Heurck (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d層); 試料2)
2. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst (旧河道埋積層下部採取土壌 No.4 (3d層); 試料3)
3. *Fragilaria ulna* (Nitzsch) Lange-Bertalot (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d層); 試料2)
4. *Gomphonema acuminatum* Ehrenberg (旧河道埋積層下部採取土壌 No.6 (3d層); 試料4)
5. *Gomphonema angustatum* (Kuetz.) Rabenhorst (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d層); 試料2)
6. *Gomphonema augur* Ehrenberg (旧河道埋積層下部採取土壌 No.6 (3d層); 試料4)
7. *Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d層); 試料2)
8. *Gomphonema truncatum* Ehrenberg (旧河道埋積層下部採取土壌 No.8 (3e層); 試料5)
9. *Navicula elginensis* var. *neglecta* (Krass.) Patrick (旧河道埋積層下部採取土壌 No.8 (3e層); 試料5)
10. *Navicula rhynchocephala* Kuetzing (旧河道埋積層下部採取土壌 No.6 (3d層); 試料4)
11. *Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.) Ehrenberg (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d層); 試料2)
12. *Tabellaria fenestrata* (Lyngb.) Kuetzing (旧河道埋積層下部採取土壌 No.6 (3d層); 試料4)

第27図 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部から産出した珪藻化石

第16表 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部における珪藻分析結果(1)

種類	生態性			環境指標種	試料2	試料3	試料4	試料5
	塩分	pH	流水		3d層			3e層
					No.2	No.4	No.6	No.8
<i>Actinocyclus ingens</i> fo. <i>planus</i> Whiting & Schrader	Euh			Eurysaprobic, A	-	-	1	-
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-il	ind	≠U	1	-	-	-
<i>Actinella brasiliensis</i> Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O	1	-	-	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	18	18	16	2
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	-	-	-
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	1
<i>Caloneis leptosoma</i> Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	2	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> var. <i>intermedia</i> A. Mayer	Ogh-ind	al-il	ind	≠O	-	1	-	-
<i>Caloneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	-	-	-	1
<i>Ceratoneis arcus</i> var. <i>hatteriana</i> Meister	Ogh-ind	ind	r-bi	J	-	-	-	1
<i>Cocconeis pediculus</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	-	-	1
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	3	4
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1	3	8	-
<i>Cocconeis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	-	-	1	1
<i>Craticula cuspidata</i> (Kuetz.) D. G. Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	-	1
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O,T	1	-	-	-
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T	1	1	-	4
<i>Cymbella heteropleura</i> var. <i>minor</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph	not diagnostic	1	-	-	1
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	1	3	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	1	6	-
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	3	-	-	4
<i>Diatoma</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	1	-	-	-
<i>Encyonema silesiacum</i> (Bleisch in Rabenh.) D. G. Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	1	-	1	2
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind	U	1	-	-	-
<i>Eunotia arcus</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	not diagnostic	-	-	-	1
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	3
<i>Eunotia formica</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	1	-	-
<i>Eunotia incisa</i> W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	1	3
<i>Eunotia lunaris</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	3	-	3	11
<i>Eunotia pectinalis</i> (Dillwyn) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O,T	-	-	1	-

第1節 細池寺道上遺跡第38次(12)調査の自然科学分析

第17表 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部における珪藻分析結果(2)

種類	生態性			環境指標種	試料2	試料3	試料4	試料5
	塩分	pH	流水		3d層			
					No.2	No.4	No.6	No.8
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	8	3	27	16
<i>Eunotia praerupta</i> var. <i>bidens</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O	1	-	-	-
<i>Eunotia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	1	3	-	-
<i>Fragilaria ulna</i> (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	≠O,U	7	21	16	29
<i>Fragilaria ulna</i> var. <i>arcus</i> (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	1	-	-	-
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwaites) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	5	-	3	-
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	3	7	4	16
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	87	23	16	28
<i>Gomphonema angustum</i> C. Agardh	Ogh-ind	al-il	ind	U	6	4	8	3
<i>Gomphonema augur</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	U	1	13	9	12
<i>Gomphonema clavatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	-	-	1
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	7	-	22	11
<i>Gomphonema parvulum</i> var. <i>lagenula</i> (Kuetz.) Frenguelli	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	2	-	-
<i>Gomphonema sphaerophorum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	1	1
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	3	-	8	3
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	12	-	12	unk
<i>Gyrosigma scalpoides</i> (Rabenh.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	≠K,U	1	-	1	-
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	3	-	1
<i>Hantzschia amphioxys</i> var. <i>vivax</i> (Hantz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	-	-	1
<i>Meridion circulare</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	1	-	-	-
<i>Navicula contenta</i> fo. <i>biceps</i> (Arn.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	-	-	1	-
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	1	5
<i>Navicula menisculus</i> Schumann	Ogh-ind	al-il	r-ph	≠O,U	1	1	3	-
<i>Navicula mobiliensis</i> var. <i>minor</i> Patrick	Ogh-ind	al-il	ind	≠RB	-	-	3	1
<i>Navicula radiosia</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	1
<i>Navicula rhynchocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	3	7	6	-
<i>Navicula tokyoensis</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	-	-	1	-
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	-	-	3	1
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	≠O	-	-	1	3
<i>Neidium</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	-	2	1	3
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	-	-	1	-
<i>Nitzschia fonticola</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	-	-
<i>Pinnularia braunii</i> (Grun.) Cleve	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	S	1	1	-	-
<i>Pinnularia divergens</i> W. Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	≠O	1	-	-	-
<i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	4	-	-	-
<i>Pinnularia gibba</i> var. <i>linearis</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	≠O	1	-	3	-
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	2	6	3	-
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	≠O	-	1	1	-
<i>Pinnularia subrupestris</i> Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind	≠O	-	1	1	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	4	2	4	6
<i>Sellaphora bacillum</i> (Ehr.) D. G. Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-	1	-
<i>Sellaphora laevissima</i> (Kuetz.) D. G. Mann	Ogh-ind	ind	ind	≠U	-	-	-	1
<i>Sellaphora pupula</i> (Kuetz.) Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S,U	-	-	2	1
<i>Stauroneis nobilis</i> Schumann	Ogh-hob	ac-il	ind	not diagnostic	1	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	≠N,O,U	5	1	-	5
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> fo. <i>gracilis</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	≠N,O,U	1	-	-	-
<i>Stauroneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	6	-	-	6
<i>Surirella ovata</i> var. <i>pinnata</i> (W. Smith) Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	1
<i>Surirella robusta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ind	l-bi	not diagnostic	-	1	-	-
<i>Surirella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	not diagnostic	-	1	-	1
<i>Tabellaria fenestrata</i> (Lyngb.) Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O,T	-	-	8	3
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth) Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	-	2	8
Marine water					0	0	1	0
Marine-Brackish water					0	0	0	0
Brackish water					0	0	0	0
Fresh-Brackish water					1	0	0	0
Fresh water					213	132	213	209
Total					214	132	214	209

塩分：塩分濃度に対する適応性

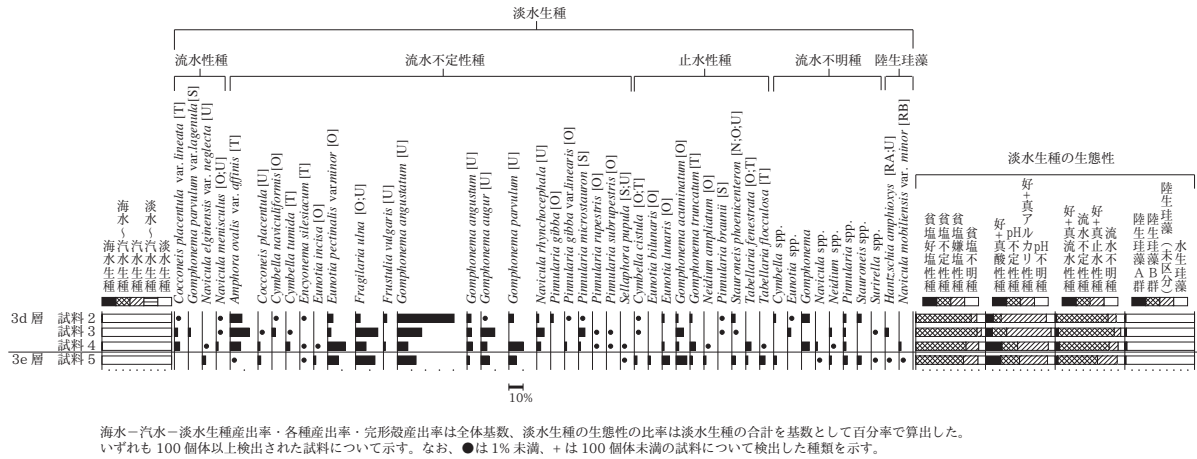
pH：水素イオン濃度に対する適応性

流水：流水に対する適応性

Euh：海水生種 Ogh-ind：貧塩不定性種 al-bi：真アルカリ性種 ac-il：好酸性種 l-bi：真止水性種 r-bi：真流水性種
 Euh-Meh：海水生種-汽水生種 Ogh-hob：貧塩嫌塩性種 al-il：好アルカリ性種 ac-bi：真酸性種 l-ph：好止水性種 unk：流水不明種
 Meh：汽水生種 Ogh-unk：貧塩不明種 ind：pH不定性種 unk：pH不明種 ind：流水不定性種
 Ogh-Meh：淡水生種-汽水生種 r-ph：好流水性種
 Ogh-hil：貧塩好塩性種

環境指標種

A：外洋指標種 B：内湾指標種 C1：海水藻場指標種 C2：汽水藻場指標種 D1：海水砂質干潟指標種 D2：汽水砂質干潟指標種 E1：海水泥質干潟指標種 E2：汽水泥質干潟指標種
 F：淡水底生種群 (以上は【小杉1988】)
 G：淡水浮遊生種群 H：河口浮遊生種群 J：上流性河川指標種 K：中～下流性河川指標種 L：最下流性河川指標種群 M：湖沼浮遊性種 N：湖沼沼沢湿地指標種
 O：沼沢湿地付着生種 P：高層湿原指標種群 Q：陸域指標種群 (以上は【安藤1990】)
 S：好汚濁性種 U：広適応性種 T：好清水性種 (以上は【Asai and Watanabe1995】)
 R：陸生珪藻 (RA：A群, RB：B群, RI：未区分、(伊藤・堀内1991))



海水-汽水-淡水生産産出率・各種産出率・完形産出率は全体基数、淡水性種の生態性の比率は淡水性種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、+は100個体未満の試料について検出した種類を示す。

環境指標種

A : 外洋指標種 B : 内湾指標種 C1 : 海洋藻場指標種 C2 : 汽水藻場指標種 D1 : 海水砂質干潟指標種 D2 : 汽水砂質干潟指標種

E1 : 海水泥質干潟指標種 F : 淡水底生種群 (以上は [小杉 1988])

G : 淡水浮遊性種群 H : 河口浮遊性種群 J : 上流性河川指標種 K : 中～下流性河川指標種 L : 最下流性河川指標種群 M : 湖沼浮遊性種 N : 湖沼沼沢湿地指標種

O : 沼沢湿地付着性種 P : 高層湿原指標種群 Q : 陸域指標種群 (以上は [安藤 1990])

S : 好汚濁性種 U : 広適応性種 T : 好清水性種 (以上は [Asai and Watanabe 1995])

RI : 陸生珪藻 (RA : A 群, RB : B 群 [伊藤・堀内 1991])

第 28 図 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道埋積層下部における主要珪藻化石群集の層位分布

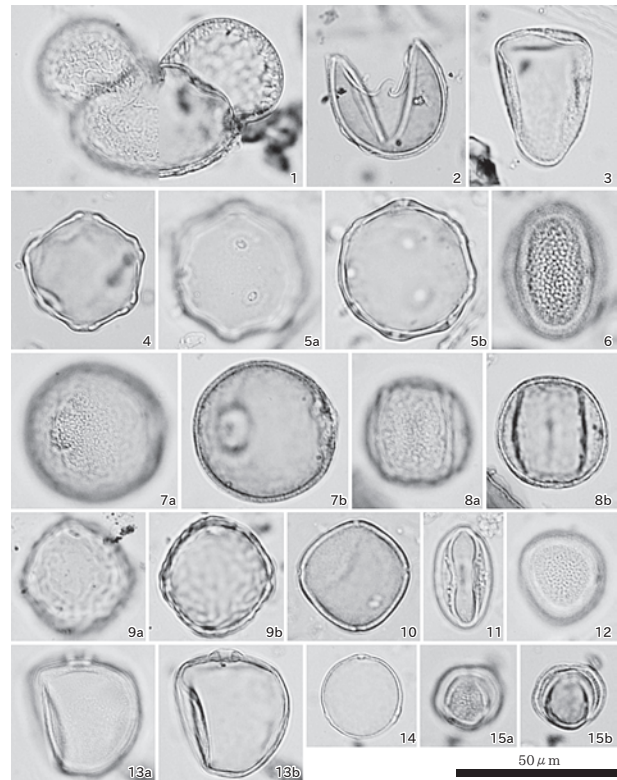
主として、極々低率に淡水～汽水性種を伴う種群で構成される。

多産または特徴的に認められた種は、流水性種の *Navicula elginensis* var. *neglecta*、淡水性種で流水不定性種の *Eunotia pectinlis* var. *minor*、*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustatum*、*Gomphonema augur*、*Gomphonema parvulum*、止水性種の *Gomphonema acuminatum* 等である。

c 花粉分析

結果を第 18 表、第 30 図に示し、顕微鏡写真を第 29 図に示す。いずれの試料からも花粉化石が豊富に産出し、保存状態も全体的に良好である。花粉化石群集についてみると、いずれの試料も多産する試料は類似しており、木本花粉ではスギ属が最も多く産出し、マツ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、サワグルミ属、クルミ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属、エノキ属-ムクノキ属、トチノキ属等が多く認められる。層位的な変化についてみると、3d 層の試料 2～6 ではスギ属が 33～35% 程度認められるが、3e 層の試料 5 では 20% 以下になり、サワグルミ属、クルミ属、エノキ属-ムクノキ属等の割合がやや高くなる。

草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、クワ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属等が多く認められ、上位の試料に向かってクワ科が減少し、3d 層の試料 2 でカヤツリグサ科が多産する。また、

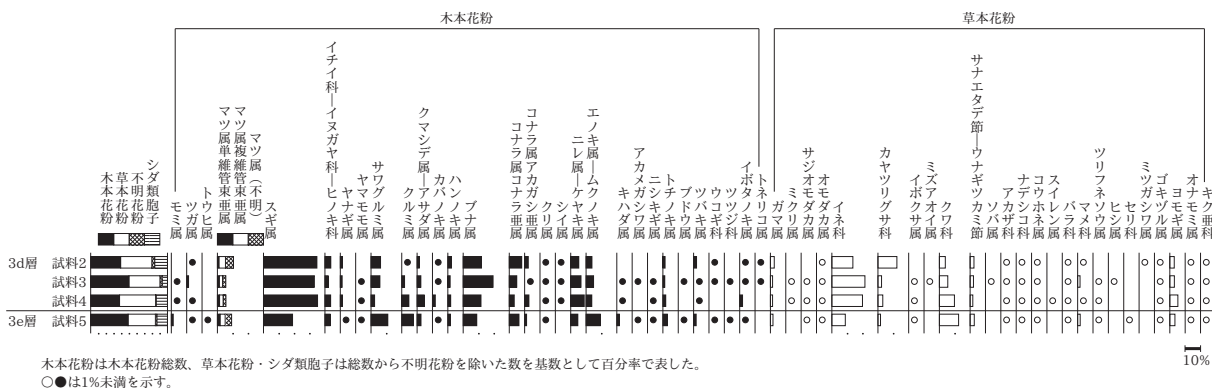


1. マツ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d 層); 試料 2)
2. スギ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d 層); 試料 2)
3. カヤツリグサ科 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d 層); 試料 2)
4. サワグルミ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d 層); 試料 2)
5. クルミ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.8 (3e 層); 試料 5)
6. ソバ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.4 (3d 層); 試料 3)
7. ブナ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d 層); 試料 2)
8. コナラ属コナラ亜属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d 層); 試料 2)
9. ニレ属-ケヤキ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d 層); 試料 2)
10. エノキ属-ムクノキ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.4 (3d 層); 試料 3)
11. トチノキ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.8 (3e 層); 試料 5)
12. ガマ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d 層); 試料 2)
13. イネ科 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d 層); 試料 2)
14. クワ科 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.8 (3e 層); 試料 5)
15. ヨモギ属 (旧河道埋積層下部採取土壌 No.2 (3d 層); 試料 2)

第 29 図 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道埋積層下部から産出した花粉化石

第18表 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部における花粉分析結果

種類	試料2	試料3	試料4	試料5	種類	試料2	試料3	試料4	試料5
	No.2	No.4	No.6	No.8		No.2	No.4	No.6	No.8
木本花粉					草本花粉				
モミ属	-	2	2	3	ガマ属	13	9	8	8
ツガ属	1	4	2	2	ミクリ属	-	1	1	-
トウヒ属	-	-	-	1	サジオモダカ属	-	1	3	1
マツ属単維管束亜属	2	4	3	4	オモダカ属	1	1	2	1
マツ属複維管束亜属	9	7	5	8	イネ科	71	138	114	42
マツ属(不明)	11	7	4	10	カヤツリグサ科	64	15	18	8
コウヤマキ属	1	-	-	-	イボクサ属	-	1	2	1
スギ属	73	109	76	45	ミズアオイ属	-	1	-	-
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	8	7	8	8	クワ科	20	35	56	60
ヤナギ属	3	4	3	2	ギンギン属	-	1	-	1
ヤマモモ属	-	1	1	1	イブキトラノオ節	-	1	-	-
サワグルミ属	13	19	5	26	サナエタデ節-ウナギツカミ節	13	14	10	13
クルミ属	1	6	10	18	ソバ属	-	1	-	-
クマシデ属-アサダ属	3	8	10	6	アカザ科	1	2	1	1
カバノキ属	1	1	4	1	ナデシコ科	3	1	2	1
ハンノキ属	5	5	4	4	コウホネ属	1	3	3	2
ブナ属	25	64	25	21	スイレン属	-	-	1	-
コナラ属コナラ亜属	17	16	7	15	アブラナ科	3	2	3	-
コナラ属アカガシ亜属	5	3	6	3	バラ科	1	3	1	4
クリ属	1	1	1	1	マメ科	5	10	5	8
シイ属	1	1	1	-	ツリフネソウ属	-	2	3	2
ニレ属-ケヤキ属	11	22	19	11	ヒシ属	-	1	-	-
エノキ属-ムクノキ属	8	16	8	22	セリ科	-	-	-	1
キハダ属	-	2	1	4	ミツガシワ属	1	-	-	-
アカメガシワ属	-	1	-	1	オオバコ属	-	-	-	1
ウルシ属	-	-	-	1	ゴキツル属	3	1	3	1
モチノキ属	1	-	-	-	ヨモギ属	15	19	30	16
ニシキギ属	-	1	1	1	オナモミ属	1	2	1	1
トチノキ属	3	4	4	7	キク亜科	3	2	1	1
ブドウ属	-	1	-	1	タンポポ亜科	-	-	2	-
ノブドウ属	-	1	-	-	不明花粉	20	20	3	9
ツバキ属	4	3	2	4	不明花粉				
ウコギ科	1	2	-	1	シダ類胞子				
アオキ属	-	1	-	-	ゼンマイ属	3	4	2	6
ツツジ科	-	3	-	1	他のシダ類胞子	87	41	84	62
エゴノキ属	-	-	-	4	合計				
イボタノキ属	1	2	4	1	木本花粉	210	329	216	238
トネリコ属	1	1	-	-	草本花粉	219	267	270	174
					不明花粉	20	20	3	9
					シダ類胞子	90	45	86	68
					合計(不明を除く)	519	641	572	480



第30図 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部における主要花粉化石群集の層位分布

ガマ属をはじめ、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属、コウホネ属、スイレン属、ツリフネソウ属、ヒシ属、ミツガシワ属、ゴキツル属等、水湿地生植物に由来する花粉も多く認められる。

d 種実同定

裸子植物(イヌガヤ)1個、被子植物75分類群(オニグルミ、サワグルミ、ムクノキ、エノキ属、ケヤキ、クワ属、ヒメコウゾ、クスノキ科、サルナシ近似種、アカメガシワ、カラサザンショウ、キハダ、ハギ属、カエデ属、ムクロジ、トチノキ、クマヤナギ属、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ノブドウ、ミズキ、タラノキ、ヤマウコギ類、エゴノキ、ムラサキシキブ属、クサギ、ニワトコ、ヤブデマリ近似種、サジオモダカ属、オモダカ科、ヒルムシロ属、イボクサ、オオムギ、イヌビエ属、イネ科、ミクリ属(A・B)、スゲ属、ウキヤガラ、ホタルイ属(平滑型・横皺型)、カナムグラ、アサ、カラムシ属、サナエタ

デ近似種、イヌタデ近似種、ミゾソバ近似種、ボントクタデ近似種、ヤナギタデ近似種、アカザ科、キンボウゲ属、コウホネ属、ヒツジグサ、ムラサキケマン型、エノキグサ、ツリフネソウ、スマレ属、雑草メロン型、マクワ・シロウリ型、モモルディカメロン型、メロン類、スズメウリ、キカラスウリ、ウリ科、ヤブジラミ属、セリ科、キランソウ属、シソ属、シソ属-イヌコウジュ属、シソ科、ハダカホオズキ近似種、イガホオズキ属、ナス属、ナス、キク科) 3121 個 +1.2cc、合計 3122 個 +1.2cc の種実が同定された (第 19 表、第 31・32 図)。種実以外では、植物片 (材・炭化材・芽・茎等)、昆虫類、動物、岩片が確認された。

種実遺体の出土個数は、3e・3f 層の試料 8 が 1469 (木本 118、草本 1351) 個と最も多く、次いで 3d 層下部の試料 7 が 1023 (木本 1、草本 1022) 個、3g 層の試料 9 が 425 (木本 108、草本 317) 個で、3d 層上部の試料 6 が 205 (木本 3、草本 202) 個と最も少ない。

栽培種は、3g 層の試料 9 から、オオムギの炭化胚乳が 2 個、アサが 25 個、雑草メロン型が 1 個、マクワ・シロウリ型が 4 個、メロン類が 5 個、ナスが 4 個の、計 41 個と、3e・3f 層の試料 8 から、アサが 72 個、雑草メロン型が 11 個、マクワ・シロウリ型が 3 個、モモルディカメロン型が 2 個、メロン類が 9 個、シソ属が 29 個、ナスが 31 個の、計 157 個、合計 198 個が確認された。

第 19 表 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道埋積層下部における種実出土状況

木本	部位	試料6	試料7	試料8	試料9	草本	部位	試料6	試料7	試料8	試料9
		3d層上部 No.2	3d層下部 No.4	3e・3f層 No.6	3g層 No.8			3d層上部 No.2	3d層下部 No.4	3e・3f層 No.6	3g層 No.8
高木						水湿地生草本					
オニグルミ	核	—	—	2	—	サジオモダカ属	果実	—	—	5	—
サワグルミ	果実	—	—	6	30	オモダカ科	種子	—	—	1	—
ムクノキ	核	—	—	6	3	ヒルムシロ属	果実	—	—	15	2
エノキ属	核	—	—	—	4	イボクサ	種子	—	—	4	—
ケヤキ	果実	—	—	2	—	ミクリ属A	炭化果実	—	—	4	—
クワ属	核	—	—	11	—		果実	18	20	335	94
アカメガシワ	種子	—	—	20	18	ミクリ属B	炭化果実	—	—	4	—
カラスザンショウ	種子	—	—	6	3		果実	49	286	178	20
キハダ	種子	—	—	1	—	ミクリ属B?	果実	13	521	197	9
カエデ属	果実	—	—	—	1	スゲ属 (3面体)	果実	1	—	3	1
ムクロジ	種子	—	—	—	1	ウキヤガラ	果実	5	20	5	—
トチノキ	幼果	—	—	1	3	ホタルイ属 (平滑型)	果実	5	10	5	2
	種子	—	—	2	—	ホタルイ属 (横皺型)	果実	—	2	6	—
	種子	—	—	1	—	ミゾソバ近似種	果実	1	—	1	—
ミズキ	核	—	—	7	3	ボントクタデ近似種	果実	—	8	2	1
小高木~低木						ヤナギタデ近似種	果実	74	102	126	45
イヌガヤ	種子	—	—	—	1	ヤナギタデ近似種主体*	果実	—	130~160	270~320	—
ヒメコウゾ	核	—	—	—	1	コウホネ属	種子	8	17	84	7
クスノキ科	種子	—	—	—	3	ヒツジグサ	種子	—	1	1	—
クマヤナギ属	核	—	—	—	1	ムラサキケマン型	種子	—	—	5	—
タラノキ	核	—	—	—	1	ツリフネソウ	種子	—	3	9	—
ヤマウコギ類	核	—	1	—	—	スズメウリ	種子	—	—	—	2
エゴノキ	種子	—	—	2	—	セリ科	果実	3	5	—	—
ムラサキシキブ属	核	—	—	1	5	湿生~中生草本					
クサギ	核	—	—	1	—	イヌビエ属	果実	3	1	5	1
ニワトコ	核	1	—	29	24	イネ科	果実	—	—	2	—
ヤブデマリ近似種	核	—	—	5	4	カナムグラ	果実・核	—	—	79	12
藤本						カラムシ属	果実	—	—	3	—
サルナン近似種	種子	—	—	—	1	サナエタデ近似種	果実	—	—	23	2
ヤマブドウ近似種	種子	—	—	5	—	イヌタデ近似種	果実	4	3	17	4
ブドウ属	種子	—	—	3	—	アカザ科	種子	—	—	2	—
ノブドウ	種子	—	—	7	1	キンボウゲ属	果実	14	14	2	—
低木または多年草						キンボウゲ属?	果実	—	—	3	—
ハギ属	果実	1	—	—	—	エノキグサ	種子	1	—	1	—
	種子	1	—	—	—	スマレ属	種子	—	—	1	—
草本						キカラスウリ	種子	—	—	1	—
栽培種						ウリ科	種子	—	—	1	—
オオムギ	炭化胚乳	—	—	—	2	ヤブジラミ属	果実	—	—	—	1
アサ	果実	—	—	72	25	キランソウ属	果実	—	—	1	—
雑草メロン型	種子	—	—	11	1	シソ属-イヌコウジュ属	果実	3	—	—	1
マクワ・シロウリ型	種子	—	—	3	4	シソ科	果実	—	8	1	2
モモルディカメロン型	種子	—	—	2	—	ハダカホオズキ近似種	種子	—	—	51	66
メロン類	種子	—	—	9	5	イガホオズキ属	種子	—	—	1	—
シソ属	果実	—	—	29	—	ナス属	種子	—	—	10	4
ナス	種子	—	—	31	4	キク科	果実	—	1	—	—
合計						合計					
木本		3	1	118	108	草本 (水湿地生)		177	995	990	183
草本 (栽培種)		—	—	157	41	草本 (湿生~中生)		25	27	204	93
種実合計 (木本+草本)		205	1023	1469	425						

注) *ヤナギタデ近似種主体の個数は、ヤナギタデ近似種100個の容積 (0.25~0.3cc) より求めている

栽培種を除いた分類群は、3g層の試料9を除いて、圧倒的な水湿地生草本主体の組成を示す。水湿地生草本は、多年生の沈水植物(根が水底に固着し、植物体全体が水中に沈む植物)または浮葉植物(根が水底に固着し、水面に浮く葉(浮葉)を展開する植物)のヒルムシロ属、腐植栄養または貧~中栄養の湖沼やため池などに生育する多年生浮葉植物のヒツジグサ、多年生の浮葉~抽水植物(根が水底に固着し、植物体の一部が水面を突き抜けて空気中に出る植物)のコウホネ属、多年生の抽水植物のミクリ属(A・B)、ウキヤガラ、抽水植物のホタルイ属(平滑型・横皺型を含む)、多年生の抽水性~湿生植物のサジオモダカ属を含むオモダカ科、一年生抽水性~湿生植物のイボクサ、湿生植物のスゲ属、ミゾバ近似種、ボントクタデ近似種、ヤナギタデ近似種、ムラサキケマン型、ツリフネソウ、スズメウリ、セリ科が確認され、草本全体(2694個+1.2cc)の9割以上(計2345個+1.2cc)を占める。ミクリ属B(1277個)が最も多く、ヤナギタデ近似種(347個+1.2cc)、ミクリ属A(471個)が順に次ぐ。

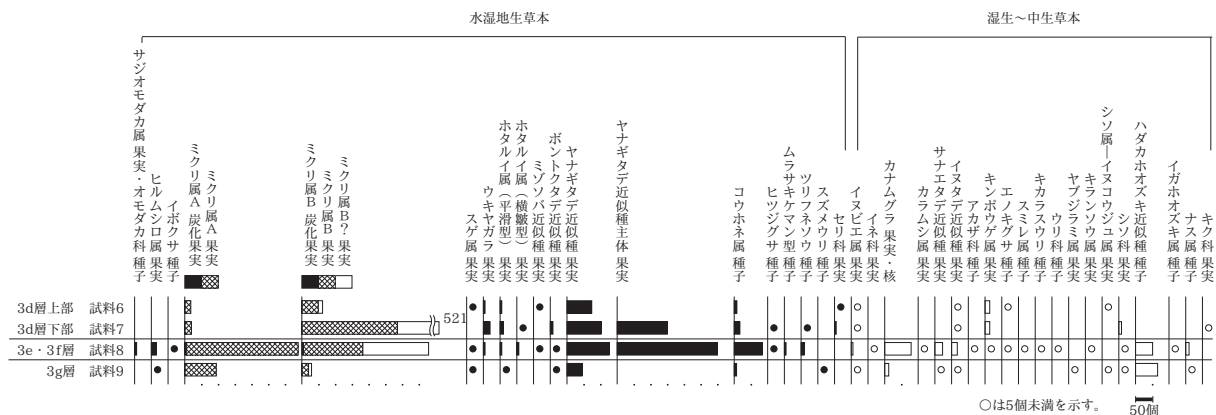
湿生~中生草本は、イヌビエ属、イネ科、カナムグラ、カラムシ属、サナエタデ近似種、イヌタデ近似種、アカザ科、キンポウゲ属、エノキグサ、スマレ属、キカラスウリ、ウリ科、ヤブジラミ属、キランソウ属、シソ属-イヌコウジュ属、シソ科、ハダカホオズキ近似種、イガホオズキ属、ナス属、キク科などが計349個確認された。

木本は、おもに3g層の試料9と3e・3f層の試料8から確認された。針葉樹は、常緑小高木~低木のイヌガヤが1個確認された。広葉樹は、殆どが落葉樹からなり、高木のオニグルミ、サワグルミ、ムクノキ、エノキ属、ケヤキ、クワ属、アカメガシワ、カラスザンショウ、キハダ、カエデ属、ムクロジ、トチノキ、ミズキ、小高木~低木のヒメコウゾ、クスノキ科、クマヤナギ属、タラノキ、ヤマウコギ類、エゴノキ、ムラサキシキブ属、クサギ、ニワトコ、ヤブデマリ近似種、籐本のサルナシ近似種、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ノブドウ、低木または多年草のハギ属が計229個確認された。河畔林要素のオニグルミ、サワグルミ、ムクノキ、エノキ属、ケヤキ、トチノキ、ミズキや、河畔や崩壊地、林縁等の明るく開けた場所に先駆的に侵入する陽樹を主体とする。

種実遺体の保存状態は比較的良好で、3g層の試料9のオオムギ2個と、3e・3f層の試料8のミクリ属A、ミ



第31図 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部における種実遺体群集の層位分布(1)



第32図 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部における種実遺体群集の層位分布(2)

クリ属 B 各 4 個に炭化が認められた。本分析で同定された種実遺体各分類群の写真を第 33 ~ 37 図に示す。また、おもな分類群の形態的特徴等を以下に述べ、計測値を第 20 表に示す。

〈栽培種〉

・オオムギ (*Hordeum vulgare* L.) イネ科オオムギ属

胚乳は炭化しており黒色、長さ 5.4mm、幅 2.7mm、厚さ 2.4mm と、長さ 3.9mm、幅 2.4mm、厚さ 2.3mm のやや偏平な紡錘状長楕円体で両端は尖る。腹面正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面は粗面で微細な縦筋がある。表面に穎の破片が付着する。穎は薄く、表面は粗面で微細な縦筋が配列する。

・アサ (*Cannabis sativa* L.) クワ科アサ属

果実は灰褐色。長さ 4.0mm、幅 3.0mm、厚さ 2.0mm 程度の歪な広卵体で、一側面は鈍稜のある狭卵形で他方は稜をなす。稜に沿って割れた半分以下の破片もみられる。両端は切形で、頂部に径 0.6 ~ 0.8mm 程度の楕円形の突起がある。果皮はやや厚く、断面は柵状。表面は粗面で葉脈状網目模様がある。

・メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

種子は淡~黄灰褐色、偏平な狭倒皮針形。長さは 4.0 ~ 8.3mm、幅は 1.6 ~ 4.4mm、厚さは 0.4 ~ 2.0mm

第 20 表 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道埋積層下部における主な種実遺体の計測値

分類群・部位	層名	試料番号	長さ	幅	厚さ	備考
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	5.9	2.9+	1.3	
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	5.8	2.7	1.0	
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	4.8	2.0	2.0	
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	4.0	1.8	1.0	
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	4.5	1.9	0.9	
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	4.6	2.1	0.9	
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	4.4	2.1	0.8	
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	4.0+	2.1	0.8	
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	3.2+	1.7	0.7+	
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	3.7+	1.6	0.7+	
雑草メロン型種子	3e・3f層	試料8	3.5+	1.9+	-	破片
雑草メロン型種子	3g層	試料9	5.2	2.1	0.6+	
マクワ・シロウリ型種子	3e・3f層	試料8	7.1+	3.8	1.5	
マクワ・シロウリ型種子	3e・3f層	試料8	6.7	3.1	1.2	
マクワ・シロウリ型種子	3e・3f層	試料8	6.3+	3.1+	-	破片
マクワ・シロウリ型種子	3g層	試料9	7.9	4.2	1.0	
マクワ・シロウリ型種子	3g層	試料9	6.3+	3.7+	1.2	破片
マクワ・シロウリ型種子	3g層	試料9	7.8	2.9	0.4	破片
マクワ・シロウリ型種子	3g層	試料9	8.0	4.4	0.3+	破片
モルディカメロン型種子	3e・3f層	試料8	8.3	3.8	1.7	
モルディカメロン型種子	3e・3f層	試料8	8.6+	3.8	1.4	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.6	1.4	1.2	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.5	1.4	1.2	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.7	1.5	1.4	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.5+	1.3	1.1	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.6+	1.3	1.0	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.3+	1.4	1.1+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.5+	1.2+	0.8+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.6+	-	-	破片
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.4+	-	-	破片
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.4	1.2	1.0	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.5	1.2	0.9+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.5	1.4	1.1+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.5	1.4	0.7+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.5	1.3	0.9+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.6	1.2	1.1	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.5+	1.2	0.9+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.4+	1.0	0.9+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.4+	1.3	1.1+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.3+	1.3	0.8+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.3+	1.2	1.1+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.4	1.2	0.8+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.5	1.3	1.0	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.4+	1.3	1.0+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.4+	1.1	0.8+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.4+	0.8+	0.9+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.3	1.1	0.9+	
シソ属実	3e・3f層	試料8	1.0+	-	-	破片
シソ属-イヌコウジュ属実	3d層上部	試料6	1.4	1.1	0.9	
シソ属-イヌコウジュ属実	3d層上部	試料6	1.3	1.1	0.9	
シソ属-イヌコウジュ属実	3d層上部	試料6	1.3	1.3	1.0	
シソ属-イヌコウジュ属実	3g層	試料9	1.4	1.2	0.9+	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.7	3.0	1.1	
ナス種子	3e・3f層	試料8	3.2	3.3	0.9	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.7	3.1	0.9	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.7	3.1	0.9	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.7	2.9	0.8	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.6	3.4	0.7	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.7	2.9	0.7	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.5	2.7	1.0	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.6	2.9	0.9	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.5	3.1	0.8	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.6	3.1	0.9	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.5	2.9	0.7	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.7	2.9	1.0	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.9	3.1	1.2	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.5	3.1	0.4	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.4	2.8	0.8	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.3	2.6	1.0	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.8	2.8	0.4+	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.6	2.7+	0.7+	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.7	2.8	0.9+	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.5	3.2+	0.7+	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.5	2.7	0.8+	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.2+	2.4+	0.6+	
ナス種子	3e・3f層	試料8	3.0	3.3+	0.6+	
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.5+	3.3+	-	破片
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.6+	2.9+	-	破片
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.3+	2.9+	-	破片
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.4+	-	-	破片
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.8+	-	-	破片
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.2+	2.9	-	破片
ナス種子	3e・3f層	試料8	2.2+	2.7+	-	破片
ナス種子	3g層	試料9	2.8	3.2	0.8	
ナス種子	3g層	試料9	2.3	2.8	1.1	
ナス種子	3g層	試料9	1.9+	2.9+	0.9+	破片
ナス種子	3g層	試料9	2.7+	2.7+	-	破片
ナス属種子	3e・3f層	試料8	1.1	1.5	0.4	
ナス属種子	3e・3f層	試料8	1.7	1.8+	0.5+	
ナス属種子	3e・3f層	試料8	1.7	2.0	0.3+	
ナス属種子	3e・3f層	試料8	1.1	1.5	0.3	
ナス属種子	3e・3f層	試料8	-	-	-	破片
ナス属種子	3e・3f層	試料8	1.7	1.7	0.3	
ナス属種子	3e・3f層	試料8	1.7+	2.3	0.3	
ナス属種子	3e・3f層	試料8	1.8	2.2	0.2	
ナス属種子	3e・3f層	試料8	-	-	-	破片
ナス属種子	3e・3f層	試料8	-	-	-	破片
ナス属種子	3g層	試料9	1.8	2.0	0.5	
ナス属種子	3g層	試料9	1.8	2.1	0.5+	
ナス属種子	3g層	試料9	1.7	2.1+	0.5	
ナス属種子	3g層	試料9	1.6+	1.8	0.3+	
オオムギ炭化胚乳	3g層	試料9	5.4	2.7	2.4	
オオムギ炭化胚乳	3g層	試料9	3.9	2.4	2.3	

注) 計測値 (mm) はデジタルノギスによる

と、〔藤下1984〕の基準による小粒の雑草メロン型(長さ6.1mm未満)が12個、中粒のマクワ・シロウリ型(長さ6.1~8.1mm)が7個、大粒のモモルディカメロン型(長さ8.1mm以上)が2個確認された。種皮表面には縦長の細胞が密に配列する。なお、完全な長さの推定が難しい破片をメロン類にとどめている。

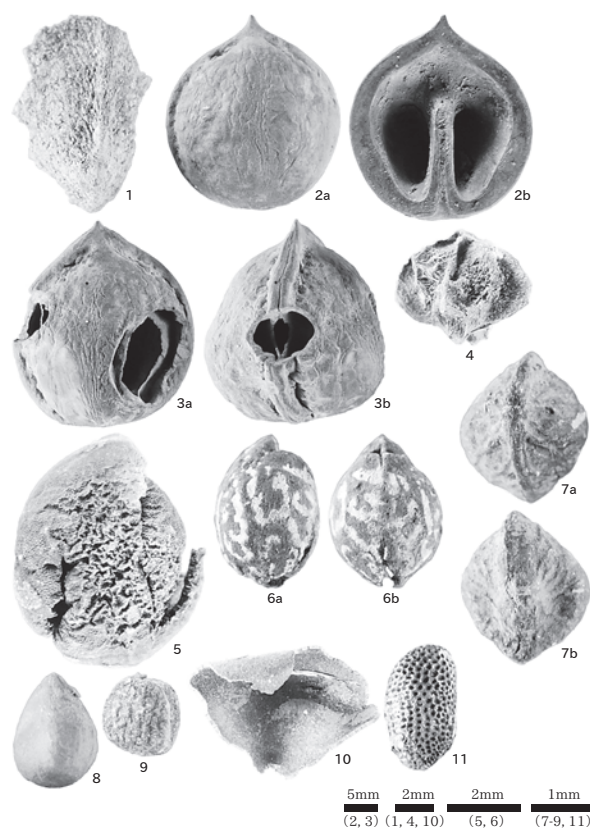
・シソ属(*Perilla*) シソ科

果実は暗灰褐色、長さ1.3~1.7mm、幅1.0~1.5mm、厚さ1.0~1.4mmの倒広卵体。果実基部に大きな着点部があり、舌状に突出する。果皮はやや硬く、表面には浅く大きく不規則な網目模様がある。

シソ属には、栽培種で軟実のエゴマと、硬実のシソのほかに、硬実の雑草型エゴマがあり、雑草型エゴマの果実の大きさはエゴマとシソの中間型を示す〔新田2001〕。また、シソ属と野生種のイヌコウジュ属(*Mosla*)の果実の大きさの変異も連続的である。本分析では、〔笠原1982〕の基準(長さ1.4~1.5mm、幅1.1~1.2mmをシソ、長さ2.0~2.8mm、幅1.8~2.5mmをエゴマ)や〔中山ほか2000〕の計測値を参考にシソ属とし、やや小型で着点が不明瞭な個体をシソ属(*Perilla*)ーイヌコウジュ属としている。

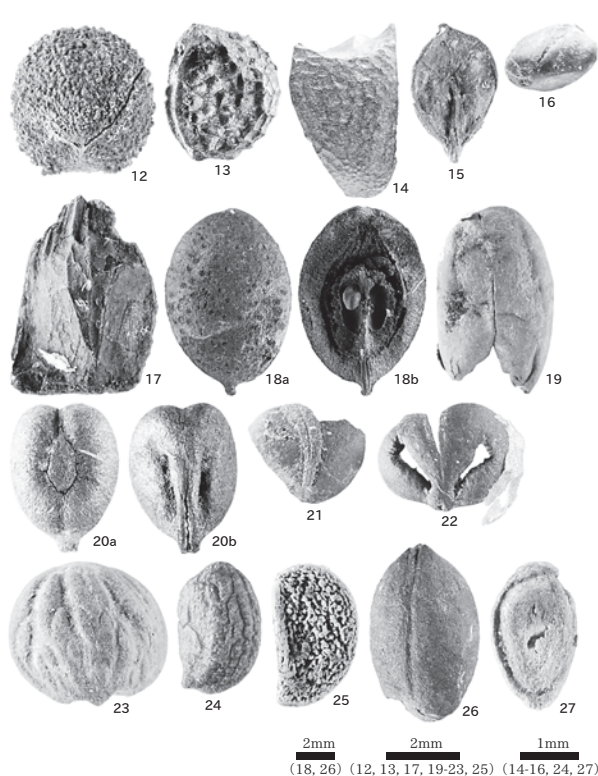
・ナス(*Solanum melongena* L.) ナス科ナス属

種子は灰褐色、長さ2.3~3.2mm、幅2.6~3.4mm、厚さ0.4~1.2mmの扁平で歪な腎臓形。基部はやや肥厚し、くびれた部分にへそがある。種皮表面には微細な星型状網目模様がへそから同心円状に発達する。なお、長さ1.1~1.8mm、幅1.5~2.3mm、厚さ0.2~0.5mmの野生種に由来する可能性がある小型種子を区別し、ナス属としている。



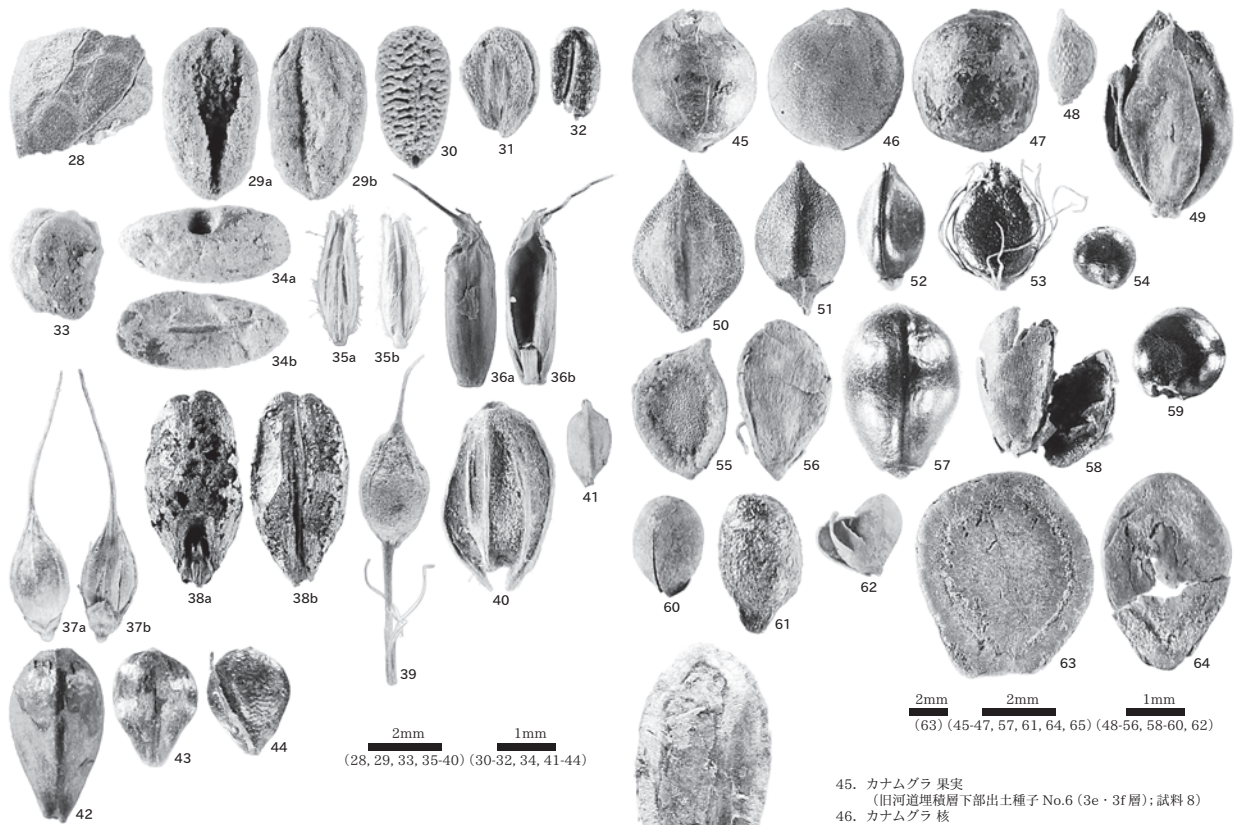
1. イヌガヤ種子(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
2. オニグルミ核(旧河道埋積層下部出土種子No.6(3e・3f層);試料8)
3. オニグルミ核(食痕)(旧河道埋積層下部出土種子No.6(3e・3f層);試料8)
4. サワグルミ果実(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
5. ムクノキ核(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
6. エノキ核(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
7. ケヤキ果実(旧河道埋積層下部出土種子No.6(3e・3f層);試料8)
8. クワ属核(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
9. ヒメコウノキ核(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
10. クスノキ科種子(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
11. サルナン近似種種子(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)

第33図 細池寺道上遺跡第38次調査1区
旧河道埋積層下部の種実遺体(1)



12. アカメガシワ種子(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
13. カラスザンショウ種子(旧河道埋積層下部出土種子No.6(3e・3f層);試料8)
14. キハダ種子(旧河道埋積層下部出土種子No.6(3e・3f層);試料8)
15. ハギ属果実(旧河道埋積層下部出土種子No.2(3d層上部);試料6)
16. ハギ属種子(旧河道埋積層下部出土種子No.2(3d層上部);試料6)
17. カエデ属果実(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
18. トチノキ幼果(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
19. クマヤナギ属核(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
20. ヤマブドウ近似種種子(旧河道埋積層下部出土種子No.6(3e・3f層);試料8)
21. ノブドウ種子(旧河道埋積層下部出土種子No.6(3e・3f層);試料8)
22. ノブドウ種子(旧河道埋積層下部出土種子No.6(3e・3f層);試料8)
23. ミズキ核(旧河道埋積層下部出土種子No.6(3e・3f層);試料8)
24. タラノキ核(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)
25. ヤマウコギ類核(旧河道埋積層下部出土種子No.4(3d層下部);試料7)
26. エゴノキ種子(旧河道埋積層下部出土種子No.6(3e・3f層);試料8)
27. ムラサキンキブ属核(旧河道埋積層下部出土種子No.8(3g層);試料9)

第34図 細池寺道上遺跡第38次調査1区
旧河道埋積層下部の種実遺体(2)

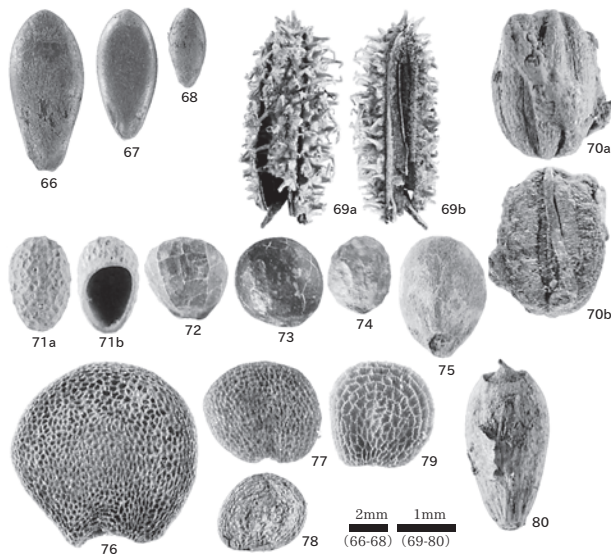


- 28. クサギ核 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 29. ヤブデマリ近似種 核 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 30. ニワトコ 核 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 31. サジモモカ属 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 32. オモダカ科 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 33. ヒルムシロ属 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 34. イボクサ 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 35. イネ科 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 36. イネ科 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 37. イヌビエ属 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 38. オオムギ 胚乳 (旧河道埋積層下部出土種子 No.8 (3g層); 試料 9)
- 39. ミクリ属 A 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 40. ミクリ属 B 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.2 (3d層上部); 試料 7)
- 41. スケ属 (3面体) 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.2 (3d層上部); 試料 6)
- 42. ウキヤガラ 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.4 (3d層下部); 試料 7)
- 43. ホタルイ属 (平滑型) 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.4 (3d層下部); 試料 7)
- 44. ホタルイ属 (横皺型) 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)

第 35 図 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区
旧河道埋積層下部の種実遺体 (3)

- 45. カナムグラ 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 46. カナムグラ 核 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 47. アサ 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 48. カラムシ属 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 49. ミソソバ近似種 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.2 (3d層上部); 試料 6)
- 50. ボンクトク近似種 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.4 (3d層下部); 試料 7)
- 51. ヤナギタデ近似種 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 52. イヌタデ近似種 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 53. サナエタデ近似種 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 54. アカザ科 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 55. キンボウ属 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.2 (3d層上部); 試料 6)
- 56. キンボウ属? 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 57. コウホネ属 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 58. ヒツグサ 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 59. ムラサキケマン型 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 60. エノキ属 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.2 (3d層上部); 試料 6)
- 61. ツリフネソウ 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 62. スミレ属 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 63. キカラスウリ 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 64. スメリ 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.8 (3g層); 試料 9)
- 65. ウリ科 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)

第 36 図 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区
旧河道埋積層下部の種実遺体 (4)



第 37 図 細池寺道上遺跡第 38 次調査 1 区旧河道埋積層下部の種実遺体 (5)

- 66. メロン類 (モルディカメロン型) 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 67. メロン類 (マクワ・シロウリ型) 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 68. メロン類 (雑草メロン型) 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 69. ヤブジラミ属 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.8 (3g層); 試料 9)
- 70. セリ科 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.2 (3d層上部); 試料 6)
- 71. キラソウ属 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 72. シソ属 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 73. シソ属 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 74. シソ属-イヌコウジュ属 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.2 (3d層上部); 試料 6)
- 75. シソ科 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.4 (3d層下部); 試料 7)
- 76. ナス 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 77. ナス属 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.8 (3g層); 試料 9)
- 78. イガホオズキ属 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.6 (3e・3f層); 試料 8)
- 79. ハダカホオズキ近似種 種子 (旧河道埋積層下部出土種子 No.8 (3g層); 試料 9)
- 80. キク科 果実 (旧河道埋積層下部出土種子 No.4 (3d層下部); 試料 7)

<その他>

・ミクリ属 (*Sparganium*) ミクリ科

果実は淡灰褐色、形態上差異のある2型が確認されたため、A、Bとしている。ミクリ属Aは、長さ2.5～3.5mm、径1.5～2.0mmの紡錘体で中央下側にくびれがある個体が多い。両端は細く伸び、先端に長さ2.0mm程度の花柱と、基部に長さ2.5mm程度の果柄がある。果皮は海綿状で表面には数本の浅い隆条が縦列する。ミクリ属Bは、淡灰褐色、長さ5.0～8.0mm、径3.5～5.0mm程度の倒広卵状楕円体で、両端は切形。果皮は海綿状で表面には数本の深い隆条が縦列する。

・ヤナギタデ近似種 (*Polygonum cf. hydropiper* L.) タデ科タデ属

果実は黒褐色、長さ2.0～2.8mm、径1.5mmのやや偏平な広卵体。頂部はやや尖り、基部は切形で灰褐色の萼片が残存する個体が見られる。背面正中線上には鈍稜がある。果皮表面には明瞭な網目模様がある。

e 樹種同定

樹種同定結果を第21表に示し、顕微鏡写真を第38・39図に示す。木材は、広葉樹4分類群(ヤナギ属・ブナ属・カツラ・ツバキ属)に同定された。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

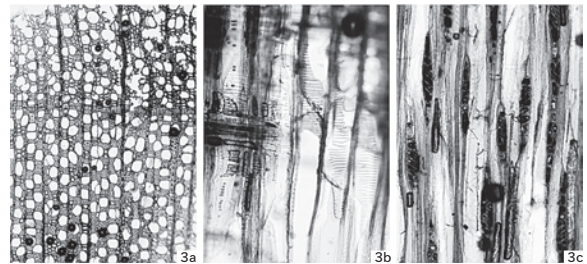
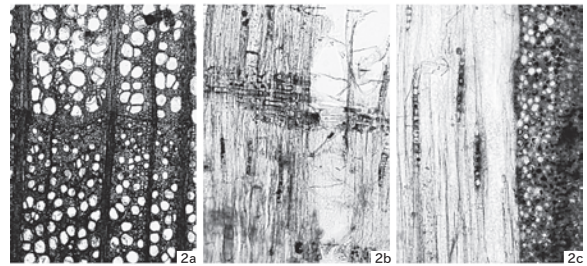
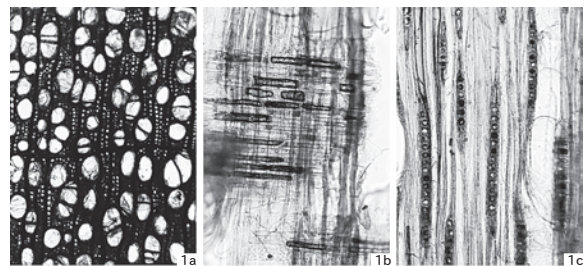
・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

試料18は、ヤナギ属と考えられるが、保存状態が悪く、組織に収縮の痕跡があるために断定できず、ヤナギ属近似種としている。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、道管は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

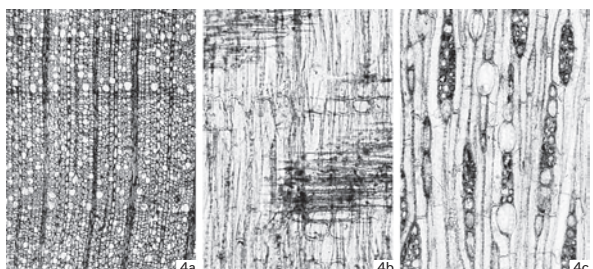


1. ヤナギ属 (旧河道埋積層下部出土樹木No.4 (3e層); 試料13) 100μm: a
 2. ブナ属 (旧河道埋積層下部出土樹木No.5 (3e層); 試料14) 100μm: b, c
 3. カツラ (旧河道埋積層下部出土樹木No.2 (3e層); 試料11) a: 木口, b: 柎目, c: 板目

第21表 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部の樹種同定結果

試料番号	試料名	層位	形状	種類
試料10	旧河道埋積層下部出土樹木No.1	3e層	柎目板状	カツラ
試料11	旧河道埋積層下部出土樹木No.2	3e層	分割状	カツラ
試料12	旧河道埋積層下部出土樹木No.3	3e層	分割状	ツバキ属
試料13	旧河道埋積層下部出土樹木No.4	3e層	芯持材 (直径3.2cm)	ヤナギ属
試料14	旧河道埋積層下部出土樹木No.5	3e層	分割状	ブナ属
試料15	旧河道埋積層下部出土樹木No.6	3e層	芯持丸木 (直径4.5cm)	カツラ
試料16	旧河道埋積層下部出土樹木No.7	3e層	芯持丸木 (直径5cm)	カツラ
試料17	旧河道埋積層下部出土樹木No.8	3f層	分割状	カツラ
試料18	旧河道埋積層下部出土杭 報告No.44	3f層	破片	ヤナギ属近似種

第38図 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部の木材(1)



4. ツバキ属 (旧河道埋積層下部出土樹木No.3 (3e層); 試料12) 100μm: a
 a: 木口, b: 柎目, c: 板目

第39図 細池寺道上遺跡第38次調査1区旧河道埋積層下部の木材(2)

・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科カツラ属

散孔材で、道管はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2 細胞幅、1-30 細胞高。

・ツバキ属 (*Camellia*) ツバキ科

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および 2-3 個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、1-3 細胞幅、1-20 細胞高。

5) 考 察

a 巨木の年代と旧河道埋積層

古代の旧河道とされた川底から出土した巨木の樹皮が示した年代は、較正された暦年代ではおよそ 7 世紀末から 8 世紀後半というものであった。発掘調査所見では、巨木の出土層位の上位に堆積する 3e 層および 3f 層から 9 世紀第 2～第 3 四半期を主体とする土器が出土していることから、巨木の年代とこれらの遺物の年代観との層位関係は矛盾しない。詳細にみれば、土器の年代観と巨木の年代との間には 100 年ほどの開きがあるが、巨木の利用されていた年代と土器片の流れ込んだ年代との間にどの程度の時間差があったかは現時点では不明である。いずれにしても、9 世紀頃には、河道はすでに埋積の進行していた時期であったことが示唆される。

b 旧河道埋積層の堆積環境

旧河道埋積層下部 3e 層の試料 5 で多産または特徴的に認められた種は、流水性種の *Navicula elginensis* var. *neglecta*、淡水生種で流水不定性種の *Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustatum*、*Gomphonema augur*、*Gomphonema parvulum*、止水性種の *Gomphonema acuminatum* 等である。

流水性種の *Navicula elginensis* var. *neglecta* は、河川や溝等の定常的な水の流れる水域の基物（礫、水草、大型の藻類）に付着生育する種であり、流水不定性種の *Eunotia pectinalis* var. *minor* は、普通の水域にも認められるが湿地に多産する種とされる〔埼玉県教育委員会 1962〕。さらに *Fragilaria ulna* は、貧塩不定性、好アルカリ性および流水不定であり、広域頒布種の一つで広範のさまざまな水域から見出される。本種は特に生産力の高い種であり、いずれの水域でも主要種となる場合が多い。流水不定性種の *Gomphonema angustum* は、塩分不定性、好アルカリ性、流水不定性であるが、湿地や沼沢湿地に優占して認められる場合が多い種である。続いて *Gomphonema augur* は、塩分・pH・流水に対しては不定であり、比較的、適応能力が高いことから、広範に認められるが、通常は沼沢湿地に多産する傾向にある種である。*Gomphonema parvulum* は、流水に対して不定だけでなく、塩分濃度や pH に対しても不定であり、極めて高い適応能力を持つ種であり、さまざまな水域に認められる。そのため、〔Asai and Watanabe1995〕は、広域適応種としている。ただし、流水域に多産することが多いことから、以前は流水性種に含められていた種である。他方、止水性種の *Gomphonema acuminatum* は、貧塩不定、pH 不定の止水性種であり、〔安藤 1990〕によれば水深が 1m 内外で、一面に植物が繁殖しているところ、および湿地に認められることが多いことから、沼沢湿地付着性種とされている。以上のような、主要種と他の構成種群から、遺物包含層である 3e 層の堆積時は、沼沢湿地～湿地のような状態であり、水の流れがほとんどない淀んだ環境であったとみられる。

3e 層の上位に堆積する 3d 層の各試料で多産または特徴的に認められた種は、流水性種の *Cocconeis placentula* var. *lineata*、淡水生種で流水不定性種の *Amphora ovalis* var. *affinis*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustatum*、*Gomphonema augur*、*Gomphonema parvulum*、止水性種の *Gomphonema acuminatum* 等である。

流水性種の *Cocconeis placentula* var. *lineata* は、河川等の流水域の基物（礫等）に大型の藻類と共に付着生育する種である。〔Asai and Watanabe1995〕は、清浄な水域に生育する種であることから、好清水性種としている。流水不定性種の、*Amphora ovalis* var. *affinis* は、環境に対する適応能力が高い種であり、淡水のさまざまな環境の

水域から認められるが、沼沢地～湿地において多産し、主要種となることが多い種である。また、生産力の高さに加えて、殻のシリカに沈着が厚いことから、堆積後も特に化石として残りやすい種である。*Eunotia pectinalis* var. *minor* 以下の種は、上述したように3e層でも特徴的に認められており、それらの生態性は上述した通りである。

以上のような、主要種と他の構成種群から、3d層の堆積時は、基本的には3e層堆積時と同じく、水の流れがほとんどない淀んだ環境であったとみられるが、沼沢湿地の要素が3e層に比して強いため、3e層よりは水の流れがあった可能性が考えられる。

c 古植生について

花粉化石の産状からは、3e層と3d層の間で特に大きな変化は認められない。木本類ではスギ属が多産し、マツ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、サワグルミ属、クルミ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属、トチノキ属等を伴う。スギ属は、沢筋や湧水部などに生育する種類である。サワグルミ属、クルミ属、コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属、トチノキ属などは、溪谷沿いや河畔などの適湿地に林分を形成する種を含み、ヤナギ属、クマシデ属－アサダ属、ハンノキ属、トネリコ属等も同様である。ブナ属は、コナラ亜属などとともに冷温帯性落葉広葉樹林の主要構成要素である。

よって、3e層の堆積した9世紀頃の阿賀野川など周辺河川沿いには、サワグルミ属、コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属、エノキ属－ムクノキ属等が生育し、スギ属も周辺低地で林分を形成していたと思われる。また、後背の丘陵や山地部にブナ属、コナラ亜属を主体とする落葉広葉樹林が分布しており、部分的にモミ属、ツガ属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科等の針葉樹も生育していたと推測される。丘陵縁辺～低地部にかけてはコナラ属アカガシ亜属、シイ属等の常緑広葉樹が、林縁部などには二次林要素のマツ属等も分布したと考えられる。なお、3e層と比較すると3d層ではスギ属の割合が高くなることから、9世紀以降、周辺ではスギ属の増加した可能性もあると考えられる。

3e層と3d層における花粉化石の草本類についてみると、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属、コウホネ属、スイレン属、ツリフネソウ属、ヒシ属、ミツガシワ属、ゴキヅル属など、水湿地生草本が多く認められる。これ以外にもイネ科やカヤツリグサ科、セリ科などにも、水湿地に生育する種が含まれる。よって、これらが当時の河道内（前述したように珪藻化石の産状からは、すでに沼沢湿地～湿地となっていたと考えられる）やその周辺の湿地、さらには集水域などに生育していたと考えられる。なお、イネ科、カヤツリグサ科、クワ科、サナエタデ節－ウナギツカミ節、ヨモギ属などは、開けた明るい場所に生育する種を多く含むことから、河道周辺の草地や林縁の林床部などにこれらの種が生育していたと思われる。

一方、3g層から3d層までの栽培種を除いた種実遺体群は、圧倒的な水湿地生草本主体の組成を示す。水湿地生植物は、サジオモダカ属、オモダカ科、ヒルムシロ属、イボクサ、ミクリ属、スゲ属、ウキヤガラ、ホタルイ属、ミゾソバ（近似種）、ボントクタデ（近似種）、ヤナギタデ（近似種）、コウホネ属、ヒツジグサムラサキケマン型、ツリフネソウ、スズメウリ、セリ科などが確認され、3e・3f層と3d層下部におけるミクリ属とヤナギタデ（近似種）の多産が顕著である。その他に、イヌビエ属、イネ科、カナムグラ、カラムシ属、サナエタデ近似種、イヌタデ近似種、アカザ科、キンボウゲ属、エノキグサ、スミレ属、キカラスウリ、ウリ科、ヤブジラミ属、キランソウ属、シソ属－イヌコウジュ属、シソ科、ハダカホオズキ近似種、イガホオズキ属、ナス属、キク科などの、やや乾いた場所にも生育する草本類も確認された。明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群が多いことから、当時の調査区周辺域は、水深が浅い（1～2m以内）水湿地が存在する草地環境であったと推定される。このことは、前述した珪藻化石から推定された堆積環境とも整合する。なお、少量の炭化種実も混じることから、人為的攪乱の影響が強かったと考えられる。

木本類の種実遺体は、おもに3g層と3e・3f層から、落葉高木のオニグルミ、サワグルミ、ムクノキ、エノキ属、ケヤキ、クワ属、アカメガシワ、カラスザンショウ、キハダ、カエデ属、ムクロジ、トチノキ、ミズキ、常緑小

高木～低木のイヌガヤ、落葉小高木～低木のヒメコウゾ、クスノキ科、クマヤナギ属、タラノキ、エゴノキ、ムラサキシキブ属、クサギ、ニワトコ、ヤブデマリ近似種、落葉藤本のサルナシ近似種、ヤマブドウ近似種、ブドウ属、ノブドウが確認された。オニグルミ、サワグルミ、ムクノキ、エノキ属、ケヤキ、トチノキ、ミズキなどの河畔林要素を含み、河畔や崩壊地、林縁等の明るく開けた場所に先駆的に侵入する樹種が多いことから、当時の河川周辺域の森林植生を反映していると考えられる。

3e層や3f層から出土した自然木は、落葉広葉樹のカツラを主体として、同じく落葉広葉樹のヤナギ属、ブナ属、常緑広葉樹のツバキ属が認められた。このうち、カツラは河畔によく生育し、ヤナギ属にも河畔に生育する種類が含まれる。ツバキ属は河畔から山地・丘陵の斜面に生育する。これらの種類が河跡周辺に生育していたことが推定される。一方、ブナ属は、山地の落葉広葉樹林の主構成種であり、周辺の山地に生育していたと考えられる。

なお、種実遺体の産状において注目されることとして、3d層下部では、落葉低木のヤマウコギ類、ニワトコ、低木または多年草のハギ属のみの出土となることがあげられる。今回は土壌試料の水洗量が不明のため、分析試料のみから種実遺体群集の層位変化の断定はできないが、3d層下部の試料7で草本種実が多産することから、少なくとも木本種実の激減が指摘される。また、試料7では栽培種も出土しない。これらの種実遺体の産状の変化は、3e層の堆積から3d層の堆積へと変化した何らかの環境変化を示唆していると考えられるが、現時点ではそれがどのような変化であったかは明らかではない。調査区周辺の古代における環境変化に関わる今後の課題として認識される。

d 植物利用について

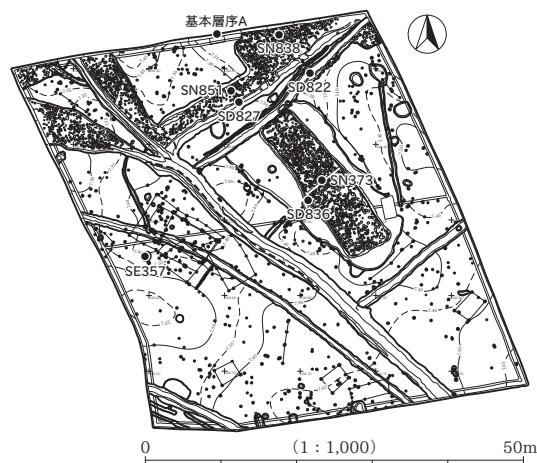
3g層から3d層までの各層から出土した種実遺体には、栽培種のオオムギ、アサ、メロン類、シソ属、ナスが確認された。3g層から出土した穀類のオオムギは炭化しており、被熱の可能性が示唆される。3e・3f層から出土したシソ属は、果実が食用や油料などに利用される。3g層と3e・3f層から出土したアサは、果実が食用や油料に、繊維が衣料や縄用に利用され、ナス、メロン類は果実が食用される。メロン類には、小粒の雑草メロン型と、中粒のマクワ・シロウリ型、大粒のモモルディカメロン型に該当する大きさの種子が確認されることから、複数の系統の利用が推定される。これらの栽培種の可食部である種実遺体は、当時利用された植物質食料と示唆される。

旧河道埋積層下部から出土した杭は、保存状態が悪いが、ヤナギ属の可能性がある。ヤナギ属は旧河道埋積層出土の自然木にも認められていることから、杭材には周辺に生育している樹木を利用したことが推定される。

第2節 細池寺道上遺跡第41次(13)調査の自然科学分析

第41次(13)調査では1区において、過去の植生、古環境の復元、植物や木材利用の実態、遺構の時期などを探る目的で自然科学分析を実施した(第40図、写真図版76)。

植物珪酸体分析、花粉分析は、SE357の3層・4層、基本層序AのⅢ層・Ⅳ層、SN373の1層・2層・3層、SN838の1層・2層・3層、SN851の1層・2層・3層、SD822の3層・4層、SD827の3層・4層、SD836の1層で行なった。種実同定は、SE357の3層と4層、SD822の3層、SD827の4層から採取された種実類で行なった。樹種同定は、SE357の4層、SD822の4層、SD827の4層から採取された炭化材で行なった。放射性炭素年代測定は、SE357の4層から出土した木炭と炭化種子、SN373の3層とSD827の4層とSD822の4層から出土した木炭で行なった。



第40図 細池寺道上遺跡第41次調査1区の土壤サンプル採取地点

A 植物珪酸体(プラント・オパール)分析

1) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸(SiO_2)が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生や古環境の復元などに応用されている〔杉山2000〕。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である〔藤原・杉山1984〕。

2) 試料

植物珪酸体分析の対象試料は、SE357(中世井戸)、基本層序A北壁、SN373(水田跡)、SN838(水田跡)、SN851(水田跡)、SD822(溝)、SD827(溝)、SD836(溝)の8地点から採取された計18点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

3) 分析方法

第VI章 第1節 A 1) c 参照。

なお、タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4) 分析結果

a 分類群

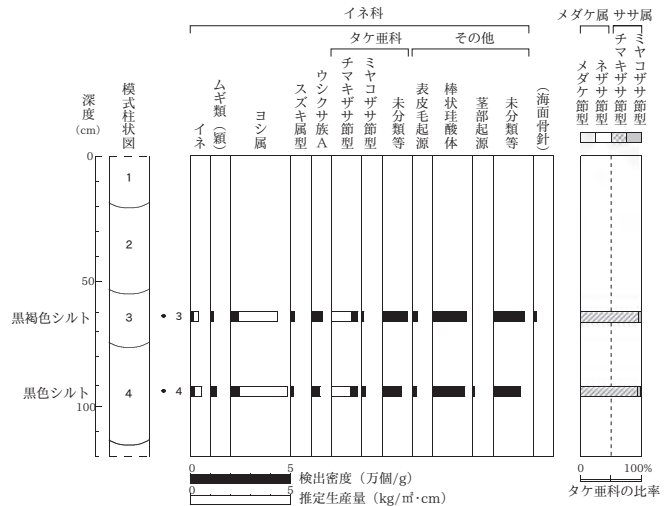
検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。SE357(中世井戸)を除く7地点については水田跡の検討および栽培植物の種類の解明がおもな目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科(チマキザサ節型)の主要な6分類群を対象に分析を実施した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第22・23表と、第41図および第42図に示した。主要な分類群については顕微鏡写真を第43図に示す。

第 22 表 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区 SE357 における植物珪酸体分析 (古植生復原) 結果

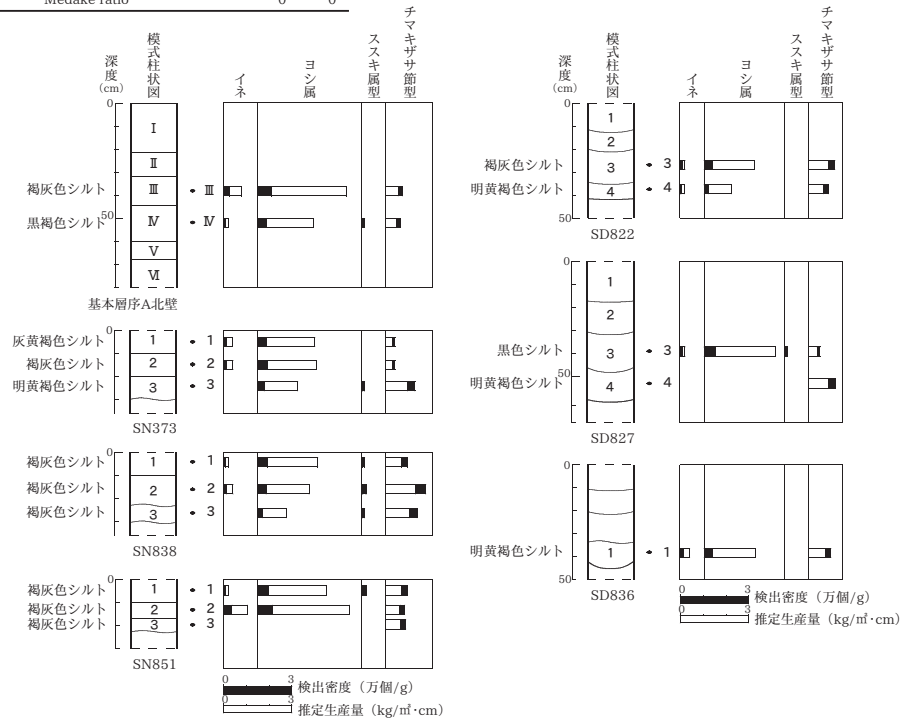
検出密度 (単位: ×100個/g)			
分類群	学名	地点・試料 SE357	
		3	4
イネ科	Gramineae		
イネ	<i>Oryza sativa</i>	13	20
ムギ類 (穎の表皮細胞)	<i>Triticum-Hordeum</i> (husk Phytolith)	13	27
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	38	46
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	13	7
ウシクサ族 A	Andropogoneae A type	51	40
タケ亜科	Bambusoideae		
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	135	133
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	13	20
未分類等	Others	122	93
その他のイネ科	Others		
表皮毛起源	Husk hair origin	26	20
棒状珪酸体	Rodshaped	167	159
茎部起源	Stem origin	7	
未分類等	Others	154	133
(海綿骨針)	Sponge spicules	13	
植物珪酸体総数	Total	743	702

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出			
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.38	0.58
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	2.43	2.93
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.16	0.08
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	1.01	0.99
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.04	0.06

タケ亜科の比率 (%)			
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	96	94
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	4	6
メダケ率	Medake ratio	0	0



第 41 図 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区 SE357 (中世井戸) における植物珪酸体分析 (古植生復原) 結果



第 42 図 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区植物珪酸体分析 (栽培植物推定) 結果

第 23 表 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区植物珪酸体分析 (栽培植物推定) 結果

検出密度 (単位: ×100個/g)																				
分類群	学名	地点・試料		基本層序A北壁			SN373			SN838			SN851			SD822		SD827		SD836
		III	IV	1	2	3	1	2	3	1	2	3	3	4	3	4	1			
イネ科	Gramineae																			
イネ	<i>Oryza sativa</i>	27	7	13	14		7	14		7	36		7	6	7			14		
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	62	39	40	41		42	36	20	48	64		35	19	50			36		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type		7				7	14	7	14					7					
タケ亜科	Bambusoideae																			
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	75	66	40	41	131	97	179	140	96	85	90	118	89	50	120		100		
植物珪酸体総数	Total	164	118	94	97	165	153	243	167	165	185	90	160	115	114	120		150		

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出																		
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.81	0.19	0.40	0.41		0.20	0.42		0.20	1.04		0.20	0.19	0.21			0.42
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	3.89	2.49	2.55	2.62	1.74	2.63	2.26	1.26	3.03	4.03		2.20	1.21	3.14			2.26
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type		0.08				0.09	0.09	0.18	0.08			0.17		0.09			
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.57	0.49	0.30	0.31	0.98	0.73	1.34	1.05	0.72	0.64	0.67	0.89	0.67	0.37	0.90		0.75

[イネ科]

イネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、ヨシ属、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)

[イネ科-タケ亜科]

チマキザサ節型(ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型(ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等。

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等。

5) 考 察

a 水田跡の検討

稲作跡(水田跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体(プラント・オパール)が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している[杉山2000]。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

SE357(中世井戸)

井戸覆土の3層と4層について分析を実施した。その結果、両試料からイネが検出された。密度は1,300個/gおよび2,000個/gと比較的低い値である。各層は井戸の覆土であることから、当時は周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で井戸内にイネの植物珪酸体が混入したと考えられる。また、ここで検出されたイネについては、周辺で利用された稲藁に由来する可能性も考えられる。稲藁の利用としては、建物の屋根材や壁材、敷物、履物、俵、縄など多様な用途が想定される。

基本層序A北壁

Ⅲ層とⅣ層について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。密度は2,700個/gおよび700個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

SN373(水田跡)

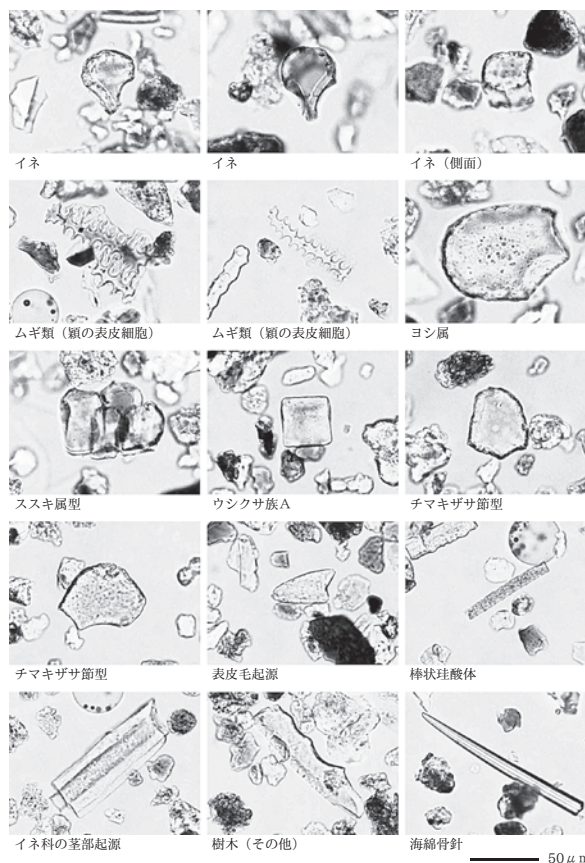
1層~3層について分析を行った。その結果、1層と2層からイネが検出された。密度は1,300個/gおよび1,400個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては前述のようなことが考えられる。

SN838(水田跡)

1層~3層について分析を行った。その結果、1層と2層からイネが検出された。密度は700個/gおよび1,400個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては前述のようなことが考えられる。

SN851(水田跡)

1層~3層について分析を行った。その結果、1層と2層からイネが検出された。このうち、2層では密度が3,600個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。1層では密度が700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては前述のようなことが考えられる。



第43図 細池寺道上遺跡第41次調査1区の植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真

SD822 (溝)

3層と4層について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。密度は700個/gおよび600個/gと低い値である。各層は溝の覆土であることから、当時は周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で溝内にイネの植物珪酸体が混入したと考えられる。

SD827 (溝)

3層と4層について分析を行った。その結果、3層からイネが検出されたが、密度は700個/gと低い値である。各層は溝の覆土であることから、当時は周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で溝内にイネの植物珪酸体が混入したと考えられる。

SD836 (溝)

1層について分析を行った。その結果、イネが検出されたが、密度は1,400個/gと低い値である。各層は溝の覆土であることから、当時は周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で溝内にイネの植物珪酸体が混入したと考えられる。

b イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型(ヒエが含まれる)、エノコログサ属型(アワが含まれる)、キビ属型(キビが含まれる)、ジユズダマ属型(ハトムギが含まれる)などがある。このうち、本遺跡の試料からはムギ類が検出された。ムギ類(穎の表皮細胞)は、SE357(中世井戸)の3層と4層から検出された。密度は1,300個/gおよび2,700個/gと比較的低い値である。各層は井戸の覆土であることから、当時は周辺でムギ類の栽培が行われており、そこから何らかの形で井戸内にその植物珪酸体が混入したと考えられる。

c 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境(乾燥・湿潤)を推定することができる。主な分類群の推定生産量によると、各地点の各層ともヨシ属が優勢であり、部分的にタケ亜科(チマキザサ節型)も多くなっている。

以上のことから、各層準の遺跡周辺は、おおむねヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で水田稲作が行われていたと推定される。また、周辺の比較的乾燥したところには、ササ属(おもにチマキザサ節)などが分布していたと考えられる。

6) ま と め

細池寺道上遺跡において植物珪酸体分析を実施した結果、SE357(中世井戸)の覆土ではイネやムギ類(穎の表皮細胞)が検出され、周辺で稲作やムギ類の栽培が行われていた可能性が認められた。なお、ここで検出されたイネについては、周辺で利用された稲藁に由来する可能性も考えられる。中世水田跡および溝内については、ほとんどの試料からイネが検出され、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。なお、全体的にイネの密度が低いことから、稲作が行われていた期間が短かったことや土層の堆積速度が速かったことなどが想定される。各層準の遺跡周辺は、おおむねヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で水田稲作が行われていたと推定される。

B 花 粉 分 析

1) は じ め に

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2) 試料

分析試料は、SE357(中世井戸)、基本層序A北壁、SN373(水田跡)、SN838(水田跡)、SN851(水田跡)、SD822(溝)、SD827(溝)、SD836(溝)の8地点から採取された計18点である。その層位を結果の柱状図に示す。

3) 方法

第VI章 第1節 A 2) c 参照。

4) 結果

a 分類群

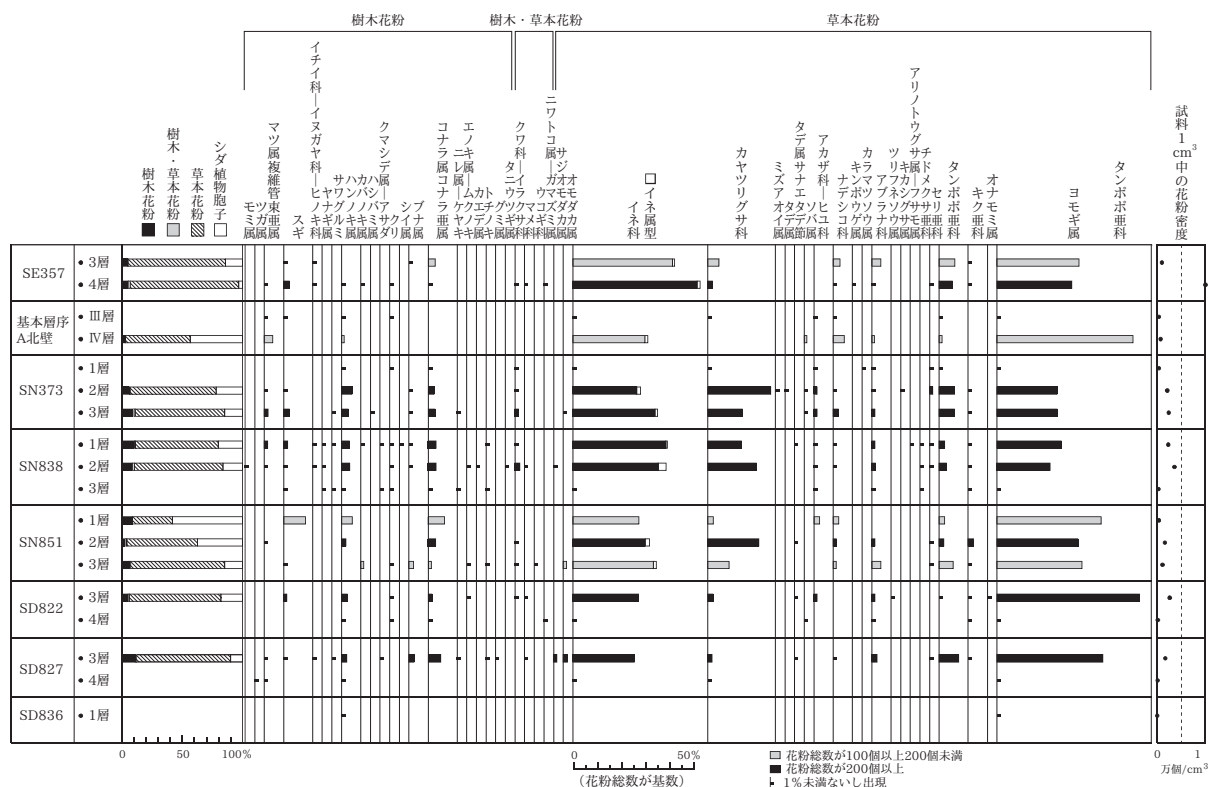
検出された分類群は、樹木花粉21、樹木花粉と草本花粉を含むもの4、草本花粉23、シダ植物孢子2形態の計50である。分析結果を第24表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第44図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を第45図に示す。次に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

モミ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、カエデ属、トチノキ、グミ属、タニウツギ属

第24表 細池寺道上遺跡第41次調査1区における花粉分析結果

学名	分類群	和名	SE357		基本層序A		SN373			SN838			SN851			SD822		SD827		SD836
			3層	4層	III層	IV層	1層	2層	3層	1層	2層	3層	1層	2層	3層	3層	4層	3層	4層	1層
Arboreal pollen		樹木花粉																		
<i>Abies</i>		モミ属									1								1	
<i>Tsuga</i>		ツガ属																		
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>		マツ属複雑管束亜属		2	2	3		1	5	4	4		1					1	1	
<i>Cryptomeria japonica</i>		スギ	1	9	1			1	8	5	4	1	4	1	4			1	1	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae		イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1	1						1	2							1		
<i>Salix</i>		ヤナギ属								2	2	1								
<i>Pterocarya rhoifolia</i>		サワグルミ							2	1	1							1		
<i>Alnus</i>		ハンノキ属		3	3	1	3	11	9	10	20	3	2	4		8	1	5	1	
<i>Betula</i>		カバノキ属		1						1				2						
<i>Corylus</i>		ハシバミ属							1											
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>		クマシデ属-アサダ										1							1	
<i>Castanea crenata</i>		クリ		1	1		1			2	1			1	1	1				
<i>Castanopsis</i>		シイ属								1	2	1								
<i>Fagus</i>		ブナ属	1					1	3	2	4			3					5	
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>		コナラ属コナラ亜属	3	3			1	6	9	10	19	3	3	7	2	5	1	12		
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>		ニレ属-ケヤキ							2			1							1	
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>		エノキ属-ムクノキ										1			1	2				
<i>Acer</i>		カエデ属										1	1						1	
<i>Aesculus turbinata</i>		トチノキ								1		1			1				1	
<i>Elaeagnus</i>		グミ属																	1	
<i>Weigela</i>		タニウツギ属									1									
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉																		
Moraceae-Urticaceae		クワ科-イラクサ科		2				3	2	5	2	11		2	1	3				
Leguminosae		マメ科		3								1						1		
Araliaceae		ウコギ科													1					
<i>Sambucus-Viburnum</i>		ニワトコ属-ガマズミ属		1													1			
Nonarboreal pollen		草本花粉																		
<i>Alisma</i>		サジメモダカ属									3								3	
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属												2					4	
Gramineae		イネ科	45	193	2	26	18	67	114	122	210	4	12	68	53	89	5	60	7	
<i>Oryza</i> type		イネ属型	1	5		1		4	4	2	19			4	2					
Cyperaceae		カヤツリグサ科	5	7	1		3	66	48	44	119		1	48	14	7		4	1	
<i>Monochoria</i>		ミズアオイ属						1												
<i>Polygonum</i>		タデ属						1												
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i>		タデ属サナエタデ節								1				1		1		1		
<i>Fagopyrum</i>		ソバ属				1		2	2							1				
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科-ヒユ科			1		2	3	4	1	4	1	1		4					
Caryophyllaceae		ナデシコ科	3	2	3	4		1	7	2	2		1	3	2				2	
<i>Ranunculus</i>		キンボウゲ属		1																
<i>Thalictrum</i>		カラマツソウ属					1													
Cruciferae		アブラナ科	4	3		1	1	2	4	4	9	1		3	6	4	1	5		
<i>Impatiens</i>		ツリフネソウ属														1				
<i>Rotula</i>		キサシグサ属						1												
<i>Haloragis-Myriophyllum</i>		アリノトウグサ属-フサモ属								1										
Hydrocotyloideae		チドメグサ亜科								1	2	1								
Apiioideae		セリ亜科		1			1	3		3	2			1	1				2	
Lactuicoideae		タンポポ亜科	7	20	2	1	4	16	21	7	18		1	4	9	2			19	
Asteroidae		キク亜科	1	1			2	3	2	2	1			5	1	1	1	1	1	
<i>Xanthium</i>		オナモミ属														1				
<i>Artemisia</i>		ヨモギ属	37	116	27	49	16	63	83	84	130	21	19	76	56	193	2	103	2	
Fern spore		シダ植物孢子																	1	
Monolate type spore		単条溝孢子	12	8	21	61	17	62	51	70	96	11	57	132	22	63	11	19	10	
Trilate type spore		三条溝孢子	6	4	2	6	2	10	8	10	20	4	5	5	6	9	3	7	1	
Arboreal pollen		樹木花粉	6	20	7	4	5	20	39	41	61	13	9	12	11	20	3	30	3	
Arboreal・Nonarboreal pollen		樹木・草本花粉		6			3	2	5	2	12			2	2	4	1	1		
Nonarboreal pollen		草本花粉	103	349	36	83	46	232	291	274	520	29	35	213	146	303	10	204	10	
Total pollen		花粉総数	109	375	43	87	54	254	335	317	593	42	44	227	159	327	14	235	13	
Pollen frequencies of 1cm ³		試料1cm ³ 中の花粉密度	9.9	1.0	3.6	7.0	3.8	2.1	2.4	2.3	3.6	2.6	3.5	1.6	1.1	2.6	1.4	1.7	1.1	
			$\times 10^2$	$\times 10^4$	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^2$	$\times 10^2$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^2$	$\times 10^3$	$\times 10^2$	$\times 10$	
Unknown pollen		未同定花粉	1	1	2	1	6	8	7	12	2			2	1	3	3	8	2	
Fern spore		シダ植物孢子	18	12	23	67	19	72	59	80	116	15	62	137	28	72	14	26	11	
Helminth eggs		寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Stone cell		石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Digestion rimeins		明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
Charcoal・woods fragments		微細炭化物・微細木片	(+)	(++)	(+)	(++)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(++)	(+)	(+)	(+)	



第 44 図 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の花 pollen 組成ダイアグラム

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科—イラクサ科、マメ科、ウコギ科、ニワトコ属—ガマズミ属

〔草本花粉〕

サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科—ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、キカシグサ属、アリノトウグサ属—フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

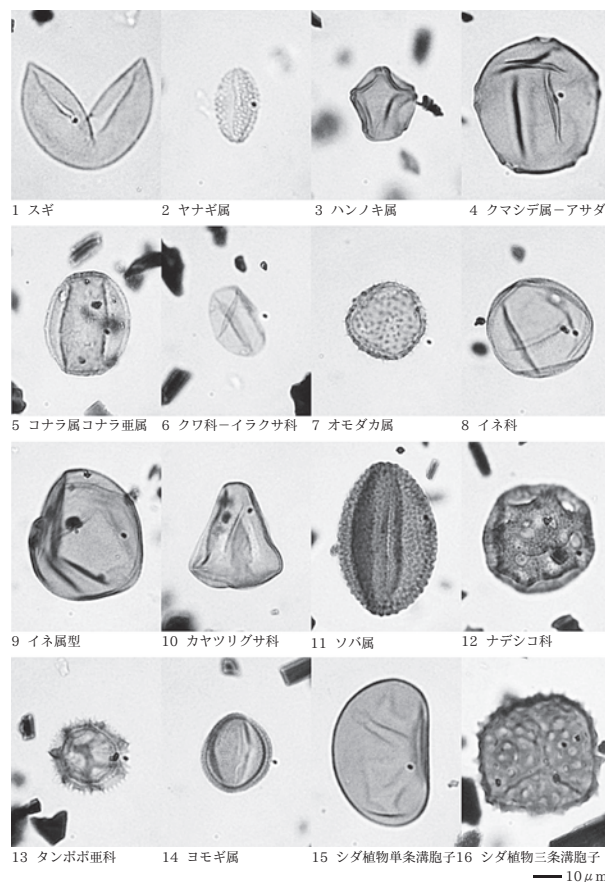
〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

b 花粉群集の特徴

SE357 (中世井戸)

下位の 4 層と 3 層では、草本花粉の占める割合が約 80%～90%と高い。草本花粉ではイネ科 (イネ属型を含む)、ヨモギ属が優勢で、タンポポ亜科、カヤツリグサ科、ナデシコ科、アブラナ科などが伴われる。樹木花粉ではスギ、コナラ属コナラ亜属などが低率に認められた。



第 45 図 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区から産出した花粉・胞子

基本層序 A 北壁

下位のIV層では、草本花粉の占める割合が54%、シダ植物胞子が44%である。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科(イネ属型を含む)が優勢で、ナデシコ科、ソバ属、アブラナ科、タンポポ亜科などが伴われる。樹木花粉では、マツ属複雑管束亜属、ハンノキ属などが認められた。III層では、ハンノキ属、マツ属複雑管束亜属、ヨモギ属、ナデシコ科、イネ科、タンポポ亜科などが検出されたが、いずれも少量である。

SN373(水田跡)

下位の3層と2層では、草本花粉の占める割合が70%以上と高い。草本花粉では、イネ科(イネ属型を含む)、ヨモギ属、カヤツリグサ科が優勢で、タンポポ亜科、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、ソバ属などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、スギ、マツ属複雑管束亜属などが認められた。1層では、ハンノキ属、イネ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属、タンポポ亜科などが検出されたが、いずれも少量である。

SN838(水田跡)

下位の3層では、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、ヨモギ属、イネ科などが検出されたが、いずれも少量である。2層と1層では、草本花粉の占める割合が70%と高い。草本花粉ではイネ科(イネ属型を含む)、ヨモギ属、カヤツリグサ科が優勢で、タンポポ亜科、アブラナ科などが伴われる。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属などが認められた。

SN851(水田跡)

下位の3層と2層では、草本花粉の占める割合が70%前後と高い。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科(イネ属型を含む)、カヤツリグサ科が優勢で、タンポポ亜科、ナデシコ科などが伴われる。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属などが認められた。1層では、コナラ属コナラ亜属、スギがやや増加し、カヤツリグサ科は減少している。また、シダ植物胞子の割合が高くなっている。

SD822(溝)

下位の4層では、イネ科、ヨモギ属、ソバ属などが検出されたが、いずれも少量である。3層では、草本花粉の占める割合が76%と高い。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科が優勢で、カヤツリグサ科、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、スギなどが認められた。

SD827(溝)

下位の4層では、イネ科、ヨモギ属などが検出されたが、いずれも少量である。3層では、草本花粉の占める割合が約80%と高く、ヨモギ属、イネ科が優勢で、タンポポ亜科、アブラナ科、カヤツリグサ科などが伴われる。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属、ブナ属などが認められた。

SD836(溝)

1層では、ハンノキ属、ヨモギ属が検出されたが、いずれも少量である。

5) 花粉分析から推定される植生と環境

中世水田跡の土層の堆積当時は、イネ科(ヨシ属など)やカヤツリグサ科などが生育する低湿な環境で、そこを利用して水田稲作が行われていたと考えられる。また、周辺の比較的乾燥したところには、イネ科やヨモギ属をはじめ、タンポポ亜科、アブラナ科、シダ類などの草本類が分布していたと推定される。なお、部分的にソバ属が認められることから、ソバなどを栽培する畑作が行われていた可能性も考えられる。近隣に森林は少なく、周辺地域にハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、スギ、マツ属(クロマツ・アカマツ)などが分布していたと推定される。

その他の地点では、水生植物を多く含むカヤツリグサ科が少ないことから、堆積環境に差異があった可能性が考えられる。なお、全体的に花粉密度が低く、花粉があまり検出されない試料も認められた。花粉が検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられる。

C 種実同定

1) はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内などに残存している場合がある。堆積物や遺構埋土などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や植物利用の実態を明らかにすることができる。

2) 試料

試料は、SE357 (井戸) の3層と4層、SD827 (溝) の4層、SD822 (溝) の3層から採取された選別済みの種実類である。試料の詳細を分析結果表に示す。

3) 方法

種実類について肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

4) 結果

a 分類群

樹木 3、草本 20 の計 23 分類群が同定された。分析結果を第 25 表に示し、イネ、アワ、コムギの計測値を第 26 表に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載し、主要な分類群について写真を第 46・47 図に示す。〔樹木〕

キイチゴ属 *Rubus* 核 (炭化・破片) パラ科

黒褐色でいびつな半円形を呈す。表面には大きな網目模様がある。

アカメガシワ *Mallotus japonicus* Muell. et Arg. 種子 (炭化・破片) トウダイグサ科

黒色で球形を呈し、「Y」字状のへそがある。表面にはいぼ状の突起が密に分布する。

ハイノキ属 *Symplocos* 核 (破片) ハイノキ科 長さ×幅: 10.63mm×6.70mm

暗灰褐色で狭倒卵形を呈し、光沢はない。へその方に細く嘴状に尖る。

第 25 表 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区における種実同定結果

学名	分類群	和名	部位	SE357 (井戸)		SD827 (溝)	SD822 (溝)
				3層	4層	4層	3層
Arbor		樹木					
<i>Rubus</i>		キイチゴ属	核 (破片)		1		
<i>Mallotus japonicus</i> Muell. et Arg.		アカメガシワ	種子 (破片)		1		
<i>Symplocos</i>		ハイノキ属	核 (破片)			14	
Herb		草本					
<i>Oryza Sativa</i> L.		イネ	果実・穎 (破片)	16	17		
				10	15		
<i>Setaria</i> Beauv.		エノコログサ属	果実・穎		34		
<i>Setaria italica</i> Beauv.		アワ	果実・穎 (破片)		508		
				1	20		
<i>Echinochloa</i>		イヌビエ属	果実・穎		32		
<i>Triticum aestivum</i> L.		コムギ	果実・穎	247	443		
<i>Triticum-Hordeum</i>		ムギ類	果実・穎	300	810		
Gramineae		イネ科	穎		2		
<i>Scirpus fluvialis</i> A. Gray		ウキヤガラ	果実		4		
<i>Scirpus</i>		ホタルイ属	果実		24		
<i>Carex</i>		スゲ属	果実		2		
Cyperaceae		カヤツリグサ科	果実		7		
<i>Humulus scandens</i> Merr.		カナムグラ	種子 (破片)		1		
<i>Polygonum</i>		タデ属 (破片)	果実		60	3	
					58		
<i>Chenopodium</i>		アカザ属	種子		16		
<i>Lespedeza</i>		ハギ属	種子	1			
<i>Vigna</i>		ササゲ属 (半形)	子葉	1	2		
					3		
<i>Oxalis</i>		カタバミ属	種子		6		
<i>Ajuga</i>		キランソウ属	果実		2		
<i>Perilla</i>		シソ属 (破片)	果実		18		
					1		
<i>Solanum melongena</i> L.		ナス	種子 (破片)				2
Total		合計		576	2087	14	5
other plant remains		他の植物遺体			(++)		(+)

※イネ科、カナムグラ、アカザ属、キランソウ属、ナス以外は全て炭化してる。

第 26 表 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の炭化果実計測値

イネ		コムギ	
長さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	幅 (mm)
7.20	3.19	4.92	3.38
5.18	2.99	4.75	3.18
5.56	2.54	4.88	3.91
4.94	2.93	4.48	3.45
4.69	2.35	4.36	3.11
4.81	2.73	4.33	3.12
4.90	2.49	4.18	3.23
6.08	3.30	4.51	3.27
4.82	2.65	4.99	3.51
5.00	2.64	4.77	2.93
アワ		イネ	
長さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	幅 (mm)
1.76	1.37	平均値	5.32 2.78
1.79	1.31	最大値	7.20 3.30
1.34	1.21	最小値	4.69 2.35
1.24	1.27		
1.59	1.50	アワ	
1.54	1.32	長さ (mm)	幅 (mm)
1.12	1.16	平均値	1.49 1.30
1.33	1.19	最大値	1.79 1.50
1.52	1.24	最小値	1.12 1.16
1.66	1.38		
コムギ		長さ (mm)	幅 (mm)
		平均値	4.62 3.31
		最大値	4.99 3.91
		最小値	4.18 2.93

※イネ、アワ、コムギを無作為に10個計測

[草本]

イネ *Oryza sativa* L. 果実・穎(炭化・完形・破片) イネ科

炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分が窪む。表面には数本の筋が走る。穎が残存している個体も見られた。

エノコログサ属 *Setaria* 果実・穎(炭化) イネ科 長さ×幅:2.48mm×1.39mm

穎は茶褐色で楕円形を呈す。表面には横方向の微細な隆起がある。穎が残存している個体も見られた。

アワ *Setaria italica* Beauv. 果実・穎(炭化・完形・破片) イネ科

穎は黒色で楕円形を呈す。表面には横方向の微細な隆起がある。果実は炭化しているため黒色で楕円形を呈す。胚の部分が窪む。発泡しはじけていたり、穎が残存している個体も見られた。

イヌビエ属 *Echinochloa* 果実・穎(炭化) イネ科 長さ×幅:5.54mm×3.49mm

黒色で楕円形を呈す。表面には微細な縦方向の模様がある。発泡しはじけていたり、穎が残存している個体も見られた。

コムギ *Triticum aestivum*. L 果実・穎(炭化) イネ科

炭化しているため黒色で、楕円形を呈する。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。比較的角い形を呈し、短い。発泡しはじけていたり、穎が残存している個体も見られた。

ムギ類 *Triticum-Hordeum* 果実・穎(炭化) イネ科

コムギもしくはオオムギであるが、炭化の度合いが著しく発泡しており、表面が欠落しているためムギ類の同定に留まる。なお、本遺跡からはコムギしか検出されていないため、コムギと考えられる。



第46図 細池寺道上遺跡第41次調査1区の種実(1)

第47図 細池寺道上遺跡第41次調査1区の種実(2)

イネ科 *Gramineae* 類 長さ×幅：2.90mm×0.83mm

類は黄褐色で楕円形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。

ウキヤガラ *Scirpus fluviatilis* A. Gray 果実（炭化）カヤツリグサ科 長さ×幅：2.95mm×1.82mm

黒灰色で倒卵形を呈す。表面は粗く、断面は三角形である。

ホタルイ属 *Scirpus* 果実（炭化）カヤツリグサ科 長さ×幅：1.77mm×1.50mm

黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起があり、基部に4～8本の針状の付属物を持つ。

スゲ属 *Carex* 果実（炭化）カヤツリグサ科 長さ×幅：2.56mm×1.61mm

黒色で倒卵形、扁平である。果皮は柔らかい。

カヤツリグサ科 *Cyperaceae* 果実（炭化）長さ×幅：1.49mm×1.09mm

黒色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。

カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc. 種子（破片）クワ科

黒色で円形を呈し、断面形は両凸レンズ状である。側面には心形を呈するへそがある。

タデ属 *Polygonum* 果実（炭化・完形・破片）タデ科 長さ×幅：2.94mm×1.81mm、1.99mm×1.39mm

黒褐色で頂端が尖る広卵形を呈す。表面は滑らかで光沢があり、断面は扁平で中央がやや窪む。

黒褐色で卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。

黒褐色で頂端の尖る卵形を呈す。断面は両凸レンズ状で、表面は粗い。

アカザ属 *Chenopodium* 種子 アカザ科 長さ×幅：1.73mm×1.66mm

黒色で光沢があり円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。

ハギ属 *Lespedeza* 種子（炭化）マメ科 長さ×幅×厚さ：3.10mm×2.15mm×1.74mm

黒色で横卵形や横楕円形を呈す。へそは狭楕円形や狭卵形で、その縁は高い。へその位置は腹面の中心からややずれる。

ササゲ属 *Vigna* 種子（炭化・完形・破片）マメ科 長さ×幅×厚さ：5.62mm×3.27mm×3.04mm

黒色で楕円形を呈す。へそは縦に細長いだが、炭化しているためへそが欠落している。

ササゲ属にはリョクトウ、アズキ、ササゲなどの栽培植物が含まれるが、現状の研究では識別は困難である。

カタバミ属 *Oxalis* 種子（炭化）カタバミ科 長さ×幅：1.38mm×0.91mm

茶褐色で楕円形を呈し、上端が尖る。両面には横方向に6～8本の隆起が走る。

キラソウ属 *Ajuga* 果実 シソ科 長さ×幅：1.73mm×1.10mm

卵形や狭卵形で側面は横狭卵形。着点は広卵形や広楕円形、腹面の一端（卵の細い方）から中央までを占め、幅広い隆条状の縁で囲まれる。大型の網目模様がある。

シソ属 *Perilla* 果実（炭化・完形・破片）シソ科 長さ×幅：1.63mm×1.26mm

黒褐色で球形を呈し、下端にへそがある。表面には大きい網目模様がある。

ナス *Solanum melongera* L. 種子（破片）ナス科

黄褐色で扁平楕円形を呈し、一端に窪んだへそがある。表面には網目模様がある。

他の植物遺体：破片で炭化の度合いが著しく、発泡していたり表面が欠落して同定困難な固体。

b 種実群集の特徴

1区 SE357（井戸）

3層の試料では、全て草本種実であり、コムギ247、ムギ類300、イネ26、アワ1、ハギ属1、ササゲ属1が同定された。ほとんどが炭化している。4層の試料では、草本種実のアワ528、コムギ443、ムギ類810、次にタデ属118、エノコログサ属34、イネ32、イヌビエ属32、ホタルイ属24、シソ属19、アカザ属16、カヤツリグサ科7、カタバミ属6、ウキアガラ4、イネ科2、スゲ属2、キラソウ属2、カナムグラ1、樹木

種実のキイチゴ属 1、アカメガシワ 1 が同定された。ほとんどが炭化している。

1 区 SD827 (溝)

4 層の試料では、樹木種実のハイノキ属 14 が同定された。

1 区 SD822 (溝)

3 層の試料では、草本種実のタデ属 3、ナス 2 が同定された。

5) 考 察

1 区 SE357 (井戸) の試料では、栽培植物のコムギとアワが多量に同定された。また、ムギ類としたものもコムギの劣化もしくは破片とみなされ、エノコログサ属としたものにも未成熟なアワが含まれている可能性がある。いずれも火を受け発泡して炭化しており、未成熟なものや不良なものを焼いて投棄したと考えられる。

栽培植物では、この他にイネ(コメ)、ササゲ属が同定された。エノコログサ属、イヌビエ属、カヤツリグサ科、イネ科は田畑に生える雑草類、ホタルイ属、ウキアガラ、スゲ属は水田雑草、アカザ属、カタバミ属は畠作雑草であり、シソ属、キランソウ属、カナムグラも人為地の雑草である。これらの草本類は、水田ないし畠の耕地を示唆する雑草群である。蔓性木本のキイチゴ属は食用になり、アカメガシワは二次植生の低木である。いずれも炭化したものが多く焼かれている。

SD827 (溝) の試料ではハイノキ属、SD822 (溝) の試料ではタデ、ナスが同定された。ナスは栽培植物である。

D 樹 種 同 定

1) は じ め に

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体で、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能で、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2) 試 料

同定の対象試料は、1 区から採取された炭化材 11 点である(第 27 表)。

第 27 表 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区における樹種同定結果

試料番号	出土位置	結果(学名/和名)	
No.1	1区SE357(井戸)4層	<i>Euonymus</i>	ニシキギ属
No.2	1区SE357(井戸)4層	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
No.3	1区SE357(井戸)4層	<i>Styrax</i>	エゴノキ属
No.4	1区SE357(井戸)4層	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ
No.5	1区SE357(井戸)4層	<i>Phellodendron</i>	キハダ属
No.6	1区SE357(井戸)4層	<i>Phellodendron</i>	キハダ属
No.7	1区SE357(井戸)4層	Bambusoideae	タケ亜科
No.8	1区SD827 4層	<i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et Zucc.	カツラ
No.9	1区SD827 4層	<i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et Zucc.	カツラ
No.10	1区SD822 4層	diffuse-porous wood	散孔材
No.11	1区SD822 4層	diffuse-porous wood	散孔材

3) 方 法

次の手順で樹種同定を実施した。

1. 試料を洗浄して付着した異物を除去。
2. 試料を割折して、木材の基本的三断面(横断面:木口,放射断面:柾目,接線断面:板目)を作成。

3. 落射顕微鏡(40~1000倍)で観察し、木材の解剖学的形質や現生標本との対比で樹種を同定。

4) 結 果

第 27 表に同定結果を示して、主要な分類群の顕微鏡写真を第 48・49 図に示す。次に同定根拠となった特徴を記す。

スギ *Cryptomeria japonica* D.Don スギ科 写真 1

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。横断面:早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。放射断面:放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で 1 分野に 2 個存在するものが多い。接線断面:放射組織は単列の同性放射組織型で 1~15 細胞高である。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ 40m、径 2m に達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。

カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. カツラ科 写真2

横断面：小型で薄壁の角張った道管が単独ないし2～3個複合して極めて密に散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は30本を超える。放射組織は異性である。道管内にチロースが多数存在する。接線断面：放射組織は、異性放射組織型で2細胞幅である。道管内にチロースが見られる。

以上の形質よりカツラに同定される。カツラは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ15～20m、径50～60cmであるが、大きいものは高さ35m、径2mに達する。材は軽軟で靱性があり加工しやすく、建築材などに用いられる。

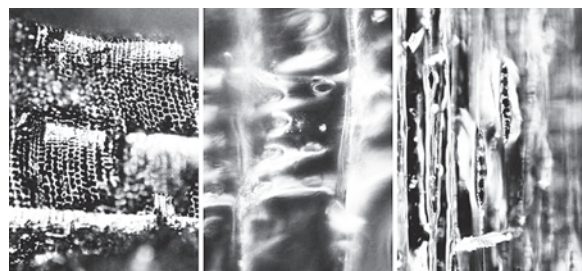
キハダ属 *Phellodendron* ミカン科 写真3

横断面：年輪のはじめに大型で丸い道管が単独あるいは2個複合して2～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で方形の小道管が、多数集合して斜め方向および接線方向に帯状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は徐々に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は同性である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。接線断面：放射組織は多列の同性放射組織型で、紡錘形を呈する。幅は1～4細胞幅である。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

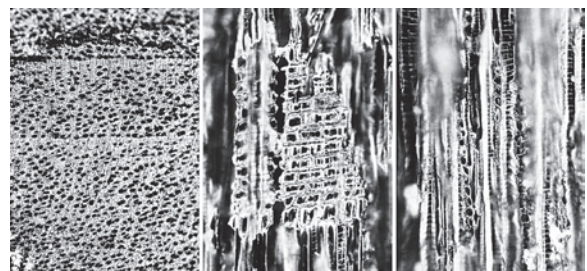
以上の形質よりキハダ属に同定される。キハダ属には、キハダ、ヒロハノキハダなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ25m、径1mに達する。

ニシキギ属 *Euonymus* ニシキギ科 写真4

横断面：小型で角張った道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。年輪界付近で、道管の径と分布数がやや急に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほと



横断面 : 0.4mm 放射断面 : 0.04mm 接線断面 : 0.1mm
1. No. 4 スギ



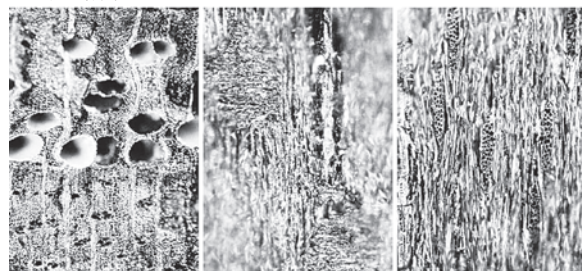
横断面 : 0.4mm 放射断面 : 0.1mm 接線断面 : 0.1mm
4. No. 1 ニシキギ属



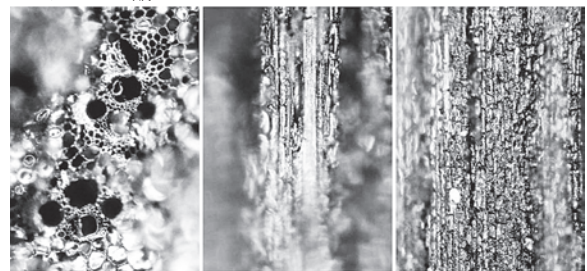
横断面 : 0.4mm 放射断面 : 0.2mm 接線断面 : 0.2mm
2. No. 8 カツラ



横断面 : 0.4mm 放射断面 : 0.2mm 接線断面 : 0.2mm
5. No. 3 エゴノギ属



横断面 : 0.4mm 放射断面 : 0.2mm 接線断面 : 0.2mm
3. No. 5 キハダ属



横断面 : 0.2mm 放射断面 : 0.2mm 接線断面 : 0.2mm
6. No. 7 タケ亜科

第48図 細池寺道上遺跡第41次調査1区の炭化材(1)

第49図 細池寺道上遺跡第41次調査1区の炭化材(2)

んどが平伏細胞からなるが、上下の縁辺部にときおり方形細胞が見られる。接線断面：放射組織は単列で、ほぼ同性放射組織型である。道管の内壁にらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりニシキギ属に同定される。ニシキギ属には、ニシキギ、ツリバナ、マユミなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の低木または高木で、通常高さ3～6m、径15～30cmに達する。やや堅硬で緻密な材で、版木、弓、器具、家具、建築材などに利用される。

エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 写真5

横断面：年輪のはじめにやや小型で丸い道管がおもに2～4個放射方向に複合して散在し、晩材部ではごく小型で角張った道管が単独あるいは数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少し、分布数も減少する。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は10本前後のものが多い。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は、異性放射組織型で1～3細胞幅である。

以上の形質よりエゴノキ属に同定される。エゴノキ属には、エゴノキ、ハクウンボクなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の小高木で、高さ10m、径30cmである。材は器具、旋作、薪炭などに用いられる。

タケ亜科 *Bambusoideae* イネ科 写真6

横断面：基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。並立維管束は木部と師部からなり、その周囲に維管束鞘が存在する。放射断面及び接線断面：柔細胞および維管束、維管束鞘が桿軸方向に配列している。

以上の形質よりタケ亜科に同定される。タケ亜科にはマダケ属、メダケ属、ササ属などがあるが、試料の保存状態が悪く広範囲の観察が困難なため、タケ亜科の同定にとどめた。

散孔材 *diffuse-porous wood*

横断面：小型の道管が散在する。放射断面：道管と放射組織が存在する。接線断面：道管と多列幅の放射組織が存在する。

以上の形質より散孔材に同定される。試料の保存状態が悪く小片で広範囲の観察が困難なため、散孔材の同定にとどめた。

5) 考察

樹種同定の結果、スギ2点、カツラ2点、キハダ属2点、ニシキギ属1点、エゴノキ属1点、タケ亜科1点、散孔材2点が同定された。

スギは加工工作が容易で大きな材がとれる良材である。カツラは軽軟均質で、耐朽性、保存性は低く、切削、加工が極めて容易な材である。キハダ属はやや軽軟な材である。ニシキギ属は概して堅硬な材である。エゴノキ属はやや堅硬な材である。タケ亜科は、弾力性に富む材である。

スギは針葉樹であり、温帯に広く分布し、特に積雪地帯や多雨地帯で純林を形成する常緑の高木である。カツラ、キハダ属、ニシキギ属、エゴノキ属は、温帯に広く分布する広葉樹であり。カツラ、キハダは落葉高木、ニシキギ属は落葉の低木から高木、エゴノキ属は落葉の小高木である。いずれの樹種も当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能であったと考えられる。

E 放射性炭素年代測定 (AMS 測定)

1) 測定対象試料

細池寺道上遺跡の測定対象試料は、1区で検出された井戸 SE357、水田跡 SN373、溝 SD827、SD822 から出土した木炭と炭化種子の合計10点である(第28表)。炭化種子 No.4、5 はイネに同定されている。第50図に No.4、5 の写真を示す。

2) 化学処理工程

1. メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

2. 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と第 28 表に記載する。
3. 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
4. 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
5. 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
6. グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3) 測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシウ酸 (HO_x II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。



No.4



No.5

第 50 図 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の炭化種子試料写真

第 28 表 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の放射性炭素年代測定結果 (δ¹³C 補正值) (1)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						LibbyAge (yrBP)	pMC (%)
IAAA-132013	No.1	1区SE357 (井戸) 4層	木炭	AAA	-25.37±0.24	710±20	91.52±0.23
IAAA-132014	No.2	1区SE357 (井戸) 4層	木炭	AAA	-21.64±0.20	680±20	91.92±0.24
IAAA-132015	No.3	1区SE357 (井戸) 4層	木炭	AAA	-22.57±0.15	640±20	92.31±0.23
IAAA-132016	No.4	1区SE357 (井戸) 4層	炭化種子	AaA	-23.37±0.19	620±20	92.62±0.23
IAAA-132017	No.5	1区SE357 (井戸) 4層	炭化種子	AaA	-17.78±0.37	620±20	92.59±0.24
IAAA-132018	No.6	1区SN373 (水田跡) 3層	木炭	AAA	-24.44±0.18	610±20	92.69±0.23
IAAA-132019	No.7	1区SN373 (水田跡) 3層	木炭	AaA	-19.75±0.21	1,300±20	85.07±0.22
IAAA-132020	No.8	1区SD827 (溝) 4層	木炭	AAA	-21.38±0.23	1,270±20	85.33±0.22
IAAA-132021	No.9	1区SD827 (溝) 4層	木炭	AAA	-24.04±0.15	1,300±20	85.05±0.22
IAAA-132022	No.10	1区SD822 (溝) 4層	木炭	AaA	-22.92±0.16	1,280±20	85.24±0.22

[#6183]

第 29 表 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区の放射性炭素年代測定結果 (δ¹³C 未補正值、暦年較正用 ¹⁴C 年代、較正年代) (2)

測定番号	δ ¹³ C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-132013	720±20	91.45±0.23	711±20	1274calAD - 1288calAD (68.2%)	1264calAD - 1296calAD (95.4%)
IAAA-132014	620±20	92.56±0.24	676±20	1281calAD - 1299calAD (49.2%) 1370calAD - 1380calAD (19.0%)	1276calAD - 1308calAD (63.0%) 1361calAD - 1387calAD (32.4%)
IAAA-132015	600±20	92.78±0.23	642±19	1294calAD - 1309calAD (24.3%) 1361calAD - 1387calAD (43.9%)	1287calAD - 1320calAD (39.1%) 1350calAD - 1392calAD (56.3%)
IAAA-132016	590±20	92.93±0.23	615±20	1301calAD - 1324calAD (27.9%) 1345calAD - 1368calAD (26.9%) 1382calAD - 1394calAD (13.5%)	1296calAD - 1399calAD (95.4%)
IAAA-132017	500±20	93.97±0.23	618±20	1300calAD - 1323calAD (28.0%) 1347calAD - 1369calAD (26.8%) 1381calAD - 1393calAD (13.4%)	1295calAD - 1331calAD (37.0%) 1338calAD - 1398calAD (58.4%)
IAAA-132018	600±20	92.81±0.23	609±20	1305calAD - 1326calAD (28.1%) 1343calAD - 1364calAD (27.7%) 1384calAD - 1394calAD (12.4%)	1299calAD - 1370calAD (75.7%) 1379calAD - 1400calAD (19.7%)
IAAA-132019	1,210±20	85.99±0.21	1,298±20	670calAD - 710calAD (45.6%) 746calAD - 764calAD (22.6%)	665calAD - 722calAD (63.2%) 740calAD - 768calAD (32.2%)
IAAA-132020	1,210±20	85.96±0.22	1,274±20	688calAD - 720calAD (38.6%) 742calAD - 766calAD (29.6%)	676calAD - 770calAD (95.4%)
IAAA-132021	1,290±20	85.22±0.22	1,301±20	668calAD - 710calAD (47.0%) 746calAD - 764calAD (21.2%)	663calAD - 721calAD (64.9%) 741calAD - 768calAD (30.5%)
IAAA-132022	1,250±20	85.60±0.21	1,283±20	684calAD - 714calAD (38.8%) 744calAD - 765calAD (29.4%)	670calAD - 770calAD (95.4%)

[参考値]

4) 算出方法

1. $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (第21表)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
2. ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を標準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第28表に、補正していない値を参考値として第29表に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
3. pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第28表に、補正していない値を参考値として第29表に示した。
4. 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフ (第51図) の縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal 13 データベース (Reimer et al 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第29表に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

5) 測定結果

測定結果を第28表、第29表に示す。

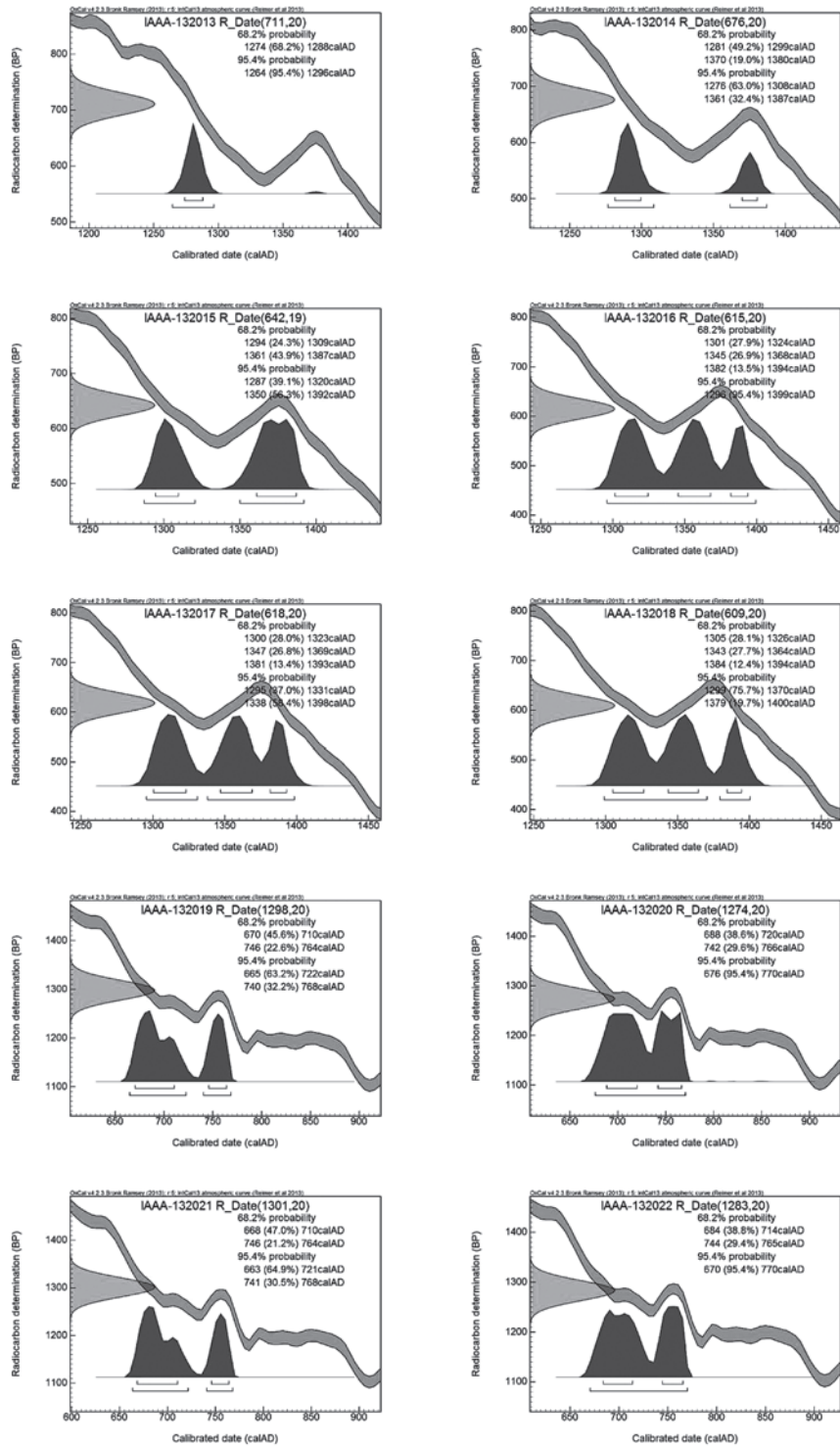
SE357 出土試料5点の ^{14}C 年代は、 $710\pm 20\text{yrBP}$ (No.1) から $620\pm 20\text{yrBP}$ (No.4, 5) の間に含まれ、誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で一致するものも含まれる。暦年較正年代 (1σ) は、最も古い No.1 が $1274\sim 1288\text{cal AD}$ の範囲、最も新しい No.4 が $1301\sim 1394\text{cal AD}$ の間に3つの範囲で示される。

SN373 出土試料の ^{14}C 年代は、No.6 が $610\pm 20\text{yrBP}$ 、No.7 が $1300\pm 20\text{yrBP}$ で、両者の間には明瞭に年代差がある。暦年較正年代 (1σ) は、No.6 が $1305\sim 1394\text{cal AD}$ 、No.7 が $670\sim 764\text{cal AD}$ の間に各々複数の範囲で示される。

SD827 出土試料の ^{14}C 年代は、No.8 が $1270\pm 20\text{yrBP}$ 、No.9 が $1300\pm 20\text{yrBP}$ で、両者の値は誤差範囲で一致する。暦年較正年代 (1σ) は、No.8 が $688\sim 766\text{cal AD}$ 、No.9 が $668\sim 764\text{cal AD}$ の間に各々2つの範囲で示される。

SD822 出土試料 No.10 の ^{14}C 年代は $1280\pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 (1σ) は $684\sim 765\text{cal AD}$ の間に2つの範囲で示される。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。



第 51 図 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区暦年較正年代グラフ (参考)

第Ⅶ章 総 括

第 1 節 細池寺道上遺跡の遺構について

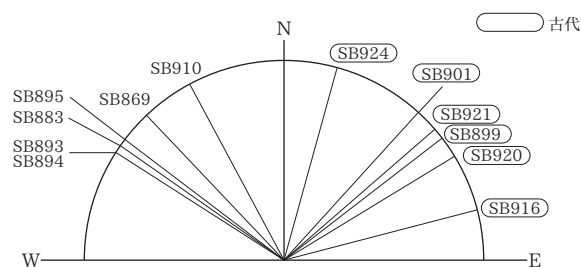
A 集落構造について

第 32 次 (11) 調査と第 38 次 (12) 調査では、建物遺構は認められなかったが、第 41 次 (13) 調査 1 区では、第 12 次 (99) 寺道上遺跡調査〔渡邊ほか 2001〕の範囲を含めて検討の結果、12 棟の掘立柱建物を復元することができた。すべて側柱建物である。柱穴からの出土遺物はごくわずかで、遺物から時期を決定することは難しいが、覆土の様相などから判断して古代とみられるものが 6 棟、中世とみられるものが 6 棟である (第 52・53 図)。

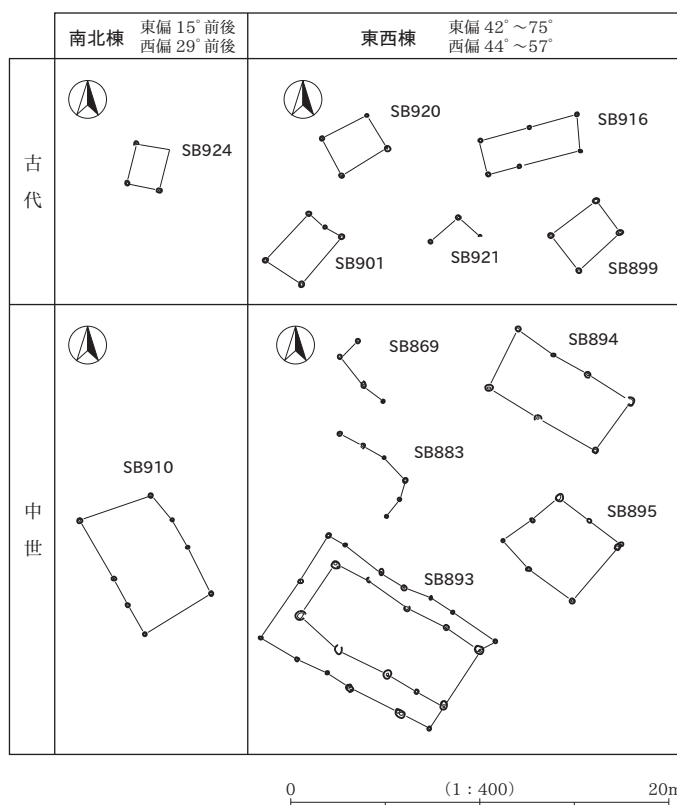
古代の 6 棟は 1 区の南端近くから第 12 次 (99) 寺道上遺跡調査区にかけて検出した。SB899・920・924 は桁行・梁行ともに 1 間で床面積は 3.90～6.75m²、SB916・921 は桁行 2 間×梁行 1 間で床面積 6.31～9.68m²、SB901 は桁行 1 間×梁行 2 間、面積は 7.36m²である。主軸方位はいずれも東偏し、SB924 が 15°で南北棟、ほかは 42°～75°で東西棟である。このうち SB899・916・921・924 の 4 棟が 10J-7E～7F に集中している。

遺構の切り合いでは、SB921 を構成する Pit88 が SK89 を切っていることから、SB921 は SK89 よりも新しいことがわかった。各建物には直接切り合い関係はないが、SB921 と SB916 は非常に近接しているため、同時存在は考えにくいであろう。主軸方位の違いも加味すれば、10J-7E～7F に集中する 4 棟の構築には 2～3 段階の変遷があったことが想定されよう。

建物のほかには SA907・919 が古代の遺構であり、その分布は建物と同様 1 区南半である。また、建物群の南西側には、同じく古代のものと推定される、いわゆる畝状小溝群 (SD148・149・150) がある。このように、1 区では古代の遺構の密度は南半で高く、北半では低くなる。第 12 次 (99) 寺道上遺跡での調査成果から、当初は 1 区に古代の集落が展開していくものと想定していたが、実際はそれほど広がりをみせないことが明らかになった。建物も床面積 10m² を超えない比較的小規模なものであることから、集落の



第 52 図 掘立柱建物の主軸方位



第 53 図 掘立柱建物の構造と主軸方位

中でも周縁に位置付けられるものかもしれない。

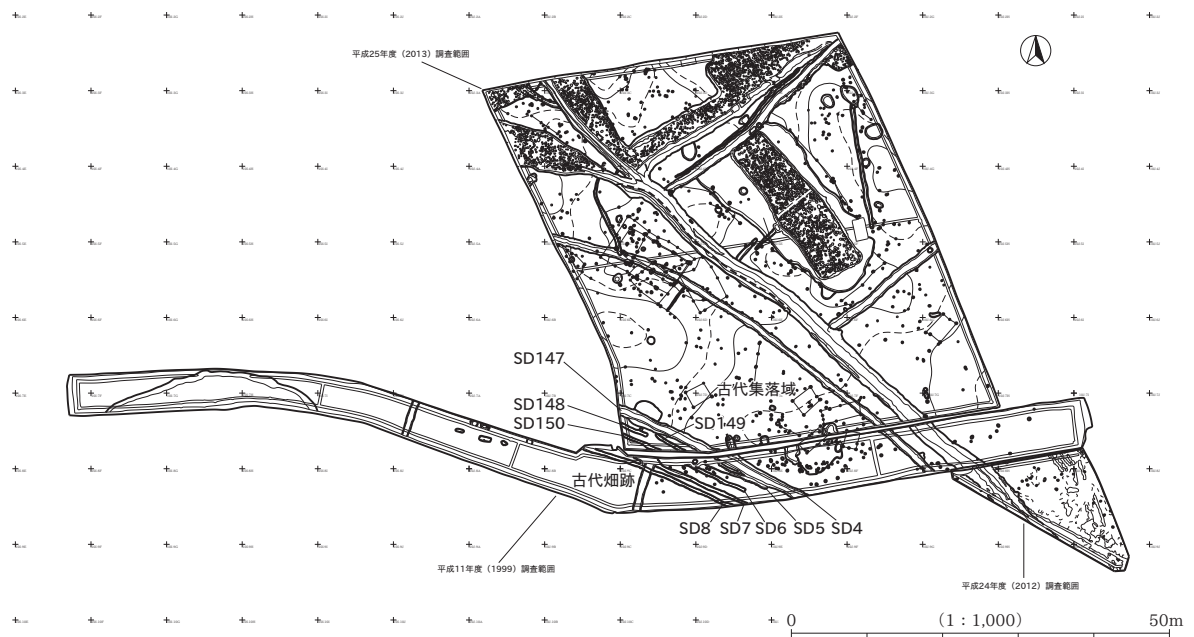
中世の建物6棟は、1区北半で検出されている。規模・構造をみると、SB894・910が桁行3間×梁行1間で床面積は22.61～27.11m²、SB893が桁行4間×梁行1間+3面廂で廂も含めた床面積62.03m²、SB869は桁行2間×梁行1間以上で床面積5.84m²以上、SB895が桁行2間×梁行2間で床面積17.48m²、SB883が桁行3間以上×梁行2間以上で床面積6.59m²以上である。主軸方位はいずれも西偏し、SB910が29°で南北棟であるほかは、44°～57°の東西棟である。このうちSB883・893・894・895・910の5棟がSD152より西側の10J-5Cとその近辺に集中し、SB869のみ離れて調査区北東端にある。上述の古代の建物に比べ規模が大きく多様であるといえ、また選地・主軸方位ともに古代とは全く異なっている点が興味深い。

6棟の構築順序について知りうる手掛かりは多くないが、5棟が集中する部分では、柱穴の切り合いから、SB894よりSB893が新しいことが判明しているため、当初3間×1間の規模であったものが、ほぼ同位置で4間×1間+3面廂へと規模を拡大して建て替えられたことがわかる。また、SB895・910はSB883・884と直接の切り合い関係はないものの、位置関係からみて同時存在は考えられない。SB895とSB910も同時は考えにくい距離である。SB883はやや離れて存在し、ほかの4棟のいずれとも同時存在可能である。このような状況からみて、少なくとも4段階、SB883が単独で存在した時期があったとすれば5段階の変遷が考えられる。その存続期間としては、1区で出土している中世の遺物が珠洲焼IV期を中心とすることから、その幅のなかで考えておきたい。

中世の5棟が集中するすぐ近くには建物と切り合わずにSE357が存在しており、井戸に近接して建物が配置されていると考えられる。建物規模の大きさからみても、主たる生活の舞台として一定期間機能していたものであろう。

B 畑跡について

第41次調査1区の南西端で検出されたSD148・149・150は概ね平行しており、主軸方位N59～67°Wで、断面形が半円状、ないし弧状である。確認面での残存する長軸3.70m～4.94m、短軸0.44～0.50m、深さ0.11～0.18mを測る。覆土は単層、ないし2層に分けられる。SD148とSD150の溝の中心間の距離は1.2m、SD149とSD150の同距離は1.6mを測る。遺物はそれぞれ土師器が出土している。これら3基はいわゆる畝



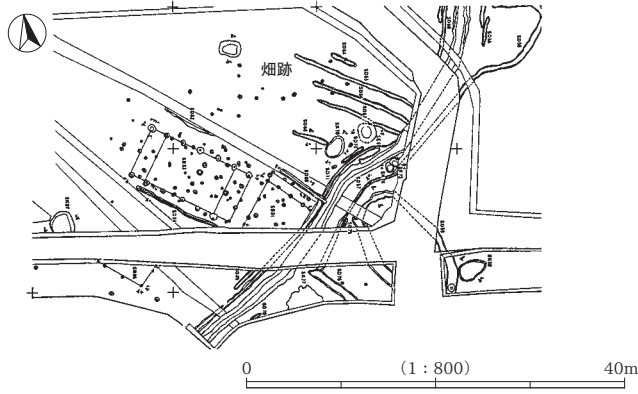
第54図 細池寺道上遺跡第41次調査1区・平成11年度調査古代畑跡

状小溝と考えられ、性格は畑と考えられる。第41次調査1区の南に接する平成11年度に調査された寺道上遺跡（現、細池寺道上遺跡）〔渡邊ほか2001〕においても同一の畝状小溝4基（SD5・6・7・8）が検出されている（第54図）。4基は主軸方位N66～70°Wで、短軸0.60～0.90m、深さ0.09～0.23mを測る。覆土は単層、ないし2～3層に分けられる。0.7～1.2m間隔で概ね平行して構築されている。遺物はSD5で土師器、SD6・8で須恵器・土師器、SD7で須恵器・土師器・黒色土器が出土している。合計7基は位置関係から同一の畝状小溝で時期は平安時代（9世紀代）である。その中でSD149とSD5、SD150とSD6は同一の小溝の可能性が高い。その場合、現況で長軸3.7m以上のSD148、同16.4mのSD149とSD5、同17.8m以上のSD150とSD6、同15.6m以上のSD7、同20.6m以上のSD8の5基の小溝からなる畑となる。この時期の小溝としては比較的長く、畝状小溝としては本数が少ないことが特徴となる。この畝状小溝のすぐ北東側には第41次調査1区SD147とそれに続く寺道上遺跡SD4が平行する。SD147とSD4は主軸方位がN63～66°Wで、断面形は台形状である。確認面での長軸26.6m、短軸1.74m、深さ0.38mを測る。この溝は畑の取水用の可能性もあるが、北東側にある掘立柱建物群や土坑群を区画する目的や調査範囲の周辺に存在した水田への用水路であった可能性も考えたい。一方、SD8の南西側の空白地帯には畝立てを必要としない作物が栽培されたのかもしれない。この畑で栽培された作物については、基本層序AのIV層で得られた花粉分析の結果がわずかに参考となる（第VI章第2節B4）b）。栽培作物かは明らかでないがイネ科が優勢で、ソバ属、アブラナ科などが検出されている。

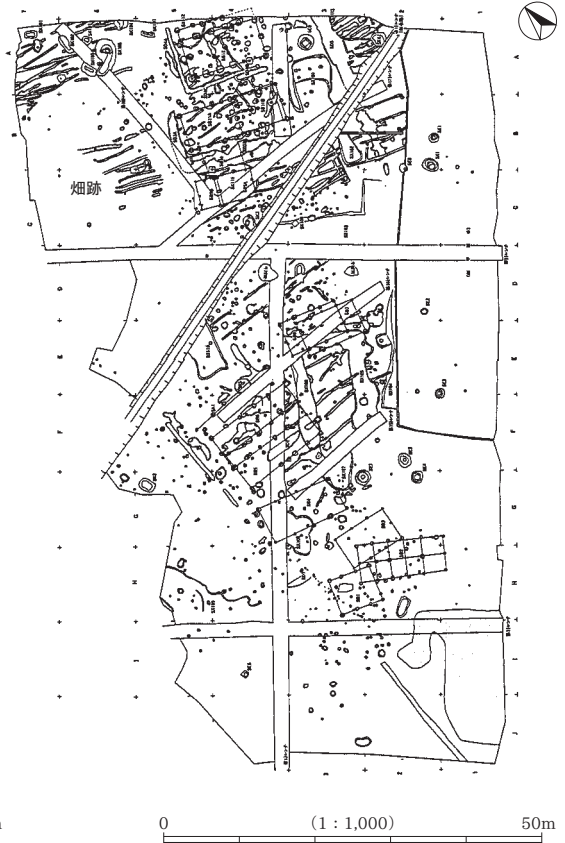
細池寺道上遺跡周辺の新潟市内において古代の畑跡と考えられる畝状小溝は13遺跡、19地点で検出されている。これらのうち、第41次調査1区の景観に似た事例としては、秋葉区沖ノ羽遺跡（B地区）〔星野ほか1996〕（第55図上段左）があげられる。5基（SD64～68）の小溝からなり、主軸方位はN55°Wで、断面形は皿状である。短軸0.3～0.5m、深さ0.05～0.12mを測る。5基のうち4基（SD64～67）は1.6～1.8m間隔で概ね平行して構築されている。東には南北に長い溝が接し、井戸1基、土坑1基が周囲に接する。そして、南西に主軸方位がほぼ同一の掘立柱建物2棟が近接する。この畝状小溝の周囲は空地が多く、畝立てを必要としない作物が栽培された可能性がある。

細池寺道上遺跡第41次調査1区では古代の井戸が検出されなかったが、複数の小溝からなる畝状小溝に近接して、掘立柱建物、井戸、土坑、溝が検出される事例は新潟市内では江南区小丸山遺跡（藤塚・小池・渡邊1987）（第55図上段右）、同上郷遺跡平成5・6年度調査〔上野・春日1997〕（第55図下段左）、秋葉区上浦A遺跡〔坂上2003〕、同上浦B遺跡〔黒埼町2000〕（第55図中段左）、西蒲区林付遺跡〔相田ほか2012〕があり、特に小丸山遺跡や上浦B遺跡での検出例を代表として、一之口型集落と呼ばれて久しい。その特徴として「屋敷には住居のほか井戸やゴミ廃棄穴があり、畑をもつ」。「屋敷の周辺に耕地としての水田がある」などをあげ、「住居と耕地が離れていない「住耕一体型」といえる集落である」〔坂井1994〕とされた。ところで、江南区駒首遺跡〔渡邊ほか2009〕においても数棟の掘立柱建物に井戸、土坑、溝が近接し、137本の小溝からなる畝状小溝がこれらを切るように検出された（第55図下段右）。報告では「全体として9世紀の遺構群を壊して成立しており、（中略）10世紀以降、集落の廃絶後、それほど期間を経ずして生産地へ移行した」という。このような事例は今後も増えていくと予想される。

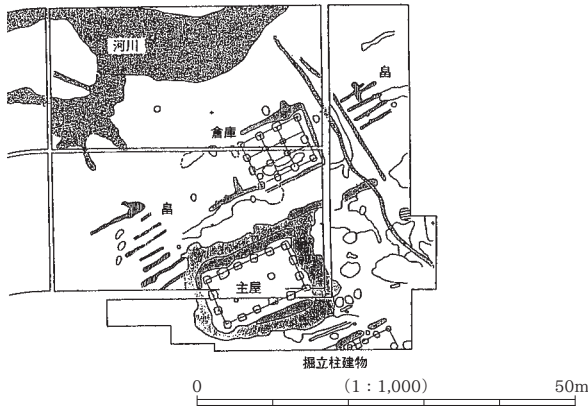
調査範囲内で掘立柱建物が検出されず、井戸、土坑、溝などが近接して検出された畝状小溝の事例は、江南区牛道遺跡〔土橋ほか1999〕（第56図上段左）、同川根谷内墓所遺跡〔江口2001〕（第56図中段）、秋葉区結七島遺跡第4次調査〔植田・遠竹ほか2003〕、同沖ノ羽遺跡第15次調査〔立木・澤野・八藤後ほか2008〕、同大沢谷内遺跡第18次調査〔前山ほか2012〕、西区釈迦堂遺跡〔江口ほか2000〕がある。このうち、牛道遺跡検出の畝状小溝1群は、東西10m、南北14mの範囲で、北側と南側を東西の溝に区画されるように見える。川根谷内墓所遺跡は旧河道や溝からの取水や区画が意識された「大規模な畑」〔文化庁文化財部記念物課監修2010〕が想定される。釈迦堂遺跡では、「郡」をはじめとした内容豊富な墨書土器や銅鏝などの遺物出土状況から、調査区外の東側に居住域があると想定されている。江南区日水遺跡第6次調査〔立木・細野ほか2013〕（第56図下段左）で検出された事例



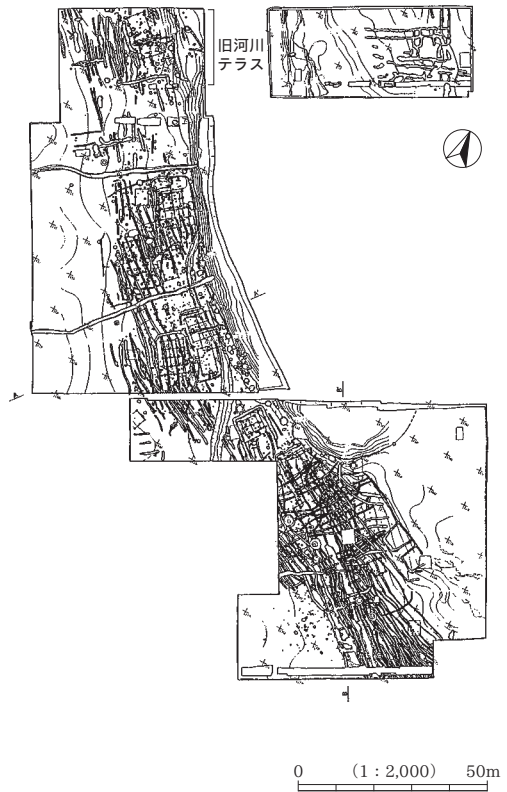
秋葉区 沖ノ羽遺跡 (B地区) [星野ほか 1996]



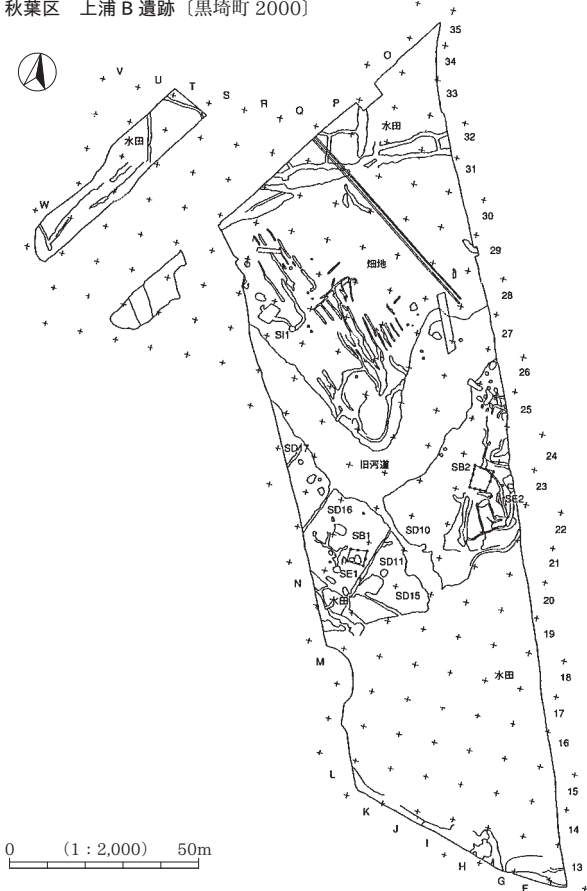
江南区 小丸山遺跡 [藤塚・小池・渡邊 1987]



秋葉区 上浦B遺跡 [黒崎町 2000]



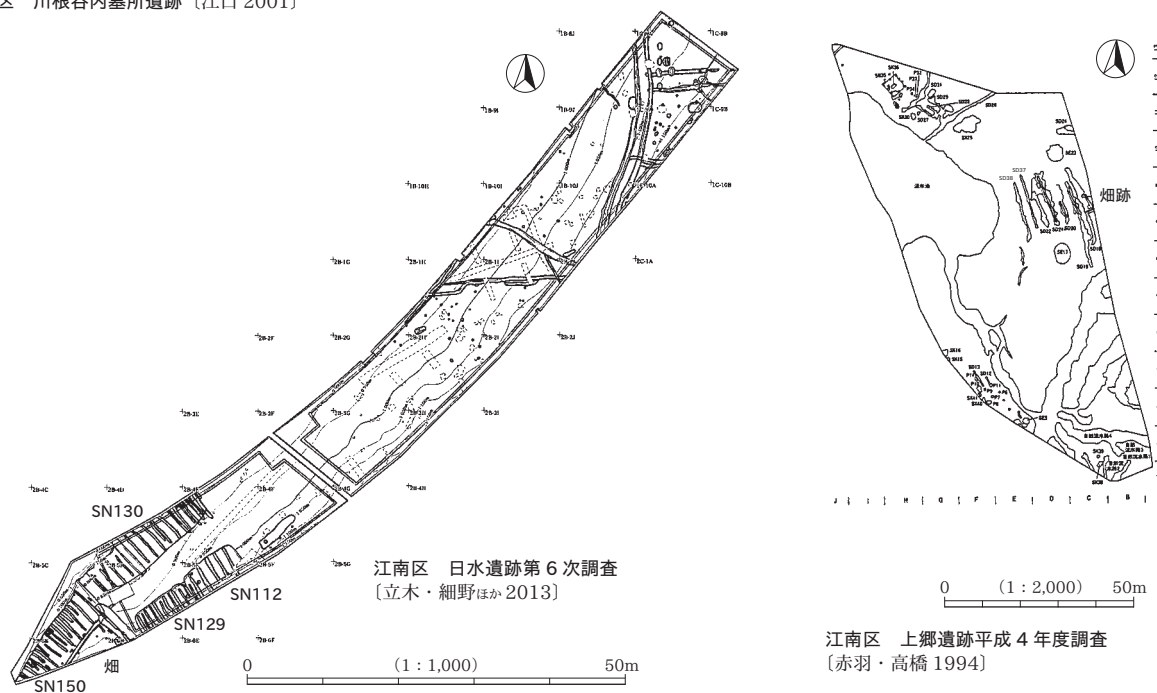
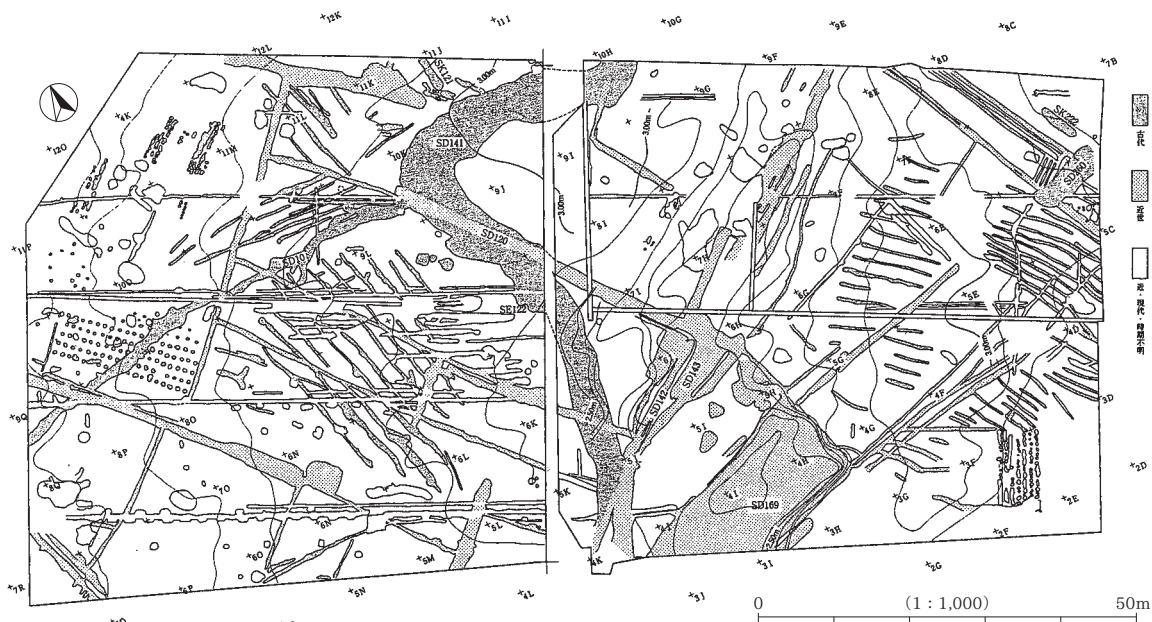
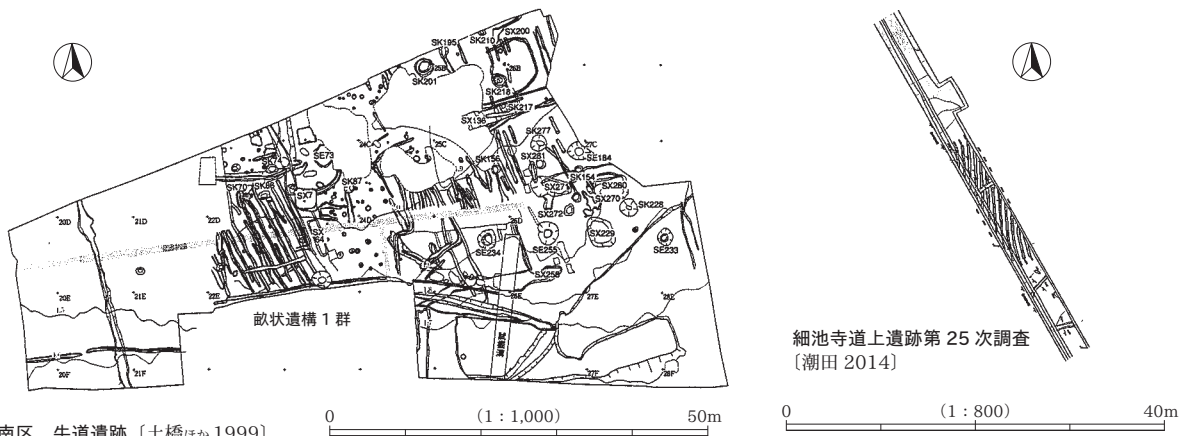
江南区 駒首湯遺跡 [渡邊ほか 2009]



江南区 上郷遺跡平成5・6年度調査 [上野・春日 1997]

第55図 新潟市内の主な畑跡(1) (各報告書より引用・加筆)

第1節 細池寺道上遺跡の遺構について



第56図 新潟市内の主な畑跡(2) (各報告書より引用・加筆)

は、これまで県内で検出された事例とやや形態が異なる。「耕作によると考えられる土壌の変質部(耕作土)」により各小溝群の範囲が画定しているのが大きな特徴で、検出された5基のうちの3基SN112・129・130は、幅4mの空間を挟んで整然と並んでいる。

小溝の本数が少ない事例を見ると、江南区日水遺跡第3次調査〔今井ほか2007〕の5基、秋葉区結七島遺跡第24次調査〔龍田ほか2012〕の7基、江南区上郷遺跡平成4年度調査〔赤羽・高橋1994〕(第56図下段右)の7基のみの検出事例がある。日水遺跡第3次調査、結七島遺跡第24次調査は調査範囲の幅が狭いため詳細は不明であるが、上郷遺跡平成4年度調査は井戸2基が南北に近接し、その周囲に空地が広がる。小溝の本数の少ない畝状小溝も畑の一形態であり、周辺に畝立てを必要としない作物が栽培されたと考えたい。

なお、細池寺道上遺跡第25次調査では中世の畑が検出されている〔潮田2014〕(第56図上段右)。13基の小溝から構成され、主軸方位はN5～16°W、断面形は皿状である。短軸0.2～0.4m、深さ0.04～0.11mを測り、覆土はいずれも単層である。溝の中心間の距離は0.6m前後で、上述してきた古代の事例よりも整然としている印象がある。県内全体の検出例でも同様の傾向があり、中世に到ると、より直線的で等間隔な畝づくりを行う技術や慣習が定着したと考えられる。

一方、第38次調査1区、2区、3区では、畑と推定される畝間状痕跡が3,000基以上検出された。1区では2,629基を7ブロックに分け、SN1001・1002、SD1003周辺に広く分布するⅠ～Ⅵブロックの2,447基を中世、旧河道1007の内部にあるテラス1004に広がるⅦブロックの182基を古代の畝間状痕跡とした。同2区では284基を2ブロックに分け、中世の畝間状痕跡とした。同3区では115基を中世の畝間状痕跡とした。1区のⅦブロックのセクションベルトで分層された畝上部から畝間下の土壌について自然科学分析を行った結果、花粉分析ではイネ科、ヨモギ属が比較的多く産出し、植物珪酸体分析ではイネ機動細胞珪酸体が多く産出した(第Ⅵ章第1節B参照)。調査の経過は第Ⅳ章第3節C2) fのはじめに簡単に示した。この遺構については類例が少なく検討が困難である。今後の類例の増加を待ちたい。

C 水田跡について

水田跡は第38次調査1区で4基(SN1001・1002・1080・1088)、第41次調査1区で7基(SN821・857・858・851・838・837・373)、同2区で6基(SN21・20・19・4・2・1)、同3区で1基(SN1)検出された。これらは磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会により本発掘調査が行われた細池遺跡・寺道上遺跡(現、細池寺道上遺跡)〔小池ほか1994〕において検出された「凹地遺構」のうち、「周溝を伴う不定形の」A類と同様の遺構と考えられる。遺構の性格は、大正末年から昭和20年代の耕地整理前に新津一帯に見られた「堀田」に先行する形態の水田と考えられ、「掘込田」の名称で区別されている水田跡〔能登1996〕にあたる。

「水田跡の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行なわれた可能性が高い」とされる一方で、「近年における各地の調査事例で2,000～3,000個/gの密度でも水田遺構」とされた例が多くあるという〔鈴木ほか2012〕。第38次調査1区SN1001では全体で600～2,600個/g、同SN1002では500～1,300個/g、第41次調査1区SN373では1,300～1,400個/g、SN838では700個/gおよび1,400個/g、SN851では2層で3,600個/gと比較的高い値であったが、1層では700個/gであった。分析された試料のほぼ全体でイネの密度が低かったことについては、「稲作が行なわれた期間が短かったことや、土層の堆積速度が速かったことなどが想定される」(第Ⅵ章第1節A1) f) という。なお、上述の細池遺跡〔小池ほか1994〕検出の凹地遺構での自然科学分析においても「現在の耕作土層と比較するとイネ属機動細胞珪酸体の出現率が低率」であったという。

第38次調査1区や第41次調査1区で検出された水田跡の基本的な構造は、平面形が不定形あるいは楕円形、長方形であり、壁沿いに溝をもつものがあり、その内側に著しい凹凸面が見られる。上述の細池遺跡〔小池ほか1994〕では、周溝の底面よりわずかにレベルの高いほぼ平坦な中央の面をもつとされているが、同報告の寺道

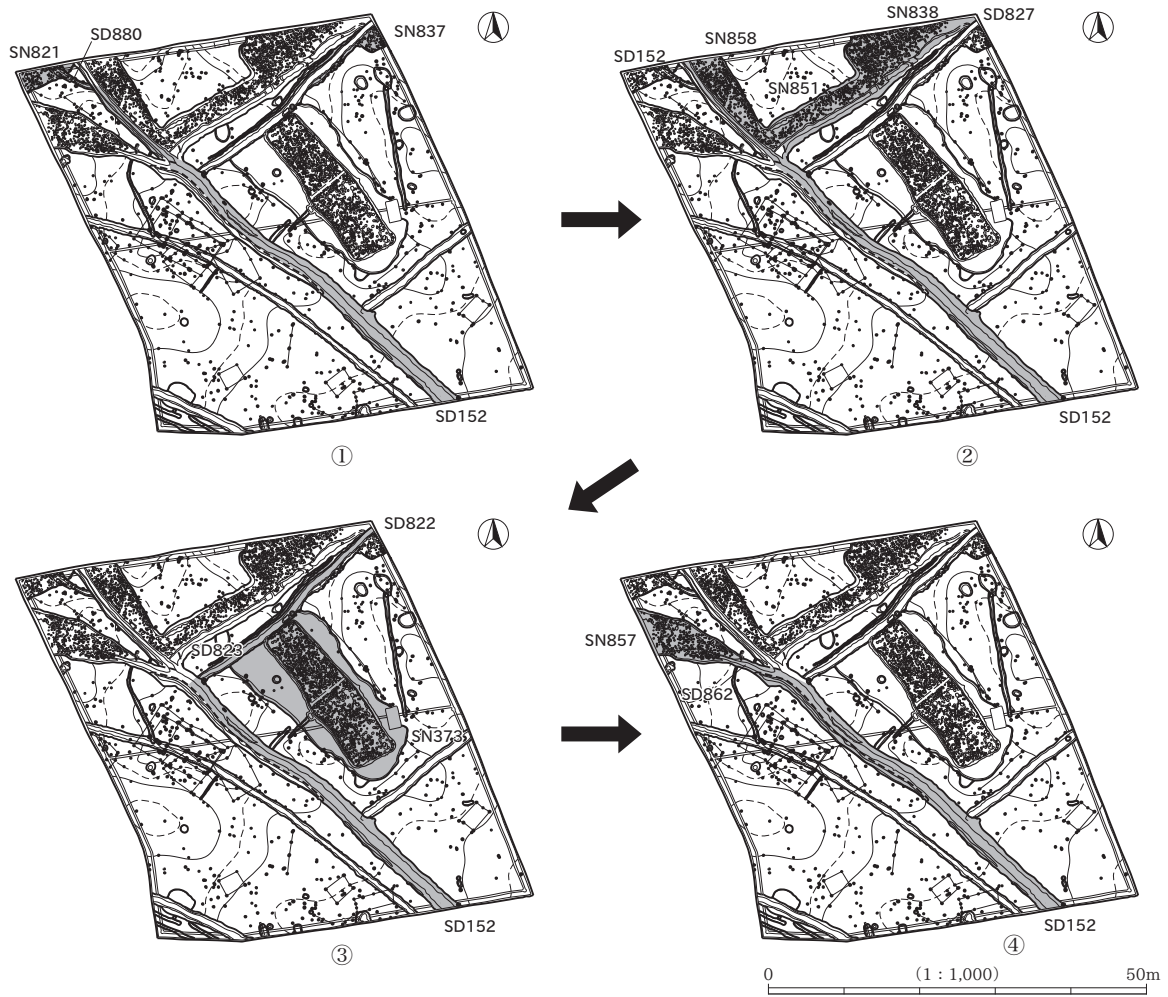
上遺跡 A 地点〔小池ほか 1994 (第 58 図左)〕では凹凸面と中央平坦面の識別は不明瞭なものが多いとあり、今回の調査例は後者の例となろう。また、第 41 次調査 1 区 SN373 を代表例として、水田跡の外周やその一部に柵を設けている。そして、水田跡間が小溝で結ばれる例が認められ、導排水を目的とする溝が付属している。主要な水田跡の面積は第 38 次調査 1 区 SN1001 が 342.06m²、同 1002 が 161.60m²、第 41 次調査 1 区 SN373 が 252.91m² である。上述の細池遺跡検出の凹地遺構 A 類 16 基の検出面積は 14 ~ 399m²、寺道上遺跡検出の凹地遺構 A 類 19 基の検出面積は 4 ~ 185m² であり、今回調査の主要な 3 例は中 ~ 大形のものと言えそうである。確認面からの深さは第 38 次調査 1 区 SN1001 と SN1002 で 10 ~ 30cm ほど、第 41 次調査 1 区 7 基で 26 ~ 66cm、同 2 区 6 基で 12 ~ 19cm、同 3 区 1 基で 24cm。覆土は第 38 次調査 1 区 2 基で 4 層、第 41 次調査 1 区 7 基で 2 ~ 6 層、同 2 区 6 基で 2 ~ 3 層、同 3 区で単層である。最下層は V a 層を多く含んでいる。凹凸面を含めた最下層は、「床土」としての目的ではなく、「底面のレベル調整を意図した埋土」〔小池ほか 1994〕と考えられている。

各水田跡の時期は、古代の遺物を多く含む IV 層を切って造成されている例が多いことや、数量は多くないが水田跡やそれらの導排水路と考えられる溝から吉岡康暢氏による編年研究〔吉岡 1994〕での IV 期を中心とする珠洲焼甕・壺・片口鉢の出土から中世(鎌倉時代~室町時代)と考えられる。その中で第 41 次調査 1 区 SN373 の 3 層出土の 2 点の木炭のうちの 1 点で行なわれた放射性炭素年代測定では 14 世紀代の年代が示された。ただし、SN373 の 3 層出土のもう 1 点の木炭や SN373 の導排水路と考えられる SD822 の 4 層出土の木炭、SN851・838 の導排水路と考えられる SD827 の 4 層出土の木炭では 7 世紀後半から 8 世紀後半の年代が示されている。これらは IV 層、あるいは古代の遺構に含まれていたものが、水田造成の際などに紛れ込んだものと考えられる。

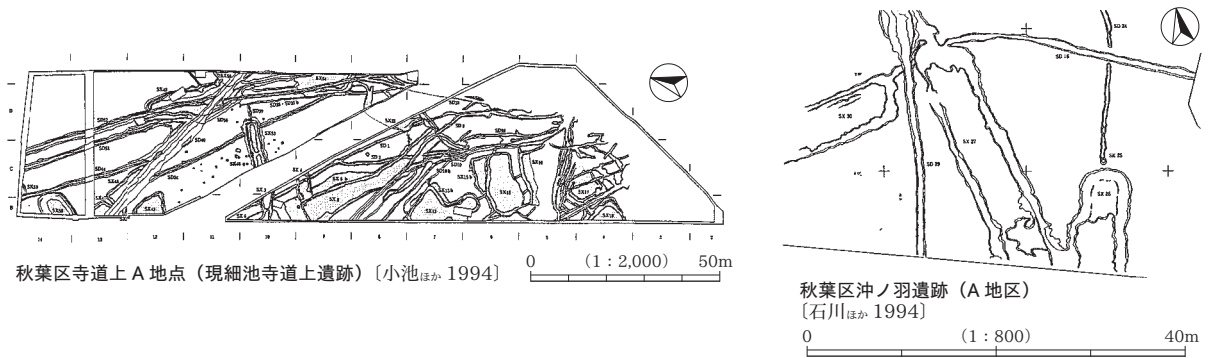
次に第 38 次調査 1 区で検出した 2 基 (SN1001・1002)、第 41 次調査 1 区で検出した 7 基 (SN821・857・858・851・838・837・373) について、形態や導排水の経路、変遷等を検討する。

第 38 次調査 1 区で検出された SN1001 は平面形が南北に長い不整形を呈する。東西の壁際には一部途切れる箇所もあるが周溝が、1 ~ 2 基掘られ、内部は南端部を除き底面に形態、配置が不規則な著しい凹凸面をもつ。11J-10H 南半から 12J-1H 北半あたりを境に遺構を 2 分でできそうであるが、セクションや平面での観察で明確に分離できる所見が得られなかったため、一つの遺構とした。底面標高は 7.3 ~ 7.4m 前後でほぼ平坦である。面積は現存で 342.06m² を測るが、南側は調査区外へ延びる。導排水は北側が SD1003、南側が SD1152 から行われたと考えられる。SN1002 は SN1001 の西側にあり、平面形は北端と南端が窄まる楕円形を呈する。内部の溝は東西の壁際に 1 基ずつ、中央部を南北に貫く 1 基がある。内部は凹凸面をもつ。底面標高は 7.2 ~ 7.3m 前後でほぼ平坦である。面積は 161.60m² である。南側の SD1102 から導水され、余剰水ができれば、北端に接する耕地の一形態と推測される、調査区北側溝群へ配水された可能性がある。両水田はほぼ同時期に営まれたと考えたい。

第 41 次調査 1 区で検出された 7 基の水田跡は直接的、あるいは間接的に「幹線水路」〔小池ほか 1994〕の SD152 と繋がっている。SN373 は平行する SD152 の北東側に位置する。面積は 252.91m² を測るが、平面形が隅丸長方形で長軸 21.45m、短軸 6.76m を測り、内部に著しい凹凸面をもつ範囲と凹凸面がないテラス状の部分からなり、外周には柵が設けられる。導排水は SD152 から北東に延びる SD822 から行われたと考えられる。調査区境の壁セクションにかかっていないため検証できないが、深さは SN838 のように 60cm を超えていた可能性がある。その場合、凹凸面をもつ範囲の埋没後に現状のテラス状部分を範囲とする水田が営まれる変遷も推測される。その際の導排水路として SD822 と平行する SD823 が可能性としてあげられる。SN858・851・838 は調査区の北端に位置する。SN858 は SD152 が、SN851・838 は SD152 から北東へ延びる SD827 が導排水路と考えられる。これらは SN373 とは凹凸面の範囲の形態が長形状で似ており、深さも同様となる可能性があることからごく近い時期の遺構と思われるが、SN373 の導排水路とした SD822 に SD827 が切られることから若干古い可能性がある。SN837 は比較的浅く、SN373 の導排水路と考えられる SD822 に



第 57 図 細池寺道上遺跡第 41 次調査 1 区中世水田跡・溝変遷案



第 58 図 細池寺道上遺跡周辺の水田跡（掘込田）

切られることから SN373 よりも古いと考えられる。SN821 も比較的浅く、SD152 に切られる SD880 から北東へ延びる SD848 から導水されていると考えられるため古いと考えられる。SN857 は SD152 を切る SD862 から導水されているため、最も新しい可能性がある。以上から① SN837・821 →② SN858・851・838 →③ SN373 →④ SN857 の変遷が推測されるが、大きな年代差はなかったと考えたい。SN373 覆土最下層である 3 層では明黄褐色シルトに褐灰色シルトを多量に、黒褐色の腐植土を少量含んでいた。黒褐色の腐植土は肥料の可能性が考えられる〔鈴木 2014〕。水田造成初期段階として鈴木氏は、水田にする部分を掘り下げ、その後自給肥料を人為的に敷き、次に掘り上げた土の中で耕作土とするものを掘り込みに戻して攪拌し、その上面にイネの苗を植えるという工程を復元している。SN373 の 3 層に部分的に含まれる黒褐色の腐植土も、土壌攪拌を逃れて

残った肥料と推測する。この少量の腐植土が肥料痕跡であった場合、同層で行われた植物珪酸体分析や花粉分析で同定された多くの植物、特にヨシ属を中心に緑肥とした可能性を推測したい。

最後に〔小池 1999〕や〔鈴木ほか 2012〕により「掘込田」と推測されている新潟市内の検出事例について概観したい。平成 8（1996）年度に農道拡幅工事に伴い新潟市教育委員会により行われた細池遺跡（現、細池寺道上遺跡）東地区〔立木・渡邊ほか 1998〕では近世以降の性格不明遺構 4 基が凹地遺構 B・C 類〔小池ほか 1994〕に分類される「掘込田」と推測される。磐越自動車道の建設に伴い新潟県教育委員会により本発掘調査が行われた秋葉区沖ノ羽遺跡（A 地区）〔石川ほか 1994〕（第 58 図右）で検出された性格不明遺構 4 基は凹地遺構 A 類に分類される「掘込田」と推測される。このうち 3 基は近接して検出され、平面形は隅丸長方形を呈し、周溝が巡る。規模は SX26 が長軸 11m、SX27 が 24m、SX30 が 15m、いずれの短軸も 5～6m、溝の幅 0.4～1m、深さ 0.05～0.15m の範囲内にあるという。溝で囲まれた内部の一部には深さ 0.05～0.1m の掘り込みが広がるとあり、これが凹凸面の可能性がある。水田間は小溝で結ばれ、導排水を目的とする溝が付属しているように見える。各遺構から須恵器片や土師器片が出土しているが、報告では所属時期を明言していない。遺構の構造や配置がこれまで見た細池寺道上遺跡検出事例と似通っており、周辺の溝を含め、中世の遺構の可能性も考えられる。また、沖ノ羽遺跡第 19 次調査 1 区〔遠藤・澤野ほか 2014〕で検出された旧河道 2 基について、報告書の総括において中世の「掘込田」の可能性が指摘されている。江南区日水遺跡第 3 次調査〔今井ほか 2007〕では 18 世紀以降の「掘込田」と推測される遺構が検出されている。なお、平成 26（2014）年に行われた細池寺道上遺跡第 44 次調査 4 区〔立木 2015〕では近世以降の「掘込田」2 面（第 71 図）が検出されている。

細池寺道上遺跡で「掘込田」（凹地遺構）が最初に検出されてから約 20 年が経過し、今回ややまとまった事例が追加できた。今回多くはないものの導排水路と考えられる溝を含め、珠洲焼を中心とした中世の遺物の出土があることと、検出層位から中世の遺構と判断できた。古代の事例の可能性も指摘された沖ノ羽遺跡（A 地区）〔石川ほか 1994〕での検出例も中世の遺構となる可能性が考えられる。一方、近世以降の「掘込田」との識別は、検出層位、平面形、断面形、出土遺物を総合して可能と考える。細池寺道上遺跡とその周辺での「掘込田」の出現は現状では中世からとしたい。それ以前の水田の形態は今後の調査での検出に期待したい。また、第 41 次調査 1 区において、「掘込田」に近接して井戸を伴う掘立柱建物からなる居住域が検出されたことは貴重な調査事例となろう。

D 旧河道について

第 38 次調査 1 区の南東端からは、調査区内を大きく蛇行する幅 30m 以上、深さ 2m あまりの旧河道 1007 が検出された（図版 49～52）。この旧河道はテラス部分（テラス 1004）と本流部分からなる。土器や木製品の多くは本流部分の斜面から河底に堆積する有機物を多く含むシルト層と砂層の互層である 3d・3e・3f 層からの出土である。形成時期は 3e 層出土の樹皮で行った放射性炭素年代測定で 7 世紀末から 8 世紀後半までの年代が得られたため、その頃と考えられる。8 世紀後半には周辺に集落が形成され、旧河道への土器の廃棄が開始されたようである。出土土器の平面分布を見ると、須恵器大甕（124）・長頸壺（128）・環状把手付壺（130）・土師器長甕（175）などの貯蔵具、煮炊具の破片が分散して出土しており、意図的に割ってから廃棄されたものがある可能性がある。

出土した木製品（図版 144～147）の中には、祭祀具やその可能性の高いものが認められた。斎串（6）は上端部が圭頭状で、側面からの切込みがないもので、『木器集成図録 近畿古代篇』（以下、『木器集成図録』と略す）〔奈良国立文化財研究所 1985〕の B1 式である。箸（7～16）は、細い棒を多面的に成形して細く仕上げている。『木器集成図録』では「祭器としての役割」があるという見方が提起され、三浦純夫氏は「箸自体に祭祀性が付与される場合もある」〔三浦 1996〕とされた。箸状木製品（17～19）としたものは、中世の事例であるが、糸魚川市竹花遺跡の調査において、出土した 545 点のうち 99 点が垂直に近い角度で地面に突き刺した状態で検出され、それらが弧状や環状となる範囲が見られたとし、県内外の類似例から祭祀に用いられたと想定された〔相羽・渡

邊ほか2011)。上述の〔三浦1996〕も齋串の一類型とみなす説を複数紹介されている。尖棒状木製品(20)・細形角柱状木製品(21～26)は両端、もしくは片端を削り、先端を尖らせたり三角形状とするもので、『木器集成図録』では掲載事例は少ないがD型式とされている。江南区駒首潟遺跡〔渡邊ほか2009〕の井戸(SE2)から出土した、片方の先端が尖っている棒状製品(図版141-13)などに類例がある。無台盤(2)は底部と体部の境に丸みを持つタイプで、この時期では中形となる〔水澤ほか2002〕。底部外面には「田」の刻書が見られ、祭祀具関連とみなせそうである。ちなみに川畑誠氏によると、北陸地方での盤などの小形容器は「官衙的性格をもつ遺跡より墨書土器・木製祭祀遺物・箸状木器と共伴する傾向」〔川畑1996〕があるとされる。墨書土器は5点、漆書土器は1点出土した。静岡県浜松市伊場遺跡群の伊場大溝では平安時代の一文字墨書土器が600点以上出土しており、墨書土器を廃棄すること自体が祭祀行為であったとみられるとされた〔鈴木2013〕。以上から本旧河道でも古代における水辺(河辺)の祭祀が行われていたようである。そうすると、岸辺に横たわる木道1008としたカツラの巨木(46)も祭祀行為の際に利用された可能性も考えられる。

自然科学分析では、旧河道下層の3d～3g層採取の試料で行なった花粉分析、種実同定、樹種同定から種類豊富な木本類、草本類が確認され、当時の古植生について復原が試みられている(第Ⅵ章第1節C5)c参照)。植物利用については、種実同定から栽培種のおオムギ、アサ、メロン類、シソ属、ナスが確認され、食用などに利用されたようである(第Ⅵ章第1節C5)d参照)。

テラス1004は平面形が孤状で、幅は3.5～7.0mで北側が広がる。確認面からの深さは0.34～0.50m、底面標高は7.2m前後でごく緩やかに本流側に下がる。内部にはSD1005・1006・1242などがあり、テラスや遺構内からの遺物は少ない。このテラスは春日氏編年Ⅳ1～Ⅵ2・3期の土器が多く出土した3d～3f層埋没後に構築されたようである。古代の旧河道にテラスが構築された事例は、新潟市内では江南区駒首潟遺跡〔渡邊ほか2009〕旧河川調査区北側(第55図下段右)と秋葉区沖ノ羽遺跡第18次調査3区〔遠藤・澤野ほか2014〕河1で検出されている。駒首潟遺跡検出例は「集落の北側に構築された「荷揚場」、沖ノ羽遺跡第18次調査3区検出例は「水上交通に関連した船着場あるいは物資の荷揚場」といった性格を有するとされた。本遺跡例は、テラス構築時には湿地のような状態で、水の流れがほとんどない環境であった(第Ⅵ章第1節C5)b)とされ、水上交通に関連する施設は見られず、また河の西岸に集落域がないため、類例2遺跡と性格を異にすることは明らかである。第Ⅳ章第3節Cでは畑であった可能性を示したが、別な性格も今後検討したい。この旧河道は中世には埋まり、近世以降「堀田」として開発され、稲作が行われたと考えられる。

第2節 細池寺道上遺跡の遺物について

A 奈良・平安時代の土器について

細池寺道上遺跡第32・38・41次調査では、第38次調査1区の旧河道1007で、多くの土器が出土した。そのほかには、同SK1033、第41次調査1区SK89・138・139、同3区SX2・6でややまとまって土器が出土している。

ここでは、春日真実氏の編年研究〔春日1997・1999・2005〕や秋葉区内の細池寺道上遺跡〔立木・渡邊ほか1998、渡邊ほか2001〕、沖ノ羽遺跡〔遠藤・澤野ほか2014〕、中谷内遺跡〔立木ほか1999〕、萱免遺跡〔立木ほか2009〕などでの編年案を参考に、今回の調査で出土した奈良・平安時代の土器の位置付けを考えたい。

土師器・黒色土器無台椀については、口径を分類し、15.1～17.0cmをⅠ類、13.1～15.0cmをⅡ類、13.0cm以下をⅢ類とした(第59図下段)。器高指数での分類は、30以下の1類、31～35の2類、36以上の3類に分けた。第60図は、土師器無台椀の底径指数を40以下、41～45、46以上に分け、器高指数との組み合わせで出土遺構に関係なく図示してみたものである。底径指数の小さい方には口径の大きいもの、底径指数の大きい方には口径の小さいものがややまとまってくるようである。器高指数36以上となるものが少ない点は第

12次調査出土土器群の分析〔渡邊^{ほか}2001〕でも指摘されている。時期は概ねV～VI期となる。

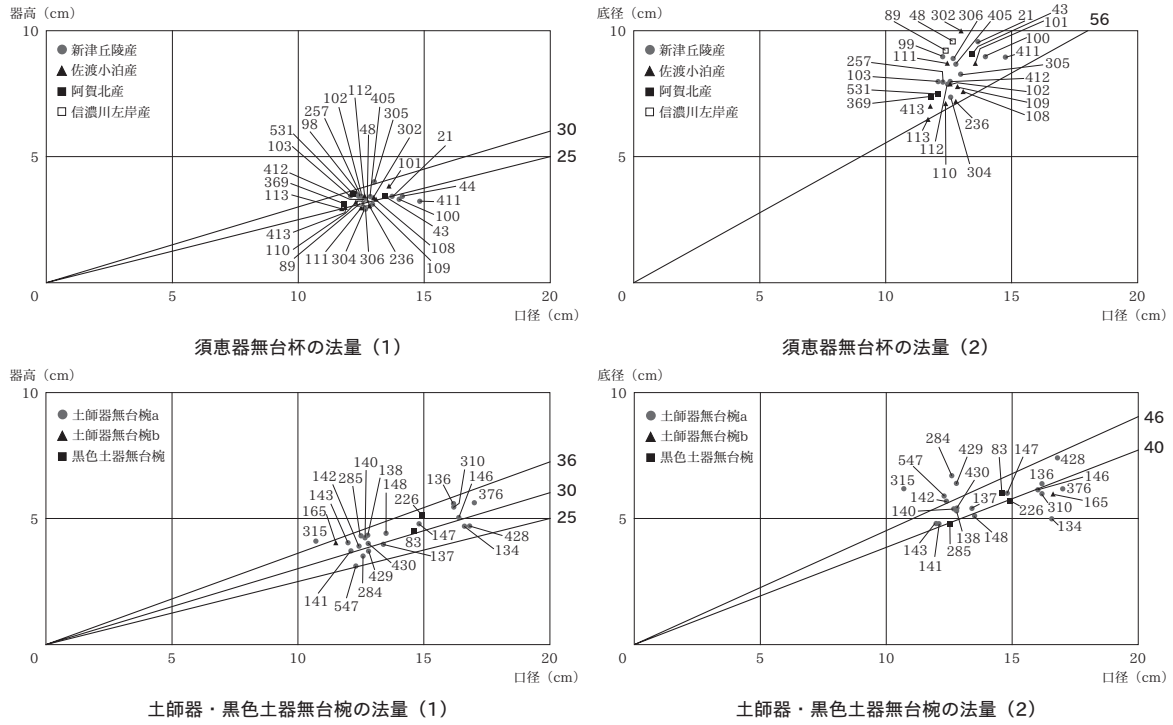
須恵器については、阿賀北産をA群、佐渡小泊産をB群、新津丘陵産をC群、信濃川左岸産をD群とした(第IV章第4節B1))。無台杯について調査区・遺構に関係なく口径と器高、口径と底径の関係を第59図上段にグラフで示した。口径は15cmを超えるものはなく、器高指数では22～31におさまっていて、土師器無台碗よりもまとまった様相を示す。底径指数では56以上であり、佐渡小泊産と考えているB群がなかでも小さい方に分布する傾向がみられる。また、無台杯と有台杯についてロクロ回転方向を底部で観察した結果、右回転はA群2点、B群1点、C群4点、左回転はB群のみに9点存在した。第61～63図には産地別に主なものを図示している。C群(第61図)は、IV～V期に位置づけられるものが出土している。このうちIV期の食膳具のほとんどは第38次調査1区からの出土である。B群(第62図)にはV～VI期のものがみられる。第38次調査1区の旧河道1007とその周辺からまとまって出土している。A群(第63図左)は少量の出土で、IV～V期のものとみられる。130の環状把手付壺は旧河道1007の出土で、類例は頸城郡に多く知られているが、本遺跡周辺でも秋葉区結七島遺跡から1点出土している〔立木・澤野^{ほか}2003〕。D群(第63図右)も少量の出土である。無台杯は第38次調査1区のみでIV～V期のものが出土し、壺蓋・横瓶は第41次調査1区または3区の出土である。全体としてみるとIV期はC群を主体としてA群・D群が少量見られ、V期はこれにB群が加わり、VI期はB群のみとなる大きな流れが認められる。また、大甕はC群のみに一定量存在しており、C群は他群に比し貯蔵具に多様性がある。

次に主な遺構でのあり方をみていくと、旧河道1007では、須恵器については無台杯100が最も古い様相でIV1期、同99がIV2・3期と考える。胎土はいずれもC群である。一方新しい様相をもつのは、胎土B群の無台杯112などで、10世紀代のもとなる可能性がある。土師器無台碗はV～VI期、鍋215はIV～V期のものとみられ、IV～VI期に渡り祭祀行為が行われていたと考えられる。

第38次調査1区SK1033からは第64図に掲げた土師器長甕・鍋以外に土師器無台碗・小甕、須恵器無台杯が出土しているが図化できなかった。土師器長甕6は上方に伸びた口縁端部が強く摘まれるB2類で、上半部内外面がカキメ、下半部外面がタタキメ、同内面が当て具痕である。7の体部もほぼ同様である。鍋(11・12)は浅身である。同様の特徴をもつ長甕と鍋は上述の中谷内遺跡に数例認められる。特に鍋の浅身化の傾向は9世紀後半頃から始まるようである。根拠には乏しいが、本遺構の土器群はVI期の中に位置付けたい。

第41次調査1区SK89では、須恵器は食膳具のみ、土師器には食膳具と煮炊具がある。食膳具のみだと須恵器と土師器が半々の比率になる。須恵器無台杯には胎土B群とC群があり、C群では底径指数59・64・70、器高指数は23・24・31である。土師器無台碗310は器高指数33、底径指数37である。315は同じく38・58。土師器小甕が多く出土している。当遺構は第12次調査で検出されているSX26に接しており、本来同一の遺構であった可能性もある。さらにSX26は第12次調査区内のSK3・SK19とも同一遺構の可能性が考えられている。これらの遺構からは相当数の古代土器が出土しており、報告書ではSK3とSX26を中心として詳細な土器の検討がなされている。それによれば、佐渡小泊産を含む須恵器無台杯が底径指数50～65、器高指数26前後にまとまるという。土師器無台碗は、口径16～17cmのI類、12～14cmのII類が存在する。器高指数はI類が28.5前後・32～33・35～36、II類が26前後・30前後・35～36に分かれる。底径指数はSX26で40・50・58の3種が確認できるという。また、黒色土器無台碗が出土している。SK89出土の須恵器無台杯、土師器無台碗の器形・法量の明らかなものは第12次調査SK3・SX26出土のものに類似していることから、ここではV2期としたい。

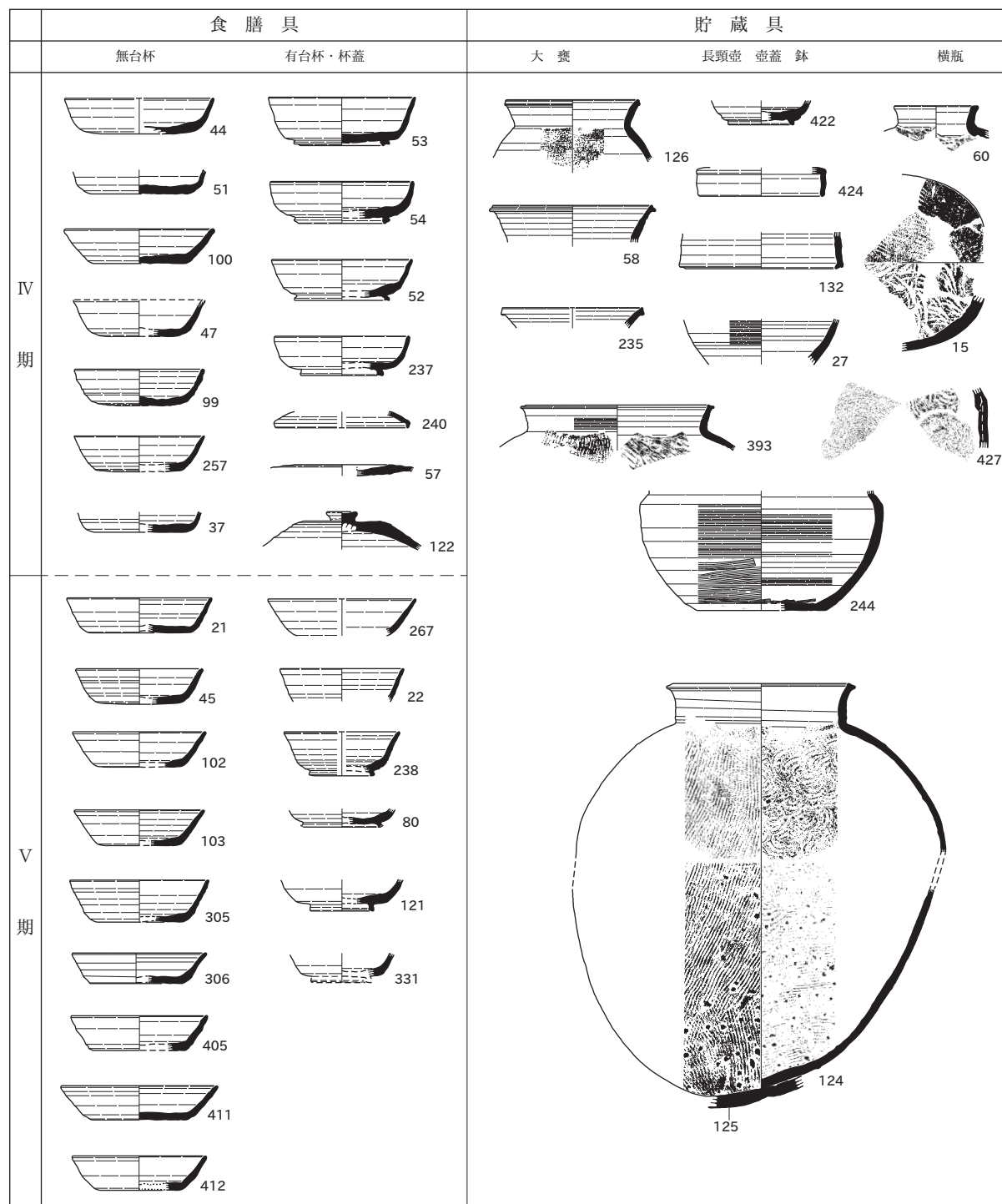
第41次調査1区SK139の須恵器はC群であるが、土師器無台碗284の器高指数が28と比較的低く、黒色土器無台碗285が34とやや深身である。同SK138では、土師器無台碗293は推定値ではあるが、器高指数が40前後になる。本遺跡内でも特に特徴的な口縁部形態をもつ土師器小甕A類(300)が、9世紀後半とされる中谷内遺跡河1下層〔立木^{ほか}1999〕から出土していることから、春日氏の編年観も参考とし、SK138・



第 59 図 須恵器無台杯、土師器・黒色土器無台椀の法量

		底径指数		
		40以下	41~45	46以上
器高指数	30以下			
	31~35			
	36以上			

第 60 図 土師器無台椀の器高・底径指数 (S=1/6)

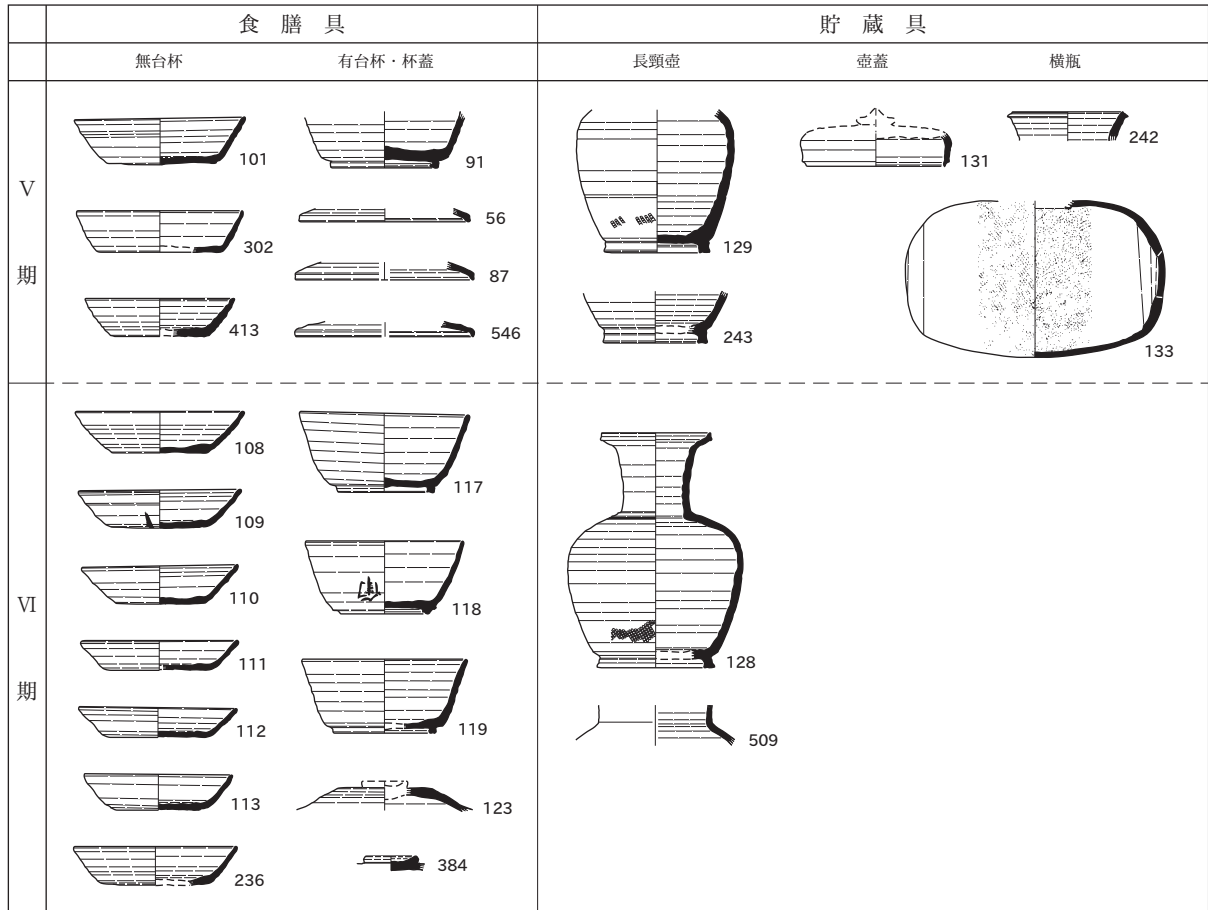


第 61 図 須恵器胎土 C 群（新津丘陵産）の様相 (S=1/6、15・58・60・124・126・235・244・393 S=1/8)

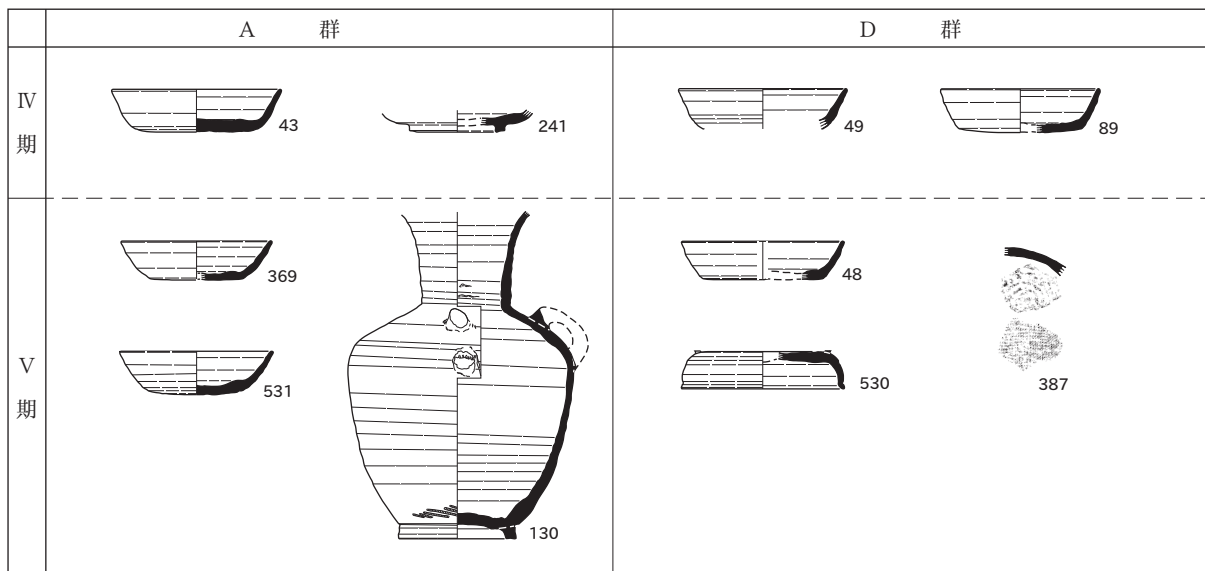
SK139 出土土器群はVI 1 期としたい。

第 41 次調査 3 区 SX2・SX6 の両遺構は 17L-2G9・10・14・15 に位置し、同グリッドの包含層出土土器もどちらかの遺構に含まれていた可能性がある。SX6 が SX2 を切るが、あまり時期差のないものとみられる。

須恵器の胎土には A 群・C 群・D 群のものがみられる。無台杯 AⅡ類の 531 は胎土 A 群で、山三賀編年〔坂井 1989a〕のⅢ 2 期、その後の春日氏による再検討〔春日 2005〕のⅣ 2～Ⅳ 3 期に器形、分量が似通っている。土師器無台碗はごく少量で、図化できるものがなかった。小甕は A 類と B1 類が見られる。第 41 次調査 1 区 SK89 より古い様相と思われる、ここでは VI 1 期、あるいはその前段階の土器群としたい。



第 62 図 須恵器胎土 B 群（佐渡小泊窯跡群産）の様相（S=1/6、128・129・133・242・243・509 S=1/8）



第 63 図 須恵器胎土 A 群（阿賀北産・左）、D 群（信濃川左岸産・右）の様相（S=1/6、130・387 S=1/8）

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
1期 (V期)	SX2・6 (13-3区) 531, 532, 533, 534, 529	536, 537, 538, 539, 540, 541	530, 535
	SK89 (13-1区) 304, 305, 306, 310, 311, 312, 313, 314, 315	318, 320, 321, 322, 327, 326	
2期 (VI期)	SK139 (13-1区) 282, 283, 284, 285	286, 287, 288, 289, 291, 292	
	SK138 (13-1区) 293, 294, 295, 296, 297	298, 299, 300, 301	
SK1033 (12-1区)		6, 7, 11, 12	

第64図 細池寺道上遺跡出土土器変遷案 (S=1/6, 11・12 S=1/8)

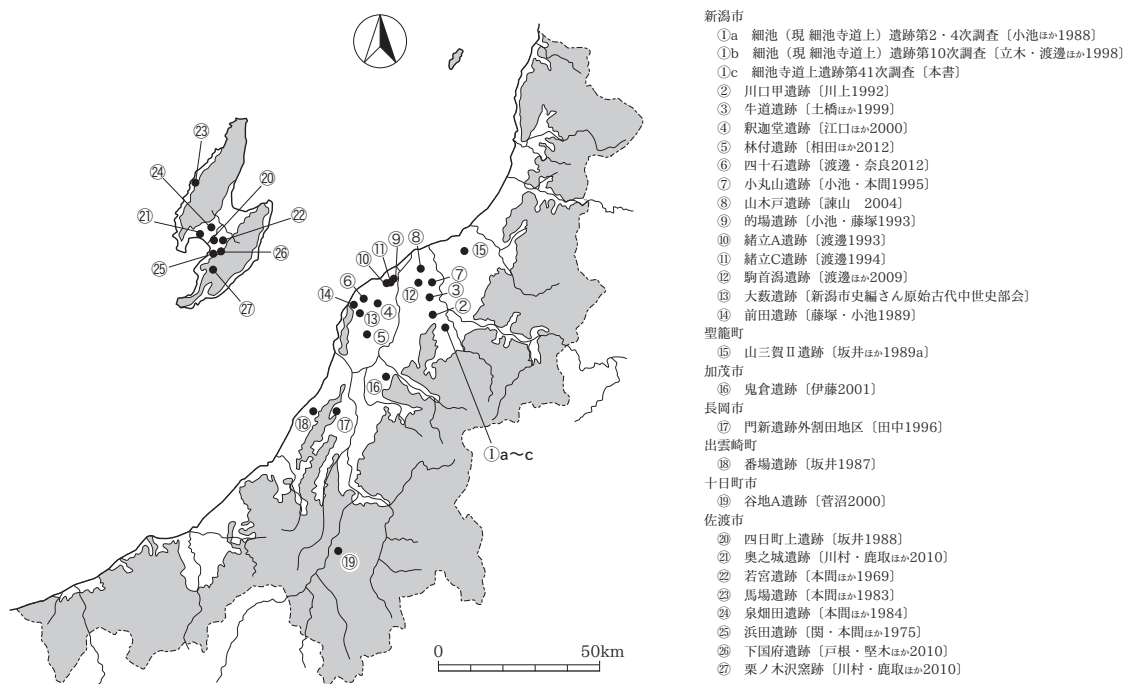
B 平安時代の佐渡型甕について

細池寺道上遺跡第41次調査1区から平安時代の非ロクロ土師器甕の口縁部片が1点(図版135-449、①c-1)出土した。第2・4次調査で非ロクロ土師器甕(①a-1)が出土し〔小池ほか1994〕、その後に行われた第10次調査でも非ロクロ土師器甕が少量出土(①a-2~5)した〔立木・渡邊ほか1998〕。本稿では平安時代の非ロクロ土師器甕が出土する様相について他の類例を集成し、本遺跡出土土器の位置づけおよび様相の把握を行う。

非ロクロ土師器甕は非常に特徴的で、現在『佐渡型甕』と称される一群である。『佐渡型甕』は、坂井秀弥氏が越後側の出雲崎町番場遺跡出土平安時代土器群の中で、非在地系の非ロクロ土師器甕(⑱-1)を考察〔坂井1987〕したことから越後側での研究が開始され、この非ロクロ土師器は佐渡の平安期の土器と類似し、番場遺跡出土品は佐渡から搬入されたことを指摘した。根拠とされたのは、越後の土師器甕は8世紀初頭にロクロ使用が開始され以後普及し、8世紀後半には非ロクロ土師器は消滅する。製作技法的には8世紀前半の土器の可能性もあるが形態や伴出する土器からみて、その可能性は少なく、「胎土は特に砂粒が多く、色調は褐色でほかの土師器と明瞭に区別される。」その形態は「体部と口縁部が明瞭に屈曲し、口縁部は「く」の字状に直線的に外反し、「体部上端が直線的なことから、長胴の形態」を特徴とすることから、6~8世紀の土師器甕とは異なり、共伴する土器が全て9~10世紀と考えられ、この時期の土器とされた。さらに、佐渡側の状況にも触れ、佐渡出土のこの種の甕は時期的には古墳時代中期から後期との見方と平安期とする見方があったことを紹介し、前述の理由で平安期の土器であることを示した。また、「平安期の佐渡では北陸地方で一般的なロクロ土師器が生産されず、非ロクロの土師器が盛行していたという、きわめて特異な地域性」であることを指摘した。

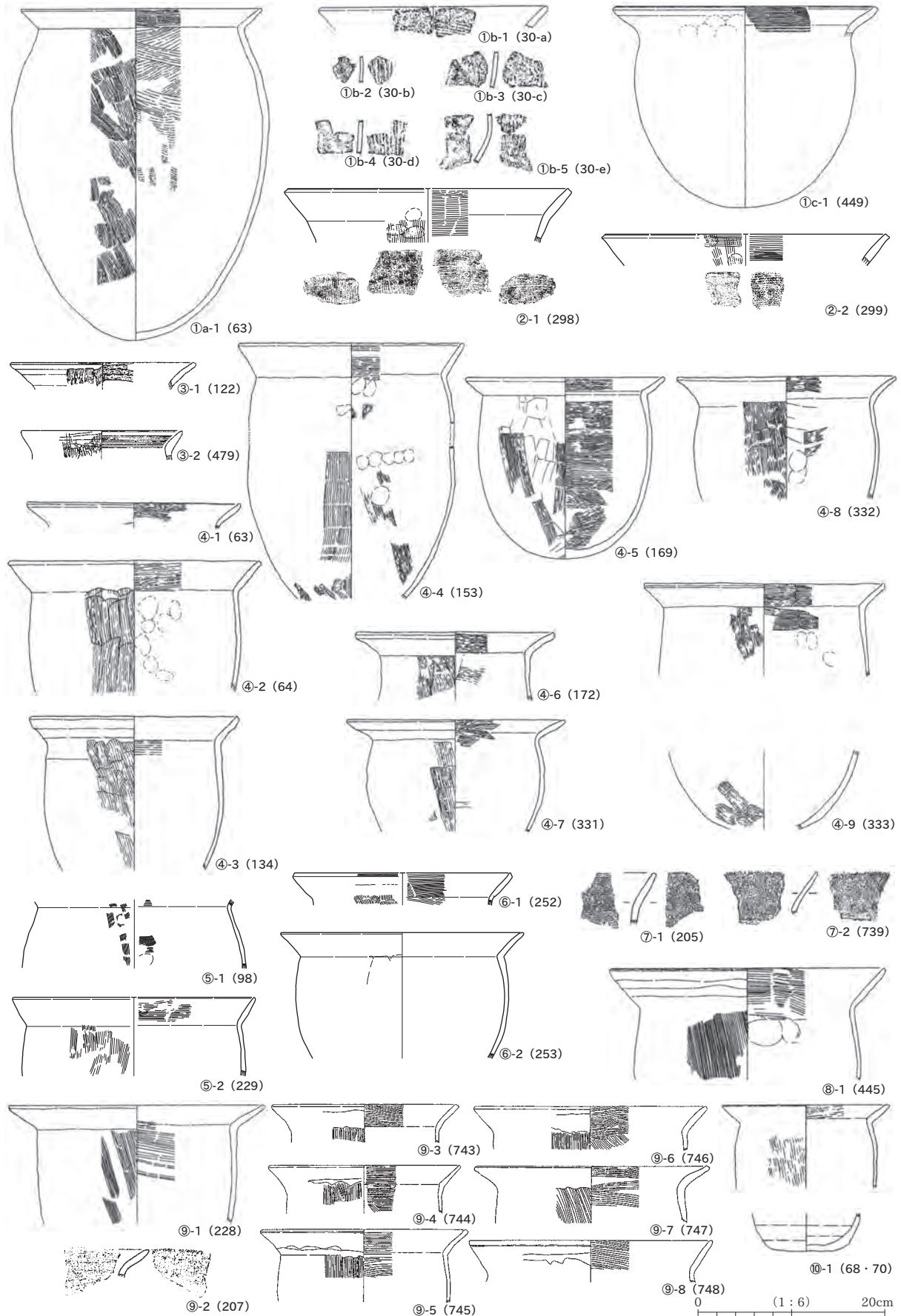
同氏は、1988年に越後・佐渡の古代土器の流通を論じる中で〔坂井1988〕、四日町上遺跡の全体形の分かる非ロクロ土師器2点(⑰-1・2)を紹介し、その中で特徴を以下のように述べた「長胴ではなく球胴の形態で、底部は丸底である。口縁部は「く」の字状に直線的に伸びる。器壁は特に薄く3mm程度である。体部内外面・口縁部内面は刷毛目、口縁部外面は指頭圧痕である。」。時期的にはさらに出自にも言及し、球胴の形態と薄い器壁で丸底に仕上げる技法は北陸地方には無く、近畿地方の工人が来たか、技術が持ち込まれた可能性を指摘している。

この土器の時期は他に採集された土器から、10世紀頃とした^{注1)}。『佐渡型甕』という名称はこの時点では使



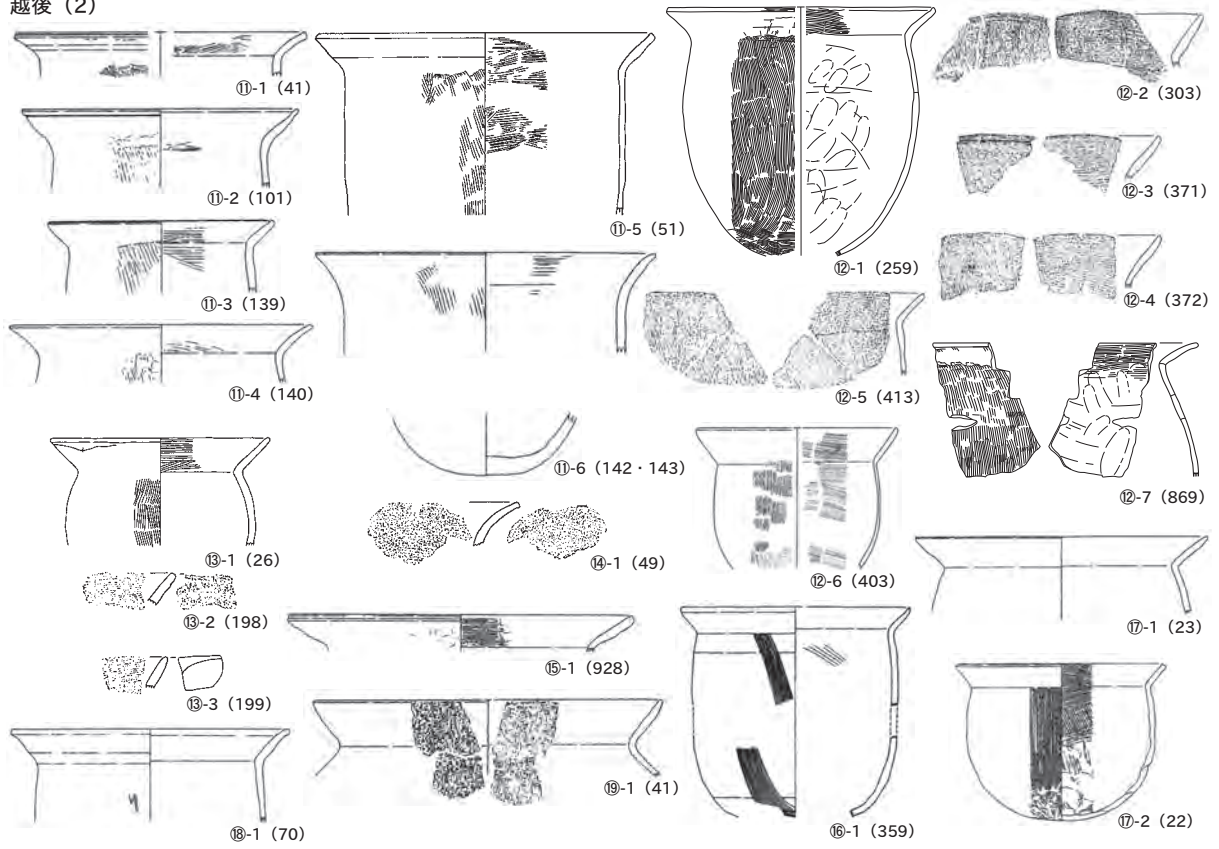
第65図 新潟県内の佐渡型甕出土の主要遺跡

越後 (1)

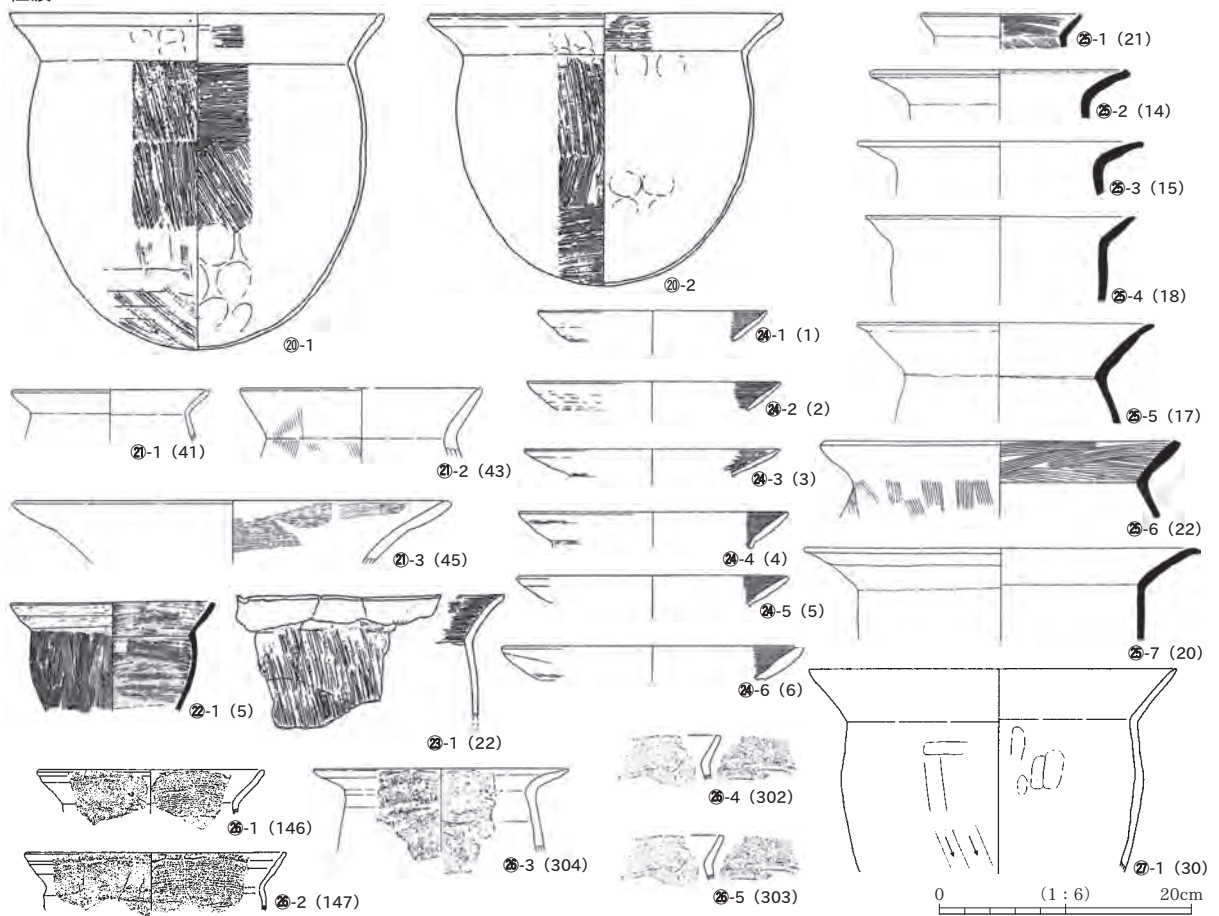


第66図 佐渡型甕の類例 (1)

越後 (2)



佐渡



第 67 図 佐渡型甕の類例 (2)

※ () は報告番号

われていない。その名称は山三賀Ⅱ遺跡の報告書中の土器分類〔坂井ほか1989a〕の項目中に、非ロクロ土師器のうち「製作技法が特異で、佐渡特有の特徴を持つもの」「非ロクロで、ごく薄い器壁と砂粒を含む胎土」「形態は球胴で丸底」のものを『佐渡型甕』と定義している。山三賀Ⅱ遺跡では完形の資料が無かったため、詳しく言及されていないが、基本的な形態的な定義は四日町上遺跡の記載に尽きると考える。名称についても、山三賀Ⅱ遺跡報告書刊行時の1989年前後に同氏に教示を受けた遺跡調査担当者を通じて『佐渡型甕』と呼ばれ定着したようである。その後、春日真実氏が出雲崎町梯子谷窯跡の報告書中に和島・出雲崎地域の編年を行う中で編年図が示され、佐渡型甕は春日編年Ⅵ2～Ⅶ2（古段階）期まで存続する土器と示された〔春日ほか2001〕。その後、越後の土師器煮沸具についても同氏によってまとめられ〔春日2007〕、論考中の分類で「球胴甕」のうちハケメ成形で丸底、口縁部が面取りされ、口縁内面ハケメのものを球胴甕A1b類としこれを佐渡型とし、「小釜」のうちハケメ成形で丸底、球胴、口縁端面面取り、薄手のものを小釜4類としこれを佐渡型とした。時期的には春日氏作成変遷図に春日編年Ⅴ～Ⅶ期〔春日1999〕にわたる時期を提示している。2種類の器種からなることを示したのは重要である。また、この論考で佐渡型甕の定義として口縁端部が面取りされること、すなわち「コ」の字状の端部となることと、内面にハケメ調整されることを示した。

以上の研究状況を踏まえ、現時点での佐渡型甕の特徴を下記にまとめる。

- ・非ロクロ土師器である。
- ・器種は球胴甕と小甕^{注2)}がある。
- ・胎土は砂粒が多く、色調は褐色あるいは灰褐色。
- ・器形は基本は球胴の形態で、底部は丸底。
- ・器壁は特に薄い（2～4mmである）。
- ・体部と口縁部の境は明瞭に屈曲し、口縁部は「く」の字状に直線的に外反し、口縁端部が面取りされる。
- ・球胴甕では口縁部外面に指頭圧痕、内面にハケメ調整（横刷毛）。体部外面はハケメ調整（縦刷毛が多い）。
- ・小甕では口縁部内面にハケメ調整（横刷毛）。体部外面はハケメ調整（縦刷毛が多い）^{注3)}。

この特徴を基に佐渡型甕を集成した。越後で17遺跡、佐渡で8遺跡確認した。報告書の記載および器形の特徴を基にして集成したため、類佐渡型甕も含まれると考えられる^{注4)}。以下に遺跡ごとに紹介する。時期が分かるものについては、春日真実氏の編年〔春日1999、2014など〕を用い、それぞれの報告書の記載を参考に記載した。最初に越後での出土様相を概観する。

①-a 細池寺道上遺跡第2・4次調査〔小池ほか1994〕ではD区SX410とした小土坑（口径25cm×深さ25cm）から口径26cm、高さ36cmの全体形が分かる資料が単独出土している。報告書の記載によると石英・長石の砂粒が多く入り、口縁部内面に横方向のハケメ、一部指頭圧痕認められ、体部外面に縦方向のハケメが入るとされている。「西古志型甕」〔坂井1990c、春日2005ほか〕あるいは東北系の土器の可能性もあるが、実測図から判断して非ロクロ成形で薄手の造りなどから「佐渡型」の球胴甕と判断した。周辺出土の土器から春日真実氏の編年〔春日1999〕（以下、春日編年と記載）Ⅴ～Ⅶ期と考える。

①-b 細池寺道上遺跡第10次調査〔立木・渡邊ほか1998〕では西地区SK3から口径24cmに復元できる「佐渡型」の球胴甕が出土した。1個体分の破片資料である。口縁部外面に指頭圧痕、内面には横刷毛、体部外面には縦刷毛が残る。胎土は長石・石英・チャートが多数含まれ、伴出した資料には土師器無台碗が多く、小泊産須恵器無台杯が少量入る。口縁部形態が摘み上げられる長甕・鍋などが多数出ていることから春日編年Ⅵ期の資料と考える。

①-c 細池寺道上遺跡第41次調査〔本書〕では1区包含層より口径28cmに復元できる「佐渡型」の球胴甕が出土している。周辺出土の土器から春日編年Ⅴ～Ⅶ期の資料と考える。

②川口甲遺跡A区〔川上1992〕から「佐渡型」球胴甕が包含層中から出土（②-1）している^{注5)}。にぶい黄橙色の胎土で、口縁部端部に面を持ち、内面に横刷毛、外面には指頭圧痕、体部外面に縦刷毛が残る。口径30cm

である。周辺出土の土器から春日編年V～VI 2・3期の時期幅と考える。

③牛道遺跡〔土橋 1999〕から「佐渡型」の球胴甕1点と小甕の口縁部破片が各1点出土している。SE234出土の口径19.6cmの球胴甕(③-1)とSX262出土(③-2)の口径16cmの小甕である。刷毛目調整が行われている。伴出する遺物からVI 2・3期の資料である。

④釈迦堂遺跡〔江口ほか 2000〕では「佐渡型」球胴甕が実測点数9点掲載されている。釈迦堂遺跡は古代の重層遺跡である。出土層位はIX層が2個体、X層が7個体である。それぞれ口縁部の内面に特徴的な刷毛目(横ハケ)が観察される。IX層の2個体はSX126出土で、(④-1)は口径22.8cm、(④-2)は口径26.6cmである。X層では(④-3)がSX36出土で口径22.0cm、(④-4)がSK132出土で口径23.8cmで若干長胴気味である。(④-5)がSD166出土で口径20.7cm×高さ19.4cm、(④-6)がSX181出土で口径21.0cm、(④-7～9)がX層包含層出土で7・8が口径23.4cm、9が口径25.0cmである。時期的な位置づけはIX層が春日編年VI 1期、X層がV 2期であると示されており〔春日 2003〕、それぞれ対応すると考えられる。

⑤林付遺跡〔相田ほか 2012〕から「佐渡型」の球胴甕が2個体出土した。遺跡は上層と下層に分かれるが、(⑤-1)は上層SK220から出土した体部資料で、伴出土器から春日編年VI 1期に比定されている。(⑤-2)は上層包含層出土資料で口縁部内面に横刷毛が残る。口径25.8cmである。上層出土であることから春日編年VI期と考えられる。

⑥四十石遺跡〔渡邊・奈良ほか 2012〕から「佐渡型」の球胴甕が2個体出土している。2点ともにV層包含層出土資料で砂粒を多く含む。(⑥-1)は口径23.1cm、(⑥-2)は口径25.1cmである。春日編年V～VI期と考えられる。

⑦小丸山遺跡〔小池・本間 1995〕から「佐渡型」甕の口縁部資料が2点出土している。(⑦-1)はSD4出土の口縁部片である。(⑦-2)は包含層出土の口縁部片である。SD4は掘立柱建物の雨落溝で豊富な一括資料が出土し、この地域の春日編年VI 2・3期の基準資料である。その中に出土が確認されたことは定点となる。

⑧山木戸遺跡〔諫山 2004〕の包含層から「佐渡型」の球胴甕が1点出土している。口径29.2cmである。口縁部外面には輪積痕が残り、内面には横刷毛が残る。春日編年V～VI期の資料と考えられる。

⑨的場遺跡〔小池・藤塚 1993〕からは「佐渡型」の球胴甕が定量出土し、8個体掲載されている。(⑨-1)はSX13出土で口径26cmである。(⑨-2)はSX8出土の口縁部資料である。土師器カマド形土器が伴出している。(⑨-3～8)は包含層出土である。(⑨-3)は口径18.9cm、(⑨-4)は口径19.6cm、(⑨-5)は口径21.0cm、(⑨-6)は口径24.0cm、(⑨-7)は口径23.8cm、(⑨-8)は口径25.0cmである。時期的には春日編年V～VI期の資料と考えられる。

⑩緒立A遺跡〔渡邊 1993〕からは「佐渡型」の小甕が包含層から出土している。口径17.2cmである。底部は丸底になる。時期的には伴出する土器から春日編年V期の資料と考えられる。

⑪緒立C遺跡〔渡邊 1994〕から「佐渡型」の球胴甕と小甕が出土し、6個体掲載されている。報告書では佐渡型を長甕C類に分類されている。(⑪-1)はSX440出土で口径22.6cmに復元される球胴甕である。(⑪-2)はSX601出土で口径21.8cmである。(⑪-5)はSK59出土の口径26.2cmの球胴甕である。(⑪-3)は包含層出土の口径17.4cmの小甕である。(⑪-4)は包含層出土の口径23.4cmの球胴甕である。(⑪-6)は包含層出土の口径26.4cmの球胴甕である。時期的にはSX440出土資料は春日編年V 2期で他の資料も概ねV～VI期の資料と考えられる。

⑫駒首渦遺跡〔渡邊ほか 2009〕から「佐渡型」の球胴甕と小甕が出土し6個体掲載されている。(⑫-1)はSK981出土の球胴甕で口径は22.0cmである。底部を欠くが丸底である。(⑫-2)はSK2289、(⑫-3・4)はSD82、(⑫-5)はSD421、(⑫-7)は確認調査出土の球胴甕口縁部である。(⑫-6)は小甕で口径16.0cmである。時期的には報告書の各遺構の遺物時期の記載に従い(⑫-1)は春日編年VI 1期、(⑫-2)は春日編年VI 2・3期、(⑫-3・4)は春日編年VI 2・3期、(⑫-5)は春日編年V 2～VI 1期とされている。その他包含層出土資料は概ね、V期の後半からVI期にかけてと考えられる。

⑬大藪遺跡〔新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994〕からは「佐渡型」球胴甕と小甕が出土している。(⑬-1)は3D-SX1から出土した口径16.9cmの小甕である。(⑬-2・3)は包含層出土の球胴甕口縁部と考えられる。大藪遺跡は春日編年V～VII期にわたって存続しており〔春日2014〕、その幅の中と考えられる。

⑭前田遺跡〔藤塚・小池1989〕からは、球胴甕が包含層から出土している。(⑭-1)は口縁部破片である。口端部に面を形成している。粗い砂粒が多く入る。伴出土器から春日編年V～VII期〔春日2014〕の幅で考えられる。

⑮山三賀Ⅱ遺跡〔坂井ほか1989a〕からは「佐渡型」の球胴甕(⑮-1)がSI1167から出土している。口径28.0cmで口端部に面取り、口縁部外面に指頭圧痕、内面横刷毛である。出土したSI1167は春日編年V2期〔春日2005〕の基準資料である。

⑯鬼倉遺跡〔伊藤2001〕から「佐渡型」球胴甕(⑯-1)が1個体、旧河道①から出土している。口径18.0cmで丸底になる器形である。薄手で砂粒が多い。口縁部端部は3mm程度の面取り、口縁部内外面には二条の接合痕が観察され、口縁部内・外面には接合痕を押さえた指頭圧痕が残る^{注6)}。旧河道①で伴出する須恵器無台杯の様相から、下口沢段階〔坂井・鶴間・春日1991〕と想定され、春日編年V期と考えられる。

⑰門新遺跡外割田地区〔田中1996〕から「佐渡型」球胴甕1個体、小甕1個体がそれぞれSD07から出土している。(⑰-1)は口径23.2cmの球胴甕である。(⑰-2)は口径16.2cm、器高12.4cmの完形復元された小甕である。口縁部内面は横刷毛、体部外面縦刷毛である。底部内面は指頭により指押されている。SD07は「佐渡型」の甕と伴出する土器から春日編年VII1・2期と考えられる。

⑱番場遺跡〔坂井ほか1987〕の包含層から口径22.0cmの「佐渡型」球胴甕が1個体(⑱-1)出土している。春日編年VI2・3期〔春日ほか2001〕と考えられている。

⑲谷地A遺跡〔菅沼ほか2000〕から口径28.0cmの「佐渡型」球胴甕が1個体(⑲-1)出土している。端部には面を持ち、口縁部内面には横刷毛、体部外面には縦刷毛が施されている。この遺跡では「武蔵型甕」〔春日2007、伊藤2012〕や「北信型」など多様な甕が出土している。時期的には報告書のとおり伴出遺物から春日編年VI2期である。

次に佐渡での出土状況を概観する。佐渡では、前述の坂井秀弥氏の指摘以降に古代以降の調査例は少なく佐渡型甕の報告は少ないようである^{注7)}。他時代の土器として報告されているものもあり、実態が不明瞭なものが多い。

⑳四日町上遺跡〔坂井1988a〕の2個体の佐渡型球胴甕が紹介されている。(㉑-1)は口径29.4cm、器高26.4cmである。(㉑-2)は口径27.6cm、器高21.4cmである。前述のとおり春日編年VII期の資料である。

㉑奥之城遺跡〔川村・鹿取ほか2010〕に甕類が5個体図化されている。そのうち3個体を掲載する^{注8)}。(㉑-1)口径15.4cmの佐渡型の小甕である。器壁が薄い。(㉑-2)は口径19.0cmの佐渡型の球胴甕である。(㉑-3)は口径34cmあり、実測図からの判断では「鍋」の可能性がある。時期的には伴出する須恵器杯が口径14cmで深身のものから口径12cmで浅く薄身のものがあり、土師器有台椀に底部が小さく高台が比較的高いものがあることから春日編年V～VII期までの幅の遺物が出土していると考えられる。

㉒若宮遺跡〔本間ほか1969〕から古式土師器甕形土器第5類と分類されている中に平安時代の佐渡型甕の特徴と合致するものがある。(㉒-1)は口径16.0cmの小甕である。成形の特徴や胎土に砂を多く含む特徴などから判断した。同遺跡から平安時代の須恵器も出土しており、実測図から春日編年VI～VII期が主体のようである。

㉓馬場遺跡〔本間ほか1983〕から佐渡型球胴甕が報告されている。(㉓-1)の報告書記載では「口縁部内側は横位の、外側は縦位の刷毛目成形の紋様が残るが口縁部外側は指で撫でて刷毛目を潰したあとがある。胴部外側は縦位の細かい刷毛目整形であり、内側無紋である。」「底部は薄手丸底であり、器壁の薄さは2mmと薄い。」と坂井氏が整理した佐渡型甕の基本的な要素を指摘している。さらに用途にも触れ、甕の外面に煤の付着が強く、煮炊き具であることが指摘されている。また「佐渡島内では奈良平安時代の遺跡から出土する普通の甕のタイプの系統である。」として時期的な位置づけを的確に行っている。しかし、V～VII期の多様な時期の須恵器が伴出して

おり、位置づけは不明である。

⑭泉畑田遺跡〔本間ほか1984〕の報告書中、甕形土器A類が佐渡型甕に相当すると考えられる。口縁内面は横位の刷毛目注⁹⁾で外面はナデ(無紋)などの記載から判断した。6点掲載されており(⑭-1)が口径18.2cm、(⑭-2・3)が口径20.2cm、(⑭-4・5)が口径21.5cm、(⑭-6)が口径24.0cmである。時期の位置付けは不明である。

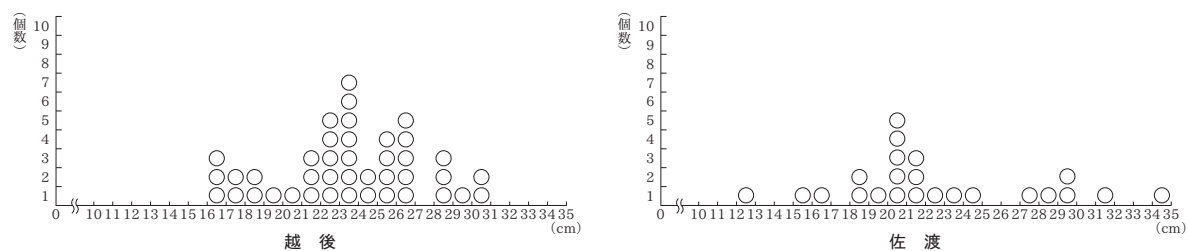
⑮浜田遺跡〔関・本間ほか1975〕からは掲載されたうち7点が佐渡型甕に比定されている〔坂井1988〕。小甕が1点と球胴甕が6点ある。(⑮-1)は小甕で口径12.5cmである。以下、球胴甕で(⑮-2)は口径22.0cm、(⑮-3)は口径22.5cm、(⑮-4)は口径21.5cm、(⑮-5)は口径23.5cm、(⑮-6)は口径28.0cm、(⑮-7)は口径31.0cmである。同遺跡から出土している須恵器無台杯の様相から春日編年Ⅴ～Ⅶ期の資料と考えられる。

⑯下国府遺跡〔戸根・堅木ほか2011〕の報告書中には5点の佐渡型甕が掲載されている。護岸状遺構のSA005からは2点出土し(⑯-1)は口径18.0cm、(⑯-2)は口径20.5cmである。包含層出土の(⑯-3)は口径20.0cm、(⑯-4・5)は口径不明である。SA005の出土遺物から概ね、春日編年Ⅵ2・3～Ⅶ1期と考えられる。

⑰栗の木沢窯跡〔川村・鹿取ほか2010〕の報告書中に1点窯跡周辺地(28T)から佐渡型の球胴甕が出土している。(⑰-1)は口径27.4cmである。同トレンチから出土した遺物から春日編年Ⅵ2・3期に相当すると考えられる。

佐渡型甕を、越後と佐渡に分けて概観した。越後側での分布は、新潟市域を中心に信濃川・阿賀野川の流域の遺跡に多い印象を受け、特に平安期の蒲原郡の遺跡に多く、沼垂郡、古志郡の遺跡もある。蒲原郡に多いのは佐渡の越後側玄関口となる「蒲原津」を中心に移入されていたと考える。古志郡では海岸端に分布が見られ、荷揚げ港が近隣にあったことを示すことが想定される。佐渡では国府の置かれた国仲平野を中心に小泊窯跡群の一部からも確認された。

次に完全に復元された資料は少ないが法量に差があるため、越後と佐渡に分けて口径比較図(第68図)を作成した。小甕は12cm代の資料が1点あるが16・17cm代の2法量の資料が認められた。球胴甕はバリエーションが豊富で、越後側では19～26cm代と28～31cm代に分かれる。佐渡では18～24cm代と27～30cm代に分かれる。おそらく大・小の法量の違うものが生産されている。完全に復元されたものは、細池寺道上遺跡(①a-1)、釈迦堂遺跡(④-5)、門新遺跡(⑰-2)、四日町上遺跡(⑳-1・2)などで出土している。器高に対して口径が幅広のタイプと胴長のタイプの2種類があるが、同時期の越後のロクロ長甕に比べて寸詰まりの傾向がある。奥之城遺跡(㉑-3)で口径34.0cmの資料が出土している。傾きなどから「鍋」の可能性が高く非ロクロの「鍋」が同時期に存在する可能性が高い。



第68図 佐渡型甕の口径比較

時期的には春日編年Ⅴ～Ⅵ期に限定して出現することが確認でき、平安期に限定されたとした坂井氏の見解〔坂井1988a〕や春日氏の位置づけ〔春日2001・2007〕が確認出来た。

越後側では春日編年Ⅴ2期の釈迦堂遺跡X層や山三賀Ⅱ遺跡SI1167、緒立C遺跡SX440から出土しており、越後側への小泊産須恵器の大量流入時期と対応している〔春日1991、坂井1996〕。Ⅵ期は釈迦堂遺跡Ⅹ層(春日編年Ⅵ1期)や小丸山遺跡SD4(春日編年Ⅵ2・3期)など基準になる一括資料群中から出土しており、他遺跡の時期不明の資料も含めて大部分の「佐渡型」はこの時期に流入したと考えられる。春日編年Ⅶ期の資料では明確に確認はできなかったが、佐渡側では製作が続いており流入した可能性が高い。佐渡においては時期的な位置づけはⅦ期の四日町上遺跡、Ⅵ～Ⅶ期の下国府遺跡の例など少数に留まり、検討を要するが、越後側の流入形態か

ら春日編年Ⅴ～Ⅶ期にかけて存続するものと考えられる。

佐渡型甕の流入の経緯については、佐渡小泊産須恵器の越後側の流入と機を同じくしていると考えられる。佐渡ではこの時期、小泊窯の経営時期に一致する製塩遺跡が極めて多く〔坂井・高橋 1994、尾崎 2009〕、越後に塩が供給されたと類推されるとした見解〔坂井 1996〕があり、佐渡型甕の一部は「塩壺」として持ち込まれた可能性も想定できる。越後側の遺跡では、1遺跡での出土量は僅かであるが、官衙関連遺跡とされる的場遺跡、緒立C遺跡、大規模集落の釈迦堂遺跡、駒首潟遺跡などに定量見られる。的場遺跡は物流の拠点としての機能の他に鮭の加工場としての機能が想定されており、「塩引き鮭」などの製造に使用される塩を入れた塩壺として佐渡から小泊産の須恵器と共に移入された可能性も考えられる。また、十日町市谷地A遺跡などの例も信濃川を舟運などで漕ぎ、もたらされたことも想定される。ただし、塩容器と考えるには理化学分析などを必要とし、現状では可能性の一部である。さらに、多くの越後の「佐渡型」甕にはスス・コゲなども付着しており煮炊きに用いられたものも多いことから、佐渡からの物資の交換時、移住・婚姻など人的交流などの際に持ち込まれ、煮炊具に利用されたものも少なからず存在すると考える。越後側の「佐渡型」甕の一部は、前述したとおり越後で模倣して製作されたものも存在する可能性があり長胴化した甕などはロクロ甕との折衷的要素と考えられないか。

今回、細池寺道上遺跡出土の「佐渡型」甕の集成を行ったが、いくつか課題がある。坂井秀弥氏の検討した資料を基に佐渡型甕を集成したが、佐渡での様相が現状では十分に掴むことが出来なかった。越後側に定量の「佐渡型甕」が出土していることから、逆に佐渡に越後側で製作されたロクロ土師器（北陸型）が搬入されている可能性もある。さらに「佐渡型甕」の球胴甕・小甕以外の器種も「鍋」などが製作されている可能性もあり、さらなる様相把握の必要がある。また、土器胎土観察が不十分で、越後側の資料を明確に佐渡で製作されたものかを検討出来なかった。越後側では、春日編年Ⅴ期以降に佐渡小泊産須恵器の大量流入期を迎え、越後の広域に須恵器は広がることから相当量流入している可能性もあり、今後類例の増加が見込まれる。また、特徴的な器形であることから越後での武蔵型甕〔伊藤 2012〕のように器形変化による時期差を迫る可能性もあり今後の課題である。

C 中・近世の陶磁器について

中世の陶磁器は、越前焼・珠洲焼・瓷器系陶器が出土している。遺構出土の点数比率は破片数で珠洲焼が全体の87%とほとんどを占める。出土遺物を種別ごとに見ると、越前焼は第38次(12)調査で1点、瓷器系陶器は第41次(13)調査1区で1点出土した。ともに中世の遺構内から出土したので中世のものとしたが、破片が小さいため詳細な時期は不明である。珠洲焼は全ての調査年度において出土している。第32次(11)調査区で出土した片口鉢(2)は、一単位の卸目が少ないことなどからⅣ期でもより古いものと考えられるが、その他のほとんどは吉岡編年Ⅳ1～Ⅳ2期の13世紀末葉～14世紀中葉と考えられる。器種別では、甕の破片数が全体の約86%を占める。このうち、第41次(13)調査1区のSD152で出土した珠洲焼の甕(343)は、小さな底部が播鉢状に開き、体部との接合部で軽く屈折し、胴径が口径をわずかに上回る程度の緩やかな膨らみをもつ体部に1.5cm前後の短い口縁が付くというⅣ2期の特徴をよく表す資料である。また、同じく第41次(13)調査1区のSD152で出土した片口鉢(345)も、口縁形態や、全体に直線的に立ち上がり、器高が低めで底径が大きめの安定した器形ということから、こちらもⅣ2期の特徴をよく表す資料である。SD152から出土した珠洲焼は出土状況から溝内に一括投棄された状態で出土しており、珠洲焼の時期がほぼⅣ期に限定されていることから良好な一括資料といえる。

今回の調査では、有力者の存在を窺わせる高級陶磁器や、鉄鍛冶などの職人の存在を示唆できる遺物が出土していないことから、一般的な集落であると考えられる。出土している中世の陶磁器が珠洲焼の調理具や貯蔵具のみで、他の陶磁器類の食膳具が無いなど出土品にかなりの偏りがあり、珠洲焼の時期がⅣ期のみと限定的なものであることから、この集落が機能していた時期は13世紀末葉～14世紀中葉の短期間であったと推定される。

近世陶磁器は全ての調査年度において、青磁・白磁と唐津焼が合計5点出土している。出土したものの全ての

時期は18世紀代のものと考えられる。第41次(13)調査1区で出土した白磁碗(389)は、水田遺構(SN858)の覆土の1層から出土している。中世の遺構内から出土したが、口縁形態と文様から近世の遺物とした。近世以降にこの場所で何らかの土地利用がなされていたと考えられる。

D 鉄製品について

鉄製品については第38次調査1区で1点、第41次調査では6点を図化(図版140)し、遺物写真はエックス線写真を合わせて掲載した(写真図版139)。第38次調査1区では、刃部の先端と茎部が欠損する刀子(1)が1点出土したが、時期は不明である。第41次調査1区(第69図)では中世の溝であるSD462から2点(2・3)、同SD152から2点(4・5)出土した。2・3は用途不明、4は刀子、5は釘であり、いずれも中世のものと考えられる。

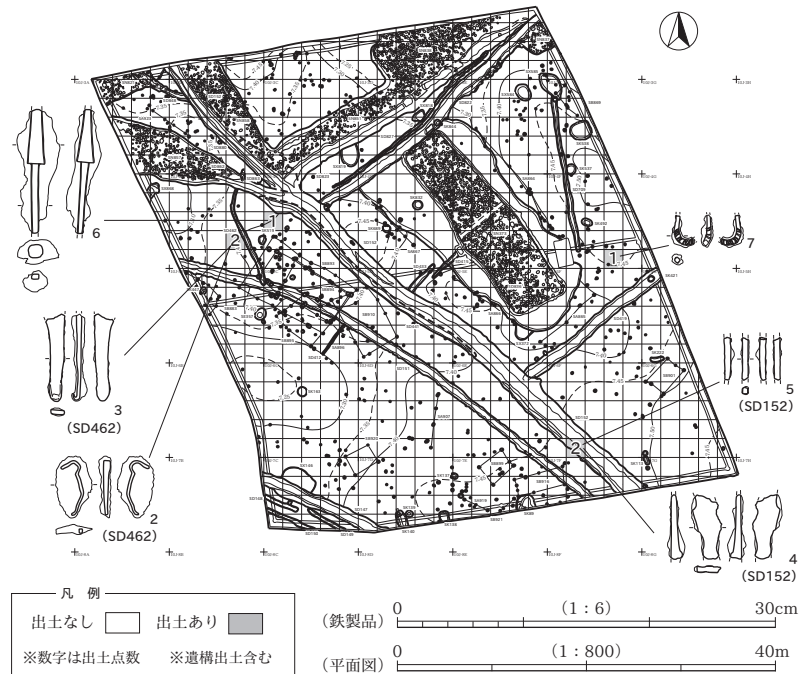
鎌(6)は中世の掘立柱建物であるSB893の北側、SD152を切る中世の溝であるSD441の南

側の包含層(IV層)から出土した。先端部の上部が欠落している。先端部の基部は円錐形状で断面形が楕円形を呈し、茎部は角棒状で断面形が長方形を呈する。丸根鎌で、先端部の上部は断面形が薄い長形状の鑿状となると思われる。県内での類例は、阿賀野市堀越館跡(14世紀後半から15世紀前半)[小田ほか2001]SX34から1点(ただし、報告では鑿もしくは鉄鎌とされている)、新潟市南区小坂居付遺跡(13世紀末~14世紀)[佐藤ほか2012]2009年度調査SD330から完形品が2点、糸魚川市岩倉遺跡(室町時代)[山本ほか2003]SX030からほぼ完形品が1点出土している。また、新潟市秋葉区大沢谷内遺跡第7・9・11・12・14次調査[細野・伊比ほか2012]では、上層遺構外遺物として1点出土している。鎌は中世前期の鎌倉では、街なかや浜地で多く出土しており、「戦闘用というより、儀礼・狩猟用に広く存在していた」[河野2000]という。本遺跡出土例は形態や出土地から中世のものと考えられる。ただし、包含層からの出土が1点に留まったため、使用の実態を把握することはできない。

不明鉄製品(7)は中世の水田跡であるSN373の南東側の包含層(IV層)から出土した。鉤状を呈する芯に、金属の可能性が高い細い糸が巻かれている。用途不明であり、今回は類例を見つけることができなかった。出土地点周囲の包含層では古代の土器が比較的多く出土している(図版64)が、鉄製品の出土が少ない上、古代のものとは認められないことから、中世のものとし、今後も類例を探し、用途を特定したい。

E 石製品について

今回の調査では、第32次調査で2点、第38次調査で13点、第41次調査で33点の石製品が出土している。石製品の多くは、花崗岩・凝灰岩類の磨石・敲石類および軽石製の石製品である。滑石製のバステル形石製品、石鉢を除く大部分は阿賀野川水系の在地石材と考えられる。一概の比較は難しいが、第26次調査[立木・相澤(高野)2014]では131点の出土点数があった。今回の調査地と比較して集落の規模もあるが阿賀野川(石材採取候補地)



第69図 細池寺道上遺跡第41次調査鉄製品出土点数・分布図

との距離の問題も大きいと考える。特に今回の調査区と現河川とは1km程の距離があるが、第26次調査地では0.5km程しか離れておらず、中世の段階で両集落の生業の違いを表している可能性もあり、今後の課題である。

第3節 細池寺道上遺跡・西江浦遺跡の位置付け

A 細池寺道上遺跡の様相

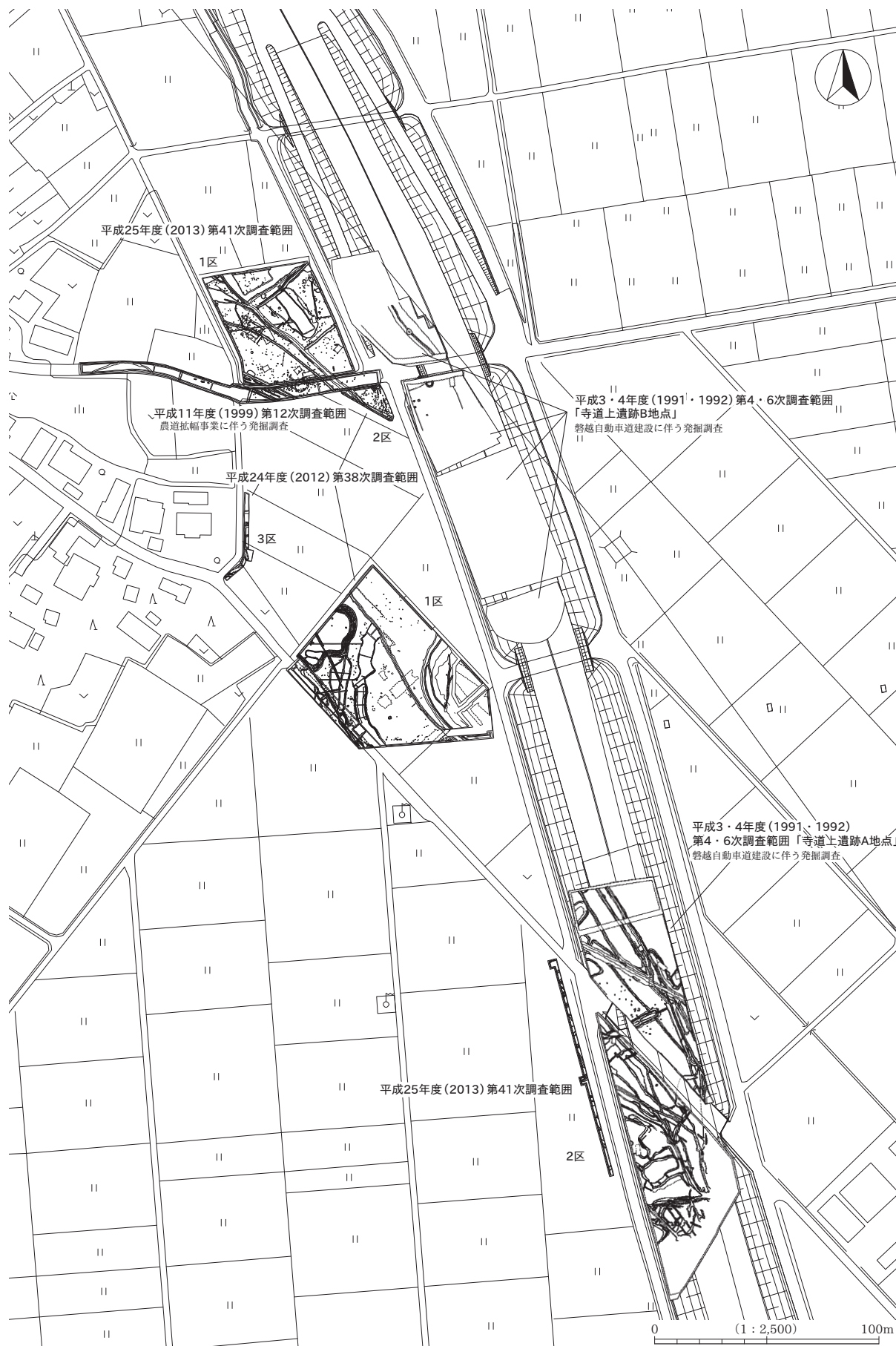
今回の細池寺道上遺跡の様相を南から北に地区ごとに概観する。

第32次調査1・2区および第41次調査3区(第71図)については、古代の遺構が比較的多く確認された第10次調査西地区〔立木・渡邊ほか1998〕および第20次調査3区〔北村・菊池ほか2004〕、第3・5次調査「細池遺跡」〔小池ほか1994〕に近接することから、遺構・遺物の出土が期待された。しかし、少量の古代・中世の遺物を除き、近世以降を中心とする「堀田」に係る遺構および時期不明の旧河道のみが検出され、明確な古代・中世の遺構は第41次調査3区SX2、SX6(9世紀前半)以外検出されなかった。周辺の地形は南西から北東にゆるやかに傾斜しており、遺構の検出された地点は比較的標高の高い場所であったと考えられる。但し、全般的に場の機能としては低湿な場所で、居住地としては不適当な場所と考えられる。また、生産の場所としての機能が考えられるが、大部分は近世以降の開発で遺構が不明瞭となった可能性もある。

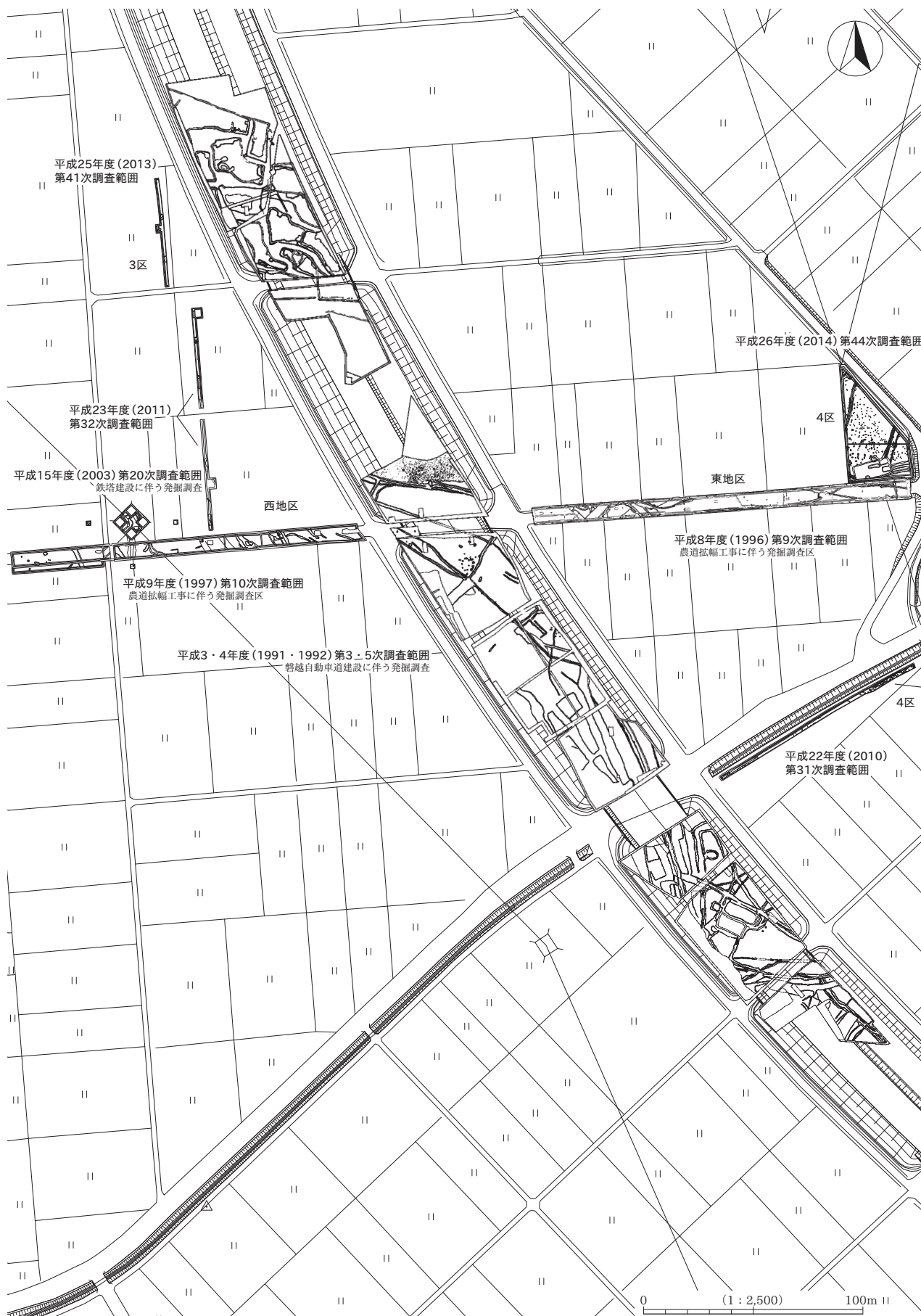
第41次調査2区(第70図)は、中世の水田(SN)と溝(SD)群が出土している第4・6次調査「寺道上遺跡A地点」〔小池ほか1994〕に隣接する地点である。遺構中からは古代の遺物が少量出土し、中世遺物が皆無であるが、隣接地点の様相と覆土の観察から中世の遺構として判断した。場の機能としては「掘込田」とそれを繋ぐ溝を中心とした生産の場所と考えられる。狭小な調査区のため「掘込田」の全形は不明である。

第38次調査1・3区(第70図)は、中世の水田「凹地遺構A類」(SN)と溝(SD)群が複雑に重複して検出された第4・6次調査「寺道上遺跡A地点」が南東に近接する地点である。1区では平面形が不定形、楕円形で、壁際に溝、内部に凹凸面をもつ中世の水田、「掘込田」が検出され、導排水を目的とする溝と繋がる。また、1区と3区で中世の水田、溝群の周辺と旧河道のテラス部分で畑が検出された。前者を中世、後者を古代の畑とした。これらは畝間にできた粘質土を丹念に探して検出された。この遺構については、今後の類例の増加を待ちたい。自然科学分析(第VI章第1節)では、水田でのイネのプラント・オパール密度が比較的低かったが、これは稲作が行なわれた期間が短かったためなどとされた。中世の畑ではアワやヒエ、キビといった栽培種が含まれるキビ属の産出が見られた。一方、古代の畑ではイネのプラント・オパール密度が高く、畑に混ぜられた稲藁や水田から畑への転用、二毛作の可能性などが指摘された。旧河道では8世紀後半から10世紀初頭の土器とともに、祭祀具である斎串と祭祀具の可能性の高い箸、箸状木製品、上下端や片端を尖らせるなどした棒状木製品、底部外面に「田」と刻書された無台盤などの多種類の木製品、そして墨書土器、漆書土器が岸辺に横たわるカツラの巨木の近くから出土した。これらから巨木を中心に水辺(河辺)の祭祀が行われたと考えられ、珍しい祭祀事例となりそうである。古代は旧河道を中心に多様な土器が出土した。須恵器は、8世紀後葉から9世紀初頭では新津丘陵産を中心に阿賀北産や信濃川左岸産が少量認められ、9世紀前葉から同中葉では新津丘陵産に佐渡小泊産が定量加わり、阿賀北産や信濃川左岸産は引き続き少量認められ、9世紀後半から10世紀初頭前後では佐渡小泊産のみとなる推移が明らかとなった。個別では頸城郡に類例の多い須恵器環状把手付壺が出土した。場の機能としては、古代では旧河道の周辺にあったと思われる集落に住む人々による河辺の祭祀が行われた場所、中世では「掘込田」とそれを繋ぐ溝を中心とした生産の場所と考えられる。

第38次調査2区、第41次調査1区(第70図)は、両区の間で第12次調査「寺道上遺跡」〔渡邊ほか2001〕が隣接し、主に中世の遺構・遺物が検出された第4・6次調査「寺道上遺跡B地点」〔小池ほか1994〕が東に隣接する地点である。第41次調査1区では平面形が長方形や楕円形で、内部に凹凸面をもつ中世の水田、「掘込田」が検出され、第38次調査2区、第12次調査「寺道上遺跡」、第41次調査1区を貫く溝、「幹線水路」から分



第70図 細池寺道上遺跡の調査区(1)



第71図 細池寺道上遺跡の調査区(2)

かれた溝から各水田に導排水された。水田と溝の切り合い関係から4段階の変遷案を示したが、大きな年代差はないと思われる。自然科学分析(第VI章第2節)では、水田の一つではイネのプラント・オパール(Plants and Opals)の密度が比較的高く、稲作が行なわれていた可能性が高い。密度が低かった水田でも同様な形態であり、稲作が行なわれたと考えられる。第41次調査1区で検出された井戸の底面からはコムギ・アワが多量に同定され、周囲の畑で栽培された可能性が高い。第41次調査1区の北側では井戸を伴う掘立柱建物の周囲に水田が認められる。調査区北側の掘立柱建物群は古代の溝を切って構築されており、この建物群に伴う井戸からは珠洲焼が主体的に出土し、放射性炭素年代測定においても13世紀後半から14世紀代の年代が得られている。一方、水田は古代の土器を多く含む包含層を切って構築されており、水田やそれらの導排水路の溝からは珠洲焼が出土し、水田の一つで行われた放射性炭素年代測定においても14世紀代の年代が得られている。そして、井戸(SE357)から出土した壺T種(図版127-276)は「幹線水路」の溝(SD152)から出土した破片と接合関係にある。井戸を伴う掘立柱建物と水田は同時に存在したことは間違いない。第41次調査1区では掘立柱建物群に近い「幹線水路」のSD152の上～中層から珠洲焼の大形の甕2個体、片口鉢1個体の破片がまとまって出土した。特に片口鉢は完形に近く、大形の甕は図上ではあるが完形近くまで復元できた。これらは吉岡康暢氏の編年研究〔吉岡1994〕でのIV期に位置付けられ、出土状況から一括性が高いと考えられる。一括資料の類例が少ない新潟県内では、今回の事例はその良例となりそうである。場の機能としては、古代では第41次調査1区と第12次調査「寺道上遺跡」において、居住域と耕地が近接する住耕一体型の比較的小規模な集落が営まれ、中世では生産の場である水田のすぐ近くに井戸を伴う掘立柱建物からなる居住の場が構築される、中世型とも言えそうな住耕一体型の集落が営まれたようである。

以上、各区の様相を明らかにしたが、今回の調査を総括すると古代から中世に断続的に集落が営まれたことが明らかになった。特に古代では祭祀が行われた旧河道が検出されたことは、周辺にある程度の規模の集落が営まれていた可能性を示唆する。また、中世では住耕一体型の散村形態の集落が確認された意義は大きい。現在、ほ場整備に伴う調査は継続しており、他年度調査区を含めた有機的な様相が明らかになることを期待したい。

B 西江浦遺跡の様相

細池寺道上遺跡に隣接する西江浦遺跡では、遺跡範囲の東側の調査を行い、近世以降と考えられる溝(SD)と性格不明遺構(SX)が検出された。包含層から少量の古代土器が出土したが、古代・中世と考えられる遺構は認められなかった。西江浦遺跡では本発掘調査は今回が初めてである。包含層出土とはいえ古代土器が出土したことから、平安時代の遺跡中心地が周辺に存在することが示唆される。

注

- 注1) 佐渡型甕2点と共に土師器有台杯、須恵器有台杯各1点が掲載されている。高台が高く10世紀初頭の「高野段階」〔坂井・鶴間・春日1991〕と考えられる。
- 注2) 春日真実氏の用法の「小釜」〔春日2007〕を本書では土器分類(第IV章第4節参照)に使用した「小甕」と言い換える。小甕と球胴甕は便宜的に口径18cmを境にそれ以下を小甕、以上を球胴甕とした。
- 注3) 小甕では、口縁部外面に指頭圧痕が残る場合も想定される。
- 注4) 胎土に砂粒(長石・石英などの粒子)が多い特徴は坂井氏が最初に見出した「佐渡甕」の特徴である。調整は佐渡甕の特徴に合致するが砂粒が少ないものも散見される。越後側で製作されたものも含まれている可能性が考えられ、佐渡産の甕のみを「佐渡型甕」とはしない。そのため、越後側の資料には「佐渡型」と「」付けした。また、報告書の記載で判断したものもあり、誤りがあれば筆者の責任である。
- 注5) 報告書〔川上1992〕では弥生土器と記載されているが、細池寺道上遺跡第10次調査(1997年)時に「佐渡型甕」が出土した際に筆者が土器を確認した所、「佐渡型甕」類似資料と認識した。出土状況については当時、川上真雄氏にご教示頂いた。報告書掲載図(298・299)を一部改変し、第66図に掲載した。
- 注6) 加茂市教育委員会伊藤秀和氏のご厚意により直接観察させて頂いた。
- 注7) 佐渡の平安時代遺跡からは普遍的に出土していると思われるが、報告書での記載は少なく、見落としている遺跡が多数あると考えられる。
- 注8) 実測図のみで判断を行っており他時代の遺物の可能性もある。
- 注9) 報告書記載のかき目は刷毛目と判断した。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣・前山精明 2003 『菖蒲塚古墳・隼人塚古ー 2002 年度確認調査の概要ー』 巻町教育委員会
相田泰臣・前山精明 2005 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳Ⅱー 2003 年度確認調査の概要ー』 巻町教育委員会
相田泰臣ほか 2012 『林付遺跡 第 2 次調査ー新潟市立新潟東南小学校体育館建設に伴う林付遺跡第 2 次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
相田泰臣・渡邊朋和ほか 2014 『史跡 古津八幡山遺跡発掘調査報告書ー第 15・16・17・18・19 次調査ー』 新潟市教育委員会
相羽重徳・渡邊大士ほか 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 226 集 北陸新幹線関係発掘調査報告書XX 竹花遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
赤羽正春・高橋知之 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 62 集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
朝岡政康・諫山えりか 2003 『東田遺跡 卸売市場建設に伴う市道東 8-273 建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
朝岡政康 2008 『結七島遺跡Ⅳ 第 13・15・17 次調査 第 13・15・17 次調査ー荻川駅東土地区画整理事業に伴う結七島遺跡第 7～9 次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
朝岡政康ほか 2009 『手代山北遺跡 第 2・3 次調査 ー市道亀田南線建設事業に伴う手代山北遺跡第 2・3 次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
朝岡政康 2010a 『三王山遺跡Ⅱ 第 4・7 次調査 ー新潟市立亀田中学校校舎・体育館改築工事に伴う三王山遺跡第 2・4 次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
朝岡政康 2010b 『細池寺道上遺跡』『平成 21 年度 新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市埋蔵文化財センター
浅野晴樹 2001 『生活の諸相 6 武器と武具』『図解・日本の中世遺跡』 財団法人東京大学出版会
甘粕 健・小野 昭ほか 1993 『越後山谷古墳』 巻町教育委員会・新潟大学考古学研究会
甘粕 健・川村浩司ほか 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ 1991 年測量調査報告書』 新潟市教育委員会
甘粕 健・古川知明ほか 1981 『大沢遺跡 B'・B 地区の調査概報』 巻町・潟東村教育委員会
荒川隆史・加藤 学ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 93 集 和泉 A 遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
荒川隆史ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 153 集 一般国道 49 号安田バイパス関係発掘調査報告書 大坪遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
荒谷伸郎ほか 2010 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 215 集 一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 山口遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
イ 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡 (小丸山遺跡緊急発掘調査報告書)』 横越村教育委員会
諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
諫山えりか 2007 『居屋敷跡遺跡 第 3 次調査ー県営地盤沈下対策事業新潟南部 5 期地区沢海揚水機場建設事業に伴う居屋敷跡遺跡第 3 次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
諫山えりか 2009 『中田遺跡 第 2 次調査ー市道荻川新津線道路改良事業に伴う中田遺跡第 2 次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
石川智紀ほか 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 58 集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ (A 地区)』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
石川日出志ほか 1992 『新潟県安田町文化財調査報告 12 六野瀬遺跡 1990 年調査報告書 立川ブラインド工業株式会社東日本工場増設に伴う新潟県北蒲原郡安田町六野瀬遺跡発掘調査報告書』 安田町教育委員会
石田守之・高橋明公子ほか 2009 『聖籠町文化財調査報告書 第 4 集 携帯電話基地建設に伴う発掘調査報告書 金港遺跡』 新潟県聖籠町教育委員会
石田守之・渡辺明公子ほか 2013 『聖籠町文化財調査報告書 第 5 集 弁天瀧風致公園周辺整備事業に伴う発掘調査報告書 蓮野Ⅰ遺跡 潟尻遺跡』 新潟県聖籠町教育委員会
伊東 崇 1998 『松山窯跡 新潟県北蒲原郡黒川村大字塩沢地内における古代窯跡の発掘調査報告書』 黒川村教育委員会

- 伊藤秀和 2001 『鬼倉遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2005 『馬越遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2012 「馬越遺跡出土の武蔵型甕について—一点の甕形土器の覚書—」『加茂郷土史』第34号 加茂郷土調査研究会
- 伊藤秀和 2015 「加茂市の古代消費遺跡出土須恵器のロクロ回転方向について—鬼倉遺跡出土須恵器の再検討を中心に—」『加茂郷土誌』第36号 加茂郷土調査研究会
- 今井さやかほか 2007 『日水遺跡 第3次調査—鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 今井さやか 2008 『下大口遺跡 第2次調査—宅地造成に伴う下大口遺跡第2次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- ウ 上野一久・春日真実 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第87集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 植田 真・遠竹陽一郎ほか 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新津市教育委員会
- 上原甲子郎 1971 『上ノ原遺跡緊急調査事業報告書』 巻町
- 宇佐美亮・川村 尚ほか 2005 『小泊窯跡群Ⅰ』 佐渡市教育委員会
- 潮田憲幸 2008 『諏訪畑遺跡 第3次調査—老人健康保険施設「秋葉の郷」建設にともなう発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 潮田憲幸 2014 『細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査—県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第11次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 内堀信雄 1988 「須恵器甕に見られる叩き目文について」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』 報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集 国立歴史民俗博物館
- エ 江口友子 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第102集 国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅳ 川根谷内墓所遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 江口友子ほか 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第100集 北陸自動車道黒崎パーキングエリア改良工事関係発掘調査報告書 釈迦堂遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 遠藤恭雄 2011 「細池寺道上遺跡」『平成22年度 新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市埋蔵文化財センター
- 遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2014 『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第18・19次調査—県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄・青木 誠 2015 『細池寺道上遺跡Ⅳ 第43次調査—市道大安寺第5号大関線改良工事に伴う発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- オ 大橋康二ほか 1988 『古伊万里』別冊太陽 No.63 株式会社平凡社
- 大矢雅彦・加藤泰彦 1984 『阿賀野川水害地形分類図』 建設省北陸地方建設局阿賀野川工事事務所
- 小熊博史 1994 「布目遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 尾崎高宏 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第107集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅱ 正尺A遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 尾崎高宏 2009 「新潟県における製塩関連遺跡」『平成21年度環日本海文化交流史調査研究会 日本海域の土器製塩—その系譜と伝播を探る—発表要旨・資料集』 財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 小田由美子ほか 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第99集 一般国道49号堀越歩道工事関係発掘調査報告書 堀越館跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小田由美子ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第149集 上信越自動車道関係発掘調査報告書ⅩⅥ 滝寺古窯跡群 大貫古窯跡群』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野 昭 1994a 「ケカチ堂遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 小野 昭 1994b 「新谷遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 小野 昭ほか 1982 『大沢遺跡Ⅱ—第3次調査概報—』 新潟大学考古学研究室
- 小野 昭・小熊博史 1987 「巻町布目遺跡の調査」『巻町史研究』Ⅲ 巻町
- 小野 昭・前山精明ほか 1988 『巻町豊原遺跡の調査』 巻町
- 小野 昭・前山精明 1994 「豊原遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町

- カ 柿田祐二 2001 「須恵器甕の叩き目から」『北陸古代土器研究』第9号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会』第8号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1994 「第VI章まとめ 2 古墳時代後期の土器」『新潟県文化財調査報告書 第60集 北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1995 「越後・佐渡における8世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第5号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第6号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
- 春日真実 2003a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第123集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅲ(C地区)』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2003b 「消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向 一越後出土の資料を中心に」『研究紀要』第4号 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について 一「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 春日真実 2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 春日真実 2010 「貞観五年の地震痕跡再考」『三面川の考古学』第8号 奥三面を考える会
- 春日真実 2014 「古代集落の動態一越後を事例として」『新潟考古学談話会発表要旨』新潟考古学談話会
- 春日真実 2015 「土器・陶磁器の機能別比率一越後の古墳時代～古代を中心に」『研究紀要』第8号 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第76集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第104集 国道116号埋蔵文化財発掘調査報告書 梯子谷窯跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会
- 春日真実ほか 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第202集 一般国道8号糸川東バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 六反田南遺跡・前波南遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実・笹澤正史 1999 「越後・佐渡の様相」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 加藤 学ほか 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第106集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅰ 松影A遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学ほか 2013 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第237集 一般国道49号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書Ⅵ 柄目木遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金内 元ほか 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第222集 一般国道49号線揚川改良関係発掘調査報告書Ⅳ 向大浦遺跡 上空野中丸遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 金子拓男 1987 「古代における信濃川・阿賀野川の河口と流路について」『研究集録』第15号 新潟県立新潟江南高等学校
- 金子拓男ほか 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会
- 亀田町史編さん委員会 1988 『亀田の歴史』通史編上巻 亀田町
- 鴨井幸彦・田中里志・安井 賢 2006 「新潟平野における砂丘列の形成年代と発達史」『第四紀研究』第45巻 第2号 日本第四紀学会
- 川上貞雄 1981 『山崎須恵窯跡』五泉市教育委員会
- 川上貞雄 1982 『中の山遺跡発掘調査報告書』亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1983 『五泉市文化財報告(3) 馬下稲場遺跡 発掘調査報告書』五泉市教育委員会
- 川上貞雄・遠藤孝司 1983 『平遺跡緊急発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1992 『川口甲遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1993 『横越村文化財調査報告2 山ノ家遺跡緊急発掘調査報告書』横越村教育委員会
- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡Ⅰ 遺構編』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996a 『荒木前遺跡第2次調査 新潟県中蒲原郡亀田町・荒木前遺跡発掘調査報告書』亀田町教育委員会

- 川上貞雄 1997 『上浦 A 遺跡 新津市工業団地第 2 期工事地内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編 第 1 巻 原始・古代・中世 新津市
- 川上貞雄・中山俊道 2002 『笹神村文化財調査報告 13 主要地方道新潟五泉間瀬線地方特定道路整備費（改築）工事折居川災害復旧助成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 腰廻遺跡』 笹神村教育委員会
- 河野真知郎 2000 「中世前期の戦争と考古学」『考古学による日本歴史 6 戦争』
- 川畑 誠 1996 「北陸地方の木製食器の概要」『第 39 回 埋蔵文化財研究集会 古代の木製食器 第 1 分冊 発表要旨』埋蔵文化財研究会第 39 回研究集会実行委員会
- 川村 尚・鹿取 涉ほか 2010 『佐渡市内遺跡発掘調査報告Ⅱ 平成 19・20 年度の調査 佐渡金銀山遺跡の調査 小泊窯跡群の調査』 佐渡市教育委員会
- キ 北野博司 1999 「須恵器貯蔵具の器種分類案」『北陸古代土器研究』第 8 号 北陸古代土器研究会
- 北村 淳・菊池康一郎ほか 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 木村宗文 1989 「資料解説 古代越後国と蒲原郡」『新津市史』資料編 第 1 巻 原始・古代・中世 新津市
- 木村宗文 1993 「初期荘園の成立」『新津市史』通史編 上巻 新津市史編さん委員会
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年—九州近世陶磁学会 10 周年記念—』
- ク 黒埼町 2000 『黒埼町史 通史編』
- コ 小池邦明・藤塚 明 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間桂吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池義人 1999 「第 4 章 古代 第 4 節 生産と流通 第 1 項 水田遺構」『新潟県の考古学』 高志書院
- 小池義人ほか 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 59 集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡 寺道上遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小池義人・野水 仁 2000 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 96 集 上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅶ 裏山遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林 存 1952 『新津市誌』 新津市
- 駒形敏朗・寺崎裕助 1981 『埋蔵文化財発掘調査報告書 岩野原遺跡』 長岡市教育委員会
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』 農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修
- サ 酒井和男 1980 『三王山遺跡』 亀田町教育委員会
- 酒井和男ほか 1987 『大江山地区の遺跡』 新潟市教育委員会
- 酒井和男 2000a 「小丸山遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男 2000b 「山ノ家遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男・廣野耕造 2002 「新潟砂丘における居住の初源」『新潟考古』第 13 号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1988a 「越後・佐渡における古代土器の生産と流通— 8～10 世紀を中心として—」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坂井秀弥 1988b 「古代のごはんは蒸した『飯』であった」『新潟考古学談話会会報』第 2 号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1989a 「第 VII 章 まとめ 2 奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 53 集 新新パイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1989b 「北陸型土師器長甕の製作技法」『新潟考古学談話会会報』第 3 号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1990a 「山三賀Ⅱ遺跡からみた阿賀北地方の古代土器」『新潟考古学談話会会報』第 4 号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1990b 「古代ロクロ土師器甕の二系譜と須恵器との関係」『新潟考古学談話会会報』第 6 号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1990c 「新潟県三島郡与板町の製鉄遺跡」『新潟考古』第 1 号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1994 「庁と館、集落と屋敷—東国古代遺跡における館の形成—」『城と館を掘る・読む—古代から中世へ—』 山川出版社
- 坂井秀弥 1996 「水辺の古代官衛遺跡 越後平野の内水面・舟運・漁業」『越と古代の北陸』 名著出版
- 坂井秀弥 1999 「第四章 古代 第 1 節 総論」『新潟県の考古学』 高志書院
- 坂井秀弥 2013 「I 原始・古代の人々の暮らしと環境 4 地域社会の環境・交通・開発—越後平野を例に—」『環境の日本史 2 古代の暮らしと祈り』 株式会社吉川弘文館

- 坂井秀弥ほか 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第35集 上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1987 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第48集 国道116号 埋蔵文化財調査報告書 三島郡出雲崎町番場遺跡』新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1989a 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第53集 新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥・高橋 保 1994 「新潟県」『日本土器製塩の研究』青木書店
- 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第118集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 笹澤正史 2001 「須恵器瓶類の口縁頸部接合痕跡」『北陸古代土器研究』第9号 北陸古代土器研究会
- 佐藤友子ほか 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第187集 一般国道7号万代橋下流橋関係発掘調査報告書 近世新潟町跡(広小路堀地点)』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤友子ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第238集 一般国道8号白根バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 小坂居付遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- シ 上越市史専門委員会考古部会 2002 『上越市史叢書8 考古一中・近世資料一』上越市
- ス 菅沼 亘ほか 2000 『十日町埋蔵文化財調査報告書 第17集 平成10・11年度県営ほ場整備事業 上組工区内遺跡発掘調査概要報告書ー谷地A遺跡・中新田遺跡・中新田B遺跡・廿日城遺跡ー』十日町市教育委員会
- 鈴木一有 2013 「伊場遺跡群における古代祭祀の変遷」『古代文化』第65巻第3号 公益財団法人古代学協会
- 鈴木俊成 2014 「上道下西遺跡の水田肥料痕跡について」『新潟県立歴史博物館紀要』第15号 新潟県立歴史博物館
- 鈴木俊成ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第231集 北陸自動車道栄スマートインターチェンジ関係発掘調査報告書 上道下西遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 雅之 1990 「古代細型管状土錘考」『北越考古学』第3号 北越考古学研究会
- 関 雅之・本間信昭ほか 1975 『浜田遺跡 新潟県佐渡郡真野町浜田遺跡発掘調査報告』真野町教育委員会
- 関 雅之ほか 1980 『鳥屋遺跡Ⅰ』豊栄市教育委員会
- 関 雅之ほか 1988 『豊栄市史 資料編1 考古』豊栄市
- タ 高野裕子・渡邊朋和 2003 『川口乙遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 高橋 保 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第150集 上信越自動車道関係発掘調査報告書XVII 海道遺跡・大塚遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄・荒谷伸郎 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第119集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 北野遺跡Ⅰ(下層)』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄ほか 2005 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第141集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 北野遺跡Ⅱ(上層)』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第160集 一般国道49号揚川改良関係発掘調査報告書Ⅰ 上野東遺跡 現明嶽遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋保雄ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第172集 一般国道49号安田バイパス関係発掘調査報告書 鴨深甲遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高濱信行・卜部厚志・寺崎裕助 2000 「排水機場遺跡」『味方村史』味方村
- 滝沢規朗 1995 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第68集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 大坂上道遺跡 猿額遺跡 中棚遺跡 牧ノ沢遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田嶋明人 1986 「考察 一漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 龍田優子ほか 2012 『結七島遺跡Ⅵ 第24次調査ー宅地造成に伴う結七島遺跡第2次発掘調査報告書ー』新潟市教育委員会
- 田中一廣・丹下昌之ほか 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』新津市教育委員会
- 田中 靖 1996 『和島村埋蔵文化財調査報告書第5集 県営圃場整備事業(桐原地区)に伴う埋蔵文化財調査報告書 門新遺跡 外割田地区』和島村教育委員会

- 田中 靖ほか 1995 『門新遺跡』 和島村教育委員会
- ツ 立木宏明 2014a 「細池寺道上遺跡」『平成 25 年度 新潟市遺跡発掘調査報告会－最新調査成果が語る新潟市の歴史』新潟市文化財センター
- 立木宏明 2014b 「Ⅱ 2 (3) 細池寺道上遺跡第 41 次調査」『新潟市文化財センター年報』第 1 号 新潟市文化財センター
- 立木宏明 2015 「細池寺道上遺跡」『平成 26 年度新潟市遺跡発掘調査速報会～最新調査成果が語る新潟市の歴史～』新潟市文化財センター
- 立木宏明・渡邊朋和ほか 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 立木宏明ほか 2000 『川根遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・高野裕子ほか 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004a 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004b 『山王浦遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子・八藤後智人ほか 2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ 第 15 次調査－県営ほ場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第 8 次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- 立木宏明ほか 2009 『萱免遺跡 第 2 次調査 一宅地造成に伴う萱免遺跡第 2 次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・伊比博和ほか 2013 『峰岡城山遺跡 第 2 次調査－城山屋内体育施設造成工事に伴う峰岡城山遺跡第 2 次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・細野高伯ほか 2013 『日水遺跡Ⅱ 第 6 次調査－市道亀田 300 号線道路改良工事に伴う日水遺跡第 2 次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・相澤（高野）裕子ほか 2014 『細池寺道上遺跡Ⅲ 第 26 次調査 一県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う第 12 次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- テ 寺村光晴 1960 「越後六地山遺跡」『上代文化』30 国学院大学考古学会
- ト 戸根与八郎・堅木宜弘ほか 2011 『壇風城跡・下国府遺跡（市道竹田 1 号線改良工事関係発掘調査報告書）』 佐渡市教育委員会
- 土橋由理子ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 91 集 一般国道 49 号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 牛道遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 166 集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅷ 馬見坂遺跡 正尺 A 遺跡 正尺 C 遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2007 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 177 集 一般国道 49 号亀田バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 城所道下遺跡 武左衛門裏遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 200 集 一般国道 49 号亀田バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ 大蔵遺跡 西郷遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 221 集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXVI 古渡路遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 中川成夫・倉田芳郎 1956 『新津田家七本松須志器跡発掘調査報告書』 北方文化博物館
- 長澤展生ほか 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 長澤展生ほか 2002 『五泉市文化財報告（13）能代川関係発掘調査報告書Ⅵ 中田遺跡』 五泉市教育委員会・株式会社みくに考古学研究所
- 中野三義 1976 「中蒲原郡の荘園・保」『かみくひむし』第 21 号 かみくひむしの会
- 中村孝三郎 1960 「西蒲原郡中野小屋村曾和弥生式六地山遺跡」『NHK』Vol.3 長岡市立科学博物館友の会
- 奈良国立文化財研究所 1985 『奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇』
- ニ 新潟市国際文化部歴史文化課 2007 『新・新潟市史双書 2 新潟市の遺跡』 新潟市
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 『新潟市史』資料編 1 原始 古代 中世 新潟市
- ノ 能登 健 1996 「6 中・近世の農業」『考古学による日本歴史 16 産業Ⅰ 狩猟・漁業・農業』 雄山閣出版株式会社
- 野水晃子ほか 2003 『能代川関係発掘調査報告書Ⅰ 新保北遺跡』 五泉市教育委員会・株式会社吉田建設

- ハ 橋本博文 2015 「新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳をめぐって～2014 発掘調査で分かったこと～」『平成 26 年度新潟市発掘調査速報～最新成果が語る新潟市の歴史』新潟市文化財センター
- 橋本博文・小林隆幸・奥田 尚 2014 「新潟県内初発見の円筒埴輪－新潟市東区牡丹山諏訪神社採集の埴輪片をめぐって」『人文科学研究』第 134 輯 新潟大学人文学部
- ヒ 平川 南 2000 『墨書土器の研究』株式会社吉川弘文館
- 廣野耕造 1996 『石動遺跡 平成 7 年度発掘調査概報』新潟市教育委員会
- 廣野耕造 1997 『笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡』新潟市教育委員会
- フ 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 藤田富士夫 1991 「バステル形石製品について」『考古学論究』創刊号 立正大学考古学会
- 藤塚 明・小池邦明・渡邊朋和 1987 『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』新潟市教育委員会
- 藤塚 明・小池邦明 1989 『1988 年度埋蔵文化財発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 古澤妥史 2002 『京ヶ瀬村埋蔵文化財発掘調査報告書 第 1 集 町道上遺跡発掘調査報告書』新潟県京ヶ瀬村教育委員会
- 古澤妥史ほか 2004 『県営湛水防除事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ 村下遺跡』京ヶ瀬村教育委員会
- 古澤妥史 2005 『土居内西遺跡』阿賀野市教育委員会
- 古澤妥史ほか 2011 『県営湛水防除事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ 境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡』阿賀野市教育委員会
- 古庄浩明ほか 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』新津市教育委員会
- 文化庁文化財部記念物課監修 2010 『発掘調査のてびき』文化庁文化財部記念物課
- ホ 星野信明ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 80 集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅱ(B 地区)』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細井佳浩 2014 「新潟県における古代の「畝状小溝」(畠)について－越後国域の検出事例から－」『三面川流域の考古学』第 12 号 奥三面を考える会
- 細野高伯ほか 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第 7・9・11・12・14 次調査－一般国道 403 号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第 2・4・6・7・9 次発掘調査報告書－』新潟市教育委員会
- 本田祐二 2008 「越後・佐渡(新潟県)の様相」『北陸中世のみち』第 21 回北陸中世考古学研究会資料集 北陸中世考古学研究会
- 本間嘉晴・椎名仙卓 1958 「佐渡小木半島周辺の考古学的調査」『新潟県文化財年報第二 南佐渡－南佐渡学術調査報告書－』新潟県教育委員会
- 本間敏則・春日真実ほか 2000 『吉田町史 資料編 1 考古・古代・中世』吉田町
- 本間嘉晴ほか 1969 『佐渡国府緊急調査報告書(若宮遺跡)Ⅱ』真野町教育委員会
- 本間嘉晴ほか 1983 『馬場遺跡 新潟県佐渡郡相川町北片辺馬場遺跡発掘調査報告書』相川町教育委員会
- 本間嘉晴ほか 1984 『金井町文化財調査報告書Ⅳ集 泉畑田遺跡 黒木御所跡伝承地域 新潟県佐渡郡金井町泉畑田遺跡発掘調査報告』金井町教育委員会
- マ 前山精明 1990 『大沢遺跡－縄文時代中期前葉を主とする集落跡の調査概要－』巻町教育委員会
- 前山精明 1994a 「新谷遺跡」『巻町史』資料編 1 考古 巻町
- 前山精明 1994b 「重稲場遺跡群」『巻町史』資料編 1 考古 巻町
- 前山精明 1994c 「御井戸遺跡」『巻町史』資料編 1 考古 巻町
- 前山精明 1994d 「上ノ原遺跡」『巻町史』資料編 1 考古 巻町
- 前山精明 2013 「細池寺道上遺跡」『平成 24 年度 新潟市遺跡発掘調査報告会－最新調査成果が語る新潟市の歴史』新潟市文化財センター
- 前山精明 2014a 「Ⅱ 2 (3) 秋葉遺跡 第 9・10 次調査」『新潟市文化財センター年報』第 1 号 新潟市文化財センター
- 前山精明 2014b 「Ⅱ 2 (3) 細池寺道上遺跡 第 38 次調査」『新潟市文化財センター年報』第 1 号 新潟市文化財センター
- 前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡－縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査－』巻町教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡Ⅱ－2003 年度確認調査の概要－』巻町教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2005 『御井戸遺跡Ⅲ－2004 年度確認調査の概要－』巻町教育委員会

- 前山精明・伊比博和ほか 2010 『大沢谷内北遺跡 第3次調査－(仮称)国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内北遺跡第3次発掘調査報告書－』新潟市教育委員会
- 前山精明ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅲ 第8次調査－市道鎌倉横川線改良工事に伴う大沢谷内遺跡第2次発掘調査報告書－』新潟市教育委員会
- ミ 三浦純夫 1996 「古代の箸」『月刊考古学ジャーナル』No.404 (株)ニュー・サイエンス社
- 水澤幸一 2005 「越後の様相」『中世北陸の茶道具』第18回 北陸中世考古学研究会資料集 北陸中世考古学研究会
- 水澤幸一 2007 「中世越後の土器と陶磁器－11～14世紀前半－」『中世前期北陸のカワラケと輸入陶磁器・施釉陶器・瀬戸美濃製品』第20回 北陸中世考古学研究会資料集 北陸中世考古学研究会
- 水澤幸一ほか 2002 『中条町埋蔵文化財調査報告書第25集 船戸桜田遺跡4・5次調査 船戸川崎遺跡第6次調査 県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅳ』中条町教育委員会
- ヤ 山口陽子ほか 2000 『新潟県安田町文化財調査報告13 小山崎遺跡発掘調査報告書 県営安田・水原工業団地開発に伴う新潟県北蒲原郡安田町小山崎遺跡発掘調査報告書』安田町教育委員会
- 山崎 天・遠藤 佐 1999 『小実山遺跡』五泉市教育委員会
- 山崎 天ほか 2004a 『五泉市文化財報告(11) 能代川関係発掘調査報告書Ⅳ 新保遺跡 住吉田東遺跡』五泉市教育委員会・山武考古学研究所
- 山崎 天ほか 2004b 『五泉市文化財報告(12) 能代川関係発掘調査報告書Ⅴ 笥下遺跡』五泉市教育委員会・山武考古学研究所
- 山崎 天ほか 2004c 『五泉市文化財報告(14) 能代川関係発掘調査報告書Ⅶ 巳ノ明遺跡』五泉市教育委員会・株式会社野上建設興業
- 山崎 天ほか 2005 『五泉市文化財報告(17) 能代川関係発掘調査報告書Ⅹ 榎表遺跡』五泉市教育委員会・株式会社みくに考古学研究所
- 山本信夫 2000 『太宰府市の文化財 第49集 大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会
- 山本信夫 2005 「貿易陶磁中世前期(11～14世紀前半)編年」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』発表要旨全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
- 山本 肇ほか 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第114集 一般国道8号糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書 岩倉遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヨ 横山勝栄・竹田和夫ほか 1987 『新潟県中世城跡等分布調査報告書』新潟県教育委員会
- 吉井雅勇ほか 1999 『元山窯跡群 平成9・10年度町内遺跡試掘確認調査報告書』荒川町教育委員会
- 吉井雅勇ほか 2002 『鴨侍遺跡 一級河川乙日川(烏川工区)統一級河川整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』荒川町教育委員会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 吉田恵二ほか 1982 『緒立八幡神社遺跡』黒埼町教育委員会
- 米沢 康 1965 「大化前代における越の史的位罫」『信濃』17-1 信濃史学会
- 米沢 康 1980 「大宝二年の越中国四郡分割をめぐって」『信濃』32-6 信濃史学会
- ワ 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1994a 『八幡山遺跡発掘調査報告書－平成5年度範囲確認調査－』新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1994b 『平成5年度 新津市内遺跡確認調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和 1999 「第4章 第4節 第3項 製鉄」『新潟県の考古学』新潟県考古学会
- 渡邊朋和ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡E・A・C地点、大入遺跡A地点』新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 1998 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅲ(分析・考察編)』新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和ほか 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 渡邊朋和・立木宏明ほか 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書－第11・12・13・14次調査－』新津市教育委員会
- 渡辺ますみ 1991 『荒木前遺跡』亀田町教育委員会
- 渡辺ますみ 1993 『緒立A遺跡確認調査報告書』黒埼町教育委員会

- 渡邊ますみ 1994 『緒立 C 遺跡発掘調査報告書』 黒埼町教育委員会
- 渡邊ますみ 1998 「第 2 章 原始・古代—緒立遺跡—」『黒埼町史資料編 1 原始・古代・中世』 黒埼町
- 渡邊ますみほか 2009 『駒首潟遺跡 第 3・4 次調査—大型小売店舗建設に伴う駒首潟遺跡第 3・4 次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ・池田ひろ子 2009 『上大川遺跡 第 2 次調査—市道正尺・早通線道路改良工事に伴う上大川遺跡第 2 次調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ・奈良貴史 2012 『四十石遺跡 第 2 次調査—(仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第 2 次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会

第Ⅵ章 自然科学分析参考文献

- ア 安藤一男 1990 「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42(2) 東北地理学会 p.73-88
- イ 石川茂雄 1994 『原色日本植物種子写真図鑑』 石川茂雄図鑑刊行委員会 p.328
- 伊藤良永・堀内誠示 1989 「古環境解析からみた陸生珪藻の検討—陸生珪藻の細分—」『日本珪藻学会第 10 回大会講演要旨集』 p.17
- 伊藤良永・堀内誠示 1991 「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『日本珪藻学誌』6 p.23-44
- 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31 京都大学木質科学研究所 p.81-181
- 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32 京都大学木質科学研究所 p.66-176
- 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33 京都大学木質科学研究所 p.83-201
- 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34 京都大学木質科学研究所 p.30-166
- 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35 京都大学木質科学研究所 p.47-216
- 伊東隆夫・山田昌久 2012 『木の考古学—出土木製品用材データベース—』 海青社 p.449
- カ 笠原安夫 1982 「鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実タール状塊について」『鳥浜貝塚 1980 年度発掘調査概報・研究の成果—縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査 2—』 福井県教育委員会 p.65-87
- 笠原安夫 1985 『日本雑草図説』 養賢堂 p.494
- 笠原安夫 1988 「作物および田畑雑草種類」『弥生文化の研究 第 2 巻 生業』 雄山閣出版 p.131-139.
- 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復元」『新版古代の日本 第 10 巻 古代資料研究の方法』 角川書店 p.248-262
- コ 小杉正人 1986 「陸生珪藻による古環境の解析とその意義—わが国への導入とその展望—」『植生史研究』1 植生史研究会 p.9-44
- 小杉正人 1988 「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究』27 p.1-20.
- サ 埼玉県教育委員会 1962 『埼玉県植物誌』 埼玉県教育科学振興会 p.289-313
- シ 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第 5 集 p.60
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』 地球社 p.176
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 1985 『木材の構造』 文永堂出版 p.290
- 島地 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』 雄山閣 p.296
- ス 杉山真二 2000 「植物珪酸体(プラント・オパール)」『「考古学と植物学」』 同成社 p.189-213
- ナ 中村 純 1973 『花粉分析』 古今書院 p.82-110
- 中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ(Oryza sativa)を中心として」『第四紀研究』13 p.187-193
- 中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第 10 号 p.21-30
- 中村 純 1980 「日本産花粉の標徴 I II (図版)」『大阪市立自然史博物館収蔵資料目録』第 12・13 集 p.91
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 『日本植物種子図鑑』 東北大学出版会 p.642
- ニ 新田みゆき 2001 『シソとエゴマの分化と多様性、栽培植物の自然史—野生植物と人類の共進化—』 北海道大学図書刊行会 p.165-175.
- ハ 林 昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
- フ 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—」『考古学と自然科学』9 p.15-29
- 藤原宏志 1984 「プラント・オパール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—」『月刊考古学ジャーナル』No.227 ニュー・サイエンス社 p.2-7

- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－」『考古学と自然科学』17 p.73-85
- 藤下典之 1984 「出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法」『古文化財の自然科学的研究』同朋舎 p.638-654
- ミ 南木睦彦 1993 「葉・果実・種子」『日本第四紀学会編 第四紀試料分析法』東京大学出版会 p.276-283
- ヤ 山田昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究』特別1号 植生史研究会 p.242
- ヨ 吉崎昌一 1992 「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355 ニュー・サイエンス社 p.2-14
- Asai,K.& Watanabe,T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophyllous and saproxenous taxa.Diatom, 10, 35-47.
- Desikachari,T.V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation, Madras, Printed at TT. Maps & Publications Private Limited, 328, G.S.T.Road, Chromepet, Madras-600044. 1-13, Plates : 401-621.
- Horst Lange-Bertalot., 2000, ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA : Annotated diatom micrographs. Witkowski, A., Horst Lange-Bertalot, Dittmer Metzeltin : Diatom Flora of Marine Coasts Volume 1. 219ppls. 4504figs, 925pgs.
- Hustedt,F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung derubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p.
- Hustedt,F., 1937-1938, Systematische und ökologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. I ~ III . Arch. Hydrobiol. Suppl.,15, 131-809p, 1-155p, 274-349p.
- Hustedt,F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 845p.
- Hustedt,F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr.Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p.
- Krammer,K. and H.Lange-Bertalot, 1985, Naviculaceae.Bibliotheca Diatomologica, vol.9, 250p.
- Krammer,K. and H.Lange-Bertalot, 1986, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (1) : 876p.
- Krammer,K. and H.Lange-Bertalot, 1988, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (2) : 596p.
- Krammer,K. and H.Lange-Bertalot, 1990, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (3) : 576p.
- Krammer,K. and H.Lange-Bertalot, 1991, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (4) : 437p.
- Lowe,R.L., 1974, Environmental requirements and pollution tolerance of fresh-water diatoms. In Environmental Monitoring Ser. EPA-670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center office of Res. Develop. U. S. Environ. Protect. Agency. Cincinnati. 1-344.
- Richter H.G.,Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社, 70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社, 122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].
- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55 (4), 1869-1887
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion : Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363

別表1 細池寺道上遺跡第32次調査遺構計測表

図版 No.	写真図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面標高 (m)	形態		覆土の有無	遺物の有無	遺物図版 No.	磔		備考	
								上端		下端			深度 (高さ)	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
12-14-18	21	1	群1	17L-7I8・9・13・14	近世以降	Va	N-13°-W	1.77	0.26	1.77	1.04	(0.38)	7.48	-	-	-					
12-15-18	21	1	群2	17L-8I24, 17L-9I4	近世以降	Va	N-53°-W	1.78	0.22	1.78	0.72	(0.27)	7.51	-	-	-					
12-17-18	21	2	群3	18L-4J11・16・17	近世以降	Va	N-45°-W	2.36	0.36	2.36	0.54	(0.18)	7.64	-	-	-					
12-17-18	21	22	Pit2	18L-5J17	古代	Va	N-45°-W	0.48	0.24	0.36	0.12	0.08	7.48	楕円形	弧状	1	有		2	809	
12-17-18	21	2	Pit1	18L-5J21	古代	Va	N-8°-E	0.42	0.27	0.28	0.19	0.06	7.52	楕円形	弧状	1	有		1	1290	
12-15-16-18	22	1	2	旧河道1	17L-10I4・5・9・10・14・15, 18L-1I4・5・9・10・14・15・19・20・25, 2I5・10・15・20・25, 18L-2J1・6・11・16・21	近世以降	Va	-	-	-	-	-	1.24	-	-	-	21	有	111		
12-17-18	22	2	2	旧河道2	18L-2I25, 3I5・10・15・20・25, 3J1・6・11・16・17・18・21・22・23, 4J1・2・3・6・11・12・16・17・21・22, 5J1・2・6・7	近世以降	Va	-	(6.50)	-	-	-	0.92	-	-	-	22				

別表2 細池寺道上遺跡第38次調査遺構計測表

図版 No.	写真図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面標高 (m)	形態		覆土の有無	遺物の有無	遺物図版 No.	磔		備考	
								上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
19-29-30-33	26	1	SE1105	12J-3I14・15	中世	Va	N-79°-E	0.65	0.60	-	-	0.45	7.14	円形	U字状	3					
19-23-25-33	27	1	SK1141	11J-7H15・20	中世	Va	N-89°-E	0.62	0.39	0.36	0.21	0.14	7.31	楕円形	弧状	2					
19-23-33	27	1	SK1064	11J-7G19	中世	Va	N-20°-W	(0.86)	(0.44)	(0.64)	(0.27)	(0.10)	7.06	楕円形	台形状	1					
19-23-33	27	1	SK1063	11J-7G22	中世	Va	N-42°-W	(0.56)	(0.50)	(0.14)	(0.12)	(0.31)	7.02	楕円形	V字状	2					
19-23-24-33	27	1	SK1082	11J-8F5・10, 8G1	中世	Va	N-16°-E	0.71	0.63	0.43	0.32	0.08	7.21	不整形	弧状	3					
19-24-33	28	1	SK1081	11J-8F15	中世	Va	N-60°-W	0.50	0.38	0.22	0.15	0.13	7.16	楕円形	弧状	1					
19-24-33	28	1	SK1083	11J-8G13・14・18・19	中世	Va	N-67°-W	0.74	0.58	0.40	0.10	0.24	7.04	楕円形	台形状	4					
19-24-33	28	1	SK1084	11J-9F6	中世	Va	N-81°-W	0.70	0.55	0.21	0.18	0.15	7.22	楕円形	弧状	1					
19-26-33	28	1	SK1111	12J-1F3	中世	Va	N-45°-W	0.46	0.29	0.34	0.17	0.10	7.15	楕円形	弧状	1					
19-26-34	29	1	SK1091	12J-1F6・7・11・12	中世	Va	N-5°-E	0.74	0.65	0.22	0.16	0.25	7.11	円形	半円状	3	有				
19-26-27-34	29	1	SK1043	12J-1G19・20	古代	Va	N-83°-E	0.62	0.61	0.44	0.44	0.12	7.43	円形	弧状	4	有	111			
19-26-27-34	29	1	SK1033	12J-1G20	古代	Va	N-6°-E	0.68	0.48	0.57	0.30	0.23	7.44	楕円形	弧状	6	有	111・112			
19-26-27-29-34	29-30	1	SK1034	12J-1G20・25	古代	Va	N-28°-W	0.54	0.43	0.25	0.18	0.14	7.42	楕円形	半円状	5	有	112			
19-26-29-34	30	1	SK1126	12J-2G7	古代	Va	N-25°-E	0.58	0.48	0.46	0.32	0.07	7.26	楕円形	弧状	3	有				
19-26-29-34	30	1	SK1107	12J-2G13	中世	Va	N-30°-W	0.68	0.25	0.47	0.17	0.12	7.19	不整形	弧状	-					
19-26-29-34	30	1	SK1205	12J-2G16	中世	Va	N-23°-W	(0.71)	0.40	0.27	0.13	0.14	7.24	楕円形	弧状	2					
19-29-34	30	1	SK1134	12J-2G23	中世	Va	N-27°-W	0.80	0.70	0.24	0.19	0.24	7.03	円形	台形状	4	有				
19-29-34	31	1	SK1090	12J-3I12・13	古代	Va	N-28°-E	0.55	0.44	0.18	0.15	0.14	7.46	楕円形	半円状	3	有	112			
19-29-30-35	31	1	SK1204	12J-3I15	中世	Va	N-83°-W	0.47	0.46	0.17	0.13	0.15	7.50	円形	弧状	4					
19-29-30-35	31	1	SK1200	12J-3J11	中世	Va	N-29°-W	0.63	0.44	0.46	0.30	0.07	7.54	楕円形	弧状	2					
19-30-31-35-52	31	1	SK1009	12K-3B14・15	中世	Va	N-41°-W	0.92	0.55	0.60	0.20	0.42	6.71	楕円形	U字状	5					
19-23-25-35	32	1	SX1138	11J-7H13	中世	Va	N-83°-E	0.48	0.25	0.25	0.14	0.15	7.37	不整形	弧状	2					
19-23-25-35	32	1	SX1144	11J-7H19	中世	Va	N-35°-E	0.33	0.20	0.22	0.12	0.09	7.35	不整形	弧状	2					
19-23-25-35	32	1	SX1137	11J-8J1・6	中世	Va	N-45°-W	0.71	0.24	0.14	0.11	0.14	7.34	不整形	台形状	4					
19-24-25-35	32	1	SX1149	11J-8H13・18	中世	Va	N-78°-E	0.30	0.27	0.15	0.14	0.07	7.33	円形	弧状	2					
19-24-25-35	33	1	SX1150	11J-8H17・22	中世	Va	N-35°-E	0.32	0.25	0.14	0.08	0.07	7.37	不整形	弧状	2					
19-24-25-35	33	1	SX1161	11J-8H22	中世	Va	N-80°-E	0.20	(0.18)	0.10	0.08	0.06	7.38	楕円形	弧状	2					
19-24-27-35	33	1	SX1172	11J-10G5	中世	Va	N-46°-W	0.37	0.32	0.22	0.14	0.12	7.33	円形	台形状	2					
19-27-35	33	1	SX1189	12J-1H11	中世	Va	N-73°-W	0.54	0.30	0.25	0.19	0.11	7.50	不整形	弧状	4					
19-27-35	34	1	SX1197	12J-1H19	中世	Va	N-20°-W	0.25	0.19	0.11	0.05	0.08	7.54	不整形	弧状	2					
19-27-36	34	1	SX1190	12J-1H16	中世	Va	N-45°-E	0.50	0.45	0.36	0.28	0.15	7.50	円形	弧状	2					
19-26-29-36	34	1	SX1099	12J-1F24・25, 2F4・5	中世	Va	N-5°-W	2.38	1.18	1.98	0.92	0.09	7.25	不整形	弧状	1					
19-26-29-36	34	1	SX1239	12J-2G4	古代	Va	N-6°-E	0.88	0.82	0.44	0.41	0.17	7.38	円形	台形状	1	有	112			
19-27-29-36	35	1	SX1198	12J-2H4・5	中世	Va	N-48°-E	0.48	0.33	0.22	0.13	0.10	7.44	楕円形	弧状	1					
19-29-36	35	1	SX1236	12J-2I13・14・18・19	古代	Va	N-53°-E	1.58	1.28	0.14	0.09	0.17	7.41	不整形	弧状	5	有	112			
19-26-29-36	35	1	SX1127	12J-2G19・20	中世	Va	N-45°-W	0.92	(0.86)	0.65	0.65	0.12	7.41	円形	弧状	1					
19-29-36	35	1	SX1157	12J-2G24・25	中世	Va	N-54°-E	0.59	0.18	0.09	0.08	0.13	7.47	不整形	弧状	1					
19-30-31-36-52	36	1	SX1194	12K-3A11	中世	Va	N-48°-E	0.30	0.19	0.12	0.09	0.08	7.61	楕円形	弧状	2					
19-23-24-25-27-30-31-36-37-40-50-52	36-41	1	SD1003	11J-6G・7G・7H・8H・8I・9I・10I・10J, 12J-1J・2J, 12K-2A・3A・3B	中世	Va	N-42°-W N-30°-W N-39°-W	(82.31)	2.46	(82.31)	0.9	0.46	7.26	-	台形状	15	有	112・113			
19-23-24-33-37	36-37	1	SD1053	11J-7G21・22・23・24, 8G3・4・9・10・14・15・19・20・23・24, 9G3・4・7・8・12・13・17・18	中世	Va	N-34°-E	(24.96)	0.67	(24.96)	0.22	0.13	7.20	-	弧状	2	有				
19-23-24-37	36-37	1	SD1054	11J-7G16・17・18・21・22・23・24, 8G4・5・10・15・19・20・24・25, 9G3・4・8・13	中世	Va	N-30°-E	(24.34)	0.62	(24.34)	0.28	0.14	7.18	-	V字状	2	有				
19-23-24-37	37	1	SD1055	11J-7G16・17・18・23・24・25, 8G4・5・10・15・20・24・25, 9G3・4・8・9・13・18	中世	Va	N-33°-E	(27.11)	0.59	(27.11)	0.29	0.18	7.23	-	弧状	1	有	113			
19-23-24-25-37	37	1	SD1056	11J-7G17・18・19・20・24・25, 8G5・10・15・20・25, 9G4・5・8・9・13・14・18・19	中世	Va	N-41°-E	(27.64)	0.52	(27.64)	0.39	0.21	7.24	-	弧状	2	有	113			

図版 No.	写真 図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認 面	主軸方位	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		覆土 の有無	遺物 の有無	遺物図版 No.	礫		備考	
								上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
19-23-24・ 25-37	37	1	SD1065	11J-7G12・13・14・17・ 18・19・20・25, 7H21, 8G5・20・25, 8H1・6・ 11・16・21, 9G4・5・9・ 14・19	中世	Va	N-34°-E	(29.99)	0.78	(29.99)	0.40	0.27	7.17	-	半円状	2					
19-24-26・ 37-38	37- 38	1	SD1066	11J-9G11・16, 9F18・ 19・20・21・22・23, 10F2・3・6・7	中世	Va	N-28°-E	(13.57)	0.60	(13.57)	0.35	0.12	7.20	-	弧状	2					
19-24-37・38	37	1	SD1067	11J-9G16・17・18	中世	Va	N-75°-E	(4.81)	0.38	(4.81)	0.20	0.05	7.30	-	弧状	1					
19-24-37・38	37	1	SD1068	11J-9G16・17・18, 9F19・20	中世	Va	N-79°-E	(7.31)	(0.38)	(7.31)	(0.20)	0.18	7.20	-	弧状	2					
19-24-37・38	37	1	SD1069	11J-9F24・25, 9G21・ 22・23・24	中世	Va	N-79°-E	(8.64)	0.80	(8.64)	0.38	0.23	7.23	-	弧状	2	有	113			
19-24-26・38	38	1	SD1071	11J-9F18・19・20・23, 10F3・6・7・8	中世	Va	N-21°-E	9.39	0.68	9.31	-	0.22	7.19	-	弧状	3					
19-24-26・38	38	1	SD1072	11J-9F19・23・24, 10F3・4・8・11・12・13	中世	Va	N-31°-E	9.60	0.94	9.41	0.33	0.13	7.28	-	弧状	3	有				
19-24-38・42	38・ 45	1	SD1085	11J-9E24・25	中世	Va	N-58°-E	(1.55)	0.53	(1.55)	0.35	0.06	7.25	-	弧状	1					
19-24-39	39	1	SD1086	11J-9F1・6	中世	Va	N-23°-E	(3.50)	0.60	(3.35)	0.40	0.09	-	-	-	1					
19-24-26・38	38・ 39	1	SD1074	11J-10F1・6, 10E4・5・ 10, 9E18・23・24	中世	Va	N-46°-W	(9.75)	0.45	(9.75)	0.23	0.08	7.27	-	弧状	1					
19-24-26・ 38-39	39	1	SD1075	11J-9E23・24, 10E3・4・ 5・10	中世	Va	N-47°-W	(7.36)	0.29	(7.36)	0.15	0.09	7.21	-	台形状	1					
19-24-26・ 38-39	39	1	SD1076	11J-9E18・23・24, 10E4・5・10, 10F6・11・ 16・17・22・23, 12J- 1F2・3・4・8・9・14・15・ 19・20・25, 1G21	中世	Va	N-34°-W	(27.08)	0.95	(27.08)	0.43	0.08	7.24	-	弧状	1	有	113			
19-26-29・39	39	1	SD1153	12J-2G1・6・7・11・12・ 17・22・23, 3G3・4・9・ 14・15	中世	Va	N-11°-W	17.0	0.50	16.86	0.24	0.16	7.37	-	弧状	1					
19-26-29・39	39	1	SD1102	12J-2G1・2・6・7・12・ 17・18・22・23, 3G3・4・ 9・10・14・15・20	中世	Va	N-36°-W	(23.04)	0.81	(23.04)	0.33	0.16	7.25	-	弧状	3	有	113			
19-24-26・39	39	1	SD1101	11J-10E10・15	中世	Va	N-45°-E	(1.85)	(0.85)	-	-	0.15	7.26	-	弧状	1					
19-24-26・39	39・ 40	1	SD1094	11J-10E13・14・15・18・ 19	中世	Va	N-28°-W	(5.63)	1.43	(5.63)	1.24	0.10	7.26	-	弧状	1					
19-26-39	40	1	SD1095	11J-10E19・20・24・25, 10F21, 12J-1E5, 1F1・2・ 7・12	中世	Va	N-46°-W	(9.32)	0.82	(9.32)	0.43	0.10	7.31	-	弧状	2					
19-26-34・39	29・ 40	1	SD1096	12J-1F1・2・6・7・11・ 12	中世	Va	N-2°-E	(3.18)	0.57	(3.09)	0.43	0.04	7.32	-	弧状	1					
19-26-39・40	40	1	SD1097	12J-1F12・16・17・21・ 22	中世	Va	N-14°-E	(4.29)	0.59	(4.25)	0.49	0.23	7.27	-	弧状	2					
19-26-40	40	1	SD1092	12J-1F12・13・14	中世	Va	N-52°-W	(5.53)	0.50	(5.53)	0.26	0.11	7.22	-	弧状	2	有				
19-26-40	40	1	SD1098	12J-1F18・19	中世	Va	N-37°-E	(2.26)	0.70	(2.26)	0.64	0.09	7.24	-	弧状	1					
19-26-39・40	39・ 40	1	SD1100	12J-1F18・19・23	中世	Va	N-48°-E	(2.73)	1.00	(2.73)	0.16	0.04	7.28	-	弧状	1					
19-26-40	40	1	SD1207	12J-1F23, 2E5, 2F3	中世	Va	N-29°-E	(0.97)	1.13	(0.97)	0.75	0.12	7.24	-	弧状	1					
19-26-40	40	1	SD1206	12J-2F3	中世	Va	N-28°-E	(0.77)	0.47	(0.77)	0.19	0.47	7.26	-	弧状	1					
19-26-29・39	39	1	SD1104	12J-2G12・13・18・19・ 23	中世	Va	N-22°-W	(6.55)	0.50	(6.48)	0.32	0.07	7.30	-	弧状	1	有				
19-26-29・39	39	1	SD1103	12J-2G8・13・14・19・ 24, 3G4	中世	Va	N-24°-W	(7.14)	1.00	(6.31)	0.52	0.15	7.28	-	弧状	1	有	113			
19-29-39	39	1	SD1112	12J-3G5・10	中世	Va	N-26°-E	0.44	(0.36)	0.34	(0.29)	0.17	7.37	-	V字状	3					
19-24-25・ 26-27・29・ 40-41・42	41・ 42	1	SN1001	11J-8H14~20・22~25, 8I16・21, 9H2~9・12~ 24, 9I1, 10H1~9・12~ 23, 10G25, 12J-1G5・10, 1H1~8・11~23, 2H1~8・ 11~22, 3H3~25, 3I6・ 11・12・16・17・21・22	中世	Va	N-35°-E N-5°-E N-28°-W	(56.05)	(5.80)	(55.91)	(5.64)	0.32	7.20	不整形	-	3	有	113・114・ 141	8	87	
19-24-25	41	1	SD1060	11J-8H22・23, 9H2	中世	Va	N-45°-E N-12°-W	4.23	0.19	4.02	0.05	0.06	-	-	弧状	1					
19-24-25	41	1	SD1059	11J-9H7・12	中世	Va	N-19°-E	2.08	0.26	1.70	0.05	0.07	-	-	弧状	1					
19-24-25・ 26-27・40-41	42	1	SD1058	11J-10H1・6・7・12・ 16・17・21	中世	Va	N-2°-W	8.60	0.38	8.49	0.21	0.07	7.26	-	弧状	1					
19-26-27・41	42	1	SD1048	11J-10H12・16・17・21, 10G25	中世	Va	N-55°-E	4.55	0.24	4.41	0.11	0.07	7.31	-	弧状	1	有				
19-26-27・41	43	1	SD1046	12J-1G5・10	中世	Va	N-29°-W	(2.09)	0.29	(1.97)	0.15	0.28	7.32	-	弧状	1					
19-25-27	43	1	SD1061	11J-9H5・10・15・20, 9I1	中世	Va	N-7°-E	6.77	0.22	6.64	0.21	0.24	-	-	U字状	1					
19-25-27・40	43	1	SD1062	11J-9H19・20・24, 10H4	中世	Va	N-13°-E	4.50	0.13	4.35	0.05	0.21	7.26	-	半円状	1	有				
19-27-41	43	1	SD1052	11J-10H4・9・10・14・ 15・18・19・23, 12J- 1H3	中世	Va	N-26°-W N-57°-E	7.20	0.50	6.72	0.18	0.18	7.31	-	台形状	1	有				
19-29-42	41・ 43	1	SD1151	12J-3G20, 3H16・21	古代	Va	N-44°-W	(3.98)	0.49	(3.78)	0.20	0.41	7.31	-	台形状	1					
19-29-41・42	43	1	SD1152	12J-3G20, 3H16・21・ 22	中世	Va	N-42°-W	(4.30)	0.32	(4.16)	0.15	0.08	7.28	-	弧状	1					
19-27-41	42	1	SD1050	11J-10H18・19・23, 12J-1H3	中世	Va	N-51°-E N-9°-W	4.67	(0.33)	4.55	(0.13)	0.08	7.30	-	弧状	1					
19-26-27・41	42	1	SD1049	11J-10H17・18	中世	Va	N-78°-W	1.20	0.21	1.14	0.17	0.05	7.32	-	弧状	1					
19-26-27・41	42	1	SD1047	11J-10H21	中世	Va	N-36°-E	0.87	0.25	0.76	0.16	0.07	7.30	-	弧状	1					
19-26-27	43	1	SD1045	12J-1G5, 1H1・6	中世	Va	N-49°-W	1.78	0.26	1.76	0.10	0.10	-	-	弧状	1					
19-26-27・41	43	1	SD1044	12J-1H1・2・3・6・7・8	中世	Va	N-55°-E N-14°-W	7.13	0.43	6.84	0.11	0.08	7.30	-	弧状	1	有	115			
19-26-27・ 29-41	41	1	SD1035	12J-1G15・20・25, 1H6・ 11・16・21, 2G5, 2H1・6・ 11・16・21	中世	Va	N-2°-E N-10°-W	15.49	0.47	15.44	0.28	0.07	7.34	-	-	1	有				
19-26-27・ 29-41	41	1	SD1036	12J-1H6・11・16・21, 2H1・6・11・12・16・ 17・21・22	中世	Va	N-5°-E	(12.28)	1.10	(12.16)	0.92	0.03	7.29	-	-	1	有	113・115			

図版 No.	写真 図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認 面	主軸方向	規模 (m)						底面 標高 (m)	形態		覆土	遺物 の有無	遺物図版 No.	礎		備考
								上端		下端		深度	平面		断面	点数 (点)				重量 (g)		
								長軸	短軸	長軸	短軸											
19-24-26		1	Pit1217	11J-10F10	中世	Va	N-80°-W	0.14	0.10	0.06	0.04	-	-	楕円形	-	-						
19-24-26		1	Pit1218	11J-10F10	中世	Va	N-49°-W	0.18	0.18	0.09	0.06	-	-	円形	-	-						
19-24-26-46	56	1	Pit1087	11J-10F6・11	中世	Va	N-10°-E	0.39	0.35	0.19	0.17	0.19	7.29	円形	V字状	3						
19-24-26		1	Pit1214	11J-10F9・14	中世	Va	N-48°-E	0.23	0.18	0.11	0.06	-	-	不整形	-	-						
19-24-26		1	Pit1030	11J-10F14・15・19・20	中世	Va	N-40°-W	0.30	0.28	0.15	0.07	-	-	円形	-	-						
19-26		1	Pit1031	11J-10F18	中世	Va	N-62°-E	0.26	0.20	0.09	0.08	-	-	楕円形	-	-						
19-26		1	Pit1032	11J-10F18	中世	Va	N-35°-W	0.20	0.18	0.12	0.08	-	-	円形	-	-						
19-26-46	57	1	Pit1029	11J-10F19	中世	Va	N-54°-W	0.32	0.24	0.16	0.09	0.16	7.35	楕円形	V字状	2						
19-26		1	Pit1028	11J-10F19	中世	Va	N-85°-W	0.21	0.18	0.14	0.10	-	-	楕円形	-	-						
19-26		1	Pit1026	11J-10F19・20	中世	Va	N-1°-E	0.37	0.28	0.13	0.09	-	-	円形	-	-						
19-26		1	Pit1027	11J-10F20	中世	Va	N-3°-E	0.25	0.19	0.10	0.08	-	-	円形	-	-						
19-24		1	Pit1227	11J-10G20	中世	Va	N-22°-W	0.21	0.18	0.11	0.11	-	-	円形	-	-						
19-24-26-27-46	55	1	Pit1175	11J-10G10	中世	Va	N-64°-E	0.26	0.19	0.07	0.07	0.12	7.35	円形	漏斗状	3						
19-24-26-27-46	56	1	Pit1180	11J-10G15	中世	Va	N-85°-W	0.22	0.18	0.11	0.10	0.10	7.35	楕円形	半円状	3						
19-26-27-46	57	1	Pit1184	11J-10G20	中世	Va	N-7°-E	0.29	0.26	0.17	0.15	0.10	7.30	円形	半円状	3						
19-27-46	56	1	Pit1187	11J-10I7	中世	Va	N-38°-W	0.20	0.15	0.06	0.05	0.10	7.47	楕円形	半円状	2						
19-27-46	56	1	Pit1188	11J-10I6・11	中世	Va	N-88°-E	0.18	0.15	0.06	0.04	0.16	7.42	円形	U字状	2						
19-27-28-46-50-52	55	1	Pit1113	11K-10A1	中世	Va	N-88°-W	0.27	0.22	0.09	0.05	0.19	7.32	楕円形	U字状	2						
19-26-46		1	Pit1212	12J-1F4	中世	Va	N-90°-E	0.23	0.19	0.12	0.05	-	-	楕円形	-	-						
19-26-46	57	1	Pit1211	12J-1F4	中世	Va	N-75°-W	0.22	0.19	0.11	0.10	0.11	7.34	円形	半円状	2						
19-26		1	Pit1023	12J-1F5	中世	Va	N-74°-E	0.23	0.20	0.10	0.07	-	-	円形	-	-						
19-26		1	Pit1016	12J-1G19	中世	Va	N-56°-E	0.47	0.29	0.13	0.13	-	-	楕円形	-	-						
19-26-27-47	58	1	Pit1017	12J-1G20	中世	Va	N-11°-E	0.31	0.27	-	-	0.07	7.53	長方形	弧状	2						
19-26-27-29		1	Pit1015	12J-1G25	中世	Va	N-76°-W	0.18	0.14	0.12	0.09	-	-	楕円形	-	-						
19-27-46	57	1	Pit1196	12J-1H14	中世	Va	N-7°-E	0.22	0.19	0.12	0.07	0.12	7.51	円形	半円状	1						
19-26-29		1	Pit1040	12J-2G10	中世	Va	N-57°-E	0.31	0.25	0.22	0.14	-	-	楕円形	-	-						
19-26-29		1	Pit1018	12J-2G10	中世	Va	N-29°-W	0.23	0.19	0.10	0.08	-	-	楕円形	-	-	有					
19-26-29		1	Pit1041	12J-2G15	中世	Va	N-38°-W	(0.25)	(0.21)	(0.15)	(0.13)	-	-	円形	-	-						
19-26-29		1	Pit1014	12J-2G10・15	中世	Va	N-51°-E	0.26	0.20	0.15	0.12	-	-	楕円形	-	-						
19-26-29		1	Pit1132	12J-2G20	中世	Va	N-59°-E	0.20	0.13	0.12	0.08	-	-	楕円形	-	-						
19-29-36	35	1	Pit1158	12J-2G24	中世	Va	N-53°-E	0.18	0.15	0.09	0.07	0.04	7.48	円形	半円状	1						
19-26-29		1	Pit1131	12J-2G25	中世	Va	N-41°-W	0.17	0.14	0.08	0.05	-	-	楕円形	-	-						
19-29		1	Pit1130	12J-2G25	中世	Va	N-21°-E	0.20	0.16	0.13	0.05	-	-	楕円形	-	-						
19-29		1	Pit1129	12J-2G25	中世	Va	N-67°-E	0.22	0.21	0.10	0.05	-	-	不整形	-	-						
19-29		1	Pit1128	12J-2G25	中世	Va	N-40°-W	(0.15)	(0.10)	0.08	0.06	-	-	楕円形	-	-						
19-29		1	Pit1156	12J-2G25	中世	Va	N-68°-W	0.16	0.14	0.11	0.07	-	-	円形	-	-						
19-29		1	Pit1133	12J-2G25	中世	Va	N-53°-W	0.24	0.20	0.14	0.10	-	-	楕円形	-	-						
19-26-29		1	Pit1042	12J-2H16	中世	Va	N-69°-W	(0.15)	(0.15)	(0.12)	(0.11)	-	-	円形	-	-						
19-29-30-47	58	1	Pit1191	12J-2I15	中世	Va	N-73°-E	0.23	0.19	0.14	0.08	0.21	7.59	円形	弧状	1						
19-30-31-47-50-52	58	1	Pit1192	12K-2A16	中世	Va	N-48°-E	0.20	0.19	0.09	0.06	0.20	7.46	円形	U字状	3						
19-30-31-47-50-52	58	1	Pit1193	12K-2A22	中世	Va	N-45°-E	0.20	0.16	0.06	0.04	0.19	7.53	楕円形	V字状	3						
19-30-31-50-52		1	Pit1237	12K-2A21	中世	Va	N-84°-E	0.31	0.27	0.16	0.12	-	-	円形	-	-						
19-29		1	Pit1160	12J-3G15	中世	Va	N-6°-E	0.29	0.18	0.21	0.10	-	-	円形	-	-						
19-29-47	59	1	Pit1089	12J-3I13	中世	Va	N-21°-W	0.33	0.24	0.16	0.14	0.25	7.37	楕円形	U字状	1						
19-29-47	59	1	Pit1106	12J-3I14	中世	Va	N-37°-E	0.27	0.20	0.09	0.07	0.09	7.56	楕円形	半円状	2						
19-29-30-47	59	1	Pit1108	12J-3I14	中世	Va	N-85°-W	0.19	0.14	0.07	0.06	0.07	7.59	楕円形	弧状	1						
19-29-30-47	60	1	Pit1202	12J-3I15	中世	Va	N-27°-E	0.26	0.24	0.14	0.05	0.25	7.38	円形	U字状	2						
19-29-30-47	60	1	Pit1203	12J-3I15	中世	Va	N-68°-W	0.18	0.14	0.07	0.06	0.09	7.56	楕円形	半円状	1						
19-30-31-47-52	59	1	Pit1226	12J-3J10	中世	Va	N-76°-W	0.20	0.18	0.08	0.07	0.19	7.52	円形	V字状	1						
19-29-30-47	60	1	Pit1199	12J-3J17	中世	Va	N-2°-W	0.16	0.15	0.08	0.05	0.13	7.53	円形	U字状	2						
19-30-31-50-52		1	Pit1225	12K-3A1	中世	Va	N-90°	0.20	0.15	0.13	0.08	-	-	楕円形	-	-						
19-30-31-50-52		1	Pit1238	12K-3A3	中世	Va	N-46°-W	0.32	0.20	0.13	0.07	-	-	楕円形	-	-						
19-30-31-47-52	60	1	Pit1195	12K-3A12	中世	Va	N-65°-E	0.23	0.17	0.07	0.02	0.16	7.53	楕円形	V字状	2						
19-30-31-52		1	Pit1010	12K-3B14・19	中世	Va	N-37°-E	0.24	0.22	0.12	0.08	-	-	円形	-	-						
19-25-48		1	Pit1228	11J-8I22, 9I2	中世	Va	N-9°-W	0.26	0.17	0.09	0.08	0.10	-	不整形	V字状	-				SA1240		
19-25-48		1	Pit1239	11J-8I17	中世	Va	N-47°-E	0.16	0.16	0.09	0.06	0.20	-	円形	弧状	-				SA1240		
19-25-48		1	Pit1220	11J-8I11	中世	Va	N-28°-W	0.21	0.16	0.09	0.06	0.06	-	不整形	弧状	-				SA1240		
19-23-25-48		1	Pit1232	11J-8I6	中世	Va	N-63°-E	0.19	0.15	0.08	0.07	0.19	-	楕円形	V字状	-				SA1240		
19-24-27-48	61	1	Pit1173	11J-10H1	中世	Va	N-84°-W	0.24	0.23	0.11	0.08	0.17	7.25	円形	U字状	2				SA1241		
19-24-26-27-48	61	1	Pit1174	11J-10H6	中世	Va	N-51°-E	0.27	0.24	0.12	0.08	0.14	7.35	円形	台形状	3				SA1241		
19-24-26-27-48	61	1	Pit1178	11J-10H6	中世	Va	N-62°-E	0.23	0.19	0.13	0.10	0.08	7.41	楕円形	半円状	2				SA1241		
19-24-26-27-48	62	1	Pit1179	11J-10H6・11	中世	Va	N-53°-E	0.34	0.33	0.15	0.09	0.13	7.37	不整形	半円状	2				SA1241		
19-24-26-27-48	62	1	Pit1183	11J-10H11	中世	Va	N-35°-W	0.36	0.30	0.19	0.14	0.18	7.29	円形	半円状	2				SA1241		
19-28-30-31-49-50-51-52	63-63	1	旧河道 1007	11K-9A・9B・10A・10B, 12K-1A・1B・1C・2A・ 2B・2C・3C	古代	Va	N-21°-E N-21°-W	(37.91)	-	(37.91)	-	2.47	6.78	-	弧状	4	有	116・117・ 118・119・ 120・121・ 122・123・ 124・141・ 144・145・ 146・147・ 148	10	341		
19-28-30-31-50-51-52	63-64	1	木道 1008	11K-9B・10B, 12K-1B・ 2B	古代	Va	N-6°-E	24.33	0.92	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

図版 No.	写真図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面標高 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版 No.	礫		備考	
								上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
19・25・27・28・30・31・49・50・52	45・46	1	テラス1004	11K-8A・9A・9B・10A・10J, 12J-1J, 12K1A・2A・2B・3A・3B	古代	Va	N-30°-E N-30°-W	39.86	-	39.24	-	0.53	-	-	-	有	117・125	1	148		
19・25・27・28・30・31・49・50・51・52	63	1	SD1005	11K-9A4・5・9・10・13・14・17・18・22, 10A2・6・7・11・16・21, 12K-1A1・6・7・11・12・17・22・23, 2A3・4・8・9・14・15・20, 2B16・21・22, 3B2・13・14・15, 3C11	古代	Va	N-35°-E N-39°-W	(54.05)	0.88	(54.05)	0.64	0.12	7.07	-	弧状	2	有	125			
19・27・28・30・31・49・50・51・52	63	1	SD1006	11K-10A2・7・12・17・18・22・23, 12K-1A2・3・8・13・18・19・24・25, 2A5	古代	Va	N-12°-W	(21.07)	0.83	(21.07)	0.62	0.17	7.05	-	台形状	2	有	125			
19・30・31・51・52		1	SD1242	12K-3B13・14・15	古代	Va	N-43°-W	(2.80)	0.60	(3.05)	0.38	0.08	-	-	-	1					
54・55	66	2	SD1	10J-7G24・25, 8G3・4・5・9・10・15, 8H1・6・7・11・12・13・17・18・19・23・24	中世	Va	N-45°-W	(9.35)	3.22	(6.71)	0.74	0.65	-	-	台形状	21	有	126	10	6765	
54		2	Pit7	10J-7H23	中世	Va	N-32°-W	0.19	0.15	0.11	0.09	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit8	10J-8H3, 7H23	中世	Va	N-16°-W	0.25	0.24	0.1	0.07	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit35	10J-8G3	中世	Va	N-76°-E	0.31	0.20	0.21	0.10	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit34	10J-8G9	中世	Va	N-68°-W	(0.24)	(0.19)	(0.11)	(0.09)	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit3	10J-8H2	中世	Va	N-44°-W	0.23	0.2	0.11	0.09	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit4	10J-8H2	中世	Va	N-61°-W	0.23	0.22	0.15	0.13	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit10	10J-8H3	中世	Va	N-80°-E	0.17	0.14	0.1	0.09	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit11	10J-8H3	中世	Va	N-89°-E	0.23	0.14	0.09	0.08	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit33	10J-8H4	中世	Va	N-17°-E	0.21	(0.20)	0.12	0.11	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit13	10J-8H4	中世	Va	N-17°-E	(0.25)	0.21	0.18	0.14	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit14	10J-8H4	中世	Va	N-86°-W	0.15	0.13	0.08	0.07	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit15	10J-8H4	中世	Va	N-77°-W	0.25	0.20	0.10	0.10	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit17	10J-8H5	中世	Va	N-31°-E	0.27	0.18	0.16	0.08	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit19	10J-8H5	中世	Va	N-70°-E	0.18	0.15	0.07	0.08	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit5	10J-8H7	中世	Va	N-49°-W	0.22	0.18	0.08	0.06	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit6	10J-8H7・8	中世	Va	N-45°-W	0.24	0.23	0.15	0.11	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit12	10J-8H8	中世	Va	N-43°-E	0.21	0.15	0.11	0.10	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit16	10J-8H9	中世	Va	N-50°-W	0.31	0.22	0.07	0.07	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit20	10J-8I1	中世	Va	N-64°-W	0.20	0.15	0.08	0.07	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit21	10J-8I12	中世	Va	N-68°-E	0.24	0.18	0.12	0.09	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit22	10J-8I12	中世	Va	N-65°-E	0.20	0.15	0.10	0.05	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit24	10J-8I13	中世	Va	N-19°-W	0.19	0.15	0.08	0.06	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit23	10J-8I17・18	中世	Va	N-41°-E	0.25	0.19	0.10	0.08	-	-	楕円形	-	-					
54		2	Pit25	10J-8I18	中世	Va	N-56°-W	0.25	0.22	0.12	0.09	-	-	円形	-	-					
54		2	Pit32	10J-9I3・8・9	中世	Va	N-60°-W	0.31	0.21	0.10	0.09	-	-	不整形	-	-					
56・57・60	68	3	SX505	11J-2C11・12・16・17・21・22, 3C1・2・6・7・11・12・16・17・21・22, 4C1・2	近世以降	Va	N-1°-E	13.25	2.28	12.78	1.78	0.32	7.55	-	-	14	有	126			
56・57・60	68	3	SX509	11J-3C11・12	近世以降	Va	N-90°-W	(1.96)	0.21	(1.96)	1.13	0.25	7.54	-	-	2					
56・58・60	68	3	SX510	11J-5B25, 5C16・21	中世	Va	N-37°-E	1.15	0.54	(0.43)	(0.28)	0.39	7.55	-	台形状	4	有				
56・57・60・61	68	3	SD506	11J-3C21・22, 4C1	近世以降	Va	N-90°-W	(1.85)	1.40	(1.85)	0.28	0.17	7.48	-	台形状	2	有				
56・57・58・60・61	68	3	SD508	11J-4C1・2	近世以降	Va	N-90°-W	(1.75)	0.60	(1.75)	0.10	0.13	7.51	-	弧状	2					
56・57・58・61	69	3	SD504	11J-4C11・12	中世	Va	N-90°-W	(1.68)	0.96	(1.60)	0.18	0.26	7.56	-	台形状	5	有				
56・58・61	69	3	SD502	11J-4C11・16・21, 5C1・6・7・11・12	中世	Va	N-15°-W	(5.83)	1.36	(5.35)	0.83	0.43	-	-	台形状	9	有	126	5	1175	
56・58・61	69	3	SD503	11J-4C21・22, 5C1	中世	Va	N-90°-W	1.00	(0.88)	(0.88)	0.42	0.35	7.51	-	台形状	5	有	126	1	126	
56・58・61	3	SD511	11J-6B3・4	中世	Va	N-73°-W	(0.63)	(0.60)	(0.63)	0.27	0.19	7.58	-	弧状	1						
56・58・61	3	SD512	11J-6B2・3・7・8	中世	Va	N-83°-W	(2.15)	0.70	(2.15)	0.15	0.15	7.59	-	弧状	1						
56・58・61	3	SD513	11J-6B6・7・8	中世	Va	N-88°-E	(2.50)	0.55	(2.50)	0.05	0.14	7.60	-	弧状	1						
56・58	3	Pit501	11J-5B25	中世	Va	N-4°-W	0.30	0.30	0.15	0.10	-	-	-	-	-						

別表3 細池寺道上遺跡第38次調査柱穴列(柵)計測表

図版No.	区	遺構名	グリッド	時期	確認面	主軸方位	規模 (m)	構成遺構	切り合い関係
19・25・48	1	SA1240	11J-8I6・11・17, 9I2	中世	Va	N-23°-W	4.42	Pit1228・1229・1230・1232	
19・24・26・27・48	1	SA1241	11J-10H1・6・11	中世	Va	N-9°-E	2.48	Pit1173・1174・1178・1179・1183	

別表4 細池寺道上遺跡第41次調査遺構計測表

図版 No.	写真図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面標高 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版 No.	礫		備考	
								上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
62・63・69・71・74	76	1	SE357	10J-5B15, 5C11	中世	Va	N-34°-E	1.28	1.08	0.57	0.55	1.21	6.18	円形	U字状	4	有	127・148	2	89.95	
62・63・68・70・74	76	1	SK844	10J-3D15	中世	Va	N-32°-E	0.62	0.58	0.30	0.28	0.25	6.71	円形	台形状	2					
62・63・68・70・74	77	1	SK538	10J-3F12・13・17・18	中世	Va	N-69°-E	2.22	1.95	2.00	1.64	0.16	7.30	円形	弧状	2	有	127			
62・63・68・70・74	77	1	SK537	10J-3F22, 4F2	中世	Va	N-15°-E	1.14	(0.97)	0.85	(0.76)	0.07	7.43	円形	弧状	1					
62・63・67・69・74	77	1	SK519	10J-4B20, 4C16	中世	Va	N-28°-E	0.97	0.75	0.77	0.40	0.14	7.26	不整形	台形状	2	有				
62・63・67・68・69・70・74・83	77	1	SK689	10J-4D12・17	中世	Va	N-82°-W	0.85	0.75	0.65	0.63	0.06	6.50	円形	弧状	1					
62・63・67・68・69・70・74	78	1	SK832	10J-4D8・9	中世	Va	N-68°-E	1.00	0.96	0.70	0.65	0.10	7.12	円形	弧状	2					

図版 No.	写真 図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認 面	主軸方位	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		覆土	遺物 の有無	遺物 図版 No.	礫		備考	
								上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
62・63・68・70・75	78	1	SK492	10J-4F12・13	中世	Va	N-65°-W	1.15	0.74	0.68	0.41	0.43	6.96	楕円形	弧状	1					
62・63・69・75	78	1	SK447	10J-5B7	中世	Va	N-10°-W	0.69	(0.37)	0.27	0.17	0.15	7.19	円形	弧状	2	有				
62・63・70・75	79	1	SK421	10J-5G1	古代	Va	N-59°-E	0.69	0.59	0.49	0.40	0.20	6.88	円形	台形状	—					
62・63・71・75	78	1	SK163	10J-6C7・8	古代	Va	N-3°-W	1.03	0.96	0.90	0.89	0.04	7.21	円形	弧状	1	有	127			
62・63・72・75	79	1	SK222	10J-5G21・22	古代	Va	N-90°-E	1.45	0.55	1.33	0.30	0.15	7.30	楕円形	弧状	2					
62・63・71・72・75	79・80	1	SK140	10J-7D13・18	古代	Va	N-17°-W	(1.90)	1.07	(1.15)	0.80	0.27	7.25	楕円形	弧状	2	有	127			
62・63・71・72・75	79	1	SK139	10J-7D13・18	古代	Va	N-84°-E	0.89	0.70	0.38	0.28	0.19	7.23	円形	弧状	2	有	127			
62・63・71・72・75	80	1	SK138	10J-7D15・20	古代	Va	N-13°-W	(1.02)	0.99	(0.90)	0.73	0.10	7.29	長方形	弧状	2	有	128			
62・63・71・72・75	80	1	SK137	10J-7D5・10, 7E1・6	古代	Va	N-76°-E	0.77	0.60	0.47	0.47	0.08	7.33	長方形	弧状	2	有	128	1	3.21	
62・63・72・75	81	1	SK113	10J-6G21, 7G1	古代	Va	N-27°-W	0.94	0.51	0.65	0.23	0.15	7.34	楕円形	弧状	2					
62・63・71・72・76・89	81	1	SK89	10J-7E14・15	古代	Va	N-82°-E	2.02	(1.41)	(1.04)	0.99	0.62	6.84	円形	階段状	7	有	128・129			
62・63・67・69・76・81	81	1	SX868	10J-4A4・5・9・10	中世	Va	N-55°-E	(1.50)	0.94	0.54	0.48	0.40	6.86	不整形	階段状	3					
62・63・67・68・69・70・76	82	1	SX819	10J-3C20・25, 3D16・21	中世	Va	N-13°-W	(2.14)	1.90	(1.96)	1.58	0.09	7.32	楕円形	弧状	1					
62・63・67・68・70・76	82	1	SX818	10J-3D8・9・13・14	中世	Va	N-55°-E	1.52	(0.95)	0.97	0.85	0.06	7.27	不整形	弧状	1					
62・63・68・77	82	1	SX584	10J-3E4・5・9・10	中世	Va	N-38°-W	1.90	1.41	1.43	1.00	0.07	7.36	楕円形	弧状	1					
62・63・68・77・84	82	1	SX585	10J-2E25, 2F21, 3E5, 3F1・6	中世	Va	N-36°-W	3.40	1.82	2.70	1.46	0.06	7.33	不整形	弧状	1					
62・63・69・70・71・72・77	83	1	SX372	10J-5E14・19・20	中世	Va	N-63°-W	1.63	(1.31)	1.42	(1.20)	0.06	7.32	楕円形	弧状	2	有				
62・63・71・77	83	1	SX146	10J-7C1・2・3・6・7・8	古代	Va	N-79°-W	3.68	(1.78)	3.55	(1.78)	0.12	7.22	長方形	弧状	2	有	129			
62・63・67・78	83・84	1	SD848	10J-2A24・25, 3A4・5, 3B1・6・7	中世	Va	N-64°-W	6.10	0.84	(6.10)	0.50	0.08	7.28	—	台形状	5	有				
62・63・67・69・78・81	83・85・90	1	SD862	10J-3B21・22・23, 4B2・3・4・5・10, 4C1・6	中世	Va	N-74°-W	(16.0)	1.34	(12.4)	0.50	0.39	6.90	—	半円状	4					
62・63・67・69・78	84	1	SD863	10J-4B5	中世	Va	N-29°-E	0.60	0.24	(6.00)	0.14	0.04	7.30	—	弧状	1					
62・63・67・69・78・81・84	84	1	SD462	10J-4B4・9・14・19・20・25, 5B5, 5C1	中世	Va	N-13°-E N-24°-W	(10.90)	0.56	(10.78)	0.24	0.12	7.32	—	弧状	2	有	129・140	1	5.46	
62・63・67・68・69・70・72・78・79・81	84・85・86	1	SD152	10J-2B21, 3B1・2・7・8・13・14・19・20・25, 3C21, 4C1・2・7・8・13・14・19・20・25, 4D16・21・22, 5D1・2・7・8~10・13~15・20, 5E11・16・17・21~23, 6E2~5・8~10・14・15・20, 6F6・11・16~18・21~24, 7F2~5・8~10	中世	Va	N-39°-W N-49°-W	66.24	3.40	(66.24)	0.90	0.70	6.76	—	台形状	3	有	127・129・130・131・140・141・142・143	20	2903.98	
62・63・67・69・78・81	84・85	1	SD880	10J-2B21, 3B1・2・7・8・13・14・18~20・24・25, 4B5, 4C1・2	中世	Va	N-43°-W	(18.96)	0.60	(17.06)	0.38	0.14	7.03	—	弧状	1					
62・63・67・68・69・70・71・72・78・79・88	85	1	SD441	10J-4B10, 4C6~8・11~14・18~20・24・25, 5C5, 5D1・2・6・7・8・12~15・17・20, 5E16・21・22	中世	Va	N-54°-W	(28.58)	1.12	27.40	0.36	0.35	7.13	—	弧状	2	有	131			
62・63・67・68・69・79・80	86・87	1	SD827	10J-2D24・25, 2E9・12~14・16~18・21・22, 3C15・18~20・22~24, 3D3~5・7~9・11~13・16	中世	Va	N-56°-E	29.14	1.68	(29.14)	0.70	0.57	6.76	—	台形状	4	有	131・132・142			
62・63・67・68・70・79・80・81	82・86・87	1	SD823	10J-2E17・21・22, 3C25, 3D5・9・10・13・14・17・18・21・22, 3E1, 4C4・5	中世	Va	N-37°-E N-52°-E	21.92	0.54	21.64	0.20	0.11	7.16	—	弧状	2					
62・63・68・78・79・80・81	85・86・87	1	SD822	10J-2E10・13~15・17~19・21~23, 3D5・9・10・13~15・17~19・21~23, 3E1・2・6, 4C4・5・8~10	中世	Va	N-45°-E N-54°-E	33.20	1.30	(33.2)	0.66	0.66	6.93	—	台形状	4	有	132・133	2	19.0	
62・63・69・70・81	91	1	SD836	10J-3D14・15・18・20・23・24, 3E16・21・22, 4D3・4・9・10・15, 4E2・3・8・9・14・15・19・20・25, 4F21, 5E2・3・8・9・13・14, 5F1	中世	Va	N-42°-W	—	0.74	(48.88)	0.10	0.14	6.95	—	半円状	1					
62・63・68・70・74・80	77・87	1	SD709	10J-3F1・6・11・16・21・22, 4F1・2・6・7・12・17・22	中世	Va	N-9°-W	(16.62)	0.66	(16.56)	0.30	0.08	7.38	—	弧状	1					
62・63・69・70・80	88	1	SD415	10J-4D25, 4E21, 5D5	中世	Va	N-46°-E	(3.64)	0.50	(3.54)	0.28	0.04	7.34	—	弧状	1	有				
62・63・69・70・80	88	1	SD433	10J-4D24・25, 5D3・4・8	中世	Va	N-43°-E	(3.78)	0.64	(3.64)	0.36	0.12	7.27	—	弧状	1					
62・63・69・71・72・80・84・85・86・87・88・89	71・86・88・89	1	SD151	10J-4B21~23, 5B1~5・10, 5C1・2・6~9・13~15・20, 5D11・16・17・21~24, 6D3・4・5・10, 6E6・7・11~13・17~19・23~25, 7E5, 7F1・2・6~8・12・13	古代	Va	N-74°-W N-60°-W N-51°-W	50.36	1.24	(50.36)	0.46	0.38	7.00	—	台形状	3	有	132			
62・63・70・72・75・79・80	85・89	1	SD419	10J-5E25, 5F5・9・10・12~18・21・22, 5G1・2・6, 6E4・5, 6F1	古代	Va	N-49°-E	17.58	1.54	17.58	0.90	0.47	6.96	—	台形状	4	有	132			
62・63・71・77・80	89・90	1	SD147	10J-7B5・10, 7C1・6~8・11~15・19・20, 7D16・17	古代	Va	N-66°-W	13.22	1.74	(13.22)	0.66	0.41	7.11	—	台形状	3	有	132	1	117.09	
62・63・71・77・80	89・90	1	SD148	10J-7C11・12	古代	Va	N-67°-W	(3.70)	0.50	(3.64)	0.34	0.18	7.24	—	半円状	2	有				
62・63・71・80	89・90	1	SD149	10J-7C13・18・19・20	古代	Va	N-59°-W	(4.02)	0.50	(3.78)	0.28	0.11	7.41	—	弧状	1	有	132			
62・63・71・77・80	89・90	1	SD150	10J-7C11・16・17・18	古代	Va	N-67°-W	4.94	0.44	(4.94)	0.36	0.16	7.28	—	弧状	2	有	133			

図版 No.	写真 図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認 面	主軸方位	規模 (m)					底面 標高 (m)	形態		遺物の 有無	遺物 図版 No.	礫		備考	
								上端		下端		深度		平面	断面			覆土	点数 (点)		重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
62-63-67-68-69		1	Pit713	10J-4C4・9	中世	Va	N-22°-W	0.15	0.12	0.06	0.06	0.06	7.32	凹形	台形状	1					
62-63-67-68-69-78	85	1	Pit845	10J-4C9	中世	Va	N-52°-E	0.60	0.49	0.14	0.10	0.28	7.16	楕円形	半円状	2					
62-63-67-68-69		1	Pit859	10J-4C9	中世	Va	N-81°-W	(0.38)	(0.35)	0.06	0.05	0.30	7.13	不整形	—	—					
62-63-67-68-69-70		1	Pit841	10J-4C10	中世	Va	N-40°-W	(0.22)	0.20	0.15	0.13	0.17	7.24	凹形	V字状	1					
62-63-67-68-69-70		1	Pit840	10J-4C10	中世	Va	N-60°-E	0.19	0.11	0.07	0.06	0.07	7.31	凹形	半円状	1					
62-63-67-68-69		1	Pit861	10J-4C12	中世	Va	N-58°-E	0.23	0.14	0.07	0.06	0.16	7.31	凹形	U字状	1					
62-63-67-68-69		1	Pit534	10J-4C12	中世	Va	N-75°-E	0.39	0.35	0.27	0.19	0.11	7.28	凹形	半円状	1					
62-63-67-68-69		1	Pit533	10J-4C12・17	中世	Va	N-5°-E	0.20	0.17	0.07	0.06	0.18	7.26	凹形	U字状	1					
62-63-67-69		1	Pit521	10J-4C16	中世	Va	N-52°-E	0.21	0.19	0.08	0.06	0.10	7.28	凹形	半円状	1					
62-63-67-69		1	Pit522	10J-4C16	中世	Va	N-67°-W	0.23	0.19	0.08	0.07	0.12	7.29	凹形	半円状	1					
62-63-67-69		1	Pit524	10J-4C16	中世	Va	N-63°-E	0.29	0.23	0.19	0.12	0.07	7.34	楕円形	弧状	1					
62-63-67-69-82	95	1	Pit516	10J-4C16・21	中世	Va	N-9°-W	0.46	0.39	0.33	0.24	0.34	7.08	凹形	U字状	2					
62-63-67-69		1	Pit881	10J-4C17	中世	Va	N-80°-W	0.24	0.20	0.08	0.06	0.12	7.28	凹形	半円状	1					
62-63-67-69		1	Pit532	10J-4C17	中世	Va	N-55°-E	0.26	0.23	0.13	0.13	0.12	7.29	凹形	半円状	1					
62-63-67-68-69		1	Pit879	10J-4C18	中世	Va	N-71°-W	0.20	0.19	0.09	0.07	0.10	7.31	凹形	半円状	1					
62-63-67-68-69		1	Pit876	10J-4C18	中世	Va	N-42°-E	0.17	0.16	0.06	0.06	0.11	7.29	凹形	半円状	1					
62-63-67-69		1	Pit877	10J-4C18	中世	Va	N-19°-E	0.22	0.19	0.10	0.09	0.08	7.32	凹形	弧状	1					
62-63-67-69		1	Pit878	10J-4C18	中世	Va	N-43°-W	0.18	0.17	0.04	0.04	0.09	7.33	凹形	半円状	1					
62-63-67-69-70		1	Pit829	10J-4C20	中世	Va	N-37°-W	0.31	0.24	0.14	0.11	0.15	7.08	楕円形	弧状	1					
62-63-67-69-70		1	Pit830	10J-4C20	中世	Va	N-31°-W	0.20	0.17	0.08	0.07	0.11	7.14	凹形	半円状	1					
62-63-67-69-82-85	95	1	Pit526	10J-4C21	中世	Va	N-41°-W	0.34	0.30	0.22	0.20	0.23	7.20	凹形	半円状	2					
62-63-67-69-82	95	1	Pit518	10J-4C21	中世	Va	—	0.29	0.29	0.18	0.14	0.25	7.20	凹形	漏斗状	2					
62-63-67-69		1	Pit527	10J-4C21	中世	Va	N-27°-E	0.28	0.24	0.10	0.06	0.14	7.28	凹形	U字状	1					
62-63-69		1	Pit507	10J-4C21	中世	Va	N-52°-W	0.21	0.16	0.10	0.08	0.15	7.24	凹形	半円状	2					
62-63-69		1	Pit460	10J-4C21, 5C1	中世	Va	N-42°-W	0.29	0.27	0.09	0.04	0.17	7.28	凹形	半円状	2					
62-63-69		1	Pit452	10J-4C22	中世	Va	N-36°-W	0.26	0.25	0.11	0.06	0.10	7.33	凹形	箱状	1					
62-63-69-86		1	Pit453	10J-4C22	中世	Va	N-50°-E	0.29	0.26	0.10	0.07	0.22	7.20	凹形	半円状	1					
62-63-69-82	95	1	Pit455	10J-4C23, 5C3	中世	Va	N-40°-E	0.40	0.33	0.12	0.07	0.37	7.10	凹形	U字状	4					
62-63-69-82		1	Pit457	10J-4C23	中世	Va	N-75°-E	0.23	0.22	0.16	0.07	0.06	7.39	凹形	弧状	1					
62-63-67-69-82	96	1	Pit872	10J-4C23	中世	Va	N-38°-W	0.23	0.20	0.06	0.04	0.15	7.29	凹形	半円状	2					
62-63-67-68-69-70		1	Pit835	10J-4D7	中世	Va	N-2°-W	0.42	0.35	0.14	0.10	0.13	7.15	凹形	V字状	1					
62-63-67-68-69-70-82	96	1	Pit834	10J-4D7	中世	Va	N-52°-E	0.23	0.19	0.10	0.08	0.18	7.18	楕円形	U字状	2					
62-63-67-68-69-70		1	Pit693	10J-4D11	中世	Va	N-55°-W	0.20	0.18	0.12	0.11	0.11	7.33	凹形	V字状	1					
62-63-67-68-69-70-83	96	1	Pit687	10J-4D12	中世	Va	N-42°-E	0.26	0.20	0.15	0.07	0.19	7.26	楕円形	U字状	1					
62-63-67-68-69-70-83	96	1	Pit688	10J-4D12	中世	Va	N-61°-W	(0.24)	0.23	0.19	0.15	0.11	7.33	凹形	U字状	1					
62-63-67-68-69-70		1	Pit686	10J-4D12	中世	Va	N-33°-E	0.15	0.13	0.08	0.08	0.08	7.36	凹形	半円状	1					
62-63-67-69-70-83	96	1	Pit683	10J-4D17	中世	Va	N-45°-W	(0.29)	0.25	0.15	0.13	0.09	7.39	楕円形	弧状	1					
62-63-67-68-69-70		1	Pit831	10J-4D13	中世	Va	N-15°-W	0.40	0.37	0.14	0.12	0.15	7.16	楕円形	弧状	1					
62-63-67-68-69-70		1	Pit824	10J-4D13	中世	Va	—	0.26	0.26	0.15	0.13	0.08	7.31	凹形	弧状	1					
62-63-67-68-69-70		1	Pit825	10J-4D13	中世	Va	N-2°-W	0.14	0.12	0.05	0.04	0.07	7.20	凹形	半円状	1					
62-63-67-68-69-70		1	Pit691	10J-4D13・18	中世	Va	N-65°-E	0.25	0.21	0.12	0.09	0.11	7.27	凹形	半円状	1					
62-63-67-68-69-70		1	Pit826	10J-4D14	中世	Va	N-90°-E	0.16	0.15	0.10	0.08	0.12	7.11	凹形	箱状	1					
62-63-67-69-70		1	Pit682	10J-4D17	中世	Va	—	0.25	0.25	0.13	0.11	0.13	7.26	凹形	半円状	1					
62-63-67-69-70		1	Pit684	10J-4D17	中世	Va	—	0.21	0.21	0.11	0.10	0.22	7.27	凹形	U字状	1					
62-63-67-69-70		1	Pit660	10J-4D17	中世	Va	N-2°-W	0.25	0.23	0.10	0.08	0.21	7.26	凹形	U字状	1					
62-63-67-69-70		1	Pit659	10J-4D18	中世	Va	N-18°-E	0.19	0.18	0.07	0.05	0.11	7.29	凹形	U字状	1					
62-63-68-69-70-83	97	1	Pit566	10J-4E4	中世	Va	N-59°-E	0.17	0.16	0.08	0.08	0.21	7.19	凹形	U字状	2					
62-63-68-70		1	Pit557	10J-4E4・5	中世	Va	N-78°-E	0.35	0.27	0.07	0.07	0.08	7.32	楕円形	弧状	1					
62-63-68-70-90	106	1	Pit556	10J-4E4・5・9・10	中世	Va	N-66°-E	0.40	0.33	0.06	0.04	0.31	7.13	凹形	半円状	1					
62-63-68-70		1	Pit551	10J-4E15	中世	Va	N-88°-W	0.30	0.22	0.04	0.03	0.12	7.26	凹形	半円状	1					
62-63-68-70		1	Pit550	10J-4E15	中世	Va	N-27°-W	0.24	0.20	0.12	0.10	0.08	7.26	凹形	半円状	1					
62-63-68-70		1	Pit564	10J-4F2	中世	Va	N-15°-W	0.20	0.19	0.10	0.03	0.13	7.35	凹形	U字状	1					
62-63-68-70		1	Pit491	10J-4F2・3	中世	Va	N-45°-E	0.22	0.19	0.12	0.07	0.25	7.30	凹形	U字状	1					
62-63-68-70		1	Pit489	10J-4F3	中世	Va	N-74°-E	0.30	0.23	0.15	0.10	0.12	7.35	楕円形	弧状	1					
62-63-68-70		1	Pit487	10J-4F4	中世	Va	N-47°-E	0.29	0.25	0.18	0.11	0.12	7.39	凹形	V字状	1					
62-63-68-70		1	Pit488	10J-4F4	中世	Va	—	0.25	0.25	0.12	0.12	0.10	7.40	凹形	箱状	1					
62-63-68-70		1	Pit563	10J-4F8	中世	Va	N-86°-W	0.25	0.20	0.16	0.10	0.09	7.39	凹形	V字状	1					
62-63-68-70-83	97	1	Pit485	10J-4F8	中世	Va	N-16°-W	0.19	(0.14)	0.04	0.03	0.23	7.12	凹形	U字状	1					
62-63-68-70-83	97	1	Pit484	10J-4F8	中世	Va	N-47°-W	0.24	0.23	0.12	0.10	0.23	7.24	凹形	U字状	1					
62-63-68-70		1	Pit553	10J-4F11	中世	Va	N-18°-W	0.28	0.24	0.15	0.13	0.15	7.28	凹形	半円状	1					
62-63-68-70-90		1	Pit434	10J-4F11	中世	Va	N-83°-E	0.30	0.26	0.15	0.15	0.16	7.24	凹形	半円状	1					
62-63-68-70		1	Pit561	10J-4F6・7・11・12	中世	Va	N-86°-E	0.23	0.18	0.13	0.08	0.06	7.37	凹形	弧状	1					
62-63-68-70		1	Pit483	10J-4F13	中世	Va	N-38°-W	0.33	0.25	0.16	0.12	0.09	7.36	凹形	弧状	1					
62-63-70-83	97	1	Pit437	10J-4F16	中世	Va	N-86°-W	0.26	0.24	0.05	0.03	0.17	7.17	凹形	V字状	2					
62-63-70-83	97	1	Pit436	10J-4F16	中世	Va	—	0.23	0.23	0.11	0.07	0.17	7.27	凹形	弧状	1					
62-63-70		1	Pit479	10J-4F17	中世	Va	N-51°-E	0.25	0.24	0.16	0.15	0.08	7.33	凹形	弧状	1					
62-63-70		1	Pit480	10J-4F18	中世	Va	N-70°-W	0.19	0.17	0.10	0.09	0.17	7.24	凹形	U字状	1					
62-63-70		1	Pit481	10J-4F18	中世	Va	N-53°-E	0.25	(0.09)	0.07	(0.02)	0.09	7.32	凹形	U字状	1					
62-63-70		1	Pit259	10J-4F18・23	中世	Va	N-24°-W	0.26	(0.23)	0.10	0.09	0.24	7.22	凹形	U字状	1					
62-63-70		1	Pit260	10J-4F23	中世	Va	N-58°-E	0.29	0.25	0.07	0.04	0.24	7.19	凹形	漏斗状	1					

別 表

図版 No.	写真図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面標高 (m)	形態		遺物の有無	遺物図版 No.	鏝		備考		
								上端		下端			深度	平面			断面	覆土		点数 (点)	重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
62・63・69・70・71・72		1	Pit330	10J-5D19	中世	Va	N-32°-W	0.24	0.20	0.10	0.07	0.09	7.30	円形	V字状	1					
62・63・69・70・71・72		1	Pit428	10J-5D20	中世	Va	N-63°-W	0.25	(0.19)	0.12	0.11	0.16	7.24	円形	—	—					
62・63・69・70・71・88		1	Pit170	10J-5D21	中世	Va	N-51°-E	0.24	0.20	0.16	0.13	0.12	7.23	円形	半円状	1					
62・63・69・71		1	Pit909	10J-5D22	中世	Va	N-20°-E	0.18	0.14	0.08	0.08	0.11	7.28	円形	U字状	1					
62・63・69・70・71・72		1	Pit882	10J-5D17・18・22・23	中世	Va	N-62°-W	0.35	0.23	0.07	0.04	0.15	7.21	円形	—	—					
62・63・69・70・71・72		1	Pit336	10J-5D23	中世	Va	N-16°-E	0.22	0.17	0.13	0.09	0.09	7.28	円形	半円状	1					
62・63・69・71・72		1	Pit429	10J-5D23・24	中世	Va	N-68°-W	0.30	(0.15)	0.15	(0.07)	0.22	7.26	円形	—	—					
62・63・69・70・71・72		1	Pit329	10J-5D25	中世	Va	N-39°-W	0.22	0.20	0.11	0.10	0.16	7.26	円形	漏斗状	1					
62・63・69・70・90		1	Pit319	10J-5E1	中世	Va	N-66°-W	0.20	0.13	0.10	0.05	0.16	7.24	楕円形	U字状	1					
62・63・69・70・72		1	Pit313	10J-5E6	中世	Va	N-42°-W	0.17	0.15	0.08	0.05	0.08	7.34	円形	半円状	1					
62・63・69・70・71・72		1	Pit311	10J-5E6	中世	Va	—	0.23	0.23	0.16	0.12	0.12	7.29	円形	V字状	1					
62・63・69・70・90		1	Pit440	10J-5E7	中世	Va	N-7°-E	0.24	0.22	0.15	0.11	0.08	7.31	円形	弧状	1					
62・63・69・70・71・72・90		1	Pit306	10J-5E7	中世	Va	N-53°-W	0.20	0.18	0.07	0.06	0.18	7.29	円形	漏斗状	1					
62・63・69・70・71・72		1	Pit307	10J-5E7	中世	Va	N-87°-E	0.18	0.15	0.07	0.06	0.08	7.37	円形	半円状	1					
62・63・69・70・71・72		1	Pit305	10J-5E7	中世	Va	N-48°-E	0.27	0.20	0.17	0.11	0.14	7.32	楕円形	弧状	1					
62・63・69・70・71・72		1	Pit303	10J-5E7・12	中世	Va	N-17°-E	0.43	0.26	0.26	0.15	0.10	7.38	楕円形	半円状	1	有				
62・63・69・70・71・72		1	Pit300	10J-5E8	中世	Va	N-46°-E	0.22	0.19	0.10	0.08	0.22	7.21	円形	V字状	1					
62・63・69・70・71・72		1	Pit302	10J-5E12	中世	Va	N-30°-W	0.19	0.17	0.09	0.08	0.11	7.35	円形	半円状	1					
62・63・69・70・71・72		1	Pit296	10J-5E18	中世	Va	N-55°-E	0.26	0.25	0.15	0.14	0.10	7.28	円形	弧状	1					
62・63・69・70・71・72		1	Pit295	10J-5E14	中世	Va	N-37°-E	0.18	0.16	0.08	0.06	0.11	7.20	円形	U字状	1					
62・63・69・71・72		1	Pit326	10J-5E21	中世	Va	—	0.19	0.19	0.11	0.09	0.06	7.33	円形	弧状	1					
62・63・69・71・72		1	Pit328	10J-5E21	中世	Va	N-87°-E	0.23	0.16	0.12	0.11	0.13	7.25	楕円形	V字状	1					
62・63・69・70・71・72		1	Pit324	10J-5E21	中世	Va	N-86°-E	0.21	0.19	0.13	0.11	0.14	7.23	円形	U字状	1					
62・63・69・71・72		1	Pit293	10J-5E24	中世	Va	N-69°-E	0.17	0.16	0.06	0.06	0.13	7.28	円形	V字状	1					
62・63・70・71・72		1	Pit289	10J-5E25	中世	Va	N-30°-W	0.18	0.17	0.07	0.07	0.18	7.22	円形	漏斗状	1					
62・63・70・71・72		1	Pit288	10J-5E25	中世	Va	N-68°-W	0.26	0.24	0.16	0.09	0.12	7.26	円形	U字状	1					
62・63・71・72		1	Pit290	10J-5E25	中世	Va	N-78°-E	0.41	0.37	0.25	0.20	0.12	7.29	円形	弧状	1					
62・63・70・71・80	89	1	Pit425	10J-5E25	中世	Va	N-36°-W	0.47	0.35	0.37	0.24	0.09	7.32	楕円形	半円状	1					
62・63・70		1	Pit262	10J-5F3	中世	Va	N-36°-E	0.20	0.18	0.07	0.07	0.16	7.27	円形	U字状	1					
62・63・70		1	Pit263	10J-5F3	中世	Va	N-37°-W	0.21	0.20	0.07	0.06	0.15	7.26	円形	U字状	1					
62・63・70		1	Pit264	10J-5F3	中世	Va	N-57°-E	0.30	0.24	0.09	0.06	0.06	7.30	円形	弧状	1					
62・63・70		1	Pit265	10J-5F3	中世	Va	N-57°-E	0.30	0.25	0.21	0.16	0.16	7.22	円形	台形状	1					
62・63・70		1	Pit257	10J-5F4	中世	Va	N-10°-W	0.19	0.18	0.10	0.07	0.15	7.27	円形	V字状	1					
62・63・70		1	Pit251	10J-5F5	中世	Va	N-60°-E	0.23	0.16	0.11	0.06	0.06	7.35	円形	半円状	1					
62・63・70・72		1	Pit269	10J-5F7	中世	Va	N-61°-E	0.21	0.19	0.11	0.10	0.11	7.28	円形	半円状	1					
62・63・70・72		1	Pit267	10J-5F8	中世	Va	N-1°-E	0.23	0.16	0.15	0.08	0.11	7.27	円形	U字状	1					
62・63・70・72		1	Pit246	10J-5F10	古代	Va	N-22°-W	0.39	0.30	0.15	0.09	0.10	7.31	楕円状	弧状	1	有				
62・63・70・72		1	Pit244	10J-5F15	古代	Va	N-54°-W	0.17	0.15	0.08	0.07	0.07	7.35	円形	半円状	1					
62・63・70・72		1	Pit285	10J-5F17	中世	Va	N-80°-E	0.23	0.20	0.10	0.08	0.21	7.05	円形	U字状	1					
62・63・70・72		1	Pit274	10J-5F19	古代	Va	N-42°-W	0.30	0.24	0.10	0.09	0.16	7.19	楕円形	漏斗状	1					
62・63・70・72		1	Pit273	10J-5F19	古代	Va	N-37°-W	0.20	0.18	0.06	0.05	0.09	7.29	円形	半円状	1					
62・63・70・72		1	Pit275	10J-5F19	古代	Va	N-20°-W	0.20	0.18	0.07	0.07	0.07	7.27	円形	半円状	1					
62・63・70・72		1	Pit241	10J-5F20	古代	Va	N-25°-W	0.23	0.20	0.07	0.06	0.09	7.31	円形	半円状	1					
62・63・70・72		1	Pit243	10J-5F20	古代	Va	N-81°-W	0.22	0.19	0.08	0.06	0.09	7.26	円形	半円状	1					
62・63・70・72		1	Pit242	10J-5F20	古代	Va	N-11°-W	0.28	0.24	0.13	0.08	0.12	7.29	円形	台形状	1					
62・63・70・71・72		1	Pit286	10J-5F16・21	中世	Va	N-15°-E	0.20	0.18	0.10	0.08	0.15	7.24	円形	U字状	1					
62・63・70・71・72		1	Pit287	10J-5F21	中世	Va	N-37°-E	0.23	0.21	0.15	0.14	0.08	7.27	円形	弧状	1					
62・63・70・72		1	Pit248	10J-5F23・24	古代	Va	N-60°-W	0.24	0.20	0.10	0.12	0.12	7.27	円形	半円状	1					
62・63・70・72		1	Pit215	10J-5F24	古代	Va	N-38°-E	0.20	0.16	0.05	0.04	0.07	7.23	円形	弧状	1					
62・63・72		1	Pit898	10J-5F24	中世	Va	N-75°-E	0.13	0.10	0.07	0.05	0.11	7.27	円形	U字状	1					
62・63・70・72		1	Pit277	10J-5F25	古代	Va	—	0.16	0.16	0.10	0.07	0.10	7.28	円形	V字状	1					
62・63・70		1	Pit250	10J-5G1	古代	Va	N-29°-W	0.19	0.18	0.10	0.08	0.06	7.36	円形	弧状	1					
62・63・70・72		1	Pit237	10J-5G6	古代	Va	N-29°-W	0.15	0.14	0.09	0.06	0.12	7.31	円形	U字状	1					
62・63・70・72		1	Pit236	10J-5G12	古代	Va	N-42°-E	0.20	0.15	0.07	0.05	0.12	7.30	円形	U字状	1					
62・63・70・72		1	Pit235	10J-5G12	古代	Va	N-4°-W	0.15	0.13	0.07	0.06	0.07	7.33	円形	弧状	1					
62・63・70・72		1	Pit240	10J-5G16	古代	Va	N-71°-E	0.17	0.15	0.07	0.06	0.09	7.27	円形	半円状	1					
62・63・70・72		1	Pit249	10J-5G21	古代	Va	N-90°-E	0.30	0.24	0.16	0.13	0.17	7.25	円形	U字状	1					
62・63・69・71		1	Pit432	10J-6B4	古代	Va	N-26°-E	0.22	0.19	0.14	0.11	0.17	7.14	円形	V字状	1					
62・63・71		1	Pit157	10J-6B10	古代	Va	N-43°-W	0.23	0.18	0.07	0.06	0.16	7.08	円形	U字状	1					
62・63・71		1	Pit52	10J-6B20	古代	Va	N-2°-W	0.23	(0.21)	0.15	0.13	0.14	7.21	円形	U字状	2					
62・63・71		1	Pit53	10J-6B25	古代	Va	N-19°-W	0.30	(0.13)	0.20	(0.08)	0.13	7.25	円形	半円状	1					
62・63・71		1	Pit161	10J-6C2	古代	Va	N-5°-E	0.23	0.22	0.16	0.15	0.26	6.97	円形	U字状	1					
62・63・71		1	Pit160	10J-6C1・6	古代	Va	N-9°-E	0.21	0.19	0.15	0.11	0.08	7.14	円形	台形状	1					
62・63・71		1	Pit168	10J-6C10	古代	Va	N-1°-W	0.23	0.19	0.12	0.09	0.10	7.17	円形	V字状	1					
62・63・71		1	Pit164	10J-6C12・13	古代	Va	N-46°-W	0.18	0.14	0.07	0.06	0.11	7.13	円形	U字状	1					
62・63・71		1	Pit155	10J-6C16	古代	Va	N-68°-E	0.21	0.19	0.20	0.18	0.11	7.19	円形	U字状	1					
62・63・71		1	Pit166	10J-6C18	古代	Va	N-15°-W	0.19	0.16	0.07	0.05	0.11	7.12	円形	台形状	1					
62・63・71		1	Pit154	10J-6C21	古代	Va	N-75°-E	0.21	0.14	0.10	0.05	0.10	7.22	楕円形	半円状	1					
62・63・71		1	Pit2	10J-6C21	古代	Va	N-77°-W	0.20	0.17	0.12	0.08	0.08	7.22	円形	V字状	1					
62・63・71		1	Pit4	10J-6C18・23	古代	Va	—	0.25	0.25	0.12	0.11	0.09	7.22	円形	弧状	1					
62・63・71		1	Pit5	10J-6C23	古代	Va	N-60°-W	0.22	0.21	0.11	0.10	0.14	7.19	円形	半円状	1					

別 表

図版 No.	写真 図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認 面	主軸方位	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		覆土	遺物 の有無	遺物 図版 No.	礫		備考	
								上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
62-63-72-75	79-80	1	Pit420	10J-7D13・18	古代	Va	N-42°-E	(0.75)	0.55	(0.27)	0.23	0.42	6.88	橋円形	U字状	3	有	133			
62-63-71-72		1	Pit46	10J-7D15	古代	Va	N-63°-W	0.25	0.23	0.09	0.08	0.14	7.28	橋円形	半円状	1					
62-63-71-72		1	Pit132	10J-7D15	古代	Va	N-71°-W	0.27	0.24	0.16	0.12	0.07	7.33	円形	弧状	1					
62-63-71		1	Pit44	10J-7D12	古代	Va	N-88°-W	0.17	0.16	0.09	0.07	0.06	7.35	円形	弧状	1					
62-63-71-72		1	Pit133	10J-7D20	古代	Va	N-80°-E	0.20	(0.12)	0.09	(0.07)	0.17	7.36	円形	U字状	1					
62-63-71-72		1	Pit69	10J-7E3	古代	Va	N-89°-E	0.20	0.18	0.13	0.09	0.15	7.28	円形	U字状	1					
62-63-71-72		1	Pit73	10J-7E3	古代	Va	-	0.28	0.28	0.20	0.16	0.14	7.26	円形	半円状	1					
62-63-71-72		1	Pit72	10J-7E3	古代	Va	N-74°-E	0.25	0.20	0.11	0.10	0.14	7.31	円形	半円状	1					
62-63-71-72・89		1	Pit74	10J-7E3・4	古代	Va	N-58°-E	0.25	0.19	0.15	0.10	0.15	7.30	円形	弧状	1					
62-63-71-72		1	Pit77	10J-7E4	古代	Va	N-27°-W	0.28	0.25	0.12	0.12	0.07	7.36	円形	弧状	1					
62-63-71-72		1	Pit79	10J-7E4	古代	Va	N-62°-E	0.27	0.22	0.13	0.11	0.10	7.26	橋円形	半円状	1					
62-63-71-72・80	88	1	Pit95	10J-7E5	古代	Va	N-51°-W	0.19	(0.18)	0.19	(0.12)	0.06	7.38	橋円形	弧状	1					
62-63-71-72		1	Pit51	10J-7E6	古代	Va	N-0°	0.20	0.18	0.07	0.07	0.06	7.37	円形	半円状	1					
62-63-71-72		1	Pit61	10J-7E6	古代	Va	N-0°	0.22	0.21	0.10	0.10	0.06	7.32	円形	弧状	1					
62-63-71-72		1	Pit59	10J-7E6	古代	Va	N-76°-E	0.29	0.26	0.17	0.14	0.08	7.36	円形	弧状	1					
62-63-71-72		1	Pit60	10J-7E6	古代	Va	N-67°-E	0.26	0.24	0.16	0.12	0.06	7.36	円形	弧状	1					
62-63-71-72・89		1	Pit82	10J-7E9	古代	Va	N-40°-W	0.23	0.22	0.10	0.09	0.06	7.38	円形	半円状	1					
62-63-71-72・89		1	Pit80	10J-7E4・9	古代	Va	N-33°-E	0.32	0.29	0.21	0.13	0.09	7.32	円形	弧状	1					
62-63-71-72・89		1	Pit83	10J-7E9	古代	Va	N-9°-E	0.18	0.17	0.08	0.07	0.08	7.37	円形	弧状	1					
62-63-71-72		1	Pit129	10J-7E6・11	古代	Va	N-58°-W	0.53	0.48	0.35	0.28	0.15	7.32	円形	弧状	1	有				
62-63-71-72		1	Pit54	10J-7E11	古代	Va	N-14°-E	0.21	0.19	0.13	0.10	0.05	7.39	円形	弧状	1					
62-63-71-72		1	Pit918	10J-7E11	古代	Va	N-46°-W	0.17	0.16	0.08	0.07	0.10	7.35	円形	半円状	1					
62-63-71-72		1	Pit55	10J-7E11	古代	Va	N-70°-E	0.25	0.20	0.16	0.10	0.08	7.36	円形	半円状	1	有				
62-63-71-72		1	Pit56	10J-7E12	古代	Va	N-67°-E	0.20	0.14	0.09	0.07	0.06	7.38	円形	弧状	1					
62-63-71-72		1	Pit125	10J-7E13	古代	Va	N-78°-E	0.28	0.22	0.15	0.09	0.08	7.38	橋円形	弧状	1					
62-63-71-72・89		1	Pit126	10J-7E13	古代	Va	N-47°-W	0.19	0.18	0.09	0.08	0.08	7.38	円形	半円状	1					
62-63-71-72		1	Pit87	10J-7E14	古代	Va	N-40°-E	0.26	(0.14)	0.11	(0.09)	0.11	7.37	円形	半円状	1					
62-63-71-72		1	Pit91	10J-7E10・15	古代	Va	N-17°-W	0.25	0.24	0.14	0.13	0.11	7.33	円形	台形状	1					
62-63-71-72		1	Pit104	10J-7F1	古代	Va	N-19°-E	0.25	0.16	0.20	0.10	0.13	7.32	橋円形	U字状	1					
62-63-71-72		1	Pit106	10J-7F2	古代	Va	-	0.16	0.16	0.08	0.08	0.06	7.40	円形	弧状	1					
62-63-72		1	Pit109	10J-7F7	古代	Va	N-66°-E	0.18	0.16	0.09	0.09	0.10	7.39	円形	半円状	1					
62-63-71-72		1	Pit922	10J-7F7	古代	Va	N-31°-E	0.27	0.24	0.12	0.11	0.09	7.36	円形	台形状	1					
62-63-71-72		1	Pit418	10J-7F11	古代	Va	N-79°-E	0.17	(0.11)	0.08	(0.05)	0.16	7.38	円形	U字状	1					
62-63-71-72・83	99	1	Pit917	10J-7F12	古代	Va	N-70°-E	0.25	(0.22)	0.03	0.02	0.15	7.29	円形	漏斗状	2					
62-63-72		1	Pit115	10J-7G1	古代	Va	-	0.35	0.35	0.24	0.14	0.18	7.26	円形	半円状	1	有	133			
62-63-72		1	Pit422	10J-7G6	古代	Va	N-73°-W	0.46	0.35	0.32	0.17	0.30	7.15	橋円形	U字状	1					
62-63-68-84		1	Pit646	10J-3F1	中世	Va	N-22°-W	0.24	0.21	0.14	0.11	0.14	7.20	円形	V字状	1				SB869	
62-63-68-84		1	Pit643	10J-3F1	中世	Va	N-10°-W	0.24	0.23	0.13	0.11	0.05	7.36	円形	弧状	1				SB869	
62-63-68-70-84		1	Pit637	10J-3F7	中世	Va	N-0°	0.35	0.22	0.13	0.10	0.09	7.23	円形	弧状	1				SB869	
62-63-68-70-84		1	Pit640	10J-3F7	中世	Va	N-33°-E	0.19	0.18	0.07	0.06	0.07	7.38	円形	半円状	1				SB869	
62-63-69-84		1	Pit445	10J-5B1	中世	Va	N-55°-E	0.25	0.22	0.09	0.07	0.18	7.09	円形	U字状	1				SB883	
62-63-69-84		1	Pit663	10J-5B2	中世	Va	N-42°-E	(0.21)	0.21	(0.15)	0.08	0.21	7.10	円形	U字状	1				SB883	
62-63-69-84		1	Pit667	10J-5B3	中世	Va	N-30°-E	0.16	0.15	0.08	0.07	0.10	7.27	円形	半円状	1				SB883	
62-63-69-71		1	Pit671	10J-5B8	中世	Va	N-30°-E	0.28	0.24	0.15	0.11	0.12	7.25	円形	弧状	1				SB883	
62-63-69-71・84		1	Pit551	10J-5B8・13	中世	Va	-	0.19	0.19	0.09	0.06	0.09	7.23	円形	半円状	1				SB883	
62-63-69-71・84		1	Pit874	10J-5B13	中世	Va	-	0.18	0.18	0.12	0.07	0.10	7.17	円形	半円状	1				SB883	
62-63-67-69-84		1	Pit620	10J-4C16	中世	Va	N-42°-E	0.29	0.24	0.15	0.12	0.09	7.32	円形	弧状	1				SB893	
62-63-67-69-84		1	Pit523	10J-4C16	中世	Va	N-78°-E	0.21	0.16	0.08	0.08	0.10	7.35	円形	弧状	1				SB893	
62-63-67-69-84-85	102	1	Pit531	10J-4C22	中世	Va	N-3°-E	0.34	0.21	0.10	0.08	0.20	7.25	橋円形	半円状	2				SB893	
62-63-67-69-84		1	Pit454	10J-4C23	中世	Va	N-49°-W	0.29	0.25	0.09	0.08	0.22	7.24	円形	半円状	2				SB893	
62-63-69-84		1	Pit471	10J-4C24, 5C4	中世	Va	N-19°-E	0.21	0.14	0.08	0.07	0.09	7.34	円形	半円状	1				SB893	
62-63-69-84		1	Pit873	10J-5C4	中世	Va	N-51°-E	0.21	0.18	0.09	0.09	0.09	7.31	円形	半円状	1				SB893	
62-63-69-70-84-88		1	Pit403	10J-5C10	中世	Va	N-22°-W	0.22	0.20	0.10	0.09	0.21	7.17	円形	U字状	1				SB893	
62-63-67-69-84-85		1	Pit525	10J-4C21	中世	Va	N-61°-W	0.43	0.37	0.16	0.16	0.27	7.15	円形	漏斗状	2				SB893	
62-63-67-69-84-85-86	100	1	Pit509	10J-4C22	中世	Va	N-18°-W	0.26	(0.13)	0.14	0.10	0.18	7.27	円形	U字状	1				SB893	
62-63-69-84-85-86	101	1	Pit466	10J-5C3	中世	Va	N-40°-W	(0.31)	0.30	0.20	0.14	0.43	7.06	円形	V字状	2				SB893	
62-63-69-84-85-86	101	1	Pit473	10J-5C4	中世	Va	-	(0.27)	0.27	0.11	0.09	0.31	7.07	円形	U字状	2				SB893	
62-63-69-70-84-88		1	Pit408	10J-5C10	中世	Va	N-58°-W	0.47	0.40	0.12	0.09	0.55	6.88	円形	階段状	1				SB893	
62-63-67-69-84-85	102	1	Pit539	10J-4B25	中世	Va	N-69°-E	0.27	0.21	0.13	0.11	0.18	7.19	橋円形	U字状	2				SB893	
62-63-69-84-85	100	1	Pit528	10J-5B5	中世	Va	N-62°-E	(0.55)	0.44	0.34	0.22	0.22	7.05	円形	半円状	2				SB893	
62-63-69-84-85	102	1	Pit500	10J-5C6	中世	Va	N-4°-W	(0.49)	(0.36)	0.26	0.13	0.31	7.07	橋円形	U字状	3	有			SB893	
62-63-69-71-84-85-86	101-103	1	Pit381	10J-5C7・8・12・13	中世	Va	N-18°-E	0.48	0.39	0.15	0.10	0.40	6.89	橋円形	階段状	2					

別 表

図版 No.	写真図版 No.	区	遺構名	グリッド	時代	確認面	主軸方位	規模 (m)				底面標高 (m)	形態		覆土	遺物の有無	遺物図版 No.	礫		備考	
								上端		下端			深度	平面				断面	点数 (点)		重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
62・63・70・71・72・90		1	Pit284	10J-5F11・12	中世	Va	N-44°-W	0.24	0.22	0.20	0.08	0.18	7.18	円形	半円状	1				SA865	
62・63・70・72・90		1	Pit268	10J-5F7・12	中世	Va	N-59°-E	0.36	0.25	0.05	0.03	0.14	7.23	円形	弧状	1				SA865	
62・63・70・72・90		1	Pit266	10J-5F8	中世	Va	N-76°-W	0.28	0.24	0.09	0.09	0.09	7.27	円形	半円状	1				SA865	
62・63・71・72・90		1	Pit196	10J-6D10	古代	Va	N-60°-W	0.23	(0.17)	0.08	0.06	0.10	7.29	円形	漏斗状	1				SA907	
62・63・71・72・90		1	Pit195	10J-6D15	古代	Va	N-82°-W	0.26	0.23	0.13	0.08	0.13	7.19	円形	U字状	1				SA907	
62・63・71・72・90		1	Pit189	10J-6D19・20	古代	Va	N-49°-E	0.34	0.25	0.21	0.15	0.07	7.29	楕円形	弧状	1				SA907	
62・63・71・72・90		1	Pit135	10J-6D24	古代	Va	N-64°-E	0.24	0.23	0.15	0.14	0.06	7.32	円形	弧状	1				SA907	
62・63・71・72・90		1	Pit130	10J-7E11	古代	Va	N-83°-E	0.26	0.25	0.15	0.09	0.07	7.36	円形	U字状	1				SA919	
62・63・71・72・90		1	Pit57	10J-7E12	古代	Va	N-74°-E	0.20	0.19	0.11	0.07	0.07	7.38	円形	弧状	1				SA919	
62・63・71・72・90		1	Pit128	10J-7E12	古代	Va	N-78°-E	0.26	0.24	0.14	0.11	0.12	7.34	円形	V字状	1				SA919	
91・95・98	108	2	SX8	13K-10H9・10・14・15	中世	IV	N-14°-E	1.74	(0.43)	1.50	(0.35)	0.40	7.40	楕円形	台形状	3					
91・94・98	109	2	SD18	13K-6G14・15・19・20	中世	Va	N-51°-E	1.72	(1.42)	1.12	(1.42)	0.14	7.39	-	弧状	1	有				
91・94・98	109	2	SD6	13K-7G5・10, 7H6	中世	Va	N-69°-E	1.60	(1.49)	1.45	(1.49)	0.08	7.44	-	弧状	1					
91・94・98	109	2	SD14	13K-7G15・20, 7H11・16・21, 8H1・2・7	中世	IV	N-34°-W	(7.10)	1.00	(7.10)	0.40	0.44	7.30	-	台形状	2	有	138・143			
91・94・95・98	109	2	SD5	13K-8H1・6	中世	IV	N-75°-E	(0.90)	0.54	(0.90)	0.28	0.33	7.43	-	弧状	2					
91・95・98・99	109	2	SD13	13K-8H12・16	中世	Va	N-61°-E	(3.50)	0.40	(3.50)	0.18	0.08	7.36	-	弧状	1					
91・95・98・99	110	2	SD11	13K-8H16・17・21・22	中世	Va	N-66°-E	(3.40)	1.12	(3.40)	0.70	0.12	7.35	-	弧状	1					
91・95・98・99	110	2	SD12	13K-8H13・16・17	中世	Va	N-80°-E N-49°-E	(3.40)	0.80	(3.40)	0.62	0.11	7.36	-	弧状	1	有	138			
91・95・98・99	110	2	SD10	13K-9H13	中世	Va	N-80°-E	(1.42)	1.00	(1.42)	0.80	0.18	7.37	-	弧状	1					
91・95・98・99	110	2	SD9	13K-9H13・14・18・19	中世	Va	N-76°-E	(1.44)	1.10	(1.44)	0.90	0.14	7.36	-	弧状	1					
91・96・97・98・99	110	2	SD3	14K-2I12・17・18・22	近世以降	IIIa	N-60°-E	1.60	(1.52)	1.17	(1.52)	0.63	7.30	-	台形状	3					
91・95・98	110	2	SD7	13K-10H14	中世	IV	N-84°-E	(1.10)	0.44	(1.10)	0.20	0.06	7.51	-	U字状	1					
91・93・99	110・111	2	SN21	13K-3F14・15・19・20, 3G16・21, 4G1・6	中世	IV	N-39°-W	6.38	(3.60)	6.10	(3.60)	0.38	7.38	-	台形状	2	有	138			
91・93・99	111	2	SN20	13K-4G22, 5G2・7・8	中世	IV	N-16°-W	7.20	(1.48)	7.00	(1.48)	0.12	7.38	-	台形状	2	有	138			
91・93・99	111	2	SN19	13K-5G13・18・23	中世	IV	N-19°-W	8.30	(1.40)	7.30	(1.40)	0.17	7.40	-	台形状	2	有	138			
91・95・98・99	111	2	SN4	13K-8H12・16・17・21・22, 9H2・3・8・13・18	中世	IV	N-15°-W	14.40	(3.36)	14.20	(3.36)	0.17	7.46	-	台形状	2					
91・96・97・99	112	2	SN2	14K-1H5・10, 1H1・6・11	中世	IIIb	N-15°-W	6.16	(1.30)	5.56	(1.30)	0.12	7.38	-	台形状	3					
91・96・97・98・99	72・112	2	SN1	14K-1H16-21-22, 2H1-2・7・12・22・23	中世	IIIb	N-13°-W	(14.64)	1.34	(14.64)	(14.36)	0.19	1.09	-	台形状	3					
91・94・99	112	2	Pit17	13K-6G3	中世	Va	N-12°-W	0.54	(0.42)	0.12	0.12	0.48	7.12	楕円形	漏斗状	2					
91・94・99	112	2	Pit16	13K-6G9	中世	Va	N-14°-W	0.34	0.30	0.12	0.10	0.52	7.20	円形	U字状	1					
100・101・104	114	3	SX5	16L-10G9	中世	IV	N-9°-W	1.00	(0.74)	0.80	(0.62)	0.14	7.63	楕円形	弧状	1					
100・101・104	73・114・115	3	SX2	17L-2G9・10・14・15	古代	Va	N-27°-W	1.86	(1.68)	1.60	(1.50)	0.20	7.60	楕円形	台形状	2	有	138			
100・101・104	73・114・115	3	SX6	17L-2G10	古代	Va	N-31°-W	1.10	1.08	0.80	0.80	(0.20)	7.60	円形	-	1	有	138・139・142	5	26.8	
100・101・104	115	3	SD3	17L-1G25, 1H21	近世以降	III	N-10°-W	(1.60)	1.38	(1.60)	0.70	0.38	7.70	-	台形状	2					
100・102・103・104	115	3	SN1	17L-3H16・21, 4H1・6・11・16・21	中世	IV	N-8°-E	13.7	-	-	(1.34)	0.24	7.46	-	台形状	1					
100・101・104	115	3	Pit4	17L-1G20	古代	Va	N-18°-W	0.60	0.40	0.40	0.24	0.08	7.59	楕円形	弧状	1					

別表5 細池寺道上遺跡第41次調査掘立柱建物計測表

1区 SB869

図版No.	84	グリッド	10J-3F1・6・7	桁行 (m)	2間(3.19)	梁行 (m)	2間(1.28)	床面積 (㎡)	5.84以上	時期	中世	構造	側柱	棟方向	東西	
Pit番号	規模 (m)				深度	底面標高 (m)	形態		柱痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-44°-W	切り合い関係		
	上端		下端				平面	断面								
	長軸	短軸	長軸	短軸												
Pit646	0.24	0.21	0.14	0.11	0.14	7.20	円形	V字状	-	646-643	1.28	Pit646>SX585				
Pit643	0.24	0.23	0.13	0.11	0.05	7.36	円形	弧状	-	640-637	1.23					
Pit637	0.35	0.22	0.13	0.10	0.09	7.23	円形	弧状	-	637-646	1.96	備考				
Pit640	0.19	0.18	0.07	0.06	0.07	7.38	円形	半円状	-	-	-					

1区 SB883

図版No.	84	グリッド	10J-5B1~3・7・8・13	桁行 (m)	3間(4.53)	梁行 (m)	2間(2.51)	床面積 (㎡)	6.59以上	時期	中世	構造	側柱	棟方向	東西	
Pit番号	規模 (m)				深度	底面標高 (m)	形態		柱痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-55°-W	切り合い関係		
	上端		下端				平面	断面								
	長軸	短軸	長軸	短軸												
Pit445	0.25	0.22	0.09	0.07	0.18	7.09	円形	U字状	-	445-663	1.38					
Pit663	(0.21)	0.21	(0.15)	0.08	0.21	7.10	円形	U字状	-	663-667	1.31					
Pit667	0.16	0.15	0.08	0.07	0.10	7.27	円形	半円状	-	667-671	1.64					
Pit671	0.28	0.24	0.15	0.11	0.12	7.25	円形	弧状	-	671-351	1.06					
Pit351	0.19	0.19	0.09	0.06	0.09	7.23	円形	半円状	-	351-874	1.14	備考				
Pit874	0.18	0.18	0.12	0.07	0.10	7.17	円形	半円状	-	-	-					

1区 SB893

図版No.	84	グリッド	10J-4B25・4C16・17・21~24, 5B4・5・9・10, 5C1~15・18・19				桁行 (m)	4間(9.00)	梁行 (m)	2間(3.52)	床面積 (㎡)	62.03	時期	中世	構造	側柱	棟方向	東西
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		柱痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-57°-W					
	上端		下端		深度		平面	断面										
	長軸	短軸	長軸	短軸	深度									切り合い関係				
Pit520	0.29	0.24	0.15	0.12	0.09	7.32	円形	弧状	-	520-523	0.98	SB893>SB894 Pit408>Pit407 Pit500>SD151, Pit500=Pit477 Pit381>SD151						
Pit523	0.21	0.16	0.08	0.08	0.10	7.35	円形	弧状	-	523-531	2.48							
Pit531	0.34	0.21	0.10	0.08	0.20	7.25	楕円形	半円状	-	531-454	1.38							
Pit454	0.29	0.25	0.09	0.08	0.22	7.24	円形	半円状	-	454-471	1.54							
Pit471	0.21	0.14	0.08	0.07	0.09	7.34	円形	半円状	-	471-873	1.37							
Pit873	0.21	0.18	0.09	0.09	0.09	7.31	円形	半円状	-	873-403	2.77							
Pit408	0.22	0.20	0.10	0.09	0.21	7.17	円形	U字状	-	520-539	2.85							
Pit525	0.43	0.37	0.16	0.16	0.27	7.15	円形	漏斗状	-	539-675	3.65							
Pit509	0.26	(0.13)	0.14	0.10	0.18	7.27	円形	U字状	-	525-509	2.0							
Pit466	(0.31)	0.30	0.20	0.14	0.43	7.06	円形	V字状	-	509-466	2.48							
Pit473	(0.27)	0.27	0.11	0.09	0.31	7.07	円形	U字状	-	466-473	2.32							
Pit408	0.47	0.40	0.12	0.09	0.55	6.88	円形	階段状	-	473-408	2.2							
Pit539	0.27	0.21	0.13	0.11	0.18	7.19	楕円形	U字状	-	408-397	3.52							
Pit528	(0.55)	0.44	0.34	0.22	0.22	7.05	円形	半円状	-	525-528	3.33							
Pit500	(0.49)	(0.36)	0.26	0.13	0.31	7.07	楕円形	U字状	-	528-500	2.74							
Pit381	0.48	0.39	0.15	0.10	0.40	6.89	楕円形	階段状	-	500-381	2.9							
Pit380	0.24	0.22	0.16	0.11	0.10	7.22	円形	半円状	-	381-380	1.78							
Pit397	0.45	0.34	0.10	0.08	0.30	7.08	楕円形	階段状	-	380-397	1.66							
Pit675	0.22	0.14	0.13	0.09	0.11	7.32	楕円形	V字状	-	397-494	1.36							
Pit875	0.23	0.21	0.12	0.09	0.10	7.32	円形	弧状	-	675-875	2.23							
Pit356	0.20	0.19	0.13	0.08	0.08	7.31	円形	半円状	-	875-356	1.79							
Pit367	0.41	0.30	0.06	0.05	0.57	6.80	楕円形	V字状	-	356-376	1.41							
Pit377	0.55	0.37	0.21	0.18	0.35	6.96	楕円形	半円状	-	367-377	3.06							
Pit494	0.23	0.19	0.13	0.09	0.12	7.25	円形	台形状	-	377-494	1.7							
														備考				
														北及び東西の三面に廂を持つ 床面積には廂部分を含む				

1区 SB894

図版No.	86	グリッド	10J-4C22・23, 5C1~10・13~15				桁行 (m)	3間(7.10)	梁行 (m)	1間(3.46)	床面積 (㎡)	22.61	時期	中世	構造	側柱	棟方向	東西
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		柱痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-57°-W					
	上端		下端		深度		平面	断面										
	長軸	短軸	長軸	短軸	深度									切り合い関係				
Pit474	0.28	0.26	0.21	0.14	0.19	7.24	円形	半円状	-	474-467	2.32	SB894<SB893 Pit407<Pit408, Pit504>SD151 Pit493>SD151, Pit396>SD151						
Pit467	0.23	0.15	0.10	0.08	0.05	7.38	楕円形	弧状	-	467-472	2.08							
Pit472	0.33	0.28	0.14	0.12	0.59	6.83	楕円形	U字状	-	472-407	2.73							
Pit407	0.45	(0.29)	0.32	(0.21)	0.16	7.26	楕円形	半円状	-	504-493	3.06							
Pit504	0.41	0.32	0.20	0.11	0.07	7.08	楕円形	弧状	-	493-396	3.51							
Pit493	(0.48)	(0.35)	0.14	0.12	0.10	7.20	楕円形	半円状	-	504-474	3.46							
Pit396	0.34	0.29	0.18	0.15	0.37	6.95	楕円形	U字状	-	396-407	3.21							
														備考				

1区 SB895

図版No.	87	グリッド	10J-5C7~9・11~14・17~19・23				桁行 (m)	2間(4.88)	梁行 (m)	2間(3.92)	床面積 (㎡)	17.48	時期	中世	構造	側柱	棟方向	東西
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		柱痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-53°-W					
	上端		下端		深度		平面	断面										
	長軸	短軸	長軸	短軸	深度									切り合い関係				
Pit387	0.41	0.36	0.28	0.22	0.28	7.04	円形	箱状	-	387-505	2.13	Pit387>SD151 Pit505>SD151 Pit439>SD151						
Pit505	0.25	0.18	0.05	0.03	0.20	6.98	円形	V字状	-	505-439	1.99							
Pit439	(0.25)	0.21	0.12	0.07	0.48	6.84	円形	U字状	-	360-364	2.00							
Pit385	0.26	0.18	0.09	0.07	0.16	7.34	楕円形	V字状	-	364-340	2.88							
Pit360	0.18	0.17	0.07	0.05	0.17	7.18	円形	漏斗状	-	360-385	1.89							
Pit364	0.28	0.20	0.17	0.11	0.15	7.14	楕円形	U字状	-	385-387	1.88							
Pit340	0.28	0.26	0.11	0.11	0.21	7.08	円形	U字状	-	340-439	3.92							
														備考				

1区 SB910

図版No.	88	グリッド	10J-5C9・10・14・15・20・25, 5D6・7・11・12・16・17・21・22				桁行 (m)	3間(6.96)	梁行 (m)	1間(4.12)	床面積 (㎡)	27.11	時期	中世	構造	側柱	棟方向	東西
Pit番号	規模 (m)					底面標高 (m)	形態		柱痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-29°-W					
	上端		下端		深度		平面	断面										
	長軸	短軸	長軸	短軸	深度									切り合い関係				
Pit870	0.28	0.26	0.13	0.11	0.25	7.16	円形	U字状	-	870-411	4.01	Pit870>SD151 Pit411>SD151 Pit502>SD151 Pit399>SD151 Pit338>SD151 Pit495>SD151 Pit169>SD151 Pit335>SD151						
Pit411	0.24	0.22	0.12	0.08	0.14	7.23	円形	V字状	-	169-335	4.12							
Pit502	0.18	0.16	0.08	0.05	0.15	7.26	円形	箱状	-	169-495	1.77							
Pit399	0.26	0.20	0.09	0.07	0.17	7.17	円形	U字状	-	495-399	1.59							
Pit338	0.20	0.16	0.14	0.07	0.08	7.31	円形	V字状	-	399-870	3.6							
Pit495	0.24	0.21	0.15	0.11	0.06	7.23	円形	台形状	-	335-338	2.74							
Pit169	0.21	0.20	0.11	0.10	0.08	7.25	円形	弧状	-	338-502	1.67							
Pit335	0.26	0.23	0.13	0.11	0.15	7.25	円形	弧状	-	502-411	1.76							
														備考				

1 区 SB901

図版No.	88	グリッド	10J-5G22, 6G1~3・6・7		桁行 (m)	1間(3.37)	梁行 (m)	2間(2.12)	床面積 (㎡)	7.36	時期	古代	構造	側柱	棟方向	東西
Pit番号	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		柱 痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-42° -E	切り合い関係		
	上 端		下 端		深 度		平 面	断 面								
	長軸	短軸	長軸	短軸												
Pit223	0.27	0.24	0.14	0.10	0.10	7.38	円形	弧状	-	223-229	2.12					
Pit229	0.19	0.19	0.11	0.09	0.06	7.37	円形	半円状	-	229-230	1.03					
Pit230	0.30	0.25	0.18	0.14	0.09	7.37	円形	半円状	-	220-227	2.3					
Pit220	0.29	0.25	0.15	0.11	0.05	7.35	円形	弧状	-	220-223	2.37					備考
Pit227	0.31	0.28	0.18	0.13	0.09	7.35	円形	半円状	-	227-230	3.28					

1 区 SB920

図版No.	88	グリッド	10J-6C25, 6D21, 7C5, 7D1・2		桁行 (m)	1間(2.81)	梁行 (m)	1間(2.25)	床面積 (㎡)	5.91	時期	古代	構造	側柱	棟方向	東西
Pit番号	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		柱 痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-58° -E	切り合い関係		
	上 端		下 端		深 度		平 面	断 面								
	長軸	短軸	長軸	短軸												
Pit11	0.24	0.24	0.11	0.09	0.12	7.17	円形	漏斗状	-	11-912	2.67					
Pit912	0.18	0.15	0.10	0.09	0.17	7.19	円形	U字状	-	23-24	2.81					
Pit23	0.26	0.23	0.10	0.08	0.14	7.22	円形	半円状	-	23-11	2.25					備考
Pit24	0.31	0.29	0.10	0.07	0.22	7.17	円形	U字状	-	24-912	2.03					

1 区 SB899

図版No.	89	グリッド	10J-6E23, 7E2~4・7・8		桁行 (m)	1間(3.00)	梁行 (m)	1間(2.40)	床面積 (㎡)	6.75	時期	古代	構造	側柱	棟方向	東西
Pit番号	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		柱 痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-52° -E	切り合い関係		
	上 端		下 端		深 度		平 面	断 面								
	長軸	短軸	長軸	短軸												
Pit63	0.30	0.26	0.16	0.11	0.14	7.27	円形	U字状	-	63-68	3.0					
Pit68	0.35	0.27	0.20	0.15	0.10	7.37	円形	弧状	-	123-75	2.99					
Pit123	0.28	0.25	0.16	0.13	0.08	7.33	円形	弧状	-	123-63	2.4					備考
Pit75	0.36	0.25	0.21	0.10	0.20	7.26	円形	弧状	-	75-68	2.1					

1 区 SB916

図版No.	89	グリッド	10J-7E5・9・10・14, 7F1・6		桁行 (m)	2間(5.28)	梁行 (m)	1間(1.93)	床面積 (㎡)	9.68	時期	古代	構造	側柱	棟方向	東西
Pit番号	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		柱 痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-75° -E	切り合い関係		
	上 端		下 端		深 度		平 面	断 面								
	長軸	短軸	長軸	短軸												
Pit81	0.22	0.21	0.14	0.11	0.06	7.37	円形	弧状	-	81-94	2.67					
Pit94	0.20	0.17	0.12	0.09	0.14	7.32	円形	弧状	-	86-914	1.70					
Pit105	0.22	0.20	0.10	0.09	0.10	7.36	円形	半円状	-	914-915	3.29					
Pit86	0.24	0.22	0.13	0.10	0.15	7.27	円形	台形状	-	94-105	2.62					
Pit914	0.21	0.18	0.12	0.09	0.10	7.36	円形	弧状	-	86-81	1.82					備考
Pit915	0.20	0.14	0.05	0.04	0.18	7.29	円形	U字状	-	915-105	1.93					

1 区 SB921

図版No.	89	グリッド	10J-7E13・14		桁行 (m)	2間(3.93)	梁行 (m)	1間(1.51)	床面積 (㎡)	6.31	時期	古代	構造	側柱	棟方向	東西
Pit番号	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		柱 痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-49° -E	切り合い関係		
	上 端		下 端		深 度		平 面	断 面								
	長軸	短軸	長軸	短軸												
Pit85	0.26	0.24	0.12	0.10	0.17	7.29	円形	U字状	-	85-88	1.58					
Pit88	0.16	(0.10)	0.09	(0.05)	0.35	7.35	円形	V字状	-	127-85	2.00					備考
Pit127	0.22	0.20	0.13	0.11	0.28	7.27	円形	V字状	-							

1 区 SB924

図版No.	89	グリッド	10J-7E15・7F11		桁行 (m)	1間(2.20)	梁行 (m)	1間(1.76)	床面積 (㎡)	3.90	時期	古代	構造	側柱	棟方向	南北
Pit番号	規 模 (m)					底面標高 (m)	形 態		柱 痕	柱穴間隔	距離 (m)	方位	N-15° -E	切り合い関係		
	上 端		下 端		深 度		平 面	断 面								
	長軸	短軸	長軸	短軸												
Pit92	0.21	(0.19)	0.10	0.09	0.33	7.25	円形	漏斗状	-	-	-					備考

別表 6 細池寺道上遺跡第 41 次調査柱穴列 (柵) 計測表

図版 No.	区	遺構名	グリッド	時期	確認面	主軸方位	規模 (m)	構成遺構	切り合い関係
90	1	SA923	10J-3A10・15, 3B11	中世	Va	N-54° -W	4.70	Pit742・743・758・766・768	
90	1	SA867	10J-4D6・7・12・13・17・18	中世	Va	N-45° -W	5.49	Pit476・612・685・692	
90	1	SA866	10J-5D5, 5E1・7・8・13・14	中世	Va	N-53° -E	8.14	Pit294・301・310・318	
90	1	SA864	10J-3E12・17・18・23・24, 4E4・5・9・10・15, 4F11	中世	Va	N-36° -W	13.28	Pit435・552・555・570・618・619	P555<P556
90	1	SA865	10J-5E20, 5F7・8・11・12・16	中世	Va	N-48° -E	7.56	Pit266・268・284・291	
90	1	SA919	10J-7E11・12	古代	Va	N-65° -W	2.20	Pit57・128・130	
90	1	SA907	10J-6D10・15・19・20	古代	Va	N-7° -E	5.72	Pit135・189・195・196	P196<P417
87	1	SA896	10J-5C15・19・20・24	中世	Va	N-36° -E	(3.96)	SD412, Pit438・498・499	SD412<SD151・P401 SD412>P498・499 P499<P401

別表 7 細池寺道上遺跡第 32・38・41 次調査土器・陶磁器観察表

- 凡例
- 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
 - 器種 第V章に記した。
 - 法量 口径・底径・器高を示す。括弧付の数値は遺存率の低いものである。
 - 器高指数 器高/口径×100
 - 底径指数 底径/口径×100
 - 胎土 胎土に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「焼」は焼土粒、「白」は白色凝灰石、「角」は角閃岩、「海」は海綿骨針を表す。
 - 色調 『新版標準土色帳』[小山・竹原 1967]の記号を記した。
 - 焼成 酸化炭焼成・還元炭焼成の区別を記した。須臾器で酸化したものは褐色あるいは橙色の色調で軟質なものを表す。白色・灰白色のものは含めていない。
 - 手法 特徴的な手法のみを記し、網羅的な記載は行っていない。底部の「糸切り」・「ヘラ切り」はいずれも回転台を用いたものである。回転方向は回転台の回転方向を表す。底部調整やロクロケズリ・ロクロナデから判断した。
 - 遺存率 分数表示で遺存割合を示した。

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土		産地	色調		焼成	手法				回転	遺存率			付着物		時期	備考		
				区	遺構名					グリッド	口径	底径			器高	状態		含有物	外面		内面	外面	工具痕	内面		工具痕	底部	口縁部	底部	全体			内面	外面
111	126	1	11	1		17L-6H18	II	土師器	長甕	B1	(18.8)				普通	石・雲		にぶい黄橙 (10YR7/4)	明黄褐 (10YR6/6)	酸化	ロクロナデ、ケズリ						1/36		1/36			V		
111	126	2	11	2		18L-115	I	珠洲焼	片口鉢			10.8						黄褐 (10YR5/6)	灰 (5Y4/1)	還元								6/36	1/36					
111	126	3	11	2		18L-5J1	II	須臾器	無台杯			8.0			普通	石・長	B	灰 (10Y5/1)	灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					8/36	2/36					
111	126	4	11	2	旧河道1	18L-119	IV	唐津焼	片口鉢									赤褐 (10R5/4)	赤褐 (10R5/4)	還元									1/36				砥石に転用	
111	126	5	11	2	旧河道1	18L-1125	IV	肥前・白磁	水注		5.0							灰白 (N8/0)	灰白 (N8/0)										12/36	2/36				
111	126	6	12	1		SK1033 SN1001	12J-1G20 12J-1H21 12J-1G15	1 1・2・3 II	土師器	長甕	B2	20.9			普通	石・長・雲・チ・焼		浅黄橙 (10YR8/4)	黄橙 (10YR8/6)	酸化	ロクロナデ、カキメ、タタキメ	Ha	ロクロナデ、当て具痕	Hd			10/36		12/36	スス	コゲ			
111	126	7	12	1		SK1033	12J-1G20	1・2	土師器	長甕					普通	石・長・チ・焼		灰黄褐 (10YR6/2)、黒褐 (10YR3/2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ、タタキメ	Ha	ロクロナデ、当て具痕	扇形				10/36						
111	126	8	12	1		SK1033 SK1043	12J-1G20 12J-1G19	1	土師器	長甕	B1	20.0			普通	石・長・雲・チ・焼		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				8/36		4/36					
111	126	9	12	1		SK1033	12J-1G20	1	土師器	長甕	B1	(18.4)			普通	石・長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ				2/36		1/36					
111	126	10	12	1		SK1033	12J-1G20	1	土師器	長甕					普通	石・長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	タタキメ	Ha	当て具痕	Hd				1/36						
111	126	11	12	1		SK1033	12J-1G20	1	土師器	鍋	B1	35.0			普通	石・長・雲・焼・白		浅黄橙 (7.5YR8/3)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ、カキメ、タタキメ	Hd	ロクロナデ、カキメ、タタキメ、ハケメ	Hd			5/36	3/36		スス				
111	126	12	12	1		SK1033	12J-1G20	1	土師器	鍋	B1	(38.0)			普通	石・長・雲・チ・焼		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36		1/36					
112	126	13	12	1		SK1033	12J-1G20	1	土師器	鍋					普通	石・長・雲		橙 (7.5YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ、タタキメ	Hb	ロクロナデ、当て具痕	Hd				1/36						
112	126	14	12	1		SK1033	12J-1G20	2	土師器	鍋					普通	石・長・雲・焼		灰白 (2.5Y7/1)、浅黄橙 (10YR8/4)	灰白 (2.5Y7/1)、浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、カキメ、タタキメ	Ha	ロクロナデ、当て具痕	Hd				2/36		スス				
112	126	15	12	1		SK1034 SN1001	12J-1G20・25 12J-2H24 12J-3H3	2 1・2	須臾器	横瓶					普通	石・長	C	灰白 (10YR8/1)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	カキメ、タタキメ	Ha	当て具痕				9/36	2/36				IV~V		
112	126	16	12	1		SK1034	12J-1G20	1	土師器	小甕	B1	(16.0)			普通	石・長・焼		浅黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ、カキメ				3/36		1/36					
112	126	17	12	1		SK1034	12J-1G20	1	土師器	壺					普通	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、カキメ					1/36						
112	126	18	12	1		SK1090	12J-3I12・13	1	土師器	長甕					普通	石・長・雲		明赤褐 (5YR5/8)	明赤褐 (5YR5/8)	酸化	ロクロナデ、タタキメ	Ha	当て具痕	Ha				1/36						
112	126	19	12	1		SK1090	12J-3I12・13	1	土師器	小甕		5.7			普通	石・長・焼		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ハケメ		ハケメ				10/36	3/36						
112	126	20	12	1		SK1090	12J-3I12・13	1	土師器	鍋	C1b	(41.3)			精	石・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36		1/36					
112	127	21	12	1		SX1239	12J-2G4	1	須臾器	無台杯	B1	13.7	9.6	3.4	25	71	普通	石・長・海	C	灰 (7.5Y5/1)	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り		5/36	13/36	12/36			V	
112	127	22	12	1		SX1239	12J-2G4	1	須臾器	有台杯	B1II	11.6			精	石・長・雲	C	灰 (10Y5/1)	灰 (10Y4/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					8/36	4/36				V	
112	127	23	12	1		SX1239	12J-2G4	1	土師器	無台杯a	BII	12.0			精	石・雲		灰黄 (2.5Y7/2)	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					5/36	1/36					
112	127	24	12	1		SX1236	12J-2I13 12J-2I18	1 3	土師器	長甕	C2	22.0			粗	長・チ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				8/36		2/36					

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土		産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考								
				区	遺構名					グリッド	口径	底径			器高	状態		含有物	外面		内面	外面	工具痕	内面	工具痕	底部	回転	口縁部	底部			全体	内面	外面					
																																			裏	表	裏	表	裏
112	127	25	12	1	SX1236	12J-2I18	2	土師器	長囊						普通	石・長・焼	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	タタキメ	Ha	ハケメ、当て具痕	Dc																
112	127	26	12	1	SX1236	12J-2I13 12J-2I18	1 II	土師器	鍋	B1	40.0				普通	石・長・雲・チ	にぶい橙 (5YR6/4)	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ、カキメ、ケズリ		ロクロナデ、カキメ				5/36		2/36	炭化物										
112	127	27	12	1	SD1003	12J-1J13	4	須恵器	壺						普通	石・長・雲	黄灰 (2.5Y6/1)	灰白 (N7/)	還元	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ、ナデ						1/36					IV~V						
112	127	28	12	1	SD1003	11J-9I2	4	土師器	長囊	B1	(24.0)				精	石・長	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36		1/36											
112	127	29	12	1	SD1003	12K-2A18	11	土師器	無台碗			5.9			精	石・長・焼	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		7/36	2/36		炭化物										
112	127	30	12	1	SD1003	12K-2A12	3	土師器	鍋	C2	(38.0)				普通	石・雲	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ				1/36		1/36											
113	127	31	12	1	SD1003	12K-2A12	11	土師器	小囊			7.6			精	石・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り		8/36	2/36												
113	127	32	12	1	SD1003	11J-10I10	12	土師器	鍋						普通	石・雲・焼	暗褐 (10YR3/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	タタキメ	Hc	当て具痕	Hb						1/36										
113	127	33	12	1	SD1055	11J-7G24	1	須恵器	無台杯			7.8			普通	長	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		7/36	1/36												
113	127	34	12	1	SD1056	11J-8H11	2	須恵器	無台杯	B I	(13.4)				普通	長	灰 (N5/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36		1/36						V~IV					
113	127	35	12	1	SD1069	11J-9G22	2	土師器	小囊	B1	(16.0)				精	石・長・雲	浅黄橙 (10YR8/3)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36		1/36											
113	127	36	12	1	SD1076	11J-10E10	1	越前焼	甕							石	にぶい褐 (7.5YR6/3)	灰黄褐 (10YR6/2)	還元			当て具痕もしくは指圧痕						1/36								緑色ガラス質釉薬			
113	127	37	12	1	SD1102	12J-2G18	1	須恵器	無台杯			9.0			精	石・長	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り後ナデ		10/36	2/36							IV2・3					
113	127	38	12	1	SD1102	12J-2G18	2	土師器	無台碗	A II	(13.2)				普通	石・長	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36		2/36											
113	127	39	12	1	SD1102	12J-2G18	1	土師器	小囊			5.8			普通	長	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り後ミガキ		9/36	2/36												
113	127	40	12	1	SD1102	12J-2G7	1	土師器	鍋	C1a	(39.6)				普通	石・長	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36		1/36											
113	127	41	12	1	SD1102	12J-1F19	1	珠洲焼	甕								灰 (N5/0)	褐灰 (10YR6/1)	還元	タタキメ		当て具痕						1/36											
113	127	42	12	1	SD1103	12J-2G13	1	土師器	長囊						普通	石・長・雲・チ	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ケズリ		ハケメ						1/36											
113	127	43	12	1	SN1001	12J-1H17	3	須恵器	無台杯	B I	13.4	9.0	3.4	25	67	普通	石・長・白	灰 (N5/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	右	11/36	36/36	25/36						IV1				
113	127	44	12	1	SN1001	12J-2H2	1・2	須恵器	無台杯	A I	(14.1)	7.0	3.4	24	50	普通	石・長	青灰 (5PB5/1)	明青灰 (5PB7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り後ナデ		2/36	11/36	10/36							IV1			
113	127	45	12	1	SN1001	11J-9H14 11J-10H8 12J-1H16	3 1・2 1・2	須恵器	無台杯	C II	(11.8)	8.2	3.3	28	69	精	長	灰 (7.5Y6/1)	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		1/36	12/36	10/36							V			
113	127	46	12	1	SN1001	12J-1H12・13	1・2	須恵器	有台杯	C I	(12.8)					精	石・長	灰 (N5/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		3/36		2/36							IV			
113	127	47	12	1	SN1001	12J-1H7	1・2	須恵器	無台杯	B I		6.5				精	石・長・雲・チ	灰黄 (2.5Y6/2)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		2/36	13/36	4/36							IV1~IV2			
113	127	48	12	1	SN1001	12J-1H6	1・2	須恵器	無台杯	B I	(12.7)	(9.6)	3.1	24	76	普通	石	灰 (N5/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		1/36	3/36	2/36							V			
113	127	49	12	1	SN1001	12J-1H7・17	1・2	須恵器	無台杯	B I	13.2						石・長	灰 (N5/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				9/36		4/36								IV		
113	127	50	12	1	SN1001	12J-2H17 SD1036 SD1038 12J-2H18	1・2 1 1	須恵器	無台杯			6.6					長・焼	灰白 (2.5Y7/1)	橙 (7.5YR7/6)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		5/36	2/36									V		
113	127	51	12	1	SN1001	12J-1H6 12J-1G24	1・2 I・II	須恵器	無台杯			9.0					石・長	明褐灰 (5YR7/1)	明褐灰 (7.5YR7/1)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		10/36	15/36									IV1		
113	127	52	12	1	SN1001	11J-9H18・23	1・2	須恵器	有台杯	B I I	13.3	(8.9)	3.9	29	67	精	石・長・白	オリーブ黒 (5Y3/2)	灰 (5Y4/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		4/36	3/36	7/36							IV2・3			
113	127	53	12	1	SN1001	12J-1H21 12J-2H1・2 12J-2H7	1・2 3	須恵器	有台杯	B I I	13.8	9.0	4.6	33	65	精	石・長	灰 (N5/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り	右	8/36	20/36	19/36								III2~IV1		
113	127	54	12	1	SN1001	12J-1H11 12J-3H10 12J-2H11	1・2 I・II	須恵器	有台杯	A I I	(13.6)	9.1	4.0	29	67	精	石・長・白	灰 (7.5Y6/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り		1/36	5/36	6/36								IV1~IV2		
114	127	55	12	1	SN1001	11J-9H13・22	3	須恵器	有台杯	B I II	11.6					精	石・長	灰 (N4/0)	灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		2/36								IV2・3		
114	127	56	12	1	SN1001	12J-1H17	1・2	須恵器	杯蓋	C I	13.4					精	長	灰 (5Y6/1)	灰黄 (2.5Y6/2)		ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		1/36								V		
114	127	57	12	1	SN1001	11J-9H17 11J-10H4・9	1・2	須恵器	杯蓋							精	石・長・白	灰オリーブ (5Y6/2)	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ		ロクロナデ		ヘラ切り			10/36		自然釉	自然釉						IV2・3		

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置				層別	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土		産地	色調		焼成	手法					遺存率			付着物		時期	備考			
				区	遺構名	グリッド	口径					底径	器高	状態			含有物	外面		内面	外面		工具痕	内面	工具痕	底部	回転	口縁部	底部	全体	内面	外面					
																																			口縁部	底部	全体
114	127	58	12	1	SN1001	12J-2H12 12J-2H19	1・2 I・II	須恵器	大甕			20.0				普通	石・長	C	灰 (N4/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ						4/36		1/36				III~V	
114	127	59	12	1	SN1001 SD1037	12J-2H7 12J-1H22 12J-1F6 12J-2H2	1・2 I II I・II	須恵器	大甕							精	石・長	C	灰 (5Y4/1)	灰 (5Y5/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	Hd						1/36						
114	127	60	12	1	SN1001	12J-1H16	1・2	須恵器	横瓶		(10.4)					普通	石・長	C	褐灰 (10YR6/1)	灰黄 (2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ、 タタキメ、ハケメ	Hd	ロクロナデ、 当て具痕	Da				1/36		1/36					IV~V	
114	127	61	12	1	SN1001	12J-2H18 12J-1H22	1・2 I・II	須恵器	短頸壺							普通	長	C	灰オリブ (5Y5/2)	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ							2/36			自然釉	III~V		
114	127	62	12	1	SN1001	12J-1H12・16	1・2	須恵器	短頸壺								石・長	C	灰 (N6/0)	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ、 カキメ		ロクロナデ						2/36			自然釉	III~V			
114	128	63	12	1	SN1001	12J-1H22	1・2	土師器	有台皿		(12.1)						長			にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ		ロクロナデ、 ナデ				3/36		2/36						
114	128	64	12	1	SN1001	12J-1H2・18・22	1・2	土師器	長甕	B1	21.9					粗	石・長・焼			橙 (5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、 カキメ		ロクロナデ、 カキメ				5/36		3/36						
114	128	65	12	1	SN1001	12J-2H12	1・2	土師器	長甕	B2	(21.8)					普通	長・雲			にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36		2/36						
114	128	66	12	1	SN1001	12J-1H21	1・2	土師器	小甕	B1	14.3					普通	石・長・雲・ 焼			橙 (5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		2/36						
114	128	67	12	1	SN1001	12J-1H22 12J-2G5	1・2 I・II	土師器	小甕	C2	14.0					粗	石・長・チ・ 焼			浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		3/36				IV		
114	128	68	12	1	SN1001	11J-10H4	1・2	土師器	小甕	C2	11.8					普通	石・長・焼			橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				7/36		4/36						
114	128	69	12	1	SN1001	12J-1H21	3	土師器	小甕			7.8				普通	石・長・チ・ 焼			浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、 ケズリ		ロクロナデ、 ナデ				7/36		3/36						
114	128	70	12	1	SN1001	12J-2H7	1・2	土師器	小甕			7.6				普通	石・長・チ			灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、 ロクロナデ、 カキメ		ロクロナデ、 カキメ				10/36		2/36						
114	128	71	12	1	SN1001	12J-1G5	2	土師器	鍋	B1	(44.0)					精	長・雲			浅黄橙 (10YR8/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、 カキメ		ロクロナデ、 カキメ				2/36		1/36						
114	128	72	12	1	SN1001	12J-3H25	1・2	土師器	鍋	C1a	(43.8)					精	石・雲			浅黄橙 (10YR8/4)・ (7.5YR8/6)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36		1/36						
114	128	73	12	1	SN1001	12J-2H1	1・2	土師器	鍋	B1	(36.2)					普通	石・長・焼			橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36		1/36						
114	128	74	12	1	SN1001	12J-2H2	1・2	土師器	鍋	C2	(38.1)					普通	長・チ・焼			にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36		1/36						
114	128	75	12	1	SN1001	12J-2H17	3	黒色土器	無台椀			6.0				普通	石			浅黄橙 (10YR8/3)	灰 (N4/0)		ロクロナデ		ミガキ		糸切り		11/36		3/36						
115	128	76	12	1	SD1036	12J-1H16	1	土師器	無台椀			4.8				精	石			にぶい橙 (7.5YR7/4)、 褐灰 (7.5YR6/1)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	左	10/36		3/36						
115	128	77	12	1	SD1036	12J-1H16	1	土師器	小甕	B1	15.7					普通	石・長・チ			にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		2/36						
115	128	78	12	1	SD1036	12J-1H16	1	土師器	小甕	B1	14.0					精	石・長・チ			淡橙 (5YR8/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		2/36						
115	128	79	12	1	SD1036	12J-1H16	1	土師器	鍋	B1	(40.7)					普通	石・長・チ・ 焼			にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、 カキメ		ロクロナデ、 カキメ				2/36		1/36						
115	128	80	12	1	SD1037	12J-1H8	1	須恵器	有台杯			(6.9)				精	石・長	C	灰 (10Y5/1)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ切り			3/36		2/36				IV2~V		
115	128	81	12	1	SD1037	12J-1H22	1	土師器	長甕	B1	(22.6)						石・長・チ			にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、 カキメ		ロクロナデ、 カキメ				1/36		1/36						
115	128	82	12	1	SD1037	12J-1H23	1	土師器	小甕			6.4				普通	石・長・チ			にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				6/36		2/36						
115	128	83	12	1	SD1037 SN1001	12J-1H22・23 12J-1H17	1 1・2	黒色土器	無台椀	A2II	(14.6)	6.0	(4.5)	31	41		石・長・焼			灰白 (10YR8/2)	黒 (10YR2/1)	酸化	ミガキ、ロク ロナデ		ミガキ		ケズリ		3/36	10/36	2/36						
115	128	84	12	1	SD1044	12J-1H2	1	須恵器	鉢							精	石・長	C	灰白 (5Y7/1)	灰黄 (2.5Y7/2)	還元	カキメ、ハケ メ								1/36							
115	128	85	12	1	SD1154	12J-3H16	1	土師器	長甕							普通	石・チ			橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ハケメ		ハケメ					1/36							
115	128	86	12	1	SD1038	12J-1H18	1	土師器	無台椀			4.5				普通	石・長・雲・ チ			にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	36/36		2/36				VII		
115	128	87	12	1	SD1039	12J-1H23	1	須恵器	杯蓋	C1	(14.0)					精	石・長	B	灰白 (2.5Y7/1)	灰黄 (2.5Y6/2)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36		1/36					V		

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土状態	胎土含有物	産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考			
				遺構名	グリッド					口径	底径	器高						外面	内面		外面	内面	工具痕	底面	回転	口縁部	底部	全体	内面			外面		
																																	口径	底径
115	128	88	12	1	SD1039	12J-2H8	1	黒色土器	無台椀						普通	長・雲・チ	D	にぶい黄橙 (10YR7/3)	黄灰 (2.5Y4/1)	還元	ケズリ、ミガキ													
115	128	89	12	1	SN1002	12J-1G6・11	2	須恵器	無台杯	BII	12.4	9.2	3.1	25	74	普通	石・長・白	D	灰 (N6/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り	10/36	13/36	15/36			IV2・3		
115	128	90	12	1	SN1002	11J-10G23	2	須恵器	無台杯	BII	(12.2)					精	石・長	C	灰白 (5Y7/2)	灰白 (5Y7/1)、灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ					2/36		1/36			IV		
115	128	91	12	1	SN1002	11J-10F20 11J-10G17・23・24	2	須恵器	有台杯			8.6				普通	石・長	B	灰 (N5/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り	左	20/36	18/36			V		
115	128	92	12	1	SN1002	12J-1G17	2	須恵器	短頸壺							精	長	B	灰 (7.5Y5/1)	灰白 (N7/0)	還元	ロクロナデ						1/36				V~VI		
115	128	93	12	1	SN1002	12J-1G18	2	須恵器	短頸壺							精	長	C	黄灰 (2.5Y5/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ						1/36	自然釉	自然釉	III~V			
115	128	94	12	1	SN1002	11J-10G23 11J-10G24	4 2	土師器	鍋	B1	(41.9)					普通	石・長・チ・焼		浅黄橙 (10YR8/4)	橙 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ					2/36		1/36					
115	128	95	12	1	SN1002	11J-10G2	2	土師器	長甕	D	(25.0)					粗	石・チ		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化						2/36		1/36					
115	128	96	12	1	SN1002	11J-10G22	2	珠洲焼	片口鉢		26.2						石		灰白 (10YR8/1)	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ					4/36		1/36			IV		
115	128	97	12	1	SN1002	12J-1G1	2	珠洲焼	片口鉢		(33.6)						石		灰 (N5/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ					2/36		1/36					
115	128	98	12	1	SD1019	11J-9G24		土師器	鍋							普通	石・長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	タタキメ	Ha	当て具痕	Hb			1/36						
119・128・138	99	12	1		旧河道1007	12K-1B7	3f	須恵器	無台杯	AII	12.3	9.0	3.5	28	73	普通	石・長・白	C	灰 (N5/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り、ハケメ	右	7/36	16/36	15/36		漆	IV2・3	底部外面漆書「口〔田カ〕か「口〔山カ〕」
119・128	100	12	1		旧河道1007	12K-1B12 12K-1B16 12K-1B21	3f 3e 3	須恵器	無台杯	B1	14.0	9.0	3.3	24	64	普通	石・長・雲	C	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (2.5Y8/1)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り後ナデ	右	12/36	36/36	17/36			IV1	
118・119・128	101	12	1		旧河道1007	12K-1B11・12 12K-1B16	3e・3f 3e	須恵器	無台杯	B1	13.6	8.7	3.8	28	64	精	石・長	B	明褐灰 (7.5YR7/1)	灰褐 (7.5YR5/2)	酸化	ロクロナデ				ヘラ切り	左	31/36	36/36	32/36			V	
119・128	102	12	1		旧河道1007	12K-1B11・12	3f	須恵器	無台杯	B1	12.5	7.9	3.4	27	63	精	石・長・白	C	灰白 (5Y7/1)	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り		14/36	10/36	11/36			V	
119・128	103	12	1		旧河道1007	12K-1B17	3e	須恵器	無台杯	BII	12.1	8.0	3.4	28	66	精	石・長・白	C	灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り		7/36	12/36	12/36			V	
116	128	104	12	1	旧河道1007	12K-1B11	3d	須恵器	無台杯	B1	(12.8)					精	石・長	C	灰白 (N8/0)	灰白 (7.5Y8/1)	還元	ロクロナデ					3/36		10/36			IV~V		
116	128	105	12	1	旧河道1007	12K-1B16	3d	須恵器	無台杯	BII	(12.0)					普通	石・長・雲	B	灰 (7.5Y6/1)、一部：灰 (N5/0)	灰 (7.5Y6/1)、一部：灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り		2/36		2/36			V~VI	
116	128	106	12	1	旧河道1007	12K-1B11	3e	須恵器	無台杯	BII	12.2					精	石・長	C	灰白 (2.5Y8/1)、口縁部：黄灰 (2.5Y6/1)	浅黄 (2.5Y7/3)、口縁部：灰白 (2.5Y8/1)	還元	ロクロナデ					4/36		3/36			IV~V		
116	128	107	12	1	旧河道1007	12K-1A20	3d	須恵器	無台杯	A1	(13.1)					精	石・長	C	灰 (N6/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ					3/36		2/36			IV~V		
116	128	108	12	1	旧河道1007	12K-1A10	3d	須恵器	無台杯	B1	13.1	7.6	3.3	25	58	精	石・長	B	灰白 (10YR8/1)、灰白 (5Y7/1)	灰白 (10YR8/1)、灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り		4/36	24/36	7/36			VI1	
118・119・128・138	109	12	1		旧河道1007	12K-1B11・12	3f	須恵器	無台杯	B1	12.9	7.8	3.1	24	60	精	石・長・白	B	褐灰 (5YR5/1)	褐灰 (5YR5/1)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り	左	27/36	31/36	25/36				体部外面から底部外面墨書「口」カ
118・119・128	110	12	1		旧河道1007	12K-1B6	3f	須恵器	無台杯	BII	12.4	7.1	3.1	25	57	精	石・長	B	灰 (7.5Y6/1)	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り後ナデ	右	36/36	36/36	36/36			VI	
118・119・128	111	12	1		旧河道1007	12K-2B2	3d	須恵器	無台杯	BII	12.5	8.7	2.9	23	70	精	長	B	灰 (N6/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り	左	36/36	36/36	34/36			VI	
119・128	112	12	1		旧河道1007	12K-1B12	3f	須恵器	無台杯	B1	12.6	7.9	3.4	27	63	普通	長	B	灰 (5Y5/1)	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り	左	16/36	31/36	19/36			VI	
118・119・128	113	12	1		旧河道1007	12K-1B6	3f	須恵器	無台杯	BII	11.7	6.5	2.9	25	56	精	長	B	褐灰 (10YR4/1)	褐灰 (10YR4/1)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り	左	28/36	36/36	34/36	炭化物	炭化物	VI	
116	129	114	12	1	旧河道1007	12K-2B24	3d	須恵器	無台杯	B1	13.0					普通	石・長	B	灰白 (5Y7/1)	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ					4/36		3/36			VI		
116	129	115	12	1	旧河道1007	12K-1B21	3d	須恵器	無台杯	BII	12.3					精	石・長	B	灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ					4/36		3/36			VI		
116	129	116	12	1	旧河道1007	12K-2B24	3d	須恵器	無台杯			8.0				精	長	B	灰 (N6/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り		9/36	7/36			VI		

図版No.	写真図版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土		産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考				
				遺構名	グリッド					口径	底径	器高			状態	含有物		外面	内面		外面	工具痕	内面	工具痕	底部	回転	口縁部	底部	全体			内面	外面		
116	118・119・129	117	12	1	旧河道1007	12K-1B1 12K-1B7・12	3e 3f	須恵器	有台杯	B2 I	13.4	7.7	6.5	49	57	精	長・雲	B	灰 (5Y5/1)	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左	27/36	36/36	31/36			VI			
116	118・119・129・138	118	12	1	旧河道1007	12K-1B1	3f	須恵器	有台杯	B2 I	12.6	7.0	5.8	46	56	精	長	B	灰 (5Y5/1)	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左	21/36	36/36	35/36			VI	体部外面墨書「南」		
116	119・129	119	12	1	旧河道1007	12K-2B1	3d	須恵器	有台杯	C2 I	12.7	7.9	5.9	46	62	普通	長	B	灰 (10Y5/1)	灰 (10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り		12/36	14/36	16/36			VI			
117	129	120	12	1	旧河道1007	12K-1B17	3f	須恵器	有台杯			8.2				普通	長	B	灰 (5Y4/1)	オリープ黒 (5Y3/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り	左		36/36	2/36			V~VI			
117	129	121	12	1	旧河道1007	12K-1A5	3d	須恵器	有台杯	1		6.0				精	石・長・雲	C	灰 (5Y4/1)	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り		8/36	2/36			V				
117	118・129	122	12	1	旧河道1007	12K-2B3・18	3d	須恵器	杯蓋	2						普通	石・長	C	灰 (N5/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ、 ロクロケズリ	ロクロナデ					2/36				IV2~V			
117	129	123	12	1	旧河道1007	12K-1B1	3f	須恵器	杯蓋							普通	石・長	B	灰白 (7.5Y7/1)	黒 (10Y2/1)	還元	ロクロナデ、 ヘラ切り	ロクロナデ					1/36	墨痕			VI	転用硯		
117	118・124	124	12	1	旧河道1007	11K-10B21 12K-1A20 12K-1B6・7・11 12K-1B12・16・17 12K-1B21・22 12K-2B1・2・8・18 テラス1004 12K-3C13	3e・3f 3d 3f 3d・3e 3d 3d 2c	須恵器	大甕			22.3		(61.0)			普通	長・雲・白	C	暗灰 (N3/0)	灰 (7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ、 タタキメ	Ha	ロクロナデ、 当て具痕、 ハケメ	Dc Hd			36/36		24/36			III~V	
117	129	125	12	1	旧河道1007	12K-1B22	3e	須恵器	大甕							精	石・長	C	暗灰 (N3/0)	明灰 (N3/0)	還元	タタキメ	Hd	当て具痕、 ナデ	Hd				1/36				III~V		
117	129	126	12	1	旧河道1007	12K-2B13	3d	須恵器	大甕		16.5					精	石・長・海	C	灰 (5Y6/1)	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ、 タタキメ	Ha	ロクロナデ、 当て具痕	Hd		6/36		1/36				III~V		
117	129	127	12	1	旧河道1007	12K-1B6	3f	須恵器	大甕								石・長	C	褐灰 (10YR5/1)	灰 (N6/0)	還元	タタキメ		当て具痕				2/36				III~V			
118	118・120	128	12	1	旧河道1007	11K-10B6 12K-1A15 12K-1B1・6・16 12K-1B11 12K-2B13・18	3e 3d・3e 3e 3d・3e・3f 3d	須恵器	長頸壺			11.4	12.4	24.9	218	109	普通	石・長	B	黄灰 (2.5Y5/1)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ、 タタキメ	格子	ロクロナデ		ヘラ切り		15/36	3/36	22/36			VI	
118	118・119・138	129	12	1	旧河道1007	11K-10B21	3e	須恵器	長頸壺			10.9					石・長	B	灰 (N5/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ、 タタキメ、 ナデ	格子	ロクロナデ		ヘラ切り 後ナデ		36/36	18/36				V~VI		
118	118・120・138	130	12	1	旧河道1007	12K-1A15 12K-1B1・2・6・11・16・17・21・22 12K-2B1・2	3e	須恵器	環状把手付壺			12.2					石・長・白	A	灰 (N5/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ、 タタキメ、 取手貼り付け	Ha	ロクロナデ		ヘラ切り 後ナデ		30/36	28/36				V	底部外面墨痕 転用硯	
118	129	131	12	1	旧河道1007	12K-2B24	3d	須恵器	壺蓋	A	10.9					精	長・雲	B	黒 (2.5Y2/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36		1/36		自然釉	V			
118	129	132	12	1	旧河道1007	12K-1B24	3e	須恵器	壺蓋		14.2					精	石・長	C	灰 (N6/0)	灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36		2/36			III~V			
118	118・120	133	12	1	旧河道1007	11K-10B21 12K-1B1・6 12K-1B2 11K-10B21	3e 3f 3f 3f	須恵器	横瓶							精	石・長	B	明青灰 (5PB4/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	Dc					16/36				V~VI	
119	118・120・129・138	134	12	1	旧河道1007	12K-1B1 12K-1B2	3e・3f 3f	土師器	無台椀 a	A1 I	16.6	5.0	4.7	28	30	精	石・長・雲		にぶい椀 (5YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右	30/36	36/36	31/36					底部外面墨書「口」〔八カ〕	
119	129・138	135	12	1	旧河道1007	11K-10B7	3f	土師器	無台椀 a	A I	5.8					精	石・長・雲		にぶい黄椀 (10YR7/3)	にぶい黄椀 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右	36/36	13/36					底部外面墨書「口」〔十カ〕		
119	118・121・129	136	12	1	旧河道1007	12K-1B12 12K-1B17	3f 3e	土師器	無台椀 a	A2 I	16.2	6.4	5.6	35	40	精	石・長・雲・ 焼		にぶい椀 (5YR7/4)	にぶい椀 (5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右	22/36	36/36	30/36						
119	120・129	137	12	1	旧河道1007	12K-1B21	3d	土師器	無台椀 a	A1 II	13.4	5.4	4.0	30	40	精	石・長・雲		椀 (5YR6/6)	にぶい黄椀 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右	7/36	36/36	18/36	スス	スス				
119	121・129	138	12	1	旧河道1007	11K-10B17 11K-10B21	3f 3e・3f	土師器	無台椀 a	A2 III	12.8	5.3	4.3	34	41	精	石・長・チ		淡黄 (2.5Y8/3)	明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り	右	17/36	36/36	20/36						

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	胎土含有物	産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考				
				区	遺構名					グリッド	口径	底径						器高	状態		外面	内面	外面	工具	内面	工具	底部	回転	口縁部			底部	全体	内面	外面
119	129	139	12	1	旧河道1007	K2K-1B17	3f	土師器	無台椀a	A I	15.6				精	石・長・白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ												
119	121・121・129	140	12	1	旧河道1007	K2K-1B1	3e	土師器	無台椀a	A2Ⅲ	12.7	5.4	4.2	33	43	精	石・長・焼		にぶい黄橙 (10YR7/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	30/36	36/36	33/36	スス	スス			
119	118・121・129	141	12	1	旧河道1007	K2K-1B22	3d・3e	土師器	無台椀a	A2Ⅲ	12.1	4.8	3.7	31	40	普通	石・長・焼		にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り後ナデ	右	24/36	36/36	30/36					
119	121・130	142	12	1	旧河道1007	K2K-1B7	3f	土師器	無台椀a	A2Ⅲ	12.4	5.7	3.9	31	46	精	石・長・雲・チ		橙 (5YR6/6)	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	4/36	36/36	20/36	スス				
119	118・121・130	143	12	1	旧河道1007	K2K-1B6・7・11・12	3f	土師器	無台椀a	A2Ⅲ	12.0	4.8	4.0	33	40	精	石・長		にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	24/36	36/36	32/36					
119	130	144	12	1	旧河道1007	K2K-1B16	3d	土師器	無台椀a	AⅢ	(12.0)					精	石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36		3/36					
119	130	145	12	1	旧河道1007	K2K-1B12	3f	土師器	無台椀a	AⅢ	11.9					普通	石・長・チ		浅黄 (2.5Y7/4)	浅黄 (2.5Y7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				6/36		2/36					
119	121・130	146	12	1	旧河道1007	K2K-1B22 K2K-1B23	3e・3d 3e	土師器	無台椀a	B I	16.4	6.5	5.0	30	40	普通	石・長・雲・焼		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		ヘラ		16/36	29/36	20/36		炭化物			
119	118・121・130・138	147	12	1	旧河道1007	K2K-1B22	3e	土師器	無台椀a	B2Ⅱ	14.8	6.0	4.8	32	41	精	石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	36/36	36/36	36/36			外面側面墨書「口〔満カ〕」		
119	121・130	148	12	1	旧河道1007	K2K-1B7・12	3f	土師器	無台椀a	C2Ⅱ	13.5	5.1	4.4	33	38	普通	石・長・雲		浅黄橙 (7.5YR8/6)	にぶい黄 (2.5Y6/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	3/36	36/36	25/36	炭化物				
119	130	149	12	1	旧河道1007	K2K-1B6		土師器	無台椀a	BⅡ	14.5					普通	石・長・雲		浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		2/36					
119	130	150	12	1	旧河道1007	K2K-1B11	3f	土師器	無台椀a	BⅡ	(13.6)					普通	石・長		浅黄 (2.5Y7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36		2/36					
119	130	151	12	1	旧河道1007	K2K-1B17	3e	土師器	無台椀a	BⅢ	12.2					普通	石・長		浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		3/36					
119	130	152	12	1	旧河道1007	K2K-1B6	3f	土師器	無台椀a	BⅢ	(12.0)					普通	石・雲		褐灰 (10YR4/1)	褐灰 (10YR4/1)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36		2/36					
120	130	153	12	1	旧河道1007	K2K-1B12	3f	土師器	無台椀a	C I	15.8					普通	石・長・雲		淡黄 (2.5Y8/3)	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		3/36					
120	130	154	12	1	旧河道1007	K2K-1B6・7	3f	土師器	無台椀a	CⅢ	12.6					普通	石・長		にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				8/36		4/36					
120	130	155	12	1	旧河道1007	K2K-1B1	3e・3f	土師器	無台椀a	CⅢ	12.2					普通	石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)、一部：橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				6/36		5/36					
120	130	156	12	1	旧河道1007	K2K-2B7	3d	土師器	無台椀a			6.6			普通	石・長・雲・チ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	18/36		8/36		炭化物				
120	130	157	12	1	旧河道1007	K2K-1B17	3e	土師器	無台椀a			5.7			普通	石・長・チ		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	36/36		13/36						
120	130	158	12	1	旧河道1007	K2K-1B6・11	3d	土師器	無台椀a			5.4			普通	石・長・雲・焼		にぶい橙 (5Y6/4)	にぶい橙 (5Y6/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	32/36		15/36	スス	スス				
120	130	159	12	1	旧河道1007	K2K-1B6	3f	土師器	無台椀a			5.5			普通	石・長・雲・焼		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	33/36		2/36						
120	130	160	12	1	旧河道1007	11K-10B16	3f	土師器	無台椀a			5.4			普通	石・長		にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、ミガキ		糸切り	右	36/36		2/36		スス				
120	130	161	12	1	旧河道1007	K2K-1B17	3e	土師器	無台椀a			5.2			普通	石・長・白		灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右	32/36		2/36						
120	130	162	12	1	旧河道1007	K2K-2B13	3d	土師器	無台椀a			5.3			普通	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				15/36		2/36						
120	130	163	12	1	旧河道1007	K2K-1B16	3d	土師器	無台椀b	A I	15.1					普通	石・長・雲・焼		橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ		ミガキ、ロクロナデ		ミガキ		14/36		5/36		炭化物			
120	130	164	12	1	旧河道1007	K2K-1B11	3f	土師器	無台椀b	B I	(16.1)					普通	石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36		2/36					
120	118・121・130	165	12	1	旧河道1007	K2K-1B12	3f	土師器	無台椀b	B I	16.5	6.0	4.0	24	36	精	石・雲		にぶい橙 (5YR6/4)	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ		12/36	8/36	16/36	スス				
120	130	166	12	1	旧河道1007	K2K-1B6	3f	土師器	無台椀b	BⅡ	13.8					普通	石・長		橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、ミガキ				3/36		2/36					
120	130	167	12	1	旧河道1007	K2K-1B24	3e	土師器	無台椀b	C I	15.2					普通	石・長・雲		にぶい橙 (5YR7/4)	灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	ロクロナデ、ミガキ		ロクロナデ、ミガキ				5/36		3/36	炭化物	炭化物			
120	130	168	12	1	旧河道1007	K2K-1B7・12	3f	土師器	無台椀b	CⅡ	14.8					精	石・長		灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい赤褐 (5YR5/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、ミガキ				14/36		10/36	漆	スス			

図版No.	写真図版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	含有物	産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考			
				遺構名	グリッド					口径	底径	器高						外面	内面		外面	工具	内面	工具	底部	回転	口縁部	底部	全体			内面	外面	
																																		口径
120	130	169	12	1	旧河道1007	12K-1B22	3d	土師器	長甕	A	20.4				普通	石・長・雲・チ・焼		にぶい橙 (5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ、カキメ				4/36		1/36	スス	コゲ			
120	130	170	12	1	旧河道1007	12K-1B22	3e	土師器	長甕	B2	24.0				普通	石・長・雲		にぶい黄褐 (10YR5/3)	灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ				4/36		2/36	スス	スス			
120	130	171	12	1	旧河道1007	12K-1B22	3e	土師器	長甕	B1	17.2				精	石・長・雲		にぶい橙 (7.5YR7/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ、カキメ				6/36		2/36	スス	スス			
120	130	172	12	1	旧河道1007	12K-1B17	3d	土師器	長甕	B1	22.0				普通	石・長・雲		灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ、カキメ				7/36		2/36	スス	スス			
120	130	173	12	1	旧河道1007	12K-1B16 12K-1B22	3d 3d・3e	土師器	長甕	B1	20.4				普通	石・長・雲		灰黄 (2.5Y6/2)	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ				4/36		2/36		スス			
120	130	174	12	1	旧河道1007	12K-1B16	3e	土師器	長甕	B1	(20.0)				普通	石・長・チ		にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36		1/36					
121	118・121	175	12	1	旧河道1007	12K-1A20・25 12K-1B2・12 12K-1B11 12K-1B16・17・22 12K-1B21 12K-2B2・3	3d 3f 3e 3d・3e 3d	土師器	長甕	B1	20.0		(31.7)	159	普通	石・長・雲・焼		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、ケズリ、タタキメ	Ha	ロクロナデ、ナデ、当て具痕	Da			7/36	36/36	18/36		スス	V		
121	130	176	12	1	旧河道1007	12K-2B6	3d	土師器	長甕	B1	21.0				精	石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		2/36					
121	122	177	12	1	旧河道1007	12K-1B11 12K-1B17 12K-1B22	3f 3e 3d・3e	土師器	長甕						普通	石・長・雲・チ		褐 (10YR4/4)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ、タタキメ	Ha	ロクロナデ、当て具痕、ハケメ	Hd			36/36	15/36		スス				
121	131	178	12	1	旧河道1007	12K-1B12	3f	土師器	長甕						普通	石・長・雲		にぶい黄 (2.5Y6/3)	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ、タタキメ、カキメ	Hd	ロクロナデ、当て具痕	Hd			1/36							
121	131	179	12	1	旧河道1007	12K-1B22	3e	土師器	長甕						普通	石・長		黒褐 (10YR3/1)	黒 (10YR1.7/1)	酸化	タタキメ	Ha	当て具痕	Hd			1/36	スス	スス、コゲ					
121	131	180	12	1	旧河道1007	12K-1B6	3f	土師器	長甕						普通	石・長		灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	タタキメ	Hb	当て具痕	Hd			1/36							
121	131	181	12	1	旧河道1007	12K-1B16	3e	土師器	長甕						精	石・長		灰白 (2.5Y8/1)	灰 (5Y4/1)	酸化	タタキメ	Hb	当て具痕	Hd			1/36	スス、コゲ						
121	131	182	12	1	旧河道1007	12K-1B11	3d	土師器	長甕						精	石・長		浅黄 (2.5Y8/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	タタキメ	Hb	カキメ、当て具痕	Hd			1/36							
121	131	183	12	1	旧河道1007	12K-1B11 12K-1B12	3d 3f	土師器	長甕						精	石・長		灰黄 (2.5Y7/2)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	タタキメ	Ha	カキメ、当て具痕	Da			1/36	スス	スス					
121	131	184	12	1	旧河道1007	12K-1B17	3f	土師器	長甕						普通	石・長・雲		黄灰 (2.5Y6/1)	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	タタキメ	Ha	当て具痕	Dc			1/36							
121	131	185	12	1	旧河道1007	12K-1B22	3e	土師器	長甕						普通	石・長・雲		灰黄褐 (10YR6/2)	灰白 (10YR8/2)	酸化	タタキメ	Ha	カキメ、当て具痕	Db			1/36							
121	131	186	12	1	旧河道1007	12K-1B22	3e	土師器	長甕						普通	石・長・雲		灰黄 (2.5Y7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	タタキメ	Ha	当て具痕	Dc			1/36		スス					
122	131	187	12	1	旧河道1007	12K-1B12	3d	土師器	長甕						普通	石・長・雲		灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄橙 (10Y6/3)	酸化	タタキメ、カキメ	Ha	ハケメ、当て具痕	Da			1/36							
122	131	188	12	1	旧河道1007	12K-1B1	3e	土師器	長甕						精	石・長・焼		灰黄 (2.5Y7/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	タタキメ	Ha	ハケメ、当て具痕	Hd			1/36							
122	131	189	12	1	旧河道1007	12K-1B12	3d・3f	土師器	長甕						普通	石・長・雲		黄灰 (2.5Y4/1)	灰黄 (2.5Y7/2)	酸化	タタキメ	Ha	ロクロナデ、ハケメ、当て具痕	不明			1/36	スス	スス、コゲ					
122	131	190	12	1	旧河道1007	12K-2B2	3d	土師器	長甕						粗	石・長・雲		浅黄 (2.5Y7/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	タタキメ	Ha	ハケメ、当て具痕	Hd			1/36							
122	118・121	191	12	1	旧河道1007	12K-1B1・2・7・11・12	3f	土師器	小甕	B1	13.1	6.4	12.2	93	49	普通	石・長・雲・焼		にぶい褐 (7.5YR5/3)	黒褐 (7.5YR3/1)	酸化	ロクロナデ、ロクロケズリ		ロクロナデ		糸切り	右	23/36	36/36	26/36	スス、炭化物	スス		
122	122・131	192	12	1	旧河道1007	11K-10B11	3f	土師器	小甕	B1	13.2	7.0	12.5	95	53	普通	石・長・雲・チ		にぶい橙 (7.5YR7/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ、ロクロケズリ		ロクロナデ		糸切り	5/36	7/36	12/36		スス			
122	131	193	12	1	旧河道1007	12K-1A5	3d	土師器	小甕	B2	(13.2)				普通	石		にぶい橙 (5YR6/4)	にぶい橙 (5YR6/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36		1/36					
122	131	194	12	1	旧河道1007	12K-1B12	3f	土師器	小甕	B1	13.2				普通	石・長		にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				8/36		2/36	スス	スス			
122	131	195	12	1	旧河道1007	12K-1B11	3f	土師器	小甕	B1	11.6				普通	石・長		灰褐 (7.5YR4/2)	灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				9/36		2/36	スス	スス			
122	131	196	12	1	旧河道1007	12K-1B7	3f	土師器	小甕	B1	15.2				普通	石・長・雲		灰黄褐 (10YR6/2)	暗褐 (10YR3/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				6/36		2/36	スス	スス			
122	131	197	12	1	旧河道1007	12K-1A8	3d	土師器	小甕	B1	14.4				普通	石・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				4/36		2/36					

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土状態	胎土含有物	産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考				
				遺構名	グリッド					口径	底径	器高						外面	内面		外面	工具	内面	工具	底部	回転	口縁部	底部	全体			内面	外面		
																																		口径	底径
122	131	198	12	1	旧河道1007	12K-2B2	3d	土師器	小甕	B1	(14.1)			普通	石・長・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ							3/36		2/36	スス					
122	131	199	12	1	旧河道1007	12K-1B11	3f	土師器	小甕	B1	14.0			普通	石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ							4/36		2/36						
122	131	200	12	1	旧河道1007	12K-2A5	3d	土師器	小甕	C1	17.0			普通	石・長・チ・焼		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ							4/36		3/36						
122	131	201	12	1	旧河道1007	11K-10A13	3d	土師器	小甕	C2	11.8			粗	石・長・雲		灰白 (2.5Y8/2)	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ							4/36		2/36						
122	131	202	12	1	旧河道1007	12K-1B11	3d	土師器	小甕			5.9		普通	石・長・雲		にぶい黄橙 (7.5YR7/3)	灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	ロクロナデ				糸切り後ケズリ	右	36/36	9/36	スス	スス						
122	131	203	12	1	旧河道1007	12K-1A10 12K-1B2	3d 3f	土師器	小甕			6.7		普通	石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ					糸切り		36/36	4/36	スス	スス					
122	131	204	12	1	旧河道1007	12K-2B3・7	3d	土師器	小甕			7.2		普通	石・長・チ・焼		にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、 ロクロケズリ					静止糸切り		32/36	2/36							
122	131	205	12	1	旧河道1007	12K-1A10	3d	土師器	小甕			7.1		普通	石・長・雲・焼		灰黄 (2.5Y7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ					糸切り?		23/36	4/36							
122	131	206	12	1	旧河道1007	12K-1B16・21	3d	土師器	小甕			7.3		普通	石・長・焼・角		にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ							24/36	4/36							
123	131	207	12	1	旧河道1007	12K-1B17	3e	土師器	小甕			5.0		精	石・長・雲		にぶい褐 (7.5YR6/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ					糸切り	右	36/36	6/36							
123	131	208	12	1	旧河道1007	12K-2B1	3d	土師器	小甕			6.6		普通	石・長・海		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ、 ロクロケズリ							36/36	2/36							
123	131	209	12	1	旧河道1007	11K-10A8	3d	土師器	小甕			5.7		粗	石・長・雲		明褐 (7.5YR5/6)	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ、 ケズリ、ナデ							17/36	3/36							
123	131	210	12	1	旧河道1007	11K-10B1	3e	土師器	小甕			4.3		普通	石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ、 ケズリ				ケズリ			36/36	10/36							
123	131	211	12	1	旧河道1007	12K-1B1・6	3f	土師器	鍋	B2	(38.1)			普通	石・長・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、 カキメ							2/36		2/36						
123	131	212	12	1	旧河道1007	12K-1A9	3d	土師器	鍋	B1	(39.0)			普通	石・長・チ・焼		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、 カキメ、ハケメ							3/36		2/36						
123	131	213	12	1	旧河道1007	12K-1B11 12K-2B8	3d	土師器	鍋	B1	36.1			精	石・長・角		にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ、 カキメ、ハケメ							7/36		2/36		スス、 コゲ				
123	132	214	12	1	旧河道1007	12K-1B22	3d	土師器	鍋	B1	(41.7)			普通	石・長・雲・焼		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、 カキメ、ケズリ							2/36		2/36	スス					
123	118・ 122	215	12	1	旧河道1007	12K-1A14・15 12K-1B1 12K-1B6 12K-1B7 12K-1B11 12K-1B12	3d 3・3e 3e・3f 3f 3e・3d 3e	土師器	鍋	B1	39.0		14.8	38	普通	石		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、 カキメ、ケズリ							17/36	36/36	20/36			V		
124	132	216	12	1	旧河道1007	12K-1B11・12	3f	土師器	鍋	B1	37.0			普通	石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、 カキメ、ケズリ							6/36		2/36	スス	スス				
124	132	217	12	1	旧河道1007	12K-1B1	3e	土師器	鍋					普通	石・長		浅黄 (2.5Y7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、 カキメ、タタキメ	Ha			Ha			1/36								
124	132	218	12	1	旧河道1007	12K-1B22	3e	土師器	鍋					普通	石・長・チ		にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (7.5YR7/3)	酸化	カキメ、ケズリ、 タタキメ	Ha						1/36								
124	118・ 132	219	12	1	旧河道1007	12K-2B3	3d	土師器	有台鉢	AII	22.8			普通	石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、 カキメ							10/36		2/36						
124	132	220	12	1	旧河道1007	12K-1B17	3e	土師器	鉢	B	(18.0)			普通	石・長・雲・チ・海		灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ、 カキメ							1/36		1/36						
124	129	221	12	1	旧河道1007	12K-1B16	3d	土師器	鉢			13.0		普通	石・長・角		灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、 ロクロケズリ、 カキメ					ヘラ切り		8/36	1/36							
124	132	222	12	1	旧河道1007	12K-2B3	3d	土師器	鉢					粗	石・長・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、 ロクロケズリ							1/36	1/36							
124	132	223	12	1	旧河道1007	12K-2B3	3d	土師器	鉢			10.0		普通	石・長・チ		にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ					糸切り		15/36	1/36							
124	132	224	12	1	旧河道1007	12K-1B17	3e	黒色土器	無台椀	AII	14.6			精	石・雲		にぶい黄橙 (10YR6/3)	黒褐 (10YR3/1)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ							5/36		2/36						
124	132	225	12	1	旧河道1007	12K-1B16	3d	黒色土器	無台椀	AII	14.0			普通	石・長・雲		にぶい黄橙 (7.5YR7/3)	黒 (7.5YR2/1)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ							7/36		3/36						

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土		産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考		
				遺構名	グリッド					口径	底径	器高			状態	含有物		外面	内面		外面	工具痕	内面	工具痕	底部	回転	口縁部	底部	全体			内面	外面
124	118・121・132	226	12	1	旧河道1007	12K-1B1・7・12・17	3f	黒色土器	無台椀	A2 II	14.9	5.7	5.1	34	38	精	石・長・雲	明褐色(7.5YR7/2)	黒(10YR2/1)	酸化	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ、ミガキ		ロクロケズリ	右	14/36	36/36	21/36				底部外面に刻書「X」	
124	132	227	12	1	旧河道1007	12K-1B22	3d	黒色土器	無台椀			5.6			精	石・長・雲	にぶい黄橙(10YR6/3)	黒(10YR2/1)	酸化	ロクロナデ、ロクロケズリ	ミガキ		ロクロケズリ			9/36	2/36						
124	118・122・132・138	228	12	1	旧河道1007	11K-10A25	3e	黒色土器	有台皿		12.0	4.6	2.0	17	38	精	石・雲	にぶい黄橙(10YR7/2)	黒(10YR2/1)	酸化	ロクロナデ、ロクロケズリ、ミガキ	ロクロナデ、ミガキ		ヘラ切り	右	6/36	36/36	19/36		スス	外面に墨書有り「高」		
125	132	229	12	1	テラス1004	12K-2A14	2c	須恵器	無台杯		(14.0)					精	長	C 灰(5Y6/1)	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ				2/36		2/36			V		
125	132	230	12	1	テラス1004	12K-2A5	2c	須恵器	長頸壺							普通	長	B 灰白(2.5Y7/1)	灰白(2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ						1/36			V~VI		
125	132	231	12	1	テラス1004	11K-10A18	2c	土師器	小甕			7.0				普通	石・長・雲・チ	浅黄橙(7.5YR8/4)	橙(5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					8/36	2/36					
125	132	232	12	1	SD1006	12K-1A13	1	須恵器	有台杯		13.6					精	石・長	B 灰(N6/0)	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36		2/36			V~VI		
125	132	233	12	1	SD1006	12K-2A5	1	須恵器	短頸壺							精	石・長・白	C 灰(N6/0)	灰(N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、カキメ						1/36				III~V	
125	132	234	12	1	SD1006	12K-1A24	1	土師器	長甕	B1	(20.0)					粗	石・長・焼	浅黄橙(10YR8/3)、一部：明黄褐(10YR7/6)	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36		1/36					
125	132	235	12	1	SD1005	12K-2B21	1	須恵器	大甕		(17.7)					精	石・長	C 灰(7.5Y6/1)	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36		1/36			V		
125	132	236	12	1		12J-3I15	I・II	須恵器	無台杯	B I	12.8	7.2	3.0	23	56	精	石・長	B 灰(5Y6/1)	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り		5/36	8/36	9/36			VI		
125	122・132	237	12	1		12J-2I20	I・II	須恵器	有台杯	A1 I	13.6	8.5	4.0	29	63	精	石・長	C 黄灰(2.5Y6/1)	黄灰(2.5Y5/1)	還元	ロクロナデ、ロクロケズリ	ロクロナデ		ヘラ切り		5/36	13/36	7/36			IV2・3		
125	132	238	12	1		11J-10H16	I・II	須恵器	有台杯	C1 II	(10.9)	5.4	4.2	39	50	精	石・長	C 黄灰(2.5Y6/1)	黄灰(2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36	7/36	9/36			V		
125	132	239	12	1	包含層	12J-3I13	IV	須恵器	杯蓋	C I	13.8					精	石・長・雲	C 黄灰(2.5Y6/1)	灰黄褐(10YR5/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36		2/36			IV~V		
125	132	240	12	1		12J-2G19	II	須恵器	杯蓋	B II	(12.4)					普通	石・長	C 灰黄褐(10YR6/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36		1/36			IV		
125	132	241	12	1		11J-10E20	II	須恵器	有台杯			6.2				普通	石・長	A 灰(7.5Y6/1)	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り		9/36	2/36			IV2・3			
125	132	242	12	1		12J-3G5	カクラン	須恵器	横瓶		11.6					精	石・長	B 黄灰(2.5Y6/1)	灰白(2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36		1/36			V		
125	132	243	12	1		12J-3J11	I・II	須恵器	長頸壺			10.8				精	石・長・雲	B 灰白(5Y7/1)	灰(N6/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ		ヘラ切り		11/36	6/36			V~VI			
125	122	244	12	1		12J-2G19	II	須恵器	括鉢		16.4					普通	石・長・雲・白	C 灰黄(2.5Y6/2)	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	ロクロナデ、ロクロケズリ、カキメ、ハケメ	ロクロナデ、カキメ、ハケメ		ロクロケズリ			19/36	18/36			III~V		
125	132	245	12	1		12J-3I19	I・II	土師器	長甕	B1	21.8					粗	石・長・雲・チ	にぶい橙(5YR7/4)	淡橙(5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ、カキメ				4/36		1/36					
125	132	246	12	1		12J-2H3	I・II	土師器	長甕	B1	21.9					普通	石・長・雲	にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ				4/36		1/36					
125	132	247	12	1		11J-9H24	I・II	土師器	長甕	C2	21.0					普通	石・長・雲・チ	灰白(10YR8/2)	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化	ロクロナデ、タタキメ、カキメ	ロクロナデ、指押え				4/36		1/36					
126	133	248	12	1		12J-3I18	I・II	土師器	小甕	B2	(12.6)					普通	石・長・雲	浅黄橙(10YR8/3)	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ				2/36		2/36					
126	133	249	12	1		11J-10H1	I・II	土師器	小甕	B1	(13.2)					精	石・雲・焼	にぶい黄橙(10YR6/4)	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36		1/36					
126	133	250	12	1		11K-10C21	I	土師器	小甕	B1	14.2					普通	石・長・雲	灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄褐(10YR5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				9/36	3/36	スス	スス				
126	133	251	12	1		12J-3I15	I・II	土師器	小甕	C1	(14.8)					普通	石・長・チ・焼・角	橙(7.5YR7/6)	黄橙(7.5YR8/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				3/36		2/36					
126	133	252	12	1		12J-3I18	II	土師器	小甕			7.0				普通	石・長・チ・焼	灰白(7.5YR8/2)	灰白(7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				36/36	6/36						
126	133	253	12	1		12J-3I18・19	I・II	土師器	小甕			6.8				普通	石・長・雲・チ	明赤灰(2.5YR7/1)	明褐色(7.5YR7/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ		糸切り		13/36	3/36						
126	133	254	12	1		12J-1H20	I・II	土師器	鍋	A	35.8					普通	石・長・雲・角	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ				4/36		1/36					
126	133	255	12	1		12J-1G15	II	土師器	鍋	B1	(35.8)					普通	石・チ	にぶい橙(7.5YR7/3)	灰白(7.5YR8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				2/36		1/36					
126	133	256	12	1		12K-2C24	I	陶器	片口鉢			12.2						極暗赤褐(10Y2/3)	赤黒(10Y2/1)		ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ				6/36	2/36				細目9本一単位		

図版No.	写真図版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土		産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考				
				区	遺構名					グリッド	口径	底径			器高	状態		含有物	外面		内面	外面	工具	内面	工具	底部	回転	口縁部	底部			全体	内面	外面	
126	133	257	12	2	SD1	10J-8H6・12	5	須恵器	無台杯	AⅡ	12.3	(8.0)	3.4	28	65	普通	石・長	C	灰 (7.5Y6/1)、 灰 (N4/0)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り				4/36	3/36	3/36			IV2・3	
126	133	258	12	2	SD1	10J-8H12	5	須恵器	無台杯			7.2			精	石・長	C	灰白 (5Y7/1)	灰白 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り				5/36	2/36			IV		
126	133	259	12	2	SD1	10J-8G4	19	土師器	無台椀			5.2			精	石・雲		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ								4/36	1/36					
126	133	260	12	2	SD1	10J-8H12	5	土師器	長囊	B1	(19.5)				粗	石・長・チ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ								1/36	1/36					
126	133	261	12	2	SD1	10J-8H12	11	土師器	小囊	B1	(14.0)				普通	石・焼		にぶい橙 (10YR7/2)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ								3/36	1/36					
126	133	262	12	2	SD1	10J-8H12	11	土師器	小囊	B1	(13.4)				普通	長・焼		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ								2/36	2/36					
126	133	263	12	2	SD1	10J-8G5	2	土師器	鍋	B2	(36.8)				精	石・チ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ								1/36	1/36					
126	133	264	12	2	SD1	10J-8H24	5	土師器	鍋						普通	石・チ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	タタキメ	Ha	カキメ、当て 具痕、ケズリ	Hd						1/36					
126	133	265	12	2				表土	須恵器	無台杯		9.0			精	石・長	C	灰黄 (2.5Y6/2)	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ				ヘラ切り				6/36	2/36			Ⅲ～ V		
126	133	266	12	3	SX505	11J-3C11	9	須恵器	無台杯			7.0			精	石・長	C	灰 (7.5Y6/1)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ、 ナデ				ヘラ切り				4/36	2/36			IV2・ 3、 V		
126	133	267	12	3	SD502	11J-5C12	2	須恵器	有台杯	B2 I	(13.9)				精	石・長	C	灰 (N6/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ								2/36	1/36			V		
126	133	268	12	3	SD503	11J-5C1	1	土師器	小囊	B1	(16.0)				精	長・チ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ								1/36	1/36					
126	133	269	12	3		11J-2C16	カクラン	須恵器	無台杯			7.8			精	長		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ				ヘラ切り				5/36	2/36					
126	133	270	12	3		11J-5C11	カクラン	土師器	小囊			7.0			普通	石・雲		橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ				糸切り				5/36	2/36					
126	133	271	12	3		11J-2C16	カクラン	土師器	長囊	B1	20.0				普通	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、 カキメ								4/36	1/36					
126	133	272	12	3		11J-4C12	1	土師器	長囊	B1	(20.0)				普通	長		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ								1/36	1/36					
126	133	273	12	3		11J-5B24	カクラン	土師器	無台椀			5.2			精	長		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ								5/36	2/36					
127	133	274	13	1	SE357	10J-5B15	2	須恵器	大囊						精	石・白	C	灰 (7.5Y5/1)、 一部： (7.5Y4/1)	灰 (7.5Y5/1)	還元	タタキメ、カ キメ	Ha	当て具痕	Da					1/36				Ⅲ～ V		
127	133	275	13	1	SE357	10J-5B15	2	珠洲焼	囊		(24.0)				精	石・長・白		灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	還元	平行叩き、ハ ケメ				当て具痕				1/36	1/36					
127	133	276	13	1	SE357	10J-5B15	2	珠洲焼	囊						精	石・長・白		黄灰 (2.5Y6/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	タタキ、平行				指頭圧痕				1/36						図版78取り 上げNo.11
127	133	277	13	1	SD152	10J-4C14・25 10J-4C20	2	珠洲焼	囊						精	石・長・白		黄灰 (2.5Y6/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	タタキ、平行				指頭圧痕				1/36						
127	133	278	13	1	SE357	10J-5B15	2	珠洲焼	囊						普通	石・長・白		褐灰 (10YR5/1)	褐灰 (10YR5/1)	還元	平行叩き				指頭圧痕				1/36						
127	133	278	13	1	SK538	10J-3F12	1	土師器	無台椀	a		5.7			粗	石・長・チ・ 白		黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	酸化	ロクロナデ								18/36	3/36					
127	133	279	13	1	SK163	10J-6C8	1	須恵器	無台杯		(12.8)				精	長・白	B	灰 (5Y4/1)	灰 (5Y5/1)	還元	ロクロナデ								1/36	1/36			V～ VI		
127	133	280	13	1	SK140	10J-7D18 包含層	2	土師器	無台椀	A2Ⅲ	(12.0)	5.5	4.0	33	46	普通	石・長・雲・ チ		橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ				糸切り	右	1/36	36/36	27/36					
127	133	281	13	1	SK140	10J-7D18	1	土師器	長囊						粗	石・長・チ・ 白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	タタキメ	Hb	当て具痕	Dc					1/36						
127	133	282	13	1	SK139	10J-7D13	1	須恵器	無台杯	B2 I	(14.0)				精	石・長・白	C	浅黄 (2.5Y7/3)	浅黄 (2.5Y7/3)	還元	ロクロナデ								1/36	1/36			V		
127	133	283	13	1	SK139	10J-7D18	1	土師器	無台椀	a	BⅡ	(14.0)			粗	石・長・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ								3/36	1/36					
127	123・ 133	284	13	1	SK139	10J-7D17 10J-7D17・18	1 4	土師器	無台椀	a	B1Ⅲ	12.6	6.7	3.5	28	53	普通	石・長・雲・ チ・白		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ				糸切り	右	12/36	34/36	25/36				
127	123・ 133	285	13	1	SK139	10J-7D18	1	黒色土 器	無台椀	A2Ⅲ	12.5	4.8	4.3	34	38	普通	石・長・雲・ チ		浅黄橙 (10YR8/4)	黒 (10YR2/1)	酸化	ロクロナデ、 ミガキ、ロク ロケズリ				糸切り	右	12/36	28/36	21/36					
127	133	286	13	1	SK139	10J-7D18	1	土師器	長囊	B1	(21.0)				粗	石・長・雲・ チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ								2/36	1/36					
127	133	287	13	1	SK139	10J-7D18	1	土師器	長囊						普通	石・長・雲・ チ・白		灰黄褐 (10YR6/2)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、 カキメ、タタ キメ	d	カキメ、ハケ メ					1/36		スス	スス				
127	133	288	13	1	SK139	10J-7D13	1	土師器	小囊	B1	16.0				粗	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ								7/36	2/36	スス	スス			

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土状態	胎土含有物	産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考			
				遺構名	グリッド					口径	底径	器高						外面	内面		外面	工具痕	内面	工具痕	底部	回転	口縁部	底部	全体			内面	外面	
127	133	289	13	1	SK139	10J-7D18	1	土師器	小甕	B1	14.0				粗	石・長・雲・チ・白		にぶい褐 (7.5YR6/3)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ					5/36		2/36			スス			
136	136	290	13	1	包含層	10J-7D13	IV	土師器	小甕	B1	11.0				粗	長・雲・白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			4/36		1/36	スス	スス				
127	133	291	13	1	SK139	10J-7D13	1	土師器	小甕						粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					10/36						
127	133	292	13	1	SK139	10J-7D13	1	土師器	小甕			5.9			粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			9/36	3/36							
128	134	293	13	1	SK138	10J-7D20	1	土師器	無台椀 _a	B I	(19.0)				精	石・長		灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ			2/36		2/36			V			
128	134	294	13	1	SK138	10J-7D20	1	土師器	無台椀 _a	II	(14.0)				粗	石・チ・白・角		にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (5YR6/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			1/36		1/36						
128	134	295	13	1	SK138	10J-7D20	1	土師器	無台椀 _a		13.0				普通	石・長・雲・チ・白		にぶい橙 (7.5YR7/3)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			5/36		2/36	スス					
128	134	296	13	1	SK138	10J-7D20	1	土師器	無台椀 _a			6.6			普通	石・長・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			7/36	2/36							
128	134	297	13	1	SK138	10J-7D20	1	土師器	無台椀 _a			6.4			粗	石・長・チ		灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ	ナデ		9/36	2/36							
128	134	298	13	1	SK138 包含層	10J-7D20 10J-7D17	1 IV	土師器	長甕						粗	石・長・チ・白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、 カキメ		ロクロナデ					1/36		スス・ コゲ				
128	134	299	13	1	SK138	10J-7D20	1	土師器	長甕						普通	石・雲・チ		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	タタキメ	Hb	当て具痕、ハ ケメ	Da				1/36						
128	134	300	13	1	SK138	10J-7D20	1	土師器	小甕	A	14.0				粗	石・長・チ・角		灰褐 (7.5YR5/2)	灰褐 (7.5YR5/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			7/36	1/36	スス	スス					
128	134	301	13	1	SK138	10J-7D20	1	土師器	小甕	B1	12.0				普通	石・長・チ・白		明黄褐 (10YR6/6)	明黄褐 (10YR6/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			5/36		1/36	スス					
128	134	302	13	1	SK137	10J-7E1	1	須恵器	無台杯	B I	(13.0)	10.0	3.3	25	77	精	長・雲・白	B	灰白 (5Y7/1)	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り		1/36	7/36	7/36			V		
128	134	303	13	1	SK137	10J-7E1	1	土師器	小甕			6.6			粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ	ナデ		18/36	2/36		スス					
128	134	304	13	1	SK89	10J-7E15	2	須恵器	無台杯	B I	(12.6)	7.4	3.0	24	59	精	石	C	にぶい黄橙 (10YR7/4)	灰白 (10YR8/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り		3/36	16/36	10/36			V		
128	134	305	13	1	SK89	10J-7E14	2	須恵器	無台杯	B I	(13.0)	8.3	4.0	31	64	精	石・長・チ・白	C	灰 (7.5Y6/1)	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り		3/36	8/36	8/36			V		
128	123・ 134	306	13	1	SK89 Pit88	10J-7E14・15 10J-7E14	1・2 1	須恵器	無台杯	C I	12.7	8.9	2.9	23	70	精	石・長・白	C	にぶい黄橙 (10YR7/2・ 6/3)、灰 (5Y6/1)	灰白 (5Y7/1)、灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り		23/36	24/36	24/36			V		
128	134	307	13	1	SK89	10J-7E15	2	須恵器	無台杯	B I	12.7				精	長・白	C	灰白 (5Y7/1)	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ			4/36		2/36			V			
128	134	308	13	1	SK89	10J-7E14	2	須恵器	無台杯	B I	13.9				精	石	B	灰 (N5/0)	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ			4/36		1/36			V			
128	134	309	13	1	SK89	10J-7E15	2	須恵器	無台杯			7.4			精	石	B	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	還元			ロクロナデ	ヘラ切り		9/36	1/36				V			
128	123・ 135	310	13	1	包含層	10J-7C3・8	IV	土師器	無台椀 _a	A2 I	16.2	6.0	5.4	33	37	粗	石・長・チ		橙 (5YR7/8)	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ	糸切り	右	9/36	24/36	20/36	炭化物				
128	134	311	13	1	SK89	10J-7E14	2	土師器	無台椀 _a	A I	14.6				普通	石・長・雲・チ		橙 (7.5YR7/6)	黄橙 (7.5YR7/8)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			7/36		7/36						
128	134	312	13	1	SK89	10J-7E15	2	土師器	無台椀 _a	B II	(14.0)				粗	石・長・チ		橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			1/36		1/36						
128	134	313	13	1	SK89	10J-7E15	2	土師器	無台椀 _a	B II	(14.0)				粗	石・長・チ		橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			2/36		1/36						
128	134	314	13	1	SK89	10J-7E14	1	土師器	無台椀 _a	C II	(14.0)				粗	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			3/36		1/36						
128	134	315	13	1	SK89	10J-7E14	2	土師器	無台椀 _a	A3 III	10.7	6.2	4.1	38	58	粗	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			15/36	19/20	20/36					
128	134	316	13	1	SK89	10J-7E15	2	土師器	無台椀 _a			6.0			粗	石・長・チ・白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		右	18/36	1/36							
128	134	317	13	1	SK89	10J-7E14	2	土師器	無台椀 _a			6.6			普通	石・長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ	糸切り		18/36	15/36	炭化物	炭化物					
128	134	318	13	1	SK89	10J-7E15	2	土師器	長甕	B1	(20.0)				粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			3/36		1/36						
128	134	319	13	1	SK89	10J-7E14	2	土師器	長甕						粗	石・長・チ・白		灰褐 (7.5YR5/2)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	タタキメ	Hc	当て具痕				1/36		スス					
129	123	320	13	1	SK89	10J-7E14・15	2	土師器	小甕	B1	13.3	8.2			62	粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ、 ロクロナデ、 カキメ		カキメ			11/36	24/36	24/36					
129	123	321	13	1	SK89	10J-7E15	2	土師器	小甕	B1	13.9	8.0	14.4	104	58	粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、 カキメ		ロクロナデ			13/36	34/36	18/36					
129	123	322	13	1	SK89	10J-7E15	2	土師器	小甕	B1	13.0	6.8	14.2	109	52	普通	石・長・チ・白		黄橙 (7.5YR7/8)	黄橙 (7.5YR7/8)	酸化	ロクロナデ、 カキメ、ロク ロナデ		ロクロナデ	糸切り	右	11/36	13/36	18/36	炭化物	炭化物			

図版No.	写真図版No.	報告書No.	年度	出土位置				層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土状態	胎土含有物	産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考		
				遺構名	グリッド	口径	底径					器高	外面	内面						外面	工具痕		内面	工具痕	底部	回転	口縁部	底部	全体	内面	外面				
																																		口縁部	底部
129	134	323	13	1	SK89	10J-7E15	2	土師器	小甕	C1	(14.0)				粗	石・長・雲・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ														
129	134	324	13	1	SK89	10J-7E14	2	土師器	小甕	C1	(13.5)				粗	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ					2/36		1/36	スス・コゲ	スス・コゲ					
129	134	325	13	1	SK89	10J-7E15	2	土師器	小甕	C2	(14.0)				粗	石・長・チ		黄橙 (7.5YR7/8)	黄橙 (7.5YR7/8)	酸化	ロクロナデ					3/36		1/36							
129	134	326	13	1	SK89	10J-7E15	2	土師器	小甕	C2	(14.0)				粗	石・長・雲・チ・白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ					3/36		1/36							
129	134	327	13	1	SK89	10J-7E15	2	土師器	小甕	C2	(14.0)				粗	石・長・雲・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ					3/36		5/36		炭化物					
129	134	328	13	1	SX146	10J-7C8	1	土師器	長甕	C2	(21.0)				普通	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ					1/36		1/36							
129	134	329	13	1	SX146	10J-7C8	1	土師器	鍋						普通	石・長・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/3)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	タタキメ	Ha	カキメ、当て具痕	Ha			1/36		炭化物						
129	134	330	13	1	SD462	10J-4B20	1	須恵器	無台杯		(12.8)				精	長・雲・白	C	灰 (N6/0, 5/0)	灰 (N6/0, 5/0)	還元	ロクロナデ					1/36		1/36				IV~V			
129	134	331	13	1	SD152	10J-6F22	2	須恵器	有台杯						精	石・白	C	灰 (5Y5/1)	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ							2/36				V			
129	134	332	13	1	SD152	10J-6F11	3	須恵器	大甕						粗	石	C	灰白 (10YR8/2)	浅黄橙 (10YR8/4)	還元	ロクロナデ、タタキメ、カキメ	Ha	ロクロナデ、当て具痕	Ha			1/36					III~V			
129	134	333	13	1	SD152	10J-3B21	2	須恵器	横瓶						精	長・白	C	灰 (N4/0)	灰 (N5/0)	還元	タタキメ、カキメ	Hd	タタキメ、当て具痕	Hc			1/36					III~V			
129	134	334	13	1	SD152	10J-4C14	2	須恵器	大甕						精	石・長・白	C	褐灰 (10YR6/1)	灰白 (10YR7/1)	還元	タタキメ、カキメ	Ha	タタキメ、当て具痕	Hd, Dc			1/36					III~V			
129	134	335	13	1	SD152	10J-7F10	1	土師器	無台椀 _a			6.3			粗	石・長・チ・白		黄橙 (10YR8/8)	黄橙 (10YR8/8)	酸化	ロクロナデ						8/36	1/36							
129	134	336	13	1	SD152	10J-4C6	3	土師器	無台椀 _a			7.0			粗	長・雲・白		橙 (5YR6/8)	橙 (5YR6/8)	酸化	ロクロナデ						6/36	1/36							
129	134	337	13	1	SD152	10J-7F9	1	土師器	無台椀 _a			6.0			粗	長・雲・チ		黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	酸化	ロクロナデ						6/36	1/36							
129	134	338	13	1	SD152	10J-4C6	3	土師器	小甕	B1	(15.4)				粗	石・長		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ					2/36		1/36							
129	134	339	13	1	SD152	10J-4C25	1	土師器	小甕	C1	(13.0)				粗	石・長・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ					3/36		1/36							
129	134	340	13	1	SD152	10J-4C20	3	土師器	鍋						粗	石・長・雲・チ・白		にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、タタキメ		ロクロナデ、タタキメ、当て具痕				1/36								
129	134	341	13	1	SD152	10J-7F3	3	土師器	鍋	C1a	(39.0)				粗	石・長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ					1/36		1/36							
129	134	342	13	1	SD152	10J-7F9	2	土師器	鍋	B1	(37.4)				粗	石・長		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ					2/36		1/36							
130	124	343	13	1	SD152	10J-4C14 10J-4C20 10J-4C25 10J-4D21 10J-4C12	2 2・3 1・2 IV IV	珠洲焼	甕			42.0	17.6			42			青灰 (5PB6/1)	明青灰 (5PB7/1)	還元	タタキメ		当て具痕		へら切り		14/36	18/36	15/36				図版78取り上げNo.6-7-15-16-18-19-21-22-23-25-26-27-29-33-35-36-37-47-49-50-52-53	
131	134	344	13	1	SD152	10J-4C14	2	珠洲焼	甕		(22.6)				精	石・長・白・海		黄灰 (2.5Y6/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	タタキメ、平行、ナデ		指頭痕			1/36		1/36					図版取り上げNo.20-48		
131	125	345	13	1	SD152	10J-4C8 10J-4C25 10J-4C20 10J-4B9	1 2 2・3 4	珠洲焼	片口鉢			33.0	11.0	12.5	38	33	精	石・長・雲・白・角		灰 (N5/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ		カキメ (9条線)			14/36	18/36	20/36					
131	134	346	13	1	SD441	10J-4C7	1	土師器	小甕	C1a	(13.0)				粗	長・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ					3/36		1/36							
131	134	347	13	1	SD827	10J-2E17	1	須恵器	有台杯		(12.0)				精	長・白	C	灰 (7.5Y5/1)	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ					1/36		1/36				IV~V			
131	134	348	13	1	SD827	10J-3C20	1	須恵器	大甕						精	石・長・白	C	灰オリーブ (7.5Y4/2)	灰 (7.5Y6/1)	還元	タタキメ、カキメ	Ha	当て具痕	Da, Hd			1/36		自然釉	自然釉		III~V			
131	134	349	13	1	SD827 SN851	10J-3C20 10J-3C19	3 2	須恵器	大甕						精	石・長・白	C	暗灰 (N3/0)	灰 (N5/0)	還元	タタキメ、ハケメ	Ha	カキメ、当て具痕	Da			1/36					III~V			
132	134	350	13	1	SD822	10J-4D1	2	土師器	長甕	B1	(23.0)				粗	石・長・雲		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ					2/36		1/36							
132	134	351	13	1	SD822	10J-4D1	2	土師器	長甕	B1	(24.0)				粗	石・長・雲・チ・白		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ					3/36		1/36							
132	134	352	13	1	SD822 SD827	10J-2E22 10J-2E17	1 1	土師器	小甕			9.0			粗	長・白		黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	酸化	ロクロナデ						10/36	5/36							

図版No.	写真図版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土状態	胎土含有物	産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考			
				遺構名	グリッド					口径	底径	器高						外面	内面		外面	工具痕	内面	工具痕	底部	回転	口縁部	底部	全体			内面	外面	
																																		口縁部
132	134	353	13	1	SD822	10J-3E1	1	土師器	小甕		6.0				粗	石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ							10/36	8/36					
132	134	354	13	1	SD822	10J-4C5	2	土師器	小甕		6.2				粗	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ							8/36	1/36					
132	134	355	13	1	SD151	10J-7F12	2	須恵器	有台杯	(12.0)					精	長・白	C	灰 (N4/0)	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ					1/36		1/36				IV~V		
132	134	356	13	1	SD151	10J-6E25		土師器	有台椀		(8.4)				粗	長・チ・白		橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ							9/36	2/36					
132	134	357	13	1	SD151	10J-7F12	2	土師器	無台椀		(7.0)				粗	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ							3/36	1/36					
132	134	358	13	1	SD151	10J-7F7	1	土師器	長甕	C2	(21.2)				粗	石・長・チ		明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ							1/36	1/36					
132	134	359	13	1	SD151	10J-6E24	1	土師器	長甕						普通	石・長・雲		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	タタキメ	Ha	当て具痕	Dc				1/36						
132	134	360	13	1	SD151	10J-7F12	2	土師器	小甕	A	(12.8)				粗	石・長・雲・チ		にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ロクロナデ							3/36	1/36	コゲ	スス			
132	134	361	13	1	SD151	10J-6E24	2	土師器	鍋	C2	(35.0)				粗	石・長・チ		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ							3/36	1/36					
132	134	362	13	1	SD151	10J-7F6	1	土師器	鍋	C1a	(40.0)				粗	石・長		にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ							1/36	1/36					
132	134	363	13	1	SD419	10J-5F22	3	須恵器	無台杯		7.6				精	長・雲・白	B	灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ							5/36	2/36				V	
132	134	364	13	1	SD419	10J-5F18	2	須恵器	無台杯		8.2				精	長・雲・白	B	灰 (7.5Y6/1)	灰 (7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ							4/36	1/36				V	
132	134	365	13	1	SD419	10J-5F10	3	土師器	小甕	C1	(12.0)				粗	石・長・チ・白		明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	酸化	ロクロナデ							3/36	1/36					
132	134	366	13	1	SD419	10J-5F10	1	土師器	無台椀 _a		(14.0)				粗	石・長・雲・チ・白		黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	酸化	ロクロナデ							2/36	1/36					
132	134	367	13	1	SD419	10J-5F9	1	土師器	無台椀 _a		5.5				普通	石・長・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ							5/36	1/36					
132	134	368	13	1	SD419	10J-5F21	1	土師器	小甕		6.8				粗	石・長・雲・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ							6/36	1/36					
132	134	369	13	1	SD147	10J-7C8	1	須恵器	無台杯	AII	11.8	7.4	3.1	26	63	精	石・長・白	A	灰 (5Y6/1)	灰 (5Y6/1)	還元	ロクロナデ						9/36	13/36	10/36			V	
132	134	370	13	1	SD147	10J-7C14	1	土師器	無台椀 _a		(12.5)				普通	石・長・チ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ							3/36	1/36					
132	134	371	13	1	SD147	10J-7C13	1	土師器	無台椀 _a		(12.2)				普通	石・長・チ		黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	酸化	ロクロナデ							2/36	1/36					
132	134	372	13	1	SD147	10J-7C15	1	土師器	無台椀 _a		5.4				粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ							4/36	1/36					
132	134	373	13	1	SD147	10J-7C13	1	土師器	長甕						粗	長・雲・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	タタキメ							1/36						
132	134	374	13	1	SD147	10J-7C15	1	土師器	小甕	C2	(13.0)				粗	石・長・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ							3/36	1/36				スス	
132	134	375	13	1	SD147	10J-7C8	1	土師器	小甕		6.9				粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/4)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ							9/36	2/36				スス	
132	135	376	13	1	SD149	10J-7C13	1	土師器	無台椀 _a	B2 I	17.0	6.2	5.6	33	36	粗	石・長・雲・チ・白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ					右	9/36	11/36	20/36	炭化物			
132	135	377	13	1	SD149	10J-7C13	1	土師器	無台椀 _a	AII	(14.5)				粗	長・雲・チ・白		黄橙 (7.5YR8/8)	黄橙 (7.5YR8/8)	酸化	ロクロナデ							1/36	1/36					
132	135	378	13	1	SD149	10J-7C13	1	土師器	無台椀 _a						粗	石・長・雲・チ・白		黄橙 (10YR8/6)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ								1/36					
132	135	379	13	1	SD149	10J-7C13	1	土師器	小甕	C1	(18.0)				粗	石・長・雲・チ・白		橙 (5YR7/8)	橙 (5YR7/8)	酸化	ロクロナデ							3/36	1/36					
132	135	380	13	1	SD149	10J-7C13	1	土師器	長甕						粗	石・長・雲・焼・白		にぶい橙 (7.5YR7/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	タタキメ	Ha	ハケメ、当て具痕	Da				1/36						
132	135	381	13	1	SD149	10J-7C13	1	土師器	鍋	B1	(34.0)				粗	石・長・チ・白		黄橙 (10YR8/6)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ							2/36	1/36					
133	135	382	13	1	SD150	10J-7C18	1	土師器	無台椀 _a		5.4				粗	石・長・白		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ							7/36	1/36					
133	135	383	13	1	SD150	10J-7C18	1	土師器	長甕						粗	石・長・雲・焼・白		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ、タタキメ	Ha	ロクロナデ、タタキメ					1/36						
133	135	384	13	1	SN857	10J-4B1	3	須恵器	杯蓋	1					精	石・白	B	灰 (N5/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ							6/36						
133	135	385	13	1	SN857	10J-3B21	3	須恵器	大甕						精	石・長	C	灰 (7.5Y4/1)	褐灰 (5YR4/1)、一部：灰褐 (5YR5/2)	還元	タタキメ、カキメ	Hd	ロクロナデ					1/36					III~V	
133	135	386	13	1	SN857	10J-3A14	2	珠洲焼	甕		(10.0)				普通	石・長・白・角		灰白 (5Y7/1)	灰白 (5Y7/1)	還元	ケズリ		ロクロナデ、ハケメ					3/36	1/36				自然軸	
133	135	387	13	1	SN858	10J-3B20	3	須恵器	横瓶						精	石	D	灰黄褐 (10YR6/2)	褐灰 (10YR6/1)、にぶい黄橙 (10YR7/2)	還元	タタキメ、カキメ	Ha	当て具痕、カキメ	Dc				1/36					III~V	

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土状態	胎土含有物	産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考				
				区	遺構名					グリッド	口径	底径						器高	外面		外面	工具痕	内面	工具痕	底部	回転	口縁部	底部	全体			内面	外面		
																			外面															内面	外面
134	135-138	423	13	1	包含層	10J-5F13	IV	須恵器	短頸壺						精	石・長・白・角	B	灰 (5Y5/1)	灰白 (5Y7/2)	還元	ロクロナデ													V	線刻有り
134	135	424	13	1	包含層	10J-6F10	IV	須恵器	壺蓋	B	11.6				普通	石・長・白	C	黄灰 (2.5Y6/1)	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ					2/36		1/36		自然釉		III~V			
134	135	425	13	1		10J-3A8	I	須恵器	横瓶						精	石・長・白	C	褐灰 (10YR6/1)	灰 (N5/0)	還元	タタキメ、カキメ	Ha	当て具痕	Da				1/36		自然釉		III~V			
134	135	426	13	1	包含層	10J-5D13	IV	須恵器	横瓶						普通	石	C	灰白 (N7/0)	灰 (N5/0)	還元	タタキメ、カキメ	Hd	当て具痕	Ha				1/36				III~V			
134	135	427	13	1	包含層	10J-6F7	IV	須恵器	横瓶						精	石・長・白	C	黄灰 (2.5Y6/1)	灰黄 (2.5Y6/2)	還元	カキメ		当て具痕、指押え	Da				1/36				IV~V			
134	123-135	428	13	1	包含層	10J-7C19	IV	土師器	無台椀 _a	A1 I	16.8	7.4	4.7	28	44	粗	石・長・雲・チ・白		橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ			糸切り	右	7/36	36/36	20/36						
134	123-135	429	13	1	包含層	10J-6F1	IV	土師器	無台椀 _a	A1 III	12.8	6.4	3.7	29	50	粗	長・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ			糸切り	左	12/36	36/36	30/36					底部外面へラ描き「X」	
134	136	430	13	1	包含層	10J-7E9	IV	土師器	無台椀 _a	A2 III	12.8	5.4	(4.0)	31	42	粗	長・チ・焼・白		橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ			糸切り	左	4/36	17/36	9/36						
134	136	431	13	1	包含層	10J-7E6	IV	土師器	無台椀 _a		(17.0)					粗	長・雲・チ・白		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ					3/36		2/36						
134	136	432	13	1	包含層	10J-5E20	IV	土師器	無台椀 _a		(15.8)					粗	長・雲・チ		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ					3/36		1/36						
134	136	433	13	1	包含層	10J-5F5	IV	土師器	無台椀 _a		(13.8)					粗	長・雲・白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ					2/36		1/36						
134	136	434	13	1	包含層	10J-7D18	IV	土師器	無台椀 _a		(14.0)					粗	石・長・チ・海		にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	ロクロナデ					2/36		1/36						
135	136	435	13	1	包含層	10J-6D7	IV	土師器	無台椀 _a		(13.8)					粗	石・長・雲・チ		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ					3/36		1/36						
135	136	436	13	1	包含層	10J-7C9	IV	土師器	無台椀 _a		12.7					粗	石・長・雲・白		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ					5/36		1/36						
135	136	437	13	1	包含層	10J-5F9	IV	土師器	無台椀 _a		(11.7)					粗	長・雲・チ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ					3/36		1/36						
135	136	438	13	1	包含層	10J-4A10	IV	土師器	無台椀 _a		12.7					粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ナデ		ナデ			4/36		2/36						
135	136	439	13	1	包含層	10J-7C18	IV	土師器	無台椀 _a		6.4					普通	石・長・雲・チ		灰褐 (7.5YR6/2)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ロクロケズリ			糸切り		8/36		2/36						
135	136	440	13	1	包含層	10J-7D17	IV	土師器	無台椀 _a		5.2					粗	石・長・チ・焼・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ			糸切り		14/36		10/36						
135	136	441	13	1	包含層	10J-7D17	IV	土師器	無台椀 _a		5.9					粗	長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/4)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ					7/36		2/36						
135	136	442	13	1	包含層	10J-7E7	IV	土師器	無台椀 _a		7.0					粗	石・長・チ・焼・白		にぶい黄褐 (10YR5/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ					9/36		3/36						
135	136	443	13	1	包含層	10J-7D5	IV	土師器	無台椀 _a		5.7					普通	石・長・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ			糸切り	右	4/36		1/36						
135	136	444	13	1	包含層	10J-5C7	IV	土師器	無台椀 _a		5.0					粗	長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ			糸切り		10/36		1/36						
135	136	445	13	1	包含層	10J-5E24	IV	土師器	無台椀 _a		(4.8)					粗	石・長・白		橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ロクロナデ			糸切り	右	13/36		2/36						
135	136	446	13	1	包含層	10J-6D25	IV	土師器	無台椀 _a		5.0					粗	石・長・雲・白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ			糸切り	右	8/36		2/36						
135	136	447	13	1	包含層	10J-7E15	IV	土師器	無台椀 _b		6.0					普通	長・チ		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ、ミガキ			糸切り	右	12/36		3/36						
135	135	448	13	1	包含層	10J-7E13	IV	土師器	有台椀		(8.2)					粗	石・長・チ・白		橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ			ヘラ切り		1/36		1/36						
135	136-138	449	13	1	包含層	10J-7C4	IV	土師器	球胴甕		(27.8)					普通	石・長・雲・チ・白		にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ、指押え		ハケメ			3/36		1/36		スス・コゲ		構成比率では長甕に分類		
135	136	450	13	1	包含層	10J-7D5	IV	土師器	長甕	B1	(23.0)					普通	石・長・雲・チ・白		橙 (2.5YR6/6)	橙 (2.5YR6/6)	酸化	ロクロナデ				3/36		1/36							
135	136	451	13	1	包含層	10J-4F19	IV	土師器	長甕	B1	(21.6)					普通	石・長・雲・チ		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ、カキメ				3/36		1/36							
135	136	452	13	1	包含層	10J-3C25	IV	土師器	長甕	B1	(24.8)					粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ				3/36		1/36							
135	136	453	13	1	包含層	10J-7D10	IV	土師器	長甕	B1	(22.0)					粗	石・長・雲・チ・白		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ				3/36		1/36							
135	136	454	13	1	包含層	10J-7D14・18	IV	土師器	長甕	B1	20.0					粗	石・長・雲・チ		橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/8)	酸化	ロクロナデ、カキメ				13/36		5/36		スス					
135	136	455	13	1	包含層	10J-6G1	IV	土師器	長甕	B1	(19.2)					粗	石・長・雲・チ・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ				3/36		1/36		炭化物					
135	136	456	13	1	包含層	10J-4F20	IV	土師器	長甕	B1	19.3					普通	石・長・雲・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ			カキメ、ロクロナデ		5/36		1/36						

図版No.	写真図版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土状態	胎土含有物	産地	色調		焼成	手法				回転	遺存率			付着物		時期	備考									
				遺構名	グリッド					口径	底径	器高						外面	内面		外面	工具	内面	工具		底部	口縁部	底部	全体	内面			外面								
																																		口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	外面
135	136	457	13	1	包含層	10J-5F18	IV	土師器	長甕	B1	(19.3)						粗	石・長・雲・チ	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化												2/36			1/36					
136	136	458	13	1	包含層	10J-4C18	IV	土師器	長甕	B1	(19.0)						粗	石・長・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化													2/36			1/36				
136	136	459	13	1	包含層	10J-6D6	IV	土師器	長甕	B1	18.9						普通	石・長・雲・チ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化														4/36			1/36			
136	136	460	13	1	包含層	10J-5F18	IV	土師器	長甕	B1	(23.4)						粗	石・長・雲・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化														2/36			1/36			
136	136	461	13	1	包含層	10J-7E9	IV	土師器	長甕	B2	(20.0)						普通	石・長・雲・チ・焼	浅黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化														2/36			1/36			
136	136	462	13	1	包含層	10J-7D15	IV	土師器	長甕	C1	24.0						粗	石・長・チ・白	浅黄橙 (7.5YR8/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化															4/36			1/36		
136	136	463	13	1	包含層	10J-7D15	IV	土師器	長甕	C1	24.0						粗	石・長・チ・白	橙 (5YR7/8)	橙 (5YR7/6)	酸化															4/36			1/36		
136	136	464	13	1	包含層	10J-7E13	IV	土師器	長甕	C2	(19.0)						粗	石・長・雲・白	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化															3/36			1/36		
136	136	465	13	1	包含層	10J-7E6	IV	土師器	長甕	C2	(18.0)						普通	石・長・チ	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化															2/36			1/36		
136	136	466	13	1	包含層	10J-7D13	IV	土師器	長甕								粗	石・長・チ	橙 (7.5YR6/8)	橙 (7.5YR7/6)	酸化															1/36			1/36		
136	136	467	13	1	包含層	10J-7D14	IV	土師器	小甕	A	(13.4)						粗	石・長・雲	灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化															3/36			1/36		
136	136	468	13	1	包含層	10J-7E9	IV	土師器	小甕	B1	(15.0)						粗	石・長・チ・白	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化															2/36			1/36		
136	136	469	13	1	包含層	10J-7D18	IV	土師器	小甕	B1	(14.0)						粗	石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化															1/36			1/36		
136	136	470	13	1	包含層	10J-7D18	IV	土師器	小甕	B1	14.0						粗	石・長・雲・チ・角・水晶	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化															4/36		1/36	炭化物	スス	
136	136	471	13	1	包含層	10J-4D19	IV	土師器	小甕	B1	(13.6)						粗	石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化															2/36			1/36		
136	136	472	13	1	包含層	10J-7D18	IV	土師器	小甕	B1	(14.0)						粗	石・長・雲・チ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化															2/36			1/36		
136	136	473	13	1	包含層	10J-7D18	IV	土師器	小甕	B1	(14.0)						粗	石・長・雲	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化															3/36			1/36		
136	136	474	13	1	包含層	10J-7E9	IV	土師器	小甕	C1	14.0						粗	石・長・雲・白	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化															4/36			1/36		
136	136	475	13	1	包含層	10J-7E9	IV	土師器	小甕	C1	(14.0)						粗	石・長・雲・チ・白	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化															2/36			1/36		
136	136	476	13	1	包含層	10J-7D14	IV	土師器	小甕	C1	14.0						粗	石・長・雲・チ・白	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR6/6)	酸化															7/36		2/36	スス	スス	
136	136	477	13	1	包含層	10J-4F24	IV	土師器	小甕	C1	(13.6)						粗	石・長・チ	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化															2/36			1/36		
136	136	478	13	1	包含層	10J-7D17	IV	土師器	小甕			7.0					粗	石・長・雲・チ・焼・白	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化															36/36		10/36			
136	136	479	13	1	包含層	10J-7D18	IV	土師器	小甕			7.5					粗	石・長・チ・白	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化															24/36		10/36			
136	136	480	13	1	包含層	10J-6C8	IV	土師器	小甕			6.6					粗	石・長・雲・チ	橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化															8/36		2/36			
136	136	481	13	1	包含層	10J-6F3	IV	土師器	小甕			7.0					粗	石・長・チ	橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化															12/36		2/36			
136	136	482	13	1	包含層	10J-7D18	IV	土師器	小甕			(8.0)					普通	石	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化															2/36		1/36			
136	136	483	13	1	包含層	10J-7E3	IV	土師器	小甕			8.0					粗	石・長・チ・白	にぶい黄橙 (10YR7/4)	明黄褐 (10YR7/6)	酸化															6/36		2/36			
136	136	484	13	1	包含層	10J-5F1・5	IV	土師器	小甕			7.0					粗	石・長・雲	にぶい黄橙 (10YR6/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化															27/36		5/36			
136	136	485	13	1	包含層	10J-7D5	IV	土師器	小甕			5.8					粗	石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	酸化															18/36		2/36			
136	136	486	13	1	包含層	10J-4A5	IV	土師器	小甕			6.9					粗	石・長・雲	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化																9/36		2/36		
136	136	487	13	1	包含層	10J-7F2	IV	土師器	小甕			5.0					粗	石	にぶい黄橙 (10YR7/3・6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3・6/3)	酸化																16/36		3/36		
136	136	488	13	1	包含層	10J-6C8	IV	土師器	小甕			6.0					粗	石・長・雲・チ	にぶい褐 (7.5YR5/3)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化																8/36		2/36		
136	136	489	13	1	包含層	10J-7D7	IV	土師器	小甕			6.0					普通	石・長・チ・白	にぶい褐 (7.5YR6/3)	黄橙 (7.5YR7/8)	酸化																15/36		3/36		

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土状態	胎土含有物	産地	色調		焼成	手法				回転	遺存率			付着物		時期	備考	
				遺構名	グリッド					口径	底径	器高						外面	内面		外面	工具痕	内面	工具痕		底部	口縁部	底部	全体	内面			外面
136	136	490	13	1	包含層	10J-6D8	IV	土師器	小甕		5.8			粗	石・長・白		橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ						8/36	2/36						
136	136	491	13	1	包含層	10J-7D10	IV	土師器	小甕		6.0			粗	石・長・雲・チ		灰黄褐 (10YR5/2)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				5/36	1/36						
136	136	492	13	1	包含層	10J-7C18	IV	土師器	小甕		6.5			普通	石・長・雲・チ		にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、ケズリ	糸切り			5/36	1/36						
136	136	493	13	1	包含層	10J-6D14	IV	土師器	小甕		5.8			粗	石・長・チ・白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ、ケズリ		ロクロナデ				19/36	1/36						
136	136	494	13	1	包含層	10J-6G23	IV	土師器	小甕		6.2			粗	石・長・雲・チ		にぶい褐 (7.5YR6/3)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ケズリ		ロクロナデ				9/36	2/36						
137	136	495	13	1	包含層	10J-7E14	IV	土師器	鍋	B1	(38.0)			粗	石・長・雲・チ・白		浅黄橙 (10YR8/4)	黄橙 (7.5YR7/8)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36	1/36						
137	136	496	13	1	包含層	10J-7E14	IV	土師器	鍋	B1	(36.0)			粗	石・長・雲・チ・焼・白		浅黄橙 (7.5R8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36	1/36						
137	136	497	13	1	包含層	10J-7D17	IV	土師器	鍋	B1	(34.0)			粗	石・長・雲・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ				1/36	1/36						
137	136	498	13	1	包含層	10J-7E10	IV	土師器	鍋	C1a	(38.8)			粗	石・長・チ・焼・白		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、カキメ				2/36	1/36						
137	136	499	13	1	包含層	10J-7E9	IV	土師器	鍋	C1a	(36.0)			粗	石・長・雲・チ・焼・角		浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36	1/36						
137	136	500	13	1	包含層	10J-3F1・12	IV	土師器	鍋	C1a	(38.0)			粗	石・長・雲・チ		灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36	1/36						
137	136	501	13	1	包含層	10J-7D14	IV	土師器	鍋	C2	(36.6)			普通	石・長・チ・白		にぶい橙 (5YR7/4)	橙 (5YR7/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36	1/36						
137	136	502	13	1	包含層	10J-7D14	IV	土師器	鍋	C2	(35.0)			粗	石・長・雲・チ・白		橙 (7.5YR7/6)	橙 (5YR6/8)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36	1/36						
137	136	503	13	1	包含層	10J-7C18	IV	土師器	鍋	C2	(38.8)			粗	石・長・白		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				1/36	1/36						
137	136	504	13	1	包含層	10J-5E20	IV	土師器	鍋	C2	(38.0)			粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36	1/36						
137	136	505	13	1	包含層	10J-7C18	IV	土師器	鍋					粗	石・長・チ・白		浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					1/36						
137	136	506	13	1	包含層	10J-7D14	IV	黒色土器	無台椀	C	(13.8)			普通	長・雲・チ		浅黄橙 (10YR8/4)	黒 (10YR2/1)	酸化	ミガキ、ロクロナデ		ミガキ、ロクロナデ				1/36	1/36						
137	136	507	13	1	包含層	10J-6F3	IV	黒色土器	無台椀		6.0			普通	長・雲・白		黒褐 (10YR3/2)	黒 (10YR2/1)	酸化	ロクロナデ、ロクロケズリ		ミガキ	ロクロケズリ			10/36	2/36						
137	136	508	13	1	包含層	10J-5D7	IV	珠洲焼	片口鉢		(28.0)			精	石・長・白・海		灰 (N5/0)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36	1/36						
138	137	509	13	2	SD14	13K-8H1	2	須恵器	長頸壺					精	石・長	B	灰 (10Y6/1)	灰 (N5/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					2/36				VI		
138	137	510	13	2	SD12	13K-8H16・17	1	土師器	長甕	C1a	(22.0)			粗	石・長・雲		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36	1/36						
138	137	511	13	2	SN21	13K-3F20	1	須恵器	有台杯	B2II				精	石・長	C	灰 (10Y6/1)	灰 (10Y5/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				3/36					IV~V		
138	137	512	13	2	SN20	13K-5G2	1	土師器	小甕		7.5			普通	石・長・雲・チ・白		にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	酸化	ナデ		ロクロナデ	ケズリ、ナデ			34/36	2/36						
138	137	513	13	2	SN19	13K-5G8	2	土師器	長甕	B1	(20.4)			普通	石・長・チ・白		浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ、カキメ				2/36	1/36						
138	137	514	13	2	包含層	13K-5G7	IV	須恵器	無台杯	B1	(12.6)			普通	石・長	C	灰白 (2.5Y8/2)	灰黄 (2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36	2/36				V		
138	137	515	13	2	包含層	13K-6G19	IIIb	須恵器	無台杯		7.9			精	石・長	C	灰白 (5Y7/2)	灰 (5Y6/1)	還元			ロクロナデ	ヘラ切り			8/36	2/36				IV		
138	137	516	13	2	包含層	13K-6G20	IV	須恵器	無台杯		7.0			普通	石・長・チ・白	C	灰白 (5Y8/1)	灰白 (5Y8/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り			11/36	2/36				V		
138	137	517	13	2	包含層	13K-3F20	IV	須恵器	無台杯		8.1			普通	石・長	B	灰白 (2.5Y7/1)	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り			8/36	12/36				V		
138	137	518	13	2	包含層	13K-4G1	IV	須恵器	有台杯					普通	石・長	C	黄灰 (2.5Y5/1)	黄灰 (2.5Y5/1)	還元			ロクロナデ	ヘラ切り			1/36	墨かス				IV~V		
138	137	519	13	2	包含層	13K-5G23	IV	須恵器	杯蓋	A1	(14.0)			普通	石・長・白	不明	灰白 (5Y8/1)	灰白 (5Y8/2)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36	5/36				V		
138	137	520	13	2	包含層	13K-6G19	IIIb	須恵器	大甕					精	石・長・白	C	灰 (7.5Y5/1)	灰白 (7.5Y7/1)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	Da			1/36					III~V		
138	137	521	13	2	包含層	13K-9H8	IV	須恵器	大甕					精	石・長	C	灰 (N4/0)	灰 (N6/0)	還元	タタキメ	Ha	当て具痕	Da			1/36					III~V		
138	137	522	13	2	包含層	13K-7H21	II	須恵器	大甕					精	石・長	C	灰 (N4/0)	灰 (7.5Y4/1)	還元	タタキメ、カキメ、ハケメ	Ha	当て具痕、ナデ	Da			1/36					III~V		
138	137	523	13	2	包含層	13K-7H11	IV	土師器	無台椀 _a		6.2			普通	石・長・チ・白・海		浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ	糸切り	右		34/36	8/36						
138	137	524	13	2	包含層	13K-8H12	IV	土師器	長甕	B2	(20.0)			粗	石・長・雲・チ		浅黄橙 (7.5YR8/3)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				2/36	1/36						

図版No.	写真版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	含有物	産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考	
				遺構名	グリッド					口径	底径	器高						外面	内面		外面	工具	内面	工具	底部	回転	口縁部	底部	全体			内面
138	137	525	13	2	包含層	13K-6G14	IV	土師器	長甕	B2	(20.0)				普通	石・長・チ	灰白 (7.5YR8/2)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ					2/36		1/36					
138	137	526	13	2	包含層	13K-6G4	IV	土師器	長甕	C2	(20.6)				粗	石・長・チ・海	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			2/36		1/36					
138	137	527	13	2	包含層	13K-9H8	IV	土師器	小甕			7.0			粗	石・長・雲・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ				6/36	3/36					
138	137	528	13	2		14K-116	IIIc	青磁	皿		(14.0)				普通	長	明緑灰 (7.5GY7/1)	明緑灰 (7.5GY7/1)		施釉		施釉			1/36		1/36					
138	137	529	13	3	SX2	17L-2G10	2	須恵器	杯蓋						普通	石・長	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (2.5Y8/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ					15/36					
138	123・137	530	13	3	SX2	17L-2G10	2	須恵器	密蓋	C	12.8				精	石	暗灰 (N3/0)	灰 (N6/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	天井部ヘラ切り		4/36		7/36	自然釉	自然釉	III~V		
138	123・137	531	13	3	SX6	17L-2G15	1	須恵器	無台杯	AII	12.1	7.5	3.5	29	62	精	石・長・白	灰白 (7.5Y7/1)	灰白 (7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ	右	33/36	36/36	35/36			V	
138	137	532	13	3	SX6	17L-2G10	1	須恵器	無台杯			8.2				普通	石	灰白 (2.5Y8/2)	灰白 (2.5Y8/2)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り後ナデ		19/36	21/36				V	
138	137	533	13	3	SX6	17L-2G10	1	須恵器	無台杯			9.0				普通	石・長・雲	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (2.5Y8/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り		8/36	16/36				V	
138	137	534	13	3	SX6	17L-2G10	1	須恵器	無台杯						普通	石・長	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (2.5Y8/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り		8/36	8/36				V		
138	137	535	13	3	SX6	17L-2G15	1	須恵器	密蓋	C	12.9				精	石・長	灰 (N6/0)	暗灰 (N3/0)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ			6/36		2/36	自然釉			V	
139	137	536	13	3	SX6	17L-2G10	1	土師器	長甕	A	(20.2)				粗	石・長・チ・白	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			3/36		1/36					
139	137	537	13	3	SX6	17L-2G15	1	土師器	小甕	B1	18.6				粗	石・長・チ・白	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			6/36		8/36					
139	137	538	13	3	SX6	17L-2G10・15	1	土師器	小甕	A	14.0				普通	石・長・雲・チ・白	橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			15/36		19/36		スス			
139	137	539	13	3	SX6	17L-2G10	1	土師器	小甕	A	(13.5)				粗	石・長	にぶい黄橙 (10YR7/2)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			2/36		1/36					
139	137	540	13	3	SX6	17L-2G10	1	土師器	小甕	A	13.6				普通	石・長・白	橙 (5YR7/6)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			4/36		6/36					
139	137	541	13	3	SX6	17L-2G15	1	土師器	小甕			7.5			普通	石・長・雲・チ・焼	浅黄 (2.5Y7/3)	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ	ナデ		17/36	3/36		スス				
139	137	542	13	3	SX6	17L-2G10	1	土師器	小甕			8.6			粗	石・長・チ	灰白 (10YR8/2)	灰白 (10YR8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ	糸切り	右	12/36	2/36	コゲ					
139	137	543	13	3	SX6	17L-2G10	1	土師器	小甕			8.0			普通	石・雲・チ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ	糸切り		9/36	2/36						
139	137	544	13	3	包含層	17L-2G10	IV	須恵器	無台杯			8.1			精	石・白	灰白 (2.5Y7/1)	灰白 (2.5Y8/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り		4/36	2/36				IV2・3・V		
139	137	545	13	3	包含層	17L-2G10	IV	須恵器	有台杯						精	石・長・白	灰白 (10YR7/1)	灰白 (10YR7/1)	還元	ロクロナデ、ナデ		ロクロナデ				5/36					IV2・3・V	
139	137	546	13	3	包含層	17L-2G4	IV	須恵器	杯蓋	B1	(14.0)				精	石・長	灰白 (7.5Y7/1)	灰白 (5Y7/1)	還元	ロクロナデ		ロクロナデ			3/36		1/36				V	
139	123・137	547	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	無台椀 _a	B1III	12.3	5.9	3.1	25	49	粗	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			22/36	36/36	27/36				
139	137	548	13	3	包含層	17L-2G10	IV	土師器	無台椀 _a		(13.0)				粗	石・長	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			3/36		1/36					
139	137	549	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	無台椀 _a			7.3			粗	石・長・チ・白	浅黄橙 (7.5YR8/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			9/36	3/36						
139	137	550	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	無台椀 _a			6.4			粗	石・長・チ・白	橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ	糸切り		18/36	4/36						
139	137	551	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	長甕	B1	(20.0)				粗	石・長・雲・チ	浅黄 (2.5Y7/3)	淡黄 (2.5Y8/3)	酸化	ロクロナデ、カキメ		ロクロナデ			2/36		1/36		スス			
139	137	552	13	3	包含層	17L-2G10	IV	土師器	小甕	B1	(14.3)				粗	石・長・チ	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			3/36		1/36		スス・コゲ			
139	137	553	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	小甕	B1	(14.0)				粗	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	黄橙 (10YR8/8)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			2/36		1/36					
139	137	554	13	3	包含層	17L-2G10	IV	土師器	小甕	B1	(14.0)				粗	石・長・チ・白	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			1/36		1/36					
139	137	555	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	小甕	B1	(13.0)				粗	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			3/36		1/36					
139	137	556	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	小甕	B1	(13.0)				粗	石・長	灰黄 (2.5Y7/2)	浅黄 (2.5Y7/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			3/36		1/36		スス・コゲ			
139	137	557	13	3	包含層	17L-2G10	IV	土師器	小甕			7.3			粗	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/4)	灰白 (2.5Y8/2)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ			36/36	13/36						
139	137	558	13	3	包含層	17L-2G10	IV	土師器	小甕			8.6			粗	石・長・チ	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化			ロクロナデ			12/36	5/36						

図版No.	写真図版No.	報告書No.	年度	出土位置		層位	種別	器種	分類	法量 (cm)			器高指数	底径指数	胎土	含有物	産地	色調		焼成	手法				遺存率			付着物		時期	備考		
				区	遺構名					グリッド	口径	底径						器高	外面		内面	外面	内面	工具	底面	回転	口縁部	底部	全体			内面	外面
139	137	559	13	3	包含層	17L-2G10	IV	土師器	小甕			7.8			粗	石・長・雲	にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り				6/36	2/36				
139	137	560	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	小甕			6.9			粗	石・長・雲・チ	にぶい橙 (7.5YR7/3)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ		糸切り	右		17/36	8/36	炭化物				
139	137	561	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	小甕			7.0			粗	石・長・チ・白	にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					12/36	3/36		スス			
139	137	562	13	3	包含層	17L-2G5	IV	土師器	小甕			7.0			粗	石・長・雲・チ・白	にぶい黄 (2.5Y6/3)	淡黄 (2.5Y8/4)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					10/36	3/36		スス			
139	137	563	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	小甕			7.0			粗	石・長・チ	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					10/36	3/36					
139	137	564	13	3	包含層	17L-3H1	IV	土師器	小甕			6.0			粗	石・長・チ	橙 (7.5YR7/6)	黄橙 (10YR8/6)	酸化	ロクロナデ		ロクロナデ					16/36	6/36					
139	137	565	13	3	包含層	17L-2G10	IV	土師器	小甕			7.0			粗	石・長・チ	にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	酸化	ロクロナデ、ロクロケズリ		ロクロナデ					7/36	3/36		スス			

別表 8 細池寺道上遺跡第 38・41 次調査鉄製品観察表

図版No.	写真図版No.	報告書No.	種別	年度	出土位置			法量 (mm)			重量 (g)	備考	
					区	遺構名	グリッド	層位	長さ	幅			厚さ
140	139	1	刀子 (鉄製品)	12	1		12J-2G5	I・II	11.8	47.0	4.3	11.60	
140	139	2	不明鉄製品	13	1	SD462	10J-4B19	1	43.0	2.0	3.3	8.97	
140	139	3	不明鉄製品	13	1	SD462	10J-4B19	1	67.5	14.5	3.5	8.72	
140	139	4	刀子	13	1	SD152	10J-6F22	2	50.5	18.4	4.5	8.32	
140	139	5	鉄釘	13	1	SD152	10J-6F22	2	33.6	4.2	4.5	1.77	
140	139	6	鉄鎌	13	1		10J-4C11	IV	98.0	11.5	10.4	46.20	
140	139	7	不明鉄製品	13	1		10J-4F24	IV	24.0	4.0	4.0	2.51	

別表 9 細池寺道上遺跡第 38 次調査鍛冶関連遺物観察表

図版No.	写真図版No.	報告書No.	注記	種別	胎土	出土位置		法量 (mm)				重量 (g)	備考	
						区	遺構名	グリッド	層位	長さ	幅			厚さ
140	139	8	12細池寺道上 1区.11J-1011.1. II層	羽口	石・長	1		11J-1011	I, II	46.7	53.0	20.3 (断:20.0)	36.0	43.90
140	139	9	12細池寺道上 1区.11J-1011.1. II層	羽口	石・長	1		11J-1011	I, II	46.0	36.5	21 (断:20.5)	45.0	36.90

別表 10 細池寺道上遺跡第 32・38・41 次調査石製品観察表

図版No.	写真図版No.	報告書No.	注記	出土位置			種別	分類	石材	法量 (mm, g)				時代	備考
				区	遺構	グリッド				層位	長さ	幅	厚さ		
141	140	1	11細池寺道上 1区.17L-614.1層	1		17L-614	I	バステル形石製品	滑石	40.9	7.7	5.5	3.69	古代・中世	白色
141	140	2	11細池寺道上 2区.18L-3110. III層	2		18L-3110	III	軽石製石製品	軽石	35.0	37.5	24.2	12.02	古代	
141	140	3	12細池寺道上 1区.SN1001.12J-3H9.1.2層	1	SN1001	12J-3H9	1・2	砥石	凝灰岩	90.0	48.5	26.5	84.65	中世	砥面2面
141	140	4	12細池寺道上 1区.旧河道1007.12K-2B8.3d層 No64	1	旧河道1007	12K-2B8	3d	砥石	緑色砂岩	43.8	33.2	26.7	49.68	古代	
141	140	5	12細池寺道上 1区.旧河道1007.12K-1B7.3f層 No992	1	旧河道1007	12K-1B7	3f	砥石	凝灰岩	53.0	47.5	30.5	72.10	古代	
141	140	6	12細池寺道上 1区.旧河道1007.12K-1B11 No491	1	旧河道1007	12K-1B11		台石	花崗岩	151.5	128.0	82.0	2277.97	古代	被熱
141	140	7	12細池寺道上 1区.SD1071.11J-10F11.1層	1	SD1071	11J-10F11	1	軽石製石製品	小形 軽石	46.0	28.5	23.0	8.81	中世	
141	140	8	12細池寺道上 1区.SN1001.12J-2H1.1.2層	1	SN1001	12J-2H1	1・2	軽石製石製品	小形 軽石	48.5	36.0	22.5	10.61	中世	
141	140	9	12細池寺道上 1区.SN1001.12J-3H25.1.2層	1	SN1001	12J-3H25	1・2	軽石製石製品	中形 軽石	60.5	43.5	26.0	17.19	中世	
141	140	10	12細池寺道上 1区.旧河道1007.12K-2B24.3d層 No920	1	旧河道1007	12K-2B24	3d	軽石製石製品	小形 軽石	42.0	31.8	13.5	9.20	古代	
141	140	11	12細池寺道上 1区.旧河道1007.11K-10B6.3e層 No954	1	旧河道1007	11K-10B6	3e	軽石製石製品	小形 軽石	44.5	36.0	28.5	19.00	古代	
141	140	12	12細池寺道上 1区.旧河道1007.11K-10B6.3e層 No955	1	旧河道1007	11K-10B6	3e	軽石製石製品	小形 軽石	47.3	35.5	18.8	10.81	古代	
141	140	13	12細池寺道上 1区.旧河道1007.12K-1B2.3f層 No832	1	旧河道1007	12K-1B2	3f	軽石製石製品	小形 軽石	28.5	17.8	7.2	1.62	古代	
141	140	14	12細池寺道上 1区.旧河道1007.12K-1B6.粘3層 No1013	1	旧河道1007	12K-1B6	3f	軽石製石製品	小形 軽石	23.0	47.8	31.0	10.00	古代	
141	140	15	12細池寺道上 1区.12J-1G2.1,II層	1		12J-1G2	I・II	軽石製石製品	中形 軽石	51.5	45.5	24.5	15.91	古代	
141	140	16	13細池寺道上 1区.SD152.10J-3A14.1層	1	SD152	10J-3A14	1	砥石	緑色凝灰岩	61.3	31.8	16.3	38.97	中世	砥面5面
142	140	17	13細池寺道上 1区.SD152.10J-3B2.1層	1	SD152	10J-3B2	1	砥石	緑色凝灰岩	54.5	24.1	26.1	49.31	中世	砥面5面
142	140	18	13細池寺道上 1区.SD152.10J-4C3.1層	1	SD152	10J-4C3	1	砥石	凝灰岩	49.5	33.8	33.8	21.35	中世	砥面1面
142	140	19	13細池寺道上 1区.SN851.10J-3C22.1層	1	SN851	10J-3C22	1	砥石	凝灰岩	53.9	46.4	23.5	48.00	中世	砥面3面
142	141	20	13細池寺道上 1区.Pit477.10J-5C6.1層	1	Pit477	10J-5C6	1	砥石	凝灰岩	79.2	33.3	17.1	32.77	中世	砥面1面、被熱
142	141	21	13細池寺道上 1区.Pit477.10J-5C6.1層	1	Pit477	10J-5C6	1	砥石	凝灰岩	39.1	29.5	7.3	6.18	中世	砥面3面
142	141	22	13細池寺道上 1区.10J-4C13. IV層	1		10J-4C13	IV	砥石	凝灰岩	69.9	35.2	25.5	38.24	中世	砥面4面
142	141	23	13細池寺道上 1区.10J-5G6. IV層	1		10J-5G6	IV	砥石	花崗岩	17.4	43.5	24.6	21.87	中世	
142	141	24	13細池寺道上 1区.10J-7D17. IV層	1		10J-7D17	IV	砥石	緑色凝灰岩	44.5	32.2	11.0	22.10	古代	砥面1面
142	141	25	13細池寺道上 3区.SX6.17L-2G10.1層	3	SX6	17L-2G10	1	砥石	凝灰岩	20.1	12.2	10.6	2.53	古代	砥面1面、礫片素材
142	141	26	13細池寺道上 1区SSD152.10J-4C8.1層	1	SD152	10J-4C8	1	磨石	緑色凝灰岩	26.7	21.6	20.9	15.37	中世	
142	141	27	13細池寺道上 1区.SD152.10J-4C20.3層 No5	1	SD152	10J-4C20	3	磨石	緑色凝灰岩	78.8	62.9	31.4	231.44	中世	
142	141	28	13細池寺道上 3区.SX6.17L-2G10.1層	3	SX6	17L-2G10	1	磨石	花崗岩	51.1	88.5	72.4	271.14	古代	
142	141	29	13細池寺道上 1区.SD152.10J-5D2.1層	1	SD152	10J-5D2	1	砥石	緑色凝灰岩	115.0	49.3	44.4	297.63	中世	
142	141	30	13細池寺道上 1区.SN373.10J-4F25.2層	1	SN373	10J-4F25	2	砥石	ホルンフェルス	86.1	105.7	68.6	269.39	中世	
142	141	31	13細池寺道上 1区.SN373.10J-5E10.1層	1	SN373	10J-5E10	1	砥石	輝石安山岩	115.8	48.2	38.3	654.19	中世	被熱
142	141	32	13細池寺道上 1区.10J-7D2. IV層	1		10J-7D2	IV	砥石	蛇紋岩	68.5	57.3	47.2	164.04	古代	

図版No.	写真図版No.	報告書No.	注記	出土位置			種別	分類	石材	法量 (mm, g)			時代	備考	
				区	遺構	グリッド				層位	長さ	幅			厚さ
142	141	33	13細池寺道上 1区. SD827. 10J-3D7. 1層	1	SD827	10J-3D7	1	台石	花崗岩	138.1	125.7	118.9	2795.21	中世	
143	142	34	13細池寺道上 1区. SD152. 10J-4C14. 2層	1	SD152	10J-4C14	2	台石	花崗岩	159.4	115.7	62.9	1286.86	中世	被熱・炭化物
143	142	35	13細池寺道上 1区. SD152. 10J-4C14. 2層	1	SD152	10J-4C14	2	台石	硬砂岩	35.4	32.0	22.3	14.71	中世	
143	142	36	13細池寺道上 1区. SD152. 10J-5D15. 4層	1	SD152	10J-5D15	4	軽石製石製品	中形 軽石	88.8	64.5	41.5	73.43	中世	
143	142	37	13細池寺道上 1区. SD152. 10J-4C24. 3層	1	SD152	10J-4C24	3	軽石製石製品	小形 軽石	48.6	34.7	28.2	11.63	中世	
143	142	38	13細池寺道上 1区. SD152. 10J-4C25. 1層	1	SD152	10J-4C25	1	軽石製石製品	小形 軽石	40.0	31.9	34.1	12.60	中世	
143	142	39	13細池寺道上 1区. SD152. 10J-6E3. 2層	1	SD152	10J-6E3	2	軽石製石製品	小形 軽石	48.0	36.0	23.9	15.53	中世	
143	142	40	13細池寺道上 1区. SD152. 10J-6E3. 2層	1	SD152	10J-6E3	2	軽石製石製品	小形 軽石	45.7	35.0	18.7	7.67	中世	
143	142	41	13細池寺道上 1区. SN838. 10J-2D24. 1層	1	SN838	10J-2D24	1	軽石製石製品	小形 軽石	33.1	25.0	16.5	4.67	中世	
143	142	42	13細池寺道上 1区. 10J-5E20. IV層	1		10J-5E20	IV	軽石製石製品	超大型 軽石	159.8	67.5	63.2	354.52	中世	
143	142	43	13細池寺道上 1区. 10J-3C20. IV層	1		10J-3C20	IV	軽石製石製品	中形 軽石	53.2	43.3	26.6	18.14	中世	
143	142	44	13細池寺道上 2区. SD14. 13K-8H1. 2層	2	SD14	13K-8H1	2	軽石製石製品	小形 軽石	32.1	21.9	17.6	3.31	古代	
143	142	45	13細池寺道上 1区. SD152. 10J-4C25. 3層 No40	1	SD152	10J-4C25	3	石鉢	滑石				134.17	中世	径: 31cm

別表 11 細池寺道上遺跡第 38・41 次調査木製品観察表

図版No.	写真図版No.	報告書No.	年度	出土位置			器種	樹種	法量 (cm)						木取り	時代	備考 (取り上げNo.)		
				区	遺構	グリッド			層位	長さ	幅	厚さ	口径	底径				器高	
144	143	1	12	1	旧河道1007	11K-10B21		椀	8.4	4.0	2.9					椀目	古代	579	
144	143	2	12	1	旧河道1007	12K-1B17	3e	盤				19.8	14.6	2.1		椀目	古代	532	
144	143	3	12	1	旧河道1007	12K-1B16		曲物底板	(25.4)	(9.8)	0.5					椀目	古代	848	
144	143	4	12	1	旧河道1007	12K-1B16		曲物側板	4.85	5.9	0.35					椀目	古代	845	
144	143	5	12	1	旧河道1007	11K-10B22		曲物側板	(13.5)	(2.6)	0.45					椀目	古代	580	
144	143	6	12	1	旧河道1007	12K-1B12	3e	斎串	11.9	1.75	0.55					椀目	古代	962	
144	144	7	12	1	旧河道1007	12K-1A15		箸	(25.2)	0.6	0.6						古代	419	
144	144	8	12	1	旧河道1007	11K-10B2		箸	(22.8)	0.5	0.5						古代	808	
144	144	9	12	1	旧河道1007	11K-10B1		箸	(19.9)	0.5	0.5						古代	838a	
144	144	10	12	1	旧河道1007	12K-1B16		箸	17.5	0.6	0.6						古代	533	
144	144	11	12	1	旧河道1007	12K-1B7		箸	13.3	5.5	6.0						古代	1033	
144	144	12	12	1	旧河道1007	12K-1B11		箸	7.7	0.5	0.5						古代	503	
144	144	13	12	1	旧河道1007	12K-1B16		箸	(13.6)	0.5	0.5						古代	448	
144	144	14	12	1	旧河道1007	12K-1B17		箸	5.4	0.6	0.45						古代	692	
144	144	15	12	1	旧河道1007	11K-10B1		箸	(12.3)	0.5	0.5						古代	838b	
144	144	16	12	1	旧河道1007	12K-1B22		箸	12.1	0.7	0.5						古代	693	
144	144	17	12	1	旧河道1007	12K-1B17		箸状製品	(17.1)	0.8	0.4						古代	694	
144	144	18	12	1	旧河道1007	12K-1B11	3e	箸状製品	9.9	0.5	0.5						古代	-	
144	144	19	12	1	旧河道1007	11K-10B21		箸状製品	13.4	5.0	5.5						古代	833	
145	144	20	12	1	旧河道1007	11K-10B16		尖棒	30.2	1.2	1.1					板目	古代	849	
145	144	21	12	1	旧河道1007	12K-1B23		細形角柱材	23.5	1.15	0.7					板目	古代	643	
145	144	22	12	1	旧河道1007	12K-1B17		細形角柱材	42.7	0.9	0.7					椀目	古代	531	
145	144	23	12	1	旧河道1007	12K-1B17		細形角柱材	36.6	0.6	0.5					板目	古代	612	
145	144	24	12	1	旧河道1007	11K-10B2	3f	細形角柱材	60.2	1.6	0.6					椀目	古代	839	
145	144	25	12	1	旧河道1007	12K-1B11		細形角柱材	57.5	1.2	0.8					板目	古代	847	
145	144	26	12	1	旧河道1007	12K-1B12	3f	細形角柱材	(44.1)	1.2	1.1					椀目	古代	1025	
145	144	27	12	1	旧河道1007	12K-1B17		板	10.85	2.1	0.25					椀目	古代	763	
145	144	28	12	1	旧河道1007	12K-1B12		板	5.45	1.55	0.25					椀目	古代	691	
145	144	29	12	1	旧河道1007	12K-1B16		板	5.45	4.0	0.65					椀目	古代	349	
145	144	30	12	1	旧河道1007	12K-1B12		板	5.95	4.1	1.6					板目	古代	596	
145	144	31	12	1	旧河道1007	12K-1B21		板	7.75	3.5	1.5					板目	古代	472	
145	144	32	12	1	旧河道1007	12K-1B1		板	6.25	6.55	1.5					板目	古代	534	
146	144	33	12	1	旧河道1007	12K-10B11		板	(20.4)	2.9	1.2						古代	835	
146	144	34	12	1	旧河道1007	12K-1B16		板	21.40	4.25	1.35					板目	古代	356	
146	144	35	12	1	旧河道1007	11K-10B12		板	16.0	4.2	0.9					板目	古代	972	
146	144	36	12	1	旧河道1007	12K-1B2		板	8.05	5.7	1.9					椀目	古代	1020	
146	145	37	12	1	旧河道1007	11K-10A20		板	58.2	9.7	1.2					板目	古代	671	
146	145	38	12	1	旧河道1007	12K-1B1	3e	分割材	9.8	4.0	2.4					椀目	古代		
146	145	39	12	1	旧河道1007	11K-10B6		板	12.1	11.75	1.7					椀目	古代	837	
147	145	40	12	1	旧河道1007	11K-10B7		板	25.5	10.4	1.9					板目	古代	791	
147	145	41	12	1	旧河道1007	11K-10B21		板	40.1	6.4	1.5					板目	古代	695	
147	145	42	12	1	旧河道1007	11K-10B16		杭	(16.4)	4.8	4.9					丸木	古代	850	
147	145	43	12	1	旧河道1007	11K-10B7	3e	杭	(17.4)	4.8	4.7					丸木	古代	840	
148	146	44	12	1	旧河道1007	11K-1B16	3e	杭 ヤナギ属近以種	(74.3)	18.4	17.5					丸木	古代	1036	
148	146	45	13	1	SE357	10J-5B15	4	不明	30.8	3.6	1.95						中世		
28・30・31・50～52	63・64	46	12	1	旧河道1007	11K-9B・10B・12K-1B・2B	3e・3f	加工木	カツラ	2433.0	84.0	92.0					丸木	古代	木道1008

別表 12 細池寺道上遺跡第 32 次調査遺構出土古代土器器種構成比率表

凡例 1 古代の遺構から出土した土器（土師器・黒色土器・須恵器）の構成比率を示した表である。
 2 土器の計測法は口縁部残存率法（宇野 1992、春日 1994）とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は¹/₃₆を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

区	遺構名	種別 計測表	土師器							黒色土器		須恵器										合計					
			食膳具		長甕	小甕	煮炊具		鉢	壺	その他	食膳具		無台杯	有台杯	杯蓋	大甕	長頸壺	短頸壺	小型壺	貯蔵具		壺蓋	鉢	横瓶	その他	
無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	無台碗			有台碗	無台碗				有台碗	無台碗								有台碗	無台碗					有台碗
2	Pit2	口縁値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底残数(点)																									
		点 数(点)						1: 100.0%																			1: 100.0%
重 量(g)						3: 100.0%																			3: 100.0%		
2	旧河道1	口縁値																									
		口縁数(点)																									
		底残値																									
		底残数(点)																									
		点 数(点)																								2: 100.0%	
重 量(g)																								7: 100.0%			

別表 13 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構出土古代土器器種構成比率表

凡例 1 古代の遺構から出土した土器（土師器・黒色土器・須恵器）の構成比率を示した表である。
 2 土器の計測法は口縁部残存率法（宇野 1992、春日 1994）とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は¹/₃₆を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

区	遺構名	種別 計測表	土師器							黒色土器		須恵器										合計				
			食膳具		長甕	小甕	煮炊具		鉢	壺	その他	食膳具		無台杯	有台杯	杯蓋	大甕	長頸壺	短頸壺	小型壺	貯蔵具		壺蓋	鉢	横瓶	その他
無台碗	有台碗	無台碗	有台碗	無台碗			有台碗	無台碗				有台碗	無台碗								有台碗	無台碗				
1	SK1091	口縁値																								
		口縁数(点)																								
		底残値																								
		底残数(点)																								
		点 数(点)																								1: 100.0%
重 量(g)																								2: 100.0%		
1	SK1043	口縁値																								
		口縁数(点)																								
		底残値																								
		底残数(点)																								
		点 数(点)																								1: 73.4%
重 量(g)																								88: 83.0%		
1	SK1033	口縁値																								
		口縁数(点)																								
		底残値																								
		底残数(点)																								
		点 数(点)																								1: 12.5%
重 量(g)																								0.056: 10.5%		
1	SK1034	口縁値																								
		口縁数(点)																								
		底残値																								
		底残数(点)																								
		点 数(点)																								1: 12.5%
重 量(g)																								0.056: 10.5%		
1	SK1126	口縁値																								
		口縁数(点)																								
		底残値																								
		底残数(点)																								
		点 数(点)																								1: 100.0%
重 量(g)																								8: 100.0%		
1	SK1134	口縁値																								
		口縁数(点)																								
		底残値																								
		底残数(点)																								
		点 数(点)																								1: 100.0%
重 量(g)																								19: 100.0%		
1	SK1090	口縁値																								
		口縁数(点)																								
		底残値																								
		底残数(点)																								
		点 数(点)																								0.056: 100.0%
重 量(g)																								0.056: 100.0%		
1	SX1239	口縁値																								
		口縁数(点)																								
		底残値																								
		底残数(点)																								
		点 数(点)																								1: 1.8%
重 量(g)																								10: 3.8%		

別表 14 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構出土古代土器器種構成比率表

凡例 1 古代の遺構から出土した土器（土師器・黒色土器・須恵器）の構成比率を示した表である。
 2 土器の計測法は口縁部残存率法（守野 1992、春日 1994）とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は¹/₃₆を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

区	遺構名	種別 計測法	土師器					黒色土器		須恵器					合計		
			食膳具		煮炊具		鍋	無台碗	有台杯	大甕	長頸壺	貯蔵具	横瓶	壺蓋			
			無台碗	有台碗	長甕	小甕	鍋	無台碗	有台杯	杯蓋	大甕	長頸壺	鉢	横瓶	壺蓋		
1	SE357	口縁数 (点)															
		底残値															
		底部数 (点)			3	5						1					9
		総点数 (点)			33.3%	55.6%						11.1%					100.0%
		総重量 (g)			13.55	13.55						98.45					125.55
1	SK538	口縁数 (点)															
		底残値	0.528	100.0%													0.528
		底部数 (点)	1	100.0%													1
		総点数 (点)	2	50.0%		1	25.0%	1	25.0%								4
		総重量 (g)	30.14	76.2%		6.82	17.2%	2.63	6.6%								39.59
1	SK519	口縁数 (点)															
		底残値															
		底部数 (点)			1	100.0%											1
		総点数 (点)			1	100.0%											1
		総重量 (g)			4.45	100.0%											4.45
1	SK447	口縁数 (点)															
		底残値															
		底部数 (点)				2	100.0%										2
		総点数 (点)				2	100.0%										2
		総重量 (g)				6.23	100.0%										6.23
1	SK163	口縁数 (点)									0.028	100.0%					
		底残値									1	100.0%					1
		底部数 (点)				2	66.7%				1	33.3%					3
		総点数 (点)				1.85	74.0%				0.65	26.0%					2.5
		総重量 (g)															
1	SK140	口縁数 (点)															
		底残値															
		底部数 (点)	2	18.2%		8	72.7%	1	9.1%								11
		総点数 (点)	7.87	6.2%		107.25	84.9%	11.27	8.9%								126.39
		総重量 (g)	0.139	18.5%		0.056	7.4%	0.250	33.3%			0.306	40.8%				0.751
1	SK139	口縁数 (点)	2	18.2%		1	9.1%				5	45.4%				11	
		底残値						0.222	23.5%		0.722	76.5%					0.944
		底部数 (点)						1	33.3%		2	66.7%					3
		総点数 (点)	3	5.4%		11	19.6%	20	35.7%	7	12.5%	14	25.0%	1	1.8%		56
		総重量 (g)	17.67	3.6%		133.65	27.2%	179.8	36.5%	76.55	15.6%	79.13	16.1%	4.95	1.0%		491.75
1	SK138	口縁数 (点)	0.139	33.3%			0.278	66.7%									0.417
		底残値	0.361	72.2%			0.139	27.8%									0.500
		底部数 (点)	2	66.7%			1	33.3%									3
		総点数 (点)	9	16.1%		13	23.2%	30	53.5%	2	3.6%						56
		総重量 (g)	55.95	18.8%		45.09	15.1%	114.07	38.3%	71.72	24.0%						298.24
1	SK137	口縁数 (点)															
		底残値					0.500	100.0%									0.500
		底部数 (点)					1	100.0%									1
		総点数 (点)					7	43.7%				6	37.5%				16
		総重量 (g)					19.08	21.1%				19.15	21.1%				90.6
1	SK89	口縁数 (点)	0.333	44.4%													0.750
		底残値	0.944	50.0%								0.944	50.0%				1.888
		底部数 (点)	2	28.6%								5	71.4%				7
		総点数 (点)	52	25.2%			16	7.7%				17	8.2%				207
		総重量 (g)	187.95	10.8%			96.88	5.6%				1263.22	72.5%				1741.96
1	SX372	口縁数 (点)															
		底残値			0.028	50.0%	0.028	50.0%									0.056
		底部数 (点)			1	25.0%	3	75.0%									4
		総点数 (点)			1	25.0%	3	75.0%									4
		総重量 (g)			4.51	66.9%	2.23	33.1%									6.74
1	SX146	口縁数 (点)									0.222	88.9%					0.250
		底残値									1	50.0%					2
		底部数 (点)										0.278	100.0%				0.278
		総点数 (点)										1	100.0%				1
		総重量 (g)					5	55.6%				1	11.1%				9
1	SD848	口縁数 (点)															
		底残値															
		底部数 (点)															
		総点数 (点)															
		総重量 (g)															

区	遺構名	種別 計測表	土師器					黒色土器		須恵器					合計			
			食膳具		煮炊具		食膳具 無台碗	無台杯	食膳具 有台杯	杯蓋	大甕	長頸壺	鉢	横瓶		壺蓋		
			無台碗	有台碗	長甕	小甕	鍋	無台杯	有台杯	杯蓋	大甕	長頸壺	鉢	横瓶		壺蓋		
1	SD462	口残値				0.028: 50.0%			0.028: 50.0%								0.056: 100.0%	
		口縁数(点)				1: 50.0%			1: 50.0%								2: 100.0%	
		底残値																
		底点数(点)				2: 66.7%			1: 33.3%								3: 100.0%	
		総点数(点)				2: 66.7%			1: 33.3%								3: 100.0%	
総重量(g)				16.71: 92.1%			1.43: 7.9%								18.14: 100.0%			
1	SD152	口残値			0.028: 11.1%	0.167: 66.7%	0.056: 22.2%										0.251: 100.0%	
		口縁数(点)			1: 20.0%	3: 60.0%	1: 20.0%									5: 100.0%		
		底残値	0.611: 66.7%			0.306: 33.3%										0.917: 100.0%		
		底点数(点)	4: 66.7%			2: 33.3%										6: 100.0%		
		総点数(点)	30: 17.9%		96: 57.1%	30: 17.8%	8: 4.8%			2: 1.2%			1: 0.6%			168: 100.0%		
総重量(g)	56.2: 4.9%		436.95: 38.3%	101.16: 8.9%	245.72: 21.6%			8.21: 0.7%		273.13: 24.0%		18.46: 1.6%		1139.83: 100.0%				
1	SD441	口残値				0.083: 100.0%										0.083: 100.0%		
		口縁数(点)				1: 100.0%										1: 100.0%		
		底残値																
		底点数(点)			2: 50.0%	2: 50.0%										4: 100.0%		
		総点数(点)			2: 50.0%	2: 50.0%										4: 100.0%		
総重量(g)			23.39: 74.5%	8.02: 25.5%										31.41: 100.0%				
1	SD827	口残値	0.028: 50.0%							0.028: 50.0%						0.056: 100.0%		
		口縁数(点)	1: 50.0%							1: 50.0%						2: 100.0%		
		底残値																
		底点数(点)																
		総点数(点)	1: 11.1%			7: 77.8%				1: 11.1%						9: 100.0%		
総重量(g)	0.18: 0.1%			168.05: 98.1%				3.08: 1.8%						171.31: 100.0%				
1	SD822	口残値				0.111: 100.0%										0.111: 100.0%		
		口縁数(点)				3: 100.0%										3: 100.0%		
		底残値					0.583: 100.0%									0.583: 100.0%		
		底点数(点)				3: 100.0%										3: 100.0%		
		総点数(点)			9: 56.2%	5: 31.2%	1: 6.3%				1: 6.3%					16: 100.0%		
総重量(g)			85.53: 46.6%	52.21: 28.4%	7.64: 4.2%				38.23: 20.8%					183.61: 100.0%				
1	SD415	口残値																
		口縁数(点)																
		底残値																
		底点数(点)																
		総点数(点)	1: 100.0%													1: 100.0%		
総重量(g)	38.89: 100.0%													38.89: 100.0%				
1	SD151	口残値			0.056: 25.0%	0.056: 25.0%	0.083: 37.5%		0.028: 12.5%							0.223: 100.0%		
		口縁数(点)			1: 20.0%	1: 20.0%	2: 40.0%		1: 20.0%							5: 100.0%		
		底残値		0.250: 45.0%		0.250: 45.0%				0.056: 10.0%						0.556: 100.0%		
		底点数(点)	1: 20.0%	1: 20.0%		2: 40.0%				1: 20.0%						5: 100.0%		
		総点数(点)	5: 4.4%	1: 0.9%	56: 49.1%	48: 42.0%	2: 1.8%			2: 1.8%						114: 100.0%		
総重量(g)	12.28: 2.8%	25.53: 5.7%	241.36: 54.5%	74.07: 16.7%	63.4: 14.3%			26.6: 6.0%						443.24: 100.0%				
1	SD419	口残値				0.083: 100.0%										0.083: 100.0%		
		口縁数(点)				1: 100.0%										1: 100.0%		
		底残値	0.167: 31.6%			0.167: 31.6%				0.194: 36.8%					0.528: 100.0%			
		底点数(点)	1: 33.3%			1: 33.3%				1: 33.4%					3: 100.0%			
		総点数(点)	5: 16.7%		13: 43.4%	10: 33.3%	1: 3.3%			1: 3.3%					30: 100.0%			
総重量(g)	100.97: 35.4%		29.15: 10.2%	101.65: 35.8%	44.2: 15.5%			8.92: 3.1%						284.89: 100.0%				
1	SD147	口残値				0.083: 100.0%										0.083: 100.0%		
		口縁数(点)				1: 100.0%										1: 100.0%		
		底残値	0.167: 31.6%			0.361: 68.4%									0.528: 100.0%			
		底点数(点)	1: 50.0%			1: 50.0%									2: 100.0%			
		総点数(点)	14: 13.6%		27: 25.5%	60: 57.9%	1: 1.0%			1: 1.0%			1: 1.0%		104: 100.0%			
総重量(g)	46.38: 18.1%		123.31: 48.2%	75.71: 29.6%	5.04: 2.0%			2.58: 1.0%			2.72: 1.1%		255.74: 100.0%					
1	SD148	口残値																
		口縁数(点)																
		底残値																
		底点数(点)				2: 100.0%										2: 100.0%		
		総重量(g)				3.48: 100.0%										3.48: 100.0%		
1	SD149	口残値	0.083: 37.5%			0.111: 50.0%	0.028: 12.5%									0.222: 100.0%		
		口縁数(点)	2: 50.0%			1: 25.0%	1: 25.0%									4: 100.0%		
		底残値																
		底点数(点)																
		総点数(点)	5: 27.8%		2: 11.1%	10: 55.5%	1: 5.6%									18: 100.0%		
総重量(g)	32.8: 30.4%		25.55: 23.6%	28.1: 26.0%	21.56: 20.0%									108.01: 100.0%				
1	SD150	口残値	0.056: 100.0%													0.056: 100.0%		
		口縁数(点)	1: 100.0%													1: 100.0%		
		底残値																
		底点数(点)																
		総点数(点)	2: 18.2%		3: 27.3%	5: 45.4%	1: 9.1%									11: 100.0%		
総重量(g)	9.51: 13.9%		45.81: 66.8%	10.17: 14.8%	3.09: 4.5%									68.58: 100.0%				
1	SN857	口残値																
		口縁数(点)																
		底残値																
		底点数(点)																
		総重量(g)																
1	SN858	口残値																
		口縁数(点)																
		底残値																
		底点数(点)	1: 10.0%		2: 20.0%	4: 40.0%										10: 100.0%		
		総重量(g)	0.74: 0.6%		12.32: 10.7%	6.02: 5.2%										114.83: 100.0%		

区	遺構名	種別 計測表	土師器					黒色土器		須恵器					合計					
			食膳具		煮炊具		黒色土器 食膳具	食膳具			貯蔵具		横瓶							
			無台碗	有台碗	長甕	小甕	鍋	無台碗	無台杯	有台杯	杯蓋	大甕	長頸壺	鉢		横瓶	壺蓋			
2	SD14	口残値																		
		口縁数(点)																		
		底残値																		
		底部数(点)				2	66.7%													
		総点数(点)				2	66.7%													
2	SD12	口残値	0.056	33.3%	0.056	33.3%	0.056	33.4%												
		口縁数(点)	1	33.3%	1	33.4%	1	33.3%												
		底残値																		
		底部数(点)	1	25.0%	2	50.0%	1	25.0%												
		総点数(点)	2.03	9.9%	17.13	83.7%	1.31	6.4%												
2	SN21	口残値																		
		口縁数(点)																		
		底残値																		
		底部数(点)																		
		総点数(点)																		
2	SN20	口残値																		
		口縁数(点)																		
		底残値				0.472	100.0%													
		底部数(点)				1	100.0%													
		総点数(点)				1	100.0%													
2	SN19	口残値																		
		口縁数(点)			0.056	100.0%														
		底残値																		
		底部数(点)			1	100.0%														
		総点数(点)			6	100.0%														
3	SX2	口残値																		
		口縁数(点)																		
		底残値																		
		底部数(点)	2	18.2%	4	36.3%	3	27.3%												
		総点数(点)	6.76	5.0%	25.09	18.7%	5.36	4.0%												
3	SX6	口残値																		
		口縁数(点)			3	23.0%	7	53.8%												
		底残値					1.111	35.0%												
		底部数(点)					3	37.5%												
		総点数(点)	4	4.6%	40	46.4%	31	36.0%	3	3.5%										

別表 15 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構出土中世土器・陶磁器器種構成比率表

区	遺構名	種別 計測表	貯蔵具					調理具			特殊品			合計					
			珠洲焼		珠洲焼系陶器		笹神窯産	越前信楽	珠洲焼	北越窯産陶器	瀬戸・美濃焼	珠洲焼			中世土師器				
			壺 R 種	壺 T 種	甕	壺	甕	壺	甕	片口鉢	鉢	御皿	裝飾壺		水注	皿			
1	SD1076	破片数(点)							1	100.0%									
		個体数(点)							1	100.0%									
		総重量(g)							102	100.0%									
1	SD1102	破片数(点)			1	100.0%													
		個体数(点)			1	100.0%													
		総重量(g)			16	100.0%													
1	SN1002	破片数(点)									2	100.0%							
		個体数(点)									2	100.0%							
		総重量(g)									8	100.0%							

別表 16 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構出土中世土器・陶磁器器種構成比率表

区	遺構名	種別 計測表	貯蔵具					調理具			特殊品			合計					
			珠洲焼		珠洲焼系陶器		笹神窯産	越前信楽	珠洲焼	北越窯産陶器	瀬戸・美濃焼	珠洲焼			中世土師器				
			壺 R 種	壺 T 種	甕	壺	甕	壺	甕	片口鉢	鉢	御皿	裝飾壺		水注	皿			
1	SE357	破片数(点)			8	100.0%													
		個体数(点)			7	100.0%													
		総重量(g)			625.94	100.0%													
1	SD152	破片数(点)			80	75.0%													
		個体数(点)																	
		総重量(g)			4790.42	72.6%			763.03	11.6%									
1	SD827	破片数(点)			1	100.0%													
		個体数(点)			1	100.0%													
		総重量(g)			19.7	100.0%													
1	SN857	破片数(点)			1	100.0%													
		個体数(点)			1	100.0%													
		総重量(g)			100.2	100.0%													
1	SN858	破片数(点)			1	100.0%													
		個体数(点)			1	100.0%													
		総重量(g)			170.29	100.0%													
1	SN851	破片数(点)			2	66.7%													
		個体数(点)			2	66.7%													
		総重量(g)			31.99	73.2%													

別表 17 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構出土鉄製品点数集計表

地区	遺構	種別				鉄製品	不明	総点数 (点)
		刀子	鉄釘	鉄鍋	不明			
1区	SD462						3	
1区	SD152	1	1				2	
総点数 (点)		1	1			3	5	

別表 18 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構出土鉄製品重量集計表

地区	遺構	種別				鉄製品	不明	総重量 (g)
		刀子	鉄釘	鉄鍋	不明			
1区	SD462						18.16	
1区	SD152	8.32	1.77				10.09	
総重量 (g)		8.32	1.77			18.16	28.25	

別表 19 細池寺道上遺跡第 32・38・41 次調査石製品実測点数表

	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	バスター形石製品	合計
第32次調査出土					1		1	2
第32次調査実測					1		1	2
第38次調査出土	1		2	1	9			13
第38次調査実測	1		2	1	9			13
第41次調査出土	9	3	6	3	11	1		33
第41次調査実測	9	3	5	3	9	1		30
出土合計	10	3	8	4	21	1	1	48
実測合計	10	3	7	4	19	1	1	45

別表 20 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構出土石製品・礫構成率表

区	遺構名	種別 計測法	石製品						礫		合計					
			砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	焼礫	礫						
1	SD1071	点数(点)						1	100.00%			1	100.00%			
		個体数(点)						1	100.00%			1	100.00%			
		総重量(g)						8.81	100.00%			8.81	100.00%			
1	SN1001	点数(点)	1	9.09%			2	18.18%	1	9.09%	7	63.64%	11	100.00%		
		個体数(点)	1	7.69%			4	30.77%	1	7.69%	7	53.85%	13	100.00%		
		総重量(g)	84.65	42.44%			27.8	13.94%	1	0.50%	86	43.12%	199.45	100.00%		
1	SN1002	点数(点)									3	100.00%	3	100.00%		
		個体数(点)									3	100.00%	3	100.00%		
		総重量(g)									106	100.00%	106	100.00%		
1	旧河道1007	点数(点)			2	11.11%	1	5.56%	5	27.78%	2	11.11%	8	44.44%	18	100.00%
		個体数(点)			2	11.11%	1	5.56%	5	27.78%	2	11.11%	8	44.44%	18	100.00%
		総重量(g)			121.78	4.36%	2277.97	81.61%	50.71	1.82%	16	0.57%	325	11.64%	2791.46	100.00%
1	テラス1004	点数(点)										1	100.00%	1	100.00%	
		個体数(点)										1	100.00%	1	100.00%	
		総重量(g)										148	100.00%	148	100.00%	
2	SD1	点数(点)									4	40.00%	6	60.00%	10	100.00%
		個体数(点)									4	40.00%	6	60.00%	10	100.00%
		総重量(g)									1852	27.38%	4913	72.62%	6765	100.00%
3	SD502	点数(点)										5	100.00%	5	100.00%	
		個体数(点)										5	100.00%	5	100.00%	
		総重量(g)										1175	100.00%	1175	100.00%	
3	SD503	点数(点)										1	100.00%	1	100.00%	
		個体数(点)										1	100.00%	1	100.00%	
		総重量(g)										126	100.00%	126	100.00%	

別表 21 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構出土石製品・礫構成率表

区	遺構名	種別 計測法	石製品						礫		合計										
			砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	焼礫	礫											
1	SE357	点数(点)									2	100.00%	2	100.00%							
		個体数(点)									2	100.00%	2	100.00%							
		総重量(g)									89.95	100.00%	89.95	100.00%							
1	SK137	点数(点)										1	100.00%	1	100.00%						
		個体数(点)										1	100.00%	1	100.00%						
		総重量(g)										3.21	100.00%	3.21	100.00%						
1	SD462	点数(点)										1	100.00%	1	100.00%						
		個体数(点)										1	100.00%	1	100.00%						
		総重量(g)										5.46	100.00%	5.46	100.00%						
1	SD152	点数(点)	3	8.82%	2	5.88%	1	2.94%	2	5.88%	5	14.71%	1	2.94%	13	38.24%	7	20.59%	34	100.00%	
		個体数(点)	3	11.54%	2	7.69%	1	3.85%	2	7.69%	5	19.23%	1	3.85%	5	19.23%	7	26.92%	26	100.00%	
		総重量(g)	109.63	2.14%	246.81	4.83%	297.63	5.82%	1301.57	25.45%	120.86	2.36%	134.17	2.62%	1915.8	37.46%	988.18	19.32%	5114.65	100.00%	
1	SD827	点数(点)																	1	100.00%	
		個体数(点)																	1	100.00%	
		総重量(g)																	2795.21	100.00%	
1	SD822	点数(点)																	2	100.00%	
		個体数(点)																	2	100.00%	
		総重量(g)																	19	100.00%	
1	SD147	点数(点)																	1	100.00%	
		個体数(点)																	1	100.00%	
		総重量(g)																	117.09	100.00%	
1	SN851	点数(点)	1	100.00%															1	100.00%	
		個体数(点)	1	100.00%															1	100.00%	
		総重量(g)	48	100.00%															48	100.00%	
1	SN838	点数(点)								1	50.00%								1	50.00%	
		個体数(点)								1	50.00%								1	50.00%	
		総重量(g)								4.67	1.17%								393.3	98.83%	
1	SN373	点数(点)																	3	60.00%	
		個体数(点)																	3	60.00%	
		総重量(g)																	883.58	68.69%	
1	Pit477	点数(点)																		2	100.00%
		個体数(点)																		2	100.00%
		総重量(g)																		38.95	100.00%
2	SD14	点数(点)																		1	100.00%
		個体数(点)																		1	100.00%
		総重量(g)																		3.31	100.00%
3	SX6	点数(点)	1	14.29%	1	14.29%														5	71.42%
		個体数(点)	1	14.29%	1	14.29%														5	71.42%
		総重量(g)	2.53	0.84%	271.14	90.24%														26.8	8.92%

別表 22 細池寺道上遺跡第 32 次調査石製品組成と石材組成表

種別	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	バステル形石製品	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)	点数組成 (%)	重量組成 (%)
輝石安山岩												
花崗岩												
凝灰岩												
緑色凝灰岩												
軽石					1			1	12.02	12.02	100.00%	100.00%
硬砂岩												
蛇紋岩												
滑石							1	1	3.69	3.69	100.00%	100.00%
ホルンフェルス												
総点数 (点)					1		1	2		7.86	100.00%	
総重量 (g)					3.69		12.02		15.71			100.00%
点数組成 (%)					50.00%		50.00%	100.00%				
重量組成 (%)					23.49%		76.51%	100.00%				

別表 23 細池寺道上遺跡第 32 次調査地区別石製品組成表

種別地区	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	バステル形石製品	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)
1区							1	1	3.69	3.69
2区					1			1	12.02	12.02
総点数							1	2	15.71	

別表 24 細池寺道上遺跡第 32 次調査地区別石材組成表

種別地区	輝石安山岩	花崗岩	凝灰岩	緑色凝灰岩	軽石	硬砂岩	滑石	ホルンフェルス	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)
1区							1		1	3.69	3.69
2区					1				1	12.02	12.02
総点数					1		1		2	15.71	

別表 25 細池寺道上遺跡第 38 次調査石製品組成と石材組成表

種別	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)	点数組成 (%)	重量組成 (%)
輝石安山岩											
花崗岩				1			1	2277.97	2277.97	7.69%	88.03%
凝灰岩		1		1			2	156.75	78.38	15.38%	6.06%
緑色砂岩				1			1	49.68	49.68	7.69%	1.92%
軽石						9	9	103.23	11.47	69.23%	3.99%
硬砂岩											
蛇紋岩											
滑石											
ホルンフェルス											
総点数 (点)		1		2		9	13		199.05	100.00%	
総重量 (g)		84.65		121.78		103.23		2587.63			100.00%
点数組成 (%)		7.69%		15.38%		69.23%	100.00%				
重量組成 (%)		3.27%		4.71%		88.03%	100.00%				

別表 26 細池寺道上遺跡第 38 次調査地区別石製品組成表

種別地区	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)
1区	1	0	2	1	9	0	13	2587.63	199.05
総点数	1	0	2	1	9	0	13	2587.63	

別表 27 細池寺道上遺跡第 38 次調査地区別石材組成表

種別地区	輝石安山岩	花崗岩	凝灰岩	緑色凝灰岩	軽石	硬砂岩	蛇紋岩	滑石	ホルンフェルス	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)
1区		1	2	1	9					13	2587.63	199.05
総点数		1	2	1	9					13	2587.63	199.05

別表 28 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構別石製品点数組成表

地区	種別	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	合計 (点)
1区	SD1071					1		1
	SN1001		1				2	3
	SN1002						0	
	旧河道1007				2	1	5	8
	テラス1004							
3区	SD502							
	SD503							
合計		1		2	1	8		12
組成 (%)		8.33%		16.67%	8.33%	66.67%		100.00%

別表 29 細池寺道上遺跡第 38 次調査遺構別石製品重量組成表

地区	種別	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	合計 (g)
1区	SD1071					8.81		8.81
	SN1001	84.65					27.8	112.45
	SN1002							
	旧河道1007			121.78	2277.97	50.71		2450.46
	テラス1004							
3区	SD502							
	SD503							
合計 (g)	84.65		121.78	2277.97	87.32		2571.72	
組成 (%)	3.29%		4.74%	88.57%	3.40%		100.00%	

別表 30 細池寺道上遺跡第 41 次調査石製品組成と石材組成表

種別	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)	点数組成 (%)	重量組成 (%)
石材											
輝石安山岩			1				1	254.19	254.19	3.03%	3.69%
花崗岩		1	1	2			4	4375.08	1093.77	12.12%	63.57%
凝灰岩	6		1				7	149.07	21.30	21.21%	2.17%
緑色凝灰岩	3	2	1				6	654.82	109.14	18.18%	9.51%
軽石					11		11	507.39	46.13	33.34%	7.37%
硬砂岩				1			1	14.71	14.71	3.03%	0.21%
蛇紋岩			1				1	164.04	164.04	3.03%	2.38%
滑石						1	1	134.17	134.17	3.03%	1.95%
ホルンフェルス			1				1	629.39	629.39	3.03%	9.15%
総点数 (点)	9	3	6	3	11	1	33			100.00%	
総重量 (g)	259.45	517.95	1367.12	4096.78	507.39	134.17		6882.86	208.57		100.00%
点数組成 (%)	27.27%	9.09%	18.18%	9.09%	33.33%	3.03%	100.00%				
重量組成 (%)	3.77%	7.53%	19.86%	59.52%	7.37%	1.95%	100.00%				

別表 31 細池寺道上遺跡第 41 次調査地区別石製品組成表

種別	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)
1区	8	2	6	3	10	1	30	6605.88	220.20
2区					1		1	3.31	3.31
3区	1	1					2	273.67	136.84
総点数	9	3	6	3	11	1	33	6882.86	299.25

別表 32 細池寺寺道上遺跡第 41 次調査地区別石材組成表

種別	輝石安山岩	花崗岩	凝灰岩	緑色凝灰岩	軽石	硬砂岩	蛇紋岩	滑石	ホルンフェルス	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)
1区	1	3	6	6	10	1	1	1	1	30	6605.88	220.20
2区					1					1	3.31	3.31
3区		1	1							2	273.67	136.84
総点数	1	4	7	6	11	1	1	1	1	33	6882.86	299.25

別表 33 細池寺道上遺跡第 41 次調査遺構別石製品点数組成表

地区	種別	遺構	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	合計 (点)
1区	SD 152		3	2	1	2	5	1	14
	SD 827					1			1
	SN 838						1		1
	SN 851	1							1
	SN 373				3				3
	Pit447		2						2
2区	SD 14					1		1	
3区	SX 6		1	1				2	
合計			7	3	4	3	7	1	25
組成 (%)			28.00%	12.00%	16.00%	12.00%	28.00%	4.00%	100.00%

別表 34 細池寺寺道上遺跡第 41 次調査遺構別石製品重量組成表

地区	種別	遺構	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	合計 (g)
1区	SD 152		109.63	246.81	297.63	1301.57	120.86	134.17	2210.67
	SD 827					2795.21			2795.21
	SN 838						4.67		4.67
	SN 851	48							48
	SN 373				883.58				883.58
	Pit 447		38.95						38.95
2区	SD 14					3.31		3.31	
3区	SX 6		2.53	271.14				273.67	
合計			199.11	517.95	1181.21	4096.78	128.84	134.17	6258.06
組成 (%)			3.18%	8.28%	18.88%	65.46%	2.06%	2.14%	100.00%

別表 35 細池寺道上遺跡第 32 次調査木製品集計表

地区	遺構	種類	楔	盤	曲物	斎串	箸	箸状製品	尖棒	棒	細形角柱材	板	分割材	杭	不明・自然木	総点数 (点)
2区	旧河道2														1	1
	総点数 (点)														1	1

・破片点数での集計

別表 36 細池寺道上遺跡第 38 次調査木製品集計表

地区	遺構	種類	楔	盤	曲物	斎串	箸	箸状製品	尖棒	棒	細形角柱材	板	分割材	杭	不明・自然木	総点数 (点)
1区	旧河道1007		1	1	4	1	10	3	5	1	7	23	1	3	12	72
	総点数 (点)		1	1	4	1	10	3	5	1	7	23	1	3	12	72

・破片点数での集計

別表 37 細池寺道上遺跡第 41 次調査木製品集計表

地区	遺構	種類	楔	盤	曲物	斎串	箸	箸状製品	尖棒	棒	細形角柱材	板	分割材	杭	不明・自然木	総点数 (点)
1区	SE357									1						1
1区	SD827										1				1	1
	総点数 (点)									1					1	2

・破片点数での集計

別表 38 西江浦遺跡第 6 次調査遺構計測表

図版 No.	写真 図版 No.	区	遺構 名	グリッド	時代	確認 面	主軸方位	規模 (m)				底面 標高 (m)	形態		遺物 の有無	遺物 図版 具	際		備考		
								上端		下端			深度	平面			断面	覆土		点数 (点)	重量 (g)
								長軸	短軸	長軸	短軸										
105・107・110	117	1	SX1	12H-6A4・5・9・10, 6B1・6	近世以降	Va	N-4°-W	(0.41)	(0.18)	(0.2)	(0.06)	1.10	-	-	-	4					
105・107・110	117	1	SX2	12H-6A6・7・8・9	近世以降	Va	N-85°-E	(0.58)	(0.03)	(0.45)	(0.02)	0.40	-	-	弧状	2					
105・106・107・110	117	1	SX4	12G-6H9・10・14・15	近世以降	Va	N-32°-W	(0.23)	(0.08)	(0.23)	(0.04)	0.10	-	-	-	1					
105・107・110	117	1	SD3	12G-6J4・5・9・10	近世以降	Va	N-45°-W	(0.28)	(0.12)	(0.31)	(0.08)	0.45	-	-	弧状	2					

別表 39 西江浦遺跡第 6 次調査土器観察表

凡 例 細池寺道上遺跡 土器・陶磁器観察表に準ずる。

報告書 No.	図版 No.	写真図 版No.	区	出土位置		層位	種別	器種	法量 (cm) 口径 底径 器高	器高 指数	底径 指数	胎土 状態 含有物	色調			焼成	手法			遺存率		
				区	遺構名								内面	外面	外面		内面	底部	口縁部	底部	全体	
1	148	146	1		12G-6J5	Ⅲ・ Ⅳ	土師器	小甕	6.0			普通 石・長	灰白 (10YR8/2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				4/36	1/36

別表 40 西江浦遺跡第 6 次調査金属製品観察表

報告書No.	図版No.	写真図版No.	出土位置			層位	種別	法量 (mm, g)		時代	備考
			区	遺構名	グリッド			径	重量		
2	148	146	1		12G-6H13	Ⅱ	寛永通宝	24	1.19	近世	文銭

別表 41 西江浦遺跡第 6 次調査石製品観察表

報告No.	図版No.	写真図版No.	注記	出土位置			層位	種別	分類	石材	法量 (mm, g)				時代	備考
				区	遺構名	グリッド					長さ	幅	厚さ	重量		
3	148	146	12西江浦12H-6B4, Ⅲ・Ⅳ層	1		12H-6B4	Ⅲ・Ⅳ	砥石		凝灰岩	91.0	74.5	43.0	272.09		

別表 42 西江浦遺跡第 6 次調査石製品組成と石材組成表

種別	砥石	磨石	敲石	台石	軽石製石製品	石鉢	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)	点数組成 (%)	重量組成 (%)	
												石材
	1						1	272.09	272.09	100.00%	100.00%	
総点数 (点)	1						1	272.09				
総重量 (g)	272.09							272.09				
点数組成 (%)	100.00%							100.00%				
重量組成 (%)	100.00%							100.00%				

別表 43 西江浦遺跡第 6 次調査石製品組成表

地区	種別	砥石		磨石		敲石		台石		軽石製石製品		石鉢		総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)
		点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)	点数 (点)	重量 (g)			
1区		1	272.09											1	272.09	272.09
総点数		1												1	272.09	

別表 44 西江浦遺跡第 6 次調査石材組成表

地区	種別	輝石安山岩	花崗岩	凝灰岩	緑色凝灰岩	軽石	硬砂岩	蛇紋岩	滑石	ホルンフェルス	総点数 (点)	総重量 (g)	平均重量 (g)
総点数				1							1	272.09	

報告書抄録

ふりがな	ほそいけてらみちうえいせき ご だいさんじゅうに・さんじゅうはち・よんじゅういちじちようさにしえうらいせき だいろくじちようさ							
書名	細池寺道上遺跡Ⅴ 第32・38・41次調査 西江浦遺跡 第6次調査							
副書名	県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第15・17・18次 西江浦遺跡第4次発掘調査報告書							
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	立木宏明・細井佳浩・不破野希春・中川晃子・株式会社火山灰考古学研究所・株式会社加速器分析研究所 株式会社パレオ・ラボ・パリノ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	新潟市文化スポーツ部 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月日	西暦2015年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほそいけてらみちうえ 細池寺道上遺跡	にいがたけんにいがたしあきほく 新潟県新潟市秋葉区 ひがしかなざわあざいなぼ 東金沢字稲葉567-1 ばんち 番地ほか	15105	151	37° 47' 44"	139° 09' 24"	20110725～20110825 20120723～20130110 20130725～20131227	7,750.43 m ²	県営ほ場整備事業
にしえうら 西江浦遺跡	にいがたけんにいがたしあきほく 新潟県新潟市秋葉区 ひがしかなざわあざくぼ 東金沢字久保 1805-3 番地ほか	15105	150	37° 47' 37"	139° 09' 14"	20120717～20120802	214.68 m ²	県営ほ場整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
細池寺道上遺跡	集落遺跡	奈良時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代（8世紀後葉～10世紀初頭前後、13世紀末葉～14世紀中葉）		井戸・土坑・性格不明遺構・溝・水田跡・畑跡・小土坑・掘立柱建物・柵・旧河道		須恵器・土師器・黒色土器・越前焼・珠洲焼・瓷器系陶器・唐津焼・肥前系陶磁器・鉄製品・鍛冶関連遺物・石製品・木製品	古代の土器・木製品・巨木が出土した旧河道を検出 中世の水田跡（掘込田）を検出	
西江浦遺跡	遺物包含地	古代・近世以降		性格不明遺構・溝		土師器・古銭・石製品		
要約	<p>細池寺道上遺跡は新津丘陵から2～3km離れた、阿賀野川・能代川に囲まれた沖積地に立地する。現標高7～8mを測る。3年間本調査を行い調査区は8か所ある。第38次調査1区では、旧河道から奈良・平安時代の土器、木製品が多く出土したほか、河岸に木道と考えられる全長約25mのカツラの木を確認した。また、墨書土器や齋串の存在から同所で祭祀が行われた可能性がある。中世は「掘込田」と呼ばれる形態の水田跡が9か所以上検出された。これらは導排水を目的とする溝で繋がっている。そのうち、第41次調査1区では、水田跡の近くに井戸を伴う掘立柱建物からなる居住域が認められた。井戸底面からはコムギ・アワが多量に同定され、周囲の畑での栽培が示唆される。</p> <p>西江浦遺跡は能代川東岸の沖積地に立地する。今回の調査で検出された遺構は近世以降が主である。遺物は古代の土師器、砥石が出土した。</p>							

細池寺道上遺跡Ⅴ 第32・38・41次調査 西江浦遺跡 第6次調査

— 県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第15・17・18次 西江浦遺跡第4次発掘調査報告書 —

本文編

2015年9月29日印刷
2015年9月30日発行

編集 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ウィザップ
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1番25号
TEL 025 (285) 3311